笛吹市文化財調査報告書　第23集

山梨県笛吹市

西田町遺跡
(第2次・第3次)

―平成18年度・20年度「くろがねや」店舗建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書―

2010

株式会社 く ろ が ね や
笛 吹 市 教 育 委 員 会
財団法人 山梨文化財研究所

笛吹市文化財調査報告書　第23集

山梨県笛吹市

西田町遺跡
(第2次・第3次)

―平成18年度・20年度「くろがねや」店舗建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書―

2010

株式会社 く ろ が ね や
笛 吹 市 教 育 委 員 会
財団法人 山梨文化財研究所

序

株式会社くろがねやが大型ショッピングセンター（ホームセンターくろがねや一宮店）の具体的な計画案をもって市教育委員会を訪れたのが平成17年の秋のことでした。建設予定地は笛吹市一宮町東原字西田町31番ほかの広大な畑地で、周知の埋蔵文化財包蔵地はその予定地の西側縁辺部にすぎませんでした。

笛吹市教育委員会では、その開発規模と周辺に重要遺跡が多く存在することから、くろがねやと土地所有者の協力を得て、包蔵地外にも試掘坑を入れ、遺構分布の実態の把握に努めることとしました。試掘の結果、遺構分布域は開発予定地の中央部に中世墓域、北東部に竪穴建物・土坑群、北西部に局限され、その部分に建物を建てる場合は本調査が必要であることをくろがねやに報告しました。

くろがねや側では中央部の墓域を調査し、他の遺構の存在する部分については掘削深度を浅くする、土を盛るなど造成計画を変更し、保護してくれることとなりました。

平成18年春、造成工事を進めていた現地の立ち入り調査をしたところ、上述した墓域の北側で、変更した造成計画より深く削土した部分があり、そこに焼土痕、土師器片などが観察できました。急遽、くろがねや側に連絡し、設計担当者、造成担当者を交えて現地確認を行い、対応を協議しました。結果、緊急の本調査を1000㎡弱の範囲で実施することで、くろがねやに調査費用を負担していただけることになりました。

本書が陽の目を見たのも調査に多大の理解と協力を惜しまれなかったくろがねや店舗開発部長平出雄三様、株式会社カワイ取締役戸田健二様、川井信二様、株式会社フジタ東京支店眞崎哲郎様のお力があったからこそです。

また現地調査は財団法人山梨文化財研究所にお願いしました。過酷な気象条件の中、調査担当者はもちろん調査に当たられたスタッフの方々のおかげで、貴重かつ豊富な内容をもつ考古学資料の記録保存がなされました。深く感謝申しあげます。

平成22年3月31日

笛吹市教育委員会

教育長　山　田　武　人

例　言

1．本報告書は、山梨県笛吹市一宮町東原字西田町 31-3･1415 他に所在する笛吹市埋蔵文化財包蔵地遺跡№ 232-31「西田町（にしだまち）遺跡」の第２次・第３次発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、「くろがねや」店舗建設工事に先だって平成18年度（第２次）および平成20年度（第３次）に実施されたもので、㈱くろがねやから委託を受け、笛吹市教育委員会の指導・監督・助言を受け、財団法人山梨文化財研究所が発掘調査および整理作業をおこなった。

3．本報告書の編集は、平野修がおこない、執筆は中山千恵（財団法人山梨文化財研究所）が第Ⅰ章第２節･Ⅲ章を、平野が第Ⅰ章・Ⅱ章・Ⅲ章・Ⅳ章・Ⅴ章をおこなった。なお、出土遺物の写真撮影は望月秀和がおこなった。

4．発掘調査および整理作業において、一部の業務を以下の機関に委託した。

基準点設置・写真測量業務：テクノプランニング㈱

炭化種実同定分析業務：㈱パレオ・ラボ

5．石器の石材鑑定については、㈶山梨文化財研究所の河西学氏に、陶磁器の鑑定については、東京大学埋蔵文化財調査室の堀内秀樹氏に依頼した。また礎石竪穴建物跡の分析は、釈迦堂遺跡博物館の室伏徹氏のご厚意によるものである。ここにご芳名を記し感謝申し上げる次第である。

5．本書に関わる記録図面・写真・出土遺物等は、笛吹市教育委員会が保管している。

6．本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関・各位からご指導・ご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表する次第である（順不同・敬称略）

㈱くろがねや、㈱カワイ、㈱フジタ東京支店、笛吹市教育委員会、山梨県教育委員会、山梨県立博物館、古代甲斐国官衙研究会、㈱エンドレス、小渕忠秋、伊藤修二、瀬田正明、望月和幸、猪股喜彦、室伏　徹、平川　南、大隅清陽、萩原三雄、鈴木　稔、河西　学、畑　大介、宮澤公雄、櫛原功一、望月秀和、古川明日香

凡　例

1　遺構・遺物の縮尺は、原則として各図ごとに示している。

2　本書挿図第１図で使用している地図は、国土地理院発行地形図（1:25,000）を、第２図で使用している地図は、笛吹市都市計画図（1:2,500）を使用している。

3　遺物の挿図番号は、各遺構ごとに連番で付した。遺物分布図および観察表・本文中の番号は対応している。

4　各遺構における遺物分布図で示したマークは、以下の通りである。

●：土師器・縄文土器　弥生土器：⊠　▲：須恵器　■：陶器・磁器　□：土製品

△：石器・石製品　○：金属製品　◆：骨　★：炭化物・炭化材

5　遺構図版中で使用しているスクリーントーン▨は礫断面、---------- 破線は、推定線および焼土範囲、焼土＋炭化物範囲を示す。

6　遺物図版中で使用しているスクリーントーンおよび記号・線の凡例は、以下の通りである。

■：須恵器・油煙　▨：黒色化範囲・赤彩　▨：擦り面　▨：ウルシ状付着物

↓　：灰釉範囲　また石器断面図における矢印は擦り面の範囲を示している。、

7　土層および遺物の色調名は、『新版標準土色帳』13 版（農林省水産技術会議事務所監修　小山正忠･竹原秀雄編･著 1993）によっている。

目　次

序　文
例　言
凡　例
目　次

第Ⅰ章　調査の経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯と調査体制 …… 1
　第２節　調査の方法と経過 …… 2
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 7
　第１節　遺跡の位置と立地 …… 7
　第２節　基本層位 …… 7
　第３節　歴史的環境 …… 7
第Ⅲ章　第２次調査（平成18年度）で発見された遺構と遺物 …… 13
　第１節　竪穴建物跡（SI） …… 13
　第２節　土坑（SK） …… 13
　第３節　ピット …… 15
　第４節　配石遺構 …… 15
　第５節　溝（SD） …… 15
　第６節　遺構外出土遺物 …… 15
◇第２次調査（平成18年度）遺構・遺物図版 …… 16～27
◇第２次調査（平成18年度）遺物観察表類 …… 28～31
第Ⅳ章　第３次調査（平成20年度）で発見された遺構と遺物 …… 32
　第１節　竪穴建物跡（SI） …… 32
　第２節　土坑・ピット（SK） …… 39
　第３節　溝（SD） …… 41
　第４節　遺構外出土遺物（保存地区） …… 41
　第５節　その他の土器（製塩土器） …… 41
◇第３次調査（平成20年度）遺構・遺物図版 …… 42～129
◇第３次調査（平成20年度）SI・SK 一覧表類 …… 130～135
◇第３次調査（平成20年度）遺物観察表類 …… 136～170
第Ⅴ章　総　括 …… 171
　第１節　第２次調査（平成18年度）のまとめ …… 171
　第２節　第３次調査（平成20年度）のまとめと若干の考察 …… 171
　第３節　まとめ …… 186
付　編 …… 188
　付編１　西田町遺跡第３次調査（平成20年度）から出土した炭化種実 …… 188

◇第２次・第３次調査写真図版
◇抄録

挿図目次

第１図　調査位置と周辺遺跡分布図 …… 3
第２図　H18・20年度調査区グリッド設定図 …… 4
第３図　H18・20年度調査区配置図 …… 5
第４図　基本層位模式図 …… 7
第５図　H18年度調査区全体図 …… 9
第６図　H20年度調査区全体図(1) …… 10
第７図　H20年度調査区全体図(2) …… 11・12
第８図　H18年度SI1・2 …… 16
第９図　H18年度SK1～3 …… 17
第10図　H18年度SK4～9 …… 18
第11図　H18年度SK10・12～16、1号配石 …… 19
第12図　H18年度SD1 …… 20
第13図　H18年度SD2、1～3号ピット …… 21
第14図　H18年度SI1・2、SK1(1)出土遺物 …… 22
第15図　H18年度SK1(2)・2出土遺物 …… 23
第16図　H18年度SK3～5・7～9出土遺物 …… 24
第17図　H18年度SK10・12・16、SD1(1)出土遺物 … 25
第18図　H18年度SD1(2)出土遺物 …… 26
第19図　H18年度遺構外出土遺物 …… 27
第20図　H20年度SI1(P1・2)～3・21・22(P1)、SK1～3・5・6・19～26・28～30・37～39・41～43・56・57・83・98～102 …… 42
第21図　H20年度SI3・21・22(P1)、SK19～26・28～30・37～39・41～43・56・57・83・98～102 …… 43
第22図　H20年度SI4・5・21・22、SK4 …… 45
第23図　H20年度SI6、SK36・45・46・66～68 …… 46
第24図　H20年度SI7・8、SK88～90・146・147・160・161・169・170・172・173・186～189・193・204 …… 47
第25図　H20年度SI8、SK88～90・146・147・160・161・169・170・172・173・186～189・193・204 …… 48
第26図　H20年度SI9・10・11・(23)、SK69～76・78・79・81・194・195・197・245・279・280 …… 49
第27図　H20年度SI10・11、SK78・79・81・245・279・280 …… 50
第28図　H20年度SI12(P1)～15・24、SK95・121・125・126・129・131～134・141～143・148・174～176・181～183・190・198～200・220・241・342 …… 51
第29図　H20年度SI13～15・24、SK129・131～134・148・174～176・181～183・190・198～200・220・241・342 …… 52
第30図　H20年度SI13～15、SK133・134・174・181・182・220 …… 54
第31図　H20年度SI16、SK127・128・158 …… 55
第32図　H20年度SI17・26・28・30、SK165～167・229・232・233・256・258・260・261・278・297・299・300・301・322 …… 56
第33図　H20年度SI17・26・28・30、SK166～168・229・232・233・299・256・258 …… 57
第34図　H20年度SI18・19・30、SK221～224・230・231・260・268・269・273・300・301 …… 58
第35図　H20年度SI20・31、SK87・243・244・247・248・281・287・291・292・309・314・317～319・323～329、SD1 …… 59
第36図　H20年度SI20・23・31、SK76・77・87・243・244・247・287・291・310・311・317・318・323～329・332・333・339、SD1 …… 60
第37図　H20年度SI23・24(P1～14)、SK164・176・184・185・190・196・201～203・205～211・214～217・220・222・234・235・241・246・256・257・262～269・273～276・289・290・298・302・335・336 …… 61
第38図　H20年度SI24(P1～14)、前図同SK(1) …… 62
第39図　H20年度SI24(P1～14)、前図同SK(2) …… 63
第40図　H20年度SI24(P14)、SK201・208～211・215・222・234・235・256・257・262～265・267・268・273・276・289・290・335・336 …… 64
第41図　H20年度SI24・25・27、SK80・84～86・117～121・124・225～228・236～240・266・269・270～272・274・275・298・302 …… 65
第42図　H20年度SI25・27、SK80・84～86・117～121・124・225～228・236～240・270～272 …… 66
第43図　H20年度SI29・32・33、SK171・218・250～255・295・296・304・305・307・308、SD1 …… 67
第44図　H20年度SI32～34、SK305～308・312・313・315・316・320・321 …… 68
第45図　H20年度SK7～17・31～35・47・51・55・59・65・96・122・123・144・145 …… 69
第46図　H20年度SK31・32・47・51・55・59・65・96・122・123・144・145 …… 70
第47図　H20年度SK48～50・52～54・58・60・61・63・64・91～94・97 …… 71
第48図　H20年度SK103～114・130～132・135～140・148～157・162～164・178～180・191・192・342 …… 72
第49図　H20年度SK110・111・113・115・116・135・148・149・154・155・163・164・178～180・185・191・192・212・213・242・277・286 …… 73

第50図　H20年度SK18・82・168・282～285・293・294・303・330・331・337・338・340・341 …… 74
第51図　H20年度遺構外および保存地区遺物分布図 …… 75
第52図　H20年度SI1・3(1)出土遺物 …… 76
第53図　H20年度SI3(2)～5(1)出土遺物 …… 77
第54図　H20年度SI5(2)・6(1)出土遺物 …… 78
第55図　H20年度SI6(2)～8(1)出土遺物 …… 79
第56図　H20年度SI8(2)出土遺物 …… 80
第57図　H20年度SI8(3)出土遺物 …… 81
第58図　H20年度SI8(4)・9出土遺物 …… 82
第59図　H20年度SI10・11(1)出土遺物 …… 83
第60図　H20年度SI11(2)～13(1)出土遺物 …… 84
第61図　H20年度SI13(2)・14(1)出土遺物 …… 85
第62図　H20年度SI14(2)・15(1)出土遺物 …… 86
第63図　H20年度SI15(2)・16出土遺物 …… 87
第64図　H20年度SI17(1)出土遺物 …… 88
第65図　H20年度SI17(2)出土遺物 …… 89
第66図　H20年度SI17(3)・18出土遺物 …… 90
第67図　H20年度SI19～20出土遺物 …… 91
第68図　H20年度SI21～23(1)出土遺物 …… 92
第69図　H20年度SI23(2)出土遺物 …… 93
第70図　H20年度SI24(1)出土遺物 …… 94
第71図　H20年度SI24(2)・25出土遺物 …… 95
第72図　H20年度SI26～28・30(1)出土遺物 …… 96
第73図　H20年度SI30(2)出土遺物 …… 97
第74図　H20年度SI30(3)～32出土遺物 …… 98
第75図　H20年度SI33・34(1)出土遺物 …… 99
第76図　H20年度SI34(2)、SK1・3～5・7(1)出土遺物 …… 100
第77図　H20年度SK7(2)～10・12・14・23出土遺物 …… 101
第78図　H20年度SK31出土遺物 …… 102
第79図　H20年度SK32・34～36・45出土遺物 …… 103
第80図　H20年度SK47・48・51・52出土遺物 …… 104
第81図　H20年度SK55・58・59・65～67出土遺物 …… 105
第82図　H20年度SK68・74～76・80・81・84出土遺物 …… 106
第83図　H20年度SK85～89・95・97・106・120・121出土遺物 …… 107
第84図　H20年度SK122～125・127・129・130出土遺物 …… 108
第85図　H20年度SK131～133(1)出土遺物 …… 109
第86図　H20年度SK133(2)～135・139・140出土遺物 …… 110
第87図　H20年度SK141・143・146・148・149・151出土遺物 …… 111
第88図　H20年度SK152～154・158・163～166出土遺物 …… 112
第89図　H20年度SK168・172・174・176・182出土遺物 …… 113
第90図　H20年度SK184・188・190・193・196・199・200出土遺物 …… 114
第91図　H20年度SK202・206・207・209・210(1)出土遺物 …… 115
第92図　H20年度SK210(2)・211・213・214・216・218・220出土遺物 …… 116
第93図　H20年度SK221～226・229出土遺物 …… 117
第94図　H20年度SK230・234・235・241・244・246・247出土遺物 …… 118
第95図　H20年度SK248・252・257～260出土遺物 … 119
第96図　H20年度SK261～264・266～269・271・279出土遺物 …… 120
第97図　H20年度SK280・281・288・289・291・292・294・296(1)出土遺物 …… 121
第98図　H20年度SK296(2)～298・300・303出土遺物 …… 122
第99図　H20年度SK304・305・307・308・310～312出土遺物 …… 123
第100図　H20年度SK313・314・318・319・322・323・325・330・339出土遺物 …… 124
第101図　H20年度遺構外・遺構外[保存地区](1)出土遺物 …… 125
第102図　H20年度遺構外[保存地区](2)出土遺物、その他の土器(製塩土器) …… 126
第103図　H20年度金属製品、石製品(1) …… 127
第104図　H20年度石製品(2) …… 128
第105図　H20年度石製品(3) …… 129
第106図　西田町遺跡H18・20年度調査出土墨書土器(1) …… 174
第107図　西田町遺跡H18・20年度調査出土墨書土器(2) …… 175
第108図　出土文字資料の記載部位比率 …… 175
第109図　西田町遺跡H18・20年度調査出土刻書・ヘラ書土器(1) …… 176
第110図　西田町遺跡H18・20年度調査出土刻書・ヘラ書土器(2) …… 177
第111図　墨書・刻書土器時期別出土割合 …… 177
第112図　西田町遺跡H20年度調査出土二次転用土器(1) …… 179

第113図　西田町遺跡H20年度調査出土二次転用土器(2) …… 180
第114図　西田町遺跡H20年度調査出土二次転用土器(3) …… 181
第115図　H20年度調査区遺構配置変遷図 …… 182
第116図　建築単位からみたSI24建物跡 …… 183
第117図　H20年度調査区SK遺構類型別分布図 … 184
第118図　参候祭(さんどろまつり)風景
（東三河2005文献より） …… 185

表 目 次

第１表　周辺遺跡一覧表 …… 8
第２表　第２次調査出土土器観察表 …… 28
第３表　第２次調査出土金属製品観察表 …… 31
第４表　第２次調査出土石製品観察表 …… 31
第５表　第３次調査SI（竪穴建物跡）一覧表 …… 130
第６表　第３次調査SK（土坑・ピット）一覧表 … 131
第７表　第３次調査出土土器観察表 …… 136
第８表　第３次調査出土金属製品観察表 …… 170
第９表　第３次調査出土石製品観察表 …… 170

写真図版目次

図版１　１.平成18年度調査区全景(上が北)
２.平成18年度調査区近景(北西から)
３.平成18年度調査区近景(西から)
４.SI1完掘状況(上が南東)
５.SI1カマド確認状況
図版２　６.SI2完掘状況(西から)
７. SI2内遺物出土状況
８.SI2カマド内遺物出土状況
９.SK1～9､1号配石検出状況(西から)
10.SK1集石状況(北から)
11.SK1完掘状況(北から)
12.SK1･3集石状況
図版３　13.SK3完掘状況(北から)
14.SK2完掘状況(北から)
15.SK2遺物出土状況
16.SK4(右)･5(中)･7(左)完掘状況(北から)
17.SK6集石状況断面
18.SK6完掘状況(東から)
19.SK7(左)･8(中)･9(右)完掘状況(北から)
20.SK10集石状況その1(北西から)
図版４　21.SK10集石状況その2
22.SK10内遺物出土状況1
23.SK10内遺物出土状況2
24.SK10集石状況断面
25.SK10完掘状況(西から)
26.SK12(右)･13確認状況(西から)
27.SK12内遺物出土状況
28.SK14確認状況
図版５　29.SK14集石状況断面(東から)
30.SK14完掘状況(北から)
31.SK15集石状況断面(東から)
32.SK16完掘状況(西から)
33. １号配石完掘状況(北から)
34. １号ピット完掘状況(北から)
35. ２号ピット完掘状況
36. ３号ピット完掘状況(西から)
図版６　37.SD1完掘状況(東から)
38.SD1完掘状況(西から)
39.SD1内集石確認状況(東から)
40.SD1内集石断面
41.SD1内集石完掘状況(東から)
平成18年度発掘調査　出土遺物(1)
図版７　平成18年度発掘調査　出土遺物(2)
図版８　平成18年度発掘調査　出土遺物(3)
図版９　１.平成20年度調査区全景空中写真(上が西)
２.平成20年度調査区景観写真(西から)
図版10　３.平成20年度調査区景観写真(東から)
４.平成20年度調査区完掘部空中写真(上が北)
図版11　５.平成20年度調査区調査前状況1
６.平成20年度調査区調査前状況2
７.重機による確認面精査作業風景1
８.重機による確認面精査作業風景2
９.完掘部南側完掘状況1(東から)
10.完掘部南側完掘状況2(西から)
11.SI1完掘状況
12.SI1カマド完掘状況
図版12　13.SI1ピット2およびSK6完掘および
遺物出土状況
14.SI2完掘状況
15.SI3･21･22掘りかた完掘状況

16. SI21内カマド掘りかた完掘状況および
遺物出土状況
17. SI22カマド掘りかた完掘および
遺物出土状況1
18. SI22カマド内遺物出土状況2
19. SI3カマドおよびSK98完掘状況
20. SI4完掘状況
図版13 21. SI5遺物出土状況
22. SI5カマド内遺物出土状況
23. SI5カマド周辺出土緑釉陶器
24. SI5カマド脇出土刀子
25. SI6完掘および遺物出土状況
26. SI6カマド内遺物出土状況
27. SI7東西セクションおよび遺物出土状況
28. SI7カマド検出状況
図版14 29. SI8完掘状況
30. SI8遺物出土状況
31. SI8カマド完掘状況
32. SI8カマド内遺物出土状況
33. SI9・10・11完掘状況
34. SI9カマド完掘状況
35. SI10カマド完掘状況
36. SI11カマド完掘状況
図版15 37. SI12完掘および遺物出土状況
38. SI13完掘状況
39. SI13カマド完掘状況
40. SI13カマド確認状況
41. SI13カマド両袖奥土師器坏出土状況
42. SI13カマド両袖奥出土坏1
43. SI13カマド両袖奥出土坏2
44. SI14遺物出土状況
図版16 45. SI15完掘状況
46. SI15カマド内遺物出土状況
47. SI15カマド完掘状況
48. SI16カマド完掘状況
49. SI17完掘および遺物出土状況
50. SI17南壁際遺物出土状況1
51. SI17南壁際遺物出土状況2
52. SI17南壁際遺物出土状況3
図版17 53. SI17カマド完掘状況
54. SI17・28・30・34掘りかた検出状況
55. SI18遺物出土状況
56. SI23完掘状況〈SK310・311含む〉
57. SI23カマド完掘状況
58. SI24完掘状況
59. SI24完掘状況空中写真
60. SI24カマド完掘状況
図版18 61. SI24カマド内出土土師器
62. SI24礎石(SK210)検出状況
63. SI24礎石(SK266)検出状況
64. SI24礎石(SK210)下部先行掘立柱検出状況
65. SI24礎石(SK266)下部先行掘立柱検出状況
66. SI24先行掘立柱(K298)検出状況
67. SI24先行掘立柱(K298)内礎板石
68. SI24先行掘立柱(K302)検出状況
図版19 69. SI25・27完掘状況
70. SI25遺物・礫出土状況
71. SI25遺物・礫出土状況近景
72. SI25カマド完掘状況
73. SI26・28完掘状況
74. SI29完掘状況
75. SI30完掘状況〈SK299・300・301含む〉
76. SI30遺物出土状況
図版20 77. SI30遺物出土状況近景
78. SI30棚状施設検出状況
79. SI20完掘状況
80. SI20南東コーナー部遺物出土状況
81. SI20カマド完掘状況
82. SI31・34等完掘状況
83. SI31・34等遺物出土状況
84. SI31カマド完掘状況(SK339含む)
図版21 85. SI32、SK296・295・304・305完掘状況
86. SI33、SK296・304・305・307・308完掘状況
87. SI34、SK312・313・315完掘状況
88. SI34遺物出土状況
89. SI34遺物出土状況近景1
90. SI34遺物出土状況近景2
91. SI34カマド完掘状況およびSK312完掘状況
〈手前〉
92. SI34間仕切り施設検出状況1
図版22 93. SI34間仕切り施設検出状況2
94. SI34壁体押さえピット検出状況1
95. SI34壁体押さえピット検出状況2
96. SK1完掘状況
97. SK2完掘状況
98. SK3完掘状況
99. SK4・7～17・33～36完掘状況
100. SK4完掘状況
図版23 101. SK6完掘状況
102. SK6須恵器出土状況
103. SK10等完掘状況
104. SK31・32・37・47・48・51・55・59・65・95～97

完掘状況および遺物出土状況
105. SK31遺物出土状況
106. SK31遺物出土状況近景1
107. SK31遺物出土状況近景2
108. SK31遺物出土状況近景3
図版24 109. SK31礫除去後完掘状況1
110. SK31カマド遺構遺物出土および完掘状況
111. SK34完掘状況
112. SK36完掘状況
113. SK66完掘状況
114. SK66出土遺物
115. SK84・85・86完掘状況
116. SK124内検出硬化面および焼土範囲確認状況
図版25 117. SK125遺物出土状況および炭化物範囲確認状況
118. SK133・134・174完掘状況
119. SK133完掘状況
120. SK133遺物出土状況
121. SK133ピット柱根壁面痕跡状況
122. SK134完掘状況
123. SK174完掘状況
124. SK174出土炭化材
図版26 125. SK168確認状況
126. SK103～114・130～132・135～140・148～157・162～164・178～180・191・192・342完掘状況
127. SK231・SK242完掘状況
128. SK240遺物出土状況
129. SK281・288・292・309・314・319・334礫および遺物出土状況
130. SK281・288・292・309・319・334完掘状況
131. SK293〈右〉・303遺物出土状況
132. SK303遺物出土状況
図版27 133. SK313(SI34内)遺物出土状況
134. SK313出土遺物
135. SK330・331・337・338・340・341完掘および遺物出土状況
136. SK330遺物出土状況
137. SK323〈手前〉・324遺物出土状況
138. SD1完掘状況(中央部分)
139. SD1セクション
140. 完掘部遺構確認状況
図版28 141. 調査風景1
142. 調査風景2
143. ポールによる写真測量実施風景
144. 保存地区遺構確認状況
145. 保存地区遺構確認状況および遺物出土状況
146. 保存地区埋め戻し前養生状況1(南東から)
147. 保存地区埋め戻し前養生状況2(南西から)
148. 保存地区埋め戻し作業風景
図版29 平成20年度発掘調査　出土遺物(1)
図版30 平成20年度発掘調査　出土遺物(2)
図版31 平成20年度発掘調査　出土遺物(3)
図版32 平成20年度発掘調査　出土遺物(4)
図版33 平成20年度発掘調査　出土遺物(5)
図版34 平成20年度発掘調査　出土遺物(6)
図版35 平成20年度発掘調査　出土遺物(7)
図版36 平成20年度発掘調査　出土遺物(8)
図版37 平成20年度発掘調査　出土遺物(9)
図版38 平成20年度発掘調査　出土遺物(10)
図版39 平成20年度発掘調査　出土遺物(11)
図版40 平成20年度発掘調査　出土遺物(12)
図版41 平成20年度発掘調査　出土遺物(13)
図版42 平成20年度発掘調査　出土遺物(14)
図版43 平成20年度発掘調査　出土遺物(15)
図版44 平成20年度発掘調査　出土遺物(16)
図版45 平成20年度発掘調査　出土遺物(17)
図版46 平成20年度発掘調査　出土遺物(18)
図版47 平成20年度発掘調査　出土遺物(19)
図版48 平成20年度発掘調査　出土遺物(20)

第Ⅰ章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯と調査体制

山梨県笛吹市一宮町東原字西田町31-3他に、株式会社くろがねやが計画を進めていた店舗建設事業予定地は、笛吹市埋蔵文化財包蔵地遺跡№232-31「西田町遺跡」の範囲内に位置していることと、同じ西田町遺跡範囲内の平成７年度から８年度における発掘調査で、８世紀から12世紀代にかけての遺構群が検出されていたため、その取扱いについて笛吹市教育委員会と株式会社くろがねやが協議をおこなった。協議の結果、開発に先立って笛吹市教育委員会が、遺構の内容および検出面の深度等を把握するため試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は、平成17年９月26日～10月３日にかけて実施された。約35,858㎡の開発対象予定地内において、「農業振興地域」からはずれた畑地を中心に、基本的に２×１ｍ規模の試掘トレンチを10箇所設定しおこなわれ、その結果、予測どおり平安時代を中心とする竪穴建物跡や土坑が確認されたことから、建造物および駐車場建設地において、遺構を保護するための保護層を確保できない箇所については、埋蔵文化財の発掘調査が必要であるとした。その試掘調査結果をもとに工事設計がおこなわれ、保護層が確保できない箇所約180㎡分の本調査を西田町遺跡第２次調査として、平成18年11月から翌平成19年２月にわたって実施した。

平成20年度に入り、新たに造成工事が本格的に始まり、その折に本来保護層が確保されるべき箇所で、当初計画以上に掘削深度が深かったために埋蔵文化財包蔵層を削平し、さらに遺構の一部を露呈させてしまったことから、急遽、笛吹市教育委員会と株式会社くろがねやが協議をおこなった結果、新たに約990㎡分の本調査が必要であることを確認し、平成18年度に続き第３次調査として本調査を実施する運びとなった。

平成20年４月に、株式会社くろがねやより、財団法人山梨文化財研究所に対し、西田町遺跡の発掘調査の依頼が再度あり、協議をおこなった結果、平成20年５月16日に三者による「埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」を締結し、笛吹市教育委員会が指導監督機関として調査に関わることとし、同じく平成20年５月16日に、株式会社くろがねやと財団法人 山梨文化財研究所との二者間で「西田町遺跡発掘調査業務委託契約」を結んで、西田町遺跡の発掘調査事業および報告書刊行に向けた整理事業を実施することとなった。

【第２次調査（平成18年度）調査体制】

○調　査　主　体　　財団法人 山梨文化財研究所　理事長　冲永荘一
○調 査 担 当 者　　中山千恵（財団法人 山梨文化財研究所　学芸員）
○発掘調査参加者
伊藤津真子、稲垣自由、岩崎満佐子、櫛原ゆかり、窪田信一、須田泰美、田中真紀美、長谷川規愛、原島　進、宮川昌蔵
○整 理 参 加 者
岩崎満佐子、角屋さえ子、田中真紀美、矢房静江
○指導・監督・助言　　笛吹市教育委員会

【第３次調査（平成20年度）調査体制】

○調　査　主　体　　財団法人 山梨文化財研究所　理事長　冲永荘一
○調 査 担 当 者　　平野　修（財団法人 山梨文化財研究所　考古第３研究室長）
○発掘調査参加者
稲垣自由、岸本美苗、窪田信一、坂本行臣、鷹野義朗、田中健二、手塚松雄、萩原 忠、長谷川規愛、原島　進、早川栄蔵、平賀早苗、藤巻敏弥、藤原五月、望月秀和
○整 理 参 加 者
岩崎満佐子、角屋さえ子、小林典子、齋藤ひろみ、須田泰美、竜沢みち子、田中真紀美、原野ゆかり、広瀬悦子、藤井多恵子、藤原五月、古郡　明、望月秀和
○指導・監督・助言　　笛吹市教育委員会

第２節　調査の方法と経過

１．調査の方法

発掘調査は、本調査実施予定地内が前述のとおり、造成工事においてすでに埋蔵文化財包蔵層（遺物包含層）の一部が削平され、さらにブルドーザーのキャタピラ痕等によって荒らされていたため、新たに平爪バケットを装着したバックフォーによって、遺構確認面の整地および遺物包含層の一部掘削作業から開始した。それと平行して、人力によるジョレンを使用しての遺構確認作業もおこなった。

整地・掘削作業の終了後、開発対象地全体を覆うように国土座標にあわせて、南北方向をＸ軸、東西方向をＹ軸とし、５ｍメッシュを基本とするグリッドを設定した。南西隅を基点として、世界測地系座標Ｘ＝－39500.000、Ｙ＝15660.000 を原点（X=0、Y=0）としている。グリッドの名称は南北方向を南からＸ０・Ｘ１・Ｘ２･･･、東西方向を西からＹ０･Ｙ１･Ｙ２･･･とし、南西隅を基点として、Ｘ１Ｙ１グリッドなどと呼称した。調査地内Ｘ 24 Ｙ 26 グリッドの国土座標値Ｘ＝－39380.000、Ｙ＝15790.000 である。

遺構調査については、すべて人力にて覆土を除去し、発生土の排出についても人力にておこなった。確認された遺構は、構築年代の新しいものから順次おこなったが、一部新旧関係が不明瞭な重複した遺構については、同時に調査をおこない、土層観察等によって新旧関係の決定をおこなった。

出土した遺物は、原位置が判明する直径３㎝以上の大きさを測る土器片等は、極力、光波測量機によって各出土地点ごとにナンバリングして取り上げた。遺構の測量についても光波測量機による測量を中心とし、1/10・1/20 の縮尺を基本として、平板測量と遣り方測量も併用した。

光波測量に用いた機器およびシステムは以下のとおりである。

○光波測量機　　TOPCON GTS-320F Ⅱ A
○データコレクタ　　Panasonic TOUGHBOOK CF-18
○取り上げ・図化ソフト　アイシン精機株式会社製　遺構くん ai Ver 1.50

なお、遺構の名称は、以下ような略称を使用した。

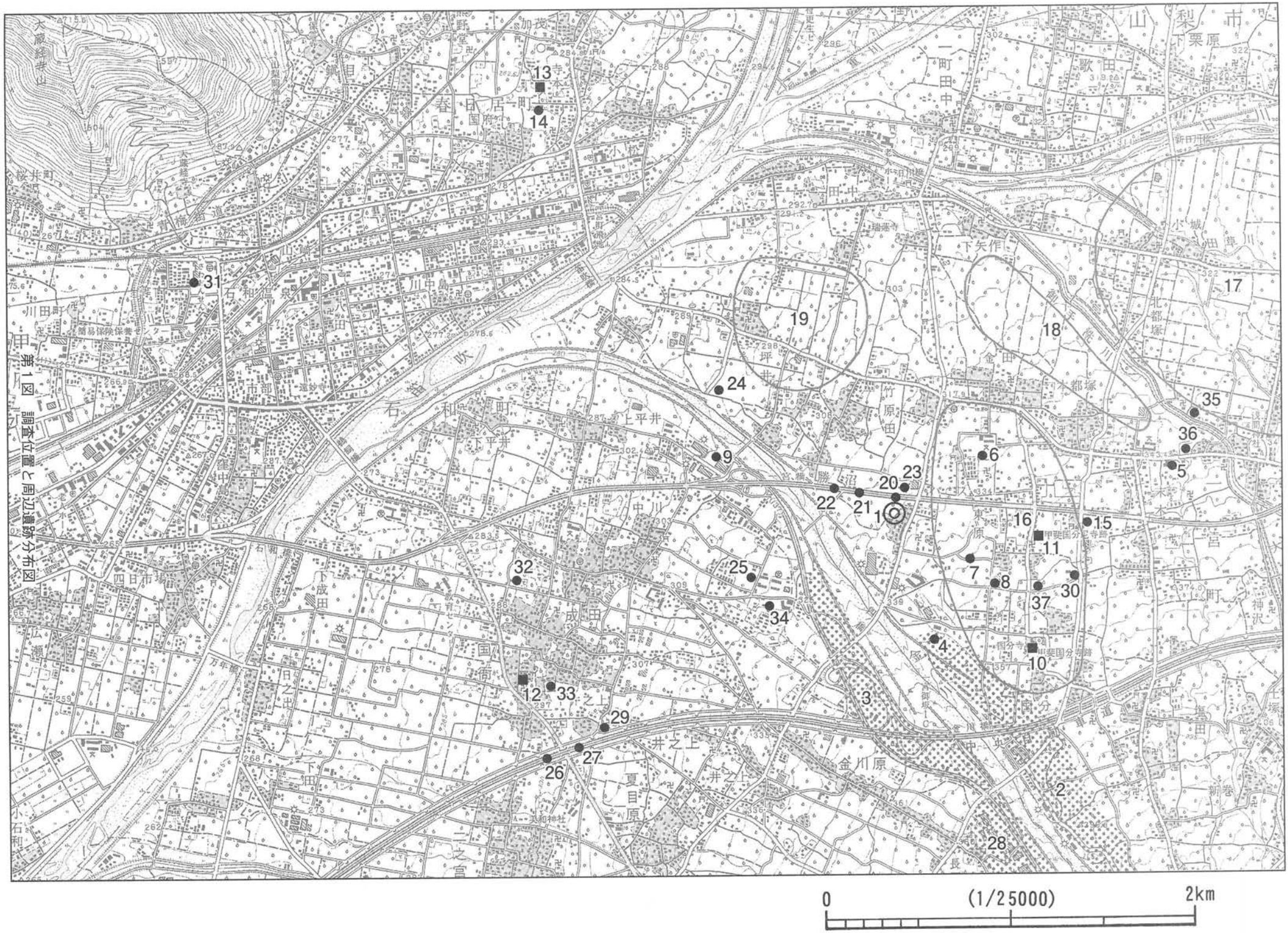
第２次調査（平成 18 年度）　○竪穴建物遺構 ･･･ ＳＩ、○溝 ･･･SD、○土坑 ･･･SK、○ピット、○配石
第３次調査（平成 20 年度）　○竪穴建物遺構 ･･･ ＳＩ、○溝 ･･･SD、○土坑およびピット ･･･SK

２．調査の経過

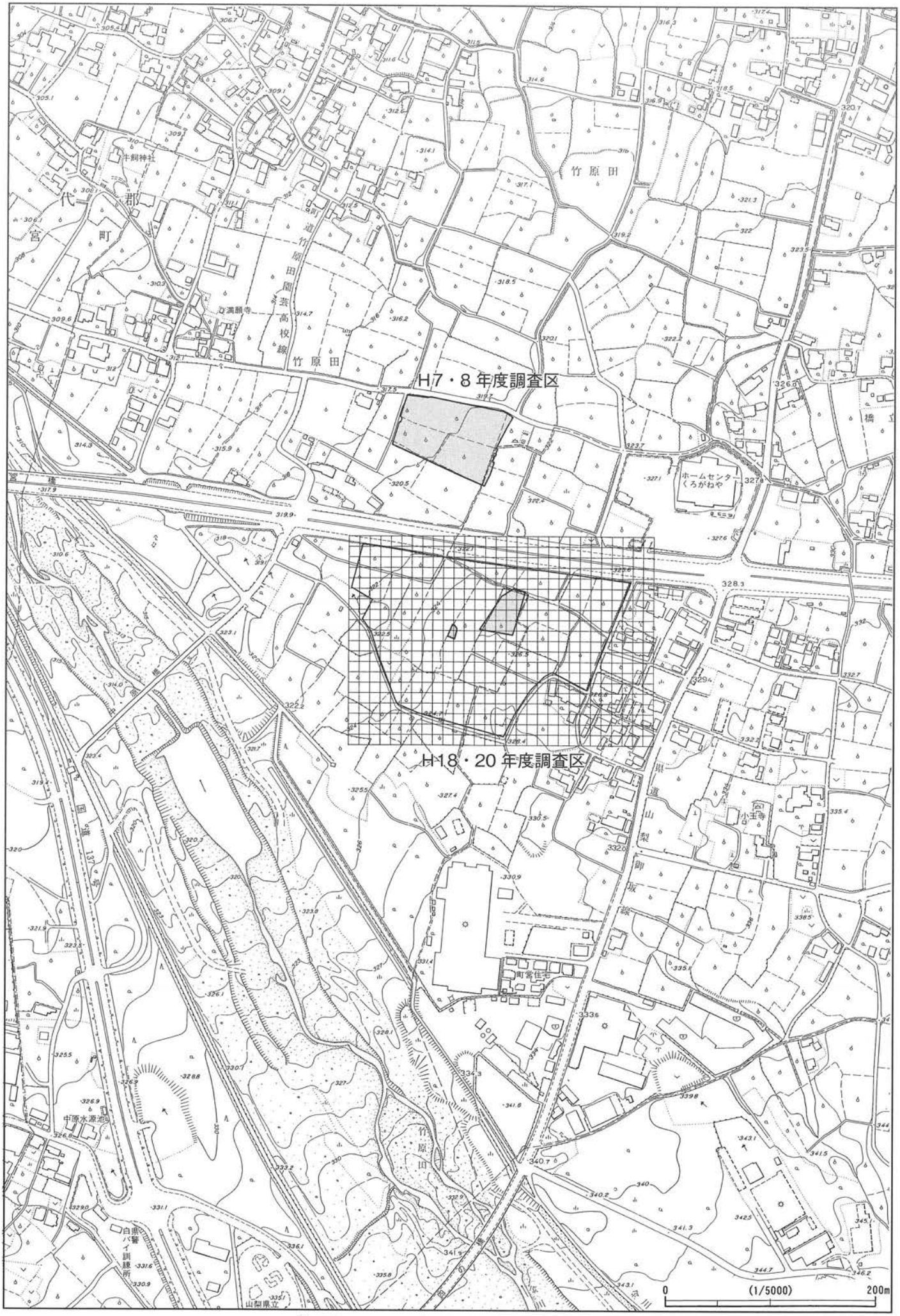
第２次調査（平成18年度）は、平成18年11月15日から平成19年２月19日までおこなった。すでに遺構が確認されている試掘トレンチを、小型のバックフォーを使用し、遺構確認面まで掘削作業を行った。その後人力によりスコップ、ジョレンを使用して遺構確認作業をおこなった。遺構調査については、確認された遺構は順次移植ゴテ等を使用し人力で行った。大型の礫を含む土坑が多く、礫の除去には手間取った。出土した遺物は、レベル、平板を使用し取り上げを行った。また、遺構についても一部写真測量を併用したが、平板測量を中心におこなった。

第３次調査（平成20年度）は、平成20年５月19日から同年９月２日までおこなった。遺構確認段階で、調査区のほとんどが竪穴建物跡や土坑などの遺構覆土と思われる黒褐色土や、暗褐色土等であることが判明し、この段階で今回契約を取り交わした調査期間内および費用では対応しきれないであろうことは容易に予測できた。さらに遺構調査に入ると、やはり竪穴建物跡や土坑が夥しく重複して存在していることが判明し、しかも８世紀代から 12 世紀代にわたるこれら遺構群が、重層的に存在することも判明した。店舗開店予定日が平成20年11月であるとのことで、建物基礎の一部が調査区にかかることから、建物工事の進捗に応じて、調査終了箇所を随時明け渡していくというかたちで調査は進められたが、遺構が面的かつ重層的に連続している状況下で、調査地を機械的に明け渡すことは極めて困難を要したことから、７月14日に㈱くろがねや、笛吹市教育委員会、㈶山梨文化財研究所の三者で調査面積の変更と未調査区画の保護についての協議を現地でおこない、調査対象面積を当初の 990㎡から 460㎡に縮小し、本調査を実施しない区画については、保護層 30㎝以上設けて保存をはかることで合意し、７月16日付けで㈱くろがねやと笛吹市教育委員会との間で確認書を取り交わした。

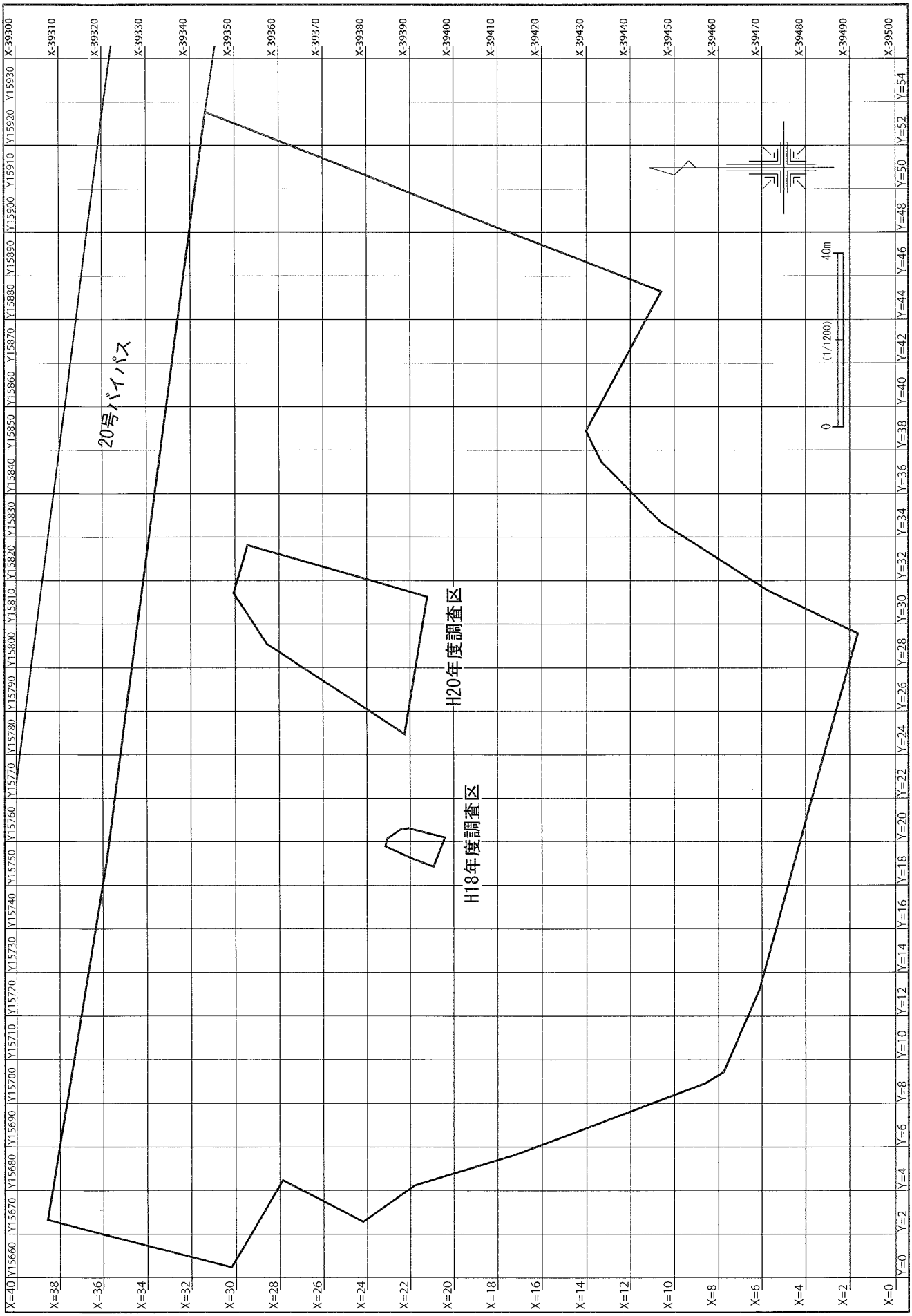
最終的に掘削調査が実施できた面積は約 444.7㎡であった。しかし遺構の重層的なあり方からすれば、同面積をほぼ２面分調査をおこなったに等しい。調査終了後の９月４日、ブルーシートにより養生を施した後、保存地区を教育委員会の立ち会いの下、重機によって埋設し、その後工事が着手された。



第1図　調査位置と周辺遺跡分布図



第2図　H18・20年度調査区グリッド設定図



第３図　H18・20年度調査区配置図

整理作業は、両年度調査ともに、発掘調査終了後に㈶山梨文化財研究所において、平成23年3月まで実施、本報告書の刊行をもってすべての調査を完了した。

【第2次調査（平成18年）日誌】

（平成18年）
11月15日(水)　プレハブ設置、機材搬入、重機による表土剥ぎ。人力により遺構面精査。
11月16日(木)　人力による遺構面確認作業
11月17日(金)　人力による遺構面確認作業、一時調査中断
（平成19年）
1月15日(月)　調査再開、拡張部分重機により表土剥ぎ、人力による遺構面確認作業
1月16日(火)　SI・SK遺構調査開始
1月18日(木)　SI・SK遺構確認調査継続
1月19日(金)　SI・SK遺構調査継続、SD1・2新設、遺構調査開始
1月22日(月)　SI・SK・SD遺構調査継続
1月23日(火)　SK全体空撮
1月24日(水)　SK1～3集石除去作業
1月25日(木)　SK1～3集石除去作業継続、SD1継続調査
1月26日(金)　SK1～3完掘、SK4集石除去作業、教育委員会視察
1月29日(月)　SK04集石除去作業
1月30日(火)　SK4～9集石除去作業
2月2日(金)　SK6完掘、SK4・5集石除去作業継続
2月5日(月)　SK4・5・7～9完掘
2月6日(火)　SD1調査継続、SK10新設調査開始
2月7日(水)　SD1・SK10調査継続
2月8日(木)　SD1・SK10完掘
2月9日(金)　SI1・SD11調査継続
2月13日(火)　SI1・SD11完掘、SI2新設調査開始
2月15日(木)　SI2・SD12～15調査継続
2月16日(金)　SI2・SD14・15調査継続、SD12・13完掘、笛吹市農政課視察
2月19日(月)　SI2・SD14・15完掘調査終了、機材撤収

【第3次調査（平成20年）日誌】

5月19日(月)　調査事務所設置、機材搬入、調査区の重機による遺構確認面精査・遺物包含層一部掘削、人力による遺構確認作業開始
5月22日(木)　グリッド杭設定
5月23日(金)　重機による遺構確認面精査･遺物包含層一部掘削、人力による遺構確認作業終了
5月26日(月)　SI1・2、SK1・2等遺構調査開始
5月27日(火)　SI・SK等遺構調査継続
5月28日(水)　SI3等新設調査開始
5月30日(金)　SI4・5、その他SK新設調査開始
6月2日(月)　SI1カマド等調査
6月4日(水)　SI・SK等遺構調査継続
6月5日(木)　SI6、SK10等新設調査開始
6月6日(金)　SI・SK等遺構調査継続
6月10日(火)　SI7・8、その他SK新設調査開始、SI5カマド等調査
6月11日(水)　SI・SK等遺構調査継続、教育委員会現地視察
6月13日(金)　SI・SK等遺構調査継続
6月16日(月)～6月20日(金)　SI・SK等遺構調査継続、SK31等祭祀土坑検出
6月23日(月)～6月27日(金)　SI・SK等遺構調査継続、SI9・10等新設、ポールによる部分写真測量実施
6月30日(月)～7月4日(金)　SI・SK等遺構調査継続、SI11等新設
7月7日(月)～7月11日(金)　SI・SK等遺構調査継続、SI12～14等新設
7月14日(月)～7月18日(金)　SI・SK等遺構調査継続、SI15～17等新設、笛吹市教委、㈱くろがねやと今後の調査工程について打ち合わせ協議
7月21日(月)～7月25日(金)　SI・SK等遺構調査継続、SI18～19等新設
7月28日(月)～8月3日(日)　SI・SK等遺構調査継続、SI20～22等新設、調査区南側5m幅部分ポールによる写真測量実施
8月4日(月)　調査区南側5m幅調査終了部分工事のため明け渡し
8月5日(火)～8月19日(火)　SI・SK等遺構調査継続、SI23～27等新設、調査区南側10m幅部分ポールによる写真測量実施
8月20日(水)　調査区南側10m幅調査終了部分工事のため明け渡し
8月21日(木)～9月1日(月)　SI・SK等遺構調査継続、SI28～34等新設、残り調査終了部分および保存地区ラジコンヘリによる空撮・写真測量実施
9月2日(火)　SI・SK等遺構補足調査、ポールによる部分写真測量実施、機器材片づけ撤出作業、調査終了
9月3日(水)　調査事務所等撤去
9月4日(木)　教育委員会立会のもと保存地区埋め戻し
9月11日(木)　埋蔵文化財保管所および埋蔵文化財調査終了報告、埋蔵物発見届けを、笛吹市教育委員会教育長名で、山梨県教育委員会・笛吹警察署に提出する。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置と立地

西田町遺跡は、甲府盆地東南部、笛吹川の支流である日川・金川と御坂山地に囲まれた緩やかな北西向き斜面上に立地する。現在の行政区域では笛吹市東原字西田町・竹原田字川原口丁にあたり、東西約 400 m、南北約 200 mと遺跡は広範囲にわたっている。

御坂山地から流下する金川の右岸の、標高 340 m前後を測る扇状地上に今回の調査区は立地し、金川本流の他、前述のとおり遺跡地内には南東から北西方向にのびる旧河道が網目状に幾本か流下し、それに伴って中州状の微高地が幾つか点在する。今回の発掘調査地もこうした微高地の一つに立地している。

第２節　基本層位

基本層位については、すでに造成工事によって表土層等が欠失していることや、扇状地地形で微高地と旧河道が南東から北西方向にかけて網目状に存在していることから、同じ調査地内でも基盤層が礫層であったり、黄褐色砂質シルトであったりして一定していない。今回の調査地では、南西部あたりを中心に礫層面が展開し、その他では黄褐色砂質シルト層が基盤層を形成している。

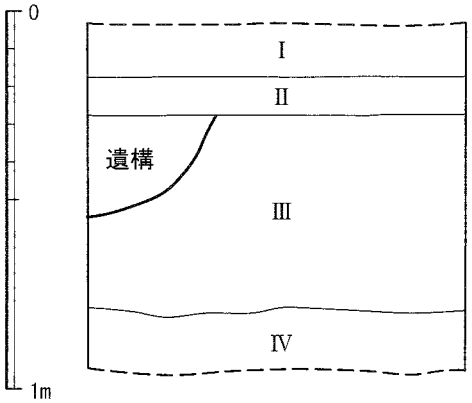
ここでは、第３次調査（平成 20 年度）調査区南東隅で残存面から約１m程度深掘りした状況を示す（第４図）。なお、土層色調標記は、『新版標準土色帳』13 版（農林省水産技術会議事務所監修　小山正忠・竹原秀雄編・著　1993）に準拠している。

第Ⅰ層　黒褐色砂質土（10YR3/2）遺物包含層、小礫・炭化物等含む、約 15cmほど残存

第Ⅱ層　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）遺物包含層および遺構覆土、黒褐色土ブロック混じり、厚さ約 10cm

第Ⅲ層　黄褐色砂質土（2.5Y5/6 シルト質）しまり強い、厚さ約 50 ～ 60cm

第Ⅳ層　黄褐色砂質シルト（2.5Y5/6 ）しまり強い



第４図　基本層位模式図

第３節　歴史的環境

当該地域は笛吹川と金川との合流地点であり洪水多発地帯でもある。しかし遺跡地内は明治 40 年大水害時のように、土砂に覆われることはあっても、大規模な土石流災害には部分的に見舞われたにすぎず、古墳時代以降、比較的安定した土地状況を呈してきたといえる。その傍証の一つとして表層に展開する条里型土地割の存在があげられ、長く耕地および宅地として土地利用されてきたことがうかがわれる。

また、金川は現在では川幅が広く普段は水量の少ない河川であるが、近年の発掘調査の成果から、金川は古代以前から転流を繰り返した河川であり、当初は現在の河道より西側の旧御坂町地域を中心に流下していた可能性が高いことが指摘されており、現在の河道は 10 世紀以降に定まったものと推定されている。

今回の開発区域での発掘調査では、奈良・平安時代を中心とする遺構群と遺物群が検出されており、西田町遺跡が存在する当該地は、古代においては、政治・経済・宗教において中心的な地域であり、本遺跡から東へ約１kmの地点には甲斐国分僧尼寺（10･11）が位置し、金川を挟んだ西へ約１kmの地点には笛吹市御坂町国衙の推定甲斐国府（12）が位置している。こうした寺院･官衙の他に、周囲には大原遺跡（9）、狐原遺跡（25）、二之宮遺跡（26）、姥塚遺跡（27）、四ツ塚古墳群（3）、国分築地古墳群（2）などといった大規模集落遺跡や古墳群も数多く点在している他、国分条里（16）、中尾条里（17）、金田本都塚条里（18）、坪井条里（19）といった条里型地割も当該地域一帯に広く展開している。

また、甲斐国一宮の浅間神社における国府祭の一つである「御幸祭」の祭礼時に、御輿が笛吹川まで行く通過ルートとされる「御幸道（みゆきみち）」や「市道（いちみち）」ともよばれる古道が、現在の国道 20 号線勝沼バイパスに沿っ

第1表　周辺遺跡一覧表

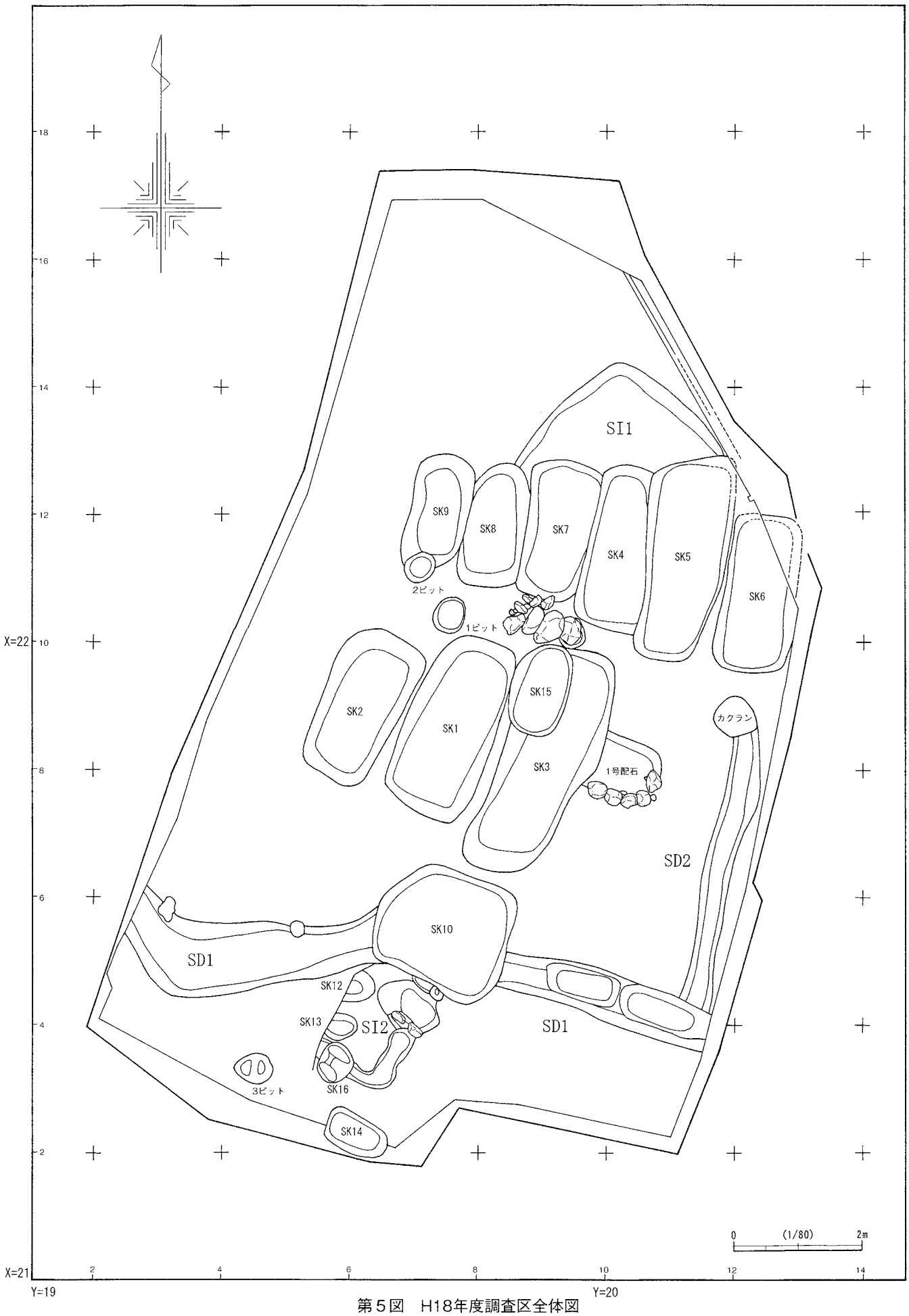
番号	遺　跡　名	時　期	番号	遺　跡　名	時　期
1	**西田町遺跡くろがねや地点**		20	杭337地点遺跡	平安
2	国分古墳群	古墳	21	杭344地点遺跡	平安
3	四ツ塚古墳群	古墳～平安	22	杭350地点遺跡	平安
4	経塚古墳	古墳～奈良	23	西田町遺跡	平安～中世
5	鞍掛清水遺跡	古墳～平安	24	南西田遺跡	平安
6	筑前原遺跡・筑前原塁址	古墳～平安	25	狐原遺跡	平安
7	矢倉道址	古墳～平安	26	二之宮遺跡	古墳～平安
8	松原遺跡(第5共選場地区)	古墳～平安	27	姥塚遺跡	古墳～平安
9	大原遺跡	古墳～平安	28	長田古墳群	古墳
10	国分寺跡	奈良～平安	29	姥塚古墳	古墳
11	国分尼寺址	奈良～平安	30	竜ノ木遺跡	奈良・平安
12	御坂町国衙址	奈良～平安	31	松本塚ノ越遺跡	古墳・平安
13	寺本廃寺	古墳	32	半行寺遺跡	平安
14	国府遺跡	古墳～平安	33	横畑遺跡	古墳～中世
15	車地蔵遺跡	平安	34	茶かん遺跡	奈良～平安
16	国分条里	平安～	35	今宮遺跡	古墳～平安
17	中尾条里	平安～	36	車居遺跡	古墳～平安
18	金田本都塚条里	平安～	37	松原遺跡	古墳・平安
19	坪井条里	平安～			

て平行に走っている。このルートは、甲府盆地内の古代における主要交通路の一つとして、ヤマトタケル伝承にもみられる酒（坂）折宮にも通じ、さらに旧巨麻郡を通り、東山道へ抜けるルートでもあり、旧一宮町域をはじめ、盆地内の当該ルート上には、古墳時代から中世にいたる数多くの主要遺跡が存在している。

文献史料を紐解けば、平安時代（10世紀前半）に編纂された古代の地誌である『和名類聚抄』によると、遺跡所在地は古代の行政区画では、甲斐国四郡（山梨・八代・巨麻・都留）のうち山梨郡に属し、そして山梨郡は東郡と西郡とに分かれるが、本遺跡一帯はその内の東郡に属している。さらに下部の郷としては、東郡には於曽・能呂・林部・井上・玉井といった郷が配置されており、玉井郷については本遺跡の西側に所在する旧一宮町坪井の大原遺跡（9）や、旧一宮町竹原田の狐原遺跡（25）で「玉井郷長」「玉井」などと記された郷名に関する墨書土器が出土していることから、両遺跡が存在する一帯が玉井郷であった可能性が極めて高い。一方、他郷については、諸説はあるものの確定していない郷が多く、先行研究によると、国分尼寺が所在する旧一宮町東原一帯が林部郷と考えた場合、『和名類聚抄』の時計回りとする記載順序からすれば林部郷に隣接して井上郷が存在する可能性が高い。しかし古代において八代郡域に属するはずの旧御坂町に「井上」という地名が残っていることから、金川の流路変更などに伴っての郡界変更があった可能性も考えられるものの、まだその決着はみていない。

しかしながら、後述するように、今回の発掘調査で、奈良時代から平安時代にわたるおびただしい遺構群が検出され、西田町遺跡が中核的な集落の一つであった可能性が強まったことから、旧一宮町東原地区と坪井・竹原田地区の間のエリアに井上郷が配置されていた可能性も強まってきた。本遺跡の発掘調査成果は、今後の山梨郡東郡における郷配置問題に、一石を投じる可能性をもっている。

中世では、同じ西田町遺跡で勝沼バイパスを挟んだショッピング施設イツモア建設地において12世紀後半を中心とした館跡が調査されている。中世陶器や貿易陶磁、長崎産石鍋などの豊富な遺物が出土しており、中世初期段階の物流拠点の一つとして注目される。



第５図　H18年度調査区全体図

第６図　H20年度調査区全体図(1)

第７図　H20年度調査区全体図(2)

第Ⅲ章　第２次調査（平成18年度）で発見された遺構と遺物

平成18年度の第２次発掘調査で検出された遺構は、竪穴建物跡（SI）２軒、土坑（SK）15基、ピット３基、配石遺構１基、溝状遺構（SD）１条である。

第１節　竪穴建物跡（SI）

SI1（第８図）

（位置）X22Y19・20グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SK4・5・7・8と重複し、北側コーナーを確認できたのみで、ほとんどの部分をいずれの遺構に掘り込まれている。（形態・規模等）竪穴の全体像は不明であるが、形態は隅円方形を呈すると思われる。規模は不明。（壁・壁溝・床面等）竪穴部の深さは確認面から最大0.21ｍを測る。壁溝は検出されなかった。床面は明確な床面は検出されなかった。（柱穴）不明。（カマド）SK7の南側よりカマドの構築材と思われる集石及び焼土が検出された。（出土遺物）遺物の出土量は少なく、土師器の坏・皿・須恵器の小破片が出土している。（時期）本遺構を掘り込んで構築しているSK5などの出土遺物から９世紀前半代の所産であろうか。

SI2（第８図）

（位置）X21Y19グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況等）SD1・SK10・12・13・16と重複し、南東コーナー及びカマドを確認できたのみで、大部分はいずれの遺構に掘り込まれている。（形態・規模等）竪穴の全体像は不明であるが、形態は隅円方形を呈すると思われる。規模は不明。（壁・壁溝・床面）竪穴部の深さは確認面から最大0.20ｍを測る。壁溝は残存している南東コーナーにおいて確認されている。床面はカマド周辺部で堅固な面が確認された。（柱穴）不明。（カマド）東壁のやや南寄りに付設される石組みカマドである。天井石は残存しないが袖石の一部は残存し、抜き取り痕も顕著に確認できた。燃焼部内の焼土は顕著に見られ覆土内から土師器の甕が出土している。（出土遺物）カマド及びその周辺からおもに出土している。土師器坏・皿の墨書土器や甕・不明鉄製品等が出土している。（時期）出土遺物から９世紀前半代の所産だと思われる。

第２節　土坑（SK）

土坑（SK）は、15基検出されており、SK1～13まで遺構番号は付しているが、SK11は欠番となっている。

SK1（第９・10図）

X21･22Y19グリッド内で検出されている。SK15と重複しており、遺構の遺存状態は良好。形態は隅円長方形を呈し、長軸2.92ｍ、短軸1.40ｍ、深さ0.70ｍを測る。集石を伴っており、確認面から底面まで拳大から直径１ｍを超える礫が密に詰まっている。出土遺物は、陶磁器・骨片等が出土している。時期は出土遺物から、近世段階の所産と思われる。

SK2（第９・10図）

X21･22Y19グリッド内で検出されている。遺構の遺存状態は良好。形態は隅円長方形を呈し、長軸2.46ｍ、短軸1.32ｍ、深さ0.56ｍを測る。SK1と同様に集石を伴っており、確認面から底面まで拳大から直径１ｍを超える礫が密に詰まっている。出土遺物は、陶磁器・骨片等が出土している。時期は出土遺物から、近世段階の所産と思われる。

SK3（第９・10図）

X21Y19･20グリッド内で検出されている。遺構の遺存状態は良好。形態は隅円長方形を呈し、長軸3.80ｍ、短軸1.48ｍ、深さ0.57ｍを測る。SK1・2と同様に集石を伴っており、確認面から底面まで拳大から直径１ｍを超える礫が密に詰まっている。出土遺物は、陶磁器・骨片等が出土している。時期は出土遺物から、近世段階の所産と思われる。

SK4（第10図）

X22Y19・20グリッド内で検出されている。遺構の遺存状態は良好。形態は隅円長方形を呈し、長軸2.60ｍ、短軸は現存値で1.30ｍ、深さ0.40ｍを測る。SI1やSK5・7と重複しており集石を伴っている。確認面から底面まで拳大から直径１ｍを超える礫が密に詰まっている。出土遺物は、土師器高台坏や蓋など出土しているが、これらはSI1に伴うものであろう。時期は、遺構の形状や構造などから、SK1～３と同様に近世段階の所産と思われる。

SK6（第10図）

X21･22Y20グリッド内で検出されている。遺構の遺存状態は良好。形態は隅円長方形を呈し長軸3.25ｍ、短軸1.25ｍ、深さ0.55ｍを測る。SI1やSK4と重複しており集石を伴っている。確認面から底面まで拳大から直径１ｍを超

える礫が密に詰まっている。出土遺物は、墨書土器を含む土師器坏・皿・甕片が主体を占めているが、これらはSI1に伴うものであろう。時期は、遺構の形状や構造などから、SK1～3と同様に近世段階の所産と思われる。

SK6（第10図）

X21・22Y20グリッド内で検出されている。遺構の北側は調査区外に延びるが、遺存状態は良好。形態は隅円長方形を呈し長軸は現存値で2.13m、短軸は推定値で1.13m、深さ0.32mを測る。重複は認められない。集石を伴っており、確認面から底面まで拳大から直径1mを超える礫が密に詰まっている。時期は、出土遺物は特にないが、遺構の形状や構造などから、SK1～3と同様に近世段階の所産と思われる。

SK7（第10図）

X22Y19グリッド内で検出されている。遺構の遺存状態は良好。形態は隅円長方形を呈し長軸2.18m、短軸は推定値で1.05m、深さ0.40mを測る。SI1やSK4・8と重複しており、確認面から底面まで拳大から直径1mを超える礫が密に詰まっている。時期は、出土遺物は特にないが、遺構の形状や構造などから、SK1～3と同様に近世段階の所産と思われる。

SK8（第10図）

X22Y19グリッド内で検出されている。遺構の北側は調査区外に延びるが、遺存状態は良好。形態は隅円長方形を呈し長軸1.95m、短軸は推定値で0.95m、深さ0.30mを測る。SI1やSK7・9と重複しており、確認面から底面まで拳大から直径1mを超える礫が密に詰まっている。時期は、出土遺物は須恵器甕・壺片が出土しているが、遺構の形状や構造などから、SK1～3と同様に近世段階の所産と思われる。

SK9（第10図）

X22Y19グリッド内で検出されている。遺構の遺存状態は良好。形態は隅円長方形を呈し長軸1.95m、短軸は推定値で0.95m、深さ0.30mを測る。SK8と2号ピットと重複しており、確認面から底面まで拳大から直径1mを超える礫が密に詰まっている。時期は、出土遺物は須恵器片や灰釉陶器片が出土しているが、遺構の形状や構造などから、SK1～3と同様に近世段階の所産と思われる。

SK10（第11図）

X22Y19グリッド内で検出されている。遺構の遺存状態は良好。形態は隅円長方形を呈し長軸1.95m、短軸は推定値で0.95m、深さ0.30mを測る。SI2とSD1と重複しており、確認面から底面まで拳大から直径1mを超える礫が密に詰まっている。時期は、出土遺物は土師器甕片がわずかに出土しているが、遺構の形状や構造などから、SK1～3と同様に近世段階の所産と思われる。

SK12（第11図）

X22Y19グリッド内で検出されている。遺構の遺存状態は良好。形態は楕円形を呈すると思われ、長軸は推定で0.52m、短軸は現状値で0.40m、深さ0.18mを測る。SI2と重複しており、確認面から底面まで拳大を中心として、人頭大の礫が密に詰まっている。時期は、出土遺物は、須恵器や灰釉陶器片、打製石斧などが出土しているが、中世段階の常滑製甕が出土していることから、中世段階の所産と思われる。

SK13（第11図）

X22Y19グリッド内で検出されている。遺構の遺存状態は良好。形態は不整楕円形を呈すると思われ、長軸は推定で0.54m、短軸は0.44m、深さ0.16mを測る。SI2と重複しており、確認面から底面まで拳大を中心として、人頭大の礫が密に詰まっている。時期は、出土遺物は、須恵器や灰釉陶器片、打製石斧などが出土しているが、中世段階の常滑製甕が出土していることから、中世段階の所産と思われる。

SK14（第11図）

X22Y19グリッド内で検出されている。遺構の遺存状態は良好。形態は隅円長方形を呈し、長軸は推定で1.02m、短軸は0.62m、深さ0.12mを測る。重複はなく、確認面から底面まで拳大を中心として、人頭大の礫が密に詰まっている。出土遺物は陶磁器細片がわずかに出土しているのみで、その時期は中世段階もしくは近世段階の所産であろう。

SK15（第11図）

X22Y19グリッド内で検出されている。遺構の遺存状態は良好。形態は楕円形を呈し、長軸は推定で1.44m、短軸は0.92m、深さ0.70mを測る。SK3と重複し、坑内には底面まで人頭大礫を中心として、比較的密に詰まっている。出土遺物は特にないが、SK3を掘り込んでいることから、近世もしくはそれ以降の所産であろう。

SK16（第11図）

X22Y19グリッド内で検出されている。遺構の遺存状態は良好。形態は円形を呈し、長軸は推定で0.60m、短軸は0.52m、深さ0.32mを測る。SI2と重複し、坑内には覆土上層部に拳大の礫を中心として、集石がみられる。出土遺

物は須恵器壺片や陶磁器小片が出土しており、時期は、近世もしくはそれ以降の所産であろう。

第3節　ピット

1号ピット（第13図）

X22Y19グリッド内で検出されており、形態は楕円形を呈し、規模は長軸0.60 m、短軸0.48 m、深さ0.16 mを測る。出土遺物などはなく、時期やその性格などについては不明。

2号ピット（第13図）

X22Y19グリッド内で検出されており、SK9と重複している。形態は楕円形を呈すると思われ、規模は長軸0.60 m、短軸0.48 m、深さ0.16 mを測る。出土遺物はないが、時期については、SK9に掘り込まれていることから、近世もしくはそれ以前の所産と考えられる。

3号ピット（第13図）

X22Y19グリッド内で検出されており、形態は円形を呈し、規模は長軸0.60 m、短軸0.48 m、深さ0.16 mを測る。出土遺物などはなく、時期やその性格などについては不明。

第4節　配石遺構

1号配石遺構（第11図）

X22Y19･20グリッド内で検出されている。SK3に掘り込まれその大半を欠失しているため、全容は不明であるが、形態は隅円長方形を呈すると思われ、規模は東西軸は現状で1.0 m、南北軸は1.06 m、深さ0.12 mを測る。東壁および南壁際に人頭大の扁平な礫を配している。掘りかた覆土は黒褐色砂質土の単層で、炭化物や焼土などは含まず、出土遺物も特にないため、時期やその性格などについては不明。

第5節　溝（SD）

SD1（第12・13図）

X21Y19・20グリッド内で検出されている。SI2、SK10、SD2と重複している。本遺構がSI2を掘り込み、本遺構をSK10が掘り込んでいる。SD2との新旧関係は不明。覆土は黒褐色砂質土の単層で、小礫を多少含むものの、流水痕跡は顕著には認められない。検出された長さは9.65 mで、西側でやや蛇行し東西方向に延びる。幅は0.55～1.15 m、深さ0.20 mを測る。本遺構の西側では、SK遺構のように拳大の礫が充填されたような掘りかたが2箇所検出されている。その構築状況から、本溝を意識して構築されているが、出土遺物の様相から多少の時間差が存在するものと思われる。

出土遺物は、18世紀中葉から19世紀代にかけての瀬戸美濃製や肥前製の陶磁器類が多数出土おり、SK1などの遺物様相や所産時期と、ほぼ同じ状況だといえる。

SD2（第13図）

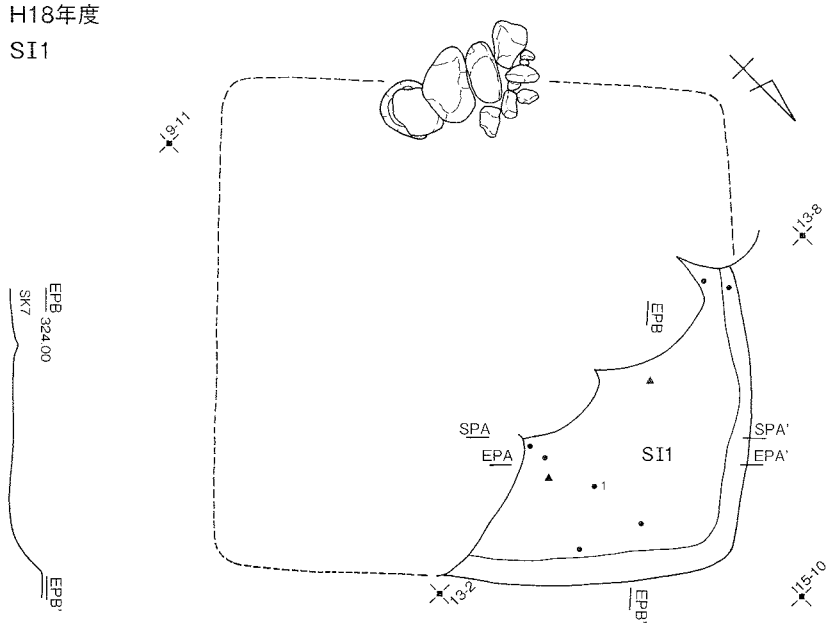
X21Y20グリッド内で検出されている。本遺構の南側でSD1と直交するかたちで連結している。覆土は、基本的に極暗褐色砂質土と暗褐色砂質土、褐色砂質土の3層であり、流水痕跡は認められない。検出された長さは4.35 mで、直線的に南北方向に延びる。幅は0.45 mを測り、深さは0.08 mでごく浅い掘り込みである。出土遺物などはなく、時期については不明。

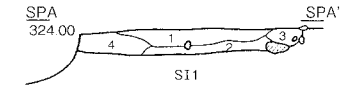
第6節　遺構外出土遺物

遺構外出土遺物は、調査区内全体にわたって散在的に出土している。第19図1～14は、9世紀から10世紀にわたる土師器および須恵器である。1～6は竪穴建物跡に伴う時期のものであり、6は底部外面に刻書が認められるが、判読は不可能。15は近世以降の土師質の内耳堝片。16・18は、19世紀代の瀬戸美濃製灯明皿と端反碗、17は大正期～第二次対戦前の瀬戸美濃製色絵皿、19は明治期の瀬戸美濃製小坏である。20は厚みがあり方形を呈する不明鉄製品、21は縄文時代以降のものと思われる凹石、22～24は打製石斧である。

H18年度

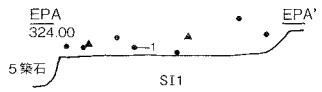
SI1



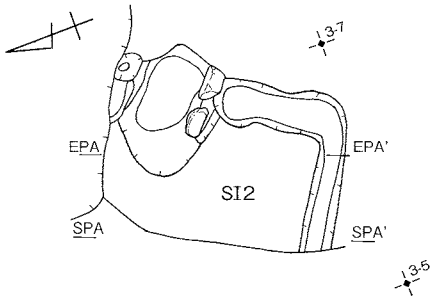


SI1

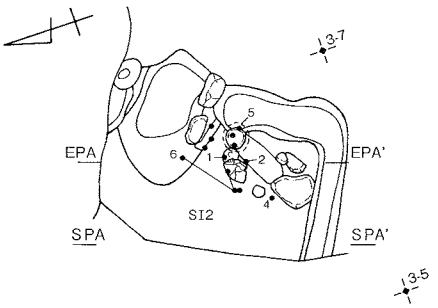
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）しまりややあり、小礫少し含む
2　暗褐色砂質土（7.5YR3/4）礫含む
3　黒褐色砂質土（10YR2/3）しまりあり、小礫多く含む
4　黒褐色砂質土（7.5YR2/2）しまりあり、黄褐色土ブロック含む

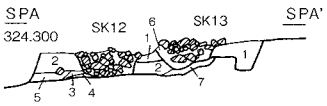


SI2



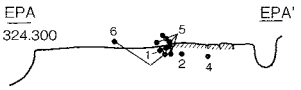
礫・遺物出土状況

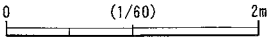




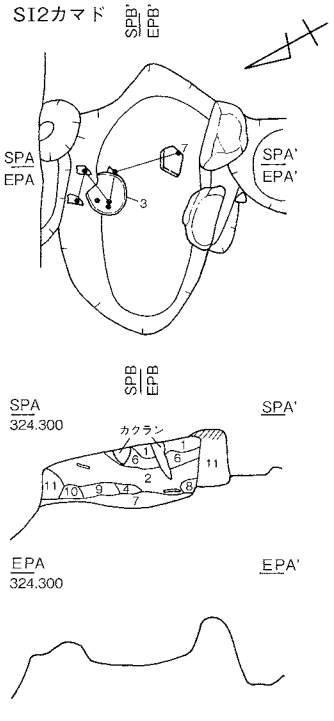
SI2・SK12・13

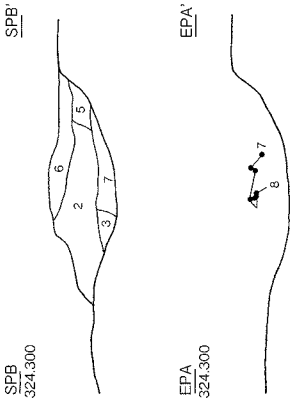
1　黒褐色砂質土（10YR2/3）しまりややあり
2　黒褐色砂質土（10YR2/3）しまりややあり、黄褐色土ブロック少し含む
3　黒褐色砂質土（10YR3/2）しまりあり
4　褐色砂質土（10YR4/4）　しまりあり
5　暗褐色砂質土（10YR3/4）しまりあり、黄褐色土ブロック多く含む
6　暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む（13集石）
7　褐色砂質土（10YR4/4）　しまりあり





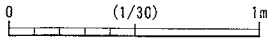
SI2カマド



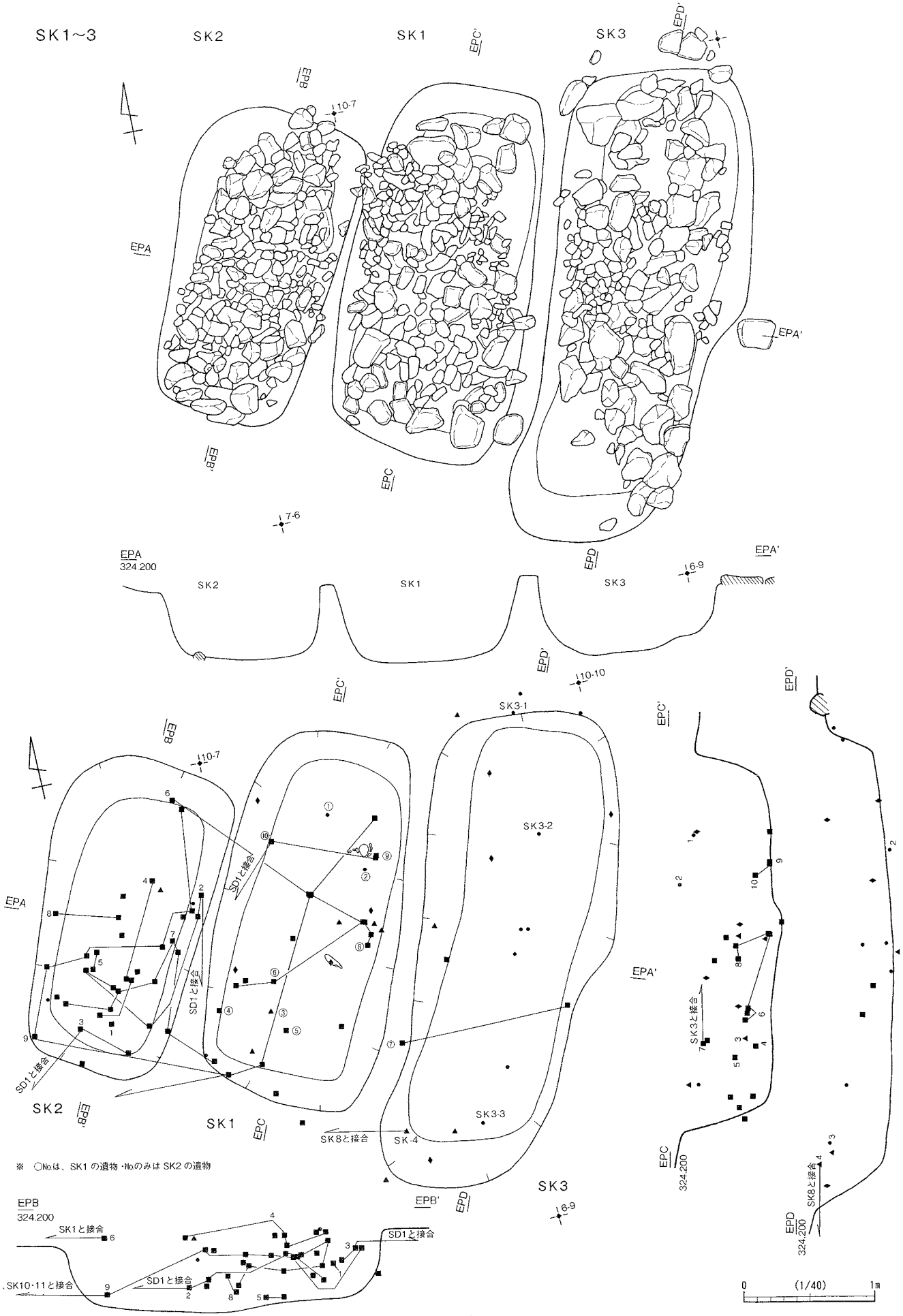


SI2カマド

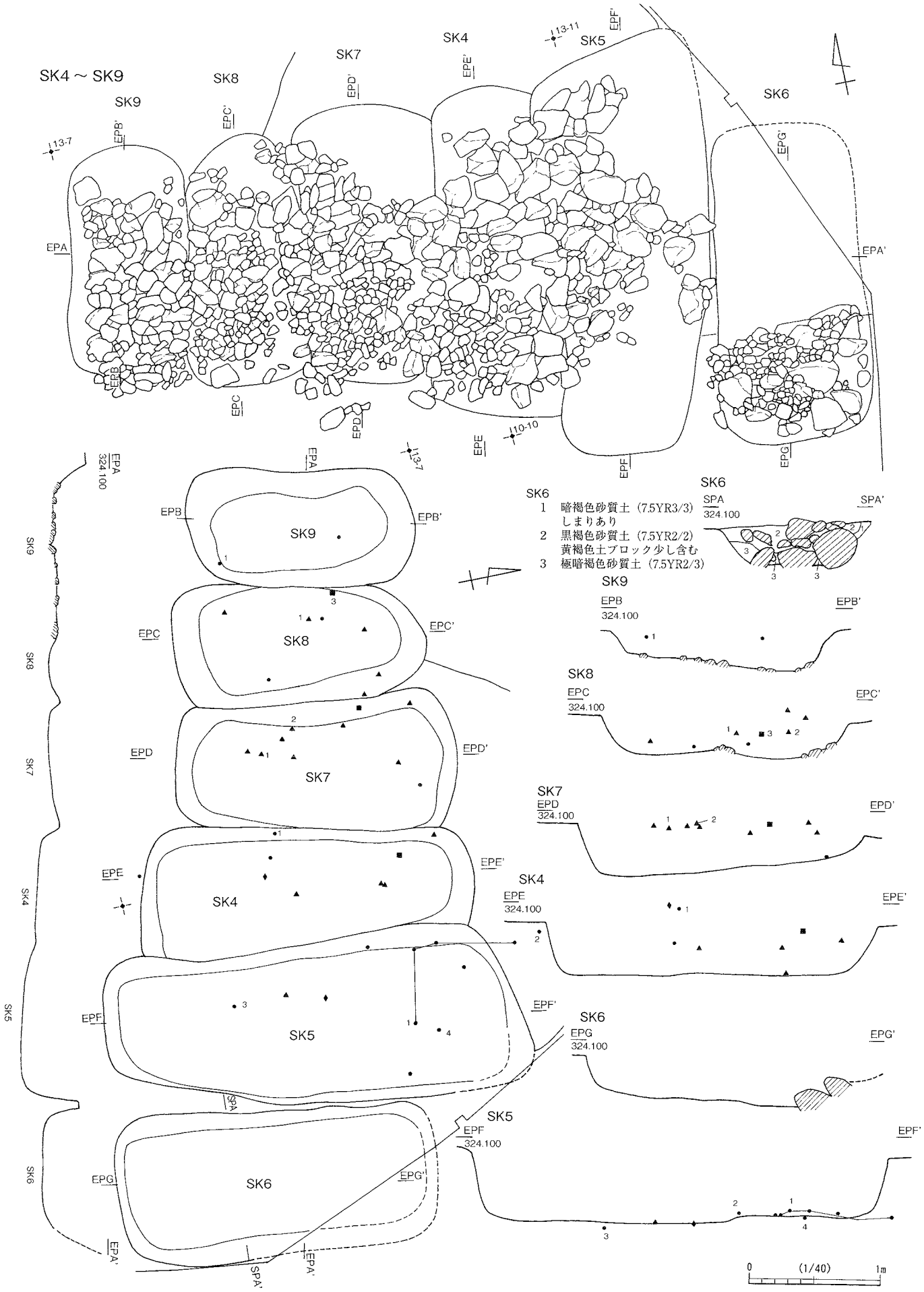
1　暗褐色砂質土（10YR3/4）しまりややあり
2　黒褐色砂質土（7.5YR2/2）しまりあり、焼土ブロック多く含む
3　暗褐色砂質土（10YR3/3）しまりややあり、焼土粒含む
4　褐色砂質土（7.5YR4/4）　焼土
5　暗褐色砂質土（7.5YR3/3）しまりあり、焼土粒多く含む
6　暗褐色砂質土（7.5YR3/3）しまりあり、焼土粒少し含む
7　暗褐色砂質土（7.5YR3/4）しまりややあり、砂粒含む
8　粘土層（カマド袖部分）
9　暗褐色砂質土（7.5YR3/3）しまりあり、焼土粒少し含む
10　暗褐色砂質土（7.5YR3/3）しまりあり
11　黒褐色砂質土（7.5YR3/2）しまりあり、焼土粒少し含む



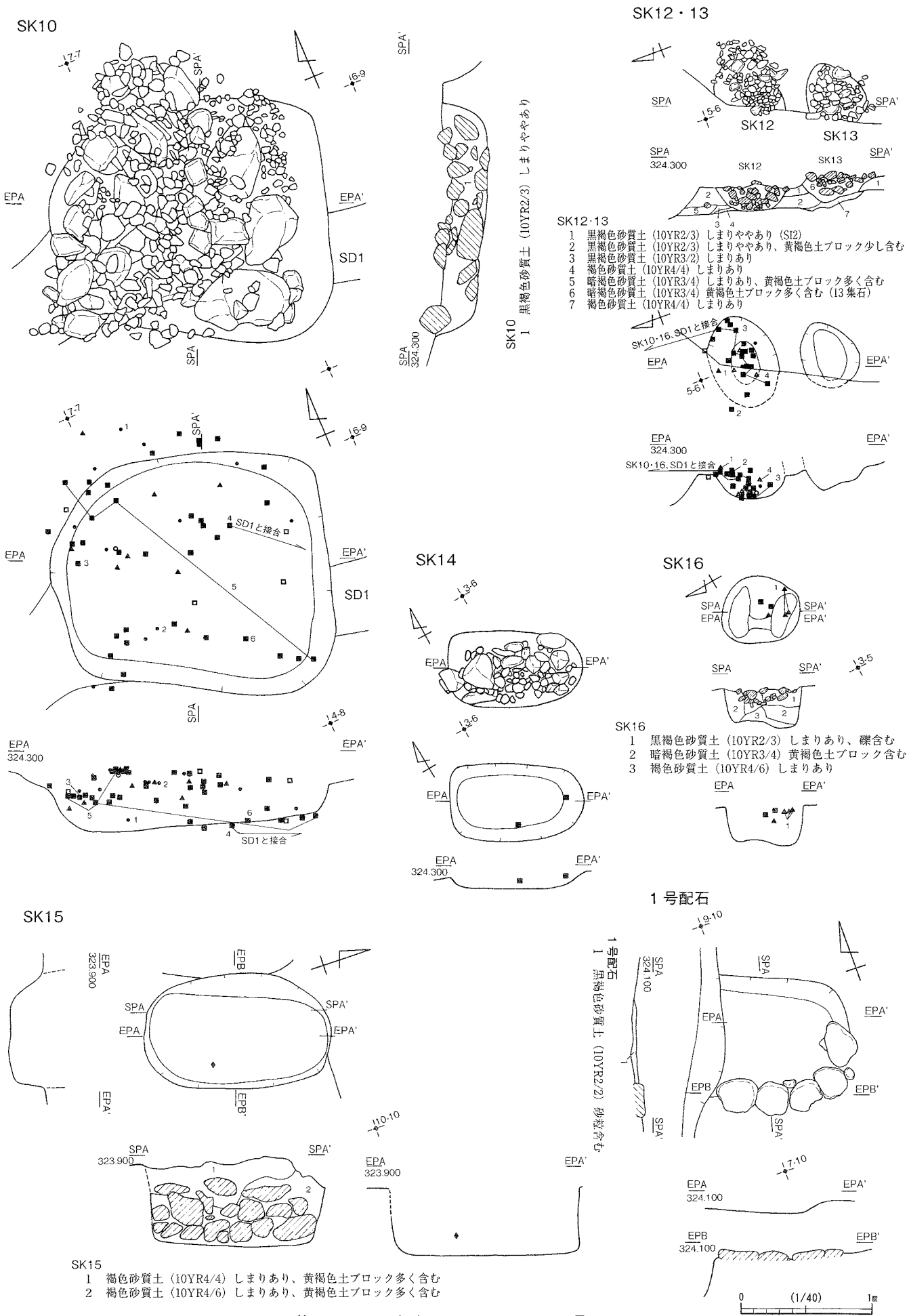
第８図　H18年度SI1・2



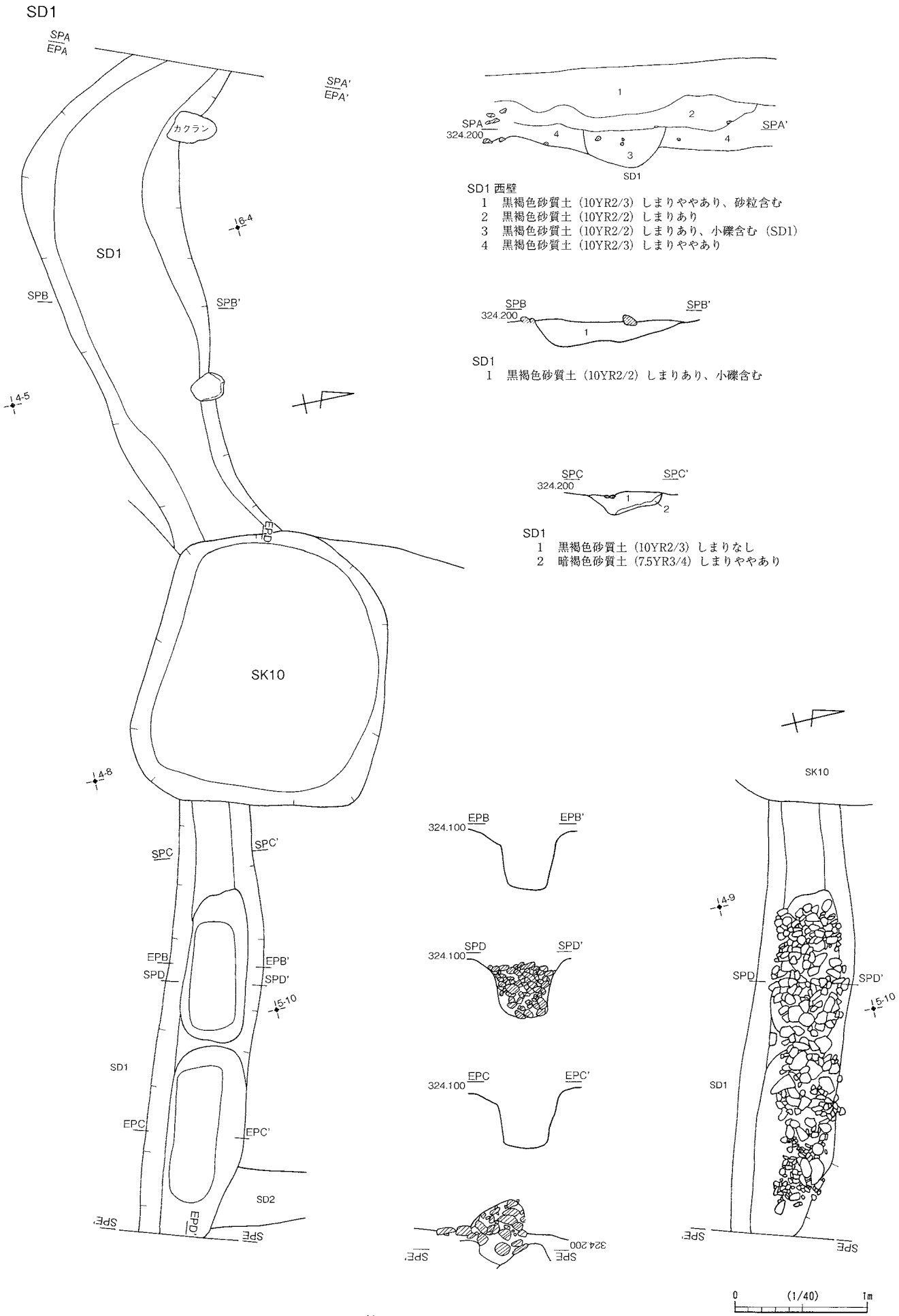
第９図　H18年度SK1～３



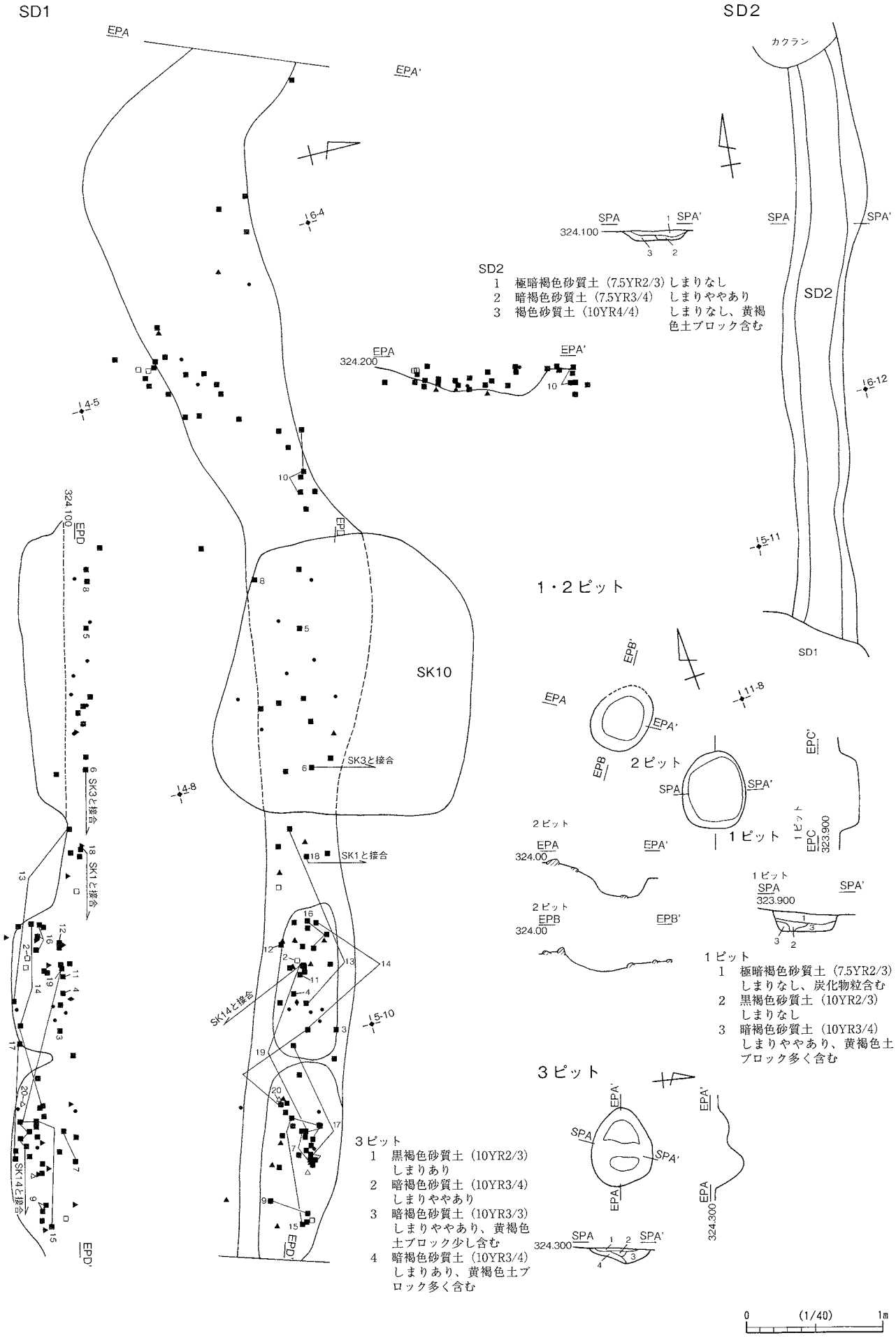
第10図　H18年度SK4 ～ 9



第11図　H18年度SK10・12～16、1号配石

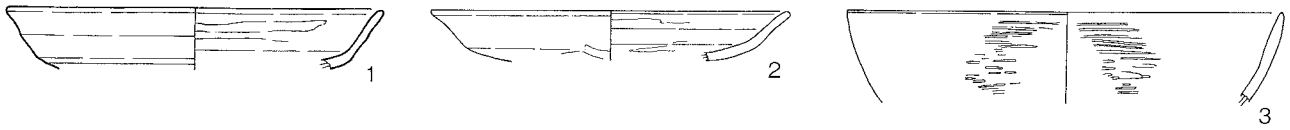


第12図　H18年度SD1

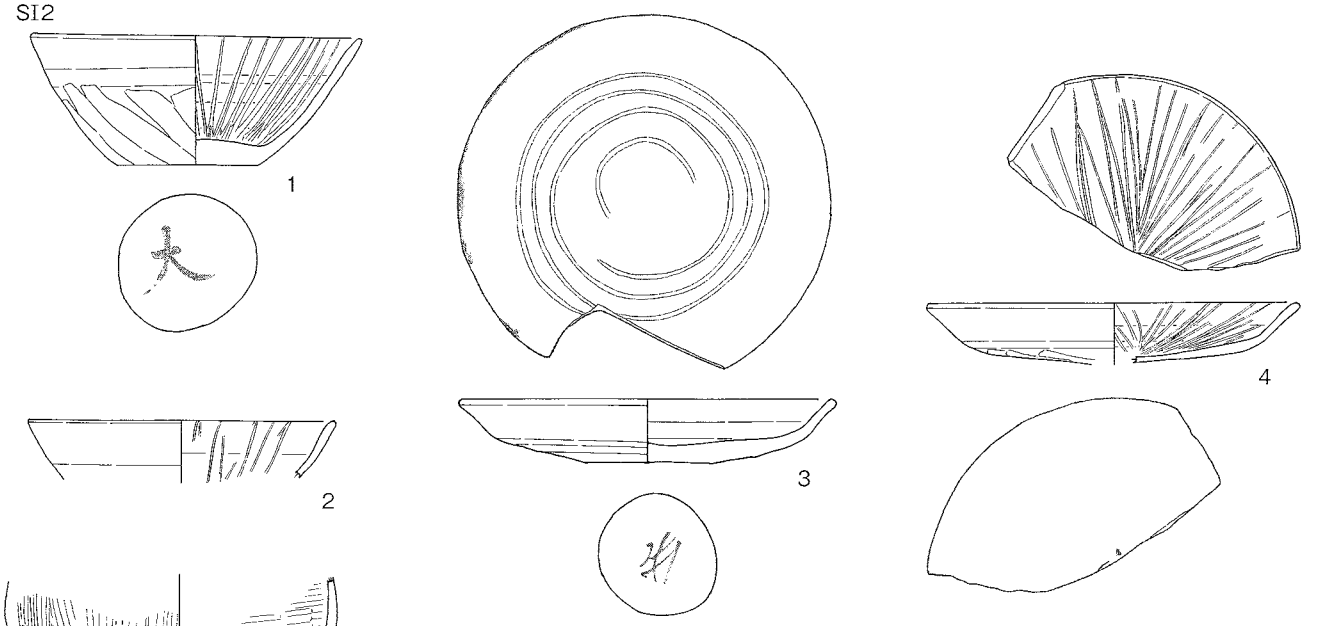


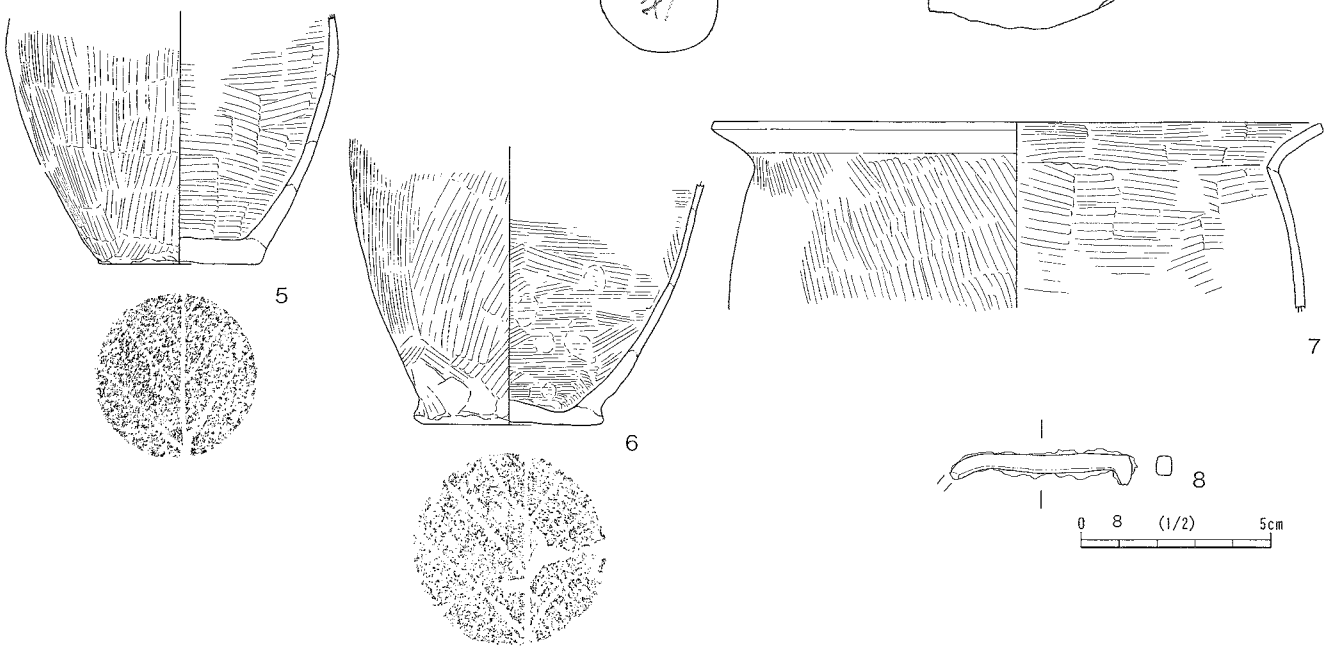
第13図　H18年度SD2、１～３号ピット

SI1

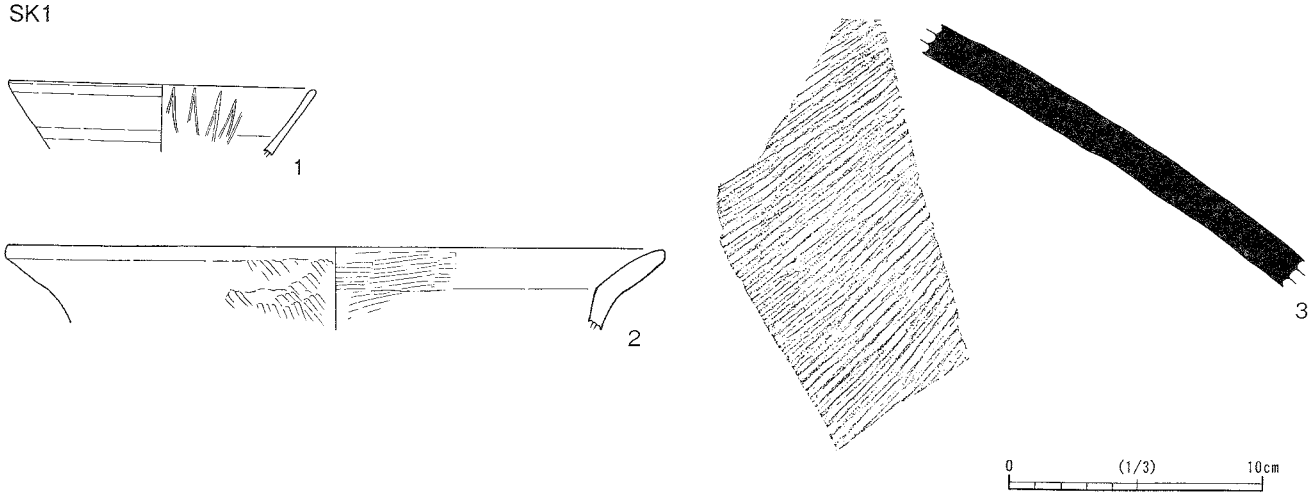


SI2

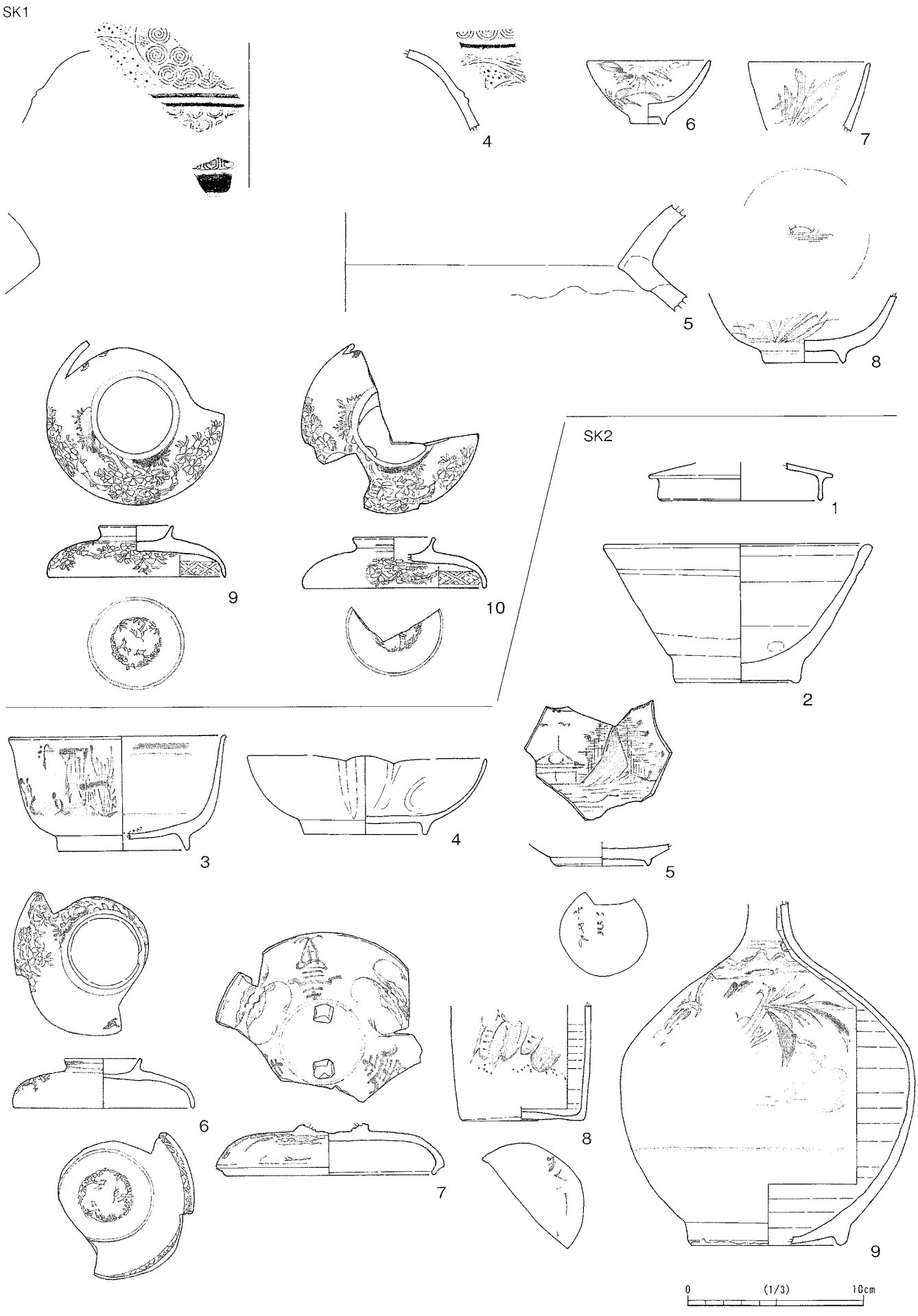




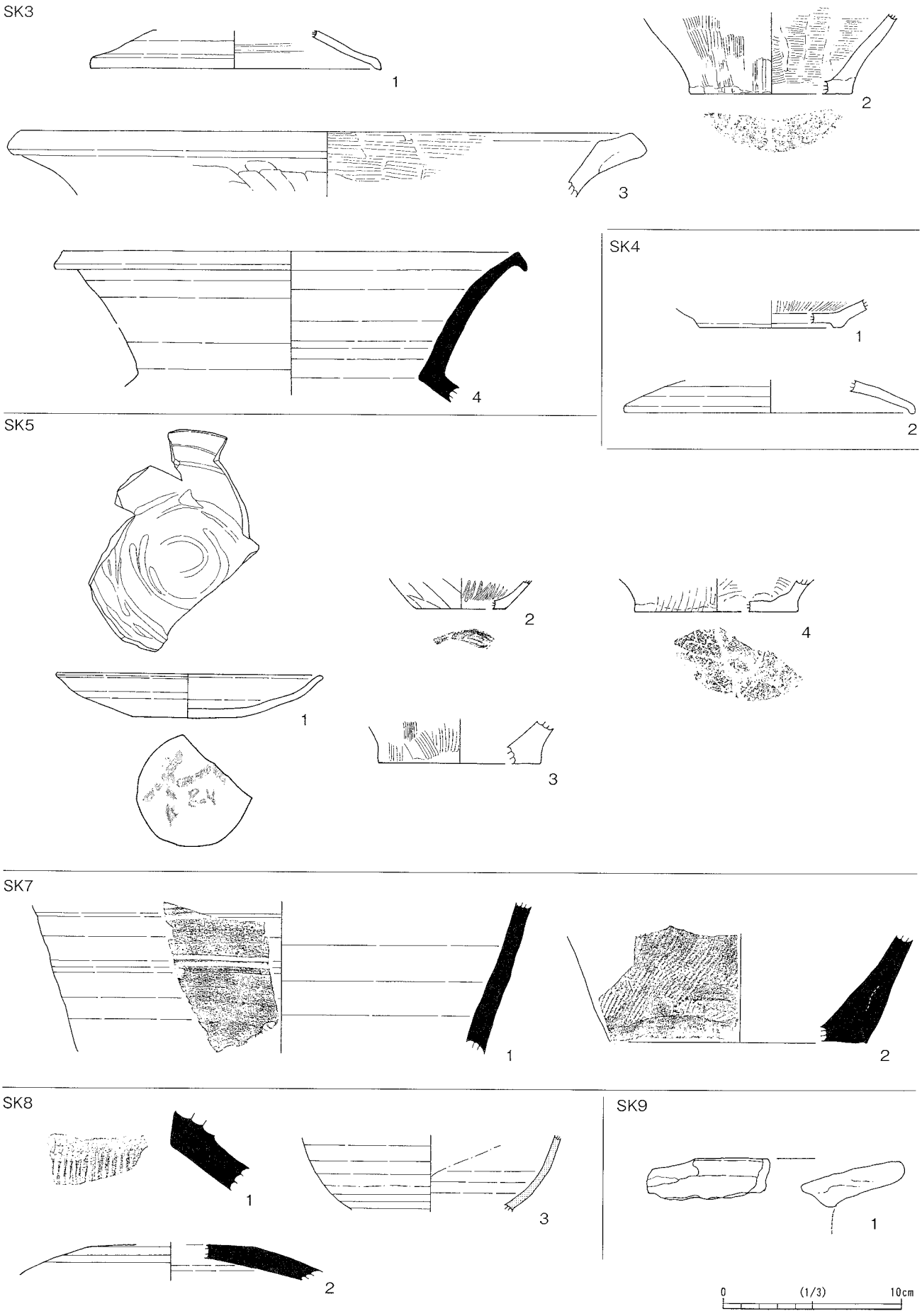
SK1



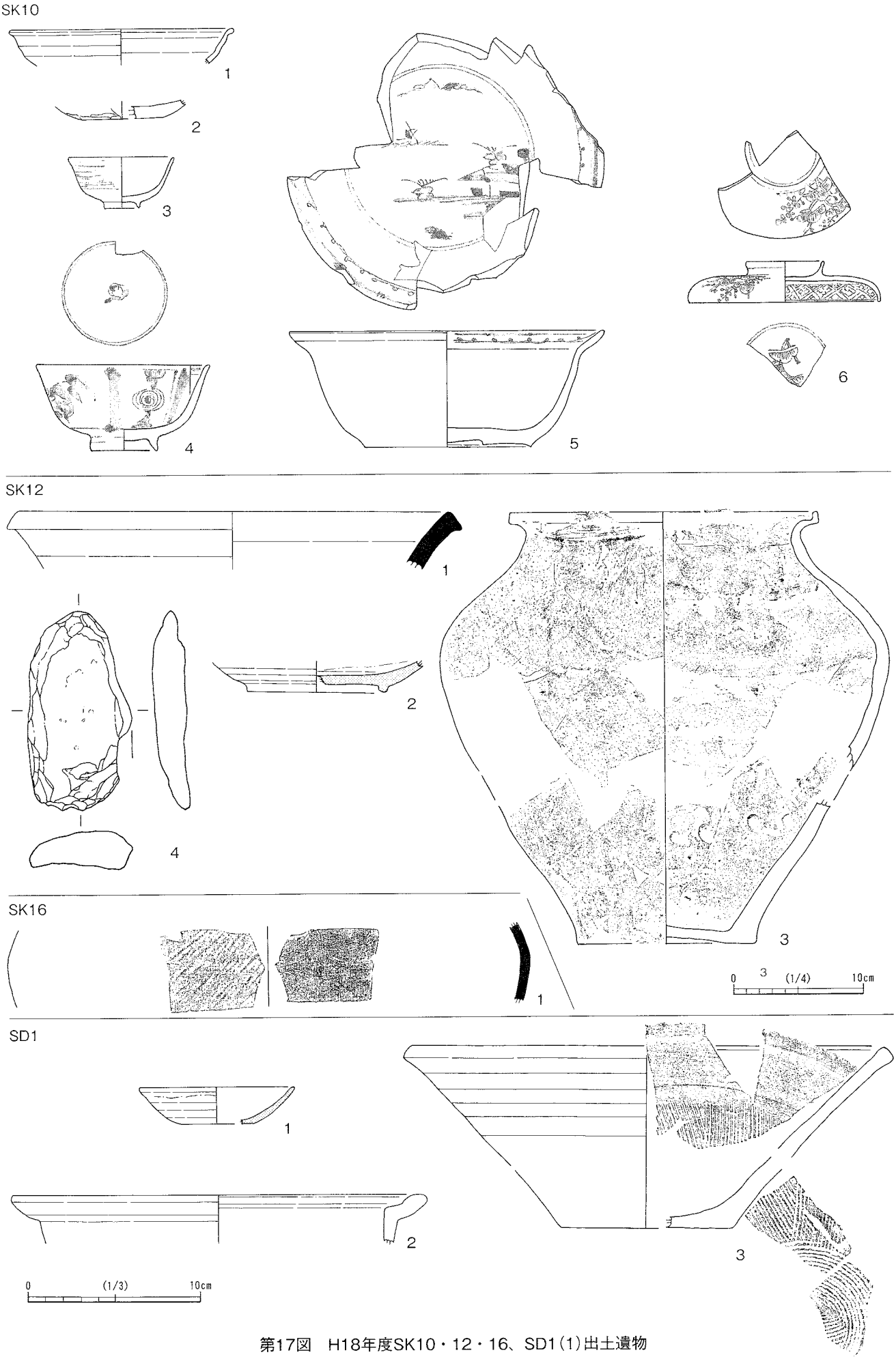
第14図　H18年度SI1・2、SK1(1)出土遺物



第15図　H18年度SK1(2)・2出土遺物

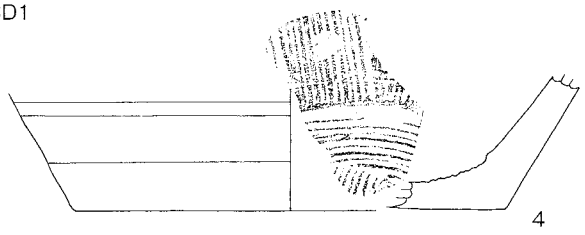


第16図　H18年度SK3～5・7～9出土遺物

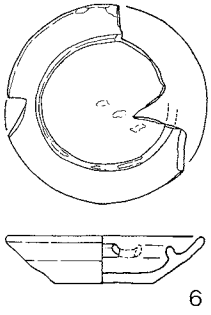


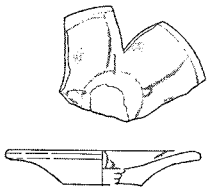
第17図　H18年度SK10・12・16、SD1(1)出土遺物

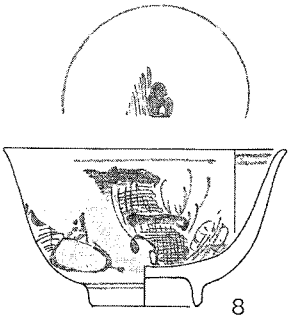
SD1

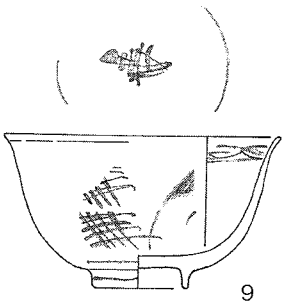

4

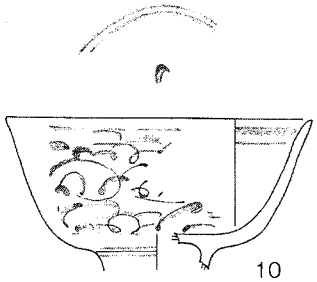
5

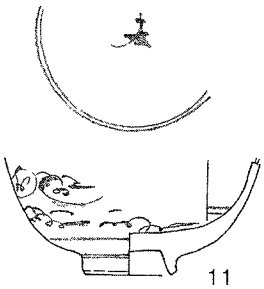

6

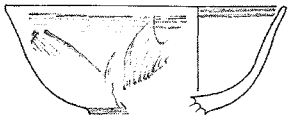

7

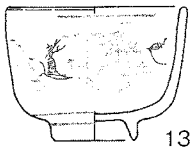

8

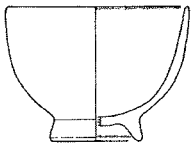

9

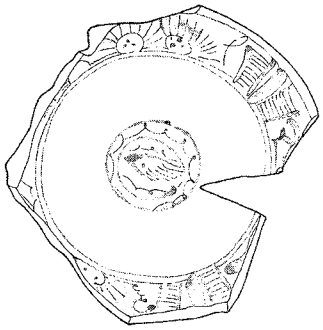

10

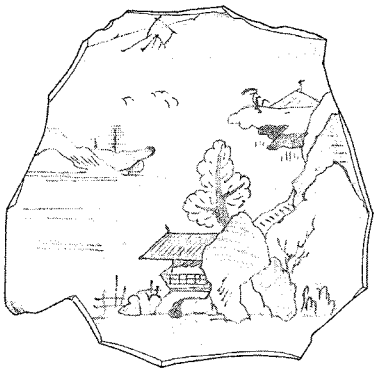

11

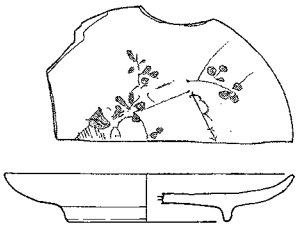

12

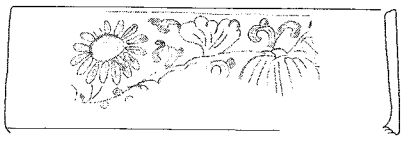

13

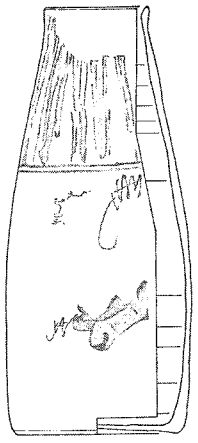

14

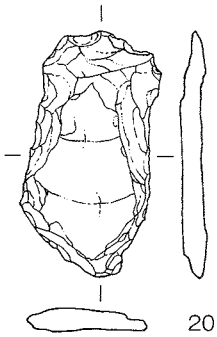

15


16


17


18

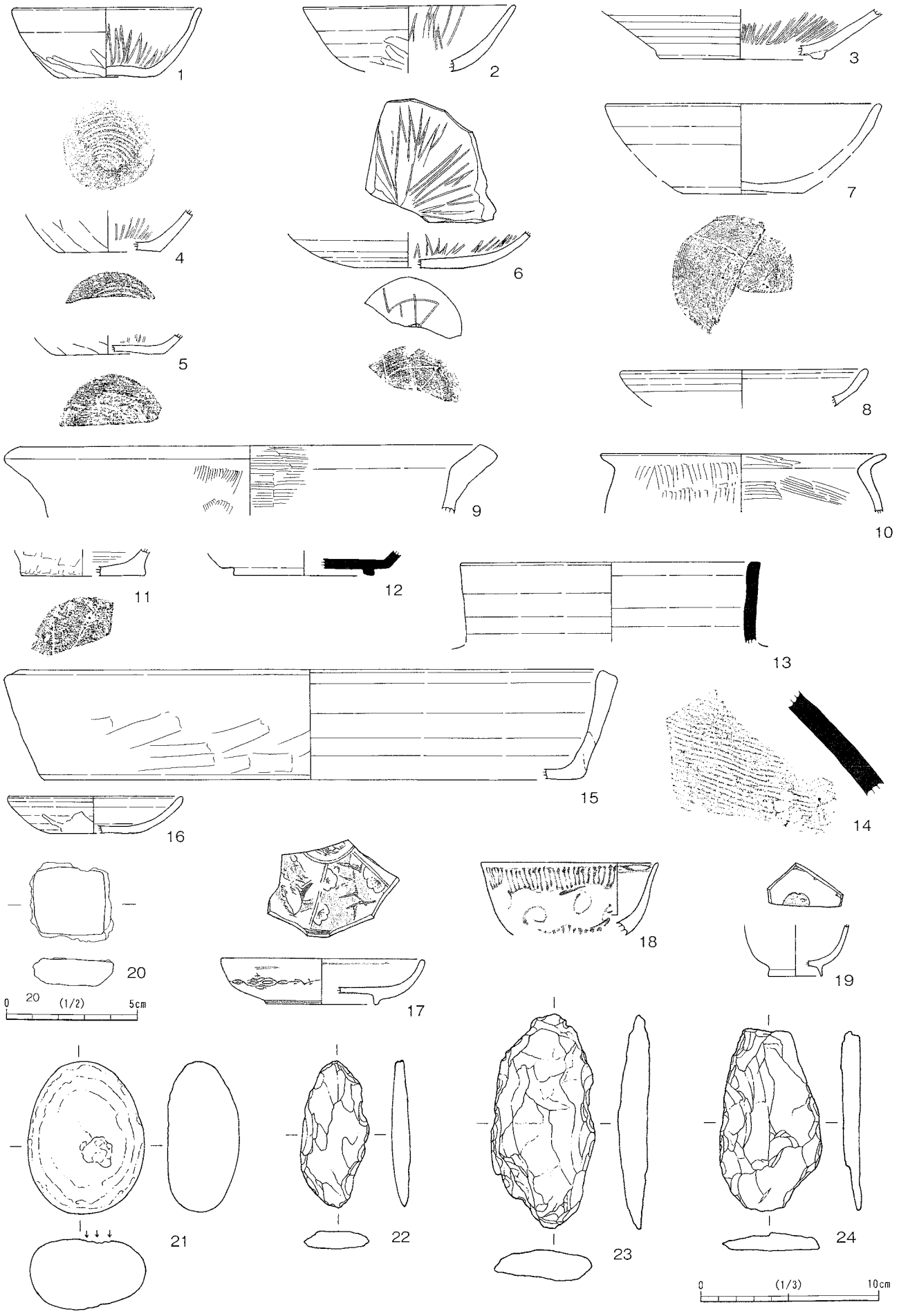

19


20

0 (1/3) 10cm

第18図　H18年度SD1(2)出土遺物

遺構外



第19図　H18年度遺構外出土遺物

第２表　第２次調査出土土器観察表

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI1	14	1	土師器	皿	(14.8)・　・—	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ、ミガキ	橙	密(白・黒・赤色粒子)	良	
SI1	14	2	土師器	皿	(14.0)・—・—	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、ミガキ	橙	密(白・黒・赤色粒子)	良	
SI1	14	3	土師器	坏	(17.0)・—・—	口縁～体部	ミガキ	ミガキ	橙	密(白・黒・赤色粒子)	良	
SI2	14	1	土師器	坏	(15.0)・5.4・5.1	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ、墨書「大」	回転ナデ、暗文	橙	密(白・赤色粒子)	良	
SI2	14	2	土師器	坏	(12.0)・—・—	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	橙	緻密(白・赤色粒子、雲母)	良	
SI2	14	3	土師器	皿	14.6・4.7・2.5	口縁～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部ヘラケズリ、墨書「牧？」	回転ナデ、渦巻状暗文	橙	緻密	良	
SI2	14	4	土師器	皿	(14.6)・—・—	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙	緻密(白・赤色粒子)	良	
SI2	14	5	土師器	甕	—・6.4・—	胴部～底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ	灰褐	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母、小礫)	良	
SI2	14	6	土師器	甕	—・7.4・—	胴部～底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ	赤褐	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母(多)、小礫)	良	
SI2	14	7	土師器	甕	22.8・—・—	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	明褐	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母(多)、小礫)	良	
SK1	14	1	土師器	坏	(12.0)・—・—	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	橙	密(白・黒・赤色粒子)	良	
SK1	14	2	土師器	甕	(25.8)・—・—	口縁	ハケメ、ナデ	ハケメ	にぶい褐	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母、小礫)	良	
SK1	14	3	須恵器	甕	—・—・—	胴部	タタキ目	ナデ	褐灰	やや粗(白・黒色粒子)	良	
SK1	15	4	土製品	茶釜型土製品	—・—・—	体部	型押し文	回転ナデ	黒褐	緻密(白色粒子、雲母)	良	
SK1	15	5	陶器	甕	—・—・—	頸部	ナデ、タタキ目	ナデ	にぶい黄褐	密	良	
SK1	15	6	磁器	小碗	(7.0)・(2.0)・3.7	口縁～底部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形	灰白	緻密	良	小広東　18C末～19C初頭　肥前　好品
SK1	15	7	磁器	碗	(6.8)・—・—	口縁～体部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形	灰白	緻密	良	19C中葉　瀬戸美濃
SK1	15	8	磁器	端反碗	—・(4.8)・—	体部～底部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	20C中葉　瀬戸美濃
SK1	15	9	磁器	望料碗蓋	(10.0)・4.0・3.0	口縁～底部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	18C後半　肥前　良品　　皿として使用か？
SK1	15	10	磁器	望料碗蓋	(10.4)・(4.4)・2.9	口縁～底部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	19C後半　肥前
SK2	15	1	磁器	土瓶・蓋 (青土瓶)	(9.0)・—・—	口縁～体部	回転ナデ成形	回転ナデ成形	にぶい黄褐	密	良	19C後半　不明
SK2	15	2	陶器	片口鉢	(14.8)・7.0・8.0	口縁～底部	回転ナデ成形、施釉 底部削り出し高台	回転ナデ成形　施釉	淡黄	密(白・黒色粒子)	良	19C前～中葉　瀬戸美濃
SK2	15	3	磁器	端反碗	(12.0)・7.2・6.6	口縁～底部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	19C中葉　瀬戸美濃
SK2	15	4	磁器	皿	(13.6)・(7.0)・4.5	口縁～底部	回転ナデ成形 底部削り出し高台	回転ナデ成形	灰白	緻密	良	18C前半　白磁良品　南川原焼き　絵をつけると柿右衛門
SK2	15	5	磁器	皿	—・5.2・—	体部～底部	回転ナデ成形、染付 底部削り出し高台、朱墨	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	19C前～中葉　肥前　一枚絵焼き継ぎ印あり
SK2	15	6	磁器	望料碗	(10.4)・—・2.9	口縁～底部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	18C後半　1集の　同・肥・望
SK2	15	7	磁器	蓋物	(13.0)・—・—	口縁～底部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形	灰白	緻密	良	19C前～中葉　肥前　雑器
SK2	15	8	磁器	燗徳利	—・(6.8)・—	胴部～底部	回転ナデ成形、染付 底部回転ヘラケズリ、墨書	回転ナデ成形	灰白	緻密	良	19C中葉　瀬戸　墨書あり
SK2	15	9	磁器	徳利	2.0・(8.4)・—	口縁 体部～底部	回転ナデ成形、染付 底部削り出し高台	回転ナデ成形	外:灰白 内:にぶい黄橙	密(黒色粒子)	良	19C中葉　肥前グレードが下(遊興地)　胴部径(16.6)cm
SK3	16	1	土師器	蓋	(16.0)・—・—	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、渦巻状暗文	橙	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	
SK3	16	2	土師器	甕	—・(9.0)・—	胴部～底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ、指頭痕	にぶい赤褐	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母、小礫)	良	
SK3	16	3	土師器	鉢	(33.6)・—・—	口縁	ナデ	ハケメ	にぶい赤褐	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母、小礫)	良	
SK3	16	4	須恵器	甕	(25.0)・—・—	口縁～頸部	ナデ	ナデ	灰黄	密(白・黒・赤色粒子)	良	
SK4	16	1	土師器	高台坏	—・—・—	体部～底部	ヘラケズリ 底部削り出し高台	回転ナデ、暗文	外:にぶい黄橙 内:灰黄褐	密(白・黒・赤色粒子)	良	
SK4	16	2	土師器	蓋	(16.0)・—・—	口縁～体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙	密(白・黒色粒子)	良	
SK5	16	1	土師器	坏	(14.4)・6.0・2.4	口縁～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ、墨書「太」？	回転ナデ、渦巻状暗文	橙	密(白・黒粒子、赤色粒子(多))	良	内面すす付着　墨書は土器破壊後に記載された可能性あり

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK5	16	2	土師器	坏	(8.0)・(5.0)・—	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙	密(白・黒・赤色粒子)	良	
SK5	16	3	土師器	甕	—・(9.0)・—	底部	ハケメ	ハケメ	にぶい赤褐	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母、小礫)	良	
SK5	16	4	土師器	甕	—・(9.0)・—	胴部～底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ、指頭痕	にぶい赤褐	やや粗	良	
SK7	16	1	須恵器	甕	—・—・—	胴部	回転ナデ	回転ナデ	外:灰 内:灰黄	密(白・黒色粒子、小礫)	良	
SK7	16	2	須恵器	甕	—・(14.0)・—	胴部～底部	ナデ、タタキ目	ナデ	褐灰	密(白・黒色粒子、小礫)	良	
SK8	16	1	須恵器	甕	—・—・—	胴部	櫛歯状工具痕	ナデ	灰	密(白・黒色粒子、小礫)	良	
SK8	16	2	須恵器	蓋	—・—・—	体部	回転ナデ	回転ナデ	黄灰	やや粗(白・黒色粒子、雲母、小礫)	良	
SK8	16	3	灰釉陶器	碗	—・—・—	体部	回転ナデ	回転ナデ	灰白	密(白・黒色粒子)	良	
SK9	16	1	土師器	羽釜	—・—・—	鍔部	ナデ	ナデ	明褐	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母、小礫)	良	
SK10	17	1	土師器	坏	(12.8)・—・—	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙	密(白・赤色粒子、雲母)	良	
SK10	17	2	土師器	皿	—・4.6・—	胴部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙	密(白・赤色粒子)	良	
SK10	17	3	磁器	小坏	(6.0)・(2.0)・3.0	口縁～底部	回転ナデ成形	回転ナデ成形	灰白	緻密	良	19C中葉　肥前
SK10	17	4	磁器	端反碗	(11.8)・(3.8)・5.0	口縁～底部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	19C中葉　瀬戸美濃
SK10	17	5	磁器	鉢	(18.0)・(9.6)・6.7	口縁～底部	回転ナデ成形 底部蛇の目高台	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	18C後半　肥前　青磁染付
SK10	17	6	磁器	碗(蓋)	(10.8)・4.5・(2.4)	口縁～底部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	18C後半　肥前(望料碗)
SK12	17	1	須恵器	甕	(26.6)・—・—	口縁	回転ナデ	回転ナデ	灰	密(白・黒色粒子、小礫)	良	
SK12	17	2	灰釉陶器	碗	—・(8.0)・—	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ、付け高台	回転ナデ	灰白	密(白・黒色粒子、小礫)	良	
SK12	17	3	陶器	甕	(23.8)・(13.4)・—	口縁～胴部 胴部～底部	ナデ、タタキ目	ナデ、指頭痕	にぶい赤褐	やや密(白色粒子、小礫)	良	
SK16	17	1	須恵器	甕	—・—・—	胴部	タタキ、自然釉	当具痕	灰黄	密	良	
SD1	17	1	灰釉陶器	灯明皿(上)	(9.0)・(4.0)・2.1	口縁～底部	回転ナデ成形	回転ナデ成形	灰黄	密	良	19C　京信系
SD1	17	2	瓦器	火鉢	(23.6)・—・—	口縁	ナデ、回転ヘラケズリ	ナデ	オリーブ黒	密(白・黒色粒子)	良	19C後半
SD1	17	3	陶器	擂鉢	(27.0)・(9.8)・(10.5)	口縁～底部	回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	櫛目	黒褐	密(白・黒・赤色粒子)	良	
SD1	18	4	陶器	擂鉢	—・(17.0)・—	胴部～底部	回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	櫛目	にぶい赤褐	やや粗(白・黒色粒子、小礫)	良	18C中葉～19C　瀬戸美濃
SD1	18	5	陶器	土瓶	—・(8.0)・—	体部～底部	回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	ナデ	外:にぶい褐 内:暗赤褐	密(白・黒色粒子)	良	在地物か
SD1	18	6	陶器	灯明皿(受皿)	7.5・3.7・1.9	口縁～底部	回転ナデ成形　施釉 底部施釉	回転ナデ成形　施釉	外:にぶい黄橙 内:暗赤褐	密(白・黒色粒子)	良	19C中～後葉　瀬戸美濃
SD1	18	7	磁器	土瓶蓋	(7.6)・(3.0)・1.3	口縁～底部	回転ナデ成形 底部回転糸切痕	回転ナデ成形	灰黄	密(白・赤色粒子)	良	明治　三水土瓶
SD1	18	8	磁器	端反碗	(11.0)・(4.0)・6.3	口縁～底部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	19C前～中葉　瀬戸美濃
SD1	18	9	磁器	端反碗	(10.8)・(3.4)・6.0	口縁～底部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	19C中葉　瀬戸美濃
SD1	18	10	磁器	端反碗	(12.0)・—・—	口縁～体部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	19C中葉　瀬戸美濃　あまり端反らない
SD1	18	11	磁器	端反碗	—・3.4・—	体部～底部	回転ナデ成形	回転ナデ成形	灰白	緻密	良	19C中葉　瀬戸美濃
SD1	18	12	磁器	碗	(10.8)・—・—	口縁～体部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	19C前～中葉　砥部焼か
SD1	18	13	磁器	碗	(6.6)・(3.0)・—	口縁～底部	回転ナデ成形	回転ナデ成形	灰白	緻密	良	明治　瀬戸美濃
SD1	18	14	磁器	碗	(7.0)・(3.4)・5.3	口縁～底部	回転ナデ成形 底部染付	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	19C中～後葉　(江戸か)　瀬戸美濃
SD1	18	15	磁器	皿	(13.6)・6.8・3.6	口縁～底部	回転ナデ成形、染付 底部蛇の目高台	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	19C中葉　瀬戸美濃
SD1	18	16	磁器	皿(型打ち皿)	(15.4)・9.0・3.4	口縁～底部	回転ナデ成形後、型にあわせ叩く	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	19C前～中葉　肥前　良品
SD1	18	17	磁器	皿	—・6.0・—	口縁～底部	回転ナデ成形	回転ナデ成形、色絵	灰白	緻密	良	明治　瀬戸美濃　クロム青磁
SD1	18	17	磁器	段重	(15.0)・—・—	口縁～体部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	19C前半　肥前　(化粧用具入れ)
SD1	18	19	磁器	燗徳利	(3.8)・(6.0)・16.8	口縁～底部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形	灰白	緻密	良	明治前半　瀬戸美濃

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
遺構外	19	1	土師器	坏	(10.6)・5.4・4.0	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切痕、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	暗褐	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	
遺構外	19	2	土師器	坏	(11.8)・—・—	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙	密(白・黒・赤色粒子)	良	
遺構外	19	3	土師器	高台坏	—・(9.6)・—	体部～底部	回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙	密(白・黒・赤色粒子)	良	
遺構外	19	4	土師器	坏	—・(5.8)・—	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切痕、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙	密(白・黒・赤色粒子)	良	
遺構外	19	5	土師器	坏	—・(6.0)・—	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切痕、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙	密	良	
遺構外	19	6	土師器	皿	—・(6.0)・—	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切痕、線刻	回転ナデ、暗文	橙	密(白・黒・赤色粒子)	良	
遺構外	19	7	土師器	坏	(15.5)・(7.0)・(5.1)	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切痕	回転ナデ	橙	密(白・黒・赤色粒子)	良	
遺構外	19	8	土師器	坏	(13.6)・—・—	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙	密(白・黒・赤色粒子)	良	
遺構外	19	9	土師器	甕	—・(26.0)・—	口縁	ハケメ、ナデ	ハケメ	褐	やや粗(白・黒色粒子、雲母、小礫)	良	
遺構外	19	10	土師器	甕	(16.0)・—・—	口縁～胴部	ハケメ	ハケメ	にぶい赤褐	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母、小礫)	良	
遺構外	19	11	土師器	甕	—・(7.0)・—	底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ	にぶい赤褐	やや粗(白・黒色粒子、雲母、小礫)	良	
遺構外	19	12	須恵器	坏	—・(8.0)・—	体部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転ナデ、付け高台	回転ナデ	灰	密(白・黒色粒子、小礫)	良	
遺構外	19	13	須恵器	壺	(16.8)・—・—	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	灰黄	密(白・黒色粒子)	良	
遺構外	19	14	須恵器	甕	—・—・—	胴部	タタキ目	ナデ	灰白	密(白・黒色粒子、小礫)	良	
遺構外	19	15	土師器質	内耳鍋	(32.8)・(30.2)・6.2	口縁～底部	ナデ	ナデ、ヘラナデ	外:黒褐 内:明褐	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母、小礫)	良	
遺構外	19	16	陶器	灯明皿(上)	—・(9.8)・(5.0)	口縁～底部	ナデ、回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ	褐	密(白・黒色粒子)	良	19C 瀬戸美濃
遺構外	19	17	磁器	色絵皿	(11.4)・(6.4)・2.6	口縁～底部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	大正～戦前 瀬戸美濃
遺構外	19	18	磁器	端反碗	(10.0)・—・—	口縁～体部	回転ナデ成形、染付	回転ナデ成形、染付	灰白	密(白・黒・赤色粒子)	良	19C中葉 瀬戸美濃
遺構外	19	19	磁器	小坏	—・(5.0)・—	体部～底部	回転ナデ成形	回転ナデ成形、染付	灰白	緻密	良	明治 瀬戸美濃

第３表　第２次調査出土金属製品観察表

出土地点	挿図番号	番号	分類	法量(cm)※( )は推定値又は現存値				材質	備考
				長	幅	厚	重量(g)		
SI2	14	8	角釘	4.9	0.5	0.4	3.89	鉄	
SK11	19	20	不明鉄製品	3.0	3.1	1.0	8.26	鉄(鋳鉄)	

第４表　第２次調査出土石製品観察表

出土地点	挿図番号	番号	分類	法量(cm) ※( )は推定値又は現存値				石材	色調	備考
				長	幅	厚	重量(g)			
SK12	17	4	打製石斧	11.5	5.9	2.2	178.74	粘板岩(ホルンフェルス)	灰	
SD1	18	20	打製石斧	9.7	5.5	1.0	64.17	粘板岩(ホルンフェルス)	灰	
遺構外	19	21	凹石	8.7	6.7	4.1	310.17	花崗岩類	灰黄	
遺構外	19	22	打製石斧	8.4	4.0	1.0	38.77	ホルンフェルス	灰白	
遺構外	19	23	打製石斧	12.2	5.9	1.7	145.24	粘板岩	灰	
遺構外	19	24	打製石斧	10.4	5.8	1.1	74.08	粘板岩	灰	

第Ⅳ章　第３次調査（平成20年度）で発見された遺構と遺物

平成20年度の第３次発掘調査で検出された遺構は、竪穴建物跡（SI）34軒、土坑・ピット（SK）341基、溝状遺構（SD）１条である。遺構群は重複が著しく、後述するが、SKとして調査したピットや土坑の中には、竪穴建物跡の一部であったり、竪穴付随の床下土坑の一部であったり、礎石建物や掘立柱建物の礎石据付掘りかたや柱穴掘り形であったりすることが、その後の検討において多数存在することが判明し、欠番や名称変更したものもある。予めご了承いただきたい。

第１節　竪穴建物跡（SI）

SI1（第20図）

（位置）X22･23Y25･26グリッド内で検出されている。遺構の西側半分は試掘トレンチによって欠失している。（重複・遺存状況）SI2・4、SK3・6・9・45等と重複。SI2・4より新しく、SK3・6より古い。それ以外との新旧関係は不明瞭。（形態・規模等）竪穴の全体像は不明であるが、形態は隅円方形を呈するものと思われ、規模は東西は現状で2.60ｍ、南北は3.15ｍを測る。（壁・壁溝・床面等）竪穴部の深さは確認面から最大18cmを測り、壁溝は北壁から東壁にかけて検出されている。床面は明確な貼床は認められなかったが、カマド前面部の一部で堅固な範囲が確認された。（柱穴）P1・P2の柱穴状のピットが検出されている。（カマド）東壁の南東隅寄りに付設される石組みカマドである。カマド掘りかた周辺には構築材と思われる礫が散乱した状態で認められる。焼土の残存はあまり顕著ではない。（出土遺物）遺物の出土量は、あまり多くないが、床面直上および床面上数cmのレベルから散在的に出土している。土師器坏･甕、須恵器高台坏等が出土している。（時期）床面直上から出土している土師器甕の時期から、10世紀前半代の所産と考えられる。

SI2（第20図）

（位置）X22Y25グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI1と重複しており、竪穴部の南東コーナー部分を検出したのみ。（形態・規模等）形態・規模とも不明。（出土遺物）特になし。（時期）不明。

SI3（第20・21図）

（位置）X21・22Y28・29グリッド内で検出されている。SI2と同様、遺構の大半が東側の調査区外に延びている。（重複・遺存状況）SI21・22、SK19～22・37～39・41～43・83・98・99等と重複。SI21・22、SK38・39・42・43等に掘り込まれている。（形態・規模等）形態は隅円長方形を呈し、規模は東西5.00ｍ、南北は推定で3.40ｍを測る。（壁・壁溝・床面等）竪穴部の深さは確認面から最大49cmを測り、壁溝は南壁下で一部確認されている。床面は重複箇所のみ貼床だったと思われ、カマド前面部の一部で堅固な箇所が確認された。（柱穴）不明。（カマド）東壁の南東隅寄りに付設される石組みカマドである。SK98によって半分程度破壊され、袖石の一部が残存する。焼土の残存はあまり顕著ではない。（出土遺物）他遺構との重複が著しく、本竪穴に伴うべき遺物の判定は難しい。（時期）脚高高台土師器坏の時期から、10世紀末から11世紀前半代の所産と考えられるものの、土坑群に伴う可能性が高いので詳細は不明。

SI4（第22図）

（位置）X22Y25・26グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI1、SK7～10・17と重複し、南側の一部は調査区外に延びている。いずれの遺構に掘り込まれている。（形態・規模等）形態・規模ともに不明である。（壁・壁溝・床面等）竪穴部の深さは確認面から最大40cmを測り、壁溝は検出されていない。床面は概して軟弱である。（柱穴）検出されていない。（カマド）不明。（出土遺物）遺物の出土量は少なく、壁の南東隅寄りから須恵器蓋が出土している程度。（時期）詳細な時期については不明。

SI5（第22図）

（位置）X21・22Y26・27グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SK4・10・34・35等と重複し、南側の一部は調査区外に延びている。いずれの遺構に掘り込まれている。（形態・規模等）形態は隅円方形を呈するものと思われ、規模は東西3.70ｍ、南北は現状で2.15ｍを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは確認面から最大16cmを測り、カマド前面部の床面は比較的堅固である。（柱穴）検出されていない。（カマド）東壁中央部付近に付設される石組みカマドである。袖石の一部は抜き取られ、カマド掘りかた周辺に散在している。土師器皿が燃焼部覆土中から据え置かれた状態で出土している。（出土遺物）床面上数cm上のレベルおよび床面レベルから

散在的に出土しており、西壁付近の床面直上レベルから土師器坏の刻書土器や、カマド付近からは鉄製刀子等が出土している。(時期) 出土土師器から10世紀前半代の所産と考えられる。

SI6 (第23図)

(位置) X23Y25・26グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) SI10・23、SK36・45・46・66～68等と重複し、SI10・23を掘り込んで構築し、SK遺構にはいずれも掘り込まれている。本遺構の北西部分は調査区外にかかっている。(形態・規模等) 形態は隅円方形を呈するものと思われ、規模は東西3.94 mを測り、南北は不明。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは確認面から最大18cmを測り、床面はカマド周辺部が散在的に堅固な部分が認められる。(柱穴) 検出されていない。(カマド) 検出東壁の南東コーナー寄りに付設される石組みカマドである。確認当初は、礫が集積し、その周辺に焼土痕跡がわずかに認められるという状態であった。カマド開口部全面には土師器坏が伏せられた状態で出土し、羽釜片が散在して出土している。(出土遺物) カマド周辺部から主に出土している。その他床面直上レベルから散在的に土師器皿や高台皿等が出土している。(時期) 出土土器からは、11世紀代の所産と考えられる。

SI7 (第24図)

(位置) X21・22Y27グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) 本遺構の大半が、南側の調査区外にかかっている。(形態・規模等) 形態は不明で、規模は東西方向2.75 mを測り、南北規模は不明。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは、セクション断面の観察から、確認面より最大32cmを測り、床面は礫層が露出し不明。(柱穴) 検出されていない。(カマド) 南東壁のほぼ中央に付設される石組みカマドで、楕円形状を呈する焼土痕跡が顕著である。燃焼部内には除去された袖石が覆土上層部分に中心に、土師器甕類の大型破片が覆土中層から下層にかけて顕著に出土している。(出土遺物) 出土遺物は非常に少ない。(時期) 出土土器から、9世紀半ばもしくは10世紀末から11世紀前半代の所産か。

SI8 (第24・25図)

(位置) X22・23Y26・27グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) SI5・12、SK88～90・146・147・160・161・169・170・172・173・186～189・193・204と重複したかたちとなっているが、SK88～90・146は土層観察によって本遺構を切り込んで構築しており、他のSKは本遺構の床下土光もしくはピットと考えられる。(形態・規模等) 形態は隅円長方形を呈し、規模は東西4.72 m、南北3.80 mを測る。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは、確認面より最大26cmを測り、カマド前面部と散在的に堅固な部分が認められる。(柱穴) 検出されていない。(カマド) 東壁の南東隅に付設され、石組みを伴っている。(出土遺物) 遺物の出土量は多い。覆土上層から床面レベルにかけてまでまんべんなく出土している。土師器坏・皿・蓋、甕 (小形甕含む)、片口鉢、羽釜、カマド形土器、二次転用された須恵器甕片、灰釉陶器？等が出土している。(時期) カマド内の出土土土器などから、10世紀前半代の所産と考えられる。

SI9 (第26図)

(位置) X23・24Y27グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) SI10・11・23、SK69～75・280と重複しており、SI10とSK69～75に切り込まれ、SI11を切り込んで構築されている。(形態・規模等) 形態は隅円方形呈すると思われ、規模は東西4.00 m、南北は現状で2.90 mを測る。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は北壁および東壁の一部に巡っており、竪穴部の深さは、確認面より最大15cmを測り、床面は特に堅固な箇所は認められない。(柱穴) 検出されていない。(カマド) 東壁中央部分に付設される石組みカマドである。袖石や天井石は原位置を留めておらず、覆土上層部から集積された状態で出土している。(出土遺物) 遺物の出土量は少ない。マド内およびその周辺部、竪穴北壁側から散在的に出土している。土師器脚高高台皿や鉢、灰釉陶器？等が出土し、(時期) 出土土器から、10世紀末から11世紀前半代の所産と考えられる。

SI10 (第26・27図)

(位置) X23・24Y26・27グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) SI9・23、SK68・76・77・194・195・197等と重複しており、SK68・76・77・194・195・197に切り込まれ、SI9を切り込んで構築されている。(形態・規模等) 形態は隅円長方形を呈するものと思われ、規模は現状で東西3.20 mを測り、南北は推定で2.65 mを測る。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは、確認面より22cmを測り、床面はカマド周辺部のみ堅固な箇所が散在的に認められる。また北壁下に50cm×40cmの範囲で焼土範囲が認められる。(柱穴) 検出されていない。(カマド) 東壁の北東隅寄りに付設される石組みカマドである。確認時はSI6と同様に、礫が集積し、その周辺に焼土痕跡がわずかに認められるという状態であり、前方の袖石のみが残存している。あるが、燃焼部内底面および焼土ブロッ

クを多く含む覆土下層からは、袖石状の扁平な礫1枚、土師器坏と甕が出土している。カマド覆土の上層は一括埋土の示し、本来は石組みを伴うカマドであるが、人為的に除去された可能性が高い。(出土遺物) 遺物の出土量は少なく、カマドから主に出土しているが、カマド内からは棒状鉄製品が出土している。(時期) 出土土器から、10世紀末から11世紀前半代の所産と考えられる。

SI11 (第26・27図)

(位置) X23・24Y27・28グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) SI9・20、SK71・81・87・243～245・248・279・280と重複しており、SI9やSK71・81等に切り込まれ、SK245・279・280を貼っている。SK279・280は本竪穴の床下土坑であろう。(形態・規模等) 形態は隅円長方形を呈するものと思われる。規模は東西2.50m、南北は3.65mを測る。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は北壁および東壁の一部に巡っており、竪穴部の深さは、確認面より11cmを測り、床面はカマド前面部のみ比較的堅固である。(柱穴) 検出されていない。(カマド) 東壁南隅寄りに付設されており、掘りかたのみ検出されている。袖石類は人為的に撤去されたと思われる。カマド前面部は焼土の痕跡が非常に顕著であるものの、掘りかた内は非常に希薄である。(出土遺物) 遺物はカマド周辺部を中心に出土しており、土師器坏、脚高高台皿、甕・鉢等が出土している。(時期) 出土土器から、10世紀末から11世紀前半代の所産と考えられる。

SI12 (第28図)

(位置) X22・23Y27・28グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) SI8・27、SK31・32・47・48・51・53・55・59・89・90・94～96・121・123・125・126・141～144・146・147・172・186～189・204等と重複しており、堅固な貼床の範囲とセクション断面において確認された竪穴である。SK126はセクション断面観察では、本竪穴の下部遺構であることが判明しており、床下土坑の可能性もある。(形態・規模等) 形態・規模ともに不明。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は検出された壁下にめぐっている。竪穴部の深さは、セクション断面の観察から、確認面より最大22cmを測り、床面は散在的に堅固な部分が認められる。(柱穴) セクション断面観察から、本竪穴に伴うと考えられるピット1基 (P1) が検出されているが、柱穴かどうかは不明。(カマド) 不明。(出土遺物) 本竪穴中央部付近の床面直上から土師器坏・皿等がわずかに出土している。(時期) 出土土器から、10世紀末から11世紀前半代の所産と考えられる。

SI13 (第28～30図)

(位置) X21・22Y30・31グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) SI14～16・24、SK133・134・174・181・182・190・198・199・200・205・246等と重複し、SI14、SK133・134・174・181・182等に切り込まれ、SI15・16・24を掘り込んで構築されている。(形態・規模等) 形態は台形状の隅円方形を呈すると思われ、規模は東西は現状で約3.10m、南北は3.35mを測る。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は検出された壁下すべてに巡っている。竪穴部の深さは、確認面から約28cmを測る。に過ぎない。床面は散在的に堅固な箇所が認められるものの、概して軟弱である。(柱穴・その他施設) カマドの両脇において2基のピットが検出されている。カマド上部の棚状施設に伴うものか。またカマド煙道部の両脇には、幅1.8m、奥行10～16cmを測る棚状施設が付設されており、地山掘り残しによって造りだされている。(カマド) 東壁中央部分に付設される石組みカマドである。両袖石は比較的良好に遺存しており、天井石は故意に撤去され覆土上層部に集積された状態で出土している。またカマド両袖奥からほぼ完形の土師器坏が、一個体ずつ出土しており、また煙道部部分には土師器坏の底部が故意に埋設された状況で出土している。(出土遺物) 出土量は多くはないが、カマド内を中心に良質な資料が出土している。土師器坏(灯明具として使用されたものあり)、羽釜、カマド形土器、二次転用された須恵器甕片、灰釉陶器壺、布目瓦片等が出土している。(時期) 出土土器から、10世紀後半代の所産と考えられる。

SI14 (第28・30図)

(位置) X21・22Y30グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) SI13・15・16・24、SK129・132・133・148・149・164・174・181・182・183・185・198・200・203・205・342と重複し、SK129・132・133・174・182等に切り込まれ、SI13・15・16・24を掘り込んで構築されている。なおSK181は本竪穴のカマド掘りかたの可能性が高い。(形態・規模等) 形態は隅円長方形を呈すると思われ、規模は東西約3.15m、南北は3.75mを測る。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は北壁、東西壁下の一部に巡っており、竪穴部の深さは、確認面からの深さは約30cmを測る。床面は散在的に堅固が認められる他、北壁側北西隅に不整形な焼土範囲が認められる。(柱穴) 検出されていない。(カマド) 前述したようにSK181がその痕跡である可能性が高いが、SK174によって大半が破壊されているため詳細は不明。(出土遺物) 出土遺物は少ない。土師器坏、皿、台状の底部をもつ土師器坏か皿、鉄製刀子等が出土している。(時期) 出土土器から、11世紀後半代の所産と考えられる。

SI15（第28～30図）

（位置）X22・23Y30・31グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI13・14・24、SK175・176・190・196・202・203・205～207・211・220・234・235・246・262・265・266・276・241と重複し、SI13・14、SK175・176・190に切り込まれ、SI24、SK196・202・203・205～207等を貼って構築されている。（形態・規模等）北壁および西壁を掘りすぎ、かつ南壁はSI13等で欠失しているためその形態は不明である。規模はセクションの観察から東西約4.15m、南北は現状で2.70mを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは、確認面からの深さは約24cmを測る。床面はカマド周辺部の一部のみに堅固な箇所が認められる。（柱穴）検出されていない。（カマド）北壁のやや東寄りに付設される石組みカマドである。袖石は一部は遺存するものの、天井石はない。燃焼部内の焼土は顕著で、覆土上層部からカマド形土器片がややまとまって出土している。（出土遺物）出土遺物はカマド内および北東隅から散在的に出土している。土師器坏、皿、小形甕、カマド形土器、須恵器蓋・壺、繊維状圧痕が顕著な粘土塊片、鉄製刀子等が出土している。（時期）遺構の新旧関係やカマド内の出土遺物から、10世紀代の所産と考えておきたい。

SI16（第31図）

（位置）X21Y29・30グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI13・14、SK127・128・132～135・154～158・179・180・191・192と重複とし、ほぼ全遺構に切り込まれている。本遺構の大半が南側調査区外にかかっており、検出できたのは東壁の一部とカマド掘りかたのみである。（形態・規模等）形態は不明。規模は現状で東西7.10m、南北1.80mを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは確認面からは約48cmを測る。（柱穴）小ピットが2数基検出されているが、その性格は不明。（カマド）北壁ほぼ中央部分に付設されていたものと思われ、袖石の抜き取り痕が残る掘りかたのみが検出されている。燃焼部内には焼土痕跡も認められる。（出土遺物）特カマド内および竪穴東壁側から散在的に出土している。土師器坏、甕、堝、脚高高台、二次転用された須恵器甕片、鉄滓等が出土している。（時期）出土土器から10世紀前半代の所産と考えられる。

SI17（第32・33図）

（位置）X23・24Y29～31グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI24・26・28・30・33、SK165～168・229・232・233・241・258・260・297・299・302・305・322と重複している。SI30、SK165・166・167・229・232・260・233等に切り込まれ、他の遺構を掘り込んで構築されている。SK168・322は本竪穴の床下土坑と考えられる。（形態・規模等）形態は隅円長方形を呈し、規模は東西5.15m、南北4.55mを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は、カマド部分を除いてほぼ全週し、竪穴部の深さは、確認面より最大48cmを測る。床面は貼床でほぼ全体的に堅固である。（柱穴）柱穴と思われるものは検出されていない。（カマド）東壁南隅寄りに付設されている。石組み構造ではなく、粘土や黄褐色・黒褐色砂質土の混合土を主体として袖部が構築されている。燃焼部には支脚石が遺存しており、土師器甕片が散在している。袖構築土内にも土師器坏細片が混入されている。（出土遺物）遺物はカマド内および竪穴内全体から出土しているが、特筆すべきは、カマド脇の南壁壁下の壁溝内に灯明具としての痕跡も残す完形の坏と破片の坏が対になり、約1mごとの間隔をおいて三箇所に遺棄された状態で出土している。その出土状況から竪穴壁上部から転落したものではなく、竪穴廃絶時に意識的に残されたものとみることができよう。その他、土師器高台坏、多面形脚高坏、カマド形土器、須恵器坏、灰釉陶器埦・皿、二次転用された須恵器甕片、繊維状圧痕が顕著な粘土塊片、鉄製刀子、縄文時代前期の土製円板等が出土している。（時期）出土土器などから、9世紀前半代の所産と考えられる。

SI18（第34図）

（位置）X22・23Y31グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI19・24、SK221～223・264・267～269・273～275・335と重複している。SI19・24を切り込み、SK221～223・267・268・273を貼って構築されている。（形態・規模等）形態は隅円長方形を呈し、規模は東西1.77m、南北3.18mを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は東壁を除きほぼ全週している。竪穴部の深さは、確認面より最大33cmを測る。床面は貼床を施し、散在的に堅固な部分が認められる。（柱穴）柱穴と思われるものは検出されていない。（カマド）火処と思われる施設は検出されていない。（出土遺物）遺物は竪穴北側の東西壁下および北壁下の床面直上レベルから土師器坏、甕・鉢、須恵器蓋・鉢・長頸壺等が出土しており、煮炊具類の土器資料が少ない。（時期）出土土器などから、9世紀前半代の所産と考えられる。

SI19（第34図）

（位置）X22・23Y31グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）本竪穴の大半は東側調査区外にかかっている。SI18・24、SK221～224・230・231と重複し、SI18、SK230・231に掘り込まれ、SI24との新旧関係については、新旧逆に掘り下げ本竪穴の床面の一部を欠失してしまった。（形態・規模等）形態不明で、調査区東壁のセクション断

面観察から南北の規模は3.55ｍを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは、調査区東壁セクション断面の観察から、確認面より最大71cmを測る。床面は概して軟弱である。（カマド）不明。（出土遺物）出土遺物は土師器坏等が出土しているが、いずれも覆土一括資料であり、その他土師器甕・羽釜等もみられるものの小片が多い。（時期）出土土器からは所属年代決定は難しく、SI18とSI24との新旧関係から9世紀前半代以前の所産と考えておきたい。

SI20（第35・36図）

（位置）X23・24Y27・28グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）調査段階では大型土坑の一部かと想定しSK249として調査をおこなったが、検討の結果、竪穴建物跡と判断。SI11・31、SK243・244・247・248・287・291・317・325～329・332・333と重複し、SI31、SK247・248・291に掘り込まれていることは判明しているが、他のSK遺構との新旧関係については不明瞭。（形態・規模等）形態は隅円方形を呈すると思われ、規模は東西2.95ｍ、南北は推定で3.20ｍを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは確認面より最大20cmを測る。床面は概してやや軟弱である。（柱穴）柱穴と思われるものは検出されていないが、カマドの両脇に小ピットが検出されており、カマド上の棚状施設に伴うものだろうか。（カマド）東壁中央部分に付設される石組みカマドである。北側部分はSI31によってその上部を破壊されており、袖石は欠失している。燃焼部から煙道部内における焼土は比較的顕著。（出土遺物）遺物は本竪穴建物南東コーナー壁下とカマド脇の床面上約10cmほどのレベルから、土師器坏が出土している他、カマド燃焼部内からは灰釉陶器壺片等が出土している。（時期）出土土器から、10世紀前半代の所産と考えられる。

SI21（第20・22図）

（位置）X21・22Y28・29グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI3・22、SK22・38・39・41～43と重複し、SI3・22を掘り込んで構築している。（形態・規模等）形態は方形を呈し、規模は東西2.96ｍ、南北は現状で2.86ｍを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは、西面セクション断面の観察から、確認面より最大37cmを測る。床面は散在的に堅固な部分が認められる。（柱穴・その他施設）特に検出されていない。（カマド）東壁北東コーナー近くで焼土を伴う径84cm×78cmを測る不整形な掘りかたが検出されている。これがカマドの痕跡だと思われる。（出土遺物）本遺構も重複が著しく出土遺物の帰属を求めるには困難で、遺物としては土師器坏・甕、二次転用された須恵器甕片等が出土している。（時期）出土した土器から、8世紀後半代の所産か。

SI22（第20・22図）

（位置）X22Y28・29グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI3・21、SK23～26・28・38・39・41～43・102SI25と重複し、本遺構がSI3を掘り込み、SI21、SK24・28にを掘り込まれている。（形態・規模等）形態は隅円長方形を呈すると思われる。規模は東西が4.15ｍ、南北は3.35ｍを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは、確認面より最大42cmを測る。床面は散在的に堅固な部分が認められる。（柱穴・その他施設）特西壁近くにおいてP1としたピットと、Noは付していないがカマド前面で1基、柱穴らしきピットを検出している。（カマド）北壁北東コーナー付近に焼土と炭化物を含んだ範囲が確認され、その下部から長楕円形を呈する長軸1.33ｍ、短軸0.97ｍを測る掘りかたが検出され、これがカマドの痕跡だと思われる。その掘りかた内からは、須恵器高台坏と土師器甕の大型破片が、据え置かれた状態で出土している。（出土遺物）出土遺物は少なく、前述した須恵器高台坏と土師器甕が出土している。（時期）出土した須恵器高台坏から、7世紀末から8世紀初頭の所産と考えられる。

SI23（第36・37図）

（位置）X23・24Y26・27グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI6・9・10、SK66・67・76・77・310・311と重複している。SI6・9・10、SK311に切り込まれ、SK310は本遺構に伴う床下土坑である。本遺構の西壁部分が調査区外にかかる。（形態・規模等）形態は隅円長方形を呈すると思われる。規模は東西が現状で3.35ｍ、南北は推定で4.40ｍを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは、確認面より最大22cmを測る。床面は貼床で、散在的に堅固な部分が認められるが、やや不明瞭。（柱穴・その他施設）特に検出されていない。（カマド）東壁中央部分のやや東寄りに付設され、長楕円形を呈する長軸1.28ｍ、短軸0.9ｍを測る掘りかたが検出されている。本来は石組みだと考えられるが袖石は残存していない。掘りかた内の焼土は比較的顕著である。（出土遺物）遺物は竪穴全体から散在的に出土している。土師器坏・皿・甕・鉢、灰釉陶器？、用途不明土製品等が出土している。（時期）出土した土器では10世紀前半代と11世紀代の様相がみられるが、遺構の重複関係から、10世紀前半代の所産と考えておきたい。

SI24（第37～41図）

（位置）X22・23Y29～31グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI13～15・17～19・26・28・30、SK167・168・176・184・185・190・196・201～203・205～211・214～218・220～224・229・232～235・241・246・256～258・261～269・273～276・278・289・290・297・298・301・302・335と重複している。本遺構が重複する他の竪穴建物（SI）より古く、さらに大半のSKは、本遺構の床下土坑にとなろう。また後述するが、本建物の柱穴もこの中に含まれている。（形態・規模等）形態は隅円方形を呈する。規模は東西約7.00m、南北は7.45mを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝はほとんどの床面を欠失していることから壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは、確認面より最大37cmを測る。床面は貼床で、カマド全面部分の一部に堅固な部分が認められる。（柱穴・その他施設）SKとして調査をおこなったSK210・266・269・298・392が、本建物の柱穴である。これらのうち礎石の据え付け掘りかたはSK210・266・269で、SI17によって礎石の一つは欠失していると思われる。残りのSK298・392は本建物に伴う礎板石をもつ先行掘立柱である。据え付けSK210・266・269の下部でも礎板石をもつ先行掘立柱を検出することができ、柱構造が掘立から礎石へと変化する建て替えがおこなれていることがわかる。SK210・266の南側列では、そのほぼ直下に先行掘立柱に伴う礎板石が位置しているのに対し、北側列のSK269では真下ではなく、南へ約45cm内側で先行掘立柱（SK298）が検出されている。上部礎石の大きさは長軸50～60cm、厚さ15～20cmを測る「ひかりつけ」加工を施さない自然礎石である。それに比して先行掘立柱で使用される礎板石は、長軸25cm程度の小ぶりの扁平な河原石である。（カマド）土東壁のほぼ中央部分に付設され、袖の芯材と思われる2枚ずつ重ねられた河原石と、掘りかたが検出されている。石組みではなく基本的には粘土や黄褐色・黒褐色砂質土の混合土を主体とし構築されていたと思われる。（出土遺物）他遺構構との重複が著しく遺物の帰属は難しいが、8世紀後半代の土師器坏物はがカマド内から散在的に出土している。（時期）出土土器や建物構造などからは、8世紀後半代の所産と考えられる。

SI25（第41・42図）

（位置）X22・23Y28グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI27、SK117・120・122・124・143・225～228・238～240・270～272と重複している。本遺構がSI27やSK121を掘り込み、SK120・272などが本遺構を切り込んでいる。SK270・271は本遺構に伴う床下土坑だと思われる。（形態・規模等）形態北壁と東壁の一部を残すのみで形態は不明瞭だが、隅円長方形を呈すると思われる。規模も推定で東西3.00m、南北3.40を測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは、確認面より最大29cmを測る。床面は散在的に堅固な部分が認められる。（柱穴・その他施設）特に検出されていない。（カマド）北壁に付設される石組みカマドである。袖石は一部は遺存するものの、天井石はない。燃焼部内の焼土は顕著である。（出土遺物）遺物はカマド周辺部から主に出土しており、土師器坏・皿・堝などがみられる。（時期）出土土器などから、11世紀代の所産と考えられる。

SI26（第32・33図）

（位置）X23Y31グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI17・24・28・30、SK260・261・263・278・289と重複している。本遺構がSI24・28を掘り込み、SI17・30、SK261等が本遺構を掘り込んでいる。（形態・規模等）形態は方形を呈すると思われる。規模は現状で東西1.95m、南北は2.70mを測る。（壁・壁溝・床面等）壁溝は北壁の一部で掘りかた段階で検出されている。竪穴部の深さは、確認面より最大17cmを測る。床面は貼床で散在的に堅固な部分が認められる。（柱穴・その他施設）貼床下部からは、土坑・ピット状の浅い掘りかたが数基検出されている。（カマド）不明。（出土遺物）遺物は掘りかたから土師器甕片が少量出土している。（時期）遺構の重複関係から、8世紀後半以降から9世紀前半以前の所産と考えられる。

SI27（第41・42図）

（位置）X23Y27・28グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI12・25、SK80・84～86・143・225～228と重複している。SI25が本遺構を掘り込んでいるが、その他の遺構との新旧関係は不明瞭。（形態・規模等）形態はややいびつな形状を呈しているが、詳細な形態・規模ともに不明。（壁・壁溝・床面等）壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは、確認面より最大15cmを測る。床面は全体的にやや不明瞭。（柱穴・その他施設）不明。（カマド）不明。（出土遺物）出土遺物は極めて少なく、土師器甕片が出土しているのみ。（時期）不明。

SI28（第32・33図）

（位置）X23Y31グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI17・24・26、SK256・258・263と重複している。本遺構がSI24を掘り込むが、他はすべての遺構に掘り込まれている。（形態・規模等）形態・規模とも不明。（壁・壁溝・床面等）壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは、確認面より最大12cmを測る。床面は検出された範囲は少ないが、散在的に堅固な部分が認められる。（柱穴・その他施設）不明。（カマド）不明。（出土遺物）遺物は土師器坏片がわ

ずかに出土しているのみ。(時期) 遺構の重複関係から、8世紀後半以降から9世紀前半以前の所産と考えられる。

SI29 (第43図)

(位置) X22·23Y29·30グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) SK103·104·171·250～255と重複している。各遺構との新旧関係は不明瞭。(形態・規模等) 形態は不明。規模は南北推定3.36m、東西は不明。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは確認面より最大15cmを測る。床面は不明瞭。(柱穴・その他施設) 検出されていない。(炉・カマド) 不明。(出土遺物) 特になし。(時期) 不明。

SI30 (第32～34図)

(位置) X23・24Y30・31グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) SI17・24・26・32、SK260・294・299～301と重複している。本遺構がすべての遺構を掘り込んで構築している。SK300·301は本遺構に伴うものと思われる。(形態・規模等) 形態はややいびつな不整方形を呈し、規模は東西2.45m、南北は2.48mを測る。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは、確認面より最大44cmを測る。床面は貼床で散在的に堅固な部分が認められる。(柱穴・その他施設) カマド北側の脇には、幅45cm、奥行15cmを測る棚状施設が付設されており、地山掘り残しによって造りだされている。(カマド) 東壁のほぼ中央部分に付設されている。石組み構造ではなく、粘土や黄褐色・黒褐色砂質土の混合土を主体として袖部が構築されている。確認当初、焼土の範囲がカマド上面において顕著に認められ、カマド廃絶後にその上部で何らかの焼成行為をおこなった可能性も推測できる。(出土遺物) 遺物は豊富である。覆土上層部の床面上20～30cmのレベルに集中して出土している。土師器坏 (墨書·刻書土器を含む)·皿·蓋·甕·小形甕、灰釉陶器埦 (K-14段階) 等が出土している。(時期) 出土土器などから、9世紀前半頃の所産と考えられる。

SI31 (第35・36図)

(位置) X24Y28・29グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) SI20・34、SD1、SK247・248・281・288・291・292・309・314・317・319・323・325～329・332～334・339と重複している。本遺構がSI20・34、SD1を掘り込んで構築しており、SK247·248·281·288·291·292·309·314·319·334·339等が本遺構を掘り込んでいる。(形態・規模等) 形態は隅円長方形を呈し、規模は東西4.65m、南北3.90mを測る。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は検出されていない。竪穴部の深さは、確認面より最大30cmを測る。床面は貼床で散在的に堅固な部分が認められる。(柱穴・その他施設) 特に検出されていない。(カマド) 東壁南東コーナー寄りに付設されている。袖石の抜き取り痕跡が顕著なことから、本来は石組み構造であったと思われる。焼土は顕著ではない。燃焼部掘りかた内から、土師器甕片がわずかに出土している。(出土遺物) 他遺構構との重複が著しく遺物の帰属は難しいが、遺物の出土量は少ないものの、カマド内から土師器甕や坏等が出土している。(時期) 出土土器などから、10世紀末から11世紀前半頃の所産と考えられる。

SI32 (第43・44図)

(位置) X24Y30・31グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) SI30・33、SK293・294・295・296・305と重複している。SI30、SK295・296に掘り込まれ、本遺構の北側は保存地区内へ延びている。(形態・規模等) 形態・規模とも不明。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は検出されていない。部分的に検出された壁や、セクションから竪穴部の深さは30cmを測る。(柱穴・その他施設) 特に検出されていない。(カマド) 不明。保存地区内に焼土痕跡が認められるため、北壁に付設されている可能性がある。(出土遺物) 遺物の出土量は少ない。土師器坏・皿・甕片が少量出土している。(時期) 出土土器などから、9世紀前半代の所産か。

SI33 (第43・44図)

(位置) X23・24Y29・30グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) SI17・32、SD1、SK304・305・307・308と重複している。本遺構もその北側は保存地区内へ延びている。(形態・規模等) 形態は、保存地区における平面確認の状況を合わせて推測すれば、隅円長方形を呈すると思われ、規模は推定で東西2.65m、南北4.70mを測る。(壁・壁溝・床面等) 壁溝は西壁と南壁の壁下で検出されている。竪穴部の深さは、確認面より最大34cmを測る。床面は散在的に堅固な部分が認められる。(柱穴・その他施設) 本特に検出されていない。(カマド) 不明。(出土遺物) 遺物の出土量は少ないが、南壁下の床面直上から土師器皿の墨書土器が出土している。その他、土師器坏、須恵器凸帯付四耳壺片・甕片等が出土している。(時期) 出土土器などから、9世紀前半代の所産か。

SI34 (第44図)

(位置) X23・24Y28・29グリッド内で検出されている。(重複・遺存状況) SI31、SD1、SK312・313・315・316・319・334と重複している。本遺構がSD1を掘り込んで構築しているが、その他はすべて掘り込まれて構築されてい

る。（**形態・規模等**）形態は隅円方形を呈し、規模は東西および南北方向ともに4.40ｍを測る。（**壁・壁溝・床面等**）壁溝はすべての壁下で巡っており、竪穴部の深さは、確認面より最大48cmを測る。壁には壁体を固定するためと思われるピットが7箇所ほど確認されている。また、カマド前面部をコの字状に囲むように、床面に間仕切り状の溝と小ピット群が確認されている。東西約1.8ｍ、南北約2.4ｍの範囲に巡っており、南西コーナー部分は溝が途切れた箇所が認められる。（**カマド**）東壁南隅寄りに付設されている。石組み構造ではなく、粘土や黄褐色・黒褐色砂質土の混合土を主体として袖部が構築されている。カマド前面部を破壊するようにSK312が構築されている。（**出土遺物**）竪穴全体の床面直上レベルを中心に散在的に出土しており、その量は比較的豊富である。土師器坏（刻書土器含む）・皿・蓋・小形甕等がみられる。（**時期**）出土土器などから、９世紀前半代の所産と考えられる。

第２節　土坑・ピット（SK）

第３次調査（平成20年度）調査では、発掘調査時において確認された土坑とピット類の性格判別を簡略化するため、両者すべてに対してSK№を付して調査にあたった。調査段階では342基分の遺構ナンバーを付したが、その中で整理の結果、竪穴建物跡の一部だと判明したものなどで欠番となったものもあり、SK遺構として検出された最終的な総数は333基である。

これら333基のSK遺構は、①祭祀的な性格、②土坑墓的な性格、③竪穴建物跡に伴う掘りかたや床下土坑と考えられるもの等、さまざまなその用途や性格が推測できる。

ここでは、紙面の都合上、上記に挙げた出土遺物を伴う主要な遺構について報告する。その他の遺構については、一覧表を作成したのでそれを参照されたい。

SK7（第45図）

（**位置**）X22Y25・26グリッド内で検出されている。（**重複**）SI4と重複し、同遺構を切り込んでいる。（**形態・規模等**）形態は長方形を呈し、規模は長軸2.21ｍ、短軸1.0ｍ、深さ22cmを測る。（**遺存状況・出土遺物等**）覆土内に拳大から人頭大の礫が充填される状況で出土しており、底面は概して軟弱。覆土上層から中層にかけて、散在的に土師器片が出土。その中には「中」と記された墨書土器も含んでいる。形態や出土遺物などから土坑墓的な性格が考えられようか。なお、近接するSK9・10等も同様な形態を示していることから、同じ性格が考えられよう。（**時期**）出土土器などから、８世紀後半代の所産と考えられる。

SK31・32（第45・46図）

（**位置**）X22Y28グリッド内で検出されている。（**重複**）SI12、SK32・37・59・65・95・96・121～123・144と重複している。SK59・65・96・122が同遺構を掘り込んでいる。なお、SK123はおそらく本遺構と同時存在したか、それより古いと考えられる。（**形態・規模等**）形態はSK31・32ともに楕円形を呈すると思われ、規模はSK31が長軸1.87ｍ、短軸は現状で1.10ｍ、深さ45cmを測る。SK32は重複が著しく全容は不明で、長軸1.61ｍ、短軸は不明、深さは40cmを測る。（**遺存状況・出土遺物等**）SK31内には石組みカマドが付設されており、その上部には扁平な礫が幾枚も重ねられていた。これらの礫は、本遺構およびSK123を埋める段階で一気に入れられたものと思われる。覆土内には焼土や炭化物の混入が顕著で、カマド遺構の存在もあわせて本遺構内で焼成行為をおこなった可能性は極めて高い。掘りかた東壁際の覆土中層レベルから、土師器坏や鉢が正位の状態でまとまって出土している。カマド内にも土師器甕片を中心に出土している。このカマドに天井が存在したかどうかは不明で、石組み炉の可能性もある。石組みの間を浅い溝が、土坑掘りかたの北縁から南縁まで延びており、竪穴建物に付設されるカマドの構造とは若干異なっているようである。本遺構は覆土の堆積状況などから、遺構廃絶時に本遺構をある程度埋めた段階で、礫や供物等を納めた土器をそのまわりに並べた状況がうかがわれる。（**時期**）SK31・32ともに出土土器などから、10世紀前半代の所産と考えられる。

SK66（第23図）

（**位置**）X23Y26グリッド内で検出されている。（**重複**）SI6・10・23、SK67と重複し、同遺構を切り込んでいる。（**形態・規模等**）形態は不整楕円形を呈し、規模は長軸2.07ｍ、短軸1.30ｍ、深さ72cmを測り、掘りかた内にテラスを有する。（**遺存状況・出土遺物等**）覆土内に拳大から人頭大の礫が充填される状況で出土しており、底面は概して軟弱。覆土上層から中層にかけて、散在的に土師器片や二次転用された灰釉陶器片等が出土している。（**時期**）出遺構の重複関係などから、11世紀代以降の所産と考えられる。

SK124（第41・42図）

（位置）X23Y28グリッド内で検出されている。（重複）SI25・SK121・143と重複し、新旧関係は不明瞭。（形態・規模等）形態は不整楕円形を呈し、規模は長軸1.33m、短軸1.26m、深さ13cmを測る。（遺存状況・出土遺物等）覆土上面に硬化面と焼土範囲が認められ、水晶塊や二次転用された須恵器甕片、灰釉陶器片が出土し、掘りかたの深さも浅いことから、SI25に伴う床下土坑である可能性もある。（時期）出土土器などから、11世紀代前後の所産であろうか。

SK133（第28～30図）

（位置）X21Y30グリッド内で検出されている。（重複）SI13・14・16、SK174と重複し、SI13・14・16を掘り込み、SK174との新旧関係は不明瞭。（形態・規模等）形態は不整楕円形を呈し、規模は長軸1.08m、短軸0.85m、深さ90cmを測る。（遺存状況・出土遺物等）覆土上層に礫を多量に含み、土師器小皿片がややまとまって出土している。また坑底面からは3基のピットが検出され、掘りかた壁面ではその柱痕が確認できた。その3基のピットが囲む坑底中心部からは、自然礫の丸石が据え置かれた状態で出土している。その他出土遺物では二次転用された平瓦や、鉄滓等が出土している。（時期）出土土器などから、12世紀代前後の所産であろうか。

SK134（第28～30図）

（位置）X21Y30グリッド内で検出されている。（重複）SI13・16と重複し、SI13・16を掘り込こんで構築している。前述のSK133とは近接している。（形態・規模等）形態は不整楕円形を呈し、規模は長軸1.28m、短軸1.00m、深さ73cmを測る。（遺存状況・出土遺物等）SK133と同様に覆土上層に礫を多量に含み、遺物の出土は顕著ではない。しかしSK134と同様に坑底面の壁際から3基のピットが検出され、坑底面には自然礫が出土している。（時期）出遺構の重複関係などから、SK133・134と同じ頃の所産であろう。

SK168（第50図）

（位置）X23Y30グリッド内で検出されている。（重複）SI17の覆土を掘り込んで構築している。（形態・規模等）形態は不整円形を呈し、規模は長軸1.21m、短軸1.15m、深さ30cmを測る。（遺存状況・出土遺物等）扁平な礫と人頭大の礫が覆土上面に置かれ、礫と覆土上層面が焼土に覆われた状態で検出されている。覆土内からは8世紀代から9世紀代の土師器片が出土しているが、SI17やSI24に伴う可能性が強い。（時期）遺構の重複関係などから、9世紀以降の所産としかいえない。

SK174（第28～30図）

（位置）X21Y30グリッド内で検出されている。（重複）SI13・14、SK133・181・182と重複し、SI13・14、SK181・183を掘り込こみんで構築しているが、SK133との新旧関係は不明瞭。（形態・規模等）形態は楕円形を呈し、規模は長軸0.98m、短軸0.81m、深さ80cmを測る。（遺存状況・出土遺物等）SK133と同様に覆土上層に礫を多量に含み、土師器小皿片がおややまとまって出土している。また坑底面の壁際から3基のピットが検出されている。出土遺物としては、土師器小皿、柱状高台皿、炭化材等が出土している。（時期）出土土器などから、12世紀代前後の所産であろうか。

SK242（第49図）

（位置）X23Y29グリッド内で検出されている。（重複）SK116・212と重複し、その新旧関係は不明瞭。（形態・規模等）形態は長方形を呈し、規模は長軸0.98m、短軸0.81m、深さ80cmを測る。（遺存状況・出土遺物等）遺構の約2/3の範囲の底面レベルに、礫床のような小礫の集積範囲が認められる。特に出土遺物ない。（時期）不明。

SK281・292・314・319・334（第35図）

（位置）X24Y28・29グリッド内で検出されている。（重複）いずれもSI31の覆土を掘り込んで構築している。（形態・規模等）形態はSK281とSK334が長方形を呈し、他は楕円形を呈する。各規模については一覧表を参照されたい。（遺存状況・出土遺物等）いずれも人頭大よおよびそれより一回り大きい礫を覆土上層から中層にかけて充填し、その間から土師器の柱状高台片や塝、二次転用された須恵器甕片等がわずかに出土している。（時期）出土土器などから、12世紀代前後の所産であろうか。

SK303（第50図）

（位置）X23・24Y31グリッド内で検出されている。（重複）SK293と重複し、SK293が本遺構を掘り込んで構築している。（形態・規模等）形態は不整円形を呈し、規模は長軸1.07m、短軸1.05m、深さ31cmを測る。（遺存状況・出土遺物等）完形に近い土師器坏と甕片が覆土上層から出土しており、掘りかたは浅く、カマドの形状に酷似している。しかし焼土は顕著ではない。（時期）出土土器などから、11世紀代の所産であろうか。

SK330（第50図）

（位置）X23・24Y31グリッド内で検出されている。（重複）SK331と重複するが、本遺構の一部かもしれない。（形

態・規模等）形態は不整楕円形を呈し、規模は長軸 1.17 m、短軸 1.00 m、深さ 29cmを測る。（遺存状況・出土遺物等）覆土上層を中心に礫と焼土が顕著に分布している。経常的にはSK303と酷似している。出土遺物では土師器甕片が出土している。（時期）出土土器などから、10世紀代の所産であろうか。

第3節　溝（SD）

今回調査をおこなった溝跡および溝状遺構とされるSD遺構は、総計1条のみである。未調査の保存地区内でもプランとしては数条確認されているが、その数は少ない。

SD1（第35・43図）

（位置）X24Y28・29グリッド内で検出されている。（重複・遺存状況）SI31・33・34、SK318と重複しており、いずれの遺構にも掘り込まれている。東西に直線的に延びる溝状遺構で、その西側は保存地区内に延びている。（規模等）調査をおこなった長さは4.7 m。幅員は60cm前後を測り、深さは確認面より23cmを測る。（出土遺物）出土遺物はほとんどないが、覆土中層から縄文時代の打製石斧が出土している。流れ込みによるものであろう。（時期）遺構の重複関係などから、9世紀前半以前の所産と考えられる。

第4節　遺構外出土遺物（保存地区）

調査に至る経緯でも述べられているように、本調査区は発掘調査に入る前に建設工事によって、すでに遺構の覆土の一部が削平されてしまったため、遺構確認精査段階の遺物取上時に、表採資料扱いをしたものが多かった。帰属は不明ながら注目できる遺物としては、第101図12の須恵器である。これは平城京分類で「椀A」とも「椀B」、他の報告書でも坏や鉢として分類されていることが多く、細身で法量が小さい、いわゆる「コップ形須恵器」と呼ぶ土器である。口径8.8cm、底径6.2cm、器高5.4cmを測る。8世紀から9世紀初頭段階のものと思われる。14～16の粘土塊は、繊維を含みカマド構築材の粘土もしくは、建物の土壁の一部と考えられる。7～10は土師器坏の底部内外面に線刻を施す刻書土器片である。

次に保存地区内においては、遺構確認精査の段階で、露出した石組みカマドの一部を数箇所で確認している。それに伴って土師器を中心とする土器群も出土していたため、それらを光波測量において測定し取りあげたものを主に掲載している。8世紀から10・11世紀代の土師器や須恵器、灰釉陶器片、二次転用された須恵器甕片等が中心である。保存地区内も完掘部分と同様に遺構が濃密に分布しており、保存地区北東端では、SI24と同規模をもつと思われる大型竪穴建物跡も確認されている。その範囲内からは第101図26のように底部内面に暗文を有する8世紀代の土師器坏片や、第102図41のような回転カキメ痕が顕著な土師器甕片が出土している。

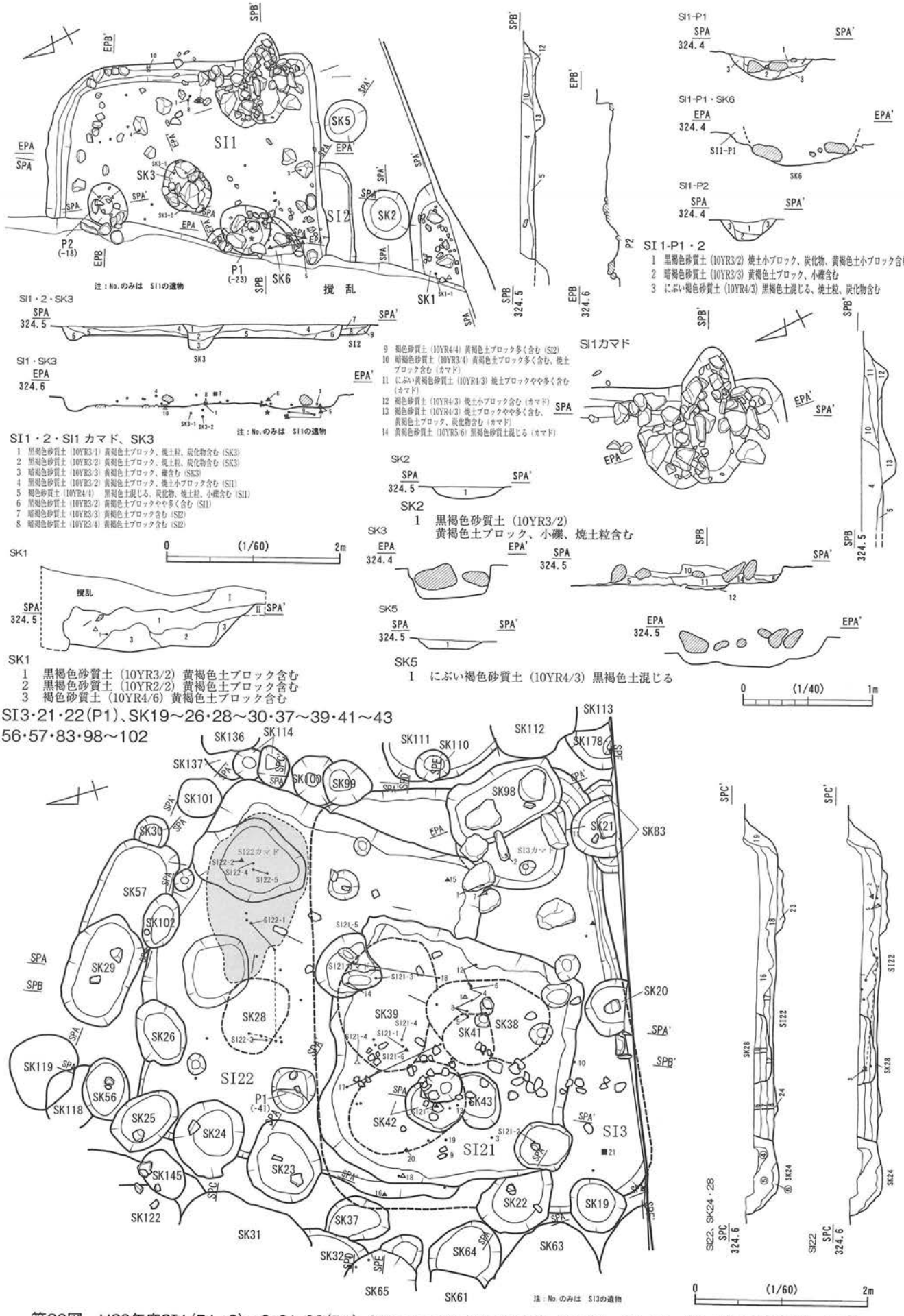
第5節　その他の土器（製塩土器）

近年、山梨県内では、南アルプス市を中心とする釜無川（富士川）流域の奈良・平安時代の遺跡から、当該期の製塩土器資料の発見が相次いでいるが、笛吹川流域の本遺跡でも確認することができた。当該資料は、破片資料が主で、さまざまな土師器と混じると一見、縄文式土器と見間違う事が多く、その抽出は意識的におこわなければ難しい。

第102図1は、SI17の覆土中から検出された口縁部破片、指頭痕が顕著で、被熱のため外面が鈍くピンク色に変色する箇所が認められる。2は、SK202の覆土中から出土している胴部破片で、ナデ成形で被熱痕跡は希薄である。3は、SK296の覆土中から出土している胴部破片で、ナデ成形で被熱のため外面がピンク色に変色している。4は、X26Y31グリッド域の遺構外から出土している胴部破片で、指頭痕が顕著であるが、被熱痕跡は希薄である。

H20年度

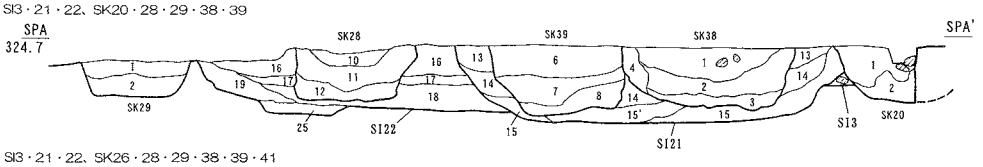
SI1（PI・2）・2、SK1～3・5・6



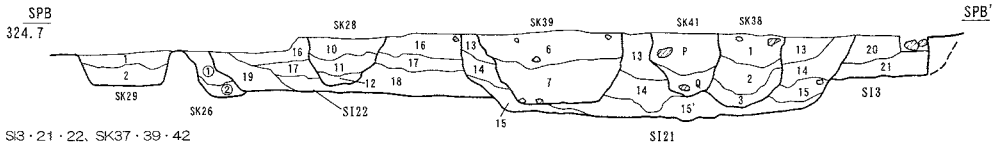
SI3・21・22(P1)、SK19～26・28～30・37～39・41～43
56・57・83・98～102

第20図　H20年度SI1（P1・2）～3・21・22（P1）、SK1～3・5・6・19～26・28～30・37～39・41～43・56・57・83・98～102

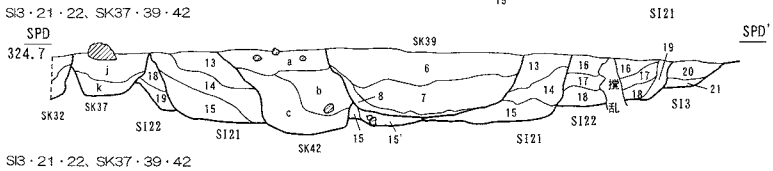
SI3・21・22、SK20・28・29・38・39



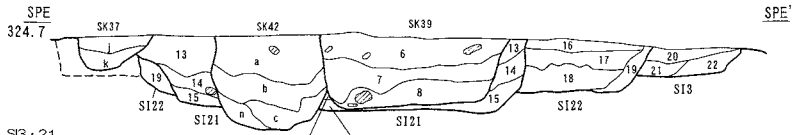
SI3・21・22、SK26・28・29・38・39・41



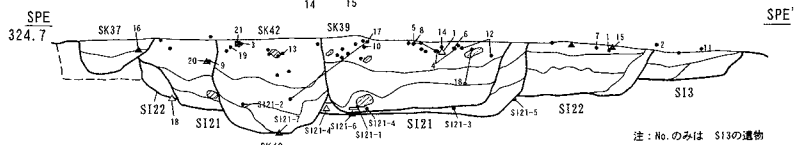
SI3・21・22、SK37・39・42



SI3・21・22、SK37・39・42

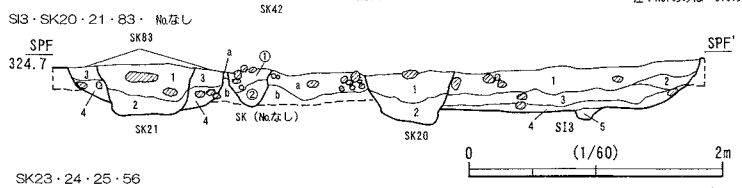


SI3・21

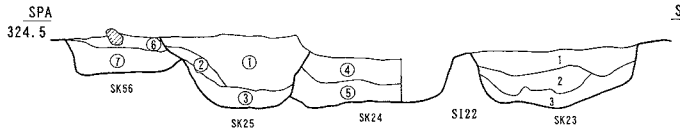


注：No.のみは SI3の遺物

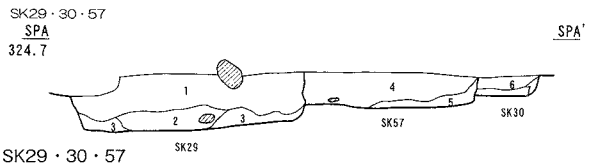
SI3・SK20・21・83・ Noなし



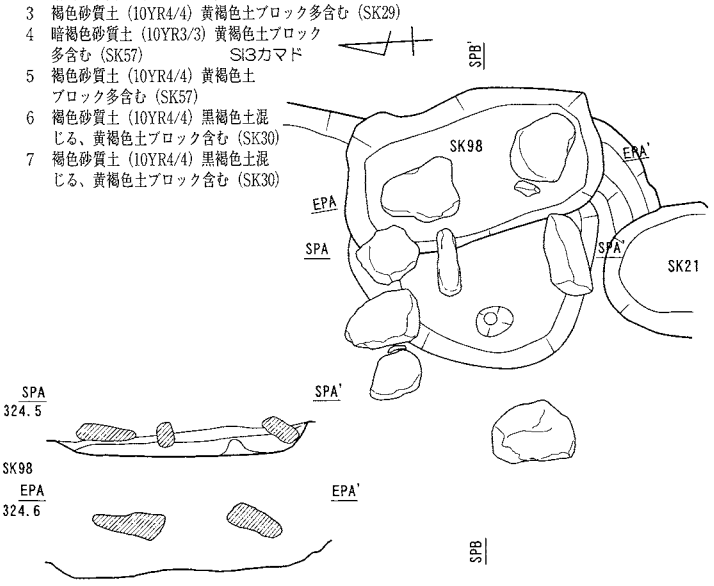
SK23・24・25・56

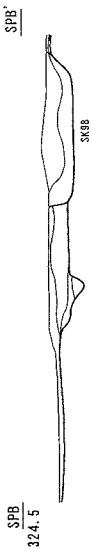


SK29・30・57

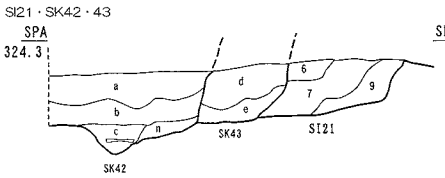


SK29・30・57
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多含む（SK29）
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多含む（SK29）
3 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多含む（SK29）
4 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多含む（SK57）　SI3カマド
5 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多含む（SK57）
6 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土混じる、黄褐色土ブロック含む（SK30）
7 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土混じる、黄褐色土ブロック含む（SK30）





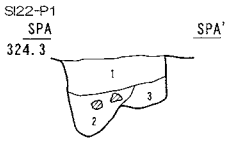
SI21・SK42・43



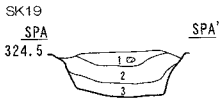
SI22-P1
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、礫含む
3 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック含む

SK19
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）
黄褐色土ブロック、砂礫多く含む、小礫含む
2 黒褐色砂質土（10YR2/2）
黄褐色土ブロック多く含む、礫少含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土混じる

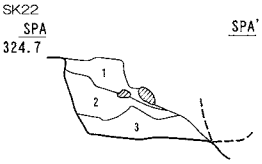
SI22-P1



SK19

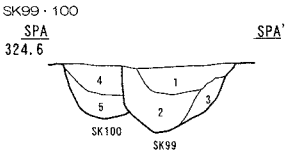


SK22



SK22
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）
黄褐色土ブロック、砂礫多く含む、小礫含む
2 黒褐色砂質土（10YR2/2）
黄褐色土ブロック多く含む、礫少含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）
黒褐色土混じる

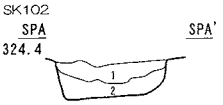
SK99・100



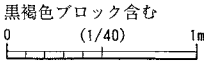
SK101

SK101
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）褐色砂質土主体、砂粒含む
2 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色ブロック含む

SK102



SK102
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）褐色砂質土主体、砂粒含む
2 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色ブロック含む



第21図　H20年度SI3・21・22(P1)、SK19～26・28～30・37～39・41～43・56・57・83・98～102

SI3・21・22、SK28・37・38・39・41・42
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）拳大礫含む、黄褐色土小ブロック、砂粒多く含む（SI3）（SK38）
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む（SI3）（SK38）
3 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む（SI3）（SK38）
4 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック非常に多く含む（SI3）
5 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック非常に多く含む（SI3）
6 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、砂粒、焼土粒含む（SI21）（SK39）
7 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多、小礫含む（SI21）（SK39）
8 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック非常に多く含む（SK39）
10 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む（SK28）
11 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む（SK28）
12 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黒褐色土混じる、黄褐色土ブロック多含む（SK28）
13 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、小礫含む（SI21）
14 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土小ブロック、小礫含む（SI21）
15 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む（SI21）
15' にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック少量含む（SI21）
16 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロックやや多く含む、焼土小ブロック含む（SI22）
17 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土小ブロック多く含む、焼土小ブロック含む（SI22）
18 黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色土ブロック多く含む（SI22）
19 褐色砂質土（10YR4/4） 黄褐色土小ブロック多く含む、黒褐色土含む（SI22）
20 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む（SI3）
21 褐色砂質土（10YR4/4） 黒褐色土混じる、黄褐色土ブロック多く含む（SI3）
22 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む（SI3）
23 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、炭化物多く含む（SI22）
24 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む（SI22）
25 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む（SI22）
a 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色小ブロック、砂粒、小礫含む（SK42）
b 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色小ブロック、粘土小ブロック含む（SK42）
c 黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色土大ブロック多く含む、小礫含む（SK42）
j 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む、砂粒含む（SK37）
k 褐色砂質土（10YR4/6） 黒褐色土混じる（SK37）
n 黒褐色砂質土（10YR3/2）やや粘性あり、黄褐色土ブロック非常に多く含む（SK42）
p 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、砂粒、拳大礫含む（SK41）
q 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、砂粒、拳大礫含む（SK41）

SK20
1 黒褐色砂質土（10YR3/2） 黄褐色土ブロック多く含む、小礫含む、炭化物含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む

SK24
④ 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック含む
⑤ 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む
⑥ 褐色砂質土（10YR4/6） 黒褐色土ブロック含む

SK26
① 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土混じる
② 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土混じる、黄褐色土ブロック含む

SK29
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む

SK21・83
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む（SK21）
2 褐色砂質土（10YR4/4） 黄褐色土ブロック多く含む（SK21）
3 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む、小礫含む（SK83）
4 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む、小礫含む（SK83）

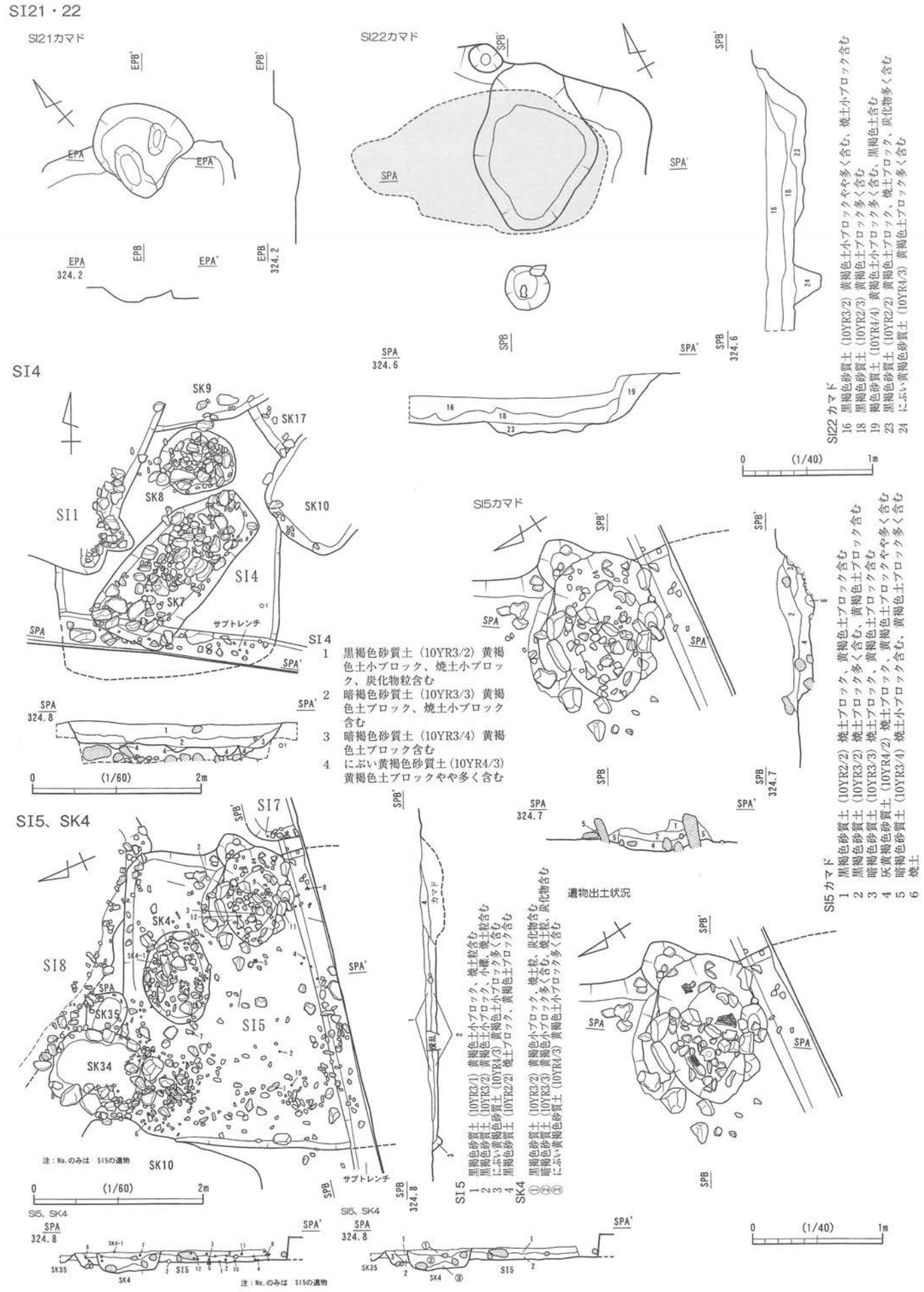
No なし
① 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土粒、小礫多く含む
② 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック少含む

自然堆積層
a 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック、小礫含む
b 黄褐色砂質土（10YR5/6）黒褐色土ブロック含む

SK23・24・25・56
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む（SK23）
2 褐色砂質土（10YR4/4） 黒褐色砂質土ブロック含む（SK23）
3 褐色砂質土（10YR4/6） 黒褐色砂質土ブロック含む（SK23）
① 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む、砂粒含む（SK25）
② 褐色砂質土（10YR4/4） 黒褐色土混じる、黄褐色土ブロック含む（SK25）
③ 褐色砂質土（10YR4/6） 黒褐色土混じる、黄褐色土ブロック含む（SK25）
④ 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック含む（SK24）
⑤ 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多含む（SK24）
⑥ 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、黒褐色土ブロック含む（SK56）
⑦ 褐色砂質土（10YR4/4） 黄褐色土ブロック、黒褐色土ブロック含む（SK56）

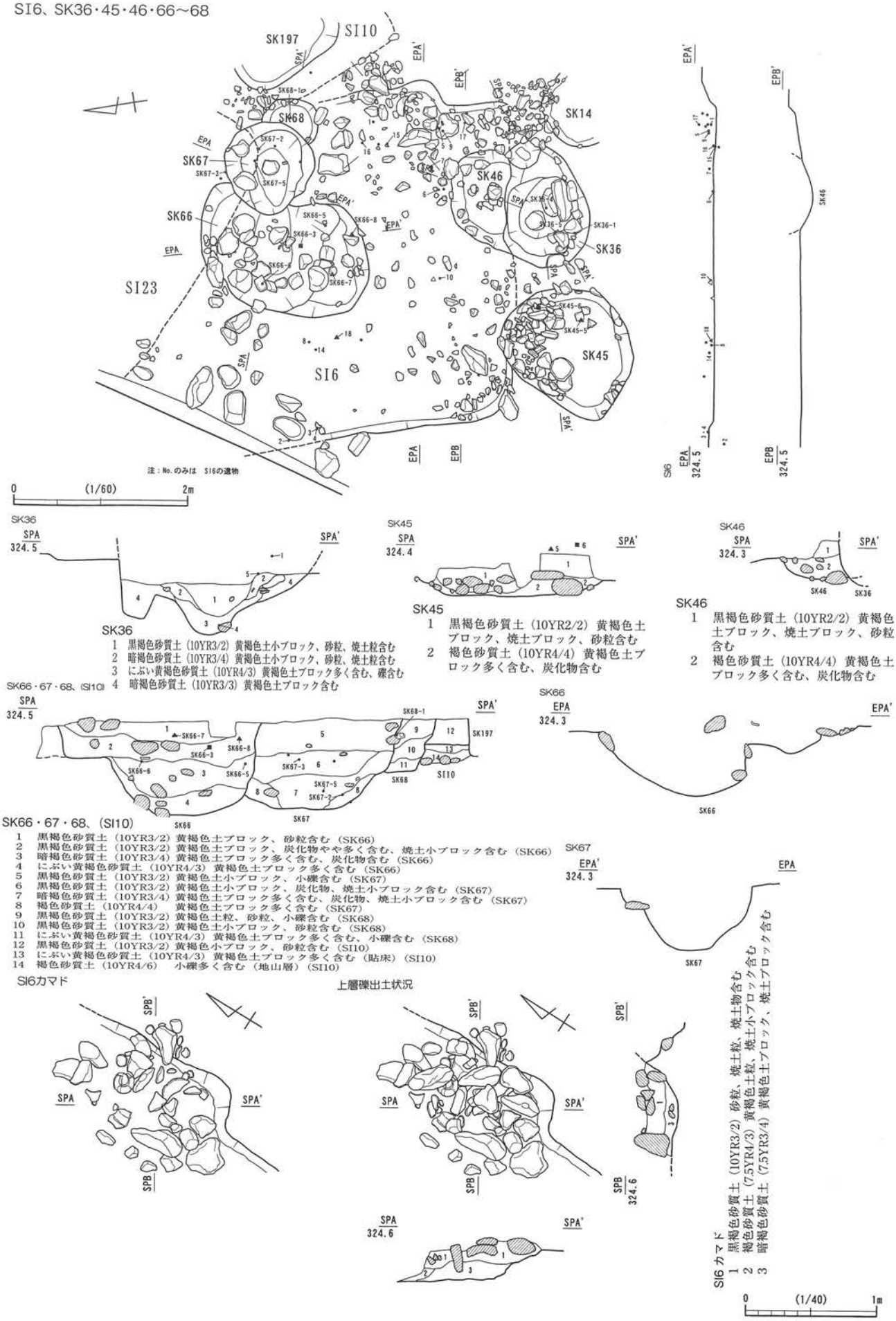
SI21、SK42・43
a 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色小ブロック、砂礫、小礫含む（SK42）
b 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色小ブロック、焼土小ブロック含む（SK42）
c 黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色土大ブロック多く含む、小礫含む（SK42）
d 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、砂粒、小礫含む（SK43）
e 黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色土ブロック、砂粒、小礫含む（SK43）
n 褐色砂質土（10YR4/6） 黒褐色ブロック含む（SK42）
6 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、砂粒、焼土粒含む（SI21）
7 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多含む、小礫含む（SI21）
9 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多含む、小礫含む（SI21）

SK99・100
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色砂質土ブロック、砂粒含む（SK99）
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、砂粒含む（SK99）
3 褐色砂質土（10YR4/6） 黒褐色土ブロック含む（SK99）
4 黒褐色砂質土（10YR3/2）褐色砂質土主体、砂粒含む（SK100）
5 褐色砂質土（10YR4/6） 黒褐色ブロック含む（SK100）

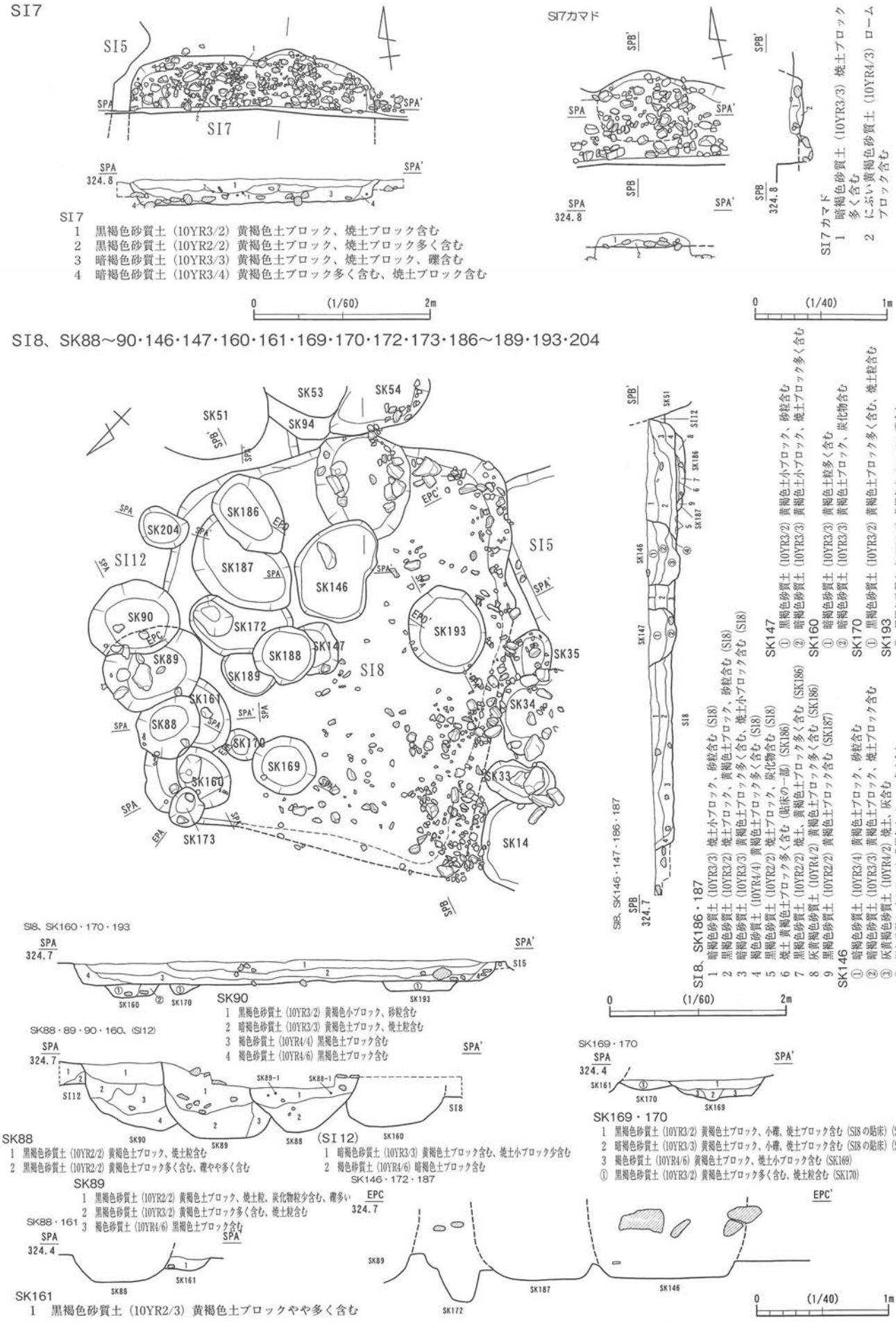


第22図　H20年度SI4・5・21・22、SK4

SI6、SK36・45・46・66～68



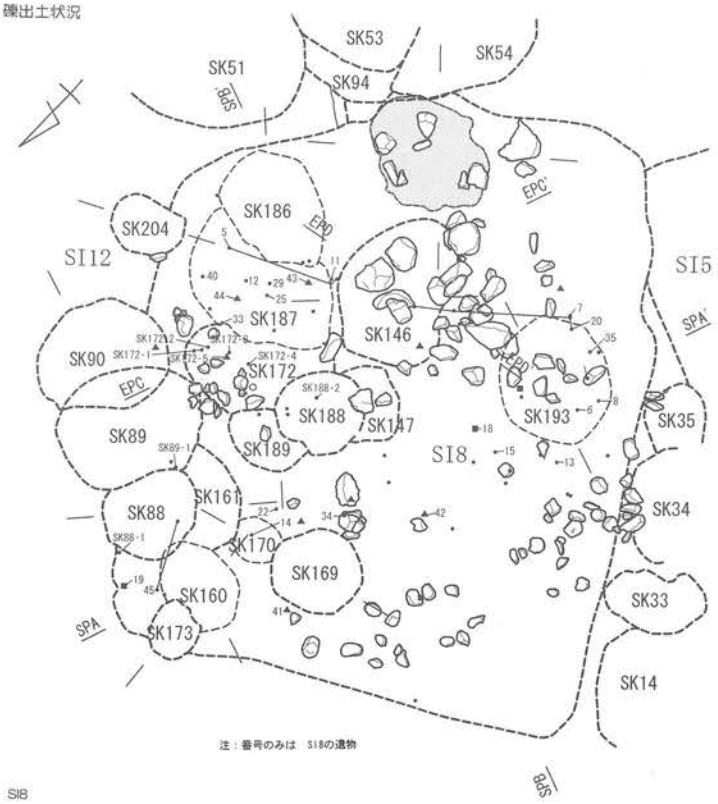
第23図　H20年度SI 6、SK36・45・46・66～68



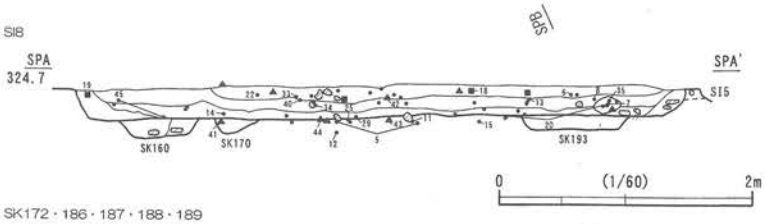
第24図　H20年度SI7・8、SK88～90・146・147・160・161・169・170・172・173・186～189・193・204

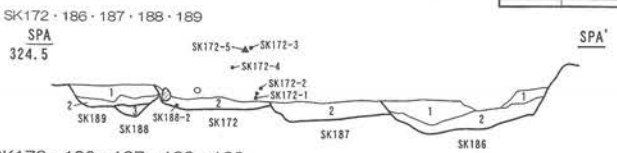
SI8

礫出土状況

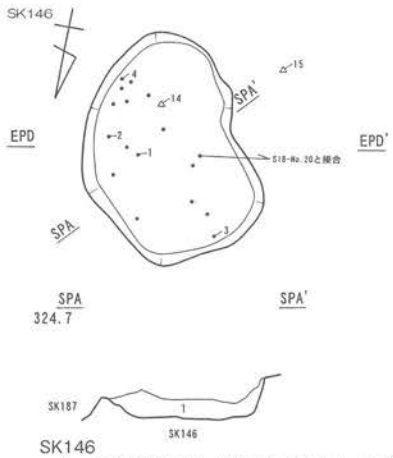


注：番号のみは SI8の遺物

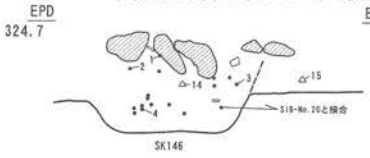


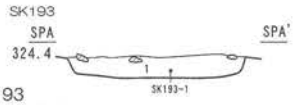


SK172・186・187・188・189
1 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黒褐色土ブロック含む、焼土小ブロック含む（SK186）（SK189）
2 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む（SK172）（SK186）（SK187）（SK189）
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む（SK188）



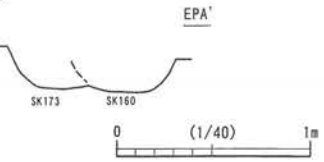
SK146
1 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）焼土、灰含む

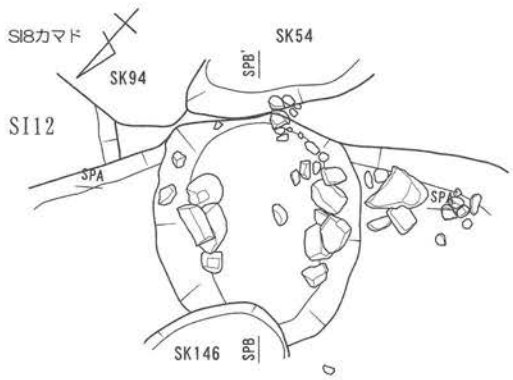


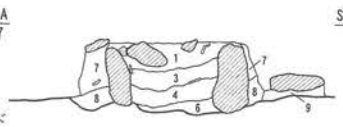


SK193
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、礫含む

SK204
1 黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物含む（貼床）
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物含む（貼床）
3 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土粒少含む
4 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック含む

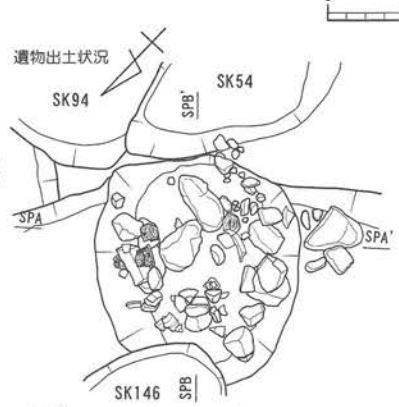


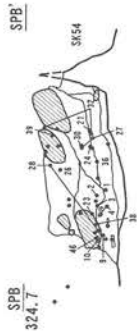


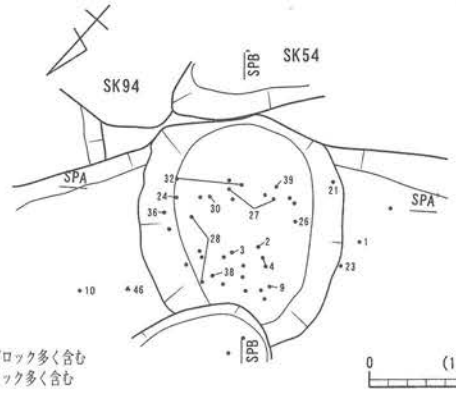


SI8カマド
1 黒褐色砂質土（7.5YR3/2）焼土粒、黄褐色土粒、砂粒含む
2 黒褐色砂質土（7.5YR3/2）黄褐色土小ブロック、焼土小ブロックやや多く含む
3 黒褐色砂質土（7.5YR2/2）焼土ブロック、灰黄褐色土ブロック含む
4 灰褐色砂質土（7.5YR4/2）焼土ブロック、灰、炭化物多く含む
5 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック含む、焼土小ブロック少含む
6 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック、炭化物、焼土小ブロック含む
7 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック、焼土粒多く含む
8 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む
9 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む

遺物出土状況

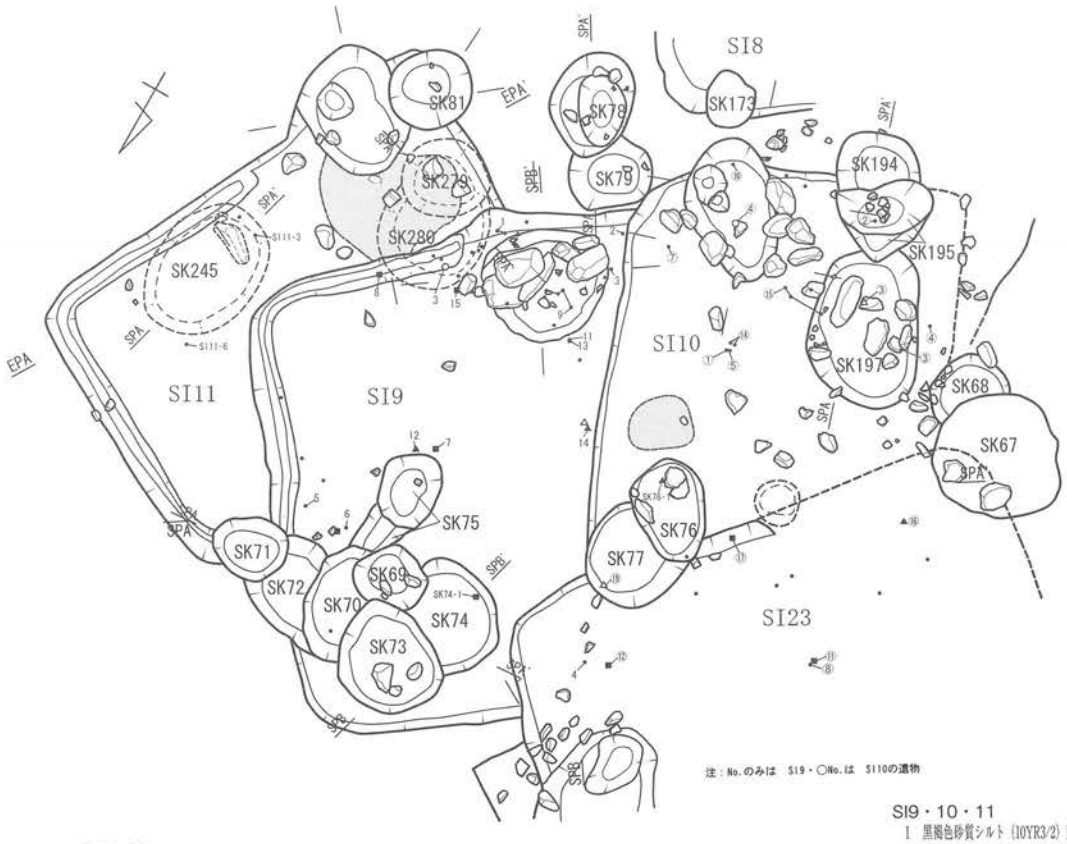


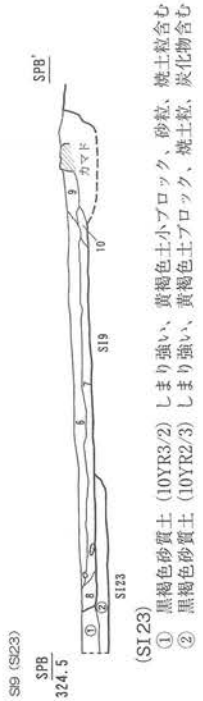




第25図　H20年度SI8、SK88～90・146・147・160・161・169・170・172・173・186～189・193・204

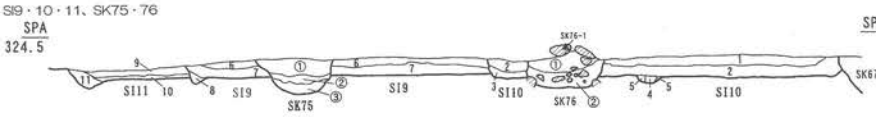
SI9・10・11・(23)、SK69～76・78・79・81・194・195・197・254・279・280



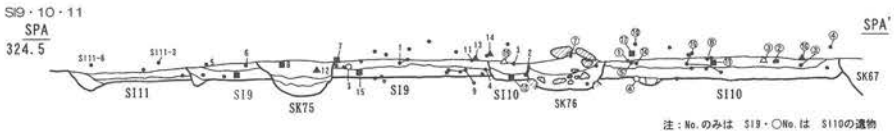


(SI23)
① 黒褐色砂質土（10YR3/2）しまり強い、黄褐色土小ブロック、砂粒、焼土粒含む
② 黒褐色砂質土（10YR2/3）しまり強い、黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物含む

SI9・10・11、SK75・76



SI9・10・11

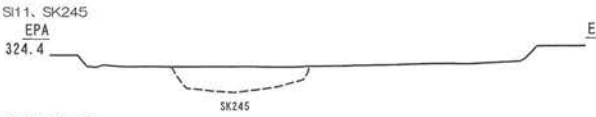


注：No.のみは SI9・○No.は SI10の遺物

SI9・10・11
1 黒褐色砂質シルト（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、砂粒含む（SI10）
2 黒褐色砂質シルト（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、焼土小ブロック含む（SI10）
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土小ブロック多く含む、炭化物含む（SI10）
4 黒褐色砂質シルト（10YR2/2）黄褐色土ブロック含む（SI10）
5 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック含む（SI10）
6 黒褐色砂質シルト（10YR3/2）黄褐色土粒多く含む、炭化物、焼土粒含む（SI9）
7 黒褐色砂質シルト（10YR2/2）黄褐色土粒小ブロック含む、炭化物、焼土粒含む（SI9）
8 にぶい黄褐色砂質シルト（10YR4/2）黄褐色土粒ブロック含む（SI9）
9 黒褐色砂質土（10YR3/2）炭化物粒、黄褐色土ブロック含む（SI9）（SI11）
10 暗褐色砂質土（10YR3/4）炭化物粒、黄褐色土ブロック含む（SI9）（SI11）
11 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック含む（SI11）

SK75
① 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色小ブロック、焼土ブロック含む
② 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色小ブロックやや多く含む
③ にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土小ブロックやや多く含む、焼土小ブロック含む

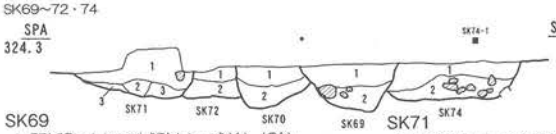
SI11、SK245



SK76
① 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土小ブロックやや多く含む
② 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック含む、小礫多く含む

0 (1/60) 2m

SK69～72・74



SK69
1 黒褐色砂質シルト（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む、小礫含む
2 褐色砂質シルト（10YR4/6）黄褐色土ブロック、礫含む

SK70
1 黒褐色砂質シルト（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む
2 褐色砂質シルト（10YR4/6）黄褐色土ブロック多く含む

SK71
1 黒褐色砂質シルト（10YR2/2）黄褐色土小ブロック、砂粒含む
2 黒褐色砂質シルト（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、砂粒含む
3 褐色砂質シルト（10YR4/4）黒褐色土ブロック含む

SK72
1 暗褐色砂質シルト（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む
2 褐色砂質シルト（10YR4/6）黒褐色土ブロック含む

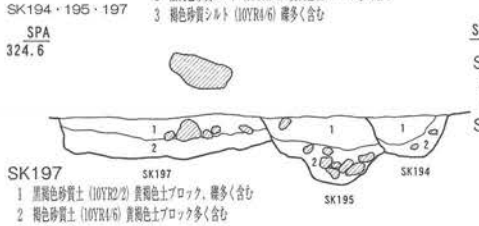
SK74
1 黒褐色砂質シルト（10YR2/2）黄褐色土小ブロック、炭化物含む
2 褐色砂質シルト（10YR4/6）礫多く含む

SK73・74

SK73
1 黒褐色砂質シルト（10YR2/2）黄褐色土ブロック、砂粒、焼土小ブロック含む
2 黒褐色砂質シルト（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む
3 褐色砂質シルト（10YR4/6）礫多く含む

SK74
1 黒褐色砂質シルト（10YR2/2）黄褐色土小ブロック、炭化物含む
2 褐色砂質シルト（10YR4/6）礫多く含む

SK194・195・197



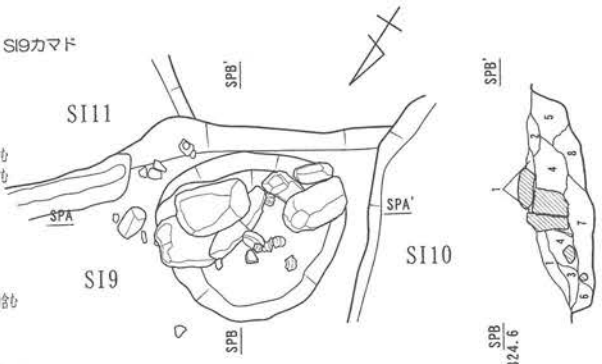
SK197
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、礫多く含む
2 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色土ブロック多く含む

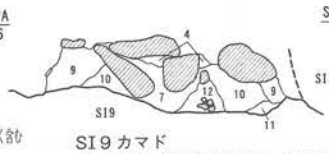
SK194
1 黒褐色砂質土（10YR3/1）黄褐色土ブロック含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む

SK195
1 黒褐色砂質土（10YR3/1）黄褐色土ブロック、小礫含む
2 にぶい褐色砂質土（10YR4/3）

0 (1/40) 1m

SI9カマド



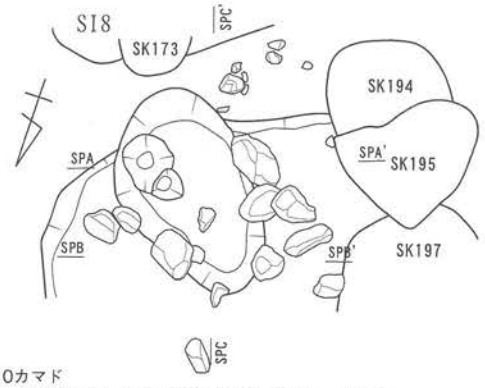


SI9カマド
1 黒褐色砂質土（7.5YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む
2 黒褐色砂質土（7.5YR2/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む
3 黒褐色砂質土（7.5YR2/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、炭化物含む
4 暗褐色砂質土（7.5YR3/3）黄褐色土ブロック、焼土ブロック多く含む
5 黒褐色砂質土（7.5YR3/1）黄褐色土ブロック、焼土粒含む
6 黒褐色砂質土（7.5YR3/1）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む
7 暗赤褐色砂質土（25YR3/4）焼土主体
8 黒褐色砂質土（7.5YR2/1）黄褐色土小ブロック、炭化物、焼土粒含む
9 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む
10 暗褐色砂質土（7.5YR3/3）焼土ブロックやや多く含む、黄褐色土ブロック含む
11 黒褐色砂質土（7.5YR2/2）粘性あり、黄褐色土ブロック含む
12 暗褐色砂質土（7.5YR3/4）焼土ブロック、黄褐色土ブロック多く含む

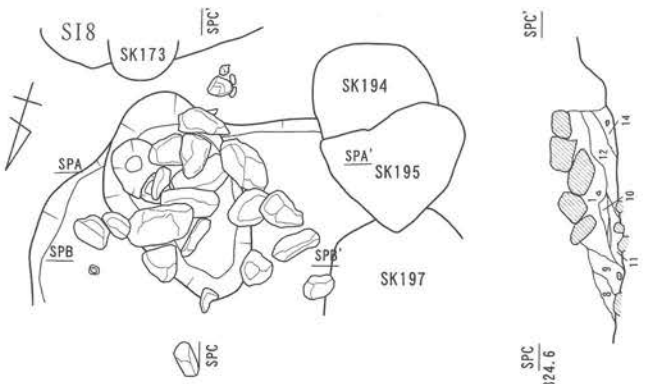
第26図　H20年度SI9・10・11・(23)、SK69～76・78・79・81・194・195・197・245・279・280

SI10・11

SI10カマド

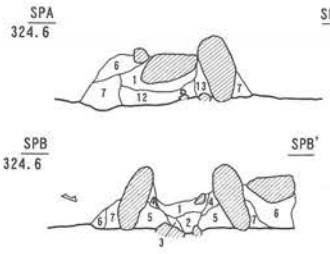


礫出土状況

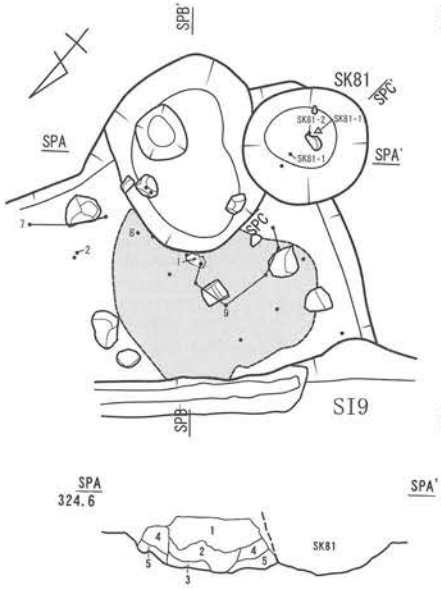


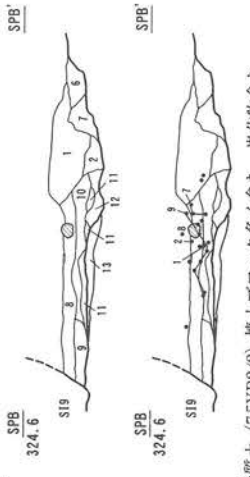
SI10カマド

1 黒褐色砂質土（7.5YR3/2）黄褐色土小ブロック含む
2 黒褐色砂質土（7.5YR3/2）黄褐色土小ブロック、焼土ブロック含む
3 灰褐色砂質土（7.5YR4/2）黄褐色土小ブロック、焼土ブロック、炭化物含む
4 褐色砂質土（7.5YR4/3）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む
5 灰褐色砂質土（7.5YR4/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む
6 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、焼土粒含む
7 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む
8 黒褐色砂質土（10YR3/2）炭化物、黄褐色土ブロック含む
9 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む、焼土ブロック含む
10 赤褐色砂質土（2.5YR4/6）焼土主体、灰混じる
11 褐色砂質土（7.5YR4/3）焼土ブロック、黄褐色土ブロック多く含む
12 黒褐色砂質土（7.5YR2/2））粘性あり、黄褐色土ブロック多く含む、焼土粒含む
13 極暗褐色砂質土（7.5YR2/3）粘性あり、焼土ブロック多く含む
14 暗褐色砂質土（10YR3/4）焼土粒、砂粒含む



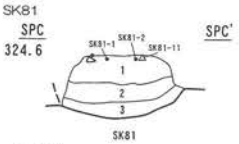
SI11カマド、SK81





SI11カマド

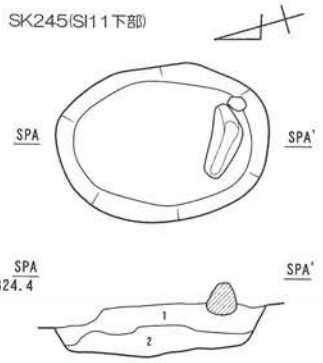
1 黒褐色砂質土（7.5YR2/2）焼土ブロック多く含む、炭化物含む
2 黒褐色砂質土（7.5YR2/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/2）焼土粒、黄褐色土粒、炭化物粒含む
4 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む
5 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色土ブロック多く含む
6 灰褐色砂質土（7.5YR4/2）焼土粒、黄褐色土粒含む
7 褐色砂質土（7.5YR4/3）焼土粒、黄褐色土粒含む
8 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色小ブロック、焼土小ブロック含む
9 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色小ブロック含む
10 黒褐色砂質土（10YR2/2）にぶい褐色粘土（10Y5/4）炭化物、粘土含む
11 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）炭化物多く含む
12 褐色砂質土（7.5YR4/3）焼土粒含む
13 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック、炭化物、焼土粒含む



SK81

1 黒褐色砂質シルト（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、焼土小ブロック、砂粒含む
2 暗褐色砂質シルト（10YR3/3）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む
3 暗褐色砂質シルト（10YR3/4）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む

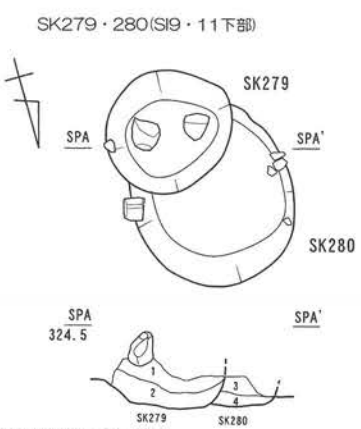
SK245(SI11下部)



SK245（SI11下部）

1 黒褐色砂質土（10YR3/1）黄褐色土ブロック、砂粒多く含む、焼土粒、小礫含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）砂粒、焼土粒含む

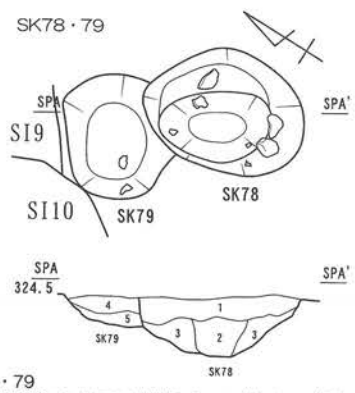
SK279・280(SI9・11下部)



SK279・280（SI9・11下部）

1 黒褐色砂質土（10YR3/2）砂粒、黄褐色土ブロック、炭化物、焼土小ブロック多く含む（SK279）
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む（SK279）
3 黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色土ブロック多く含む（SK280）
4 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む（SK280）

SK78・79



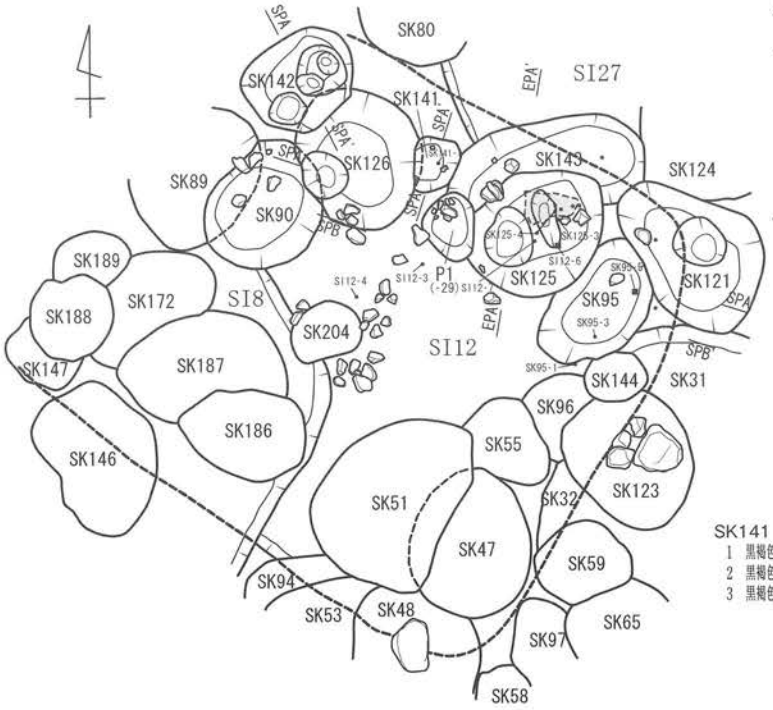
SK78・79

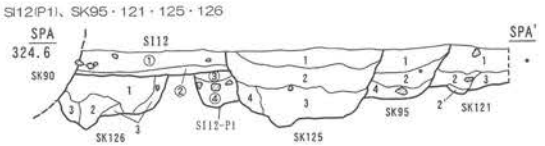
1 黒褐色砂質シルト（10YR2/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む（SK78）
2 黒褐色砂質シルト（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む（SK78）
3 暗褐色砂質シルト（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む（SK78）
4 黒褐色砂質シルト（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む（SK79）
5 褐色砂質シルト（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む（SK79）

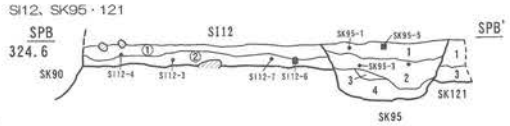
0 (1/40) 1m

第27図　H20年度SI10・11、SK78・79・81・245・279・280

SI12（P1）、SK95・121・125・126・141～143







SI12、SK95・121・125・126、SI12-P1、SI12・(P1)

①黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、焼土粒、炭化物粒含む
②黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、焼土小ブロック、炭化物含む
③にぶい黄褐色砂質シルト（10YR4/3）黒褐色土ブロック、焼土粒含む（P1）
④にぶい黄褐色砂質シルト（10YR4/3）礫多く含む（P1）

0 (1/60) 2m

SK141
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、焼土粒含む
2 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土粒、焼土ブロック含む
3 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む

SK142
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、砂粒、焼土粒含む
2 黒褐色砂質土（10YR2/3）やや粘質あり、黄褐色土粒含む
3 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む

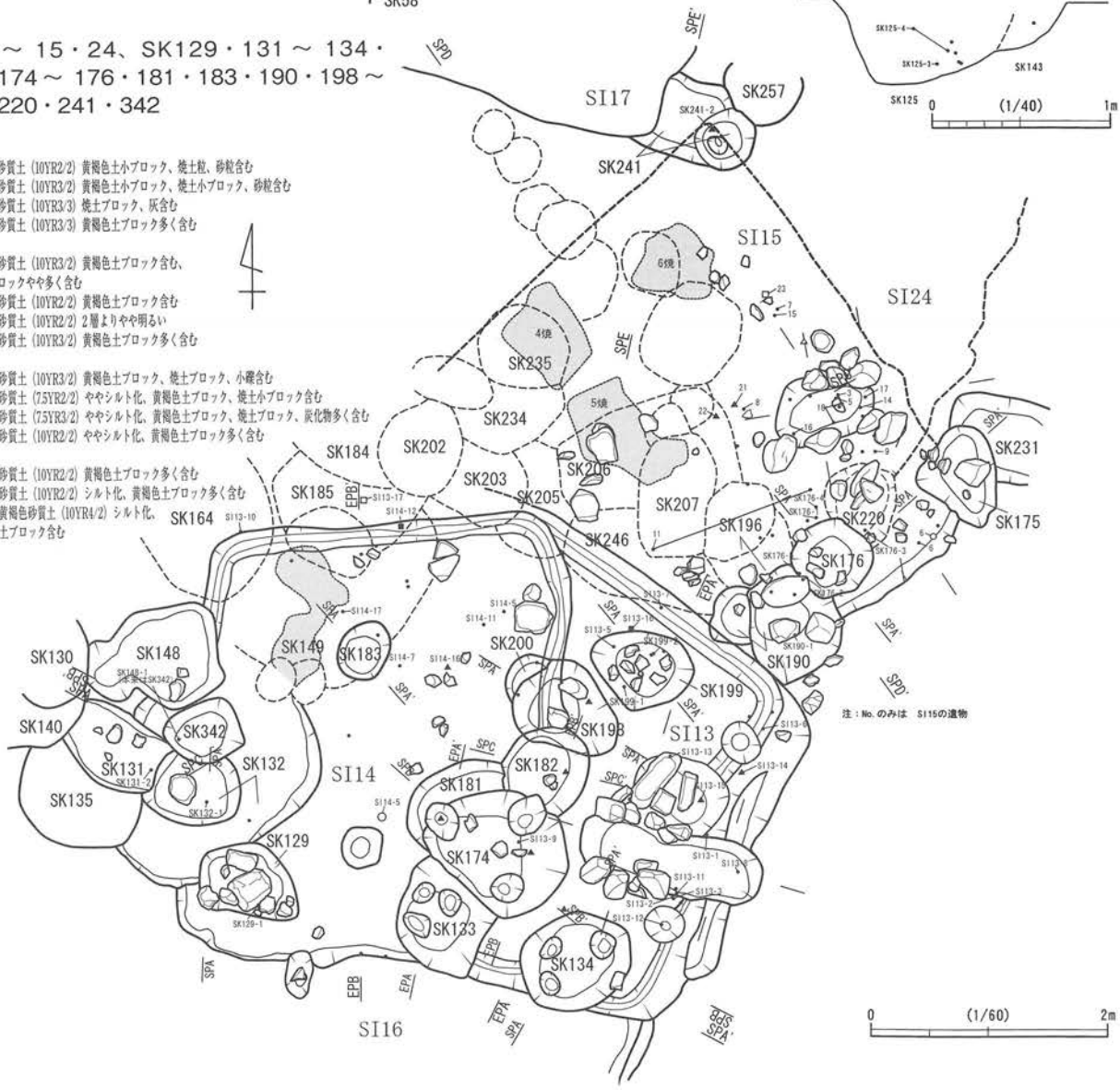
SI13～15・24、SK129・131～134・148・174～176・181・183・190・198～200・220・241・342

SK95
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土小ブロック、焼土粒、砂粒含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、焼土小ブロック、砂粒含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/3）焼土ブロック、灰含む
4 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む

SK121
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック含む、焼土ブロックやや多く含む
2 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック含む
2' 黒褐色砂質土（10YR2/2）2層よりやや明るい
3 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む

SK125
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、小礫含む
2 黒褐色砂質土（7.5YR2/2）ややシルト化、黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む
3 黒褐色砂質土（7.5YR3/2）ややシルト化、黄褐色土ブロック、焼土ブロック、炭化物多く含む
4 黒褐色砂質土（10YR2/2）ややシルト化、黄褐色土ブロック多く含む

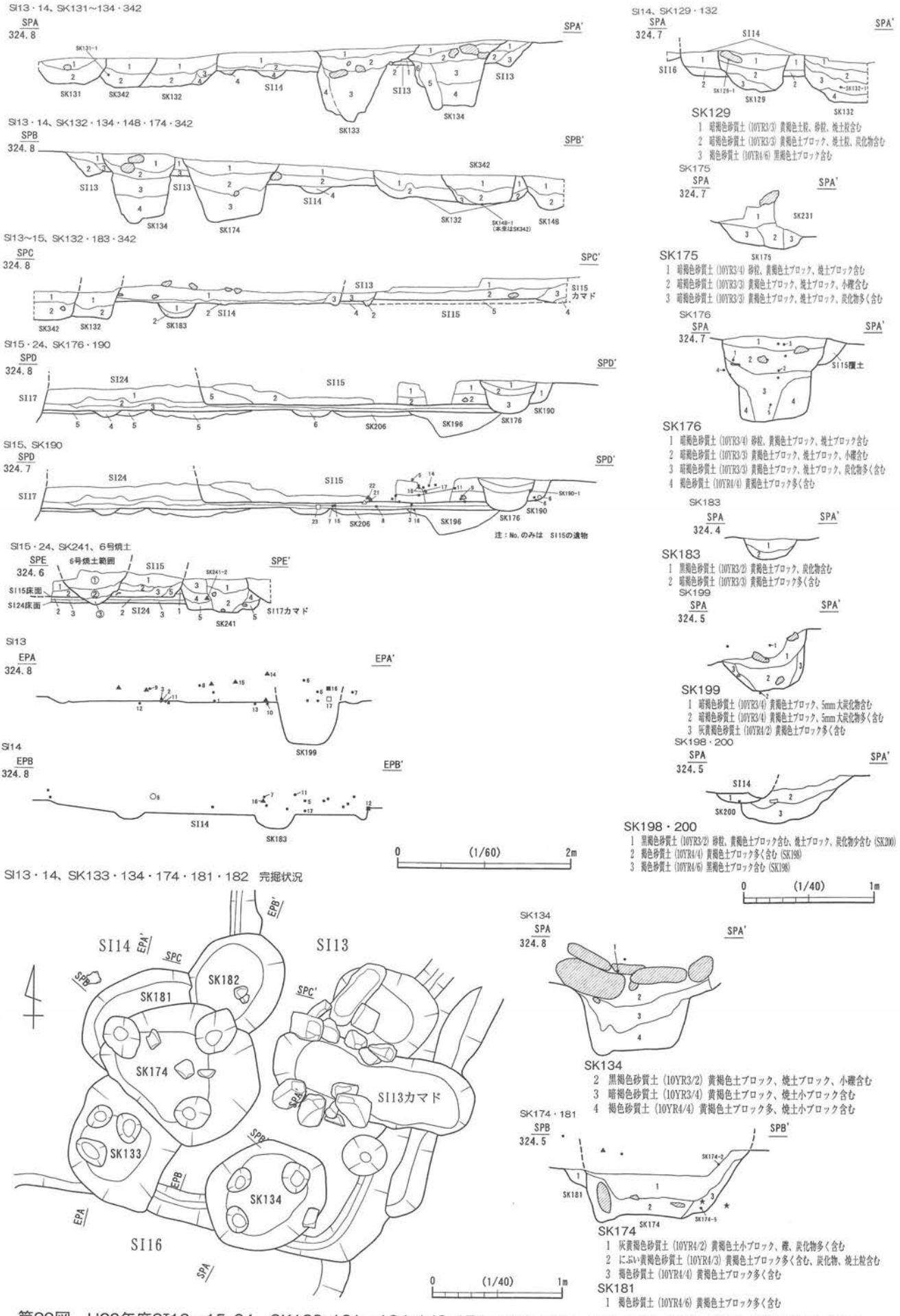
SK126
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む
2 黒褐色砂質土（10YR2/2）シルト化、黄褐色土ブロック多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/2）シルト化、黒褐色土ブロック含む



注：No.のみは SI15の遺物

0 (1/60) 2m

第28図　H20年度SI12(P1)～15・24、SK95・121・125・126・129・131～134・141～143・148・174～176・181～183・190・198～200・220・241・342



第29図　H20年度SI13～15・24、SK129・131～134・148・174～176・181～183・190・198～200・220・241・342

SI13
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック含む
3 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む
4 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック非常に多く含む

SI14
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック含む
4 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック含む

SI15
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、砂粒、小礫含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロックやや多、小礫含む
3 暗褐色砂質土（7.5YR3/3）黄褐色土ブロック、焼土ブロックやや多く含む
4 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、焼土ブロックやや多く含む
5 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多、焼土小ブロック含む

SI24
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）砂粒多、黄褐色土小ブロック多く含む
2 暗褐色砂質土 10YR3/4 黄褐色土小ブロック、焼土ブロック、砂粒、炭化物含む（貼床）
3 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、砂粒含む
4 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む
5 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色土ブロック多く含む
6 暗褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む（SK266）

SK131
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）砂粒、黒褐色土ブロック多く含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、黒褐色土ブロック多く含む

SK132
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、焼土小ブロック含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、焼土小ブロック、炭化物やや多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土小ブロック含む
4 褐色砂質土（10YR4/4） 黄褐色土小ブロック多く含む

SK133
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）砂粒多く含む
2 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、小礫含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック、焼土ブロック含む
4 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土小ブロック、炭化物粒含む

SK134
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）砂粒、焼土粒、黄褐色土粒、小礫含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、小礫含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む
4 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック含む
5 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む
6 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む、炭化物粒含む

SK148
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック多く含む、焼土粒含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む

SK174
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）砂粒多く含む、焼土粒含む
2 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、小礫含む
3 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、小礫含む

SK176
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）砂粒、黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、小礫含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、炭化物多く含む

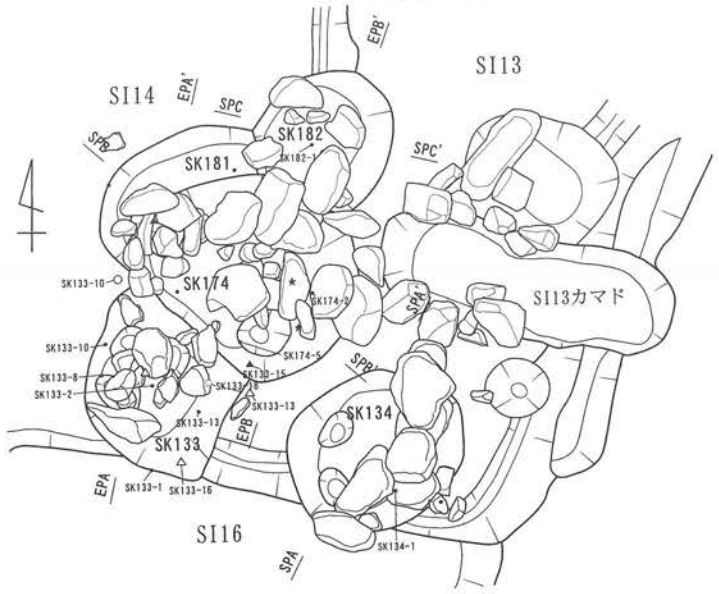
SK190
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、炭化物含む

SK241
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小フロック、炭化物含む
2 黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小フロック、炭化物含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小フロック、炭化物含む
4 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む
5 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む

SK342
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）焼土小ブロック、炭化物含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土小ブロック多く含む、焼土粒含む
3 暗褐色砂質土（10TR3/4）黄褐色土ブロック含む

6号焼土
① 暗褐色砂質土（10YR3/4）焼土ブロック多く含む、黄褐色土ブロック含む
② 黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土粒含む
③ 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む

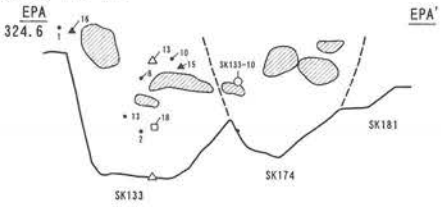
SI13・14、SK133・134・174・181・182　上部礫出土状況



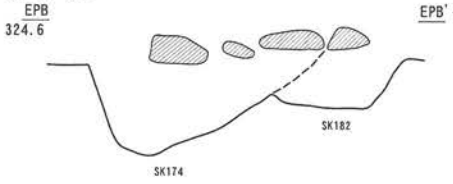
SK182

1　暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む、炭化物、焼土ブロック含む
2　褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む

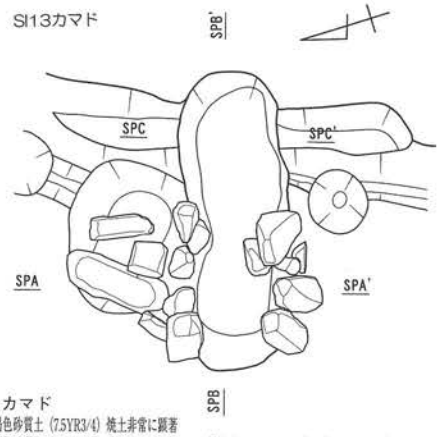
SK133・174・181



SK174・182

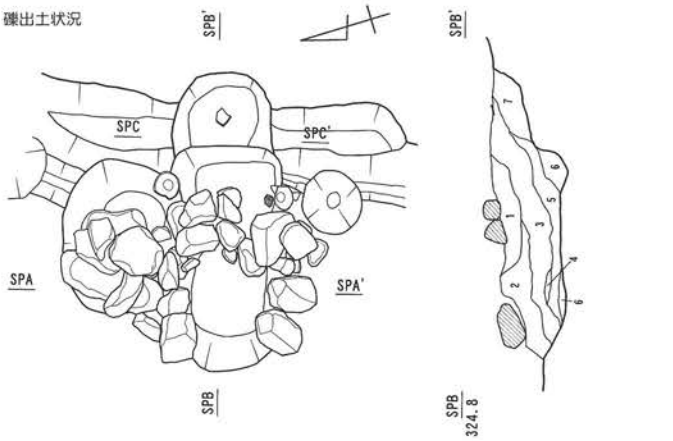


SI13カマド

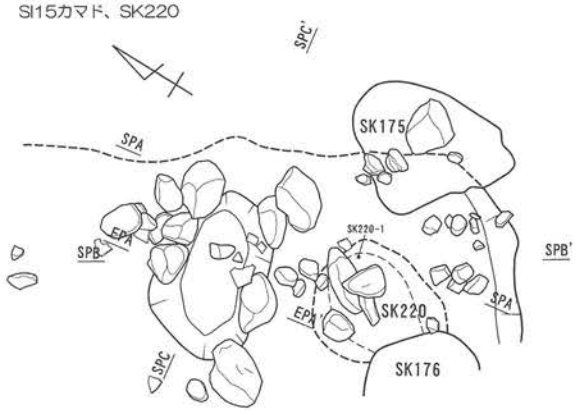


SI13 カマド
1　暗褐色砂質土（7.5YR3/4）焼土非常に顕著
2　暗褐色砂質土（7.5YR3/4）黄褐色土小ブロック、焼土小ブロックやや多く含む、炭化物含む
3　褐色砂質土（7.5YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック含む
4　暗赤褐色砂質土（2.5YR3/6）焼土
5　灰黄褐色砂質土（7.5YR4/2）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む
6　褐色砂質土（7.5YR4/4）焼土粒、炭化物粒含む
7　褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む、焼土粒、炭化物粒含む
8　暗褐色砂質土（10YR3/2）

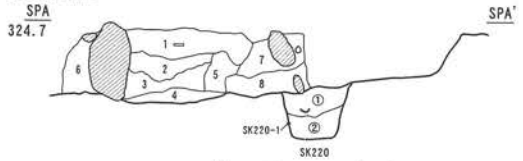
礫出土状況



SI15カマド、SK220

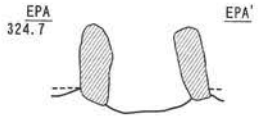


SI15、SK220

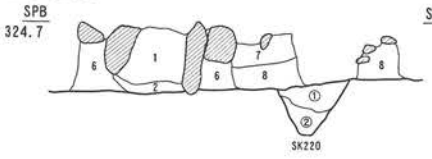


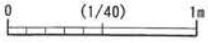
SI15 カマド
1　暗褐色砂質土（7.5YR3/4）焼土ブロック、黄褐色土小ブロック多く含む
2　暗褐色砂質土（7.5YR3/3）焼土ブロック、黄褐色土小ブロック多く含む
3　暗褐色砂質土（7.5YR3/3）焼土ブロック、炭化物、黄褐色土ブロック多く含む
4　にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む
5　暗褐色砂質土（7.5YR3/3）焼土ブロック多く含む
6　暗褐色砂質土（7.5YR3/3）焼土小ブロック、炭化物多く含む
7　暗褐色砂質土（7.5YR3/3）焼土ブロック、炭化物含む
8　黒褐色砂質土（7.5YR3/2）黄褐色土粒、焼土粒多く含む

SK220
①　黒褐色砂質土（10YR3/2）焼土小ブロック、黄褐色土ブロック含む
②　暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック多く含む、焼土小ブロック含む



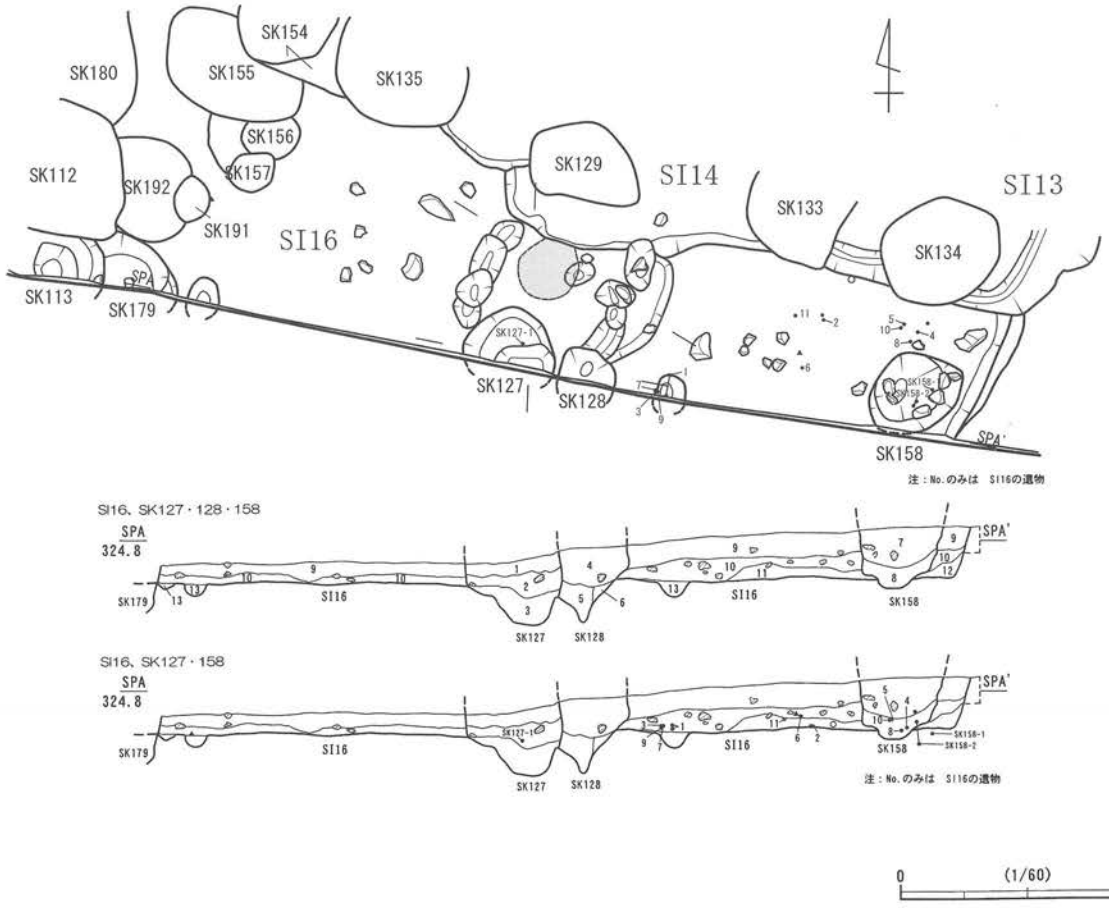
SI15、SK220



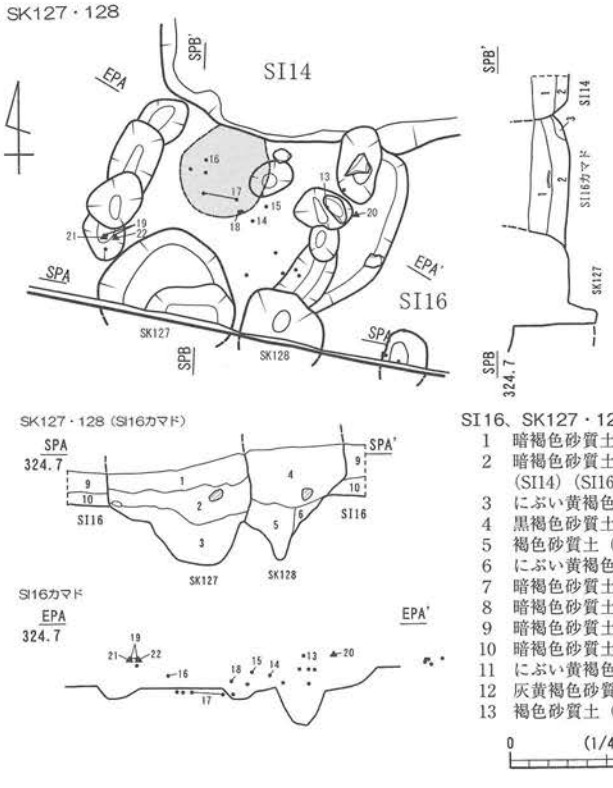


第30図　H20年度SI13～15、SK133・134・174・181・182・220

SI16、SK127・128・158



SI16カマド、SK127・128



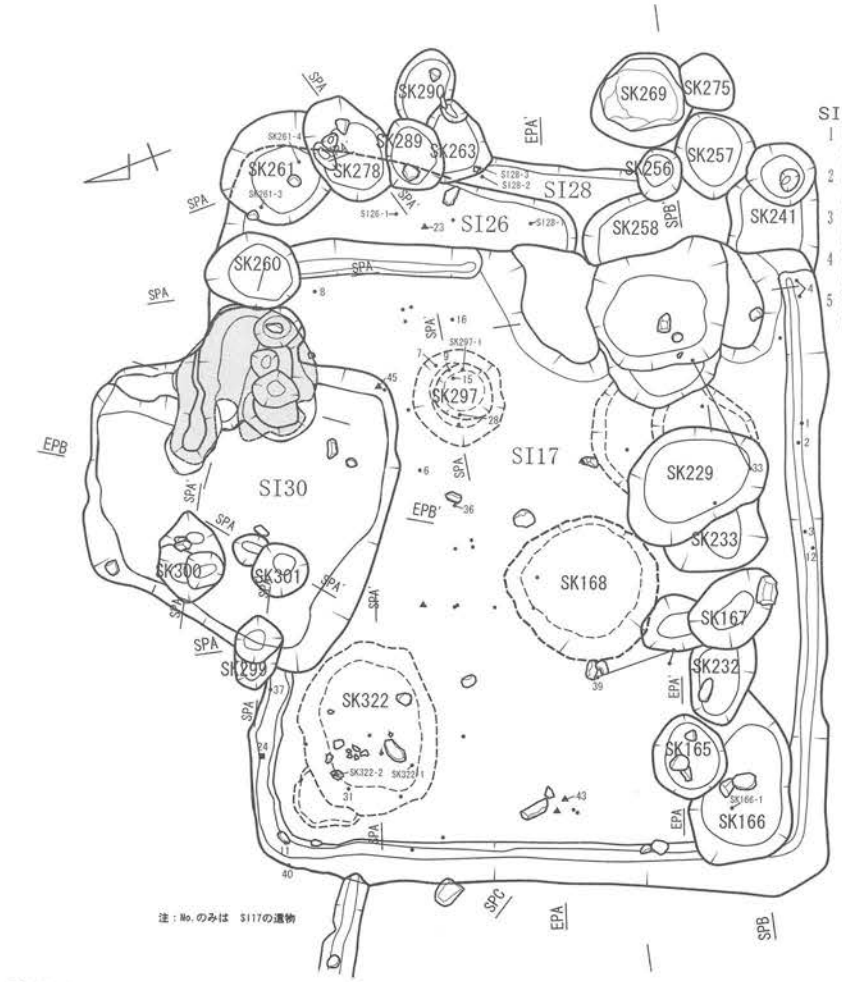
SI16、SK127・128・158、(SI14)

1 暗褐色砂質土（10YR3/3）焼土粒、黄褐色土粒含む（SI14）（SI16）（SK127）
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土ブロック少含む（SI14）（SI16）（SK127）
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む（SI16）（SK127）
4 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む（SK128）
5 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック（SK128）
6 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック含む（SK128）
7 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック、礫含む（SK158）
8 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック含む（SK158）
9 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土粒、砂粒、焼土粒含む（SI16）
10 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土粒、砂粒、焼土粒含む（SI16）
11 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック、炭化物、焼土粒含む（SI16）
12 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む（SI16）
13 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む（SI16）

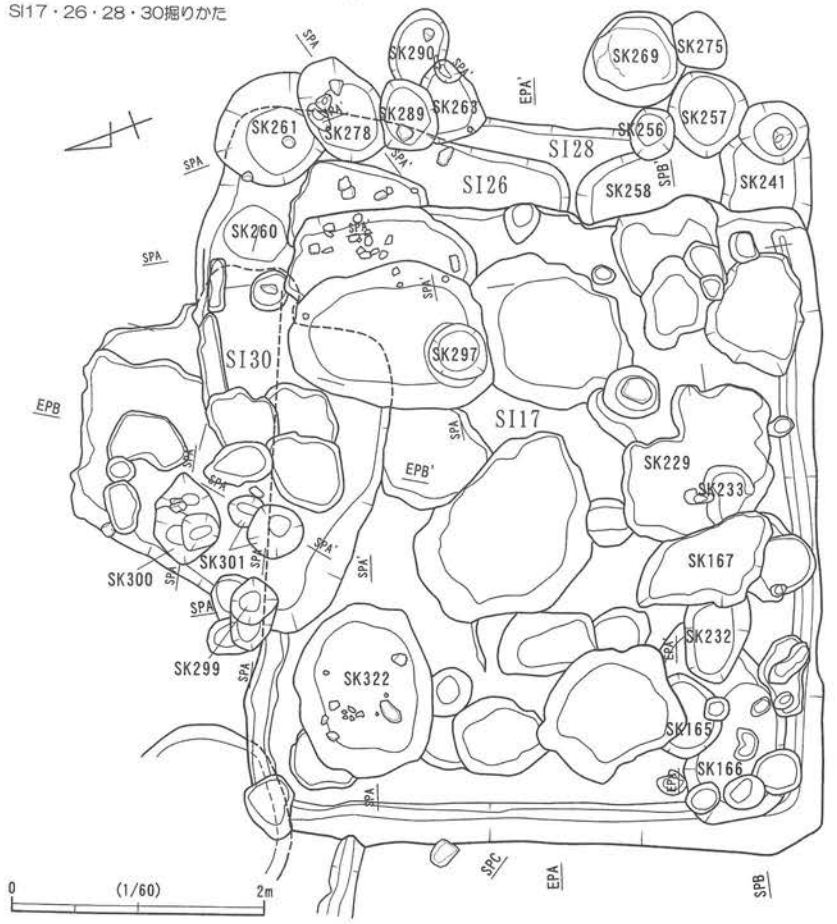
0 (1/40) 1m

第31図　H20年度SI16、SK127・128・158

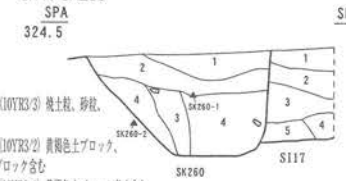
SI17・26・28・30、SK165～167・229・232・233・256・258・260・261・278・297・299・300・301・322



SI17・26・28・30掘りかた



SI17、SK260



SI17
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）焼土粒、砂粒、焼土物含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、炭化物、焼土ブロック含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む、炭化物、焼土小ブロック少含む
4 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック含む、焼土小ブロック含む
5 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック含む、炭化物含む

SK260
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、焼土小ブロック、黄褐色土粒含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）焼土粒、黄褐色土粒含む
3 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、焼土粒、炭化物含む
4 黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色土粒、焼土粒、炭化物含む、黄褐色土ブロック多く含む

SK261
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）砂粒、黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック含む

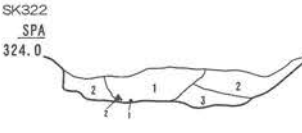
SK278
1 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック少含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む
3 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色ブロック含む

SK297
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土小ブロック多く含む、炭化材、焼土粒少含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土粒含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む

SK299
1 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック含む

SK300
1 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック少含む

SK301
1 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック少含む

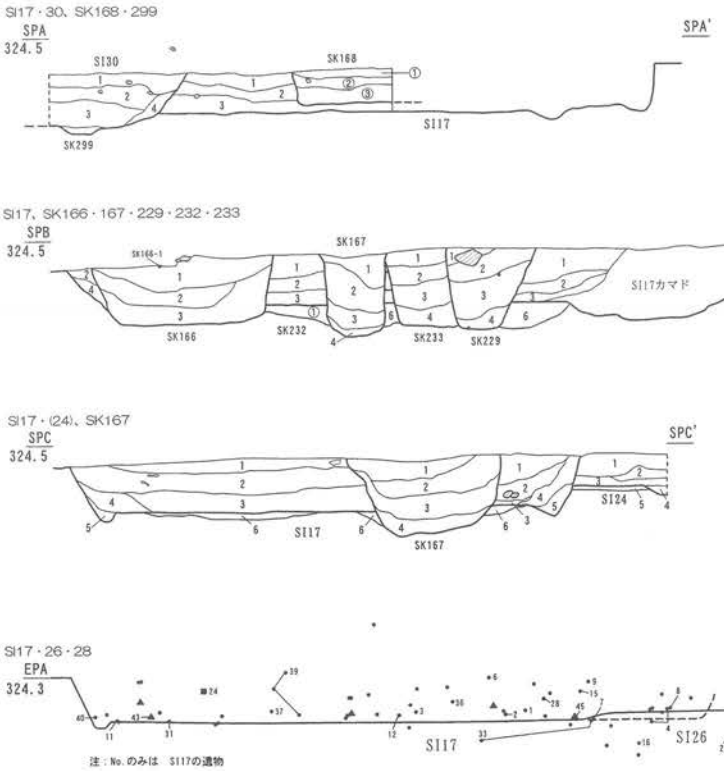


SK322
1 灰褐色砂質土（7.5YR4/2）やや粘性あり、焼土小ブロック、黄褐色土小ブロック多く含む
2 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック、炭化物、焼土粒含む

0 (1/40) 1m

第32図　H20年度SI17・26・28・30、SK165～167・229・232・233・256・258・260・261・278・297・299・300・301・322

SI17・26・28・30



SI17
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、砂粒、焼土小ブロック、炭化物含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土小ブロック、焼土小ブロック、炭化物含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土小ブロック、炭化物含む
4 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土小ブロック多く含む
5 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む
6 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む

SI24
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）砂粒多、黄褐色土小ブロック多く含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック、焼土ブロック、砂粒、炭化物（貼床）
3 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、砂粒
4 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む
5 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色土ブロック多く含む

SI30
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）焼土ブロック顕著
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）焼土粒、黄褐色土ブロック含む
3 黒褐色砂質土（10YR3/2）焼土粒、黄褐色土ブロック含む
4 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土ブロック、小礫少含む

SK166
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、焼土小ブロック多く含む
2 黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色土ブロック多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む

SK167
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック多、焼土ブロック含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土小ブロック、焼土ブロック含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多、焼土小ブロック多く含む
4 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多、焼土小ブロック多く含む

SK168
① 暗褐色砂質土（10YR3/4）砂粒、黄褐色土粒、焼土粒含む
② 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、黄褐色土ブロック含む
③ 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、黄褐色土ブロック、炭化物、焼土ブロック含む

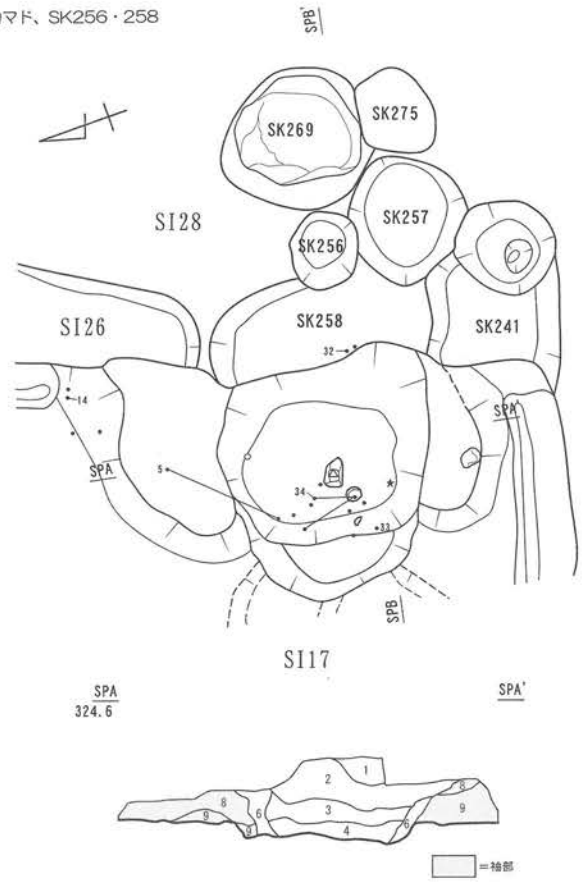
SK229
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土小ブロック含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土小ブロック、焼土小ブロック含む
4 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土小ブロック含む

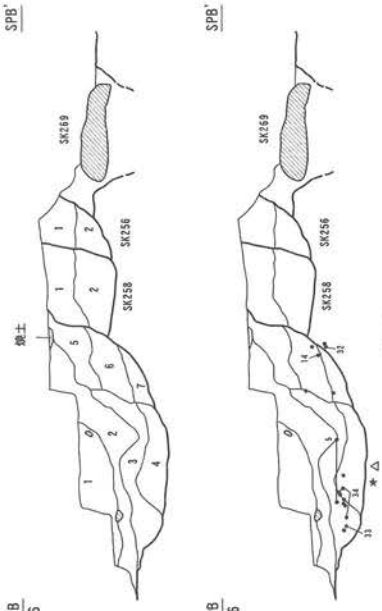
SK232
① にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック少含む

SK233
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック多く含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土小ブロック多く含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土小ブロック、焼土小ブロック含む
4 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック含む

0 (1/60) 2m

SI17カマド、SK256・258





SI17 カマド
1 にぶい褐色砂質土（10YR5/4）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック含む
2 暗褐色砂質土（7.5YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土ブロック含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、黒褐色土ブロック多く含む
4 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む、焼土ブロック少含む
5 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック多く含む
6 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む
7 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック多く含む
8 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、黒褐色土ブロック混合土
9 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、黒褐色土ブロック混合土

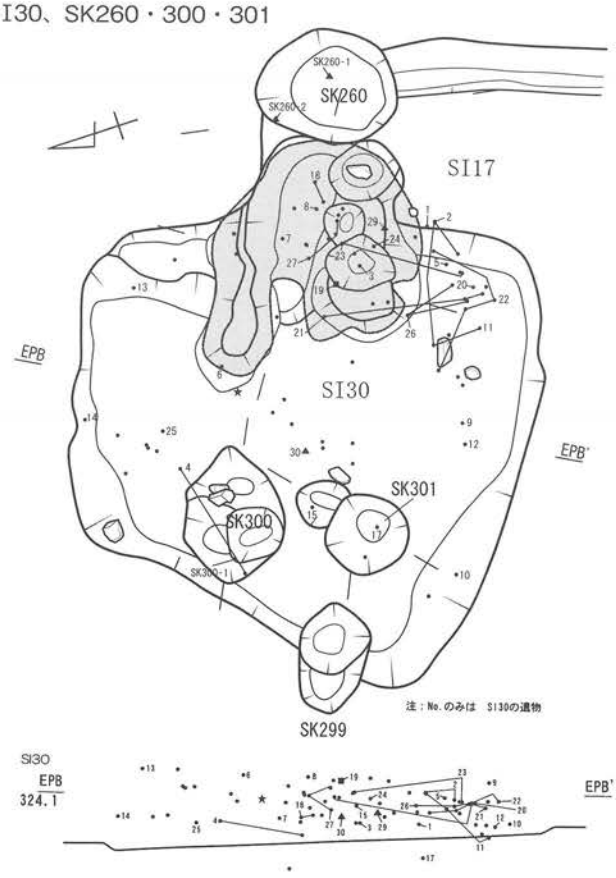
SK256
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック、炭化物含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック含む

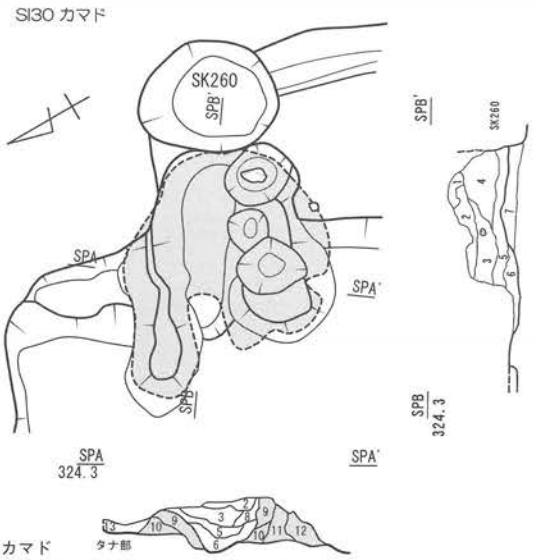
SK258
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）焼土粒、黄褐色土小ブロック、砂粒含む
2 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む

0 (1/40) 1m

第33図　H20年度SI17・26・28・30、SK166～168・229・232・233・299・256・258

SI30、SK260・300・301



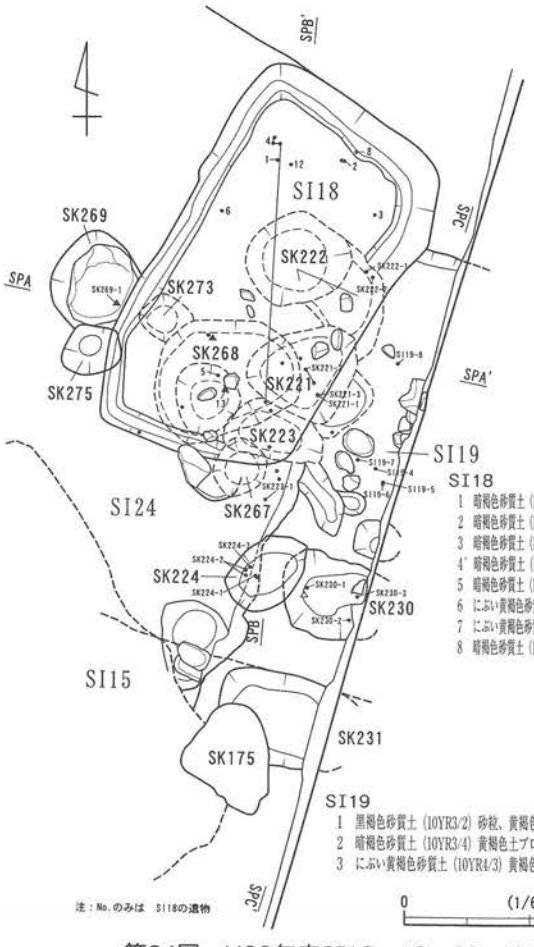


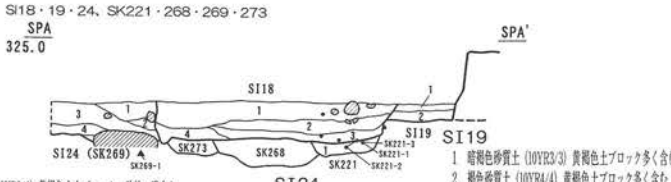
SI30 カマド

1 黒褐色砂質土（7.5YR3/2）粘土、黄褐色土粒含む
2 灰黄褐色砂質土（7.5YR4/2）焼土化顕著、炭化物多く含む
3 黒褐色砂質土（7.5YR3/1）焼土ブロック、黄褐色土ブロック多く含む
4 黒褐色砂質土（7.5YR3/2）焼土小ブロック、黄褐色土小ブロック、炭化物含む
5 暗褐色砂質土（7.5YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む
6 褐灰色砂質土（7.5YR4/1）黄褐色土ブロック多く含む
7 褐色砂質土（7.5YR4/3）黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物含む
8 褐色砂質土（7.5YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック、炭化物多く含む
9 褐色砂質土（7.5YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土ブロック、小礫含む
10 灰褐色砂質土（7.5YR4/2）黄褐色土ブロック含む
11 灰褐色砂質土（7.5YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む
12 灰褐色砂質土（7.5YR4/2）黄褐色土ブロックやや多く含む、焼土小ブロック、小礫含む
13 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック含む

0 (1/40) 1m

SI18・19、SK221～224・230・231・268・269・273





SI18
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック、砂粒、礫含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土小ブロック、砂粒、礫、炭化物含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック、焼土ブロック、炭化物やや多く含む
4 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック、焼土ブロック、炭化物含む

SI19
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む

SI24
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む、砂粒含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土小ブロック、焼土ブロック、炭化物含む
3 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土粒多く含む、礫含む
4 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、焼土粒含む

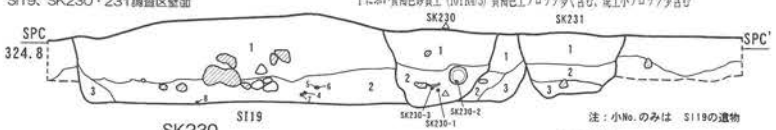
SK221
1 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）焼土ブロック、黄褐色土ブロック含む

SI18
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック、砂粒、礫含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土小ブロック、砂粒、礫、炭化物含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック、焼土ブロック、炭化物やや多く含む
4' 暗褐色砂質土（10YR3/4）小礫、焼土小ブロック、黄褐色土ブロック含む
5 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む
6 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む、炭化物含む、焼土小ブロック少含む
7 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む
8 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック少含む

SI24
1 暗褐色砂質土（7.5YR3/3）砂粒、小礫、黄褐色土粒含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）砂粒、小礫やや多く含む、黄褐色土ブロック多く含む

SK221
1 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）焼土ブロック、黄褐色土ブロック含む

SK222
1 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック少含む



SI19
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）砂粒、黄褐色土粒、焼土粒、炭化物粒含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロックやや多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む

SK230
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土小ブロック、焼土小ブロック、小礫含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む

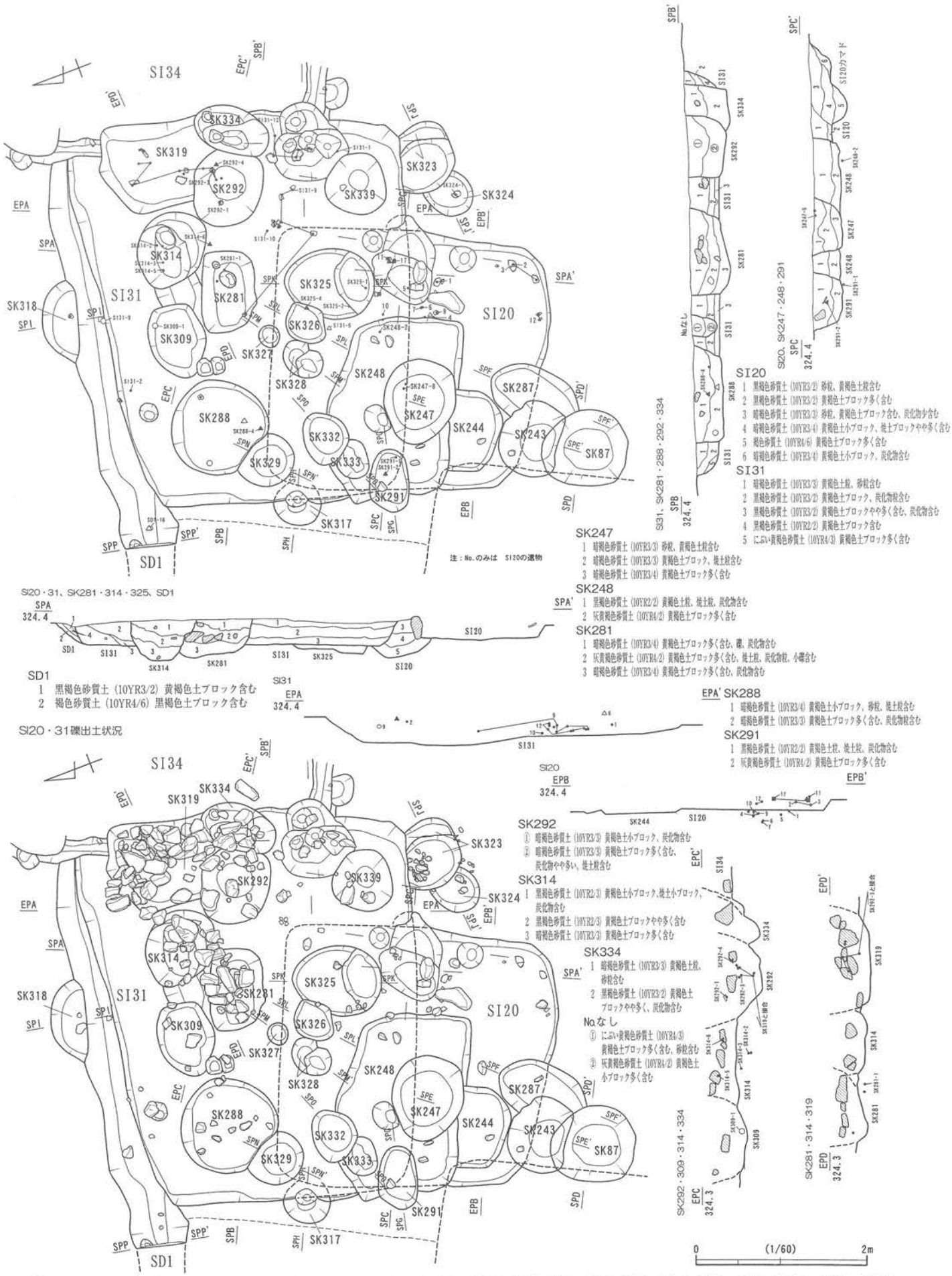
SK231
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土粒、砂粒含む
2 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む
3 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む

SK223
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、炭化物含む

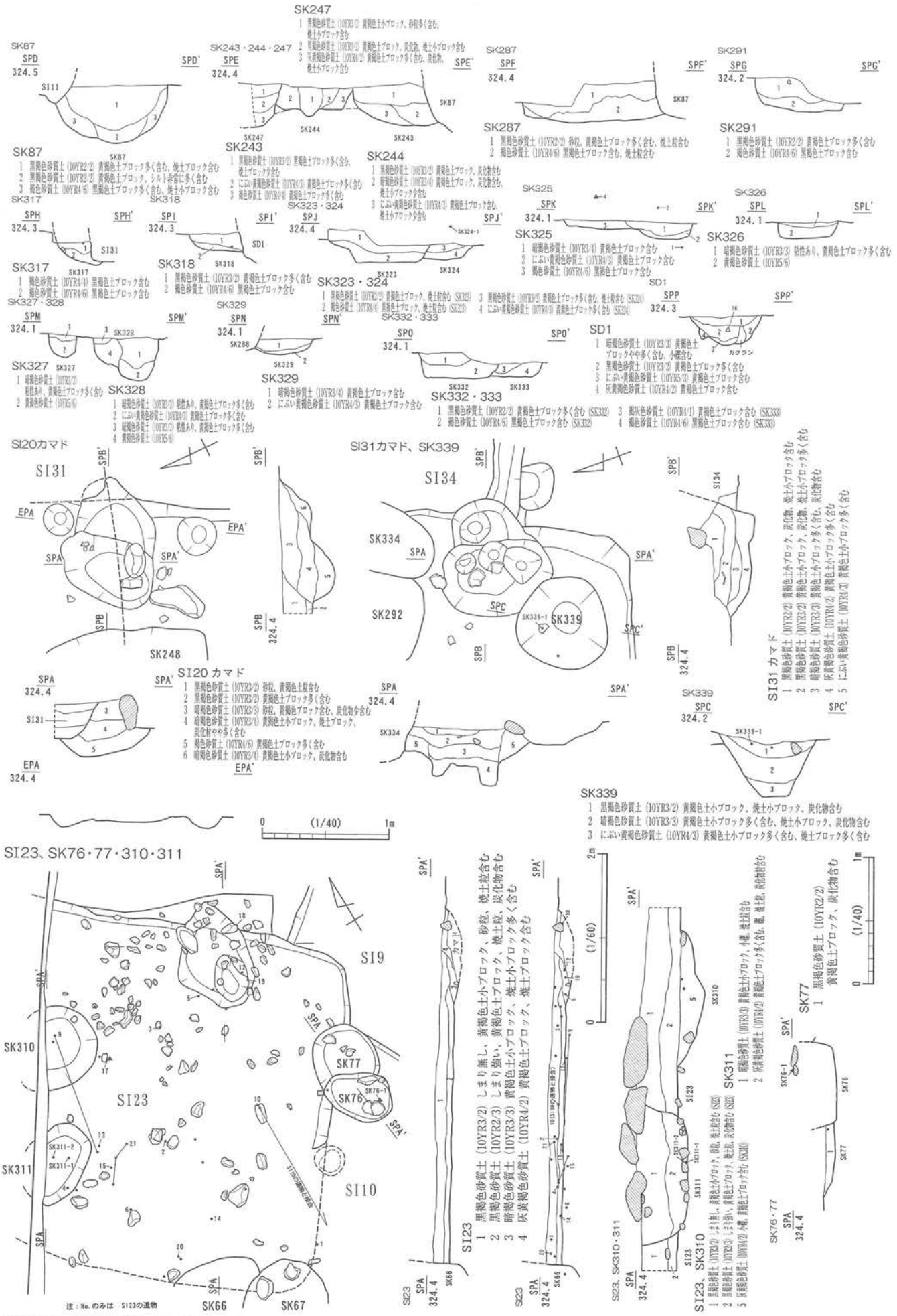
SK224
1 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む、炭化物含む

0 (1/60) 2m

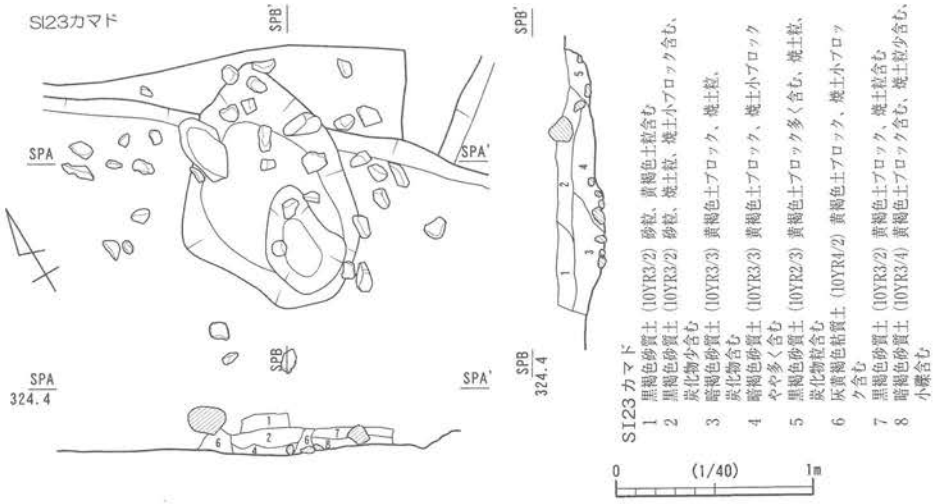
第34図　H20年度SI18・19、30、SK221～224・230・231・260・268・269・273・300・301



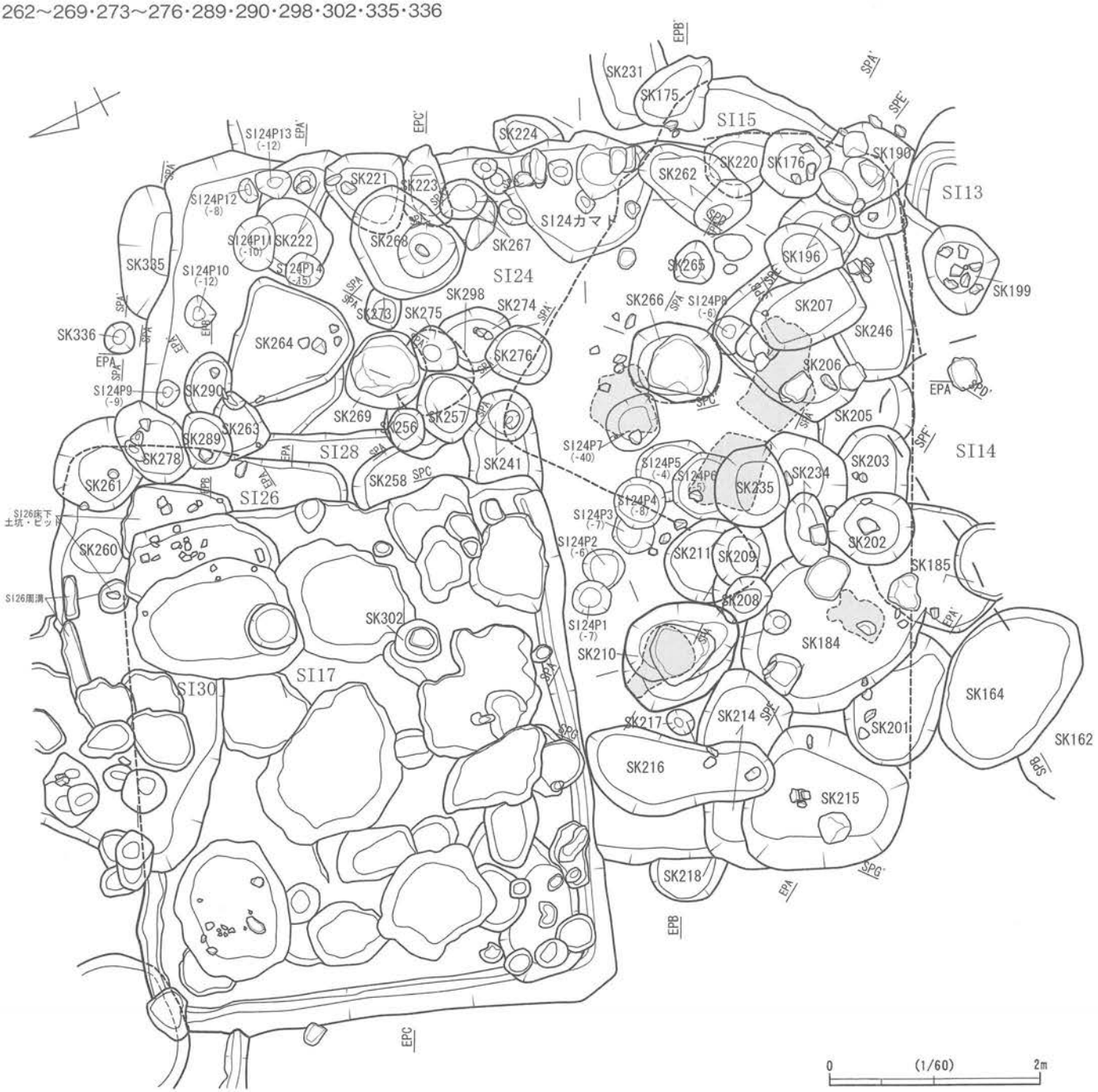
第35図　H20年度SI20・31、SK87・243・244・247・248・281・287・288・291・292・309・314・317～319・323～329、SD1



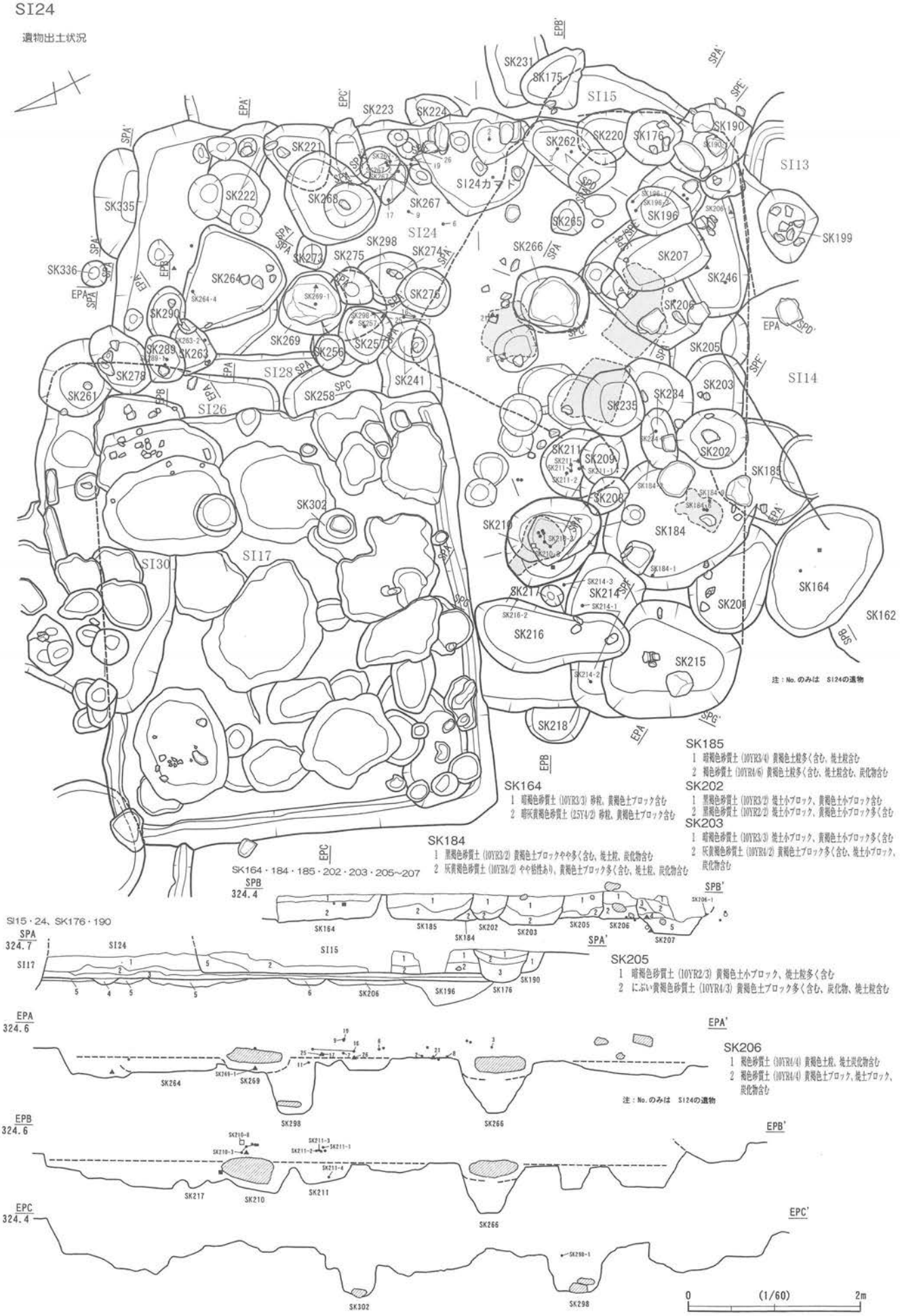
第36図　H20年度SI20・23・31、SK76・77・87・243・244・247・287・291・310・311・317・318・323～329・332・333・339、SD1



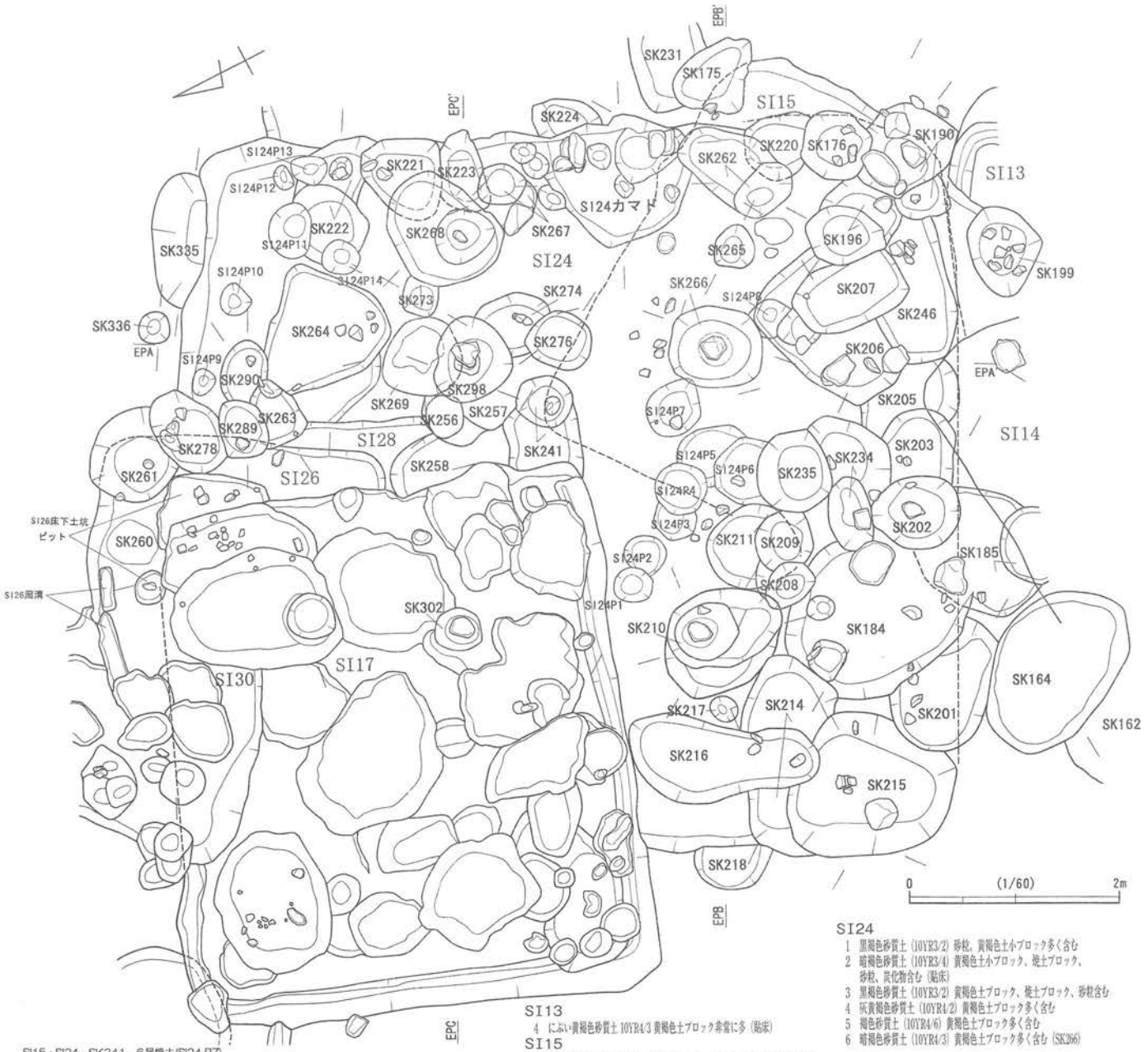
SI24(P1～14)、・SK164・176・184・185・190・196・201～203・205～211・214・217・220・222・234・235・241・246・256・257・262～269・273～276・289・290・298・302・335・336



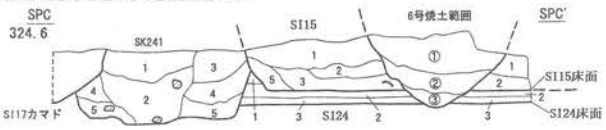
第37図　H20年度SI23・24(P1～14)、SK164・176・184・185・190・196・201～203・205～211・214～217・220・222・234・235・241・246・256・257・262～269・273～276・289・290・298・302・335・336



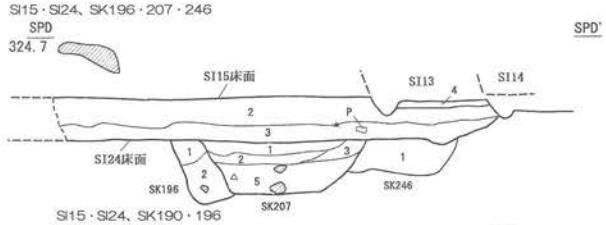
第38図　H20年度SI24(P1～P14)、前図同SK(1)



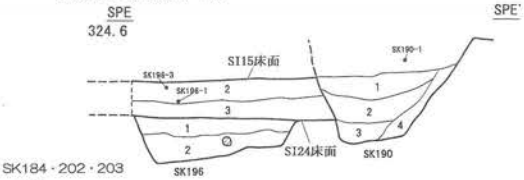
SI15・SI24、SK241、6号焼土(SI24 P7)



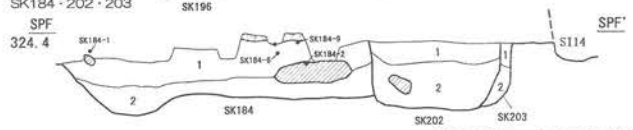
SI15・SI24、SK196・207・246



SI15・SI24、SK190・196



SK184・202・203



SI13
4 にぶい黄褐色砂質土 10YR4/3 黄褐色土ブロック非常に多 (貼床)

SI15
1 黒褐色砂質土 (10YR2/2) 黄褐色土ブロック、焼土ブロック、砂粒、小礫含む
2 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 黄褐色土ブロック、焼土ブロックやや多、小礫含む
3 暗褐色砂質土 (7.5YR3/3) 黄褐色土小ブロック・焼土ブロック多く含む
4 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄褐色土小ブロック、焼土小ブロック含む (カマド)
5 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック含む

6号焼土
① 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 焼土ブロック多く含む、黄褐色土ブロック含む
② 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 黄褐色土ブロック多く含む、焼土粒含む
③ 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 黄褐色土ブロック多く含む

SK190
1 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土ブロック、焼土ブロック、炭化物含む
2 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄褐色土ブロック、焼土ブロック、炭化物含む
3 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 黄褐色土ブロック、焼土ブロック、炭化物含む
4 褐色砂質土 (10YR4/4) 黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む

SK207
1 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック少含む
2 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック少含む、炭化物含む
3 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 黄褐色土ブロック、焼土ブロック、炭化物含む
4 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄褐色土小ブロック多く含む
5 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土ブロック多く含む

SI24
1 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 砂粒、黄褐色土小ブロック多く含む
2 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土小ブロック、焼土ブロック、砂粒、炭化物含む (貼床)
3 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 黄褐色土ブロック、焼土ブロック、砂粒含む
4 灰黄褐色砂質土 (10YR4/2) 黄褐色土ブロック多く含む
5 褐色砂質土 (10YR4/6) 黄褐色土ブロック多く含む
6 暗褐色砂質土 (10YR4/3) 黄褐色土ブロック多く含む (SK266)

SK241
1 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 黄褐色土ブロック多く含む、焼土小フロック、炭化物含む
2 黒褐色砂質土 (10YR2/3) 黄褐色土ブロック多く含む、焼土小フロック、炭化物含む
3 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土ブロック多く含む、焼土小フロック、炭化物含む
4 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む
5 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 黄褐色土ブロック多く含む

SK176
1 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 砂粒、黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む
2 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄褐色土ブロック、焼土ブロック、小礫含む
3 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄褐色土ブロック、焼土ブロック、炭化物多く含む

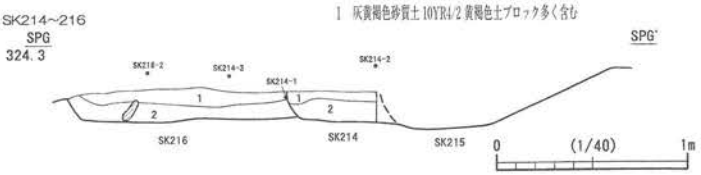
SK196
1 暗褐色砂質土 (10YR3/4) 黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む
2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3) 黄褐色土ブロック多く含む

SK214
1 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄褐色土ブロック、小礫含む、焼土小ブロック少含む
2 褐色砂質土 (10YR4/4) 黒褐色土ブロック含む、黄褐色土ブロック多く含む

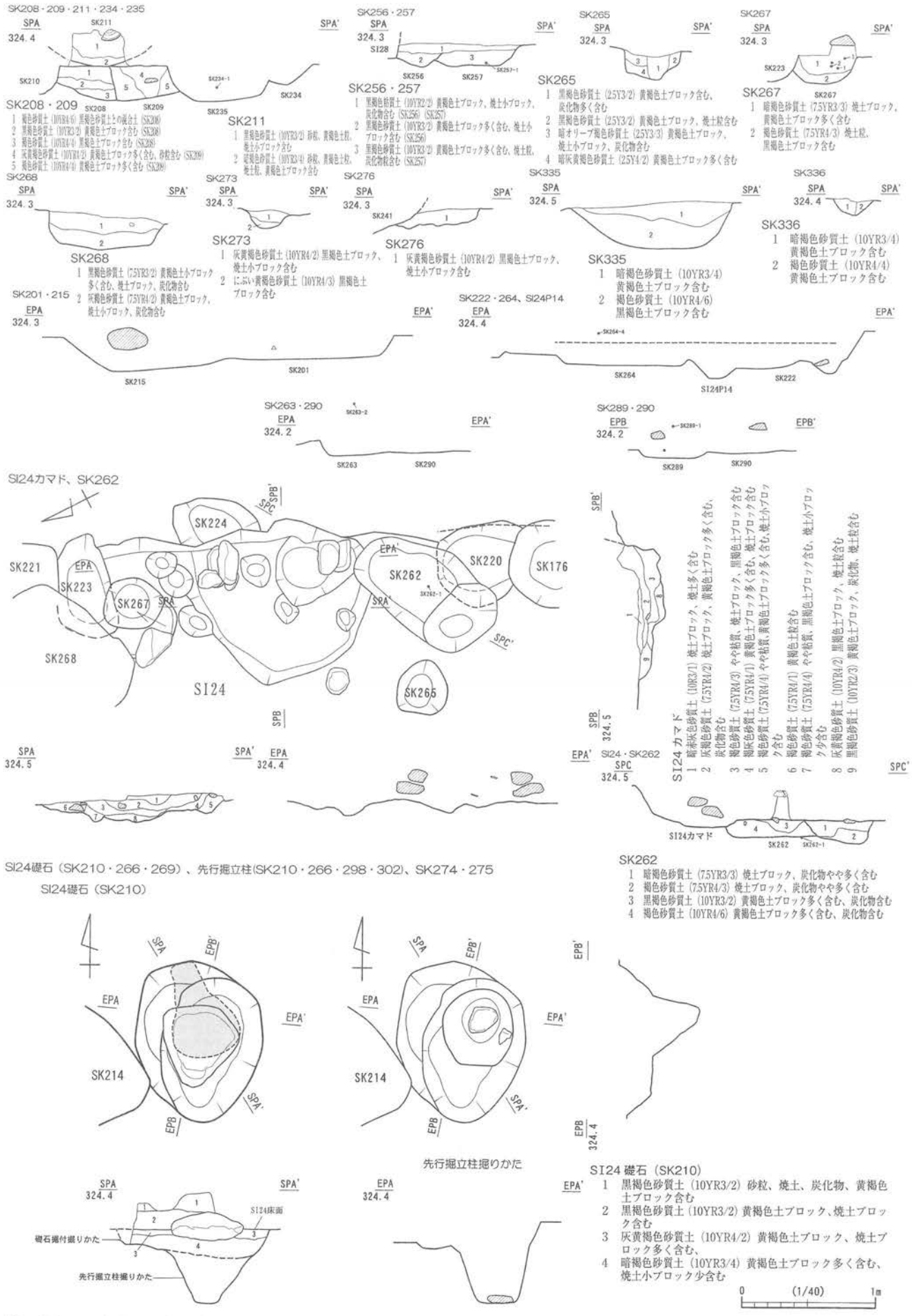
SK216
1 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物粒含む
2 褐色砂質土 (10YR4/4) 黄褐色土ブロック多く含む

SK246
1 灰黄褐色砂質土 10YR4/2 黄褐色土ブロック多く含む

SK214~216



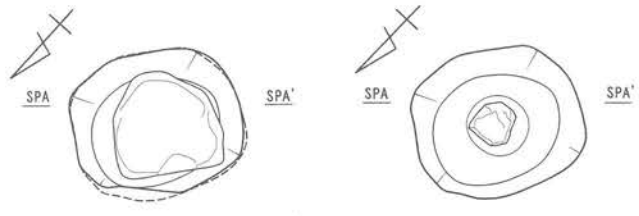
第39図　H20年度SI24(P1～14)、前図同SK(2)



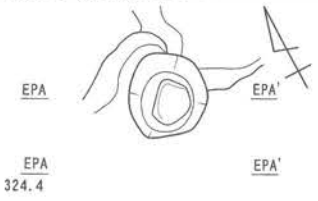
第40図　H20年度SI24(P14)、SK201・208～211・215・222・234・235・256・257・262～265・267・268・273・276・289・290・335・336

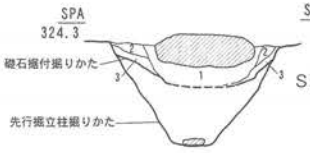
SI24

SI24礎石（SK266）



SI24（SK302） 先行掘立柱掘りかた

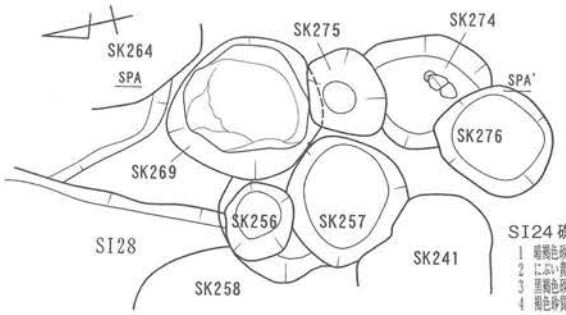


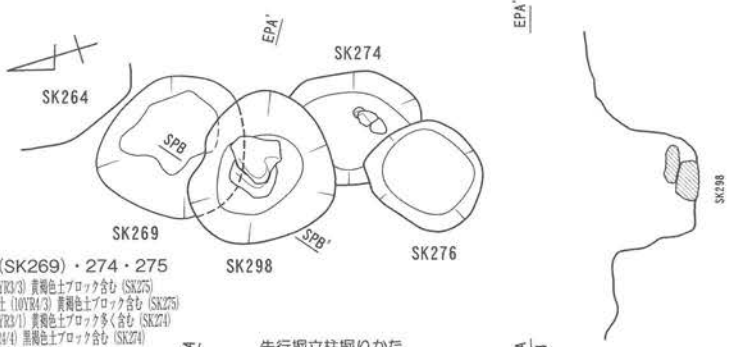


先行掘立柱掘りかた

SI24 礎石（SK266）
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む、小礫含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む、炭化物少含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック含む

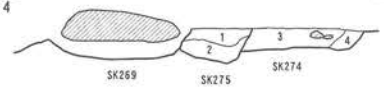
SI24礎石（SK269）



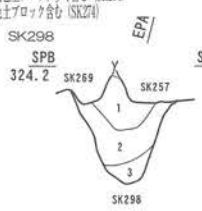


SI24 礎石（SK269）・274・275
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック含む（SK275）
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック含む（SK275）
3 黒褐色砂質土（10YR3/1）黄褐色土ブロック多く含む（SK274）
4 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック含む（SK274）

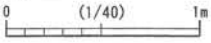
SI24礎石(SK269)・274・275



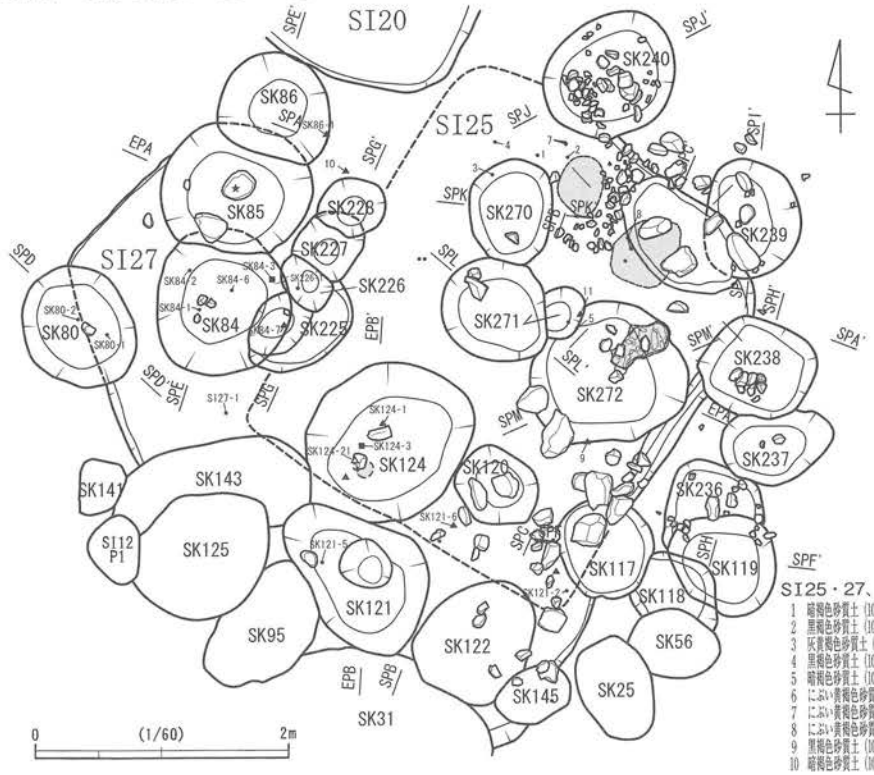
先行掘立柱掘りかた

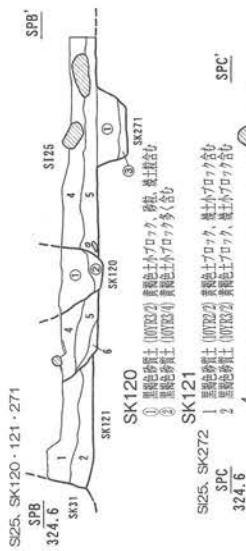


SK298
1 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）黒褐色土ブロック、黄褐色土ブロック含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック多く含む、黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック含む



SI25・27、SK80・84～86・117～121・124・225～228・236～240・270・272

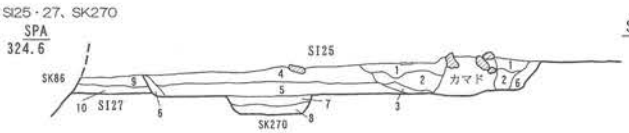


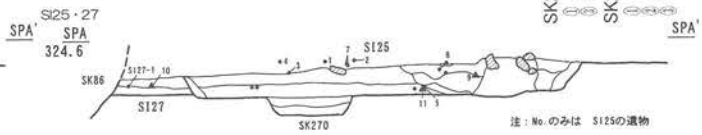


SI25・27、SK270
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、焼土ブロック多く含む（SI25）
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック多く含む（SI25）
3 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック多く含む（SI25）
4 黒褐色砂質土（10YR3/2）砂粒、黄褐色土ブロック含む（SI25）
5 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む（SI25）
6 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む（SI25）
7 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）砂粒、黒褐色土ブロック多く含む（SK270）
8 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）砂粒、黒褐色土ブロック含む（SK270）
9 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック含む（SI27）
10 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック含む（SI27）

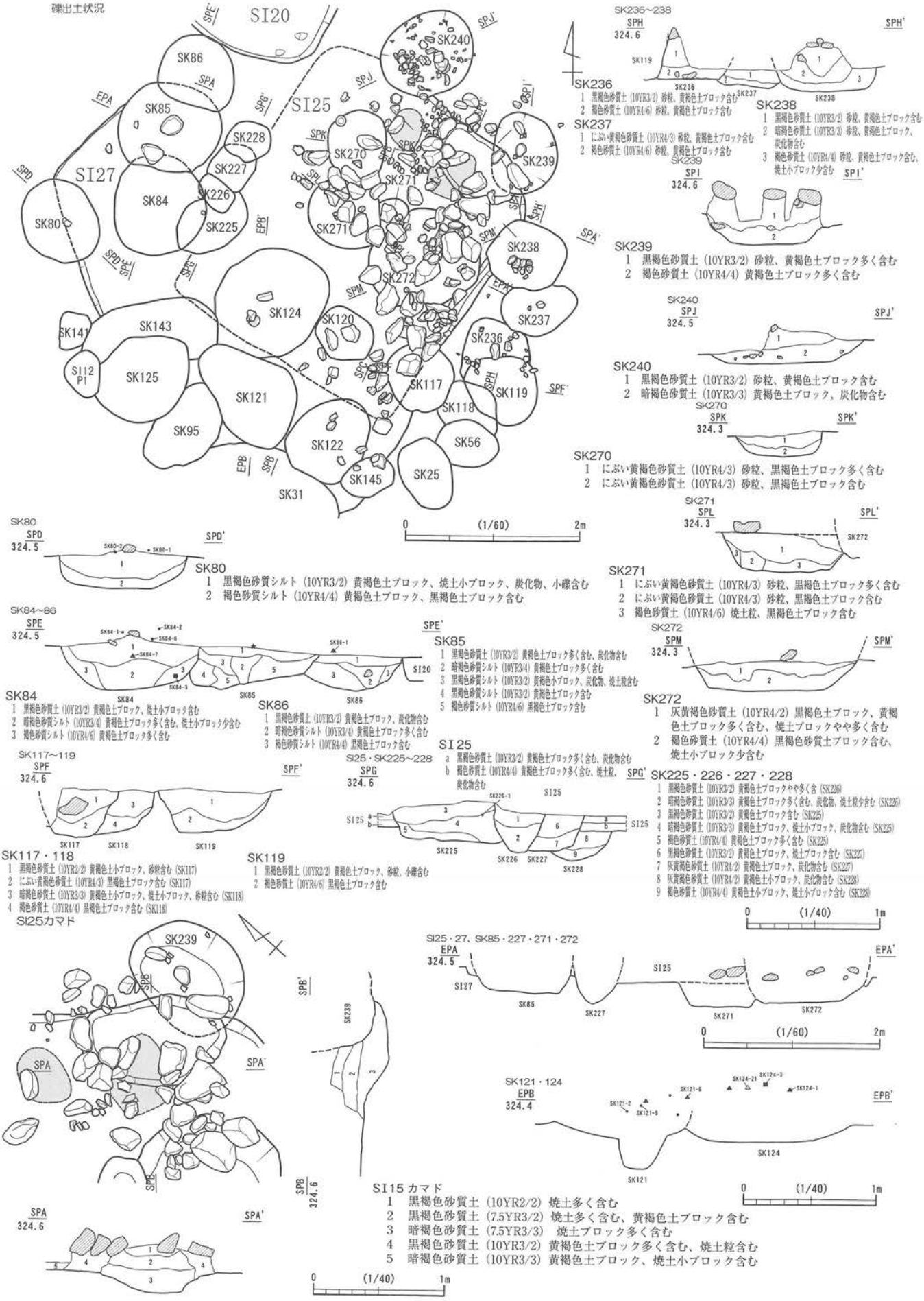
SK271
にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）砂粒、黒褐色土ブロック含む
褐色砂質土（10YR4/6）焼土粒、黒褐色土ブロック含む

SK272
にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）砂粒、黒褐色土ブロック含む
灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黒褐色土ブロック、黄褐色土ブロック多く含む、焼土ブロックやや多く含む
褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック含む、焼土小ブロック含む



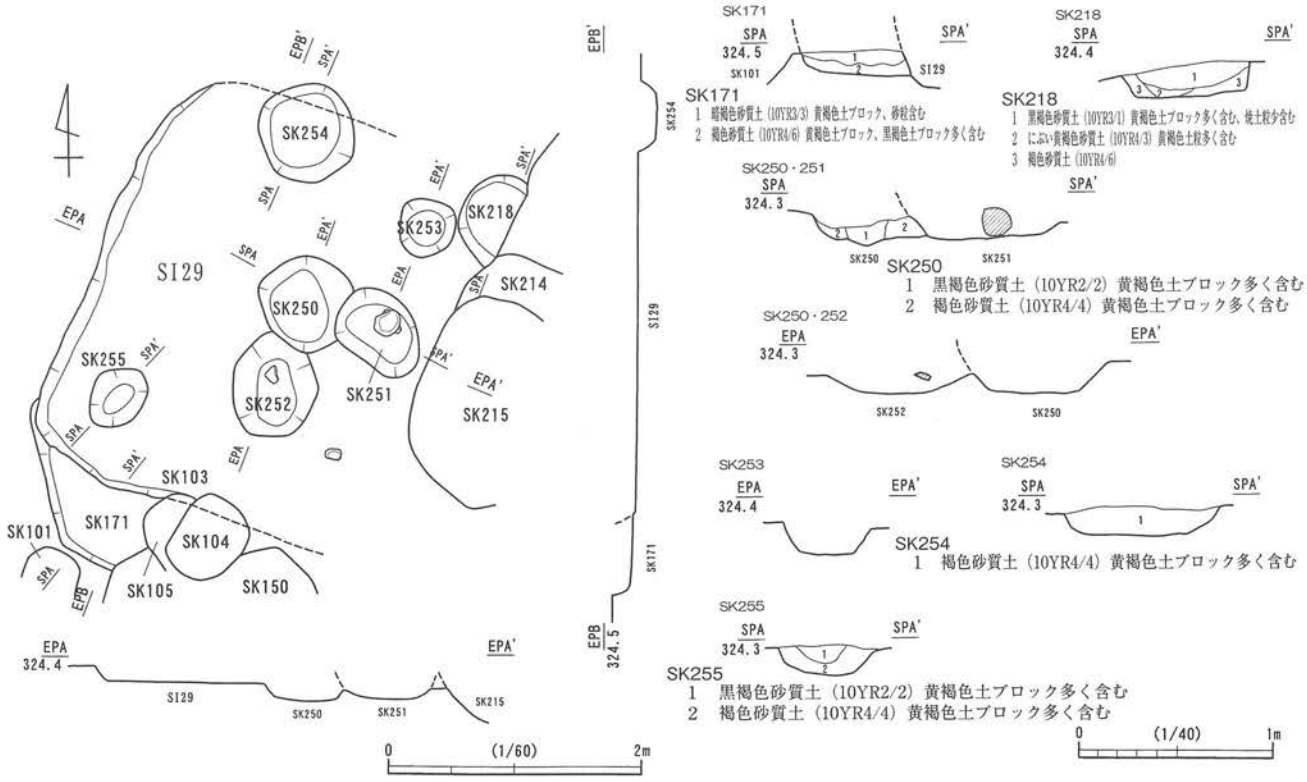


第41図　H20年度SI24・25・27、SK80・84～86・117～121・124・225～228・236～240・266・269・270～272・274・275・298・302

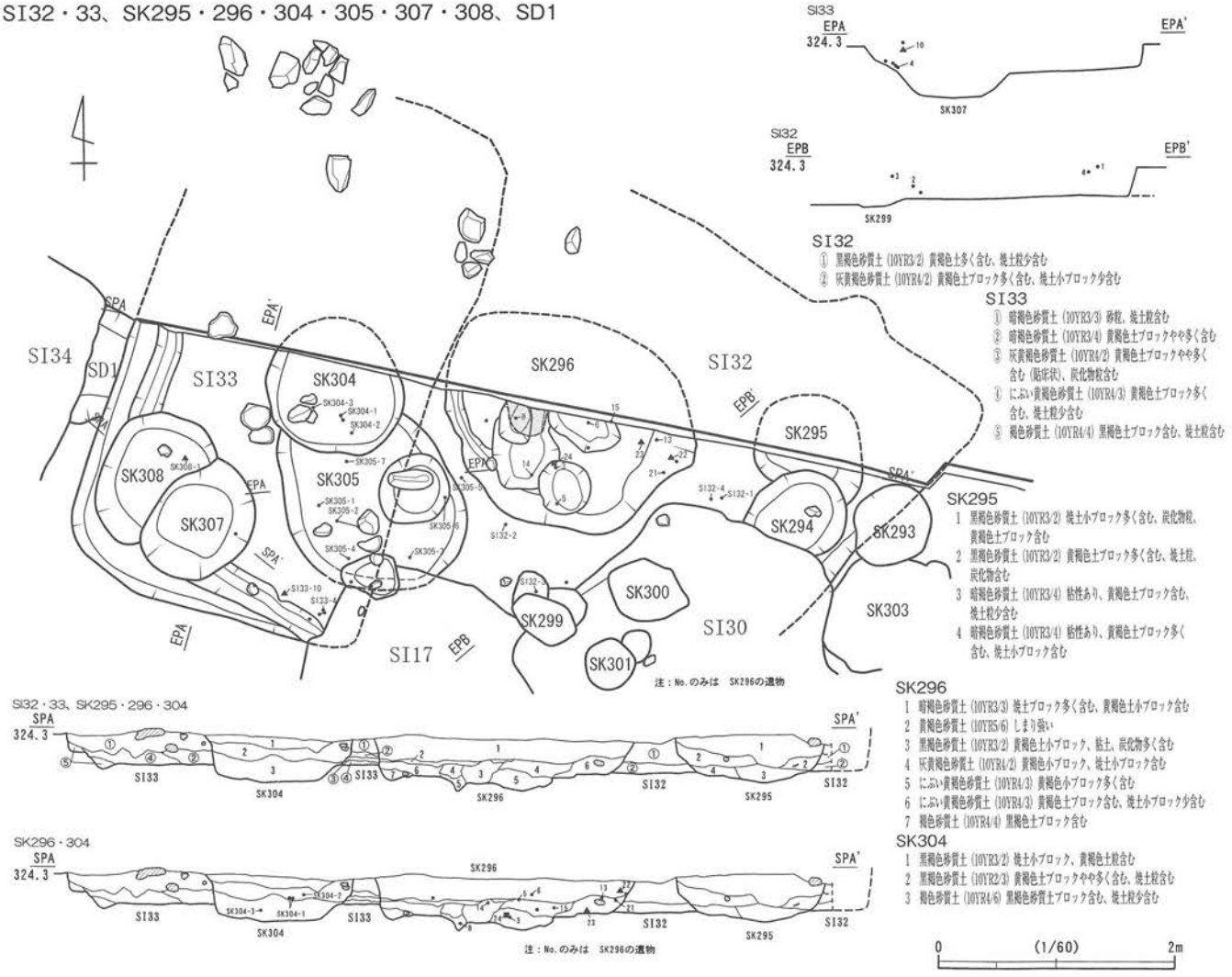


第42図　H20年度SI25・27、SK80・84～86・117～121・124・225～228・236～240・270～272

SI29、SK171・218・250～255

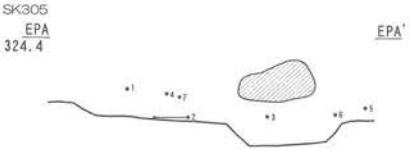


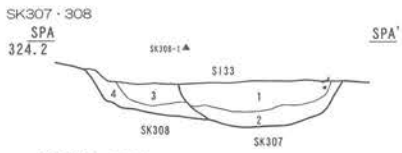
SI32・33、SK295・296・304・305・307・308、SD1



第43図　H20年度SI29・32・33、SK171・218・250～255・295・296・304・305・307・308、SD1

SI32・33

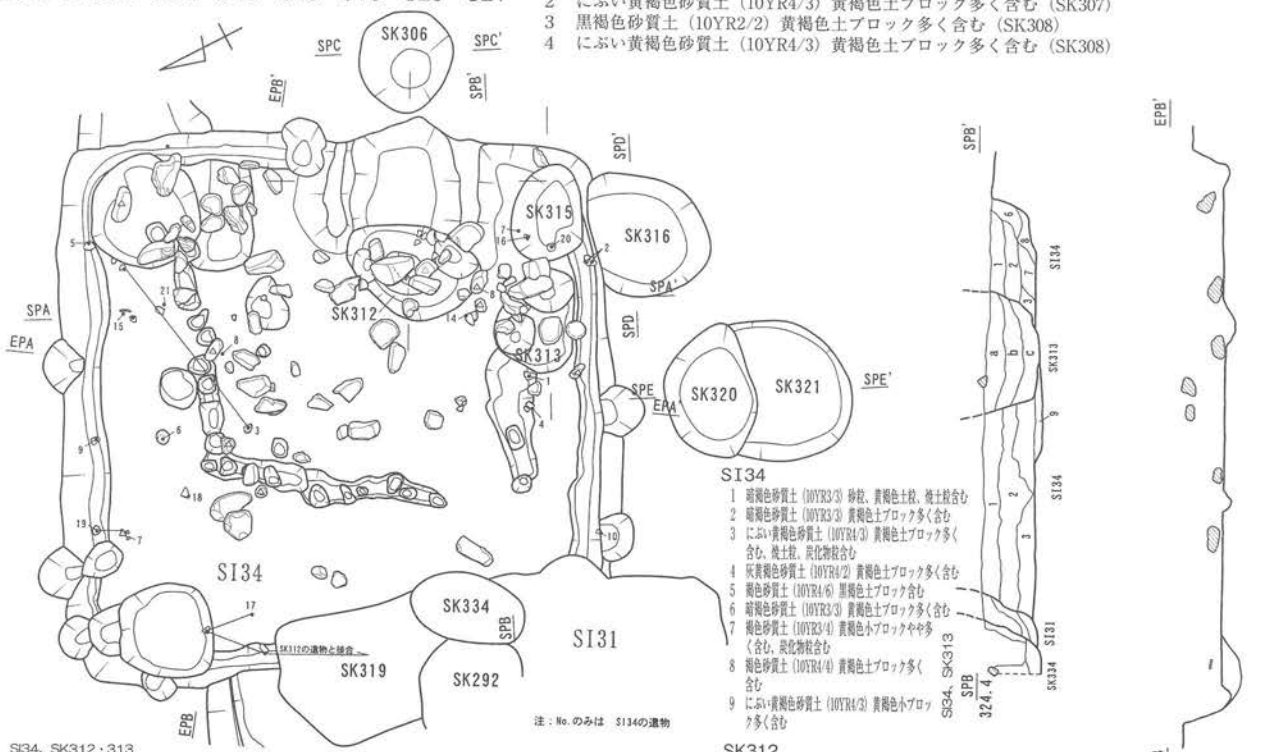




SK307・308
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む（SK307）
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む（SK307）
3 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む（SK308）
4 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む（SK308）

0 (1/40) 1m

SI34、SK306・312・313・315・316・320・321

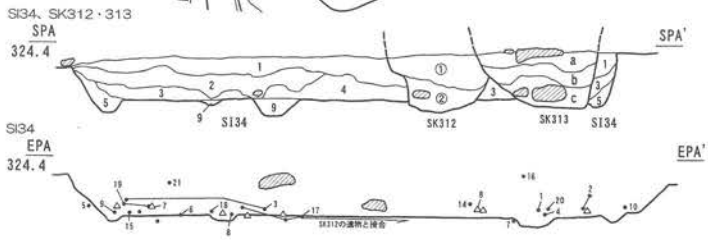


SI34
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、黄褐色土粒、焼土粒含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土粒、炭化物粒含む
4 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む
5 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック含む
6 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む
7 褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色小ブロックやや多く含む、炭化物粒含む
8 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む
9 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色小ブロック多く含む

SK312
① 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、焼土小ブロックやや多く含む
② 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック多く含む

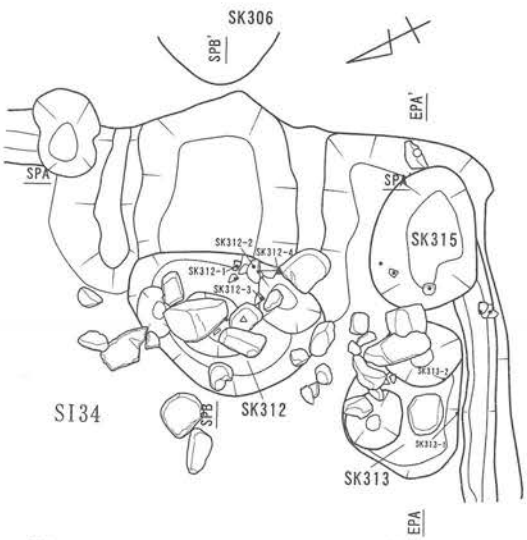
SK313
a 黒褐色砂質土（10YR2/3）砂粒、黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む
b 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、焼土小ブロック、炭化物含む
c 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロックやや多く含む、焼土小ブロック含む

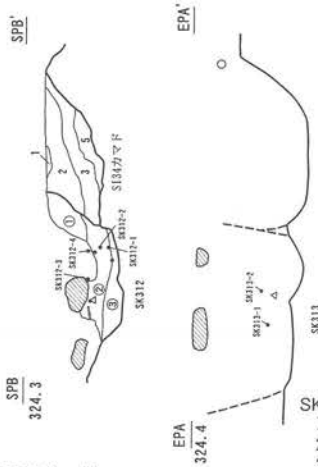
SI34、SK312・313



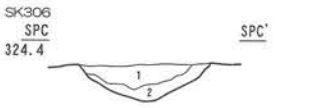
0 (1/60) 2m

SI34カマド、SK312・313・315

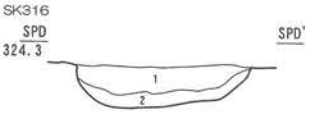




SI34 カマド
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック少含む
2 暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2）黒褐色土、黄褐色土ブロック多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）焼土ブロック多く含む、黒褐色土ブロック少含む
4 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック含む
5 黄褐色砂質土（10YR5/6）焼土粒、黒褐色土ブロック含む
6 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む
7 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3）黄褐色土ブロック多く含む
8 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む
9 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む
10 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む



SK306
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、黄褐色土小ブロック含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック、焼土粒含む



SK316
1 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック含む
2 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック含む

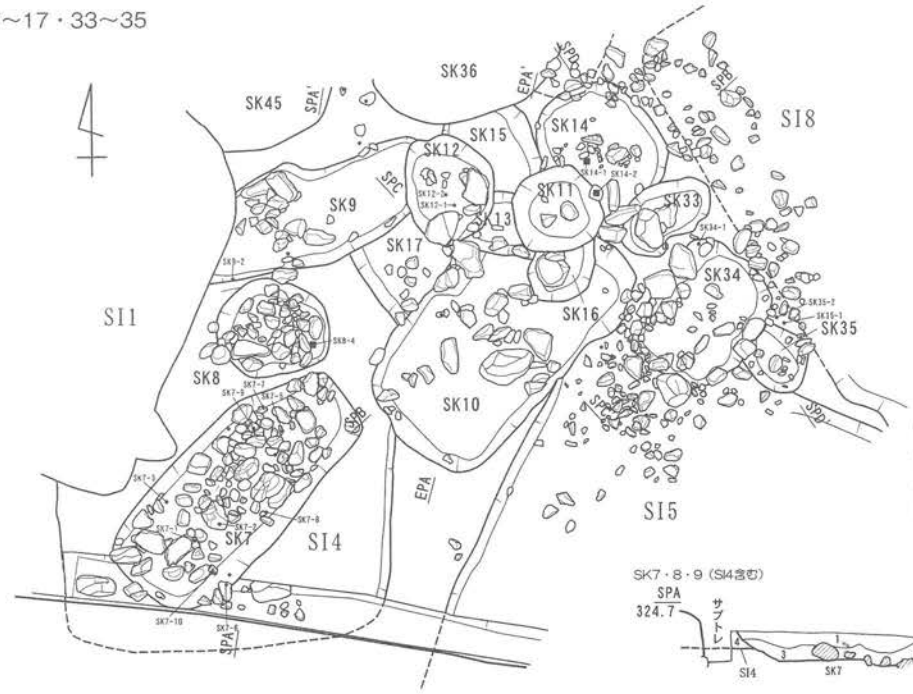
SK320・321
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック含む（SK320）
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック含む（SK320）
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む（SK321）

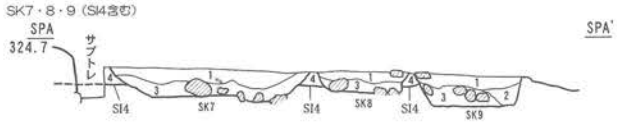
SK312
① 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土・黒褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック少含む
② 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック多く含む
③ 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック、焼土ブロック含む

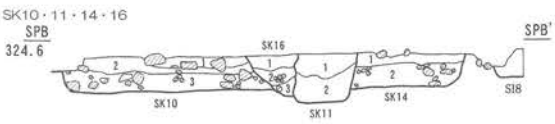
0 (1/40) 1m

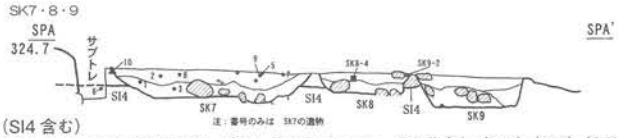
第44図　H20年度SI32～34、SK305～308・312・313・315・316・320・321

SK7～17・33～35

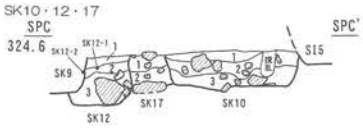


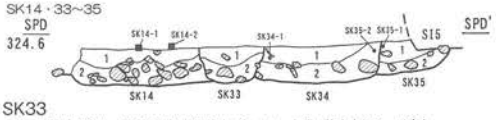






SK7・8・9（SI4 含む）
1 黒褐色砂質土（10YR3/1）黄褐色土粒、砂粒、焼土小ブロック、炭化物含む（SK7）（SK8）（SK9）
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む、焼土粒、炭化物粒含む（SK9）
3 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む、礫多く含む（SK7）（SK8）（SK9）
4 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）焼土小ブロック、黄褐色土ブロック含む（SI4）





SK10
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土粒、砂粒、小礫含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土粒、砂粒、小礫含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック主体、礫多く含む

SK11
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、砂粒含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む、小礫含む

SK12
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色小ブロック、砂粒含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色小ブロック、砂粒含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む、礫含む

SK14
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土粒、砂粒、小礫含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）礫多く含む、黄褐色土ブロック主体

SK16
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、砂粒多く含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック、砂粒、小礫多く含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む、小礫含む

SK17
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む、砂粒、小礫含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック、小礫多く含む

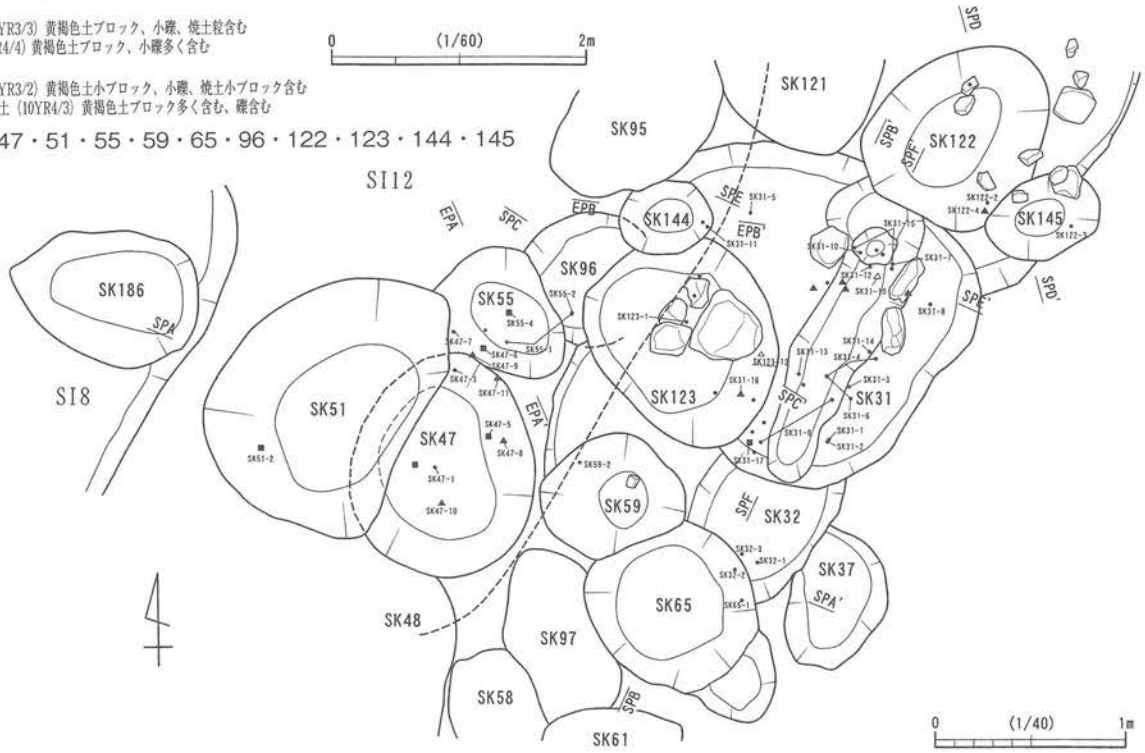
SK33
1 黒褐色砂質土（10YR3/1）黄褐色土ブロック、小礫、焼土小ブロック含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック、礫含む

SK34
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、小礫、焼土粒含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック、小礫多く含む

SK35
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、小礫、焼土小ブロック含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む、礫含む

0 (1/60) 2m

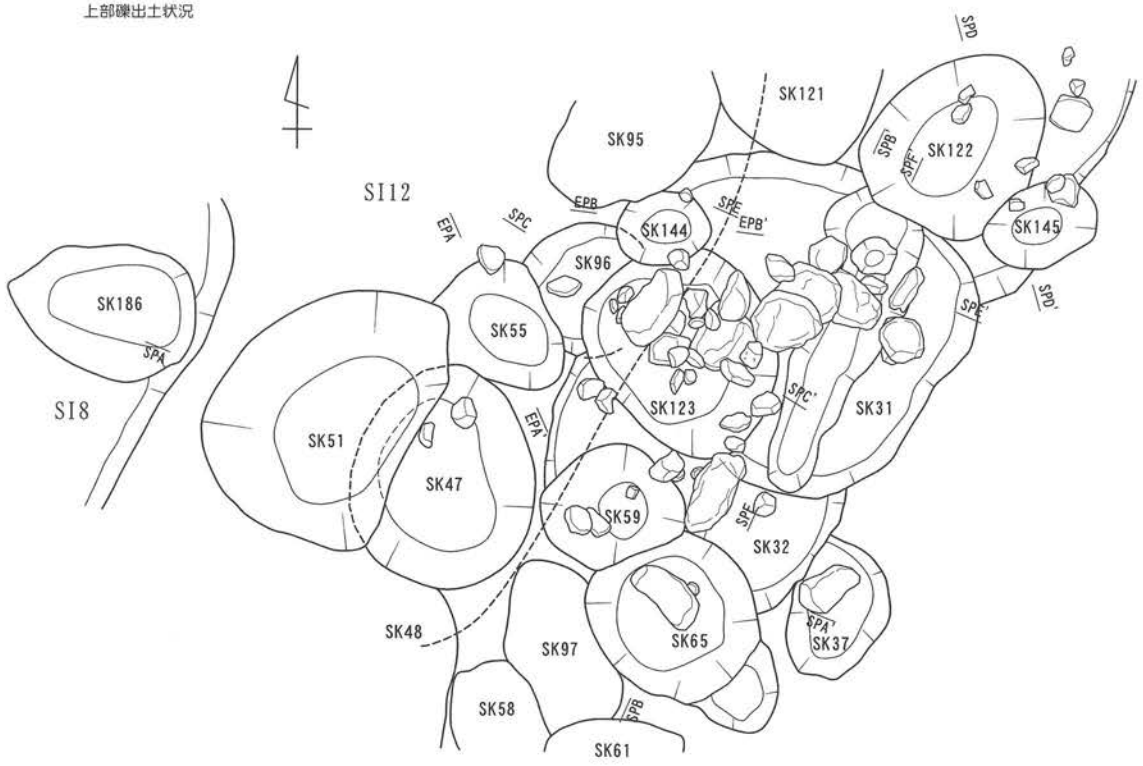
SK31・32・47・51・55・59・65・96・122・123・144・145



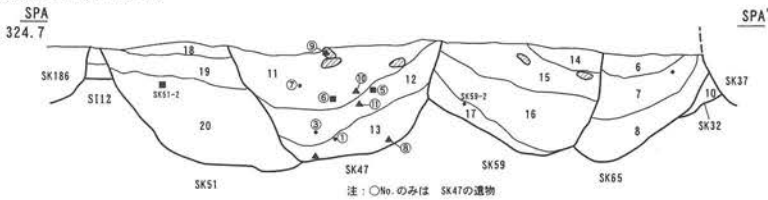
第45図　H20年度SK7～17・31～35・47・51・55・59・65・96・122・123・144・145

SK31・32・47・51・55・59・65・96・122・123・144・145

上部礫出土状況



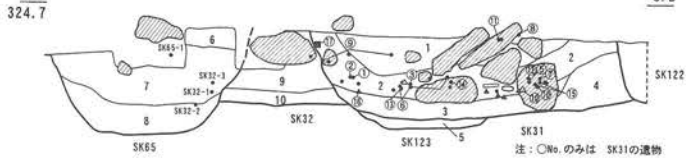
SK32・47・51・59・65



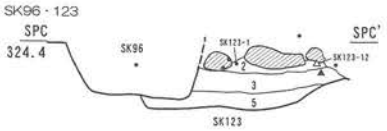
SK55

SK144

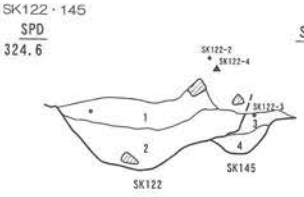
SK31・32・65・123



SK96・123



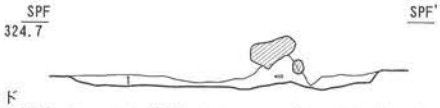
SK122・145



SK31・32・47・51・55・59・65・122・123・145

1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、砂粒、小礫含む（SK31）（SK122）
2 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む、礫含む（SK31）（SK122）（SK123）
3 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土含む、炭化物多く含む（SK31）（SK123）（SK145）
4 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む、焼土、炭化物含む（SK31）（SK145）
5 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック、焼土ブロック多く含む（SK123）
6 暗褐色砂質土（10YR3/4）黒褐色土ブロック含む（SK65）
7 暗褐色砂質土（10YR3/3）黒褐色土ブロック含む（SK65）
8 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黒褐色土ブロック含む（SK65）
9 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土ブロック含む（SK32）
10 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック、炭化物、焼土小ブロック含む（SK32）
11 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物含む（SK47）
12 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロックやや多く含む、焼土小ブロック、炭化物含む（SK47）
13 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック含む（SK47）
14 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む（SK59）
15 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む（SK59）
16 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む（SK59）
17 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック多く含む（SK59）
18 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、焼土粒、砂粒含む（SK51）
19 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土粒含む（SK51）
20 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多い（SK51）

SK31カマド遺構



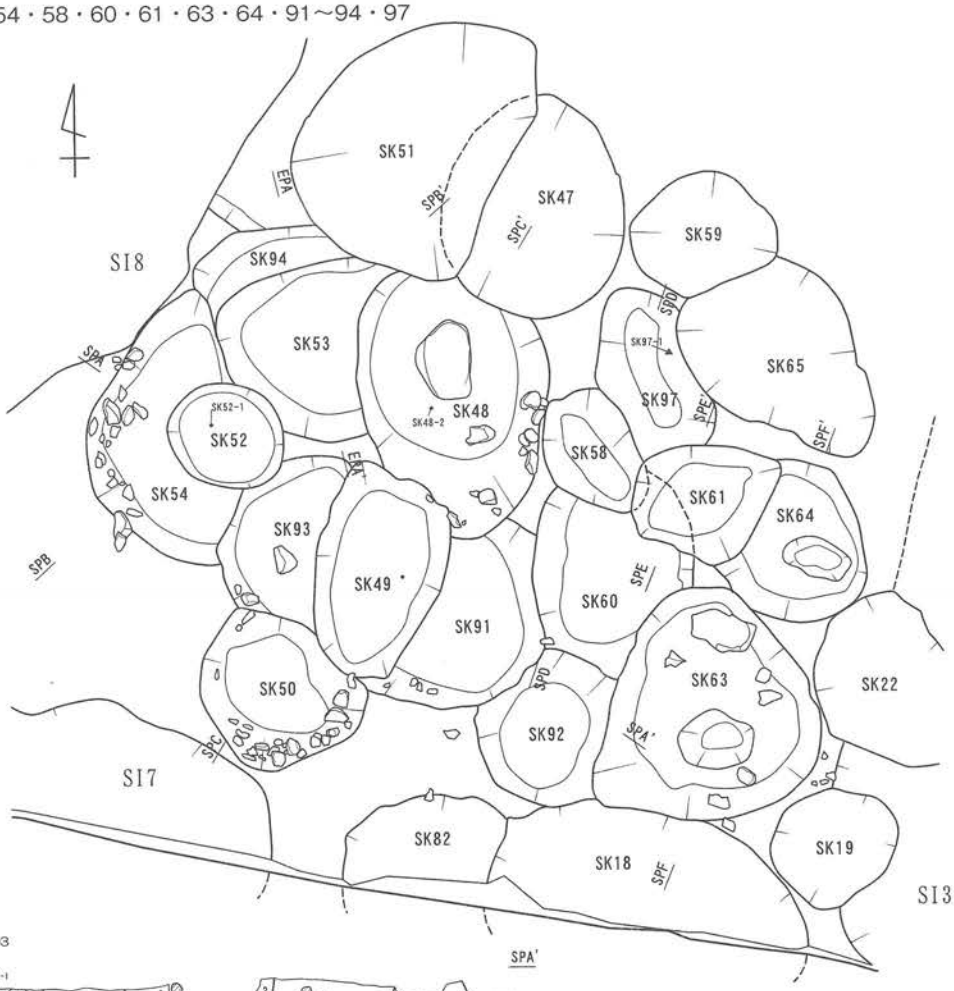
SK31 カマド

1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、焼土、炭化物多く含む

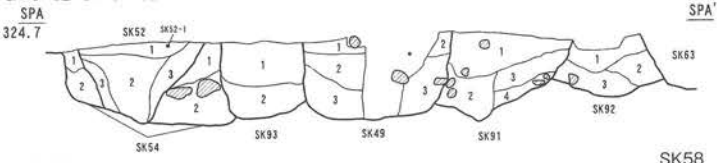
0 (1/40) 1m

第46図　H20年度SK31・32・47・51・55・59・65・96・122・123・144・145

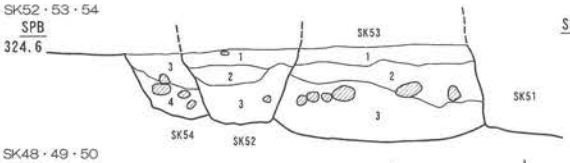
SK48～50・52～54・58・60・61・63・64・91～94・97



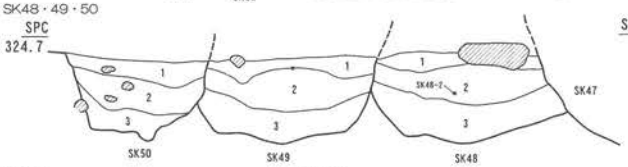
SK49・52・54・91・92・93



SK52・53・54



SK48・49・50



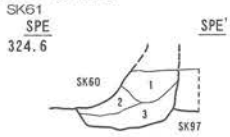
SK58・60・97

SK58
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む
3 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック多く含む

SK60
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、砂粒、小礫含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、砂粒含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック含む

SK97
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む

SK61



SK48
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土小ブロック、砂粒含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロックやや多く含む、小礫含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック含む

SK49
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、礫含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック、礫含む
3 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック、礫含む

SK50
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、砂粒、小礫含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む、小礫含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック含む

SK92
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、小礫含む
2 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック含む
3 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む

SK52
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土粒、砂粒含む
2 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土小ブロック、焼土粒含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む、焼土粒含む

SK53
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、小礫、砂粒含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック含む

SK54
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土小ブロック、焼土粒含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む

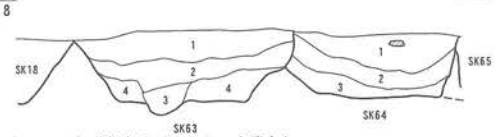
SK93
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、砂粒含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック含む

SK53・94

SK91
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、砂粒含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、焼土粒含む
4 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む

SK61
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黒褐色土ブロック含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黒褐色土ブロック含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黒褐色土ブロック含む

SK63・64



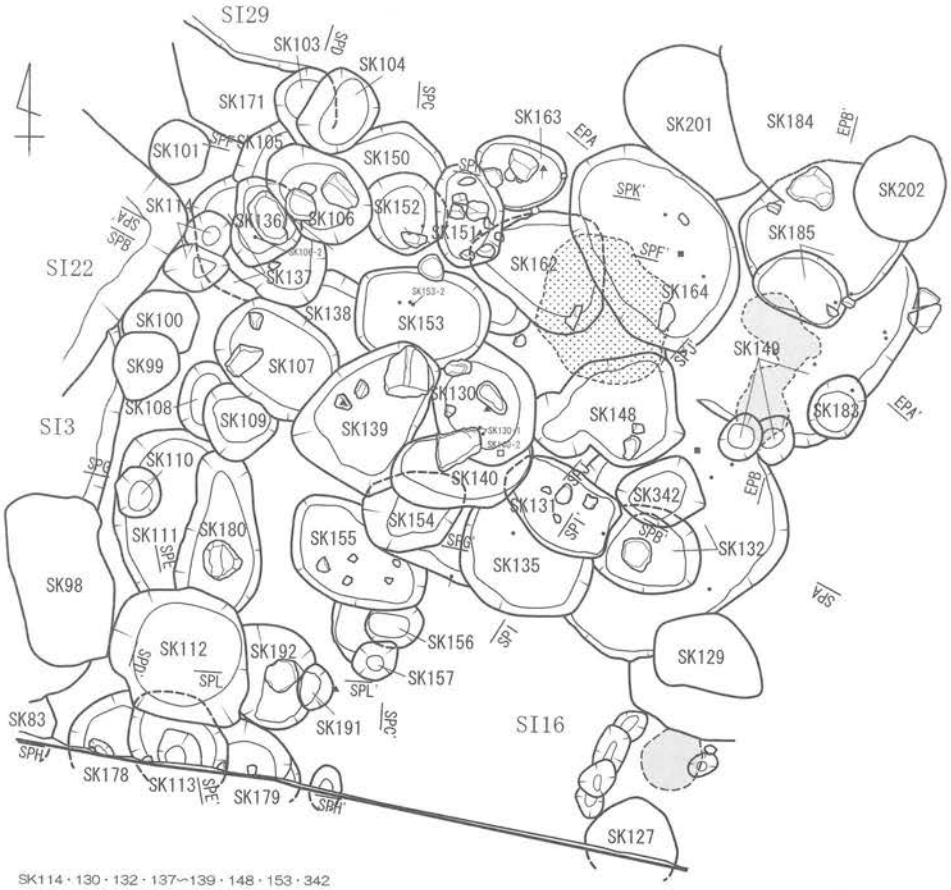
SK63
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック、小礫含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック、小礫、焼土小ブロック含む
3 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック含む
4 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック含む

SK64
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む、砂粒含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック多く含む
3 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック多く含む

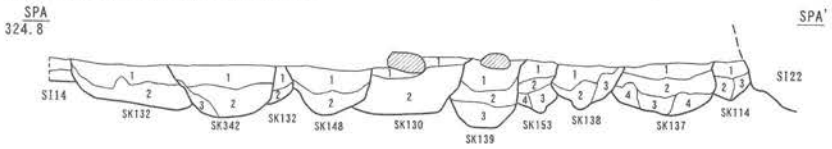
0 (1/40) 1m

第47図　H20年度SK48～50・52～54・58・60・61・63・64・91～94・97

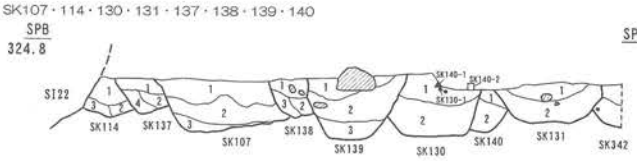
SK103～114・130～132・135～140・148～157・162～164・178～180・191・192・342



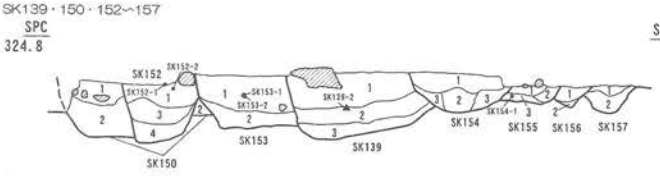
SK114・130・132・137～139・148・153・342



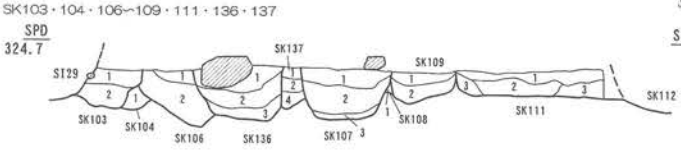
SK107・114・130・131・137・138・139・140



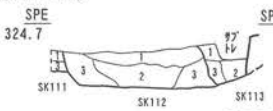
SK139・150・152～157



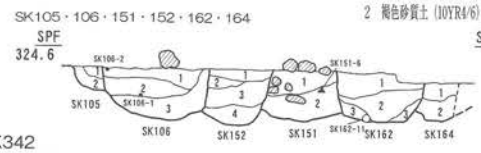
SK103・104・106～109・111・136・137



SK111～113



SK105・106・151・152・162・164



SK103
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、小礫含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土小ブロック含む

SK104
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黒褐色土小ブロック含む

SK105
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）砂粒、黄褐色土ブロック含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む

SK106
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土小ブロック含む
3 黄褐色砂質土（2.5Y5/6）黒褐色土ブロック含む

SK107
1 黒褐色砂質土（10YR2/3）黒褐色土小ブロック、焼土粒含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黒褐色土小ブロック多く含む、焼土粒含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック多く含む

SK108
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黒褐色土小ブロック含む

SK109
1 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック多く含む

SK111
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック、砂粒含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック含む

SK112
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土小ブロック多く含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土小ブロック多く含む

SK113
1 黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色土ブロック、炭化物粒、小礫含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む
3 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む

SK114
1 褐色砂質土（10YR4/4）砂粒・黒褐色土ブロック含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）砂粒・黒褐色土ブロック含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）砂粒・黒褐色土ブロック含む

SK130
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む

SK131
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）砂粒、黒褐色土ブロック多く含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、黒褐色土ブロック多く含む

SK132
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、焼土小ブロック含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、焼土小ブロック・炭化物やや多く含む

SK136
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、砂粒含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、砂粒含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む

SK148
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック多く含む、焼土粒含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む

SK150
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、焼土ブロック含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む

SK151
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、黄褐色土ブロック多く含む
2 黄褐色砂質土（2.5Y5/6）黒褐色土ブロック含む

SK152
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）砂粒多く含む、黄褐色土ブロック含む
2 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黄褐色土ブロック多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む
4 黄褐色砂質土（2.5Y5/6）黒褐色土ブロック含む

SK153
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黒褐色土ブロック含む
4 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色土ブロック含む

SK154
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、焼土小ブロック、砂粒含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色土ブロック多く含む

SK155
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土小ブロック、砂粒含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック含む
3 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック含む

SK156
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む
2 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色土ブロック含む

SK137
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む、焼土粒含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土粒含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック含む
4 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック含む

SK138
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、小礫やや多く含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）砂粒、焼土粒含む
3 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土小ブロック含む

SK139
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土粒、砂粒、小礫含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土粒、焼土粒、炭化物粒含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック多く含む

SK140
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒多く含む、焼土粒含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック、焼土粒含む

SK157
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック含む
2 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色土ブロック含む

SK162
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、砂粒、焼土粒含む
2 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）黄褐色土ブロック多く含む、焼土小ブロック、炭化物少含む
3 黄褐色砂質土（2.5Y5/6）黒褐色土ブロック含む

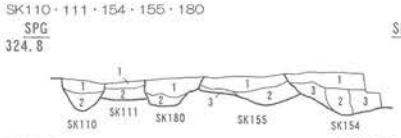
SK164
1 暗褐色砂質土（10YR3/3）砂粒、黄褐色土ブロック含む
2 暗灰黄褐色砂質土（2.5Y4/2）砂粒、黄褐色土ブロック含む

SK342
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）焼土小ブロック、炭化物含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土小ブロック多く含む、焼土粒含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック含む

0 (1/60) 2m

第48図　H20年度SK103～114・130～132・135～140・148～157・162～164・178～180・191・192・342

SK110・111・154・155・180



SK110
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土粒、砂粒含む
2 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色土ブロック多く含む

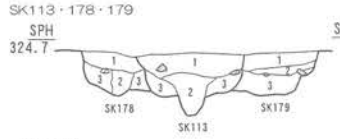
SK111
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土小ブロック、砂粒含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック含む

SK154
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、礫、焼土ブロック含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色土ブロック多く含む

SK155
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、砂粒含む
2 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック多く含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色土ブロック多く含む

SK180
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土粒、砂粒含む、焼土粒少含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む

SK113・178・179



SK113
1 黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色土ブロック、炭化物粒、小礫含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む
3 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む

SK178
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、礫、炭化物粒含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む
3 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む

SK179
1 黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色土粒、炭化物粒、焼土粒含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック、焼土粒含む
3 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む

0 (1/60) 2m

SK149・164・185

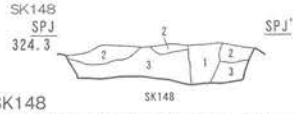
SK149・185

0 (1/60) 2m

SK135

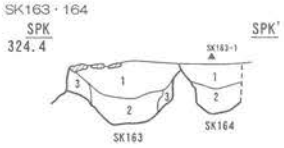
SK135
1 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む

SK148



SK148
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック、炭化物含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック含む、焼土粒含む

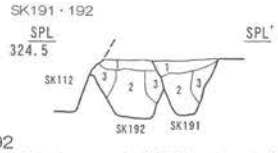
SK163・164



SK163
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）黄褐色土ブロック多く含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黒褐色土ブロック含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック含む

SK164
1 黒褐色砂質土（10YR2/2）砂粒、黄褐色土ブロック、焼土小ブロック含む
2 褐色砂質土（10YR4/6）砂粒、黒褐色土ブロック含む

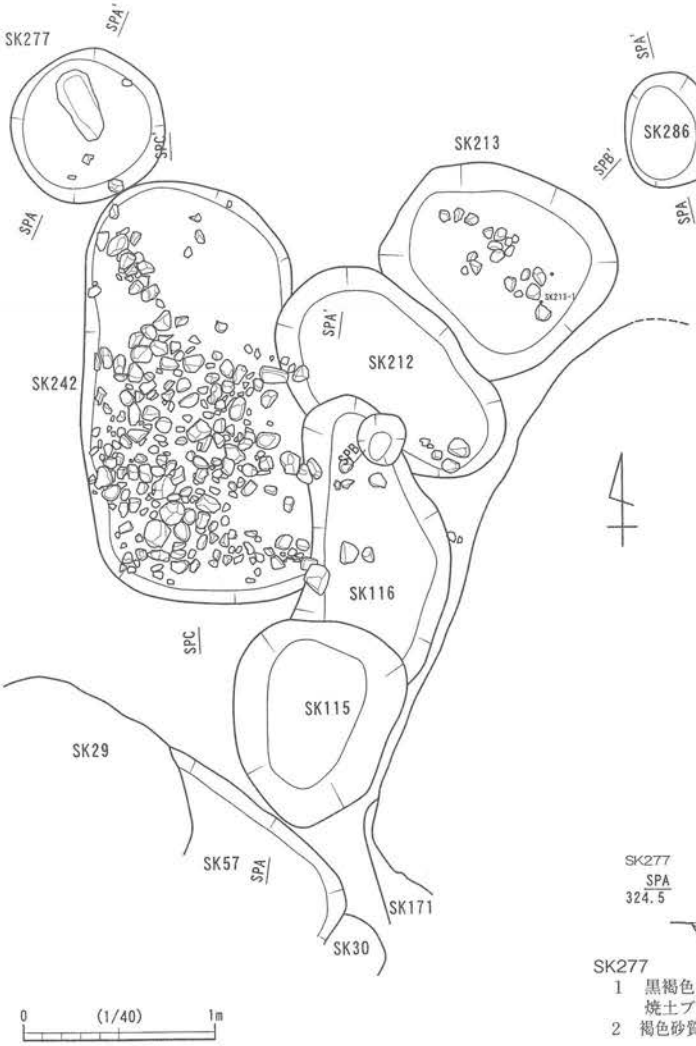
SK191・192



SK191・192
1 黒褐色砂質土（10YR2/3）黄褐色土ブロック含む
2 暗褐色砂質土（10YR3/3）黄褐色土ブロック多く含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色土ブロック多く含む

0 (1/40) 1m

SK115・116・212・213・242・277・286

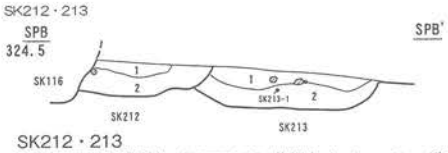


SK115・116

SK115
1 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黒褐色土ブロック、黄褐色土ブロック含む
2 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック少含む
3 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック少含む
4 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）黒褐色土ブロック少含む

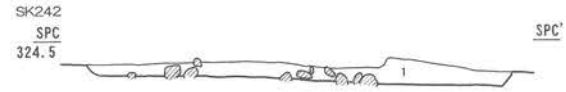
SK116
1 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）黒褐色土ブロック、黄褐色土ブロック含む
2 褐色砂質土（10YR4/6）黒褐色土ブロック少含む

SK212・213



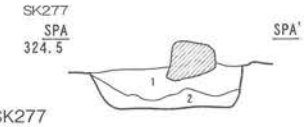
SK212・213
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、砂粒含む
2 褐色砂質土（10YR4/6）黄褐色土ブロック多く含む

SK242



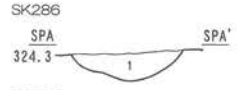
SK242
1 褐色砂質土（10YR4/4）砂粒、黄褐色土粒、小礫含む

SK277



SK277
1 黒褐色砂質土（10YR3/2）黄褐色土ブロック、焼土ブロック含む
2 褐色砂質土（10YR4/4）黄褐色土ブロック多く含む

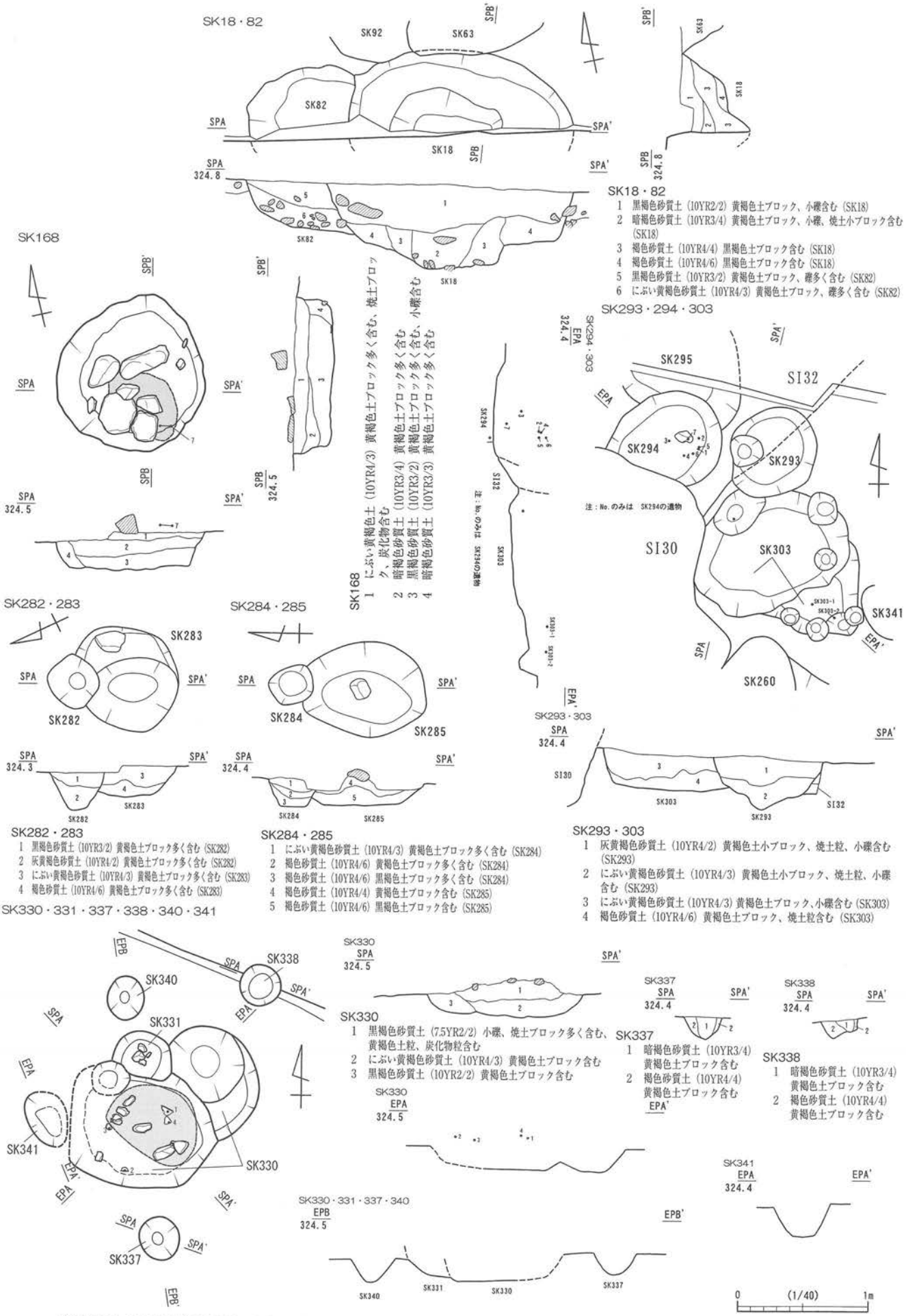
SK286



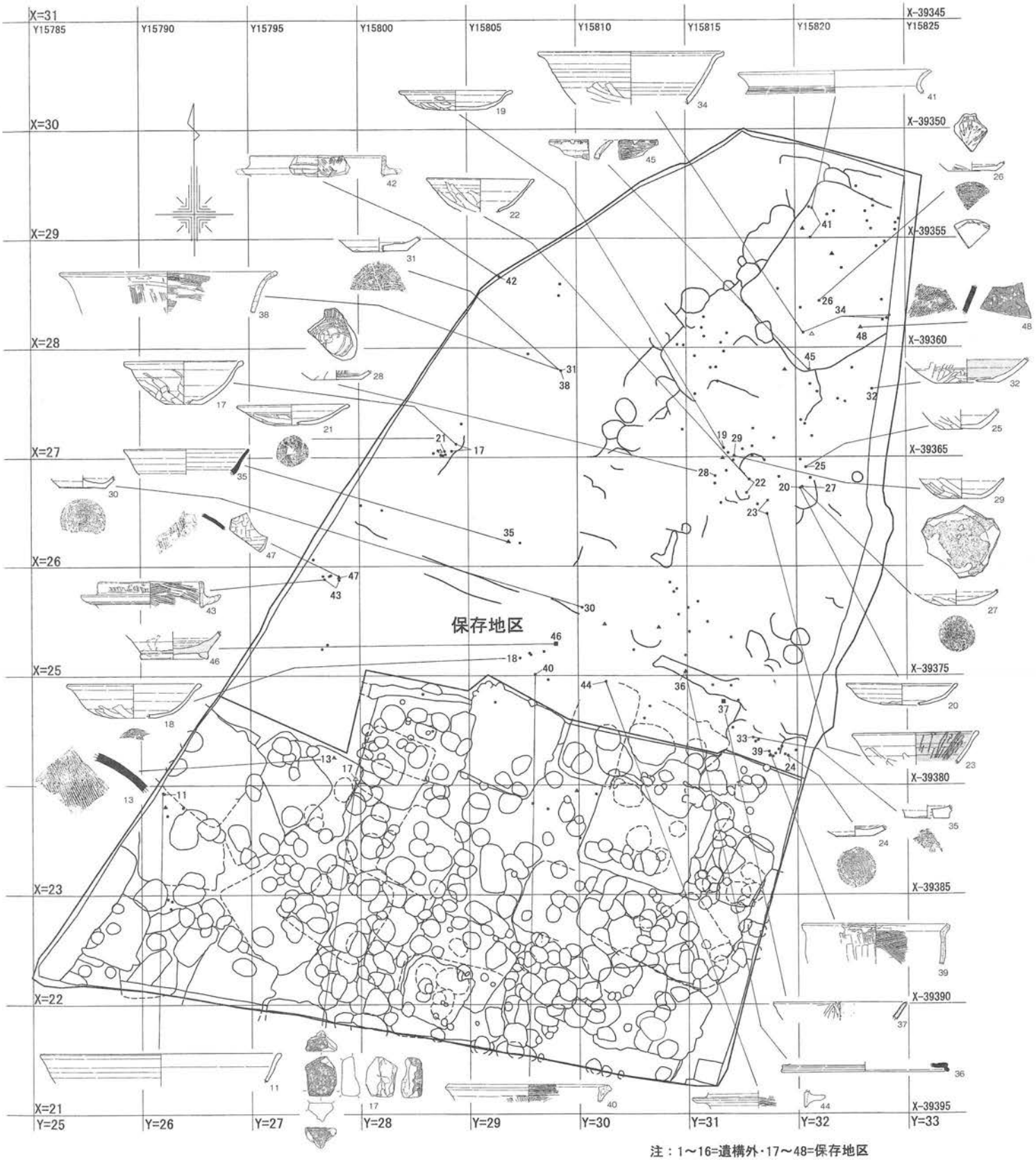
SK286
1 暗褐色砂質土（10YR3/4）黄褐色土ブロック多く含む

0 (1/40) 1m

第49図　H20年度SK110・111・113・115・116・135・148・149・154・155・163・164・178～180・185・191・192・212・213・242・277・286

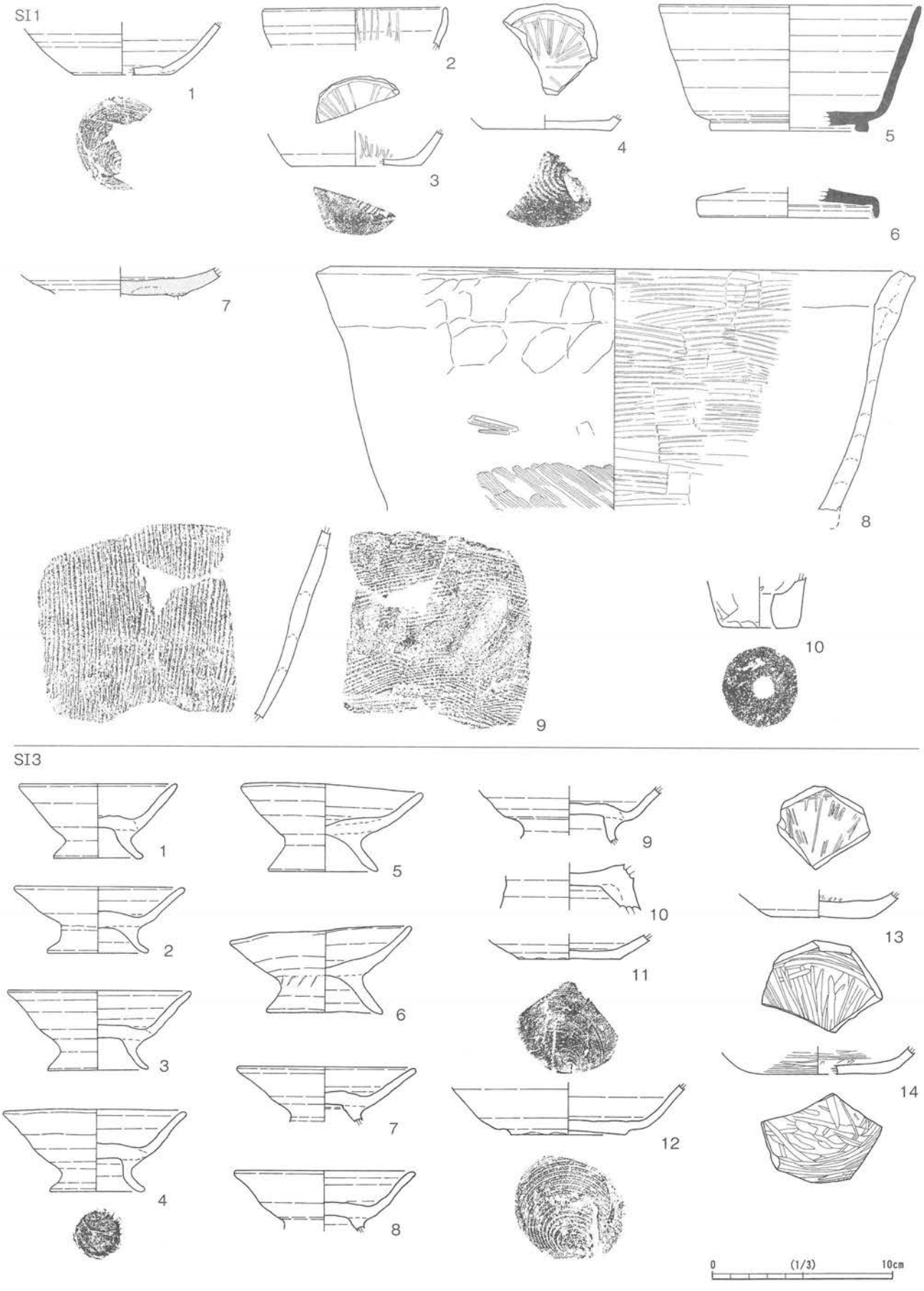


第50図　H20年度SK18・82・168・282～285・293・294・303・330・331・337・338・340・341

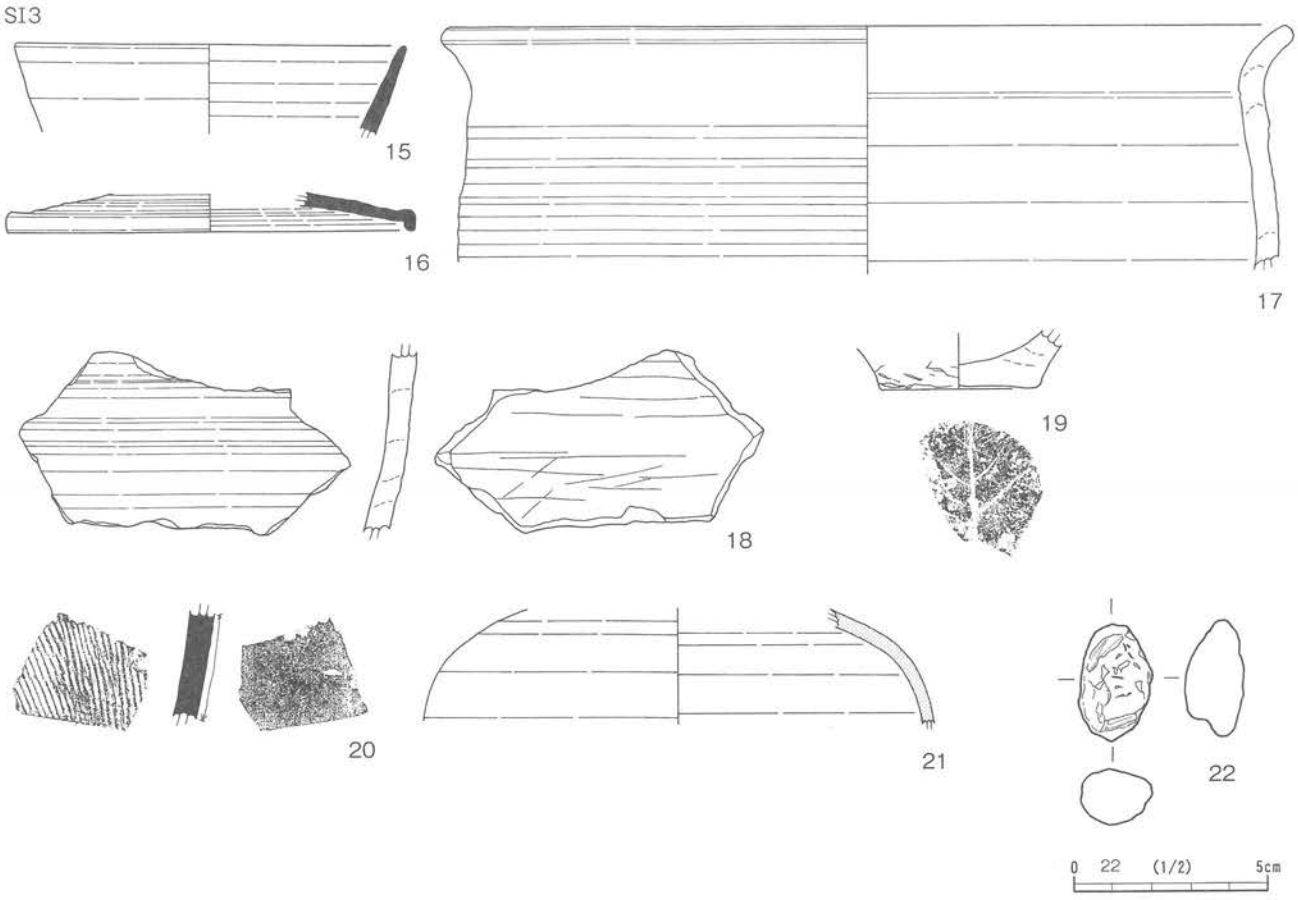


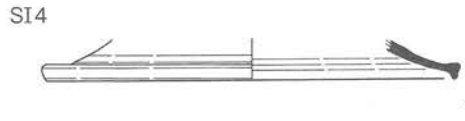
注：1～16=遺構外・17～48=保存地区

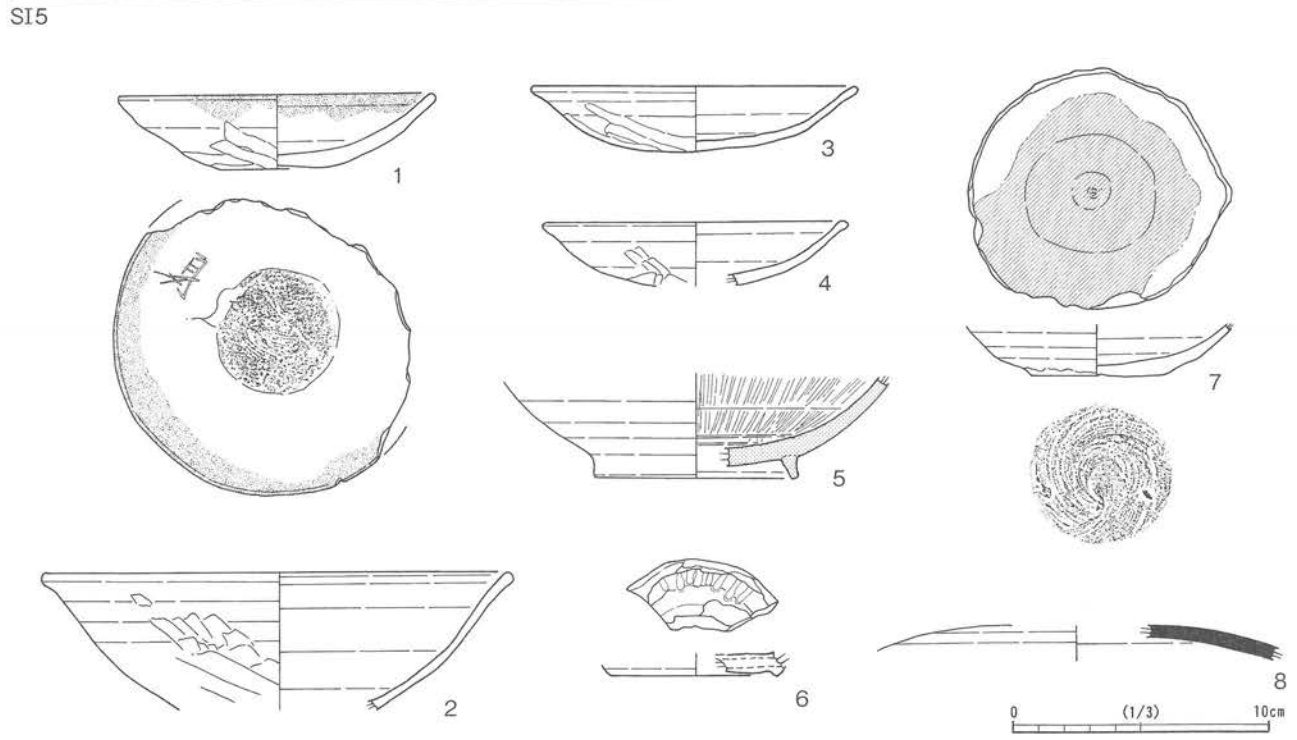
第51図　H20年度遺構外および保存地区遺物分布図



第52図　H20年度SI1・3(1)出土遺物

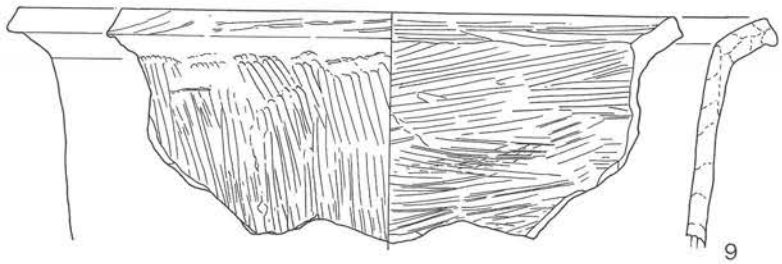


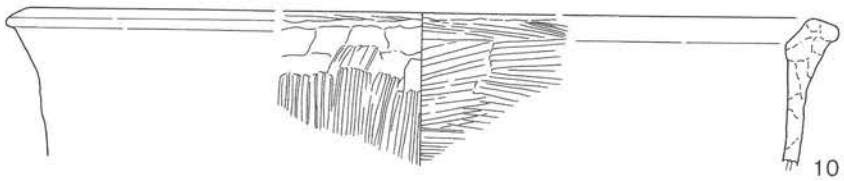


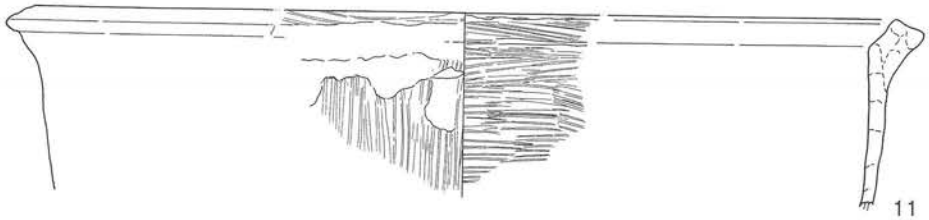


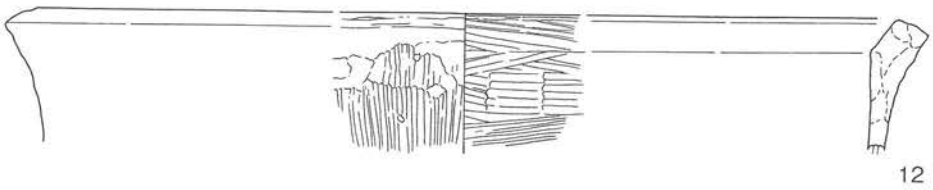
第53図　H20年度SI3(2)～5(1)出土遺物

SI5

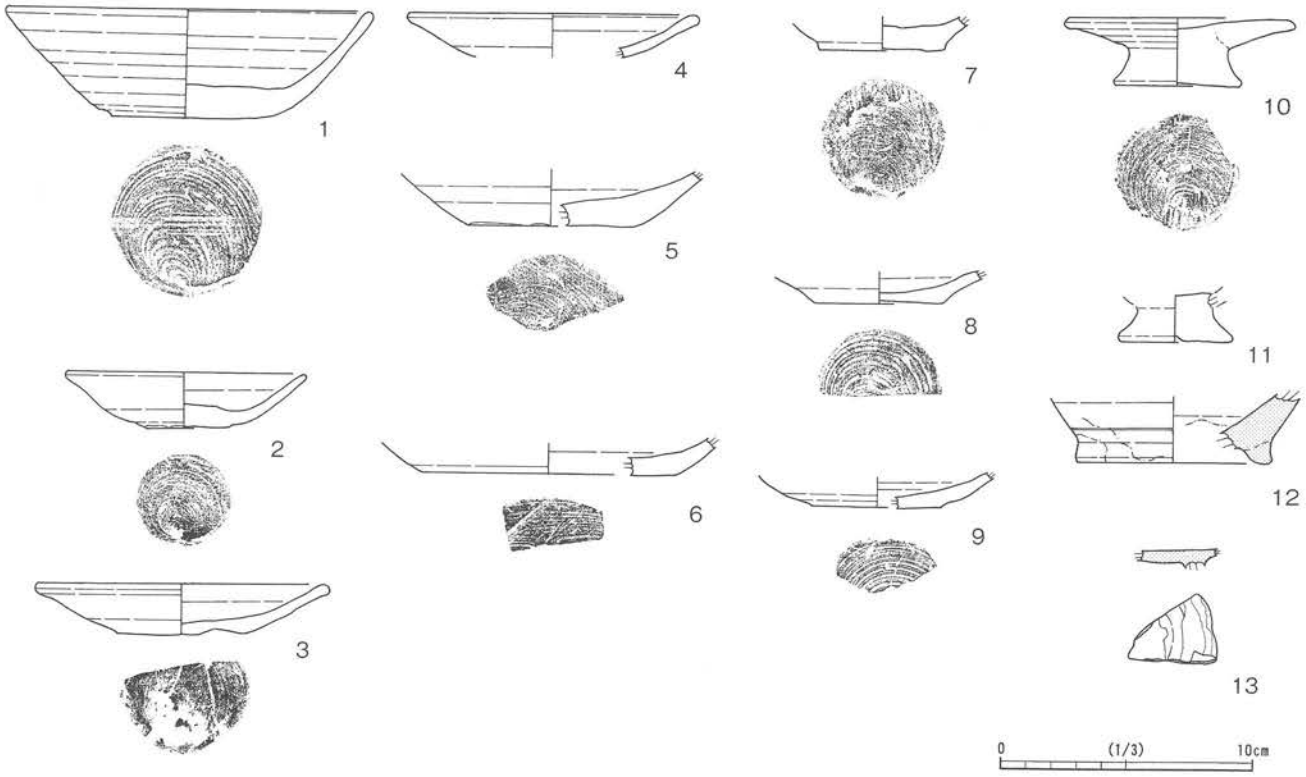








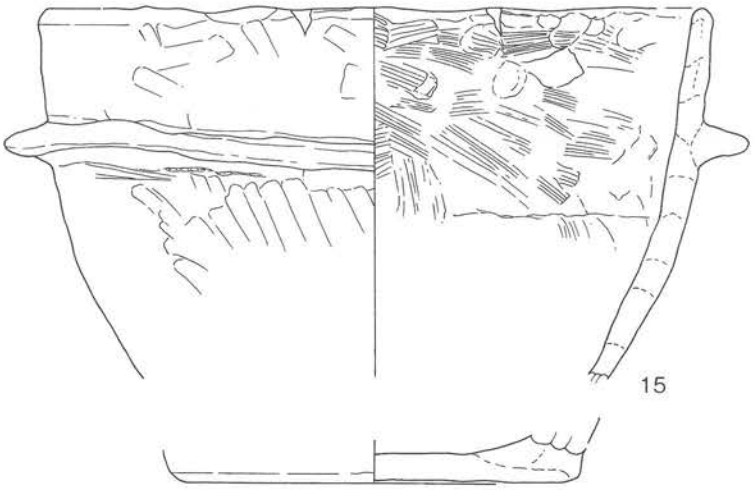
SI6



第54図　H20年度SI5(2)・6(1)出土遺物

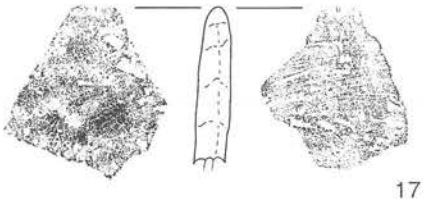
SI6

14

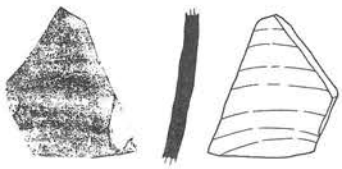


15

16

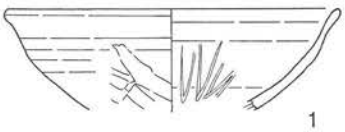


17

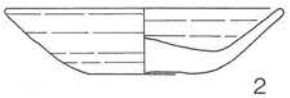


18

SI7

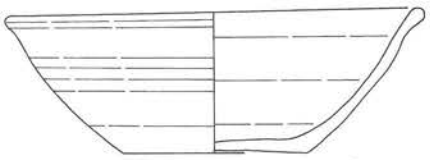


1

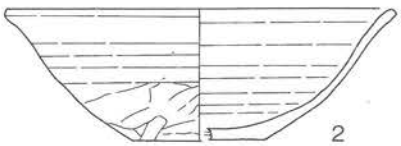


2

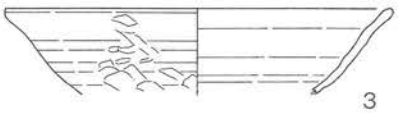
SI8



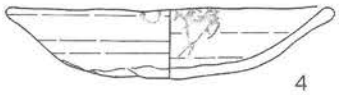
1



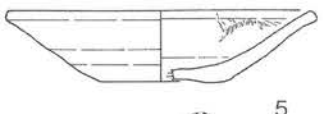
2



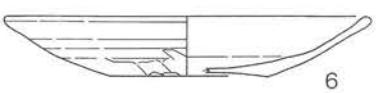
3



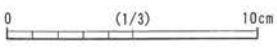
4



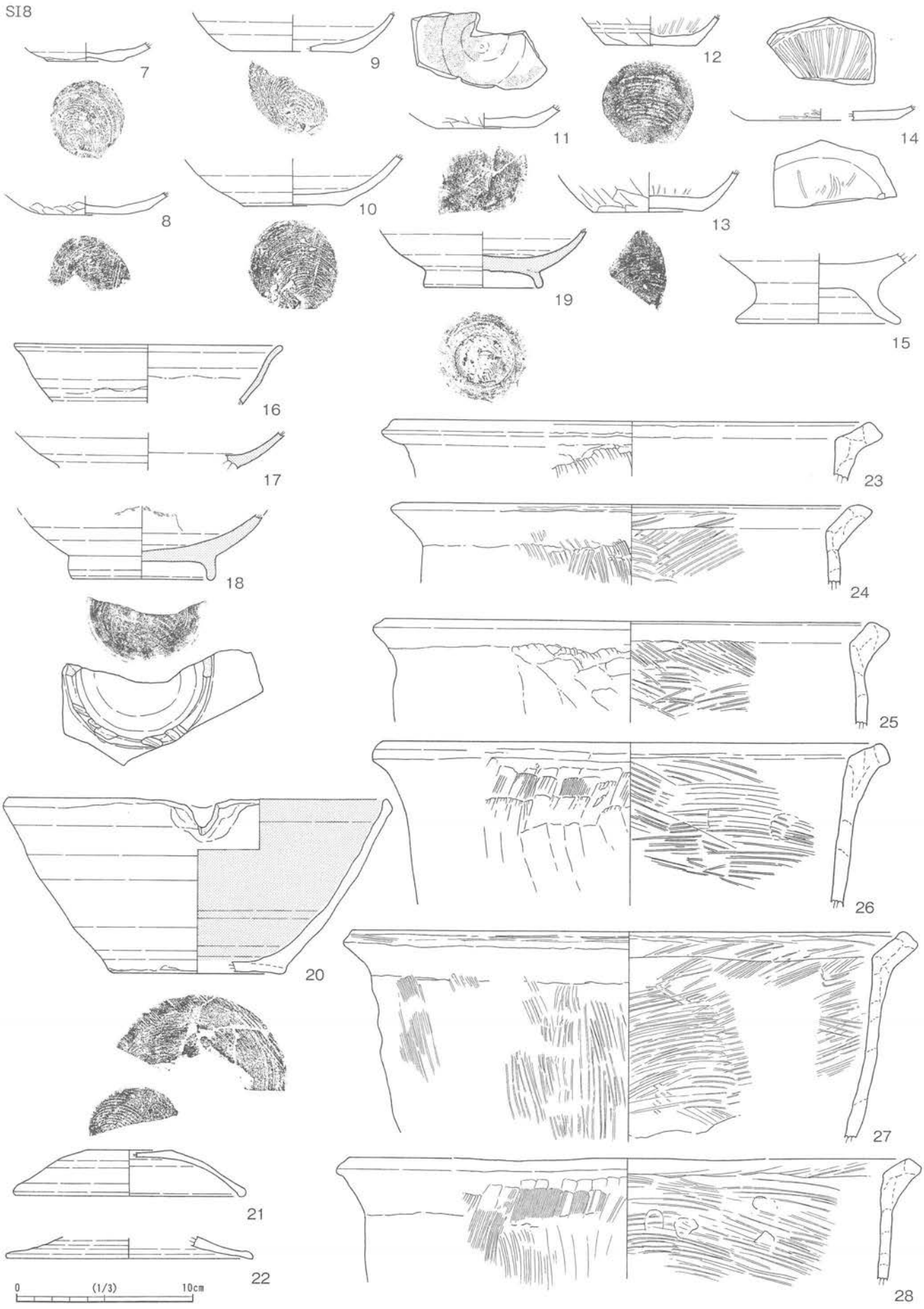
5



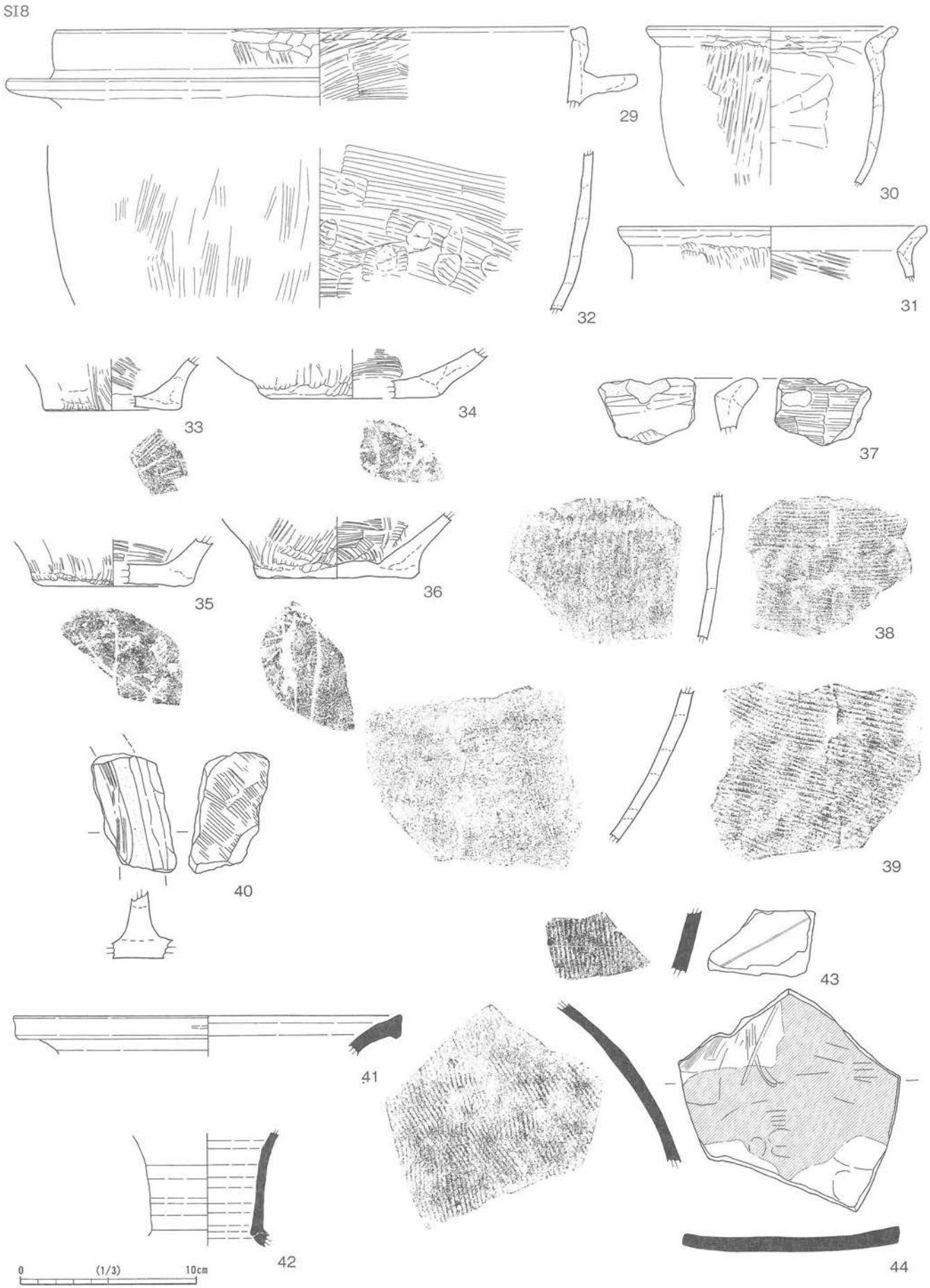
6



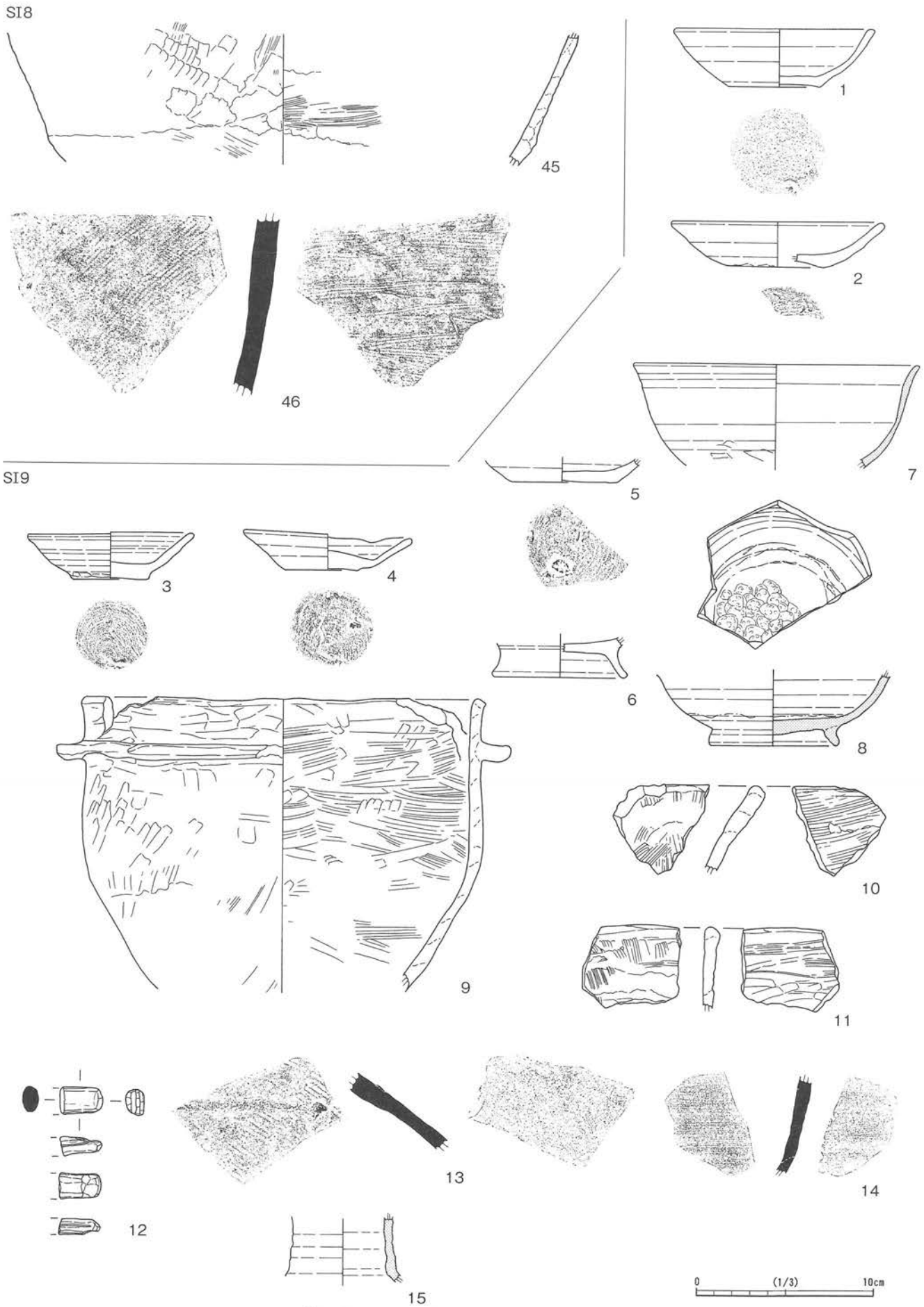
第55図　H20年度SI6(2)～8(1)出土遺物



第56図　H20年度SI8(2)出土遺物

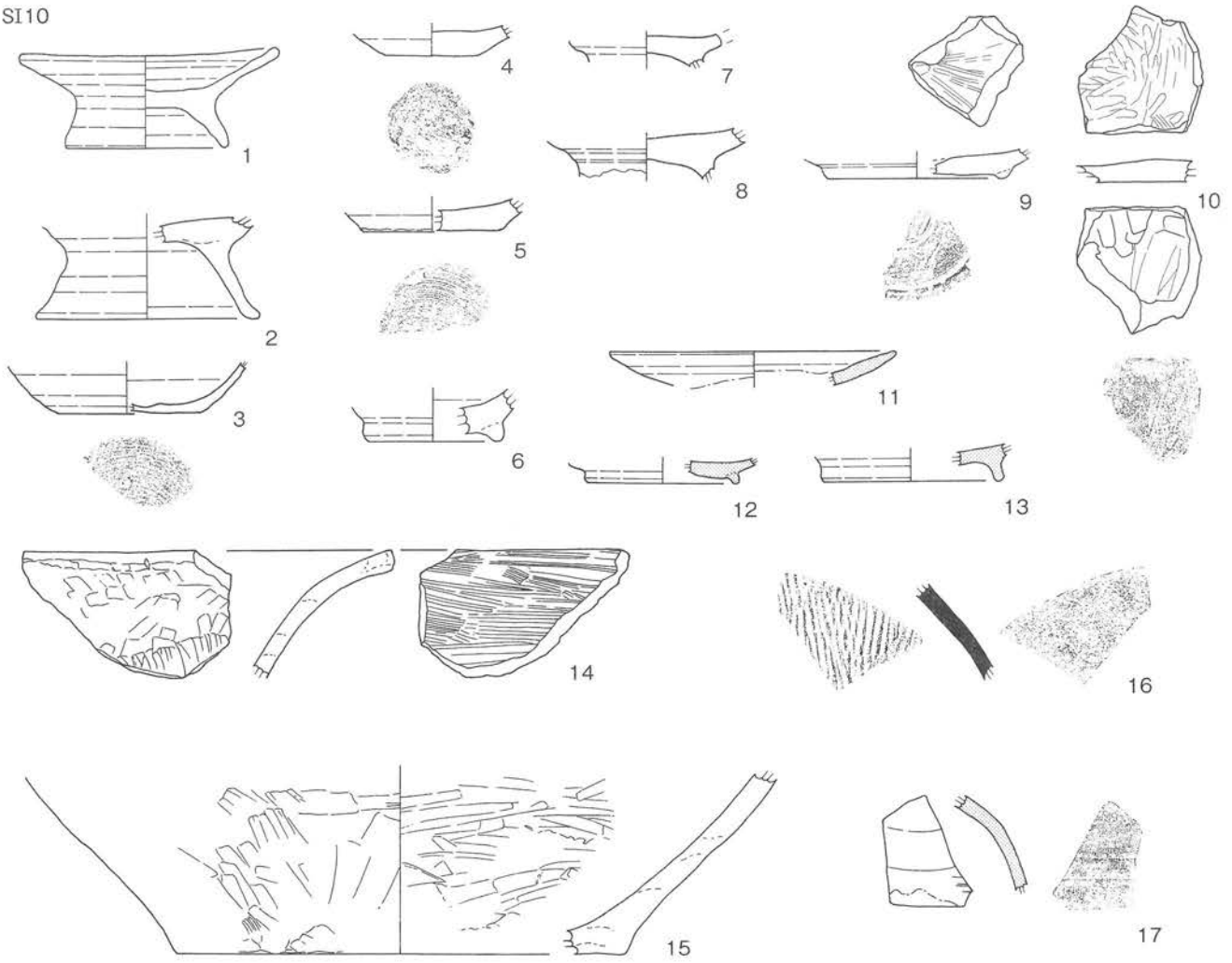


第57図　H20年度SI8(3)出土遺物

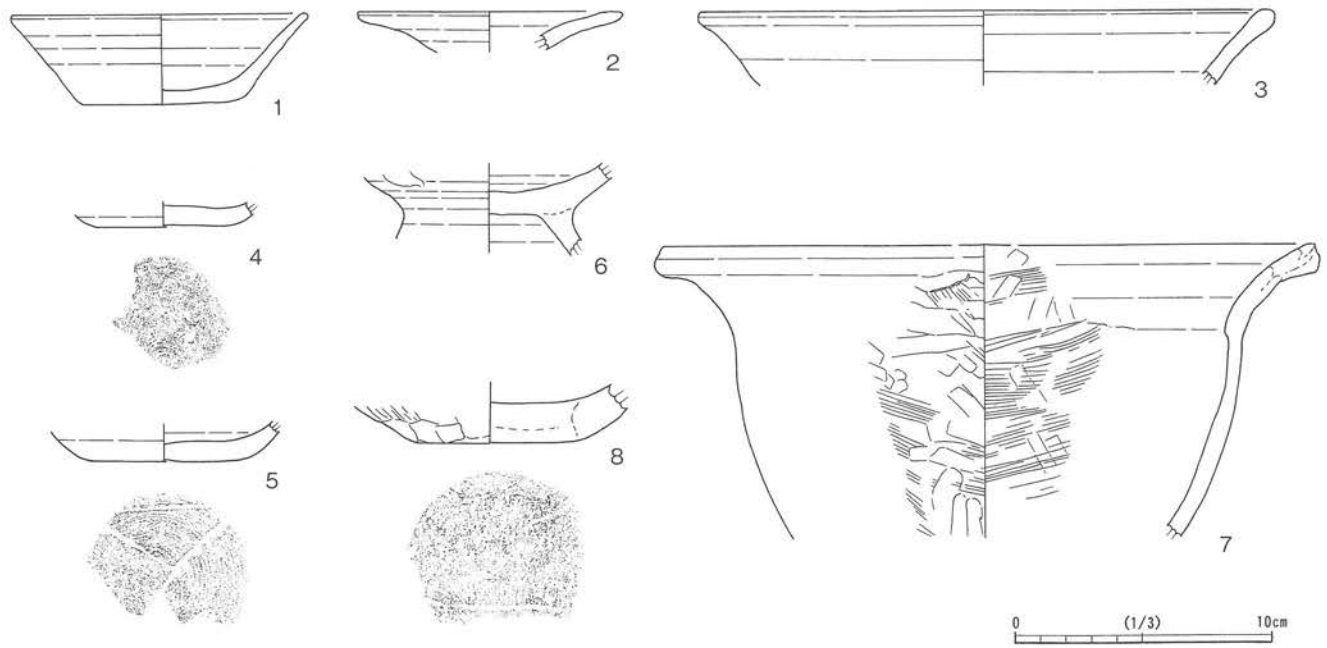


第58図　H20年度SI8(4)・9出土遺物

SI10

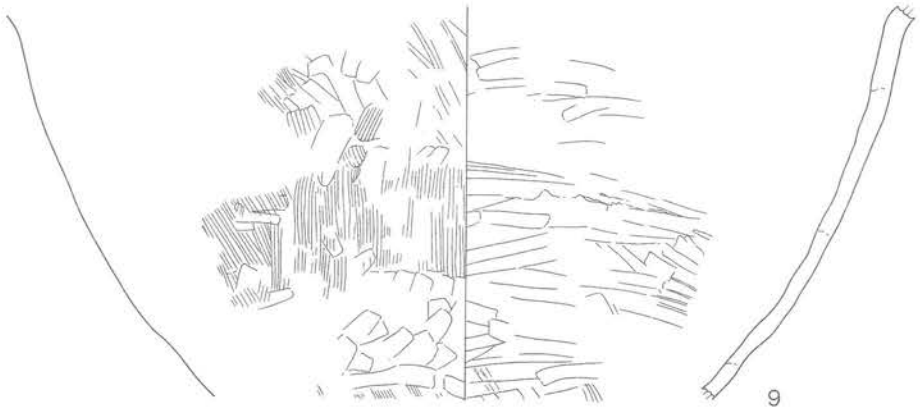


SI11

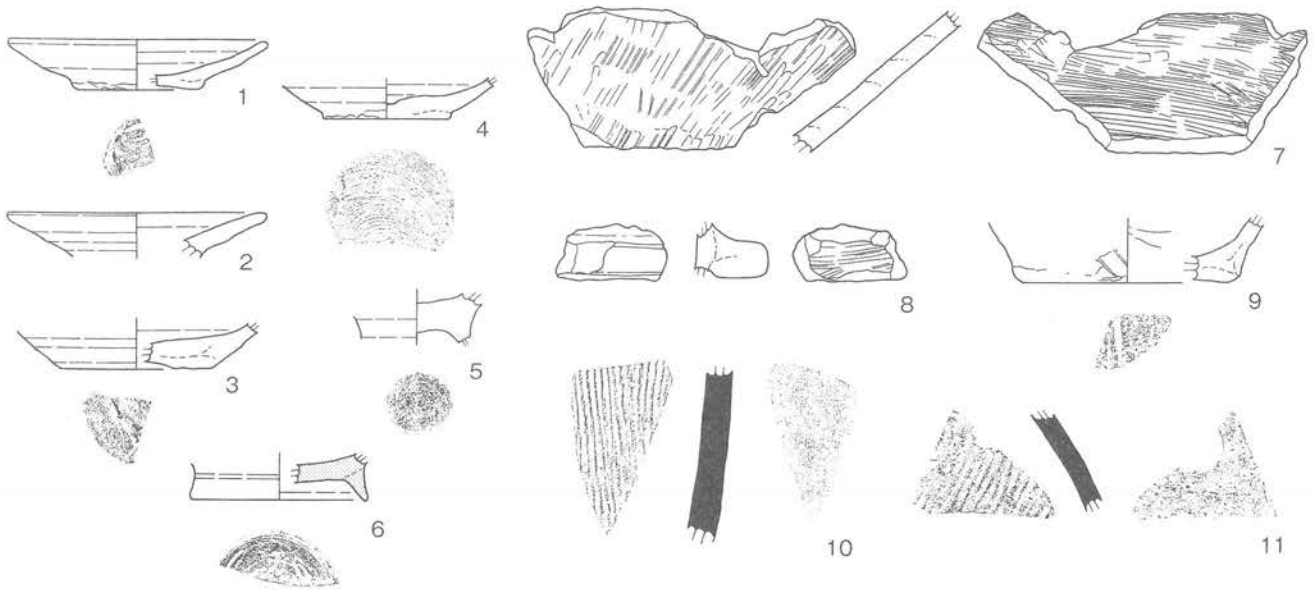


第59図　H20年度SI10・11(1)出土遺物

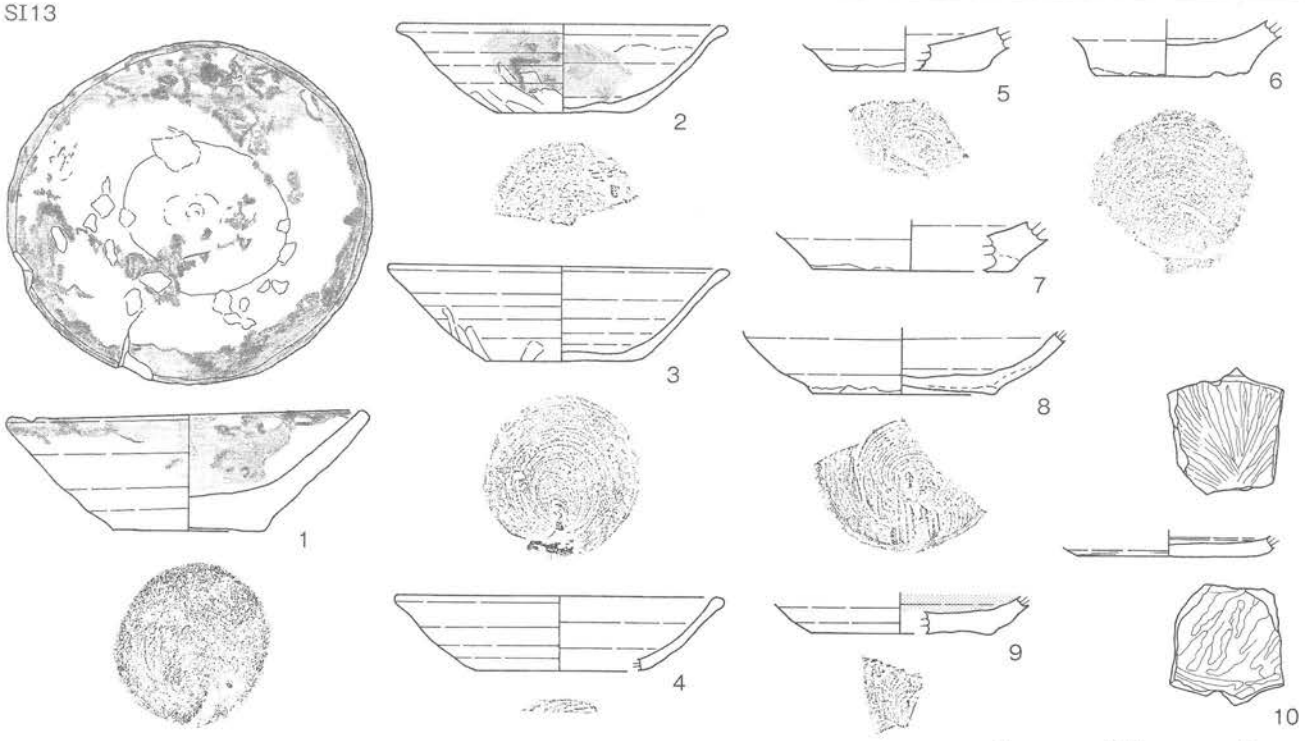
SI11



SI12

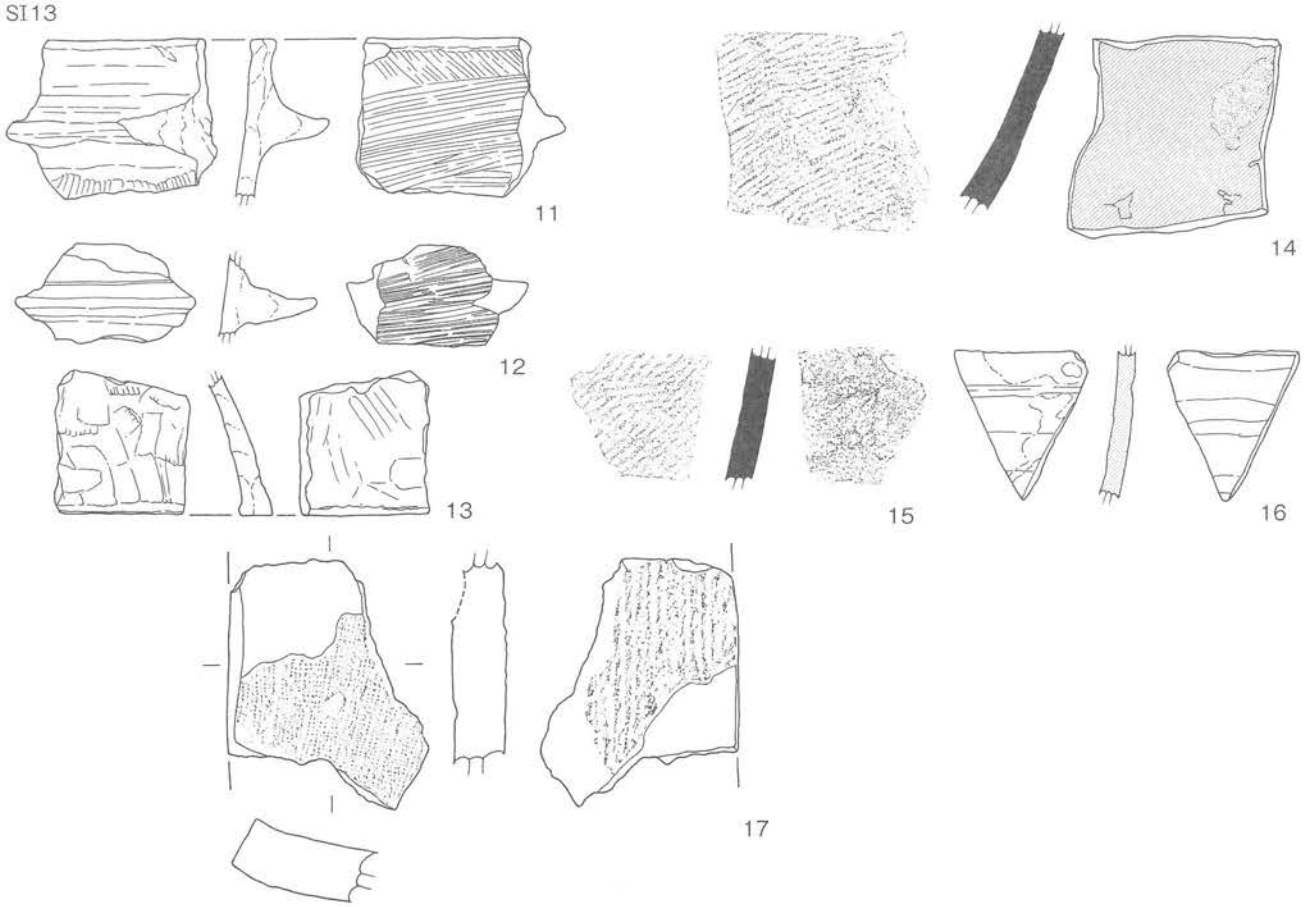


SI13

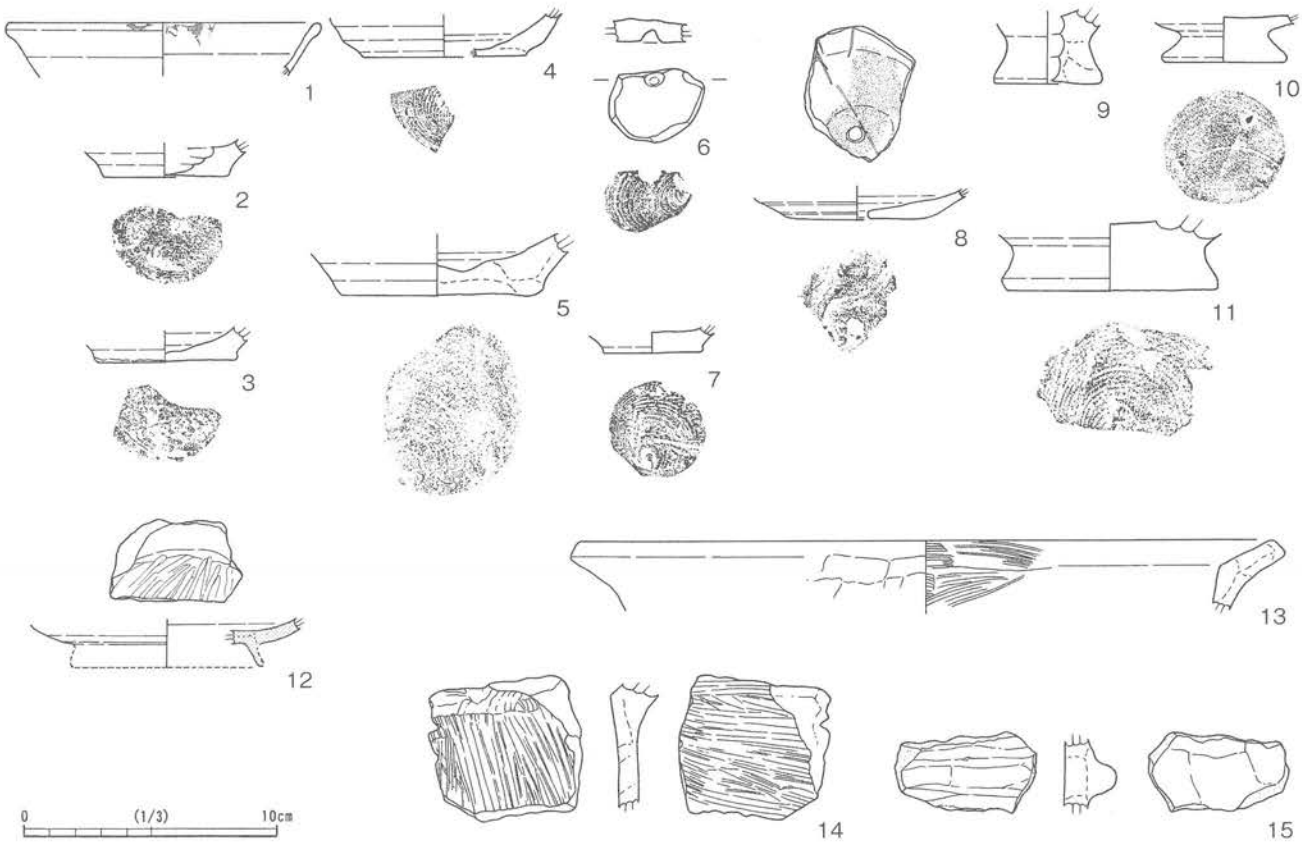


第60図　H20年度SI11(2)～13(1)出土遺物

SI13



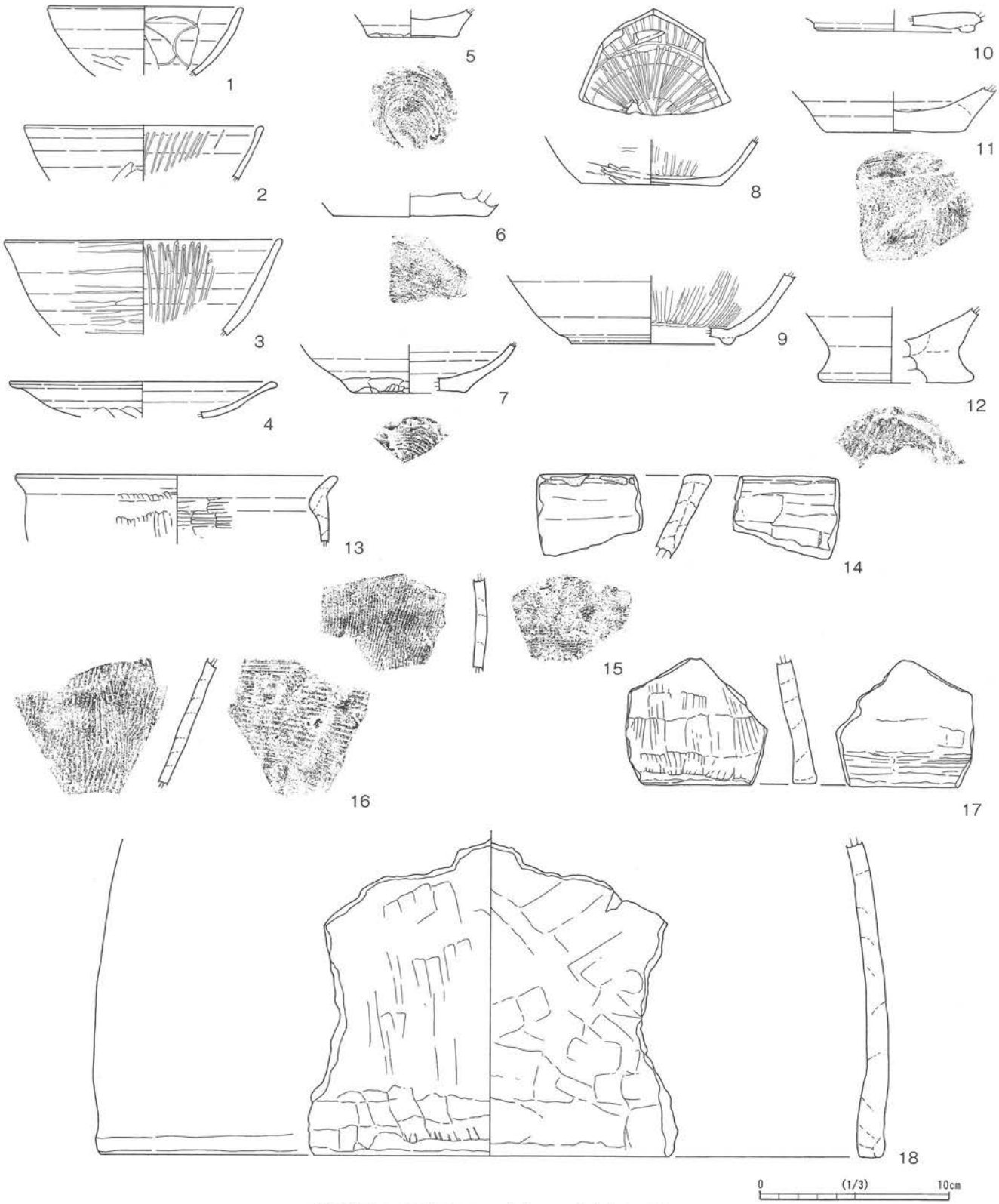
SI14



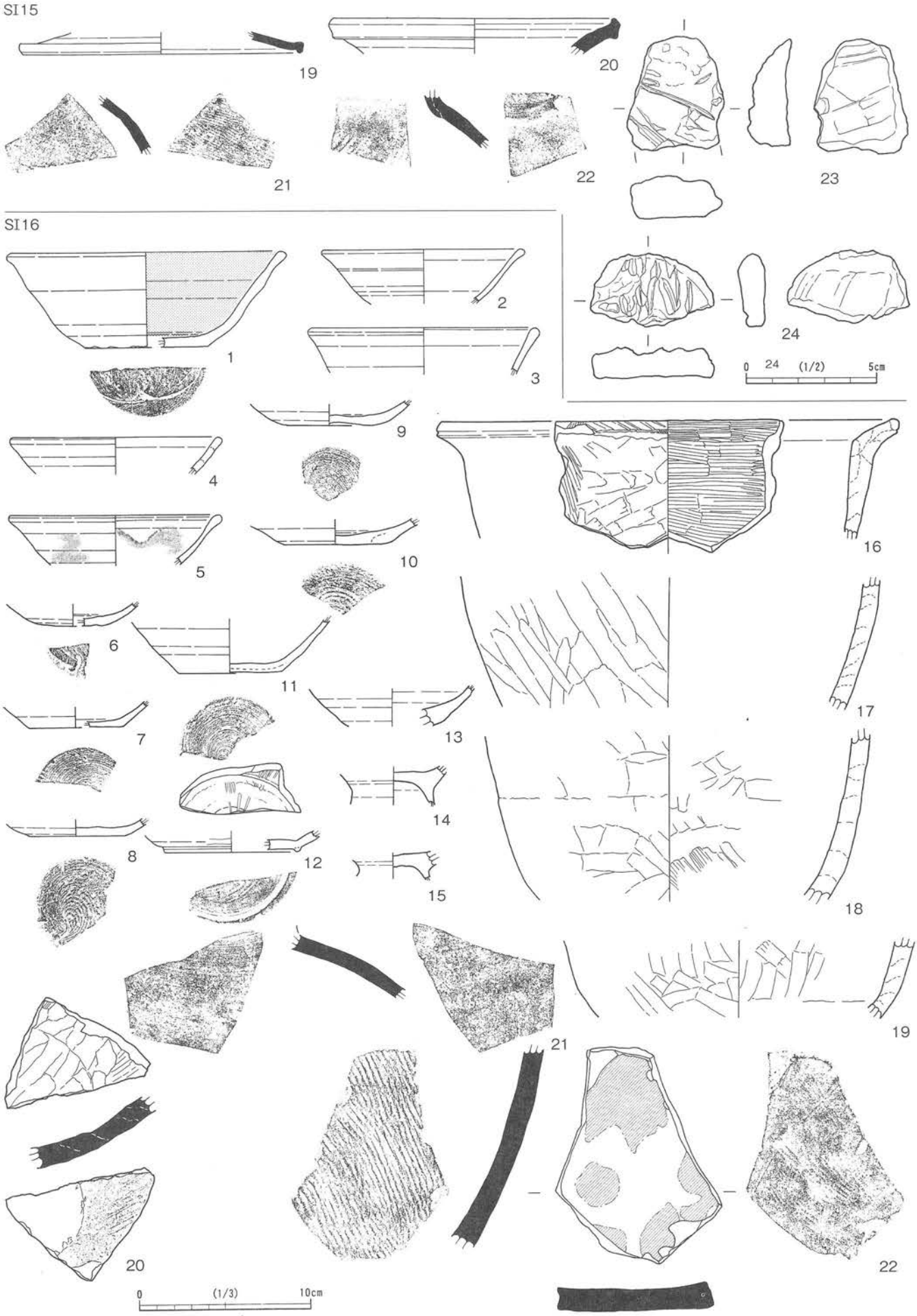
第61図　H20年度SI13(2)・14(1)出土遺物

SI14

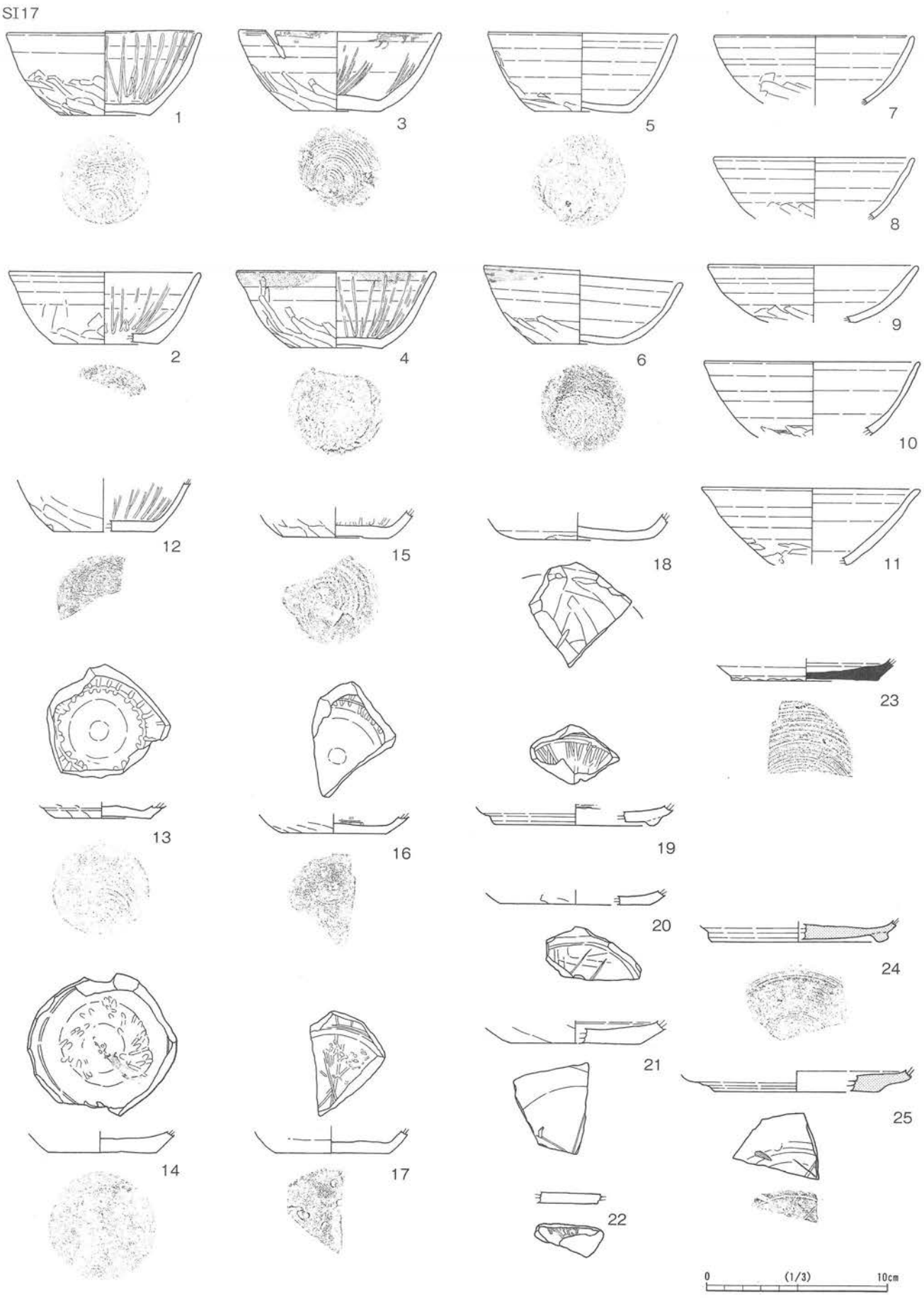
SI15



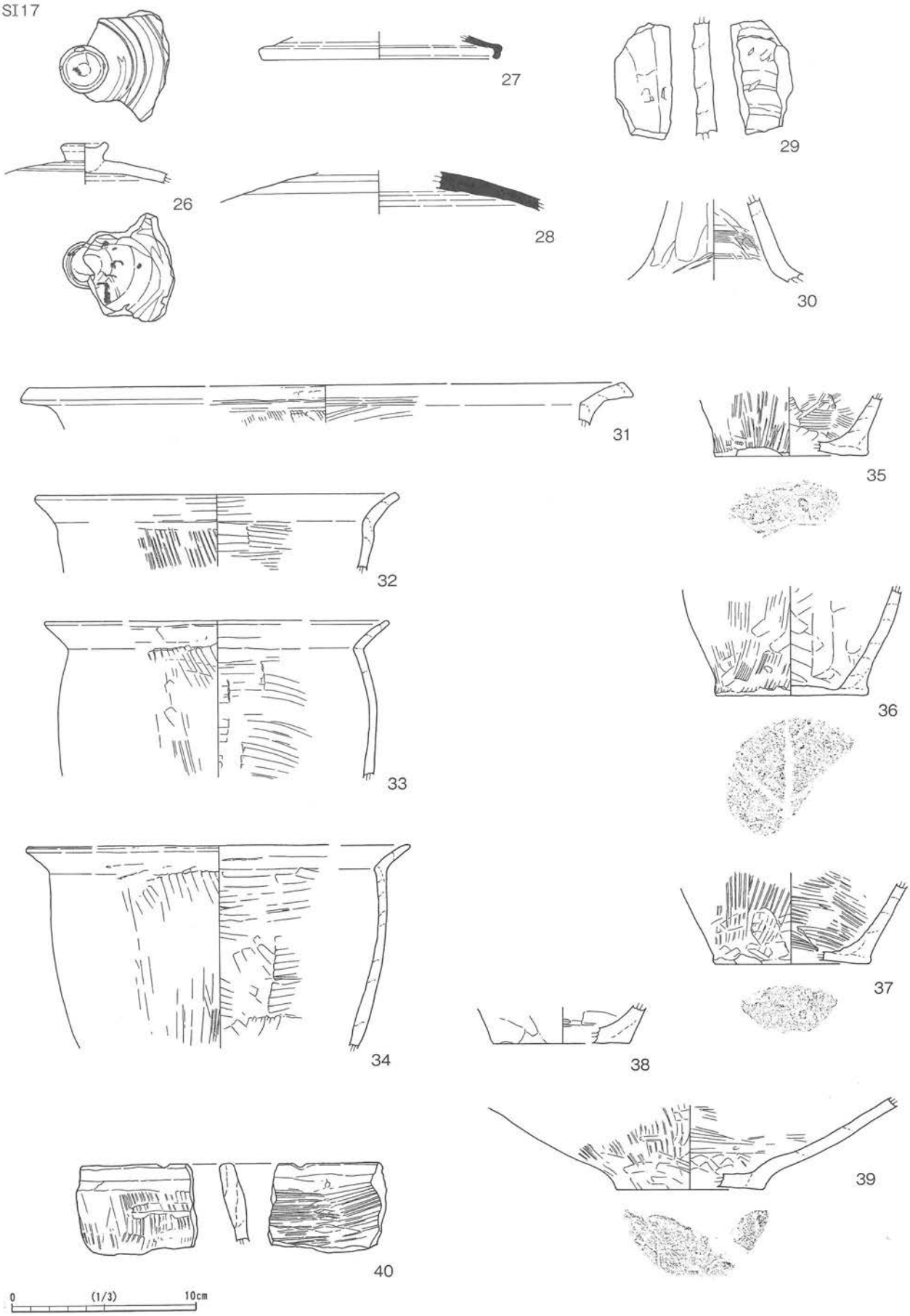
第62図　H20年度SI14(2)・15(1)出土遺物



第63図　H20年度SI15(2)・16出土遺物

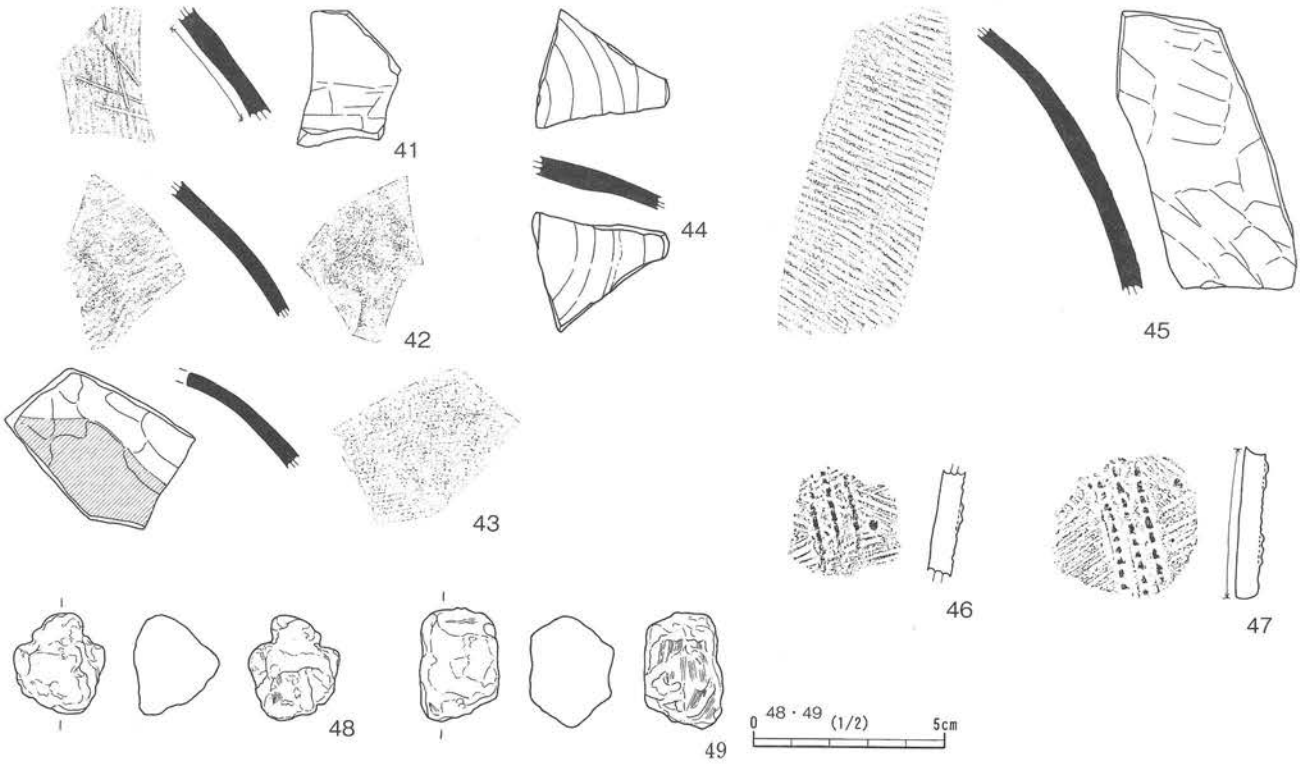


第64図　H20年度SI17(1)出土遺物

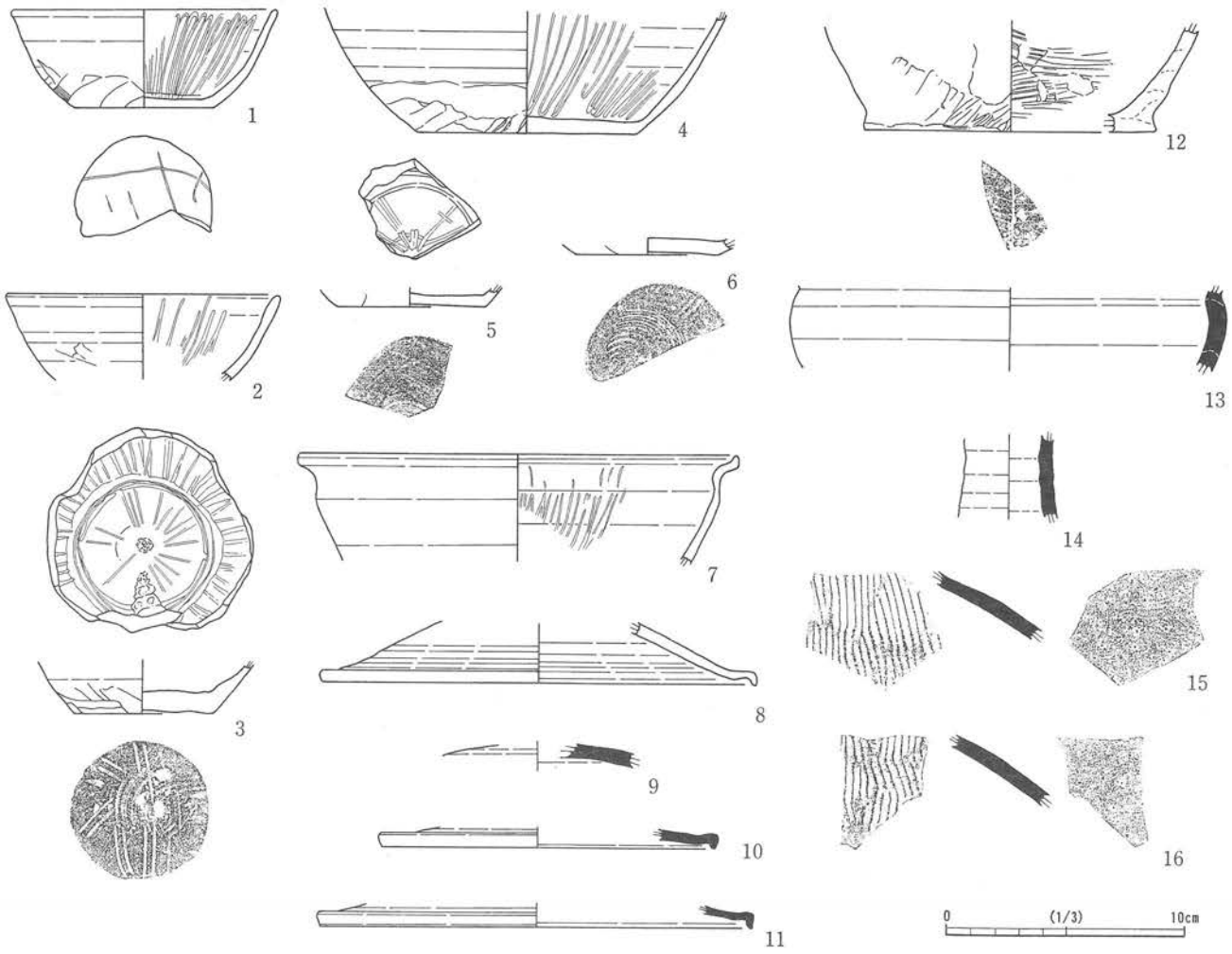


第65図　H20年度SI17(2)出土遺物

SI17

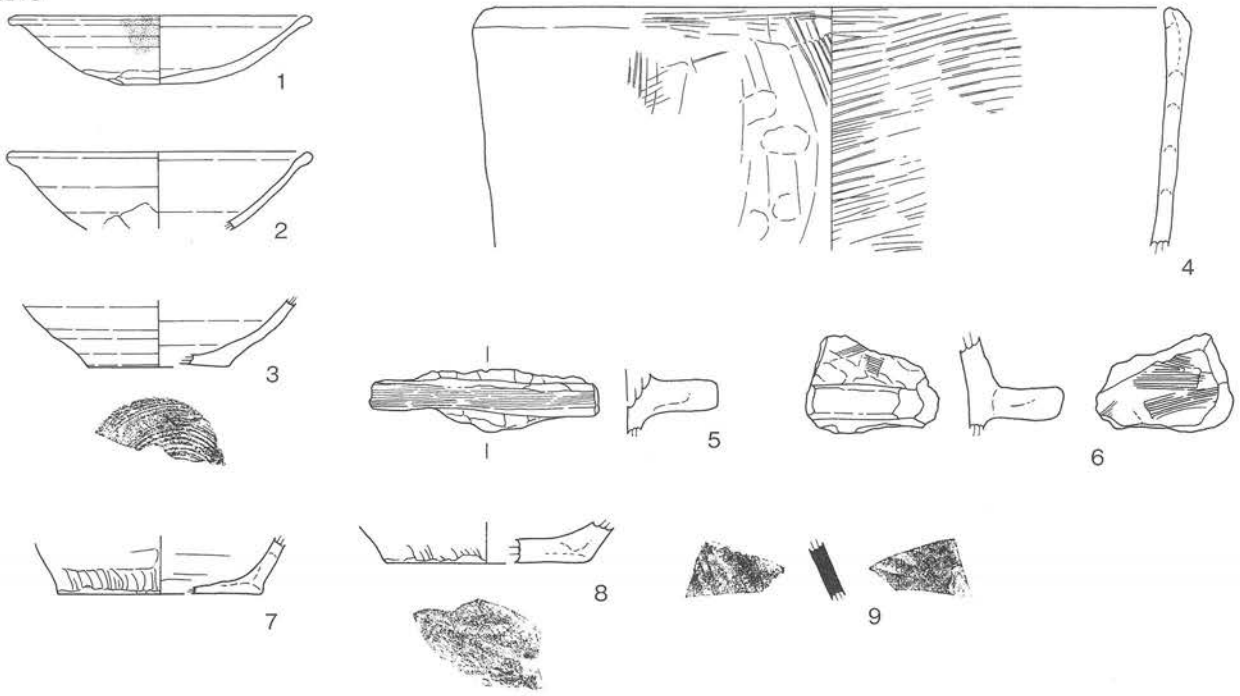


SI18

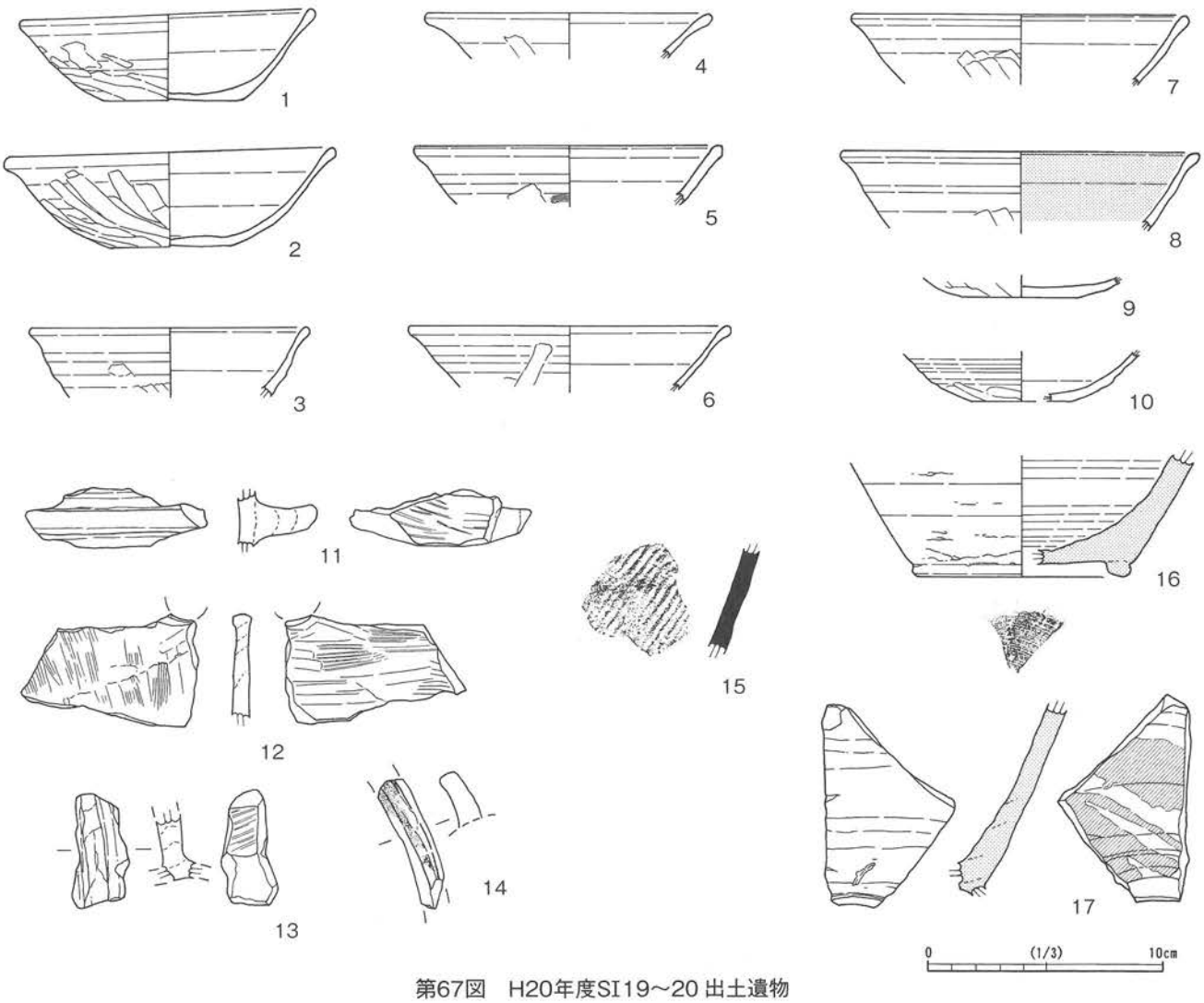


第66図　H20年度SI17(3)・18出土遺物

SI19

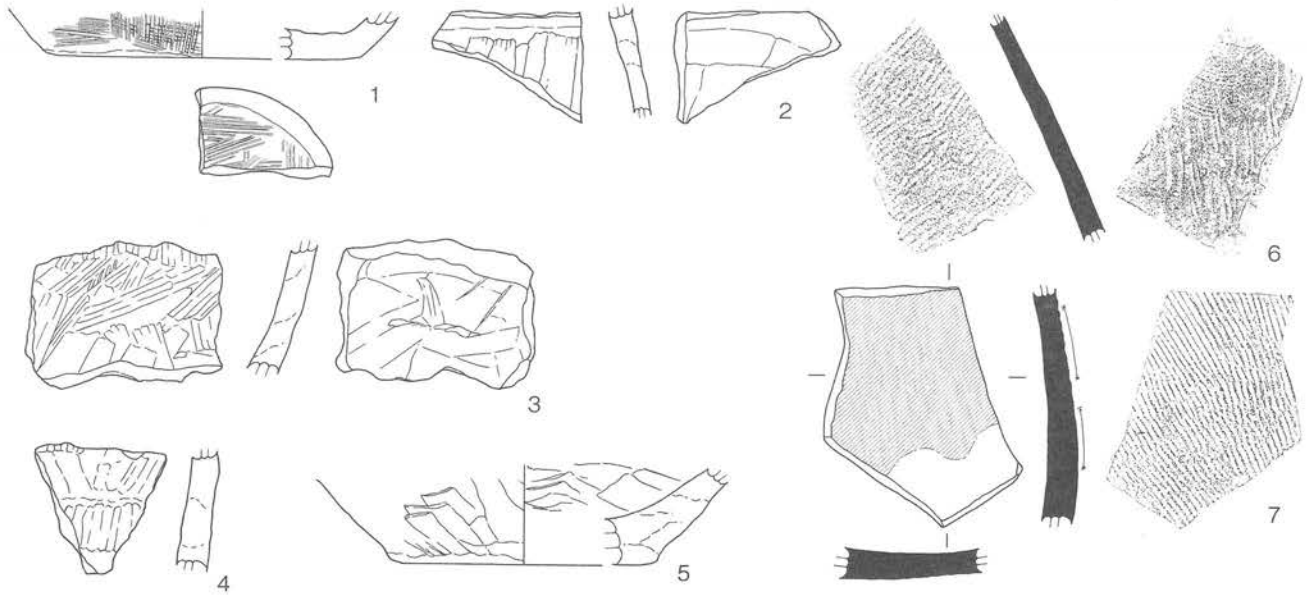


SI20

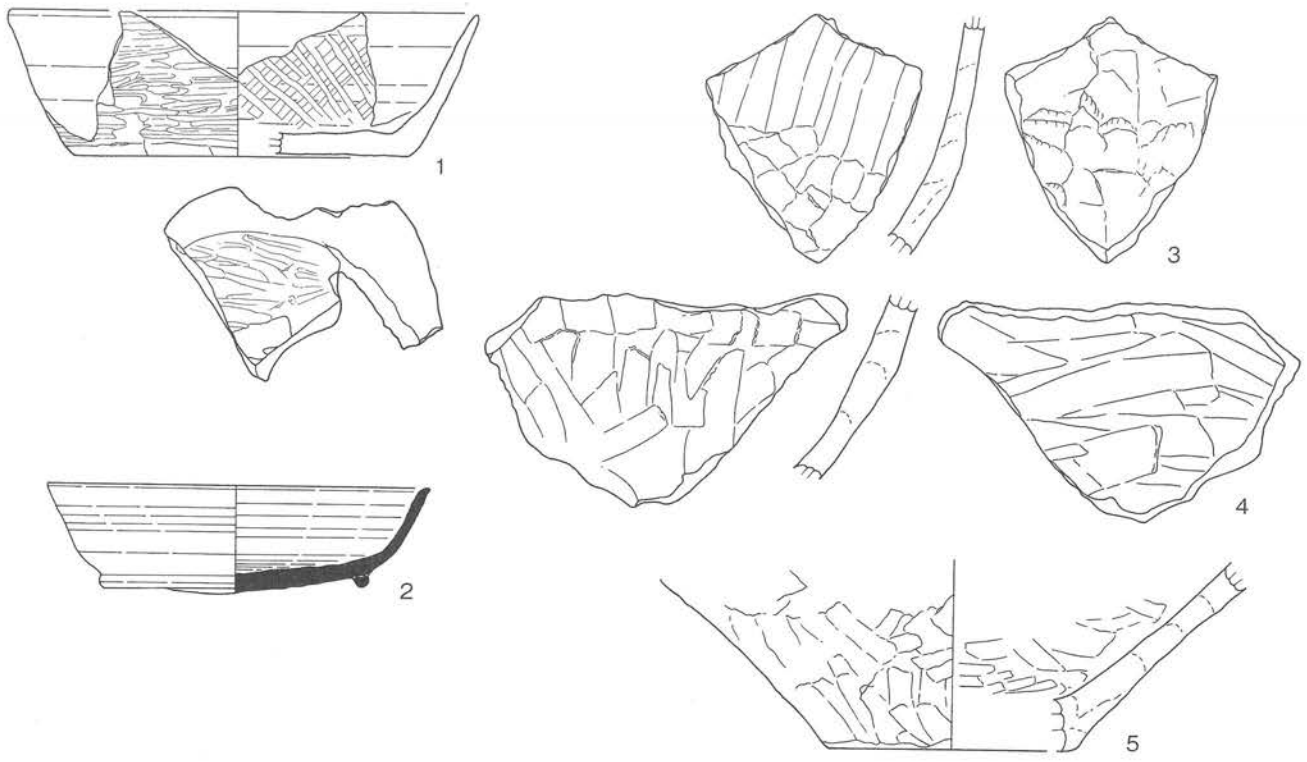


第67図　H20年度SI19～20 出土遺物

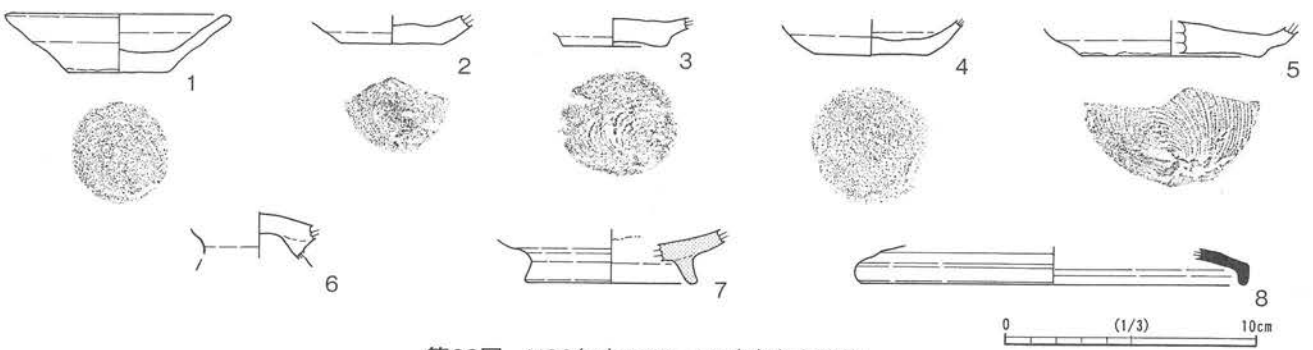
SI21



SI22

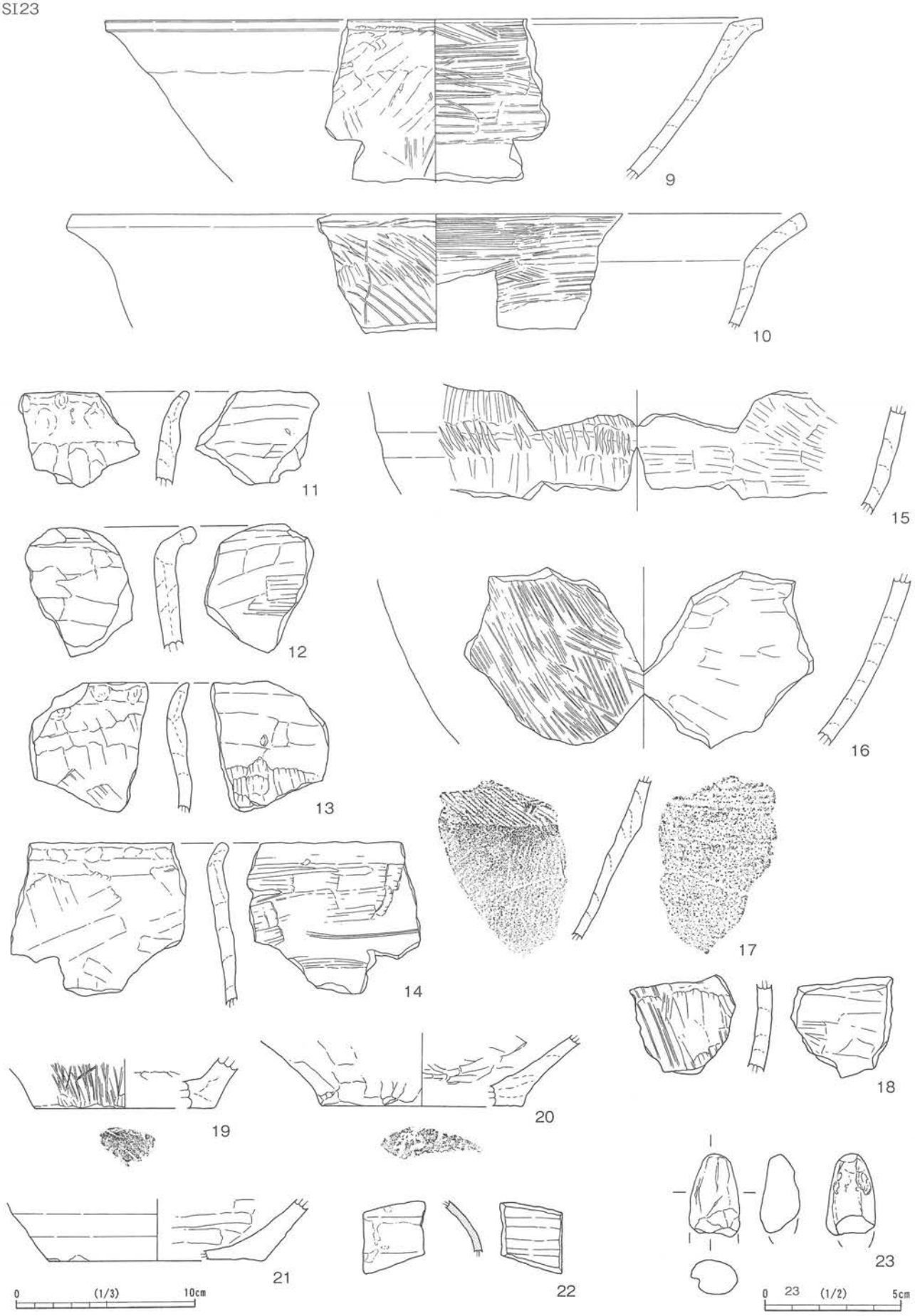


SI23

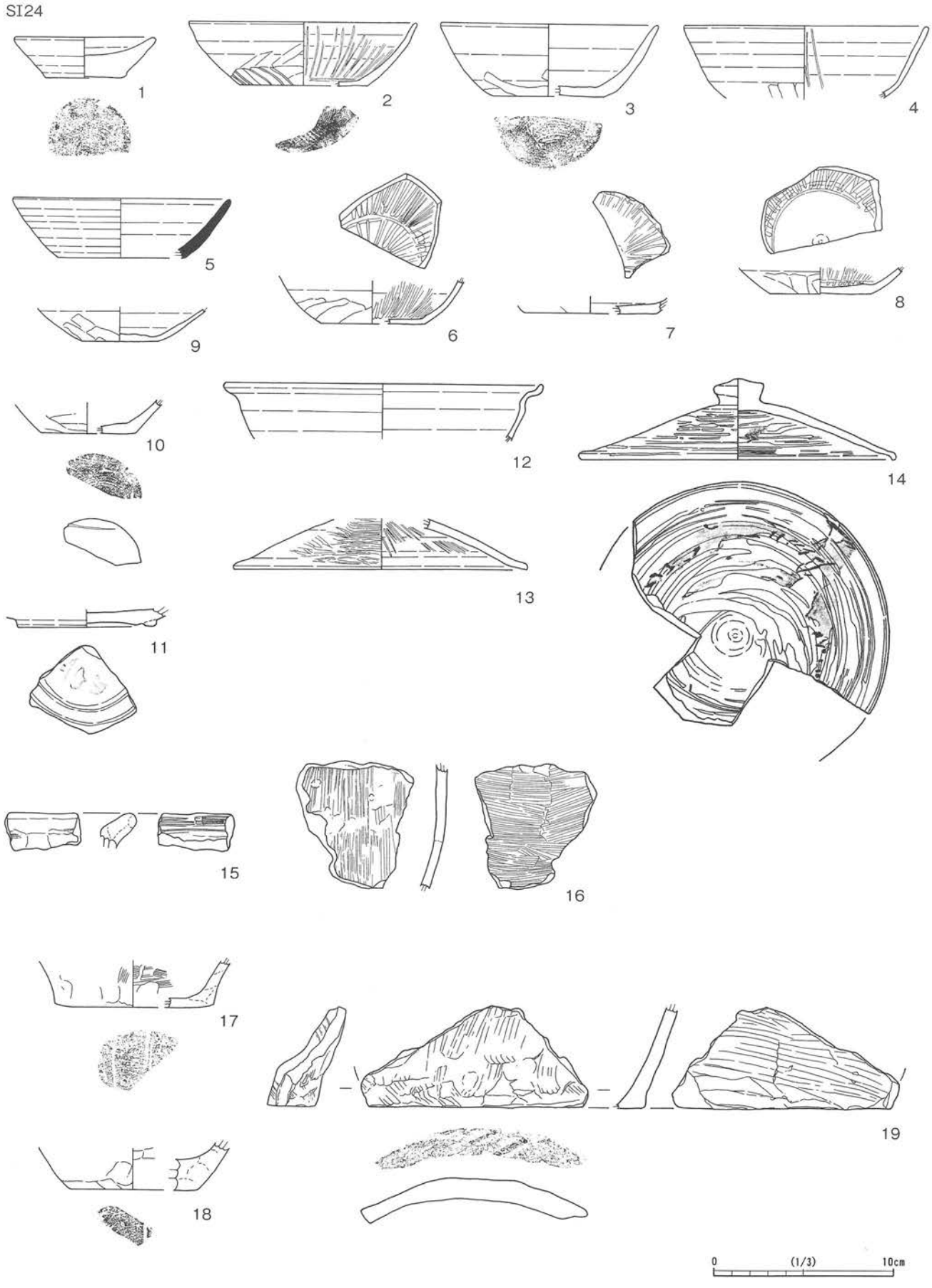


第68図　H20年度SI21～23(1)出土遺物

SI23

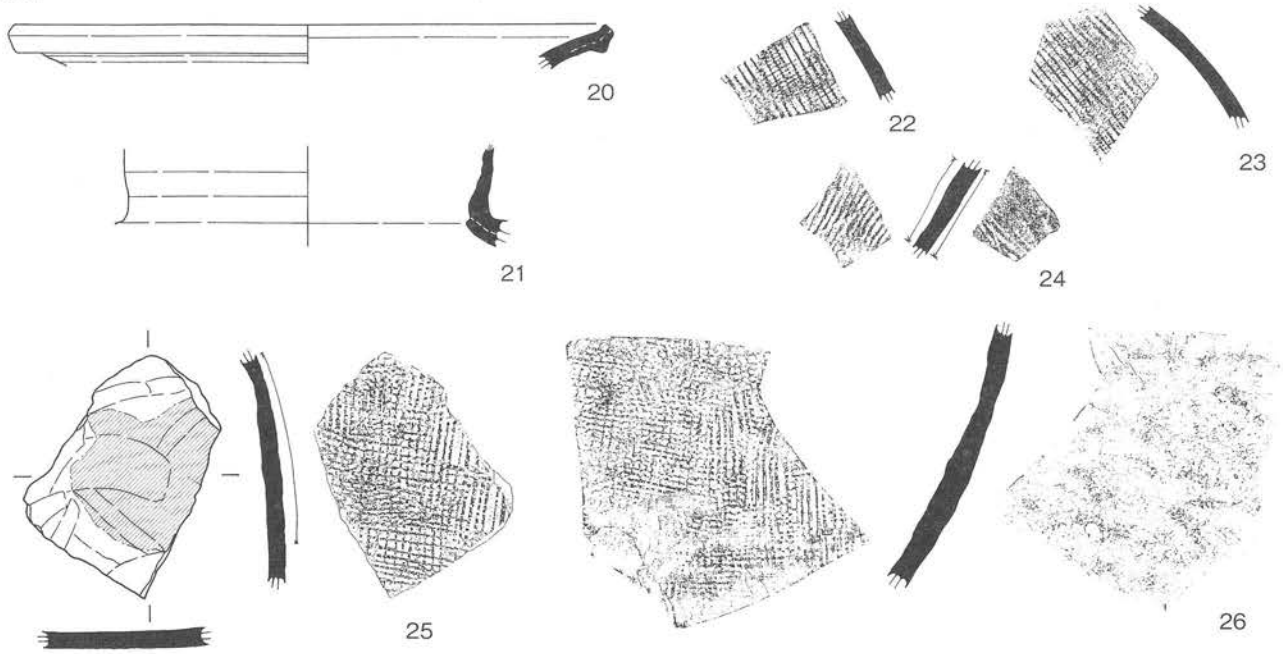


第69図　H20年度SI23(2)出土遺物

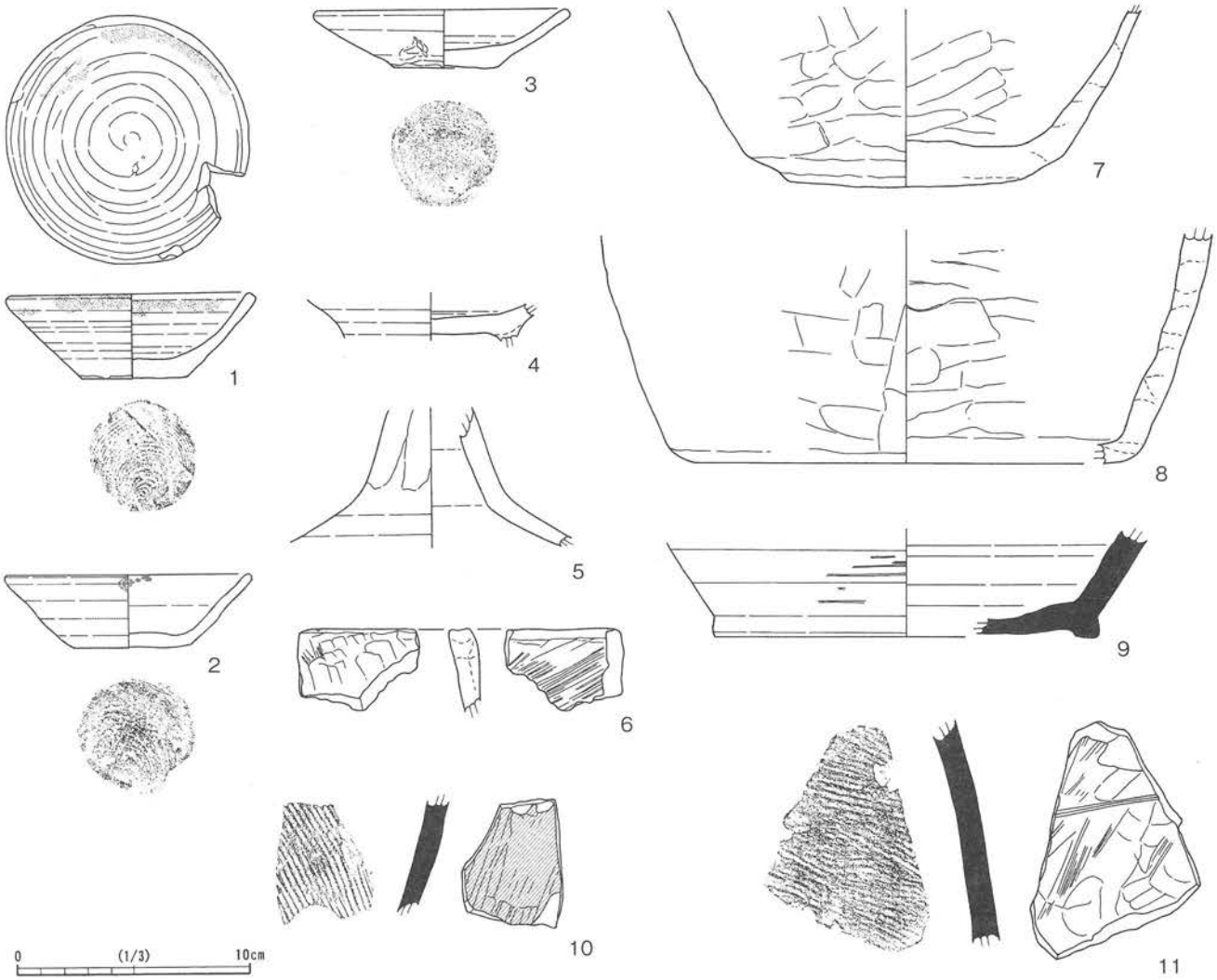


第70図　H20年度SI24(1)出土遺物

SI24



SI25

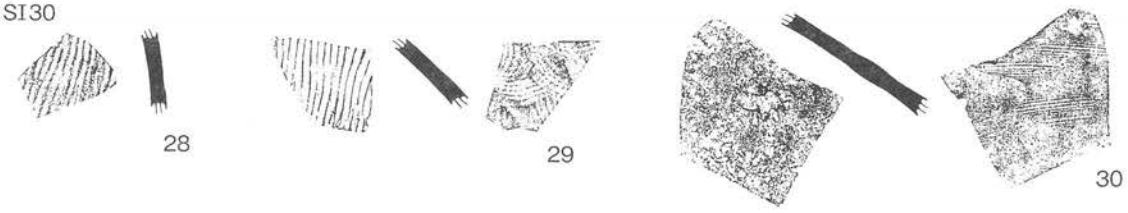


第71図　H20年度SI24(2)・25出土遺物

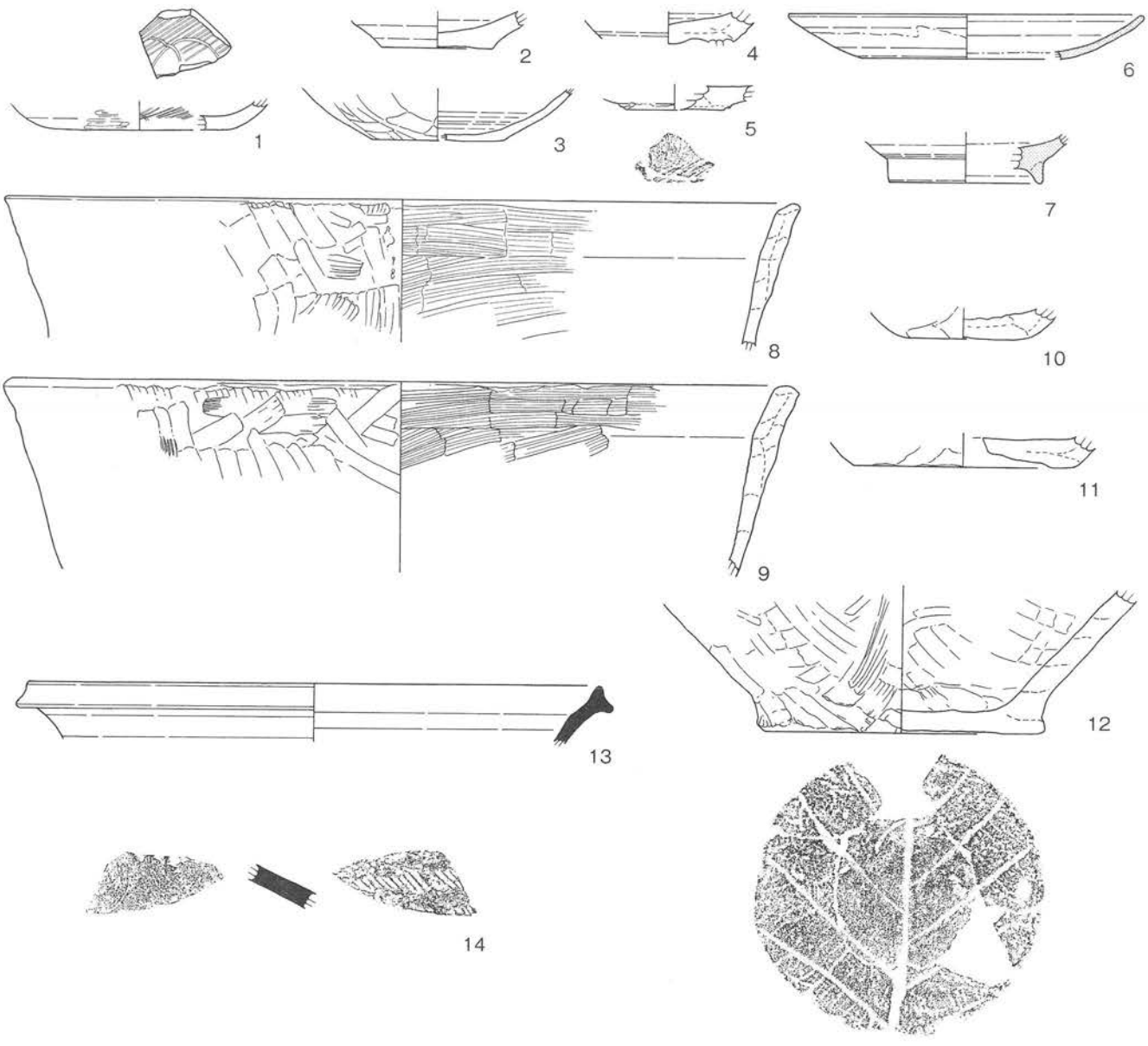
第72図　H20年度SI26～28・30(1)出土遺物

第73図　H20年度SI30(2)出土遺物

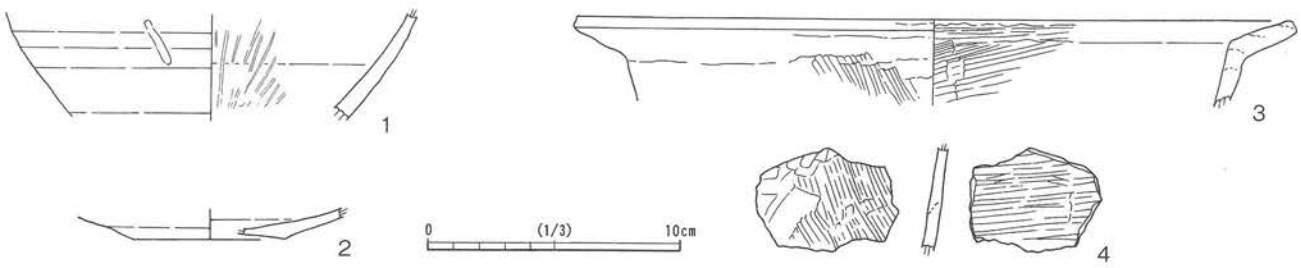
SI30



SI31

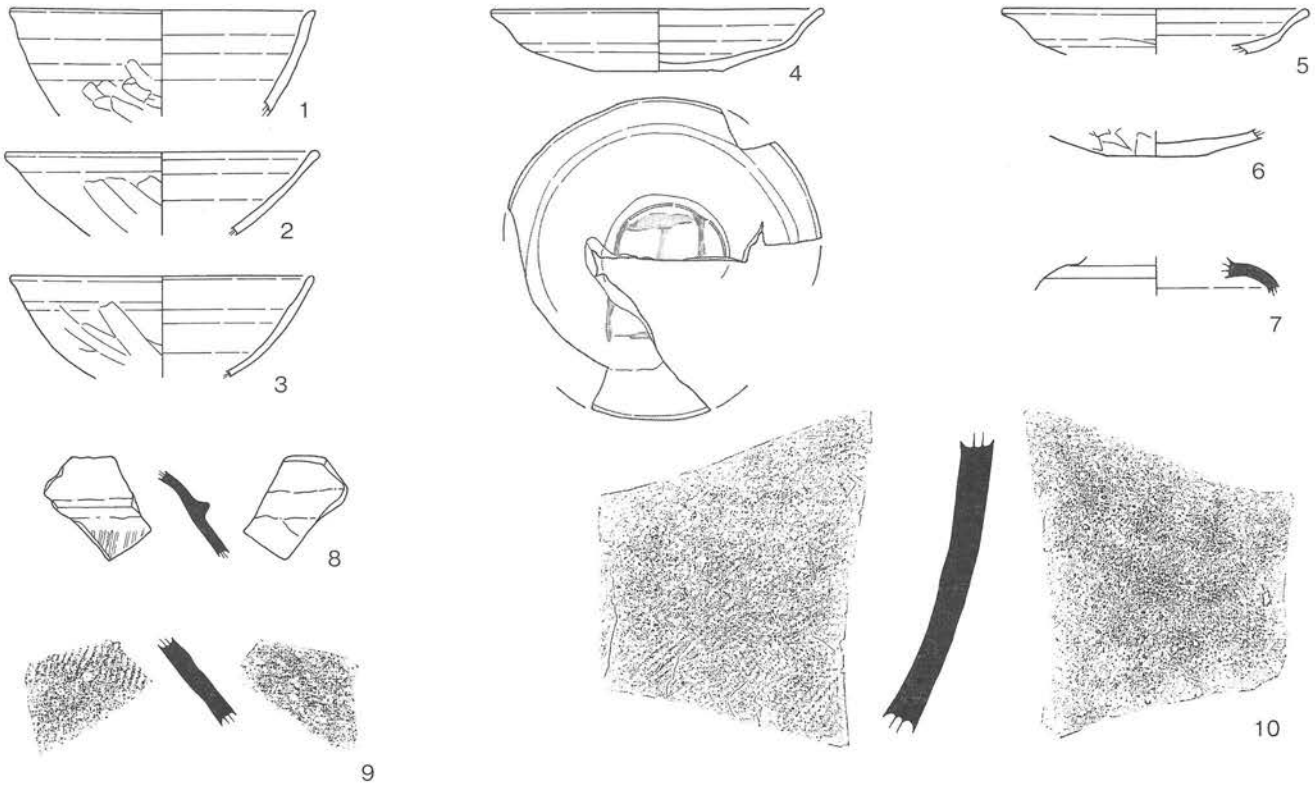


SI32

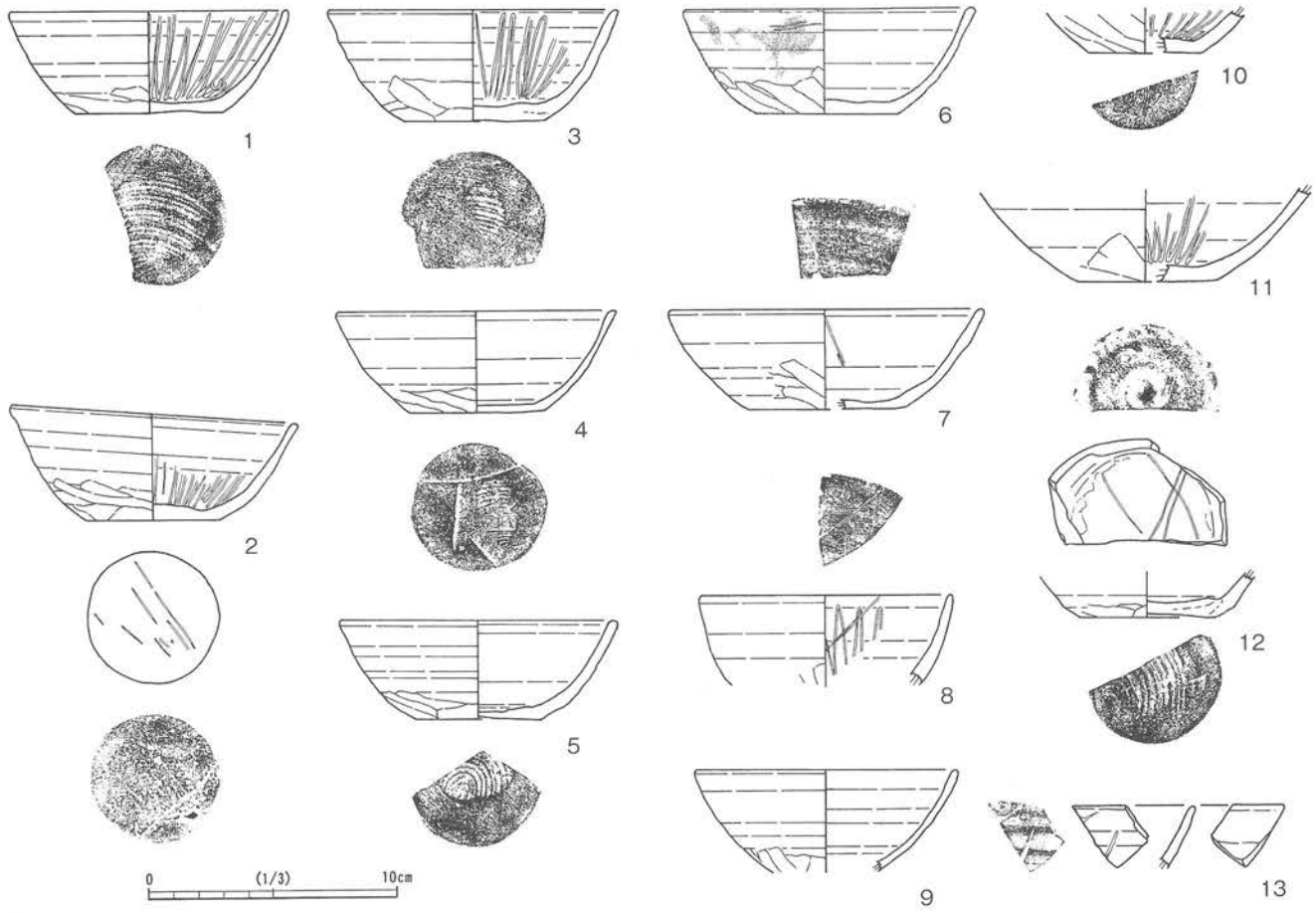


第74図　H20年度SI30(3)～32出土遺物

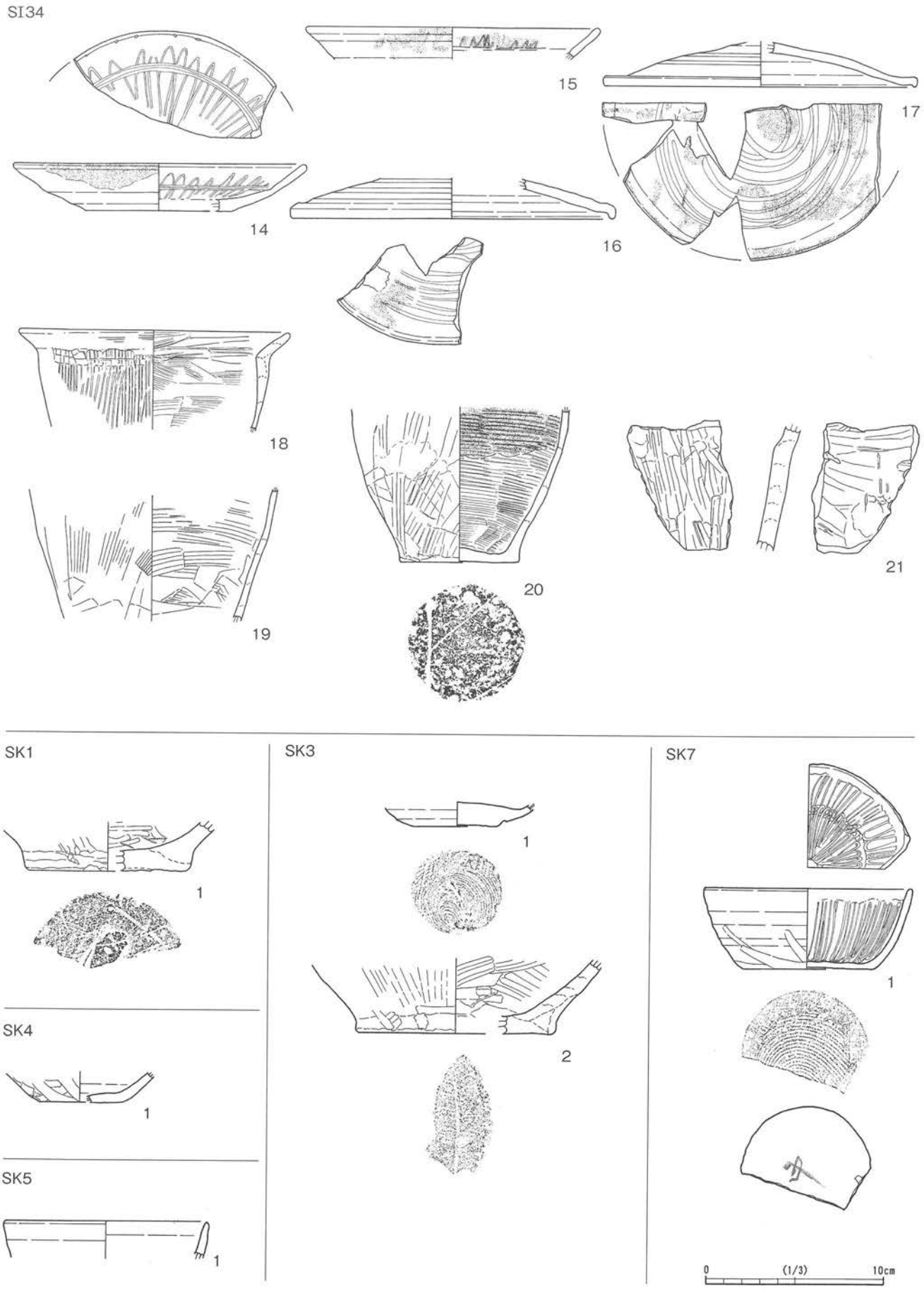
SI33



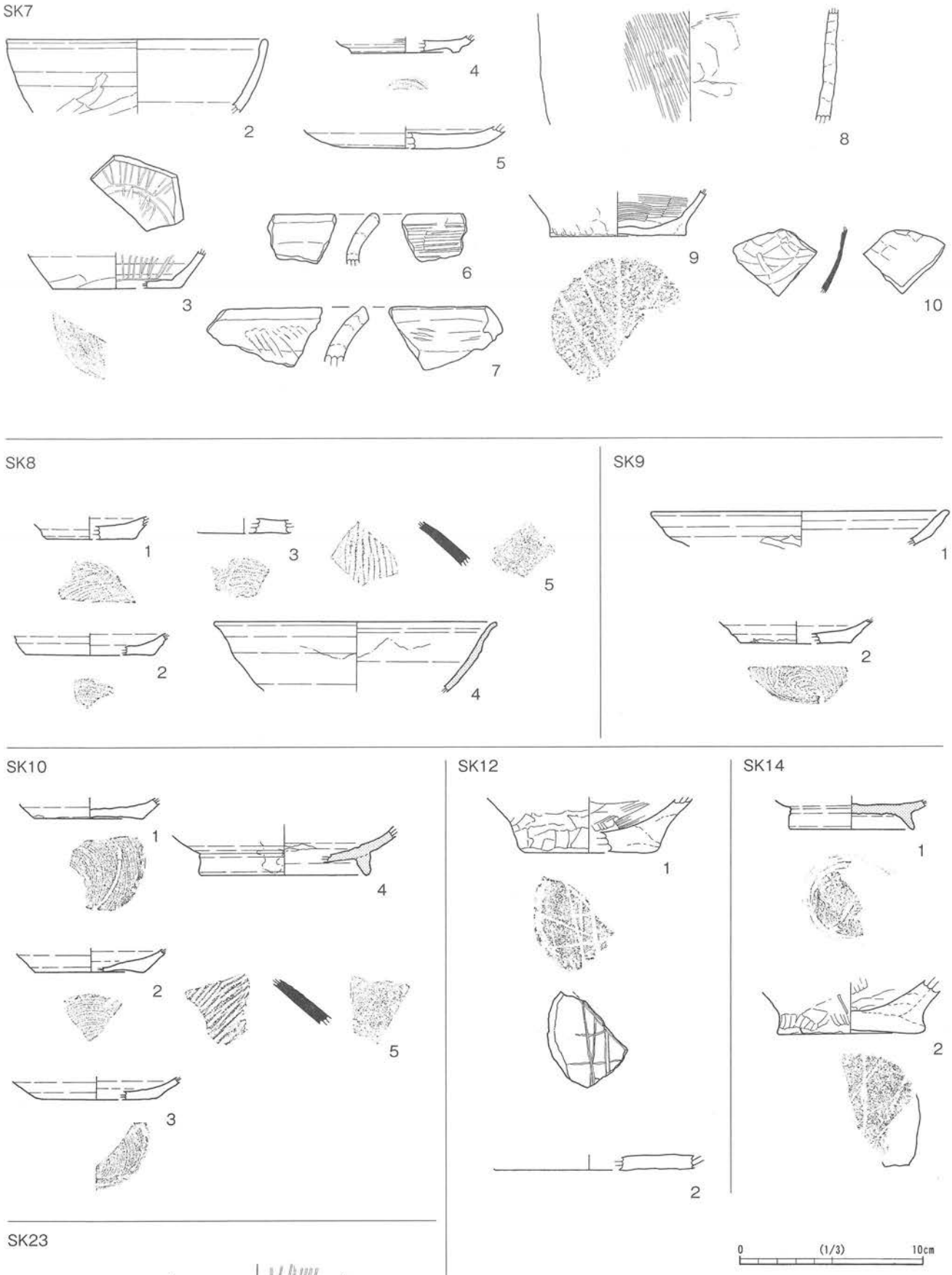
SI34



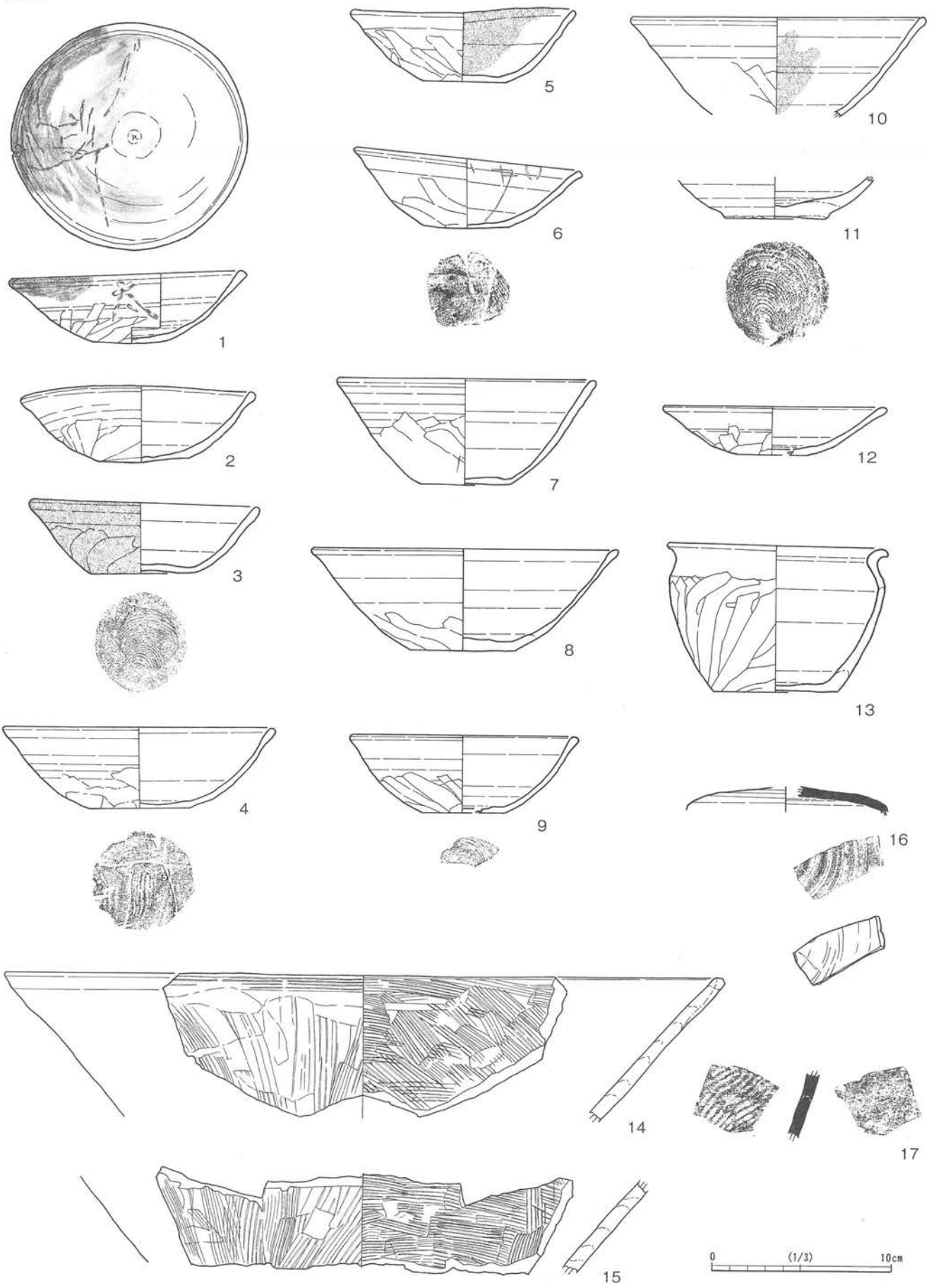
第75図　H20年度SI33・34(1)出土遺物



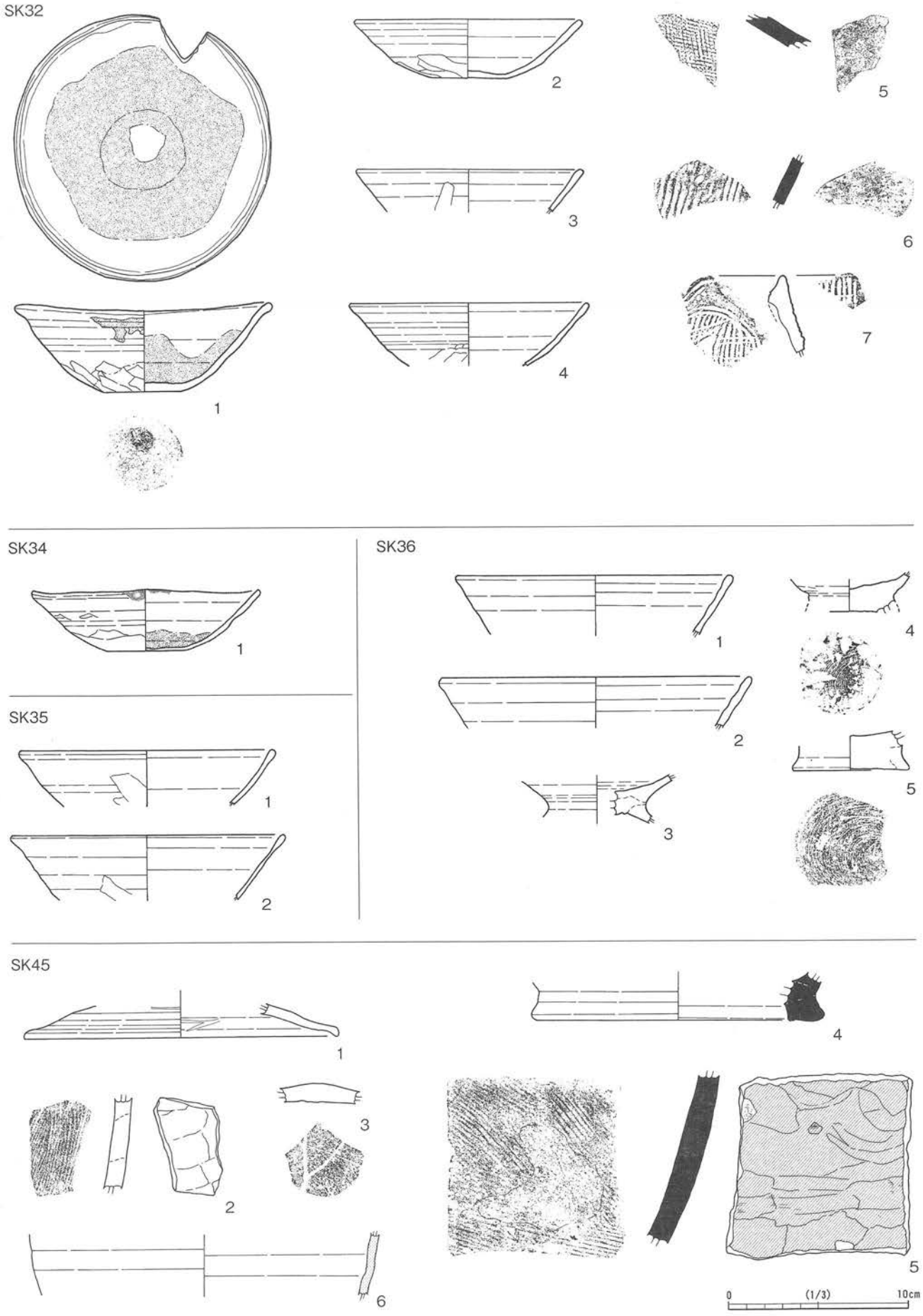
第76図　H20年度SI34(2)、SK1・3～5・7(1)出土遺物



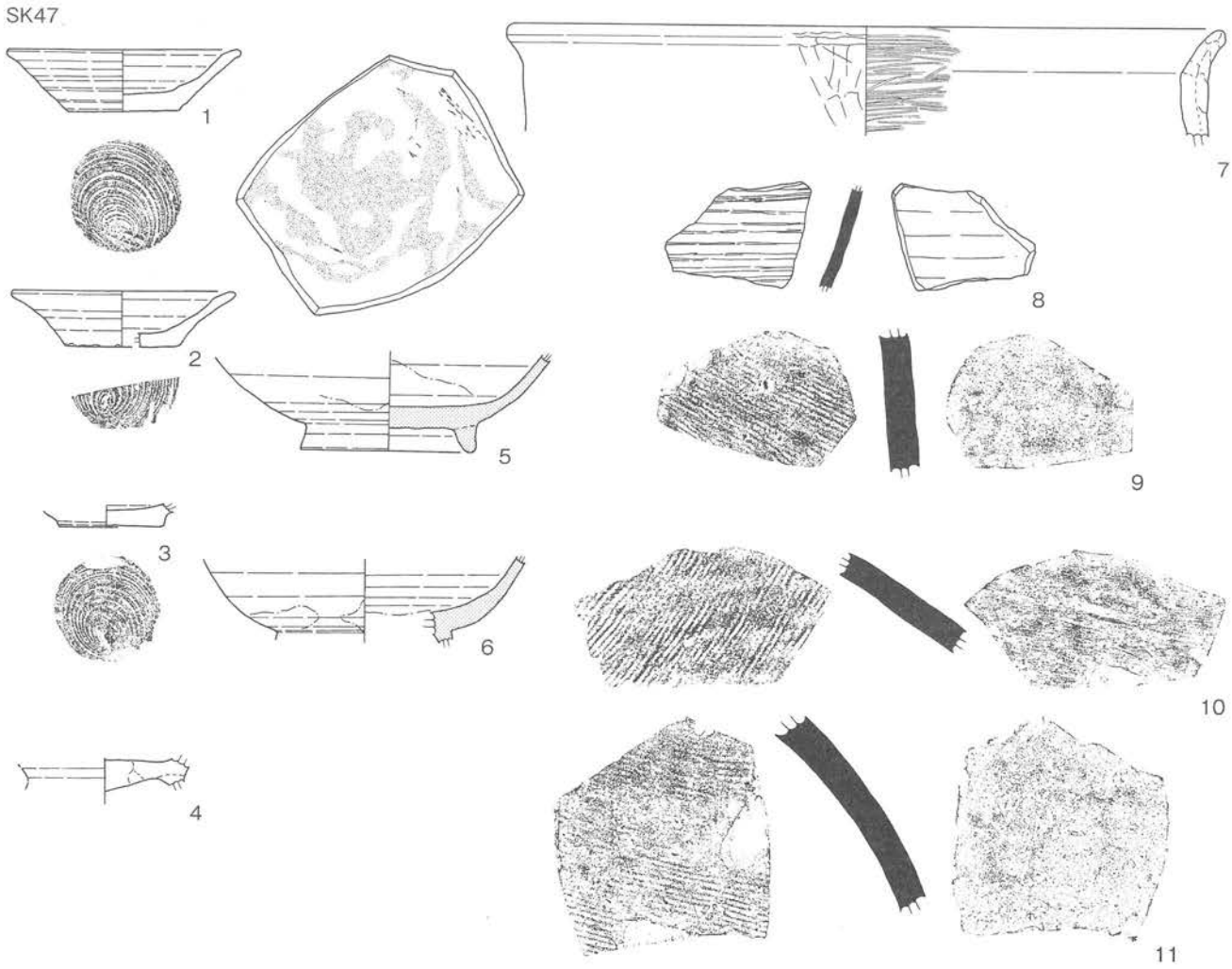
第77図　H20年度SK7(2)～10・12・14・23出土遺物

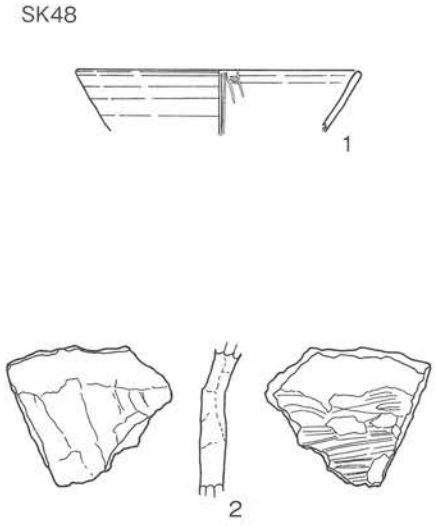


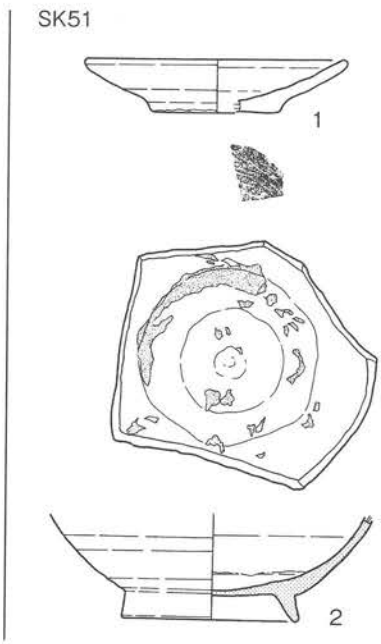
第78図　H20年度SK31 出土遺物

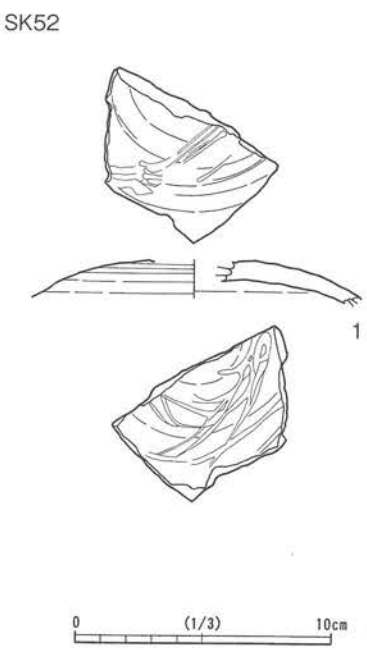


第79図　H20年度SK32・34～36・45 出土遺物

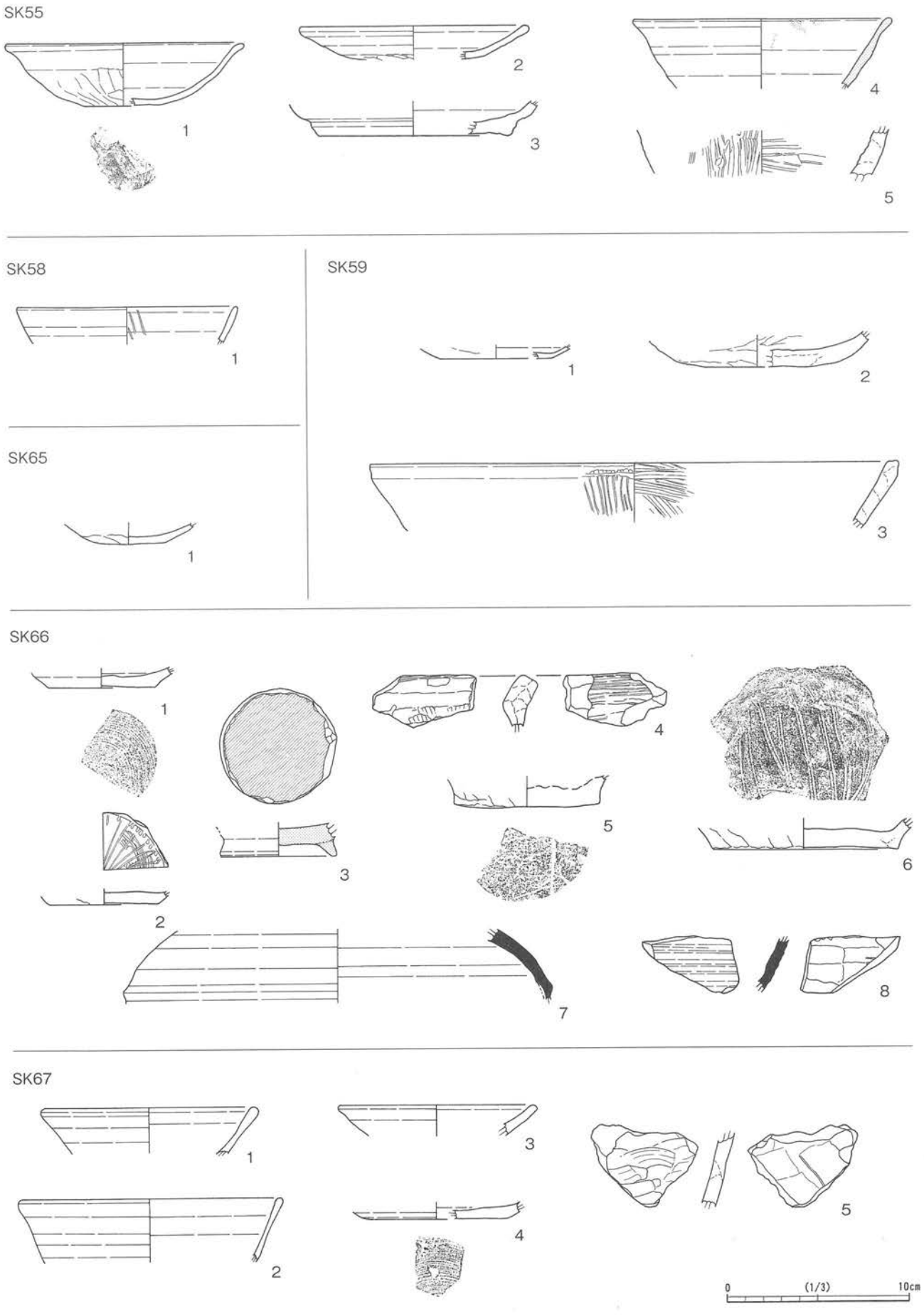




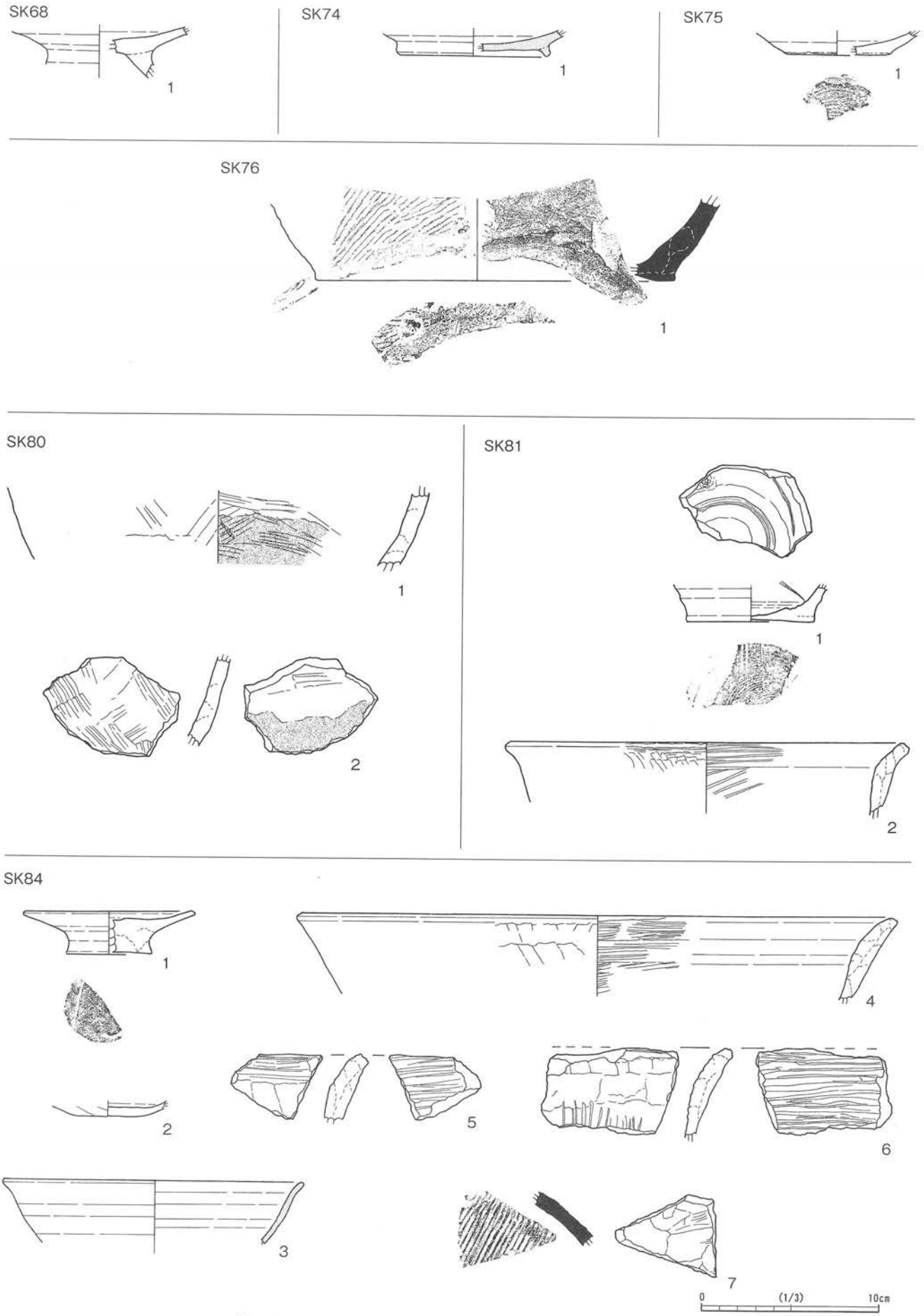




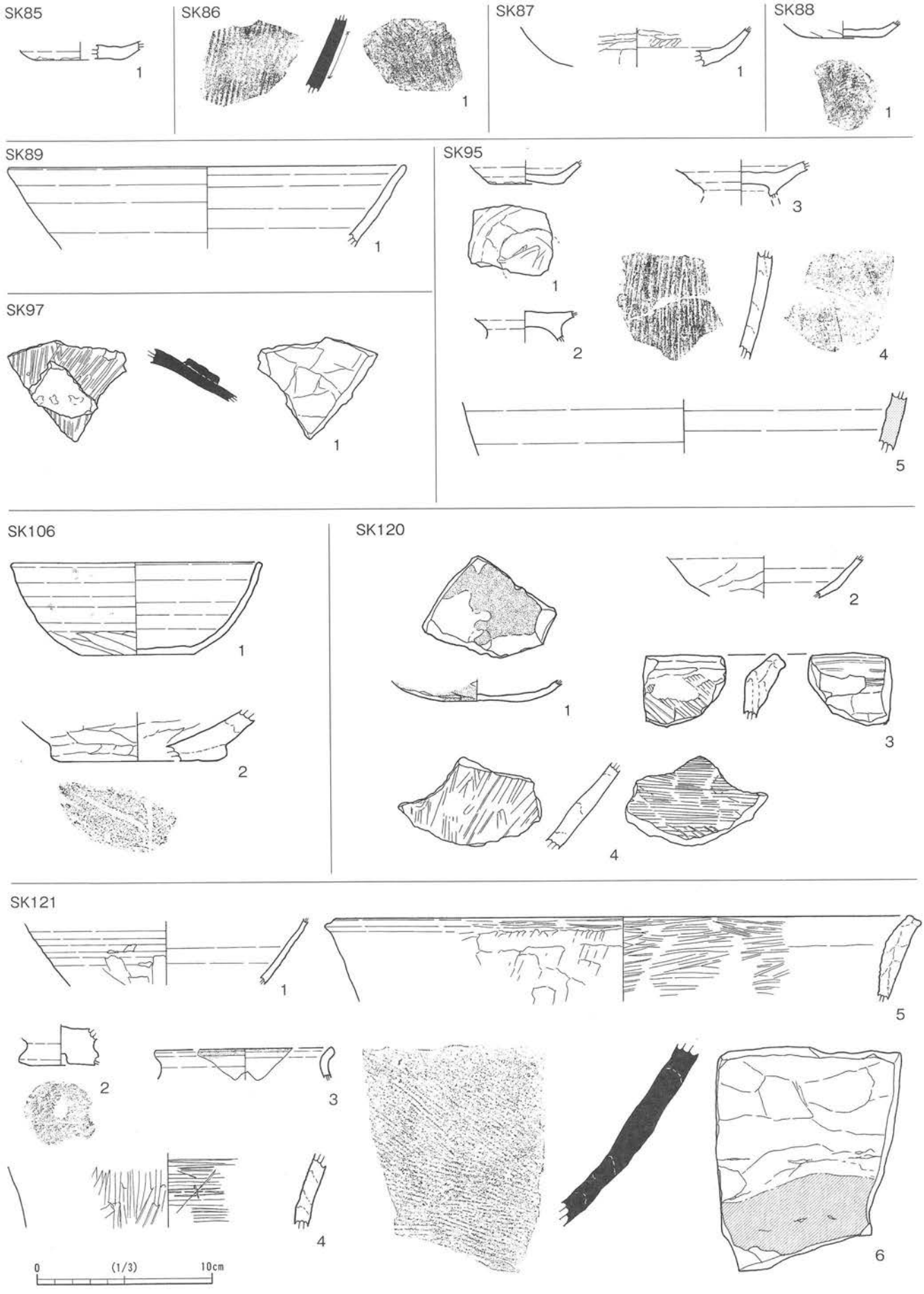
第80図　H20年度SK47・48・51・52出土遺物



第81図　H20年度SK55・58・59・65～67 出土遺物

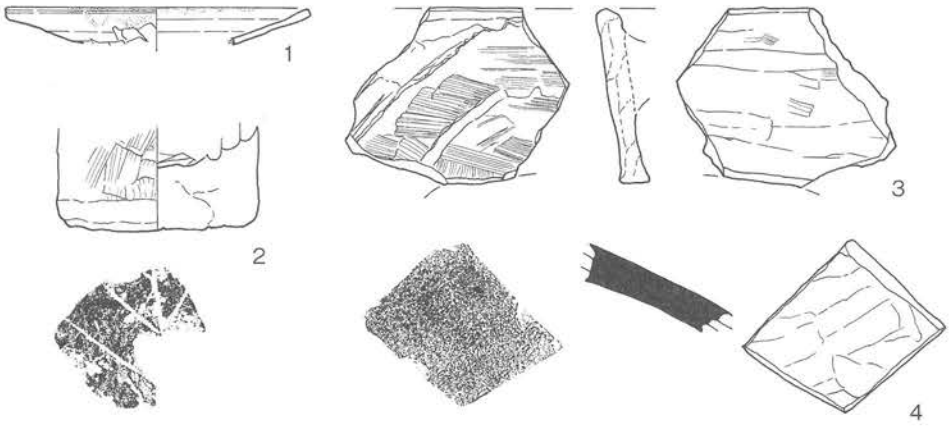


第82図　H20年度SK68・74～76・80・81・84 出土遺物

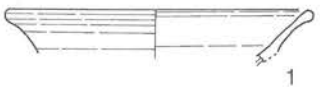


第83図　H20年度SK85～89・95・97・106・120・121 出土遺物

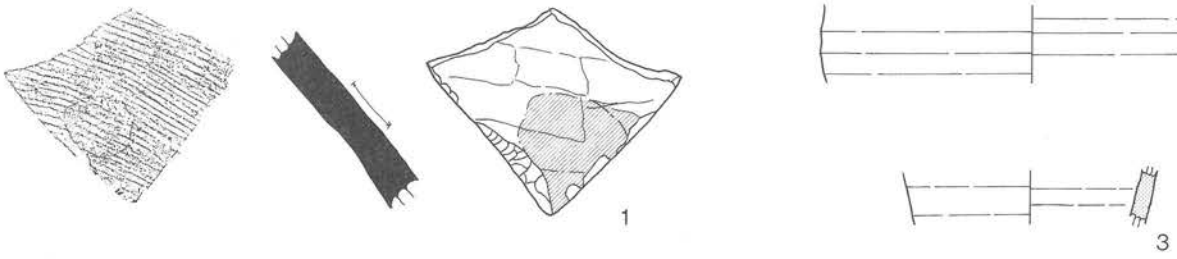
SK122



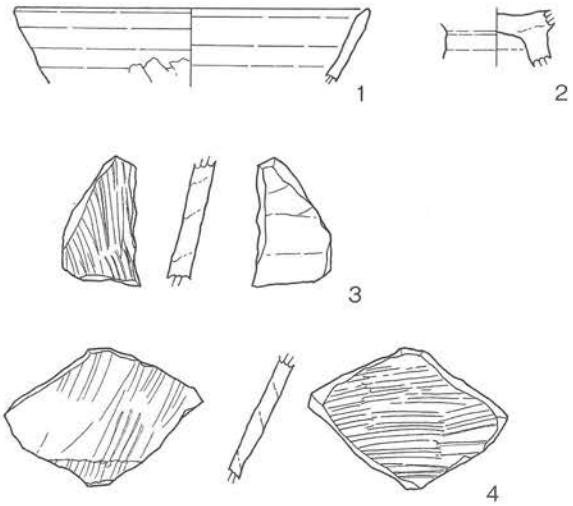
SK123



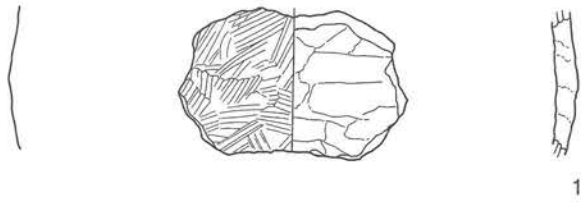
SK124



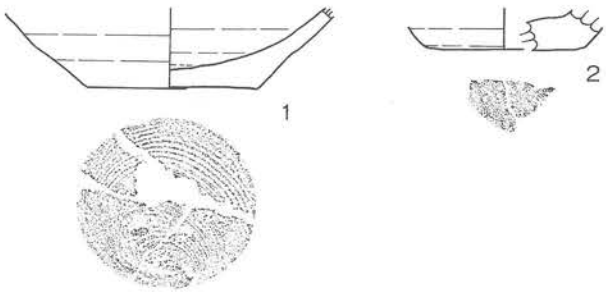
SK125



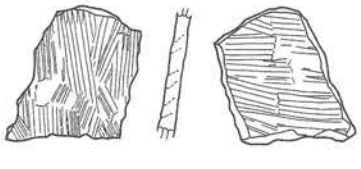
SK127

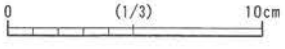


SK130



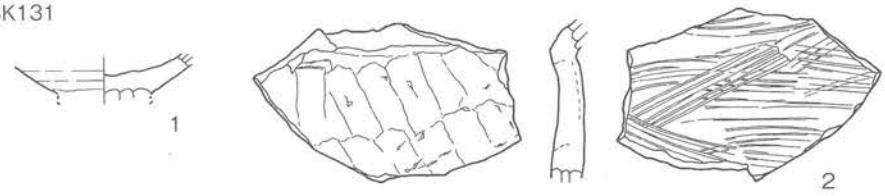
SK129



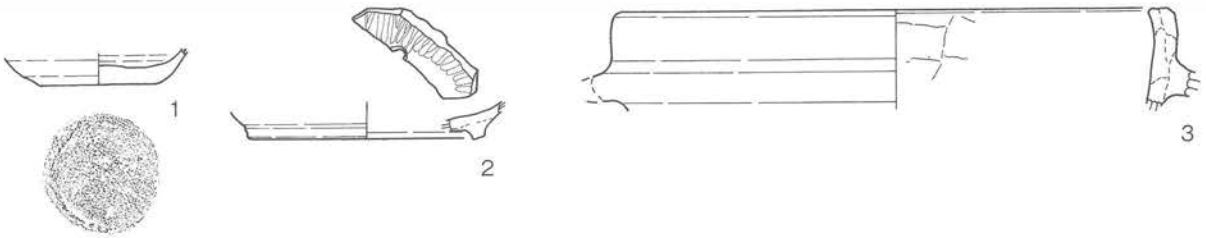


第84図　H20年度SK122～125・127・129・130出土遺物

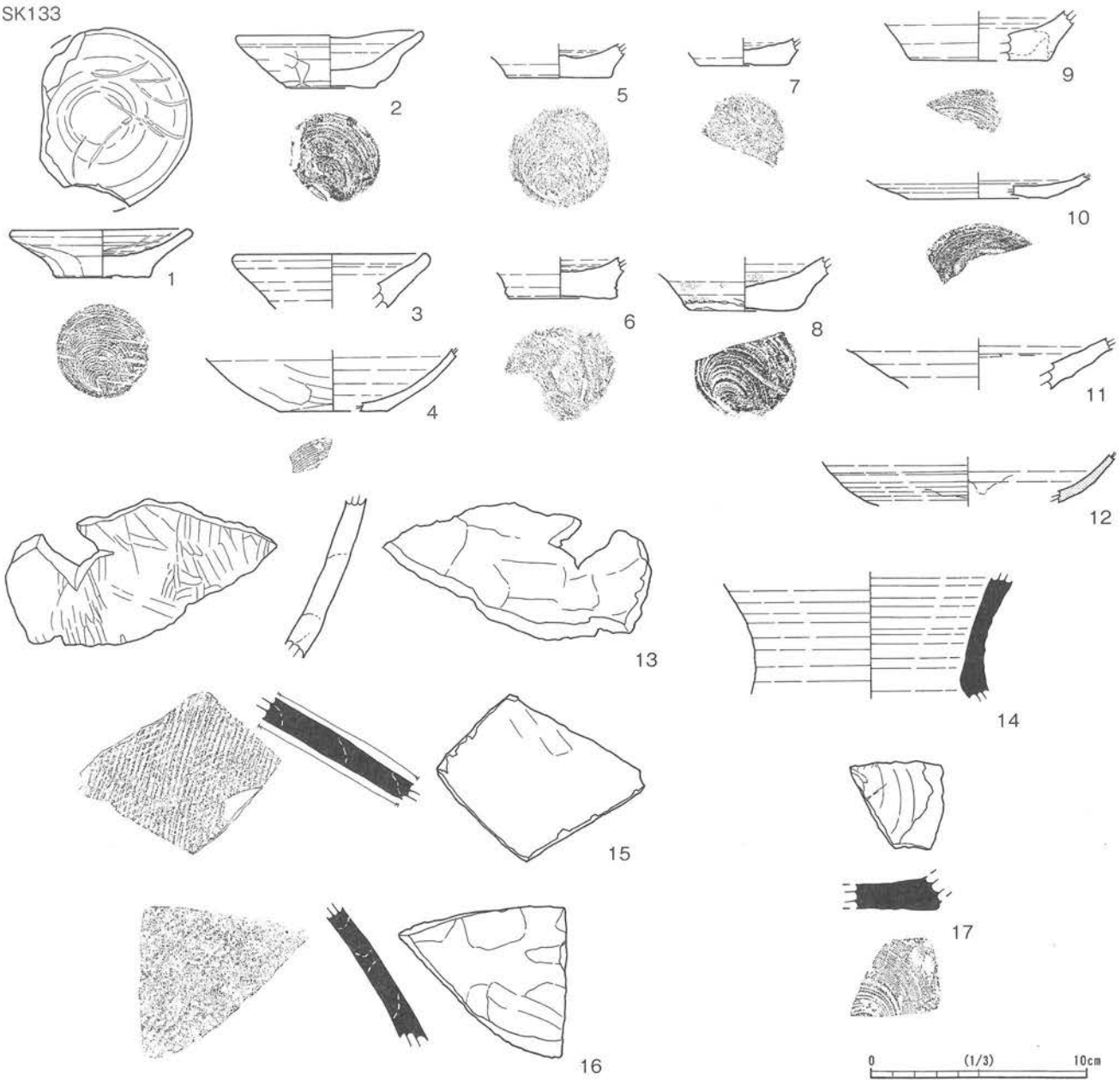
SK131



SK132

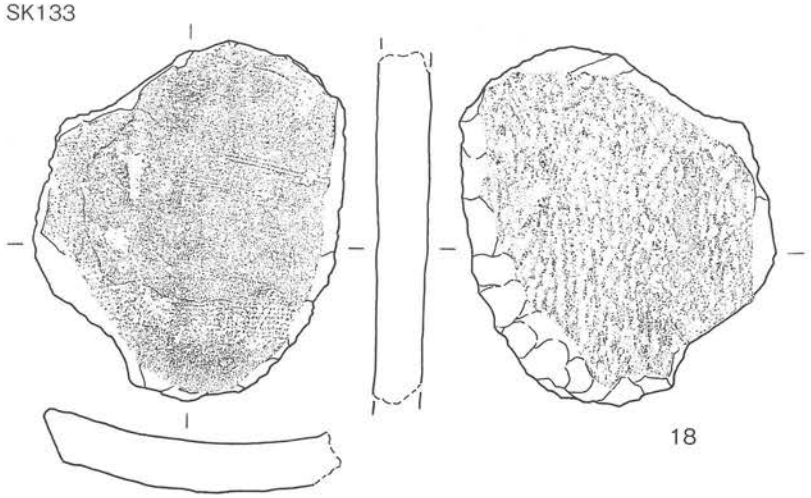


SK133

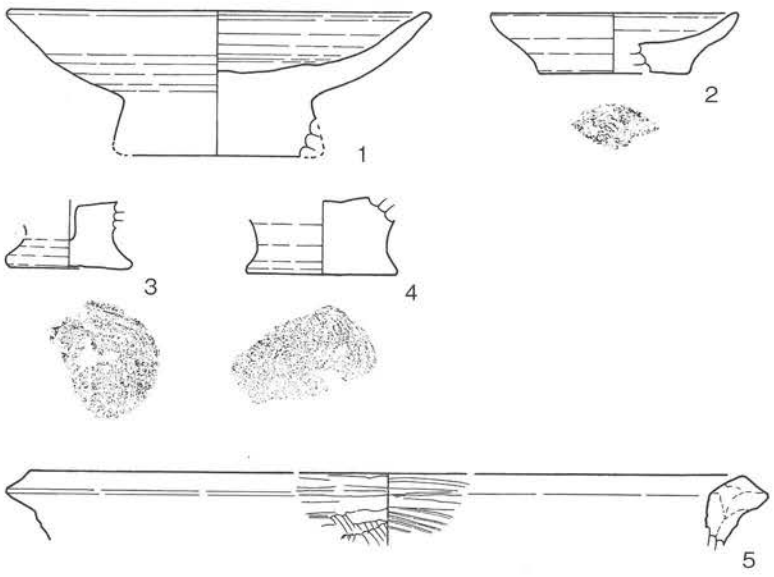


第85図　H20年度SK131～133(1)出土遺物

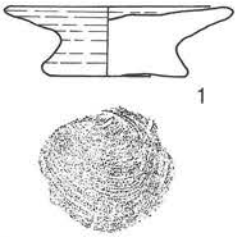
SK133



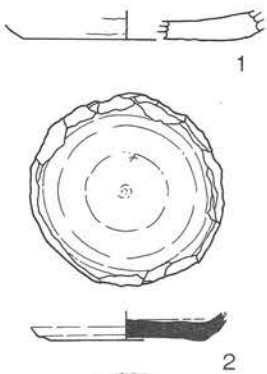
SK134



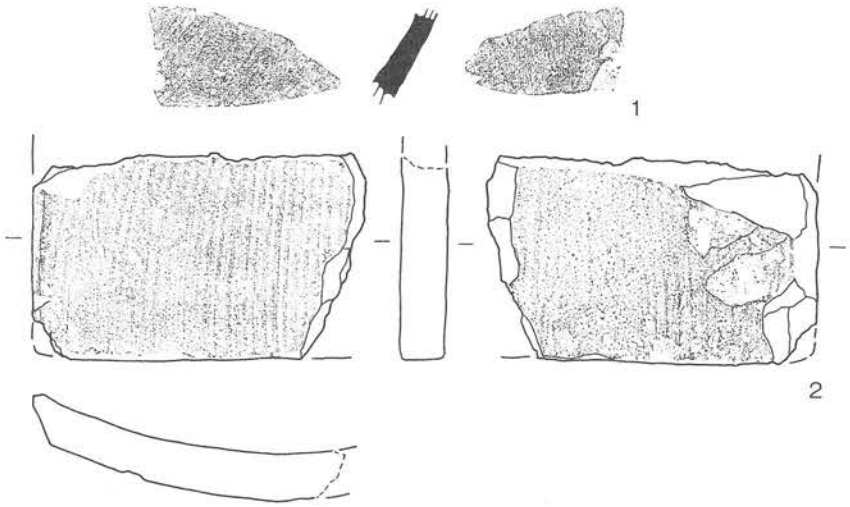
SK135

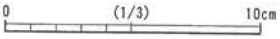


SK139



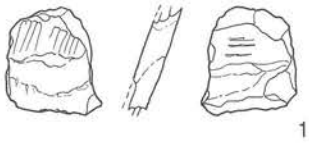
SK140



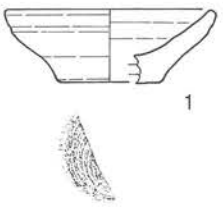


第86図　H20年度SK133(2)～135・139・140 出土遺物

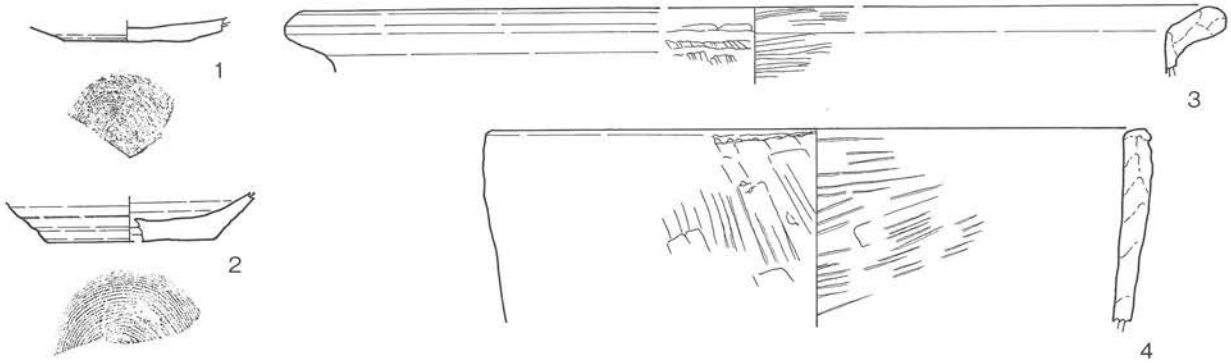
SK141



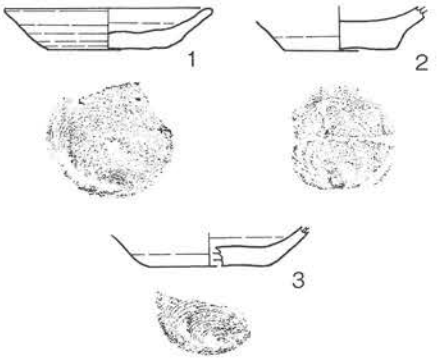
SK143



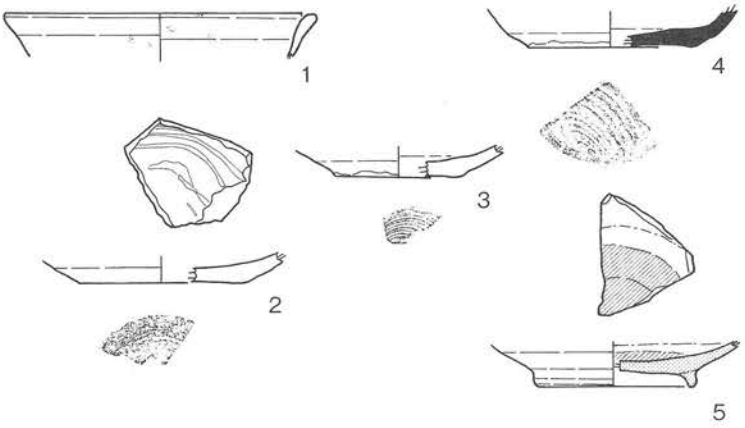
SK146



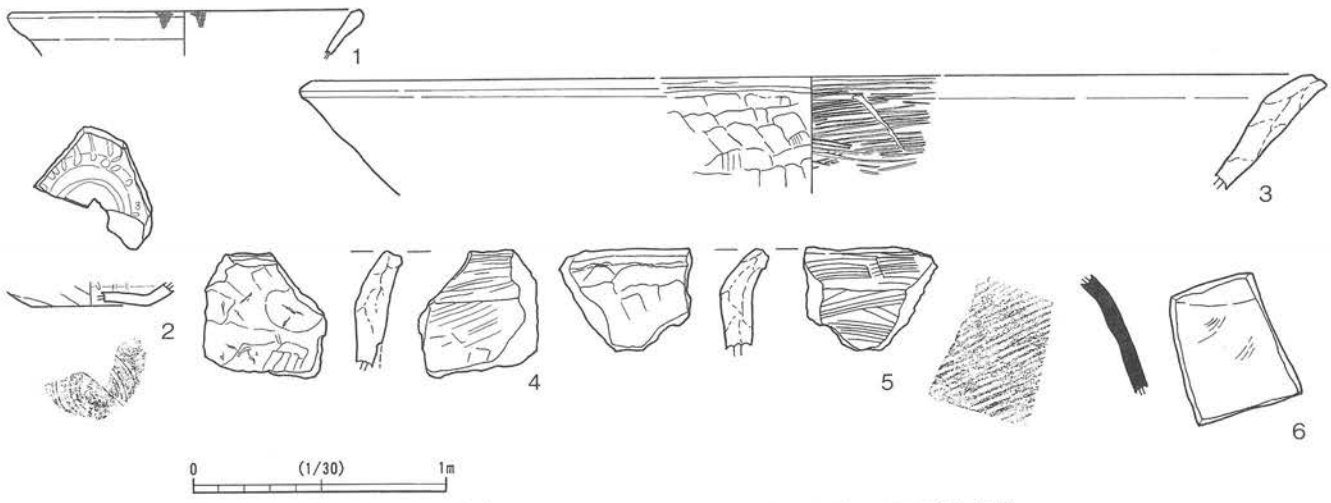
SK148



SK149



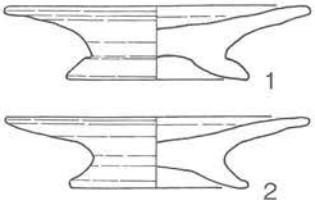
SK151



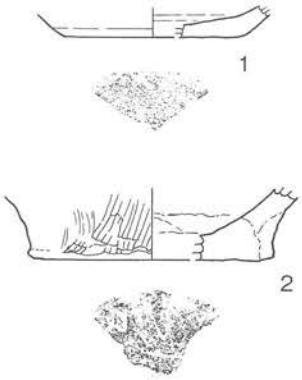
0 (1/30) 1m

第87図　H20年度SK141・143・146・148・149・151 出土遺物

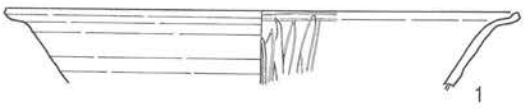
SK152



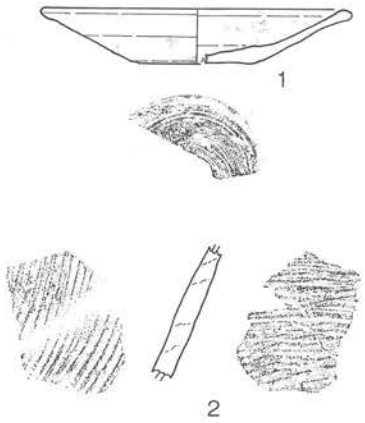
SK153



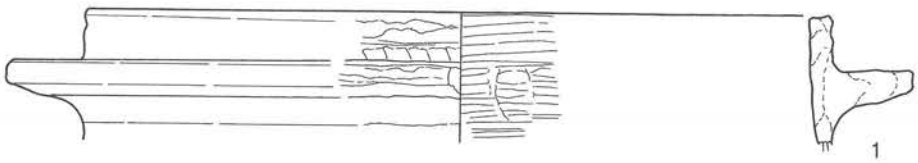
SK154



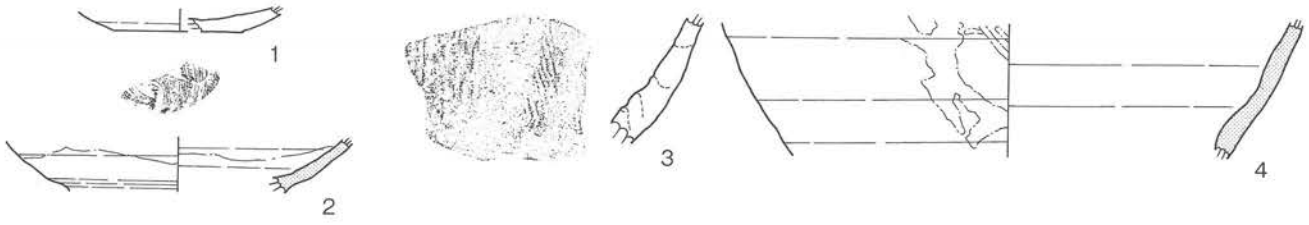
SK158



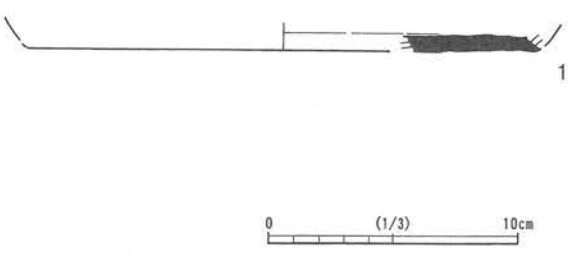
SK163



SK164



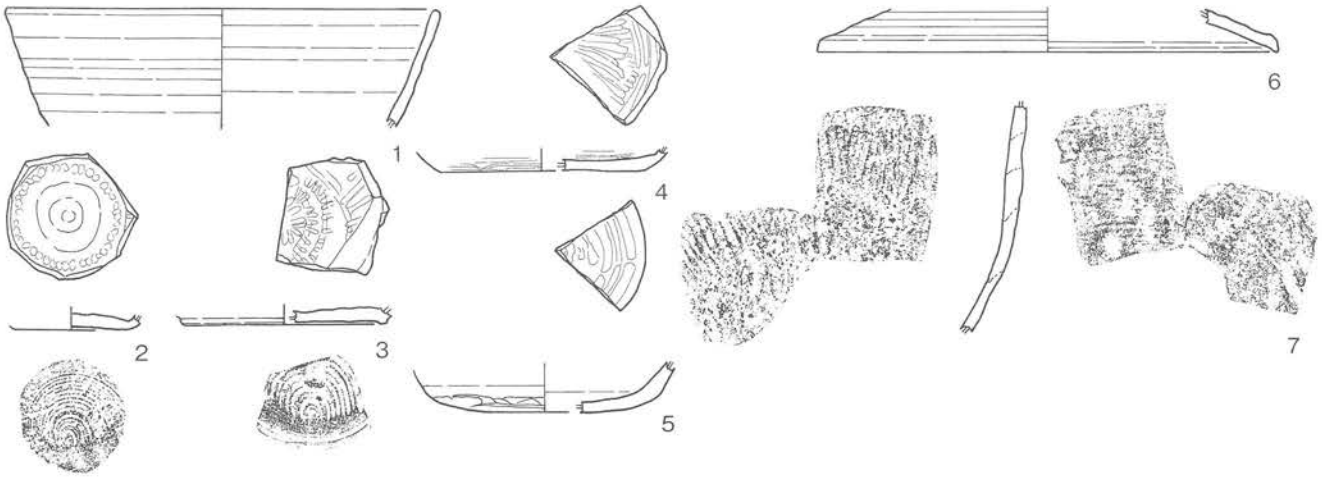
SK165



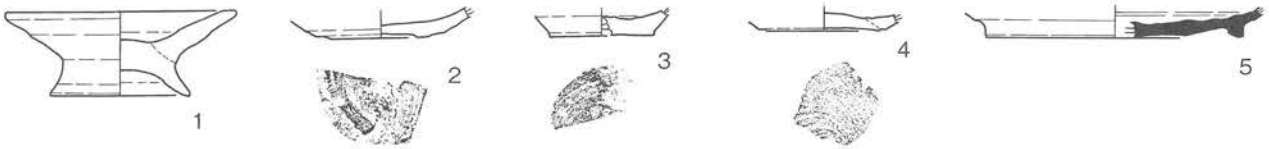
SK166

第88図　H20年度SK152～154・158・163～166 出土遺物

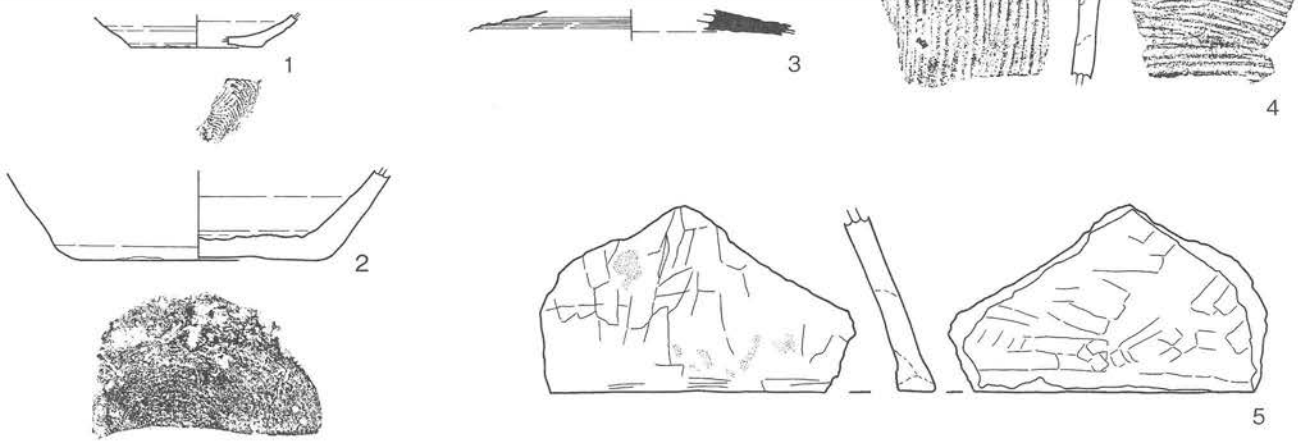
SK168



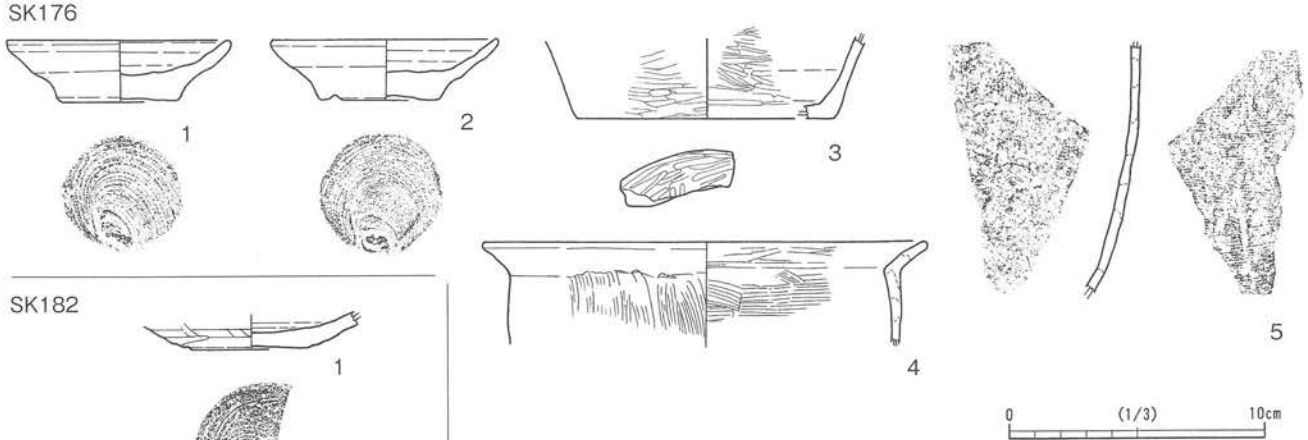
SK172



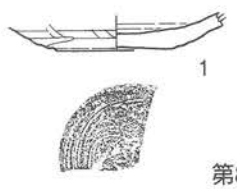
SK174

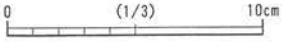


SK176



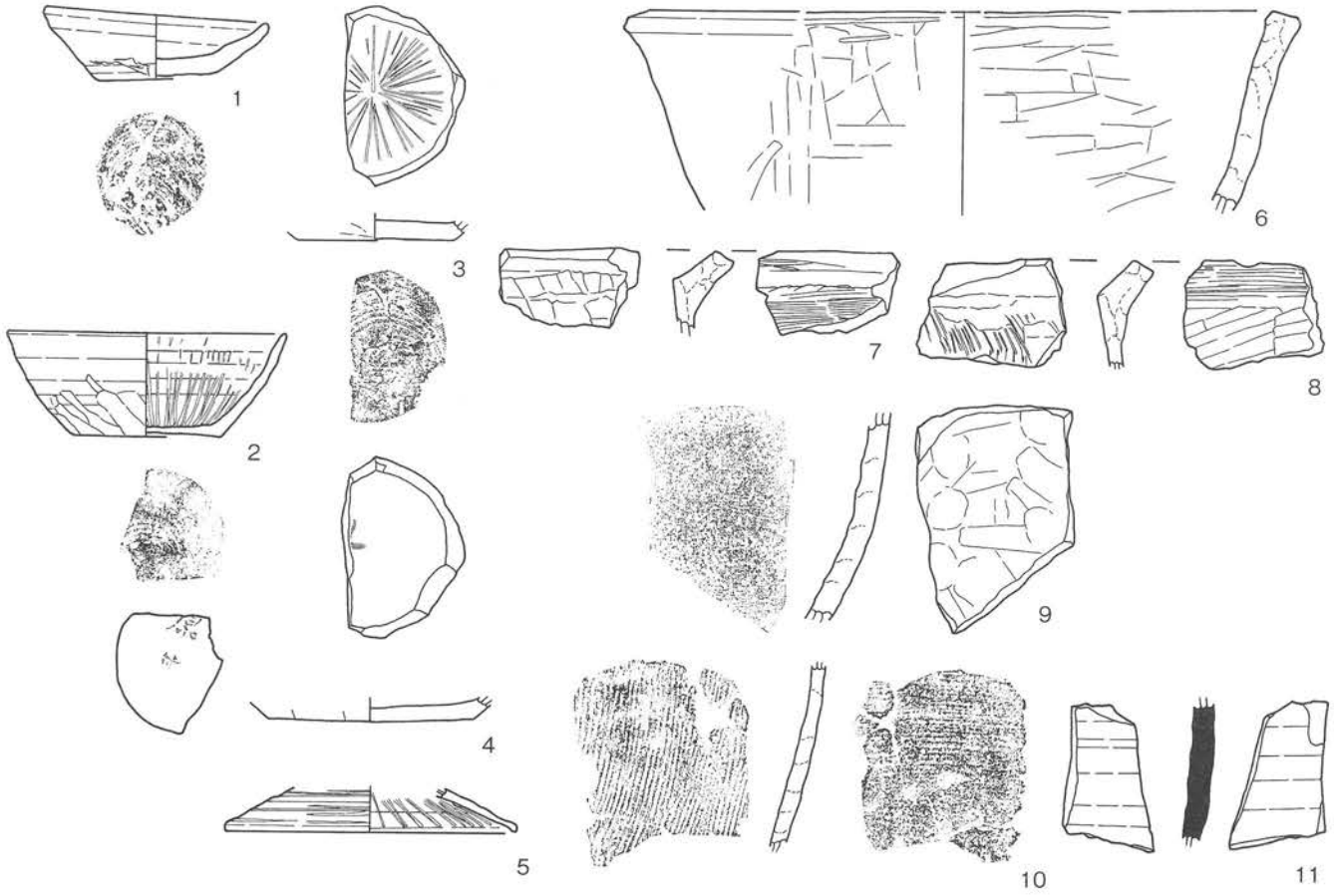
SK182



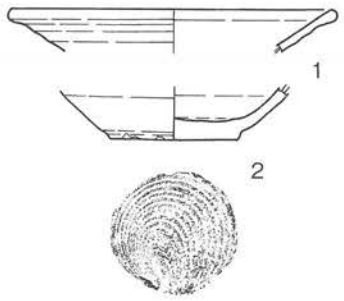


第89図　H20年度SK168・172・174・176・182 出土遺物

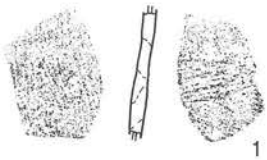
SK184



SK188

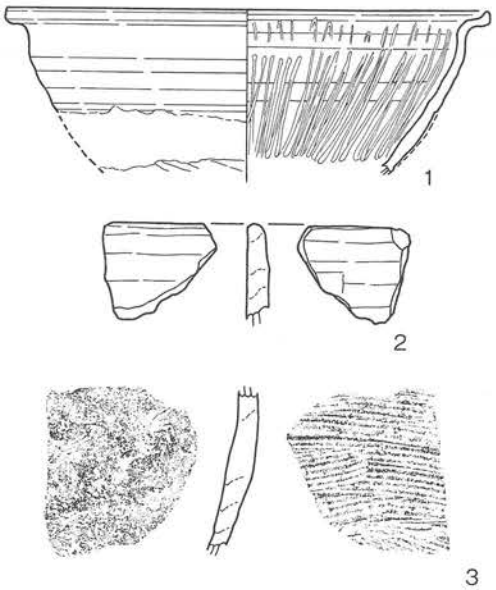


SK190

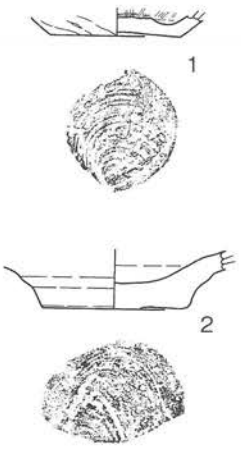


SK193

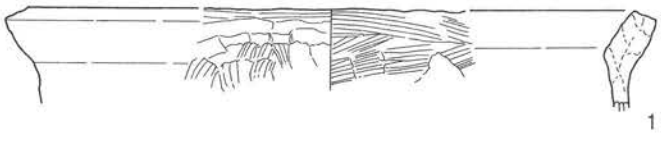
SK196

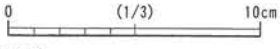


SK199



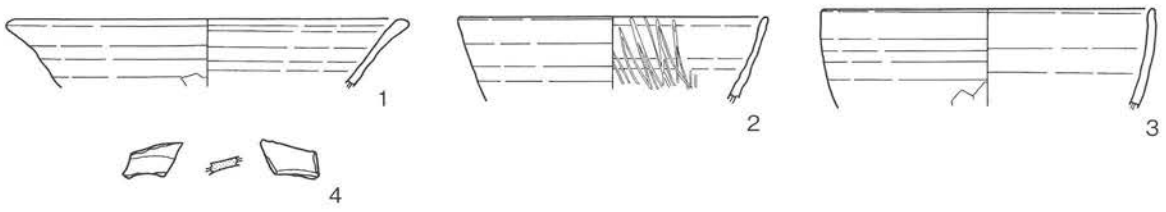
SK200



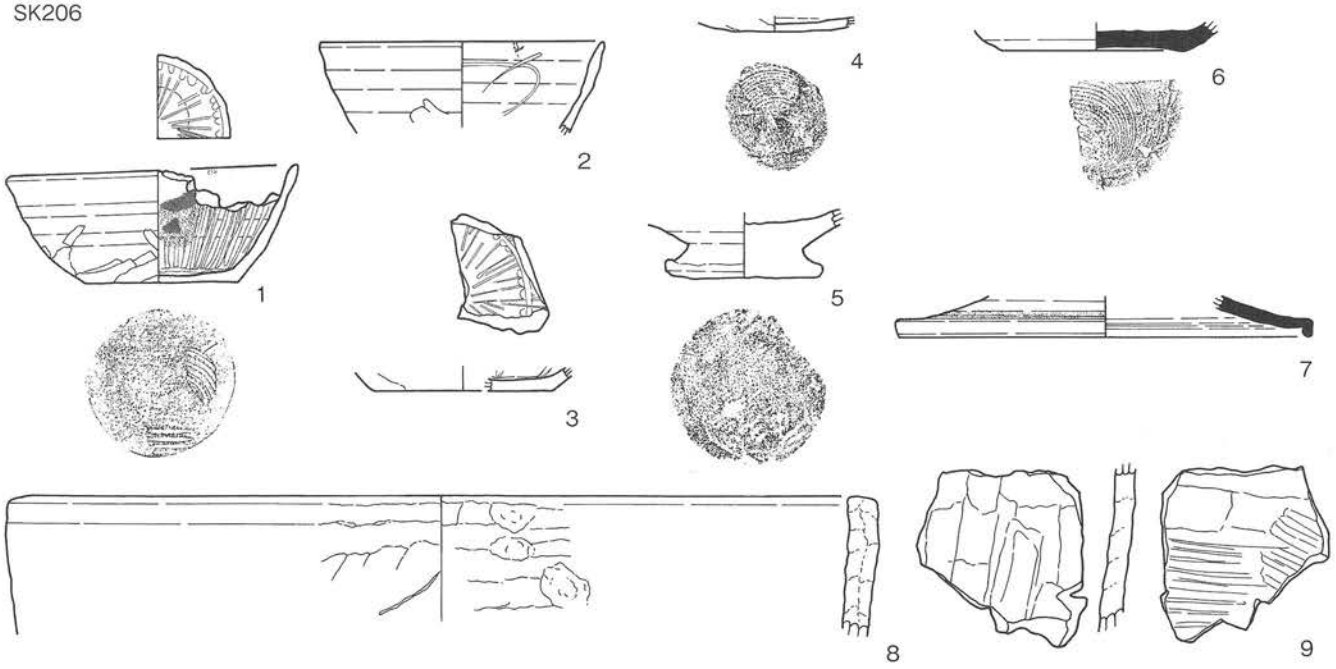


第90図　H20年度SK184・188・190・193・196・199・200 出土遺物

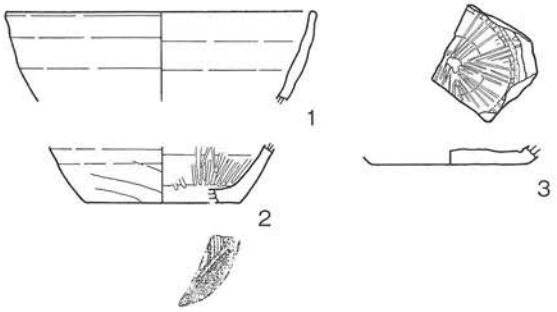
SK202



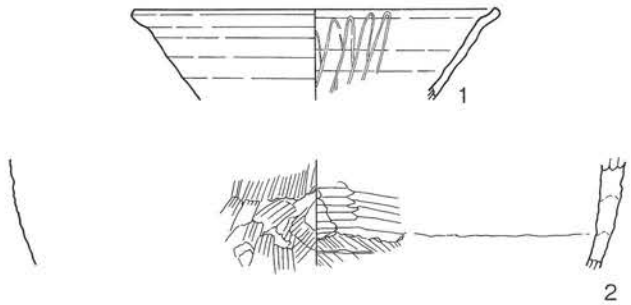
SK206



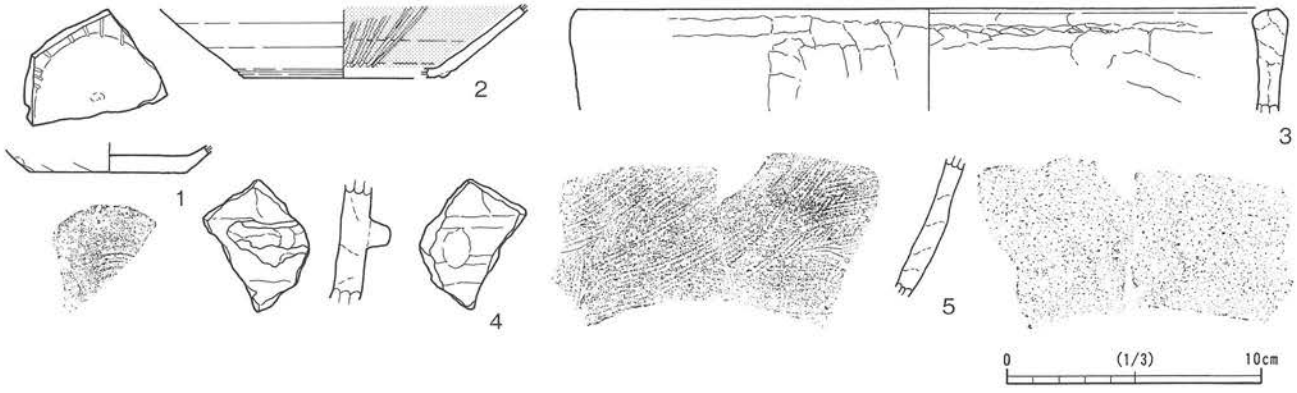
SK207



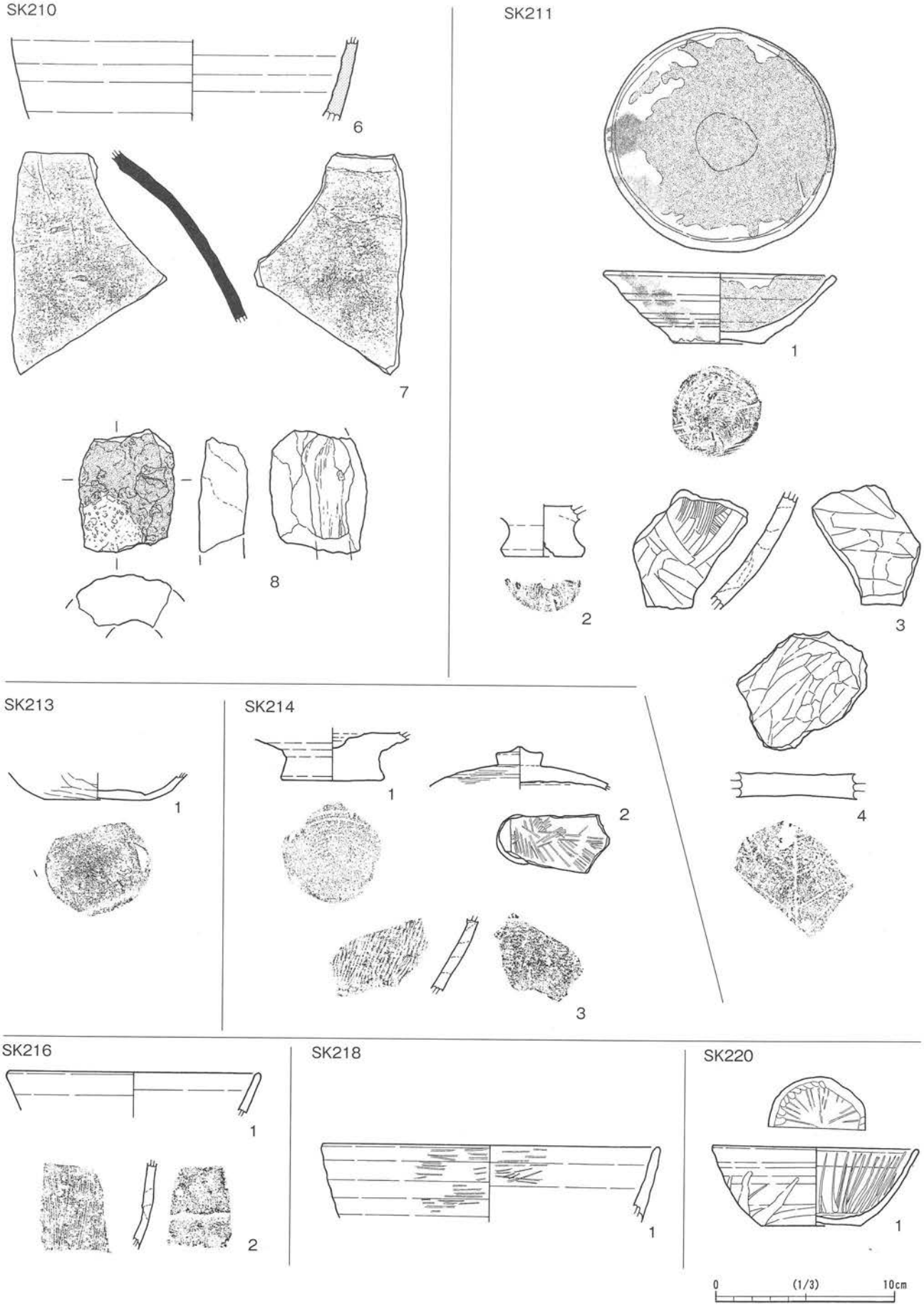
SK209



SK210

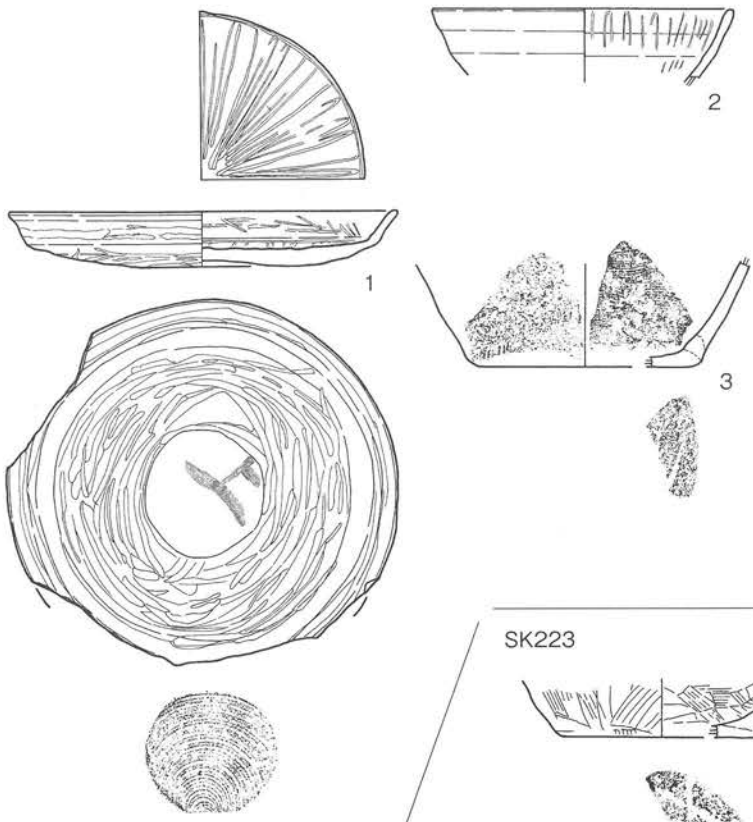


第91図　H20年度SK202・206・207・209・210(1)出土遺物

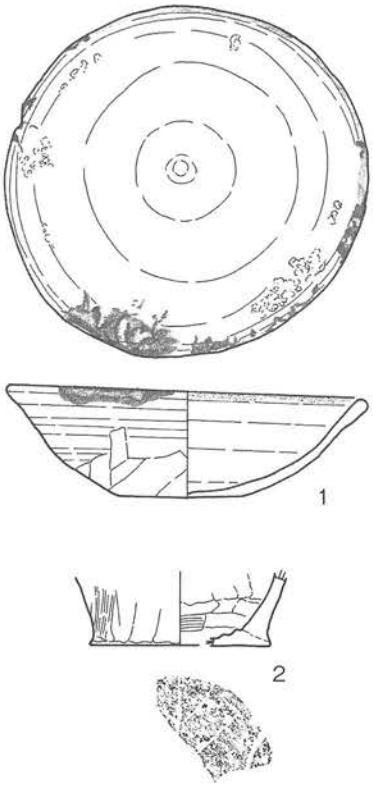


第92図　H20年度SK210(2)・211・213・214・216・218・220出土遺物

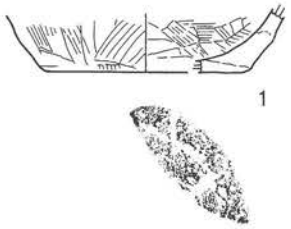
SK221



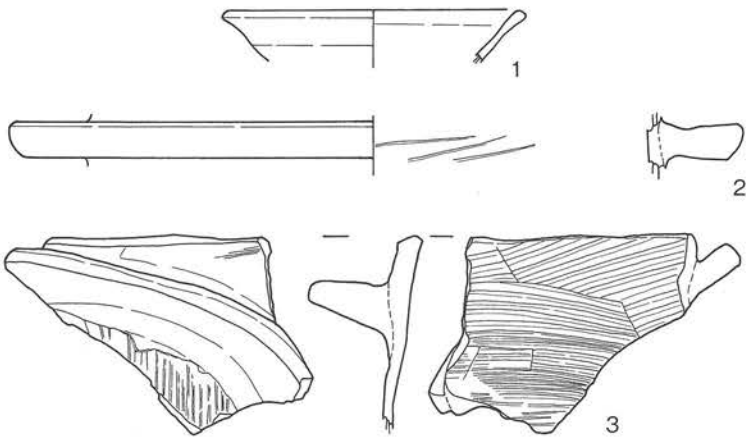
SK222



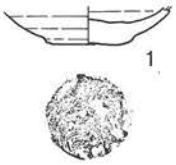
SK223



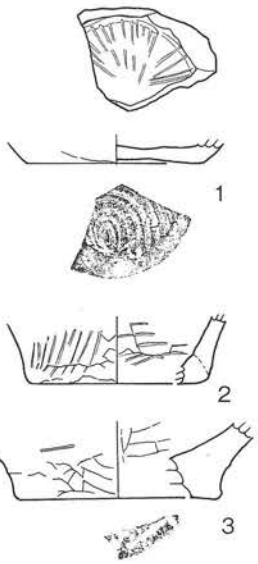
SK224



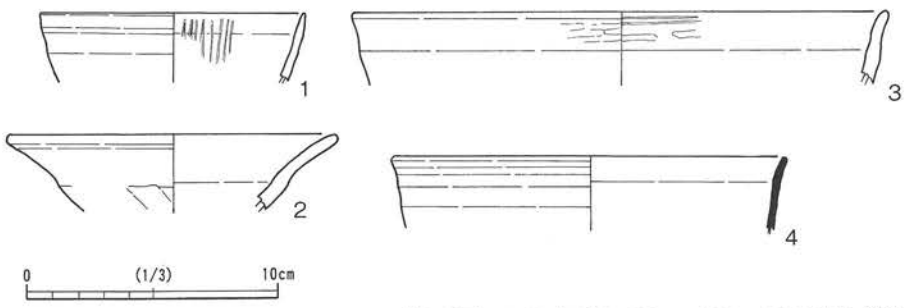
SK226



SK229

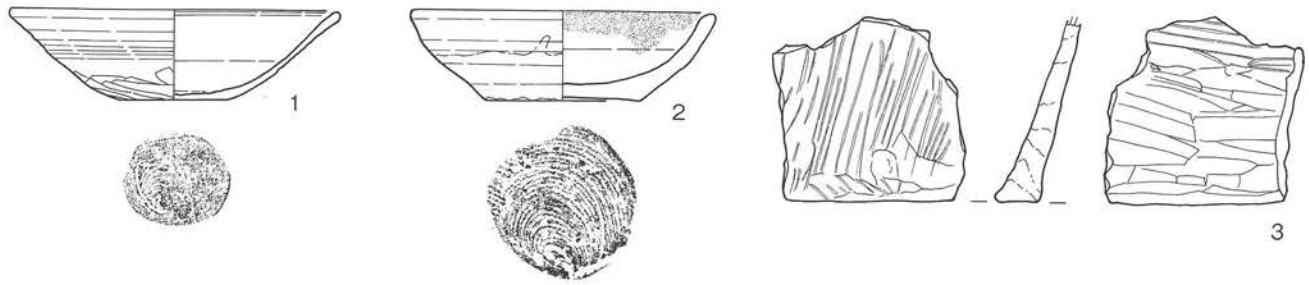


SK225

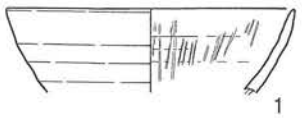


第93図　H20年度SK221～226・229 出土遺物

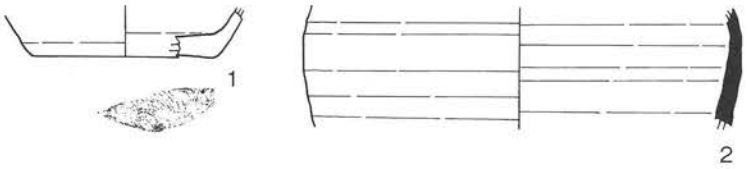
SK230



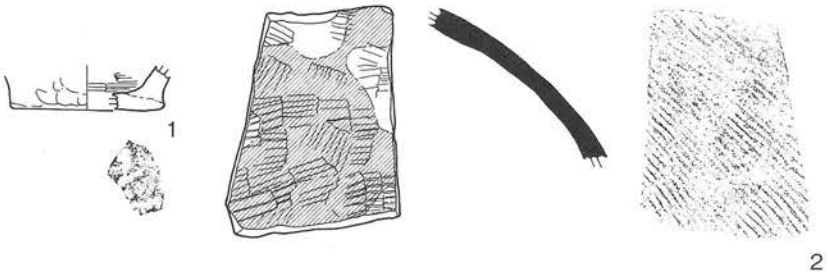
SK234



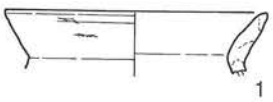
SK235



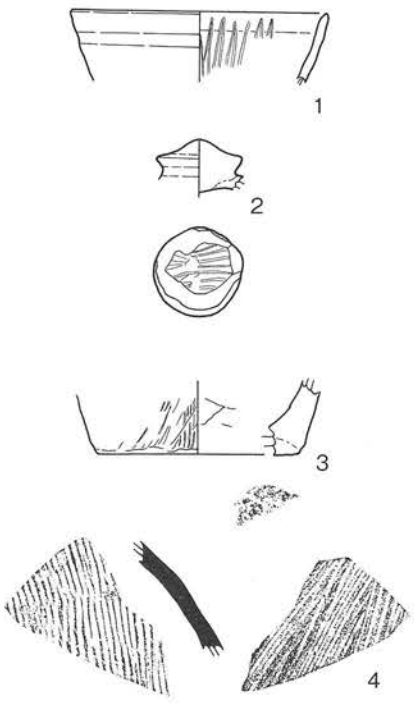
SK241



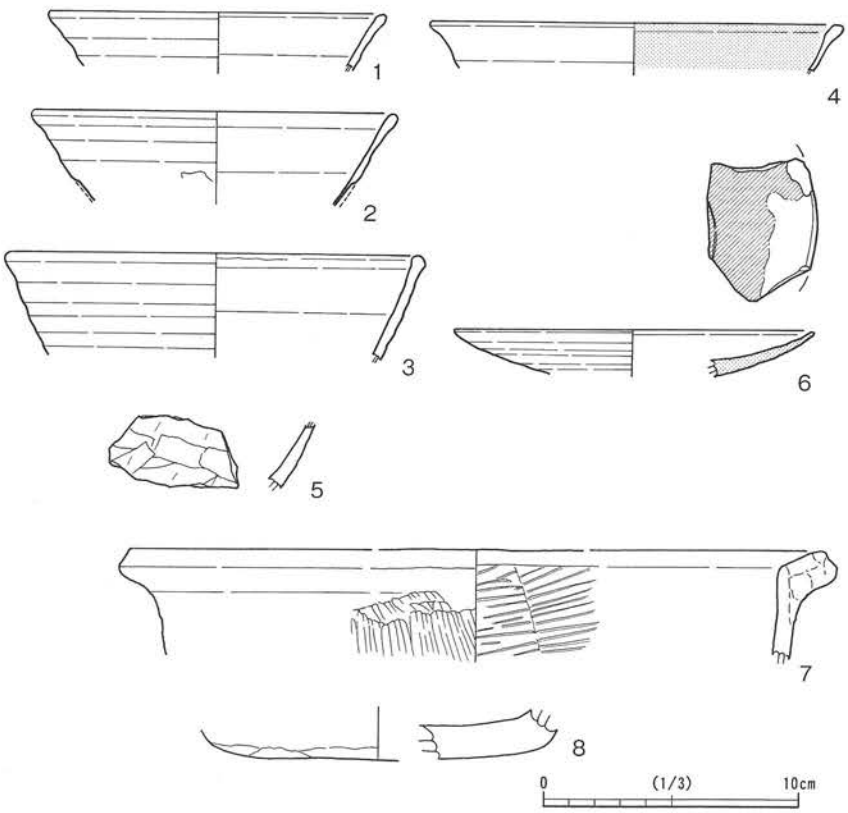
SK244



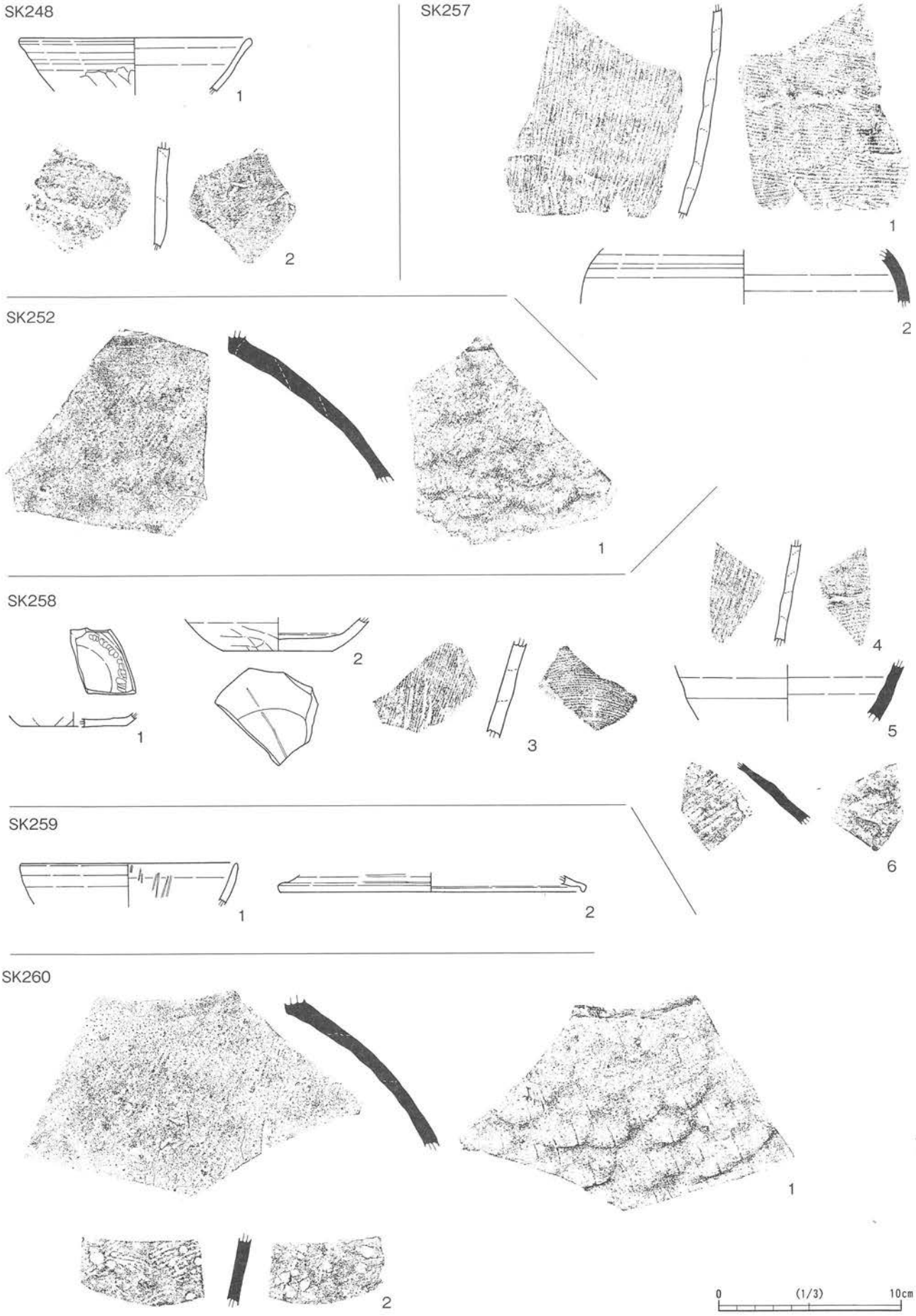
SK246



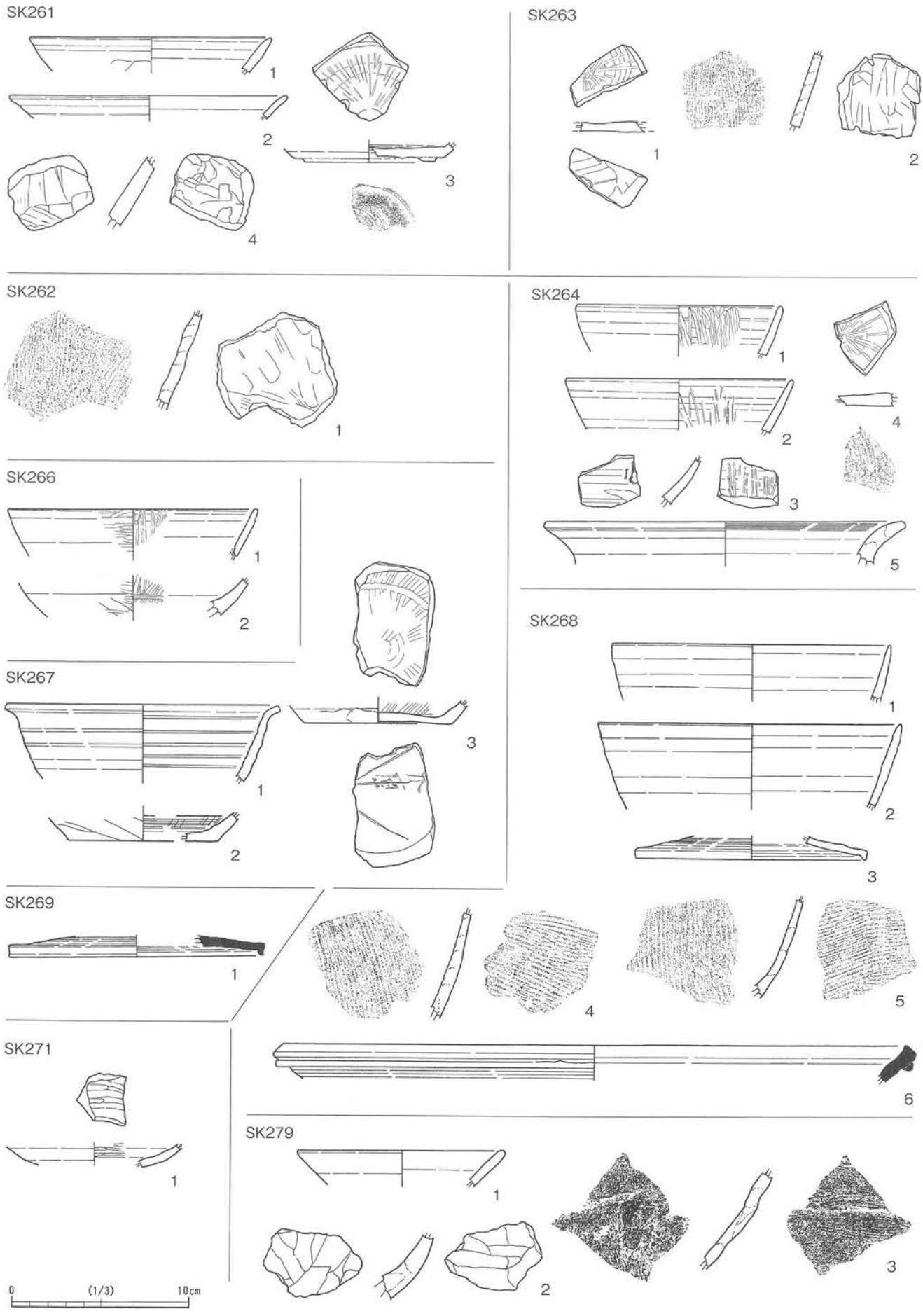
SK247



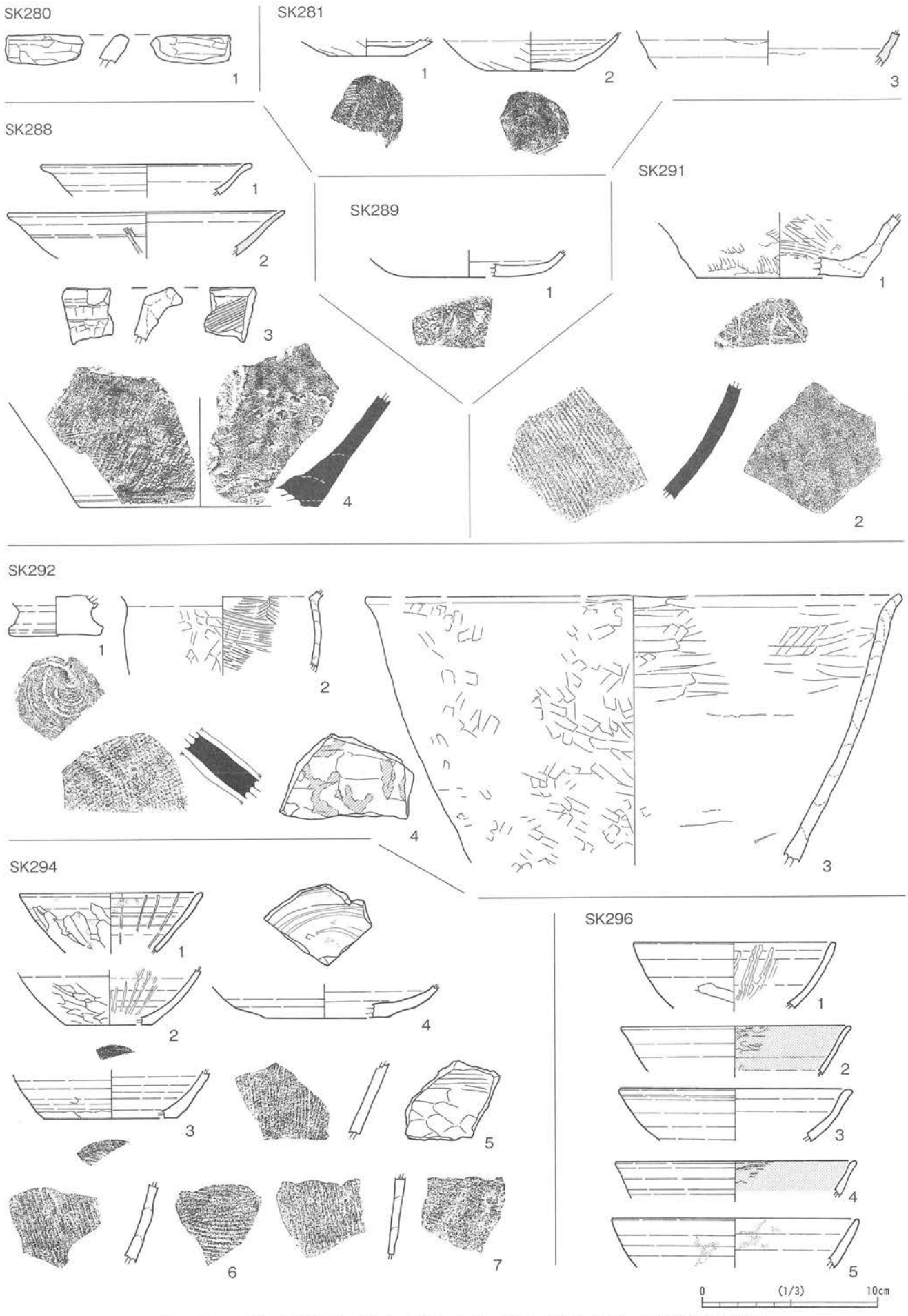
第94図　H20年度SK230・234・235・241・244・246・247出土遺物



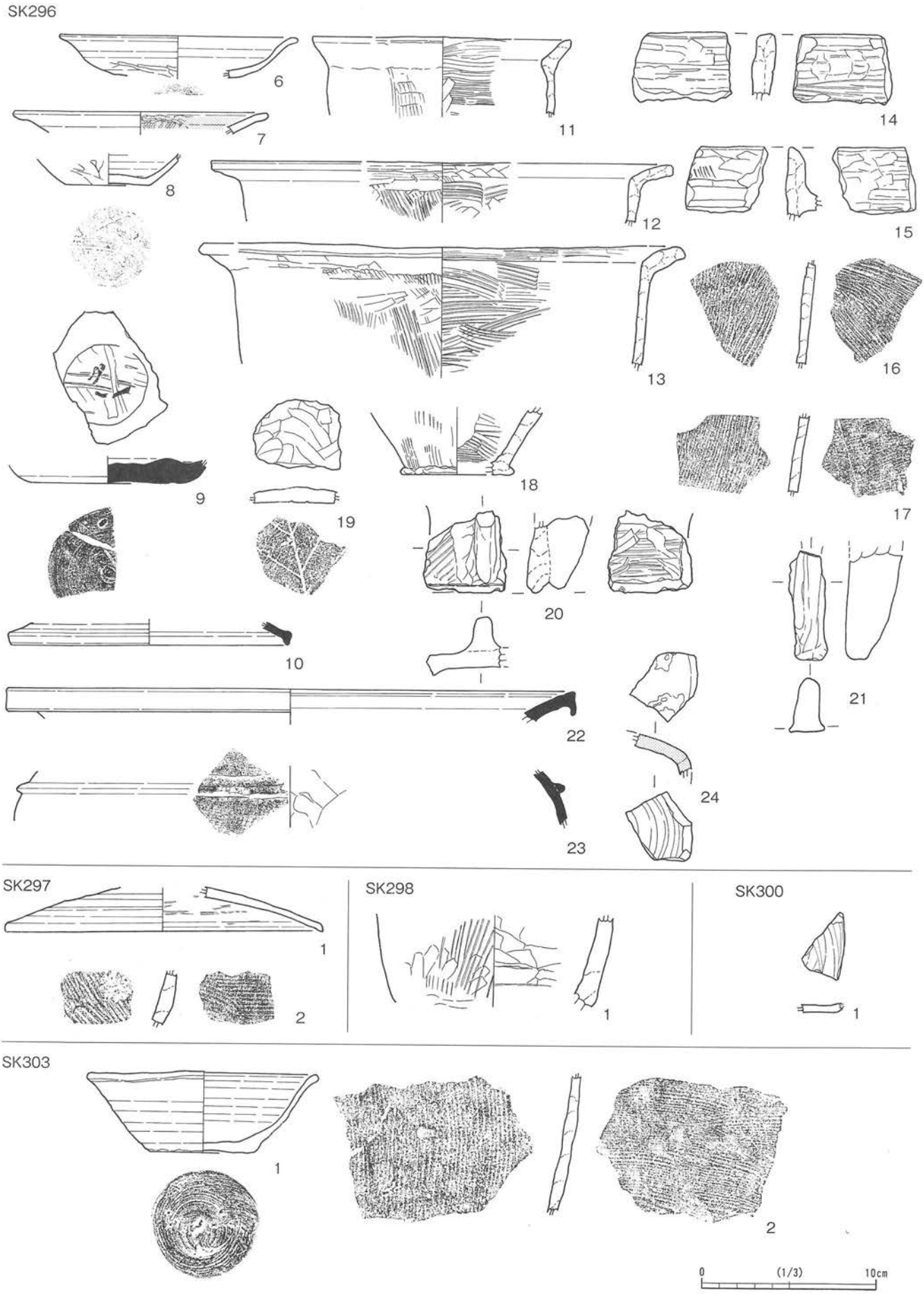
第95図　H20年度SK248・252・257～260 出土遺物



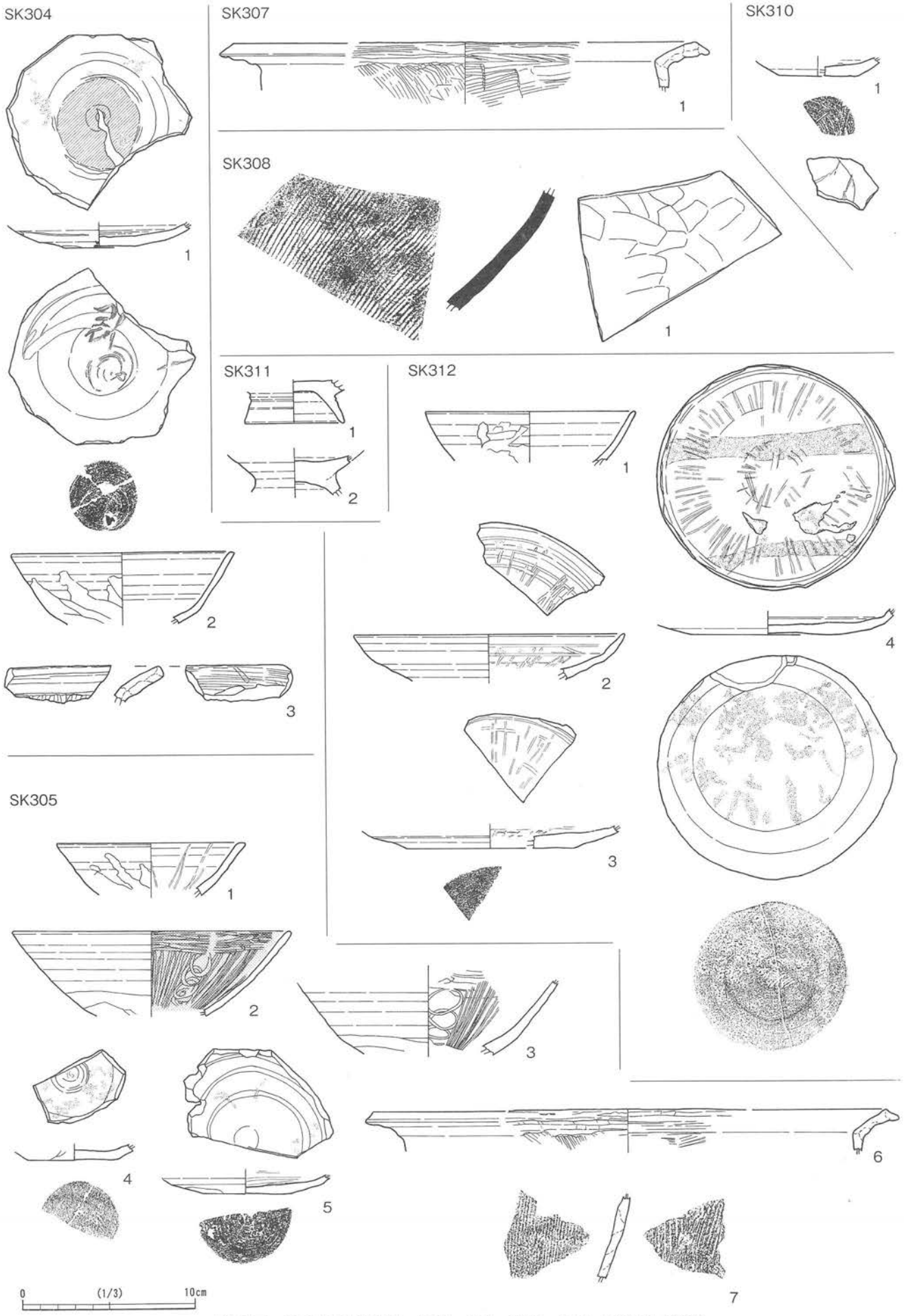
第96図　H20年度SK261～264・266～269・271・279 出土遺物



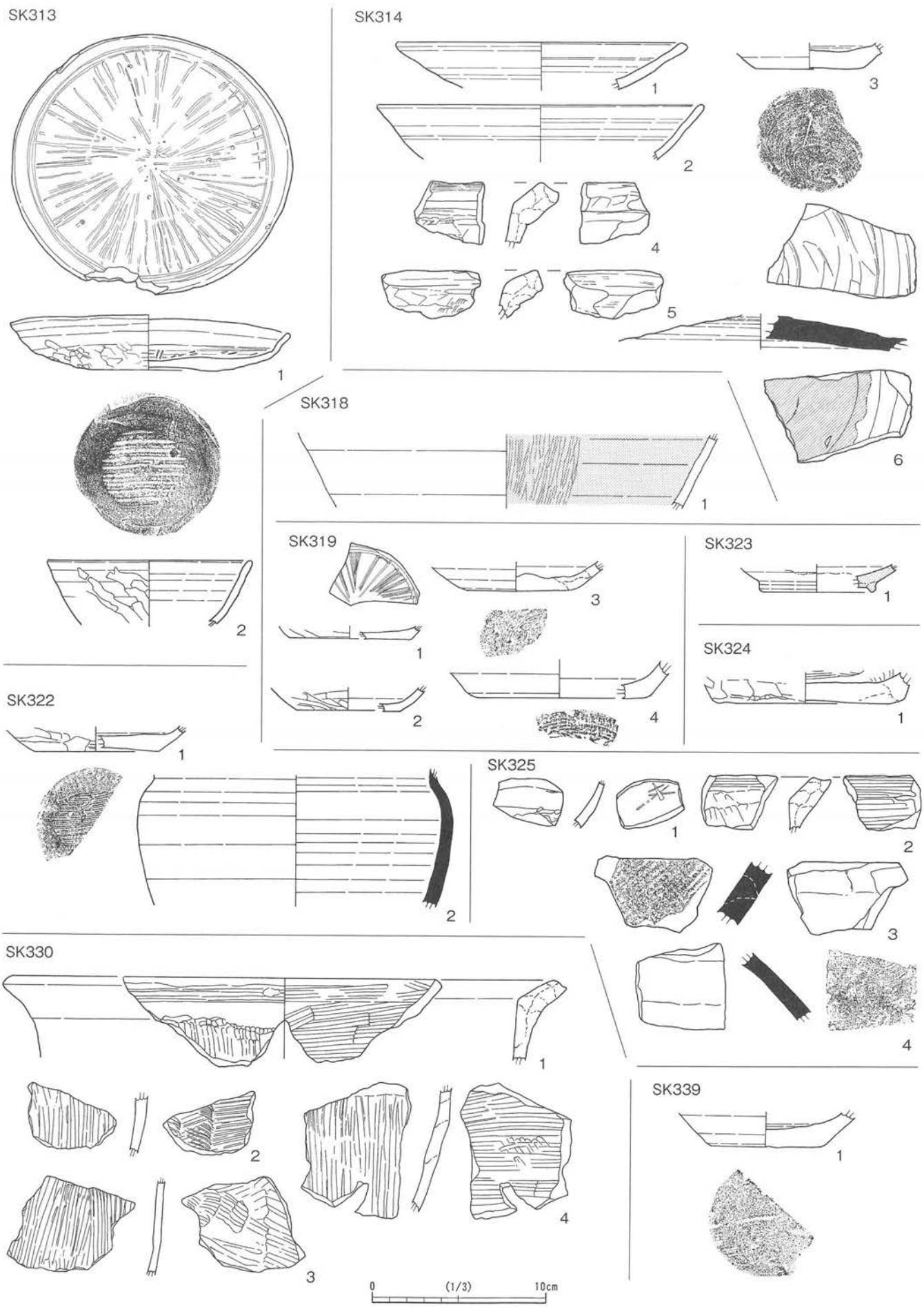
第97図　H20年度SK280・281・288・289・291・292・294・296(1)出土遺物



第98図　H20年度SK296(2)～298・300・303出土遺物

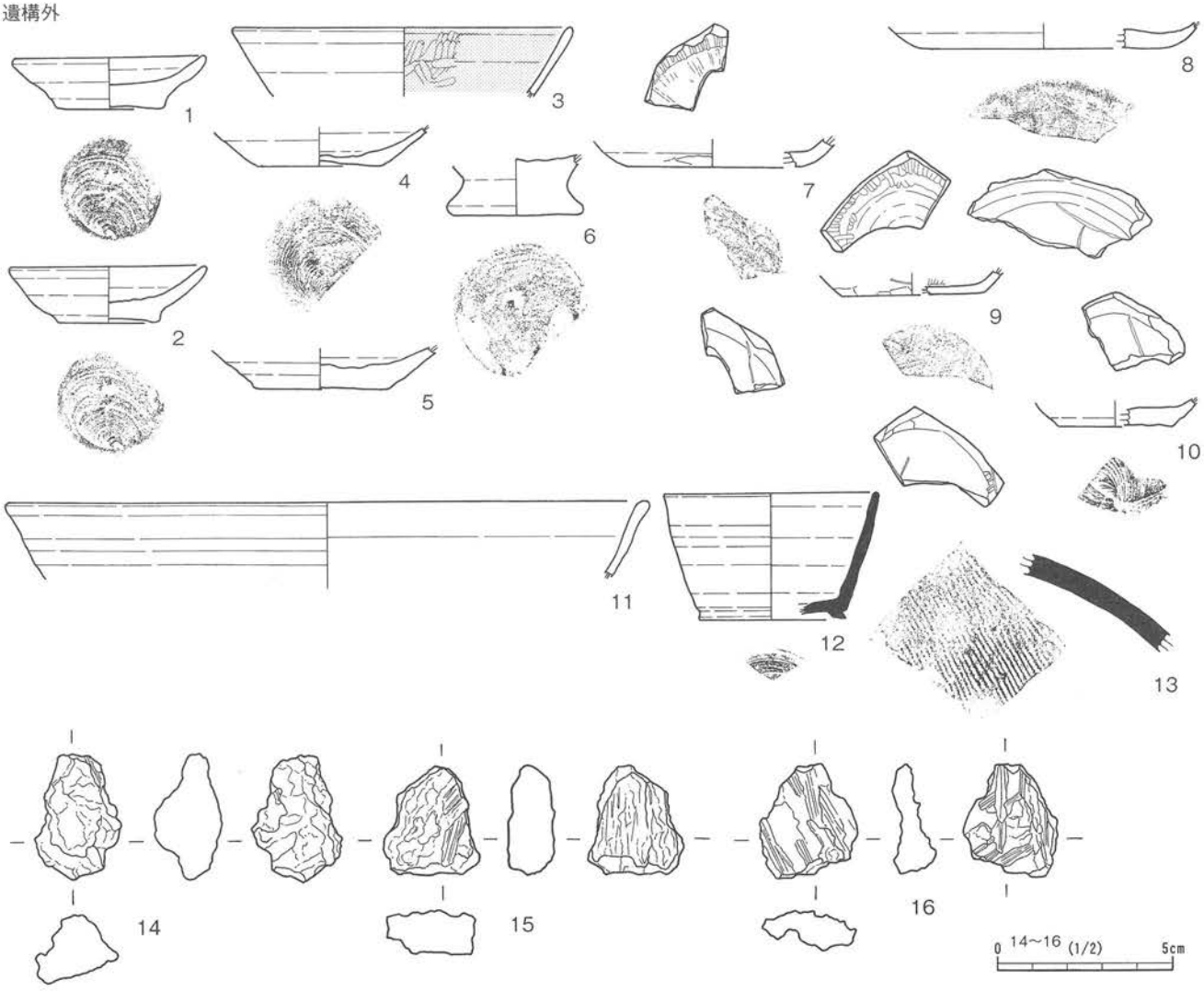


第99図　H20年度SK304・305・307・308・310～312出土遺物

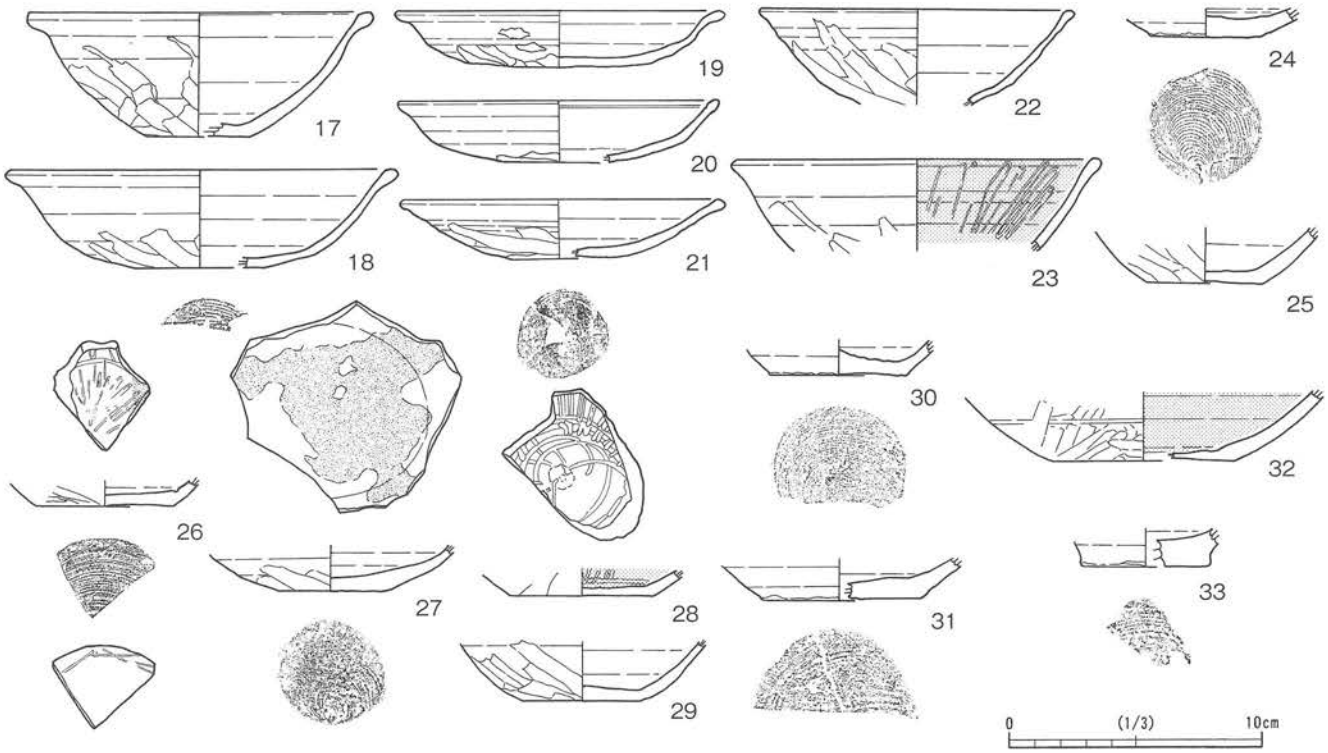


第100図　H20年度SK313・314・318・319・322・323・325・330・339出土遺物

遺構外

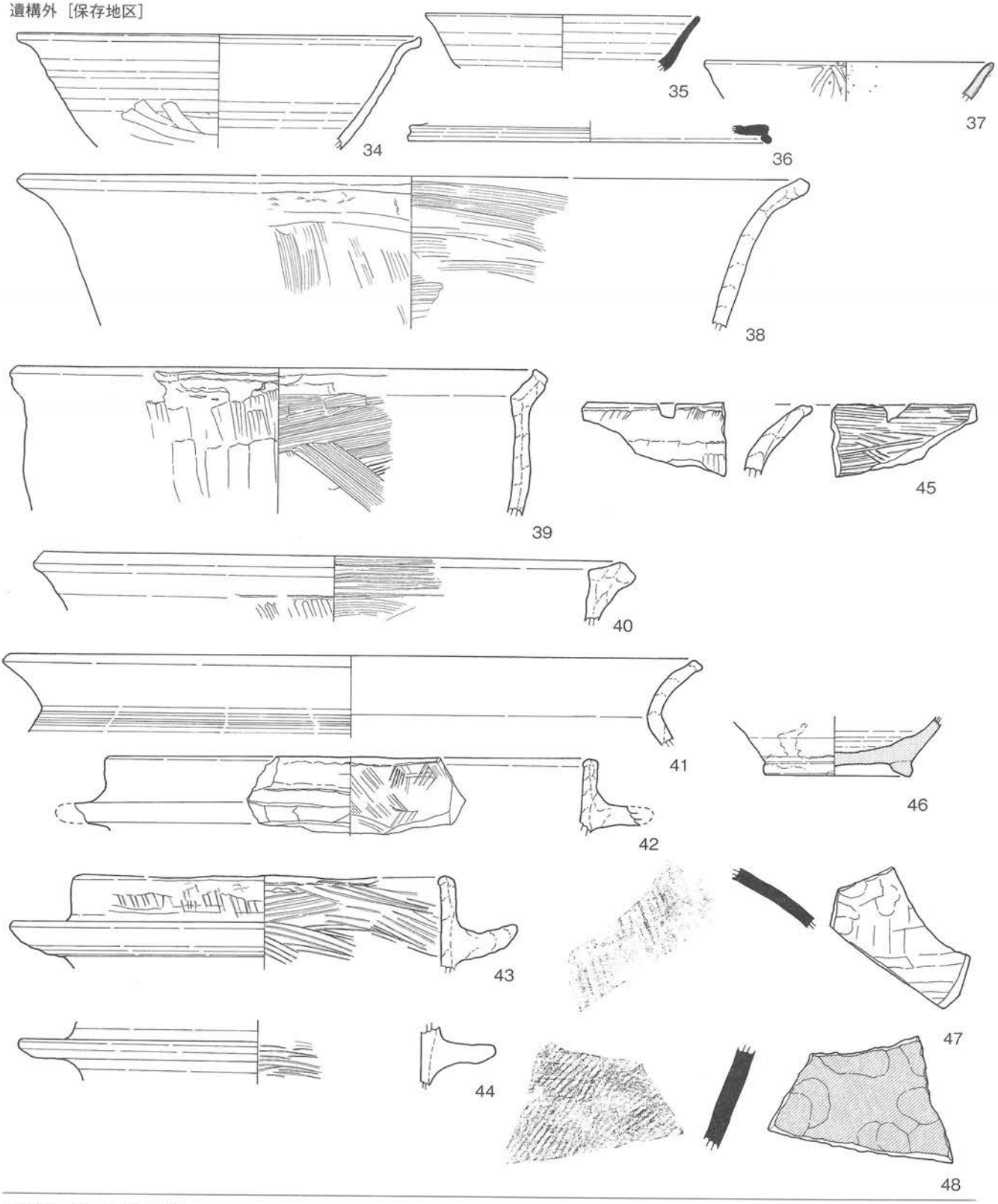


遺構外［保存地区］

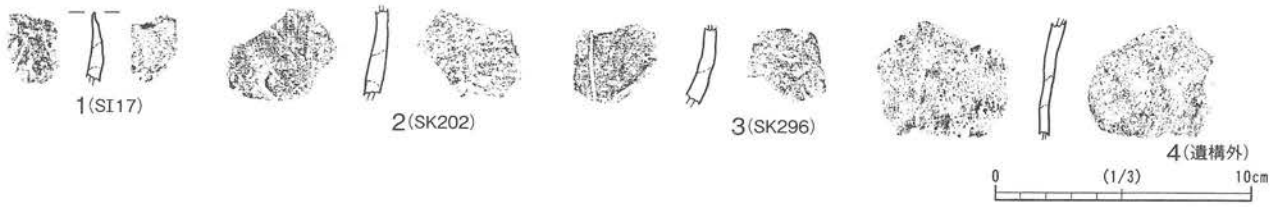


第101図　H20年度遺構外・遺構外[保存地区](1)出土遺物

遺構外［保存地区］

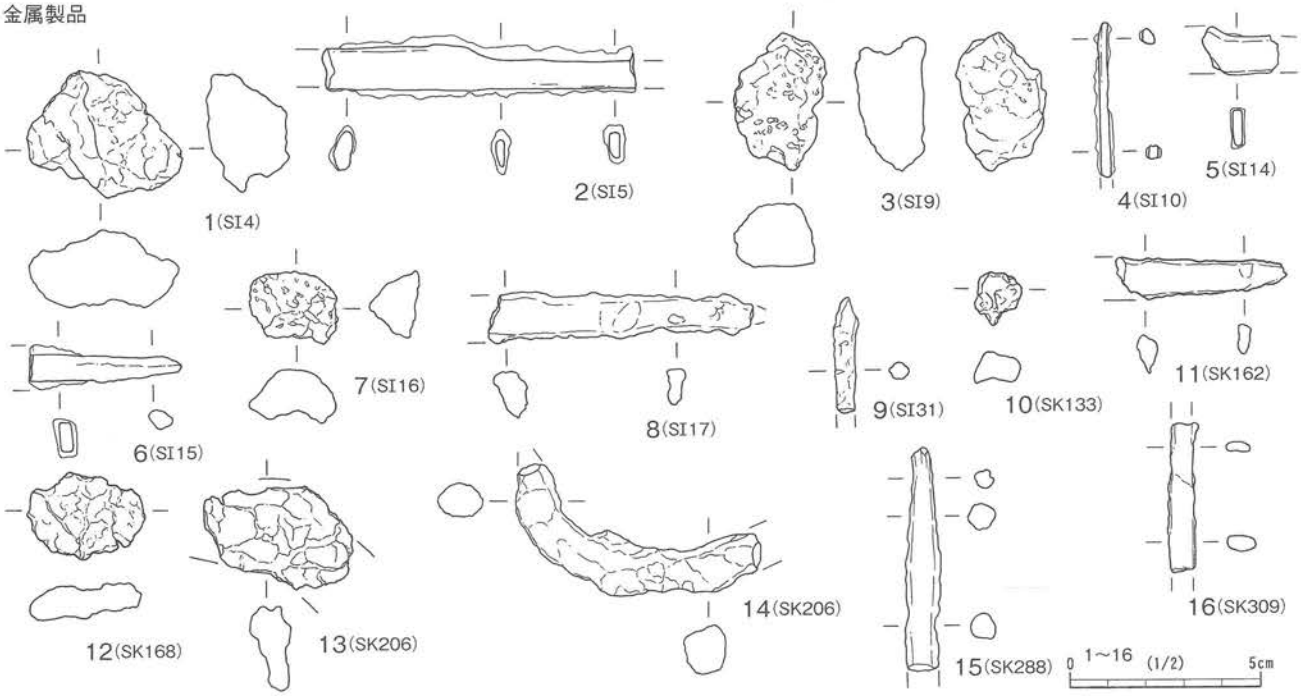


その他の土器（製塩土器）

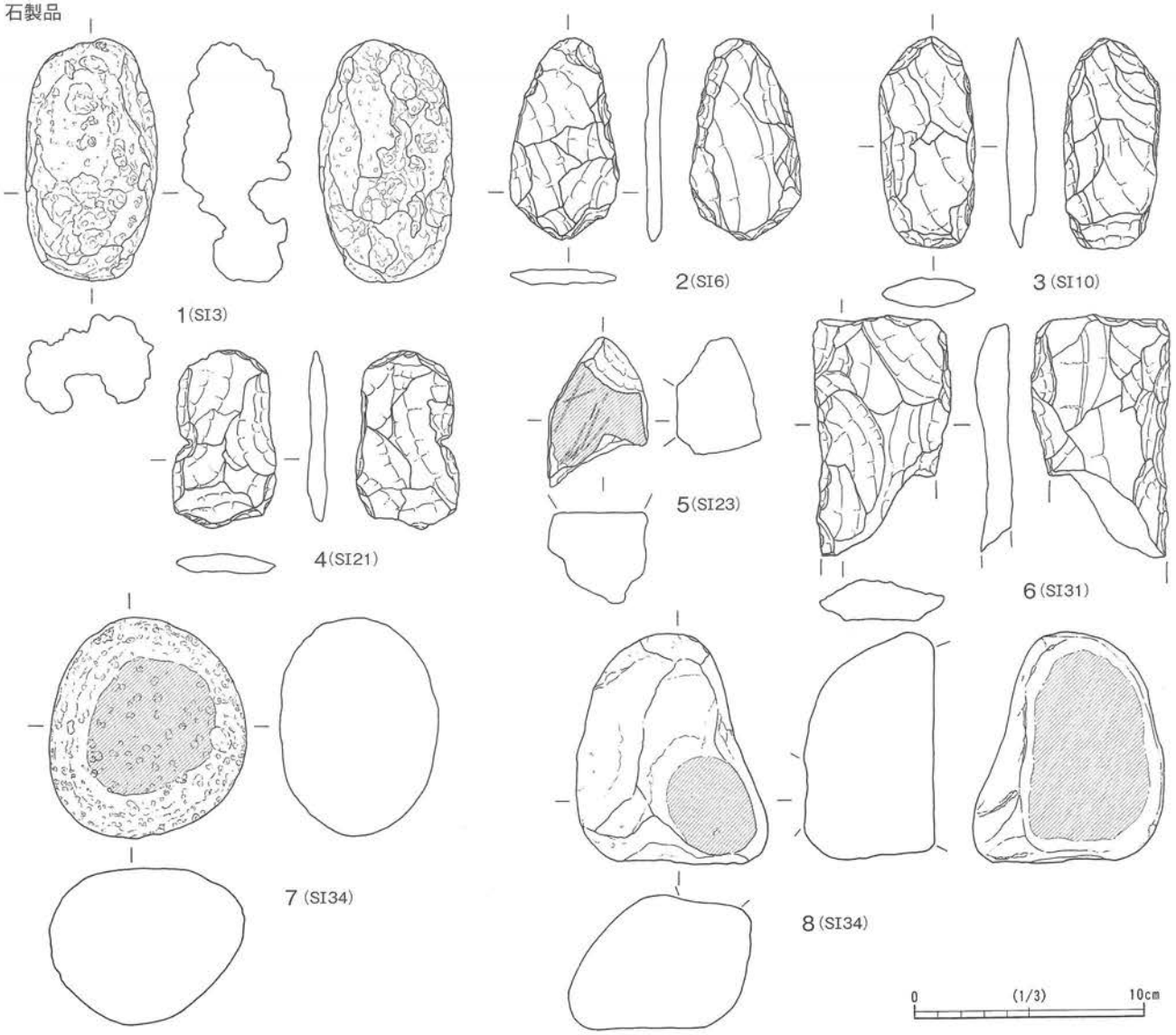


第102図　H20年度遺構外[保存地区](2)出土遺物、その他の土器(製塩土器)

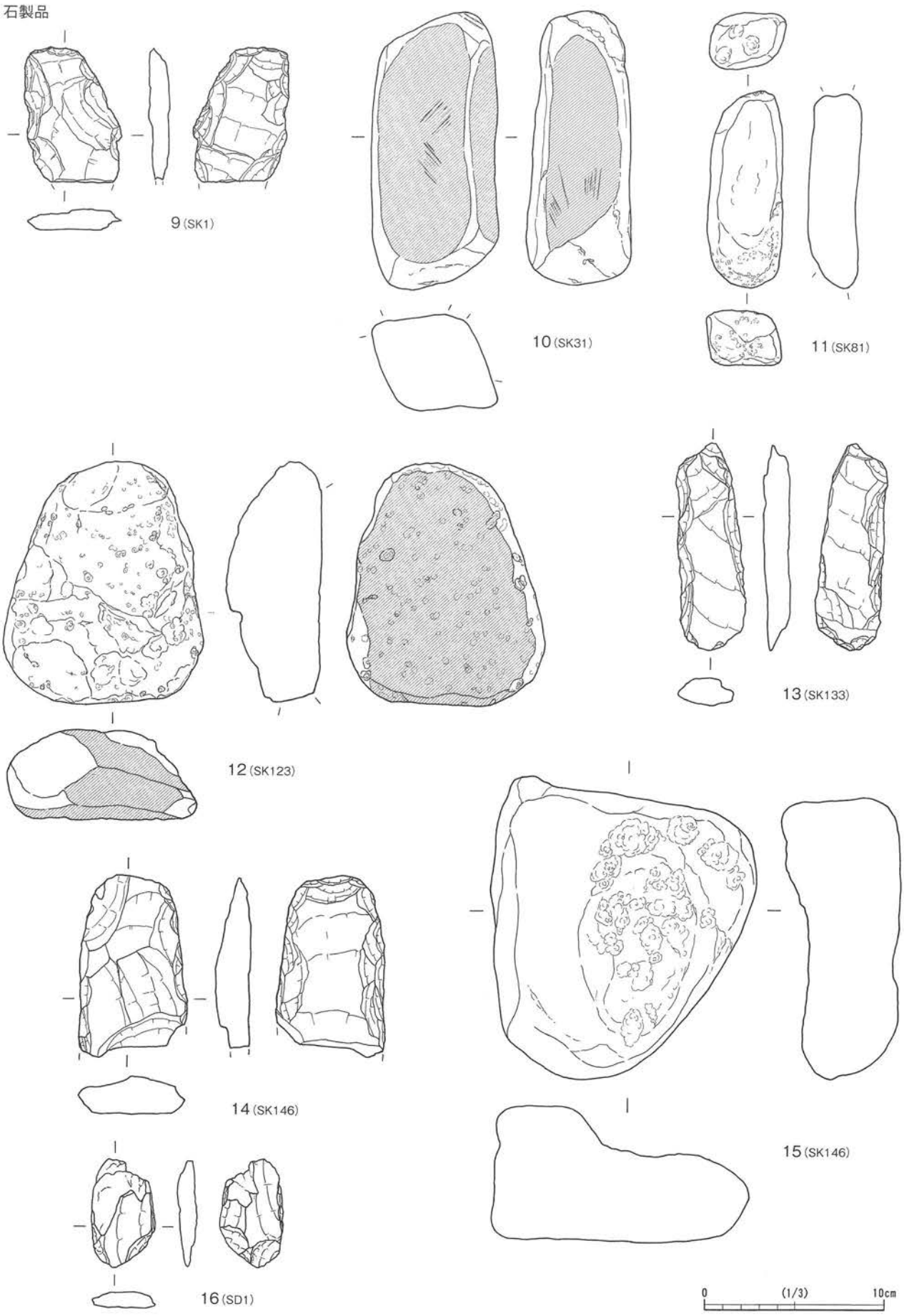
金属製品



石製品

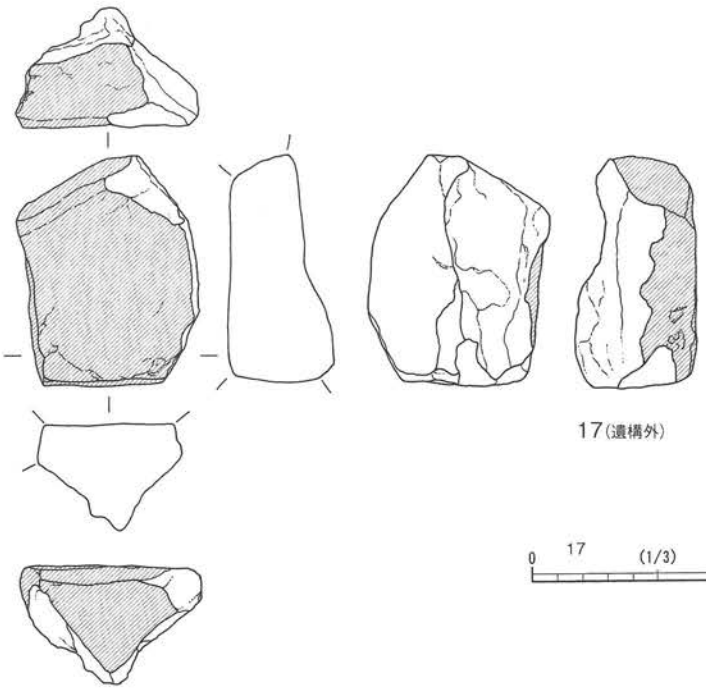


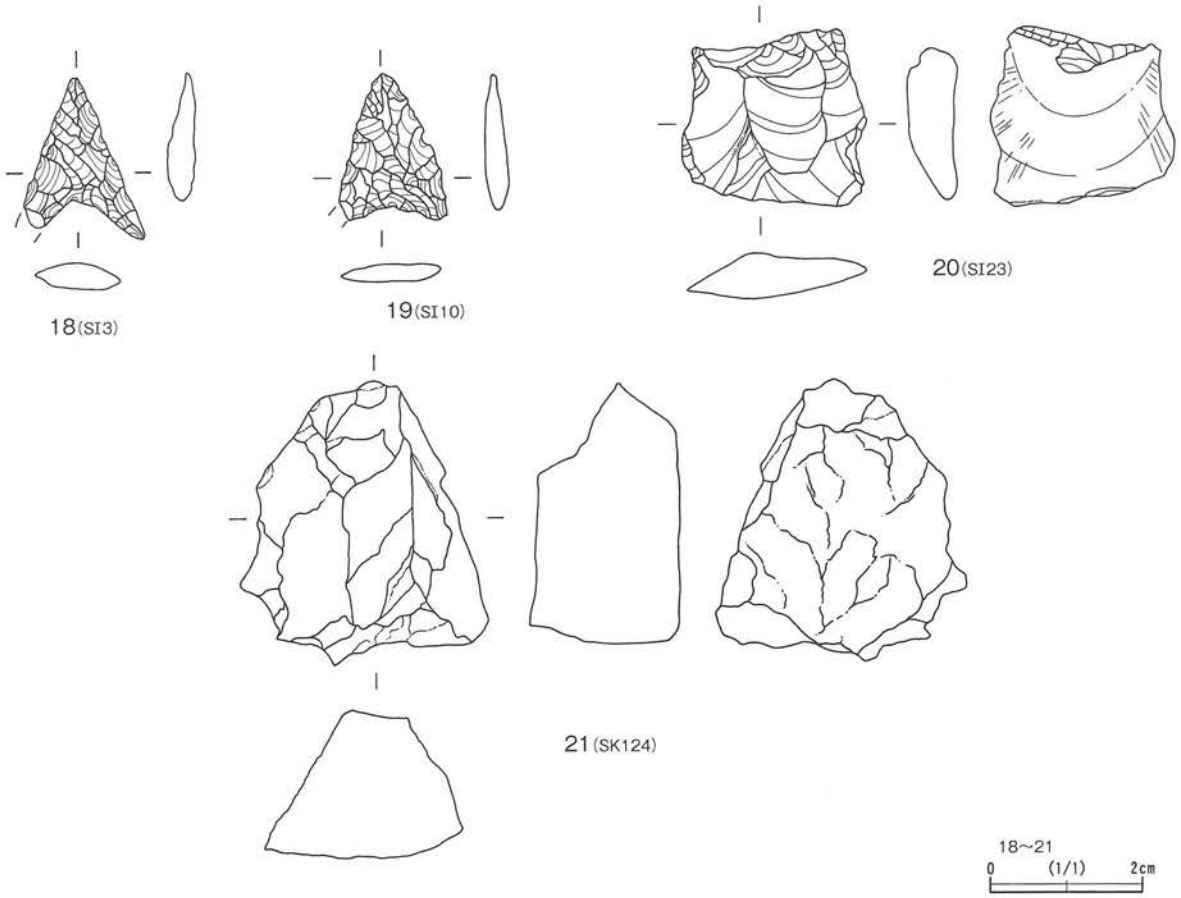
第103図　H20年度金属製品、石製品(1)



第104図　H20年度石製品(2)

石製品





第105図　H20年度石製品(3)

第５表　第３次調査ＳＩ（竪穴建物跡）一覧表

SI番号	挿図番号	位置(Grid)	重　複	平面形態	長軸×短軸(m)［　］＝現存値（　）＝推定値	竪穴部深さ(m)	竪穴部面(㎡)(カマド含む)（　）＝推定値	主軸方位	カマド・炉位置	時　期	備　考
SI1	20	X22･23Y25･26	SI2･4、SK3･6･9･45	隅円方形	3.15×[2.60]	0.18	—	NE115	東壁南東隅寄り	10C前	
SI2	20･21	X22Y25	SI1	不明	—	0.12	—	—	不明	不明	
SI3	20	X21･22Y28･29	SI21･22、SK19～22･37･38･39･41～43･83･98･99	隅円長方形	5.00×(3.40)	0.49	(14.71)	NE105	東壁南東隅寄り	不明	
SI4	22	X22Y25･26	SI1、SK7～10･17	不明	—	0.40	—	NW2	不明	不明	
SI5	22	X21･22Y26･27	SI8、SK4･10･34･35	隅円方形	3.70×[2.15]	0.16	—	NE112	東壁中央	10C前	
SI6	23	X23Y25･26	SI10･23、SK36･45･46･66～68	隅円方形	—	0.18	—	NE96	東壁中央	11C後	
SI7	24	X21･22Y27	なし	不明	—	0.32	—	NE15	北壁中央東寄り	10C後？	
SI8	24･25	X22･23Y26･27	SI5･12、SK88～90･146･147･160･161･169･170･172･173･186～189･193･204	隅円長方形	4.72×3.80	0.26	(14.01)	NE147	東壁中央	10C後	
SI9	26	X23･24Y27	SI10･11･23、SK69～75･280	隅円方形	4.00×[2.90]	0.15	—	NE145	東壁中央	11C前	
SI10	26･27	X23･24Y26･27	SI9･23、SK68･76･77･194･195･197	隅円長方形	[3.20]×(2.65)	0.22	—	NE158	東壁北東隅寄り	11C前	
SI11	26･27	X23･24Y27･28	SI9･20、SK71･81･87･243～245･248･279･280	隅円長方形	3.65×2.50	0.11	—	NE118	東壁南東隅寄り	11C前	
SI12	28	X22･23Y27･28	SI8･27、SK31･32･47･48･51･53･55･59･89･90･94～96･121･123･125･126･141～144･146･147･172･186～189･204	不明	—	0.23	—	—	不明	10C後	
SI13	29～31	X21･22Y30･31	SI14～16･24、SK133･134･174･181･182･190･198･199･200･205･246	隅円方形？	3.35×[3.10]	0.28	—	NE115	東壁中央	10C後	カマド両脇に、掘り残しによる棚状施設あり
SI14	29･30	X21･22Y30	SI13･15･16･24、SK129･132･133･148･149･164･174･181･182･183･185･198･200･203･205･342	隅円長方形？	3.75×3.15	0.30	(9.63)	NE91	不明	11C後	
SI15	29～31	X22･23Y30･31	SI13･14･24、SK175･176･190･196･202･203･205～207･211･220･234･235･246･262･265･266･276･241	不明	(4.15)×(2.70)	0.24	—	NE52	北壁北東寄り	10C前？	
SI16	31	X21Y29･30	SI13･14、SK127･128･132～135･154～158･179･180･191･192	不明	[7.10]×[1.80]	0.48	—	NE18	北壁ほぼ中央か	10C後	
SI17	32･33	X23･24Y29･30･31	SI24･26･28･30･33、SK165～168･229･232･233･241･258･260･297･299･302･305･322	隅円方形	5.15×4.55	0.48	(16.26)	NE109	東壁南東隅寄り	9C前	製塩土器片出土
SI18	34	X22･23Y31	SI19･24、SK221～223･264･267～269･273～275･335	隅円長方形	3.18×1.77	0.33	3.24	NE25	—	9C前	カマドは付設されていない
SI19	34	X22･23Y31	SI18･24、SK221～224･230･231	不明	3.55×—	0.71	—	—	不明	9C前以前	
SI20	35･36	X23･24Y27･28	SI11･31、SK243･244･247･248･287･291･317･325～329･332･333	隅円方形	(3.20)×2.95	0.20	—	NE111	東壁中央	10C前	SK249から変更
SI21	19～22	X21･22Y28･29	SI3･22、SK22･38･39･41～43	方形	2.85×3.00	0.63	6.03	NE26	北壁北東隅寄り	8C後？	
SI22	20～23	X22Y28･29	SI3･21、SK23～26･28･38･39･41～43･102	隅円長方形	4.15×3.35	0.42	(11.52)	NE35	北壁北東隅寄り	7C末～8C初	
SI23	36･37	X23･24Y26･27	SI6･9･10、SK66･67･76･77･310･311	隅円方形？	(4.40)×[3.35]	0.22	—	NE37	北壁中央	11C前	
SI24	37～41	X22･23Y29･30･31	SI13～15･17～19･26･28･30、SK167･168･176･184･185･190･196･201～203･205～211･214～218･220～224･229･232～235･241･246･256～258･261～269･273～276･278･289･290･297･298･301･302･335	隅円方形	(7.45)×7.05	0.37	(45.57)	NE116	東壁中央	8C後	礎石を有する竪穴建物。礎板石を伴う掘立柱式の先行建物あり。
SI25	41･42	X22･23Y28	SI27、SK117･120･122･124･143･225～228･238～240･270～272	隅円長方形？	(3.40)×(3.00)	0.29	(8.63)	NE30	北壁北東隅寄り	10C後	
SI26	32･33	X23Y31	SI17･24･28･30、SK260･261･263･278･289	方形？	2.70×［1.95］	0.17	—	—	不明	9C前？	
SI27	41･42	X23Y27･28	SI12･25、SK80･84～86･143･225～228	不明	—	0.15	—	—	不明	不明	
SI28	32･33	X23Y31	SI17･24･26、SK256･258･263	不明	—	0.12	—	—	不明	9C前？	
SI29	43	X22･23Y29･30	SK103･104･171･250～255	不明	(3.36)×—	0.15	—	—	不明	不明	
SI30	32～34	X23･24Y30･31	SI17･24･26･32、SK260･294･299～301	不整方形	2.48×2.45	0.44	3.17	NE127	南東壁中央	9C前	
SI31	35･36	X24Y28･29	SI20･34、SD1、SK247･248･281･288･291･292･309･314･317･319･323･325～329･332～334･339	隅円長方形	4.65×3.90	0.30	(14.61)	NE108	東壁南東隅寄り	10C後	
SI32	43	X24Y30･31	SI30・33、SK293･294･295･296・305	不明	—	0.30	—	—	不明	9C前？	
SI33	43	X23･24Y29･30	SI17･32、SD1、SK304･305･307･308	隅円長方形？	(4.70)×(2.65)	0.34	—	NE17	不明	9C前？	
SI34	44	X23･24Y28･29	SI31、SD1、SK312･313･315･316･319･334	隅円方形	4.40×4.40	0.48	(12.75)	NE114	東壁南東隅寄り	9C前	

第６表　第３次調査 SK（土坑・ピット）一覧表

SK No.	挿図番号	位置 (Grid)	重　複	形　状 (　)＝推定	長　軸(m) (　)＝推定値 [　]＝現存値	短　軸(m) (　)＝推定値 [　]＝現存値	深さ(m)	出土遺物 備　考
SK1	19	X22Y25	なし	(長楕円形)	1.22	0.58	0.38	打製石斧
SK2	19	X22Y25	なし	円形	0.58	0.54	0.09	出土遺物なし
SK3	19	X22Y25	SI1	楕円形	0.65	0.51	0.26	SI1より新。坑内に礫、黒曜石製石鏃
SK4	22	X22Y26･27	SI5	楕円形	1.10	0.80	0.24	SI5より新。
SK5	20	X22Y25	なし	円形	0.49	0.49	0.06	
SK6	20	X22Y25	SI1･(SI1-P1)	—	1.10	[0.45]	0.19	SI1より新。坑内に礫
SK7	45	X22Y25･26	SI4	長方形	2.21	1.00	0.22	SI4より新。坑内に礫充填、8世紀後半土師器坏「中」墨書土器
SK8	45	X22Y26	SI4	不整円形	0.90	0.78	0.18	坑内に礫充填
SK9	45	X22Y26	SI1･4･9、SK12･17	長楕円形	[1.60]	0.84	0.23	坑内に礫
SK10	45	X22Y26	SI4･5、SK13･16･17	長方形	2.22	1.24	0.26	坑内に礫
SK11	45	X22Y26	SK13～16	不整円形	0.74	0.72	0.38	坑内に礫、出土遺物なし
SK12	45	X22Y26	SK9･13･15･17	楕円形	0.90	0.69	0.38	坑内に礫、故意に破砕した土師器甕
SK13	45	X22Y26	SK10～12･15～17	—	0.50	—	0.24	出土遺物なし
SK14	45	X22Y26	SK11･33	楕円形	[1.02]	0.93	0.28	坑内に礫
SK15	45	X22Y26	SK11･12･13･36	楕円形	[0.68]	—	0.15	出土遺物なし
SK16	45	X22Y26	SK10･11･13	楕円形	[0.50]	0.49	0.33	坑内に礫、出土遺物なし
SK17	45	X22Y26	SI4、SK9･10･12･13	—	[0.62]	[0.56]	0.24	出土遺物なし
SK18	50	X21Y27･28	SK63･82	(不整楕円形)	1.72	0.60	0.66	出土遺物なし
SK19	20	X21Y28	SI3	不整円形	0.64	0.60	0.24	出土遺物なし
SK20	20	X21Y28	SI3	(不整円形)	0.68	[0.46]	0.42	SI3より新。坑内に扁平礫、出土遺物なし
SK21	20	X21Y29	SI3、SK83	(楕円形)	0.52	0.70	0.42	SI3より新。坑内に扁平礫、出土遺物なし
SK22	20	X21･22Y28	SI3･21	(不整楕円形)	0.96	0.71	0.42	出土遺物なし
SK23	20	X22Y28	SI22	不整楕円形	0.98	0.84	0.44	
SK24	20	X22Y28	SI22	不整楕円形	0.89	0.82	0.39	SI22より新。出土遺物なし
SK25	20	X22Y28	SI22、SK56	楕円形	0.82	0.57	0.39	出土遺物なし
SK26	20	X22Y28	SI22	不整楕円形	0.78	0.57	0.34	出土遺物なし
SK27	欠番	—	—	—	—	—	—	—
SK28	20	X22Y28･29	SI22	不整楕円形	0.90	0.68	0.42	SI22より新。出土遺物なし
SK29	20	X22Y28･29	SK57	不整楕円形	1.30	0.81	0.28	出土遺物なし
SK30	20	X22Y29	SK57	不整円形	0.33	0.38	0.11	出土遺物なし
SK31	45･46	X22Y28	SI12、SK32･95･121～123･144	(楕円形)	1.87	[1.10]	0.45	カマドを付設。「太」墨書土器、刻書土器他遺物豊富。土師器坏完形多い(灯明具も含む)。土師器短頸壷、鉢、砥石等
SK32	45･46	X22Y28	SI12、SK31･37･59･65･96･123	(楕円形)	1.61	—	0.40	灯明具使用の10世紀前半代の土師器坏
SK33	45	X22Y26	SK14	(不整楕円形)	0.82	0.43	0.30	坑内に礫、出土遺物なし
SK34	45	X22Y26	SI5、SK35	楕円形	1.12	0.88	0.30	遺構縁辺を礫で囲む？灯明具使用の10世紀前半代の土師器坏
SK35	45	X22Y26	SI5、SK34	楕円形	[0.52]	0.48	0.27	坑内に礫
SK36	23	X22･23Y26	SI6、SK46	不整楕円形	1.40	0.94	0.58	坑内に礫充填
SK37	20	X22Y28	SI3、SK32	不整楕円形	0.78	0.52	0.32	出土遺物なし
SK38	20	X21･22Y28	SI3･21･22、SK39･41	(不整楕円形)	1.43	(0.92)	0.49	SI21より新。坑内に拳大礫多数、出土遺物なし
SK39	20	X22Y28	SI3･21･22、SK38･42	(不整楕円形)	1.51	(1.11)	0.56	SI21より新。出土遺物なし
SK40	欠番	—	—	—	—	—	—	—
SK41	20	X22Y28	SI3･21･22、SK38	(不整円形)	0.60	(0.59)	0.50	SI21より新。坑内に拳大礫多数、出土遺物なし
SK42	20	X22Y28	SI3･21･22、SK39･43	(楕円形)	1.40	(1.02)	0.68	SI21より新。坑内に拳大礫多数、出土遺物なし
SK43	20	X22Y28	SI3･21･22、SK42	(不整楕円形)	0.69	0.52	0.31	SI21より新。出土遺物なし
SK44	欠番	—	—	—	—	—	—	—
SK45	23	X22･23Y25･26	SI1･6	不整楕円形	1.58	1.36	0.13	坑内に礫充填、二次転用された須恵器甕片
SK46	23	X23Y26	SI6、SK36	不整楕円形	1.14	[0.60]	0.30	坑内に礫充填
SK47	45	X22Y27･28	SI12、SK48･51･55	楕円形	1.19	(0.97)	0.62	SI12より新。ウルシ付着灰釉陶器
SK48	47	X22Y27	SI12、SK47･49･51･53･91	長楕円形	1.45	1.03	0.49	上層に人頭大扁平礫
SK49	47	X22Y27	SK48･50･91･93	長楕円形	1.08	0.69	0.47	坑内に拳大礫
SK50	47	X21･22Y27	SK49･91･93	楕円形	0.88	0.79	0.47	出土遺物なし
SK51	45･46	X22Y27	SI12、SK47･48･53･55･94	楕円形	1.47	1.02	0.63	SI12より新。ウルシ付着灰釉陶器
SK52	47	X22Y27	SK53･54･93	楕円形	0.61	0.55	0.44	
SK53	47	X22Y27	SI12、SK48･51･52･54･94	楕円形	0.96	[0.70]	0.43	出土遺物なし、覆土中層に礫やや多い
SK54	47	X22Y27	SK52･53･93･94	不整楕円形	0.96	0.90	0.33	出土遺物なし、覆土中層に礫やや多い
SK55	45	X22Y27･28	SI12、SK47･51･96	楕円形	0.73	0.64	0.13	SI12に伴うものか
SK56	20	X22Y28	SK25･118	(楕円形)	0.72	0.55	0.22	坑内に礫、出土遺物なし
SK57	29	X22Y29	SK29･30･102	(長楕円形)	[0.94]	[0.66]	0.17	出土遺物なし
SK58	47	X22Y27･28	SK60･61･97	楕円形	0.72	0.50	0.43	
SK59	45	X22Y28	SI12、SK32･65	楕円形	0.77	0.67	0.57	
SK60	47	X22Y27･28	SK58･61･63･91･92	楕円形	[0.89]	0.85	0.40	出土遺物なし
SK61	47	X22Y28	SK58･60･64･97	不整楕円形	0.82	0.66	0.30	出土遺物なし
SK62	欠番	—	—	—	—	—	—	—
SK63	47	X21･22Y28	SK18･60･64･92	不整楕円形	12.30	11.40	0.41	出土遺物なし、柱穴状ピットあり
SK64	47	X22Y28	SK61･63	楕円形	0.87	0.78	0.43	出土遺物なし
SK65	45･46	X22Y28	SK32･59･97	楕円形	1.17	0.84	0.57	上層に人頭大礫
SK66	23	X23Y26	SI6･23、SK67	不整楕円形	2.07	1.30	0.72	SI10より新。坑内に礫充填、二次転用された灰釉陶器片
SK67	23	X23Y26	SI6･23、SK66･68	不整円形	1.04	1.00	0.70	SI10より新。
SK68	23	X23Y26	SI6･10、SK67	(不整円形)	0.62	[0.36]	0.39	SI10より新。
SK69	26	X24Y27	SI9、SK70･73～75	(不整円形)	0.52	0.51	0.26	出土遺物なし、覆土中層に礫
SK70	26	X24Y27	SI9、SK69･72･73･75	(不整楕円形)	0.94	[0.45]	O.22	
SK71	26	X24Y27	SI9･11、SK72	不整楕円形	0.61	0.50	0.27	SI9より新。出土遺物なし、柱穴状堆積
SK72	26	X24Y27	SI9、SK70･71	(不整楕円形)	[0.29]	0.69	0.17	SI9より新。出土遺物なし、覆土上層に礫、柱穴状堆積
SK73	26	X24Y27	SI9、SK69･70･74	不整楕円形	0.92	0.80	0.22	SI9より新。出土遺物なし

SK No.	挿図番号	位置 (Grid)	重複	形状 ( )=推定	長軸(m) ( )=推定値 [ ]=現存値	短軸(m) ( )=推定値 [ ]=現存値	深さ(m)	出土遺物 備考
SK74	26	X24Y27	SI9、SK69・73	(不整楕円形)	0.92	[0.64]	0.21	SI9より新、覆土中層に礫
SK75	36	X24Y27	SI9、SK69・70	(不整楕円形)	[0.92]	0.48	0.30	SI9より新。
SK76	36	X23Y26・27	SI10・23、SK77	不整楕円形	0.82	0.58	0.29	SI10より新。
SK77	26	X23・24Y26・27	SI10・23、SK76	(楕円形)	[0.63]	0.78	0.10	SI10より新。出土遺物なし
SK78	26・27	X23Y27	SK79	楕円形	0.85	0.65	0.34	出土遺物なし
SK79	26・28	X23Y27	SK78	(不整円形)	0.68	0.64	0.17	出土遺物なし
SK80	41	X23Y27	SI27	楕円形	0.99	0.85	0.29	上層から焼け石出土
SK81	26・28	X23Y27	SI11	円形	0.66	0.61	0.34	SI11より新。敲石
SK82	50	X21Y27	SK18	(不整楕円形)	[0.78]	[0.45]	0.36	出土遺物なし
SK83	20	X21Y29	SI3、SK21	—	[0.18]	—	0.32	坑内に扁平礫、出土遺物なし
SK84	41	X23Y28	SI27、SK85・225・226	(不整円形)	1.13	1.10	0.42	
SK85	41	X23Y28	SI27、SK84	(不整円形)	1.20	1.10	0.33	SI27より新。底面に扁平礫と中層に炭化物範囲あり
SK86	41	X23Y28	SI27、SK85	不整楕円形	0.95	0.87	0.28	
SK87	35	X23Y27・28	SI11、SK243・287	不整円形	0.98	0.92	0.46	
SK88	24	X23Y27	SI8、SK89・160・161	不整楕円形	0.76	0.70	0.42	SI8より新。
SK89	24	X23Y27	SI8・12、SK88・90・161	不整楕円形	1.18	(0.86)	0.58	坑内に礫
SK90	24	X22・23Y27	SI8・12、SK89	不整楕円形	1.07	0.88	0.52	
SK91	47	X22Y27	SK48・49・50・60・92	(楕円形)	1.17	[0.60]	0.46	出土遺物なし
SK92	47	X21・22Y27・28	SK18・60・63・91	(楕円形)	0.84	[0.70]	0.31	出土遺物なし
SK93	47	X22Y27	SK49・50・52・54	(楕円形)	0.95	[0.51]	0.40	出土遺物なし
SK94	47	X22Y27	SI12、SK51・53・54	—	—	—	—	SI3より新。出土遺物なし
SK95	28	X22・23Y28	SI12、SK31・121・125・144	(不整楕円形)	1.10	0.71	0.48	SI12より新
SK96	45・46	X22Y28	SI12、SK32・55・123・144	(円形)	0.70	[0.40]	0.31	SI12に伴うものか。出土遺物なし
SK97	47	X22Y28	SK58・61・65	長楕円形	0.89	[0.43]	0.45	
SK98	20・21	X21Y29	SI3	長楕円形	1.36	0.75	0.14	坑内に扁平礫、出土遺物なし
SK99	20	X22Y29	SI3、SK100	不整円形	0.62	0.59	0.35	出土遺物なし
SK100	20	X22Y29	SK99	不整円形	0.60	0.54	0.27	出土遺物なし
SK101	20	X22Y29	なし	不整円形	0.49	0.49	0.19	出土遺物なし
SK102	20	X22Y29	SI22、SK57	楕円形	0.65	0.32	0.21	出土遺物なし
SK103	48	X22Y29	SI29、SK104～106・171	(楕円形)	0.61	(0.51)	0.20	出土遺物なし
SK104	48	X22Y29	SI29、SK103・150	楕円形	0.69	0.51	—	出土遺物なし
SK105	48	X22Y29	SK103・106・136・137・171	—	—	—	0.19	出土遺物なし
SK106	48	X22Y29	SK103・105・136・137・150・152	楕円形	0.91	0.62	0.40	上層に人頭大礫
SK107	48	X22Y29	SK108・109・137～139	(楕円形)	1.01	0.90	0.41	出土遺物なし
SK108	48	X22Y29	SK107・109・110	(楕円形)	0.61	[0.20]	—	出土遺物なし
SK109	48	X22Y29	SK107・108・110・180	(楕円形)	0.61	0.59	0.24	出土遺物なし
SK110	48	X21・22Y29	SK111	楕円形	0.40	0.38	0.24	出土遺物なし
SK111	48	X21・22Y29	SK108～110・112・180	(長楕円形)	[1.26]	[0.60]	0.23	出土遺物なし
SK112	48	X21Y29	SK111・113・178～180・192	不整楕円形	1.08	1.10	0.33	出土遺物なし
SK113	48	X21Y29	SK112・178・179	(楕円形)	0.76	[0.34]	0.48	柱穴状堆積状況。出土遺物なし
SK114	48	X22Y29	SK136・137	楕円形	0.40	0.36	0.32	SI22・SK137より古。出土遺物なし
SK115	49	X22Y29	SK116	不整楕円形	1.09	0.85	0.21	出土遺物なし
SK116	49	X22・23Y29	SK112・115・242	不整楕円形	1.58	0.84	0.24	出土遺物なし
SK117	41	X22・23Y28	SI25、SK118	楕円形	0.81	0.74	0.39	坑内に礫、出土遺物なし
SK118	41	X22・23Y28	SK56・117・119	楕円形	0.80	0.66	0.32	出土遺物なし
SK119	41	X22・23Y28	SK118・236	楕円形	0.90	0.76	0.35	出土遺物なし
SK120	41	X23Y28	SI25	不整円形	0.65	0.63	0.36	SI25より新。坑内に礫、二次転用された須恵器甕片
SK121	28・41	X22・23Y28	SI12、SK31・95・124・143	不整楕円形	1.35	0.96	0.38	二次転用された須恵器甕片
SK122	45・46	X22Y28	SI25・27、SK31・145	円形	1.00	0.86	0.44	置きカマド片
SK123	45・46	X22Y28	SI12、SK31・32・96・144	楕円形	1.10	0.92	0.28	坑内に礫、砥石
SK124	41・42	X23Y28	SI25、SK121・143	不整楕円形	1.33	1.26	0.13	覆土上層面に硬化面と焼土範囲あり、二次転用された須恵器甕片、水晶塊、礫
SK125	28	X22・23Y27・28	SI12・(SI12-P1)、SK95・143	不整楕円形	1.18	0.97	0.62	SI12より新。覆土中層に炭化物範囲あり
SK126	28	X23Y27	SI12、SK90・141・142	(楕円形)	1.13	0.98	0.43	SI12の床下土坑か
SK127	31	X21Y30	SI16	(不整円形)	0.74	[0.42]	0.59	SI16より新
SK128	31	X21Y30	SI16	(不整円形)	0.44	[0.23]	0.60	出土遺物なし
SK129	28	X21Y30	SI14、SK132	(不整楕円形)	0.94	0.65	0.32	SI14より新。坑内に礫
SK130	48	X22Y29	SK139・140・148・153	(楕円形)	0.98	0.81	0.44	覆土上層に人頭大礫
SK131	48	X21・22Y29・30	SK132・135・140・342	不整楕円形	(0.92)	0.62	0.32	
SK132	48	X21・22Y30	SI14・16、SK129・131・135・148・149・342	(楕円形)	2.00	1.56	0.20	SI14より新、上層に人頭大礫
SK133	28～30	X21Y30	SI13・14・16、SK174	(不整楕円形)	1.08	0.85	0.90	SI13・14より新。坑内に礫充填、底面に小ピット、土師器小皿多数および二次転用された平瓦、鉄滓、打製石斧
SK134	28～30	X21Y30	SI13・16	楕円形	0.98	0.81	0.80	SI13・14より新。坑内に礫充填、底面に小ピットあり、柱状高台状皿
SK135	48	X21Y29・30	SI16、SK131・132・140・154	(楕円形)	1.13	[0.66]	0.14	柱状高台状皿
SK136	48	X22Y29	SK105・106・114・137	(不整楕円形)	(0.68)	0.64	0.43	上層に人頭大以上の礫、出土遺物なし
SK137	48	X22Y29	SK105・106・114・136・137	(楕円形)	[0.58]	[0.40]	0.42	柱穴状堆積状況。出土遺物なし
SK138	48	X22Y29	SK107・137・139・153	—	[0.78]	—	0.34	出土遺物なし
SK139	48	X21・22Y29	SK107・130・138・140・153・154	不整楕円形	1.22	0.82	0.43	上層に人頭大以上の礫、打ち欠かれた須恵器底部片
SK140	48	X21・22Y29	SK130・131・135・139・154	(楕円形)	1.14	[0.38]	0.16	平瓦片
SK141	28	X23Y27	SI12、SK126・143	楕円形	0.44	0.34	0.25	坑内に礫
SK142	28	X23Y27	SI12、SK126	不整円形	0.90	0.72	0.57	柱穴状堆積状況。出土遺物なし
SK143	28	X23Y27・28	SI12(SI12P-1)・25・27、SK121・124・125・141	(長楕円形)	1.60	[0.40]	0.27	土師器小皿
SK144	45・46	X22Y28	SI12、SK31・95・96・123	円形	0.50	0.40	0.20	出土遺物なし
SK145	45・46	X22Y28	SK145	楕円形	0.62	0.43	0.17	出土遺物なし
SK146	24・25	X22Y27	SI8・12	不整楕円形	1.20	0.82	0.36	SI8より新。坑内に礫、打製石斧
SK147	24	X22Y27	SI8・12、SK188	(不整円形)	0.62	[0.24]	0.32	SI8より新。坑内に礫、出土遺物なし

SK No.	挿図番号	位置 (Grid)	重複	形状 ( )=推定	長軸(m) ( )=推定値 [ ]=現存値	短軸(m) ( )=推定値 [ ]=現存値	深さ(m)	出土遺物 備考
SK148	48	X22Y29·30	SI14、SK130·132	不整円形	1.20	0.92	0.40	土師器小皿
SK149	48	X22Y30	SI14、SK132·164·183·185	不整円形	0.38	0.34	0.03	遺構覆土上面に焼土範囲あり。二次転用された灰釉陶器
SK150	48	X22Y29	SK104·106·151·152	—	—	—	0.28	出土遺物なし
SK151	48	X22Y29	SK150·152·162·163	楕円形	0.82	0.54	0.39	上層に礫多数
SK152	48	X22Y29	SK106·150·151	不整円形	0.68	0.63	0.42	上層に礫
SK153	48	X22Y29	SK130·138·139	楕円形	1.08	0.85	0.40	
SK154	48	X21Y29	SI16、SK139·140·155	不整楕円形	0.79	(0.61)	0.26	柱穴状堆積状況
SK155	48	X21Y29	SI16、SK154·156	楕円形	1.21	0.76	0.14	出土遺物なし
SK156	48	X21Y29	SI16、SK155·157	不整円形	0.48	[0.30]	0.16	出土遺物なし
SK157	48	X21Y29	SI16、SK156	不整円形	0.38	0.33	0.20	出土遺物なし
SK158	31	X21Y30	SI16	(楕円形)	0.80	0.60	0.50	SI16より新。坑内に礫充填
SK159	欠番	—	—	—	—	—	—	—
SK160	24	X23Y27	SI8、SK88·161·173	不整楕円形	0.75	0.56	0.37	SI8の床下土坑。出土遺物なし
SK161	24	X23Y27	SI8、SK88·89·160·170	(不整楕円形)	0.86	[0.34]	0.11	遺構覆土上面は硬化面。出土遺物なし
SK162	48	X22Y29·30	SK151·164	不整楕円形	1.00	(1.00)	0.40	遺構覆土上面は硬化面。刀子片
SK163	48	X22Y29·30	SK151	不整楕円形	0.74	0.58	0.26	上層に人頭大礫
SK164	48	X22Y30	SI14、SK149·162·201	楕円形	1.70	1.16	0.34	
SK165	32	X23Y30	SI17、SK166	楕円形	0.68	0.59	0.10	
SK166	32	X23Y30	SI17、SK165·232	(不整楕円形)	1.22	[0.72]	0.54	SI17より新。
SK167	32	X23Y30	SI17·24、SK232	楕円形	0.76	0.52	0.66	SI17より新。
SK168	50	X23Y30	SI17·24	不整円形	1.21	1.15	0.30	上層に扁平礫多数、覆土内焼土顕著
SK169	24	X23Y27	SI8、SK170	円形	0.72	0.68	0.18	SK170より新。焼土顕著
SK170	24	X23Y27	SI8、SK161·169	(楕円形)	[0.34]	0.34	0.12	SI8の床下土坑
SK171	43	X22Y29	SI29、SK103·105	(不整楕円形)	[0.64]	[0.56]	0.15	出土遺物なし
SK172	24	X22·23Y27	SI8·12、SK187～189	(不整楕円形)	1.16	[0.52]	0.14	床下土坑か、高台皿
SK173	24	X23Y27	SI8、SK160	不整楕円形	0.46	0.39	0.21	出土遺物なし
SK174	27～29	X21Y30	SI13·14、SK133·181·182	不整楕円形	1.28	1.00	0.73	SI13·14より新。坑内に礫充填、底面にら小ピットあり、炭化材、カマド形土器片
SK175	27	X22Y31	SI15、SK231	不整楕円形	0.72	0.64	0.35	出土遺物なし
SK176	27·36	X22Y31	SI15·24、SK190·196·220	不整円形	0.71	0.65	0.66	SI15より新。柱穴状堆積状況、覆土上層から土師器小皿出土
SK177	欠番	—	—	—	—	—	—	—
SK178	47	X21Y29	SK112·113	—	[0.49]	[0.53]	0.32	出土遺物なし
SK179	47	X21Y29	SI16、SK112·113	—	[0.49]	[0.44]	0.32	出土遺物なし
SK180	47	X21·22Y29	SI16、SK109·111·112	長楕円形	1.30	0.48	0.22	出土遺物なし
SK181	27	X21Y30	SI13·14、SK182·174	(不整楕円形)	0.98	[0.30]	0.14	SI14カマド掘りかたの一部か。出土遺物なし
SK182	27	X21Y30	SI13·14、SK174·181·198	(楕円形)	0.76	0.76	0.24	坑内に礫充填
SK183	27	X22Y30	SI14、SK149	楕円形	0.53	0.42	0.16	SI14の柱穴か
SK184	36	X22Y30	SI24、SK149·185·201·202·208·214·234	(楕円形)	[1.58]	1.60	0.42	坑内に扁平礫、9世紀初頭段階土師器坏(墨書あり)
SK185	36	X22Y30	SI14·24、SK184·202	(不整楕円形)	[1.00]	1.12	0.30	覆土上層に焼土顕著、出土遺物なし
SK186	23	X22Y27	SI8·12、SK187	不整楕円形	1.00	0.69	0.37	出土遺物なし 床下土坑か
SK187	23	X22Y27	SI8·12、SK186·172	(不整楕円形)	1.31	0.92	0.11	出土遺物なし 床下土坑か
SK188	23	X22Y27	SI8·12、SK147·172·189	不整円形	0.70	0.67	0.06	床下土坑か
SK189	23	X22·23Y27	SI8·12、SK172·188	(不整楕円形)	0.66	[0.44]	0.12	出土遺物なし 床下土坑か
SK190	27·36	X22Y31	SI13·15·24、SK176·196·246	(不整楕円形)	1.03	0.80	0.52	扁平礫、SI24に伴うものか
SK191	47	X21Y29	SI16、SK192	楕円形	0.36	0.28	0.23	柱穴状堆積状況。出土遺物なし
SK192	47	X21Y29	SI16、SK112·191	(不整円形)	0.76	0.85	0.23	底面に扁平礫(礎板石か)、柱穴状堆積状況。出土遺物なし
SK193	23·24	X22Y27	SI8	不整円形	1.00	0.88	0.13	SI8の床下土坑
SK194	25	X23Y26·27	SI10、SK195	(楕円形)	0.66	[0.43]	0.22	出土遺物なし
SK195	25	X23Y26·27	SI10、SK194·197	不整楕円形	0.74	0.57	0.37	底面に拳大礫集積、出土遺物なし
SK196	36	X22Y31	SI15·24、SK176·190·206·207·246	不整楕円形	0.82	0.57	0.35	SI24の床下土坑
SK197	25	X23Y26	SI10、SK195	(不整楕円形)	1.26	0.84	0.25	出土遺物なし、覆土上層に大型礫、中層に小礫
SK198	27	X21·22Y30	SI13·14、SK182·200	(不整楕円形)	0.96	0.74	0.36	SI13の床下土坑か
SK199	27	X22Y30	SI13	不整楕円形	0.88	0.68	0.47	
SK200		X22Y30	SI13·14、SK198	(不整円形)	0.48	[0.20]	0.08	SI13の床下土坑か
SK201	36	X22Y30	SI24、SK164·184·215	(楕円形)	1.34	[0.70]	0.21	
SK202	36	X22Y30	SI15·24、SK184·185·203	不整円形	0.78	0.74	0.37	SI24に伴うものか。製塩土器片
SK203	36	X22Y30	SI14·15·24、SK202·205·234	(楕円形)	[0.74]	0.76	0.32	SI24に伴うものか。出土遺物なし
SK204	23	X22Y27	SI8·12	不整楕円形	0.57	0.43	0.21	出土遺物なし
SK205	36	X22Y30	SI13～15·24、SK203·206·234·246	(楕円形)	1.00	0.70	0.30	SI24に伴うものか。出土遺物なし
SK206	36	X22Y30·31	SI15·24·(SI24P-8)、SK196·205·207·246	(長楕円形)	1.54	[0.84]	0.32	坑内に扁平礫、SI24の床下土坑。8世紀後半段階の土師器坏(墨書·刻書あり)、鉄製鎌·棒状鉄製品
SK207	36	X22Y30·31	SI15·24、SK196·206·246	(長楕円形)	1.06	0.64	0.44	
SK208	36	X22Y30	SI24、SK184·209～211	楕円形	0.52	0.39	0.26	出土遺物なし
SK209	36	X22Y30	SI24、SK208·211·235	(楕円形)	0.63	0.56	0.26	
SK210	36·39	X22·23Y30	SI24、SK208·214	楕円形	1.23	0.98	0.30	SI24の礎石据え付け掘りかた、その下部に礎板石を伴う先行掘立柱掘りかたあり、フイゴ羽口片
SK211	36	X22Y30	SI15·24·(SI24P-6)、SK208·209	(不整円形)	0.84	[0.48]	0.28	灯明具使用の土師器坏
SK212	48	X23Y29	SK116·213·242	不整楕円形	1.27	0.90	0.18	
SK213	48	X23Y29	SK212	不整円形	1.13	1.26	0.20	覆土内に拳大礫集積
SK214	36	X22·23Y30	SI24、SK184·210·215·216	(長楕円形)	1.94	0.90	0.16	
SK215	36	X22Y29·30	SI24、SK201·214·216	(不整円形)	1.57	1.38	0.32	坑内に礫、SI24に伴うものか
SK216	36	X22·23Y30	SI24、SK214·215	長楕円形	1.83	0.77	0.19	
SK217	36	X22Y30	SI24	楕円形	0.28	0.23	0.38	出土遺物なし
SK218	42	X23Y30	SI24·29、SK214	(楕円形)	0.70	[0.41]	0.18	
SK219	欠番	—	—	—	—	—	—	—
SK220	29·36	X22Y31	SI15·24、SK176·262	(楕円形)	0.73	0.62	0.30	SI24に伴うものか。
SK221	33	X22·23Y31	SI18·19·24、SK222·223·268	不整楕円形	0.77	0.76	0.17	SI18の床下土坑。「上」墨書土師器皿

SK No.	挿図番号	位置 (Grid)	重複	形状 ( )＝推定	長軸(m) ( )＝推定値 [ ]＝現存値	短軸(m) ( )＝推定値 [ ]＝現存値	深さ(m)	出土遺物 備考
SK222	33·36	X23Y31	SI18·19·24·(SI24P-11·13·14)、SK221	(不整楕円形)	1.28	0.78	0.33	SI18の床下土坑。灯明具使用の土師器坏
SK223	33	X22Y31	SI18·19·24、SK221·267·268	(不整楕円形)	0.76	0.44	0.06	
SK224	33	X22Y31	SI19·24、SK230	不整楕円形	0.70	0.49	0.36	置きカマド片
SK225	40	X23Y28	SI25·27、SK84·226	(楕円形)	0.92	0.62	0.32	SI25より新。灯明具使用の土師器坏、カマド形土器片
SK226	40	X23Y28	SI25·27、SK84·225·227	不整楕円形	0.48	0.32	0.37	SI25より新
SK227	40	X23Y28	SI25·27、SK226·228	不整楕円形	0.58	0.55	0.29	SI25より新。出土遺物なし
SK228	40	X23Y28	SI25·27、SK227	不整円形	0.55	0.47	0.23	SI25もしくはSI27に伴うものか。出土遺物なし
SK229	31	X23Y30	SI17·24、SK233	不整楕円形	1.20	0.78	0.64	SI17より新。
SK230	33	X22Y31	SI19、SK224	(不整楕円形)	[0.63]	0.62	0.62	SI19より新
SK231	33	X22Y31	SI19、SK175	(楕円形)	[0.76]	0.73	0.52	SI19より新。覆土内に小礫集積、出土遺物なし
SK232	31	X23Y30	SI17·24、SK166·167	(不整楕円形)	0.74	0.53	0.54	SI17の床下土坑。出土遺物なし
SK233	31	X23Y30	SI17·24、SK229	(不整楕円形)	0.80	[0.42]	0.62	SI17より新。出土遺物なし
SK234	36	X22Y30	SI15·24、SK184·202·203·205·235	(不整楕円形)	0.98	[0.65]	0.15	
SK235	36	X22·23Y30	SI15·24(SI24P-6)、SK209·234	(不整円形)	0.82	0.76	0.26	
SK236	40	X23Y28	SK119·237	(楕円形)	[0.43]	0.79	0.40	出土遺物なし
SK237	40	X23Y28·29	SK236·238	(不整楕円形)	0.84	0.65	0.15	出土遺物なし
SK238	40	X23Y28·29	SI25、SK237	(不整円形)	0.85	0.79	0.37	出土遺物なし
SK239	40	X23Y28·29	SI25	(楕円形)	0.95	0.75	0.37	SI25より新。坑内上層に礫、出土遺物なし
SK240	40	X23Y28	SI25、SK323	(楕円形)	1.10	0.94	0.27	覆土内に拳大礫多数
SK241	27·36	X22·23Y30·31	SI15·17·24、SK257	(長楕円形)	10.70	0.80	0.60	SI15·17より古、SI24より新。二次転用された須恵器甕片
SK242	48	X23Y29	SK212·116	長方形	2.23	[1.16]	0.14	底面レベル付近に小礫の集積範囲あり、出土遺物なし
SK243	34	X23·24Y27·28	SI11·20、SK87·287	不整楕円形	0.90	0.69	0.34	SI20より新
SK244	34	X23·24Y28	SI11·20、SK247·248	(楕円形)	0.94	[0.58]	0.25	SI20より新。
SK245	25·26	X23·24Y27	SI11	楕円形	1.10	0.82	0.31	SI11の床下土坑か。中層に大型礫、出土遺物なし
SK246	36	X22Y30·31	SI13·15·24、SK190·196·205～207	(長楕円形)	[1.25]	0.78	0.19	SI24に伴うものか。
SK247	34	X24Y28	SI20·31、SK244·248	不整楕円形	1.00	0.85	0.34	SI31より新。二次転用された灰釉陶器皿
SK248	34	X24Y28	SI11·20·31、SK244·247·291·332·333	長楕円形	2.10	1.56	0.32	SI31より新
SK249	欠番	—	—	—	—	—	—	SI20に変更
SK250	42	X22·23Y29	SI29、SK251·252	(不整円形)	0.75	0.72	0.17	出土遺物なし
SK251	42	X22Y29	SI29、SK250	不整楕円形	0.78	0.56	0.13	出土遺物なし
SK252	42	X22Y29	SI29、SK250	不整楕円形	0.83	0.68	0.10	
SK253	42	X23Y29·30	SI29	不整円形	0.48	0.47	0.16	出土遺物なし
SK254	42	X23Y29	SI29	不整円形	0.80	0.76	0.15	出土遺物なし
SK255	42	X22Y29	SI29	楕円形	0.54	0.44	0.16	出土遺物なし
SK256	31·36	X23Y31	SI24·28、SK257·258	楕円形	0.42	0.36	0.37	
SK257	31·36	X23Y31	SI24、SK241·256·298	不整楕円形	0.64	0.64	0.18	
SK258	31·32	X23Y30·31	SI17·24·28、SK241·256·257	(不整楕円形)	[1.18]	[0.49]	0.37	SI17より古、SI24より新。土師器坏の刻書土器
SK259	欠番	—	—	—	—	—	—	—
SK260	33	X23Y31	SI17·26·30	楕円形	0.74	0.58	0.56	
SK261	31	X23Y31	SI24·26、SK278	(楕円形)	0.94	0.84	0.32	SI26より新
SK262	36·39	X22Y31	SI15·24、SK220	(不整楕円形)	[0.72]	0.67	0.19	SI24に伴うものか。
SK263	36	X23Y31	SI24·26·28、SK264·289·290	(不整楕円形)	0.58	0.56	0.12	
SK264	36	X23Y31	SI18·24、SK263·290	不整楕円形	1.19	1.17	0.80	SI24に伴うものか
SK265	36	X22Y31	SI15·24	不整円形	0.40	0.40	0.25	出土遺物なし
SK266	36·40	X22Y30·31	SI15·24·(SI24P-7·SI24P-8)	不整円形	0.88	0.78	0.64	SI24の礎石据え付け掘りかた、その下部に礎板石を伴う先行掘立柱掘りかたあり
SK267	33	X22Y31	SI18·24、SK223·268	(不整円形)	0.70	[0.52]	0.30	土師器坏の墨書・刻書土器
SK268	31·33	X22·23Y31	SI18·24、SK221·223·267·273	楕円形	1.14	0.92	0.30	SI18の床下土坑
SK269	36·40	X23Y31	SI18·24、SK275·298	(楕円形)	0.76	0.74	0.32	SI24の礎石据え付け掘りかた
SK270	40	X23Y28	SI25	楕円形	0.84	0.67	0.46	SI25の床下土坑か。出土遺物なし
SK271	40	X23Y28	SI25、SK272	不整円形	0.82	0.82	0.52	SI25の床下土坑か
SK272	40	X23Y28	SI25、SK271	不整円形	1.26	1.10	0.40	SI25より新。出土遺物なし
SK273	33·36	X23Y31	SI18·24、SK268	(楕円形)	0.42	0.38	0.14	SI18の床下土坑。出土遺物なし
SK274	36·40	X22·23Y31	SI18·24、SK275·276·298	(楕円形)	0.64	0.63	0.13	SI24の床下土坑か。出土遺物なし
SK275	36·40	X23Y31	SI18·24、SK269·274·298	(不整円形)	0.45	0.40	0.19	SI24の床下土坑か。出土遺物なし
SK276	36	X22Y31	SI15·24、SK274	円形	0.64	0.56	0.14	出土遺物なし
SK277	48	X23Y29	なし	円形	0.82	0.82	0.23	上層に大型礫、出土遺物なし
SK278	31	X23Y31	SI24·26、SK261·289	(楕円形)	0.87	0.60	0.44	SI26より新。出土遺物なし
SK279	25·26	X23Y27	SI11、SK280	円形	0.68	0.62	0.26	SI11の床下土坑
SK280	25·26	X23Y27	SI9·11、SK279	(円形)	0.98	0.88	0.16	SI11の床下土坑
SK281	34	X24Y28	SI31	長方形	0.97	0.60	0.49	SI31より新。坑内に礫充填
SK282	49	X23Y29·30	SK283	不整円形	0.40	0.40	0.29	出土遺物なし
SK283	49	X23Y29·30	SK282	円形	0.85	0.77	0.24	出土遺物なし
SK284	49	X23Y29	SK285	不整円形	0.35	0.32	0.24	出土遺物なし
SK285	49	X23Y29	SK284	楕円形	0.96	0.75	0.22	上層に扁平礫、出土遺物なし
SK286	48	X23Y29	なし	楕円形	0.60	0.49	0.17	出土遺物なし
SK287	34	X23Y28	SI20、SK87·243	(不整楕円形)	[0.97]	0.67	0.32	出土遺物なし
SK288	34	X24Y28	SI31、SK329	不整円形	1.13	1.15	0.36	SI31より新。棒状鉄製品
SK289	31·36	X23Y31	SI24·26、SK263·278·290	楕円形	0.60	0.48	0.07	
SK290	31·36	X23Y31	SI24、SK263·264·289	(楕円形)	0.62	0.44	0.02	出土遺物なし
SK291	34	X24Y27·28	SI20·31、SK248	不整楕円形	0.75	0.48	0.34	SI31より新
SK292	34	X24Y28	SI31、SK319·334	不整楕円形	0.95	0.83	0.49	SI31より新。坑内に礫充填、覆土上層に多量の焼土ブロックを含む、第1層下面に焼土層が顕著、土師器塊・柱状高台片、二次転用された須恵器甕片
SK293	49	X24Y31	SI32、SK303	不整円形	0.75	0.67	0.42	出土遺物なし

SK No.	挿図番号	位置 (Grid)	重複	形状 ( )＝推定	長軸(m) ( )＝推定値 [ ]＝現存値	短軸(m) ( )＝推定値 [ ]＝現存値	深さ(m)	出土遺物 備考
SK294	49	X24Y30・31	SI30・32、SK295	(楕円形)	[0.70]	0.78	0.06	9世紀前半代土師器坏・皿片
SK295	42	X24Y30・31	SI32、SK294	(楕円形)	(1.08)	(0.90)	0.43	SI32より新。出土遺物なし
SK296	42	X24Y30	SI32	(不整楕円形)	2.20	(1.80)	0.48	SI33より新。覆土中層部分に焼土範囲が認められる。9世紀後半代の土師器坏(墨書土器含む)・甕・小型甕・置きカマド片等、製塩土器片
SK297	31	X23Y30	SI17・24	円形	0.74	0.73	0.38	SI17もしくはSI24Iに伴うものか
SK298	36・40	X23Y31	SI24、SK256・257・269・274・275	不整円形	0.82	0.70	0.66	SI24の先行掘立柱、礎板石2枚あり
SK299	33	X23・24Y30	SI17・30	不整円形	0.59	0.37	0.17	出土遺物なし
SK300	33	X24Y30	SI30	不整楕円形	0.72	0.51	0.24	
SK301	33	X23・24Y30	SI24・30	円形	0.45	0.42	0.16	出土遺物なし
SK302	36・40	X23Y30	SI17・24	円形	0.45	0.43	0.58	SI24の先行掘立柱、礎板石あり、出土遺物なし
SK303	49	X23・24Y31	SK293	不整円形	1.07	1.05	0.31	完形に近い土師器坏出土。掘りかたは浅く、カマドの掘りかた形状に酷似
SK304	42	X24Y30	SI33、SK305	(不整円形)	1.20	(1.17)	0.41	SI33より新。9世紀前半代土師器皿の墨書土器
SK305	42	X24Y30	SI17・33、SK304	(楕円形)	1.87	1.52	0.24	
SK306	43	X23・24Y29	なし	(不整円形)	0.80	0.73	0.19	出土遺物なし
SK307	42	X24Y29・30	SI33、SK308	不整楕円形	1.08	0.84	0.25	
SK308	42	X24Y29・30	SI33、SK307	(楕円形)	1.21	[0.58]	0.18	
SK309	34	X24Y28	SI31	(楕円形)	0.90	0.65	0.12	SI31より新。棒状鉄製品
SK310	35	X24Y26	SI23	(楕円形)	0.95	[0.62]	0.53	SI23の床下土坑、刻書土器片
SK311	35	X24Y26	SI23	(楕円形)	[0.70]	[0.50]	0.40	SI23より新。
SK312	43	X24Y29	SI34	(不整楕円形)	1.00	0.73	0.45	SI34より新。坑内に礫充填、ウルシ状付着物顕著な口縁部を打ち欠いた9世紀前半代の土師器皿
SK313	43	X23・24Y29	SI34	(不整楕円形)	0.82	0.60	0.48	SI34より新。坑内に礫充填、ほぼ完形土師器皿
SK314	34	X24Y28	SI31	不整楕円形	0.94	0.78	0.48	坑内に礫充填
SK315	43	X23・24Y29	SI34	(楕円形)	0.76	0.56	0.46	SI34より新。
SK316	43	X23Y29	SI34	(楕円形)	1.10	0.96	0.23	出土遺物なし
SK317	34	X24Y28	SI20・31	(円形)	0.52	(0.52)	0.27	
SK318	34	X24Y28	SD1	(楕円形)	1.00	[0.42]	0.15	
SK319	34	X24Y28・29	SI31・34、SK292・334	長方形	1.38	0.98	0.12	坑内に礫充填、土師器坏片
SK320	43	X23Y28・29	SK321	不整楕円形	1.04	0.76	0.28	出土遺物なし
SK321	43	X23Y28・29	SK320	(不整円形)	1.26	1.10	0.20	出土遺物なし
SK322	31	X23・24Y30	SI17	不整楕円形	1.36	1.10	0.32	SI17の床下土坑か。焼け石出土
SK323	34	X23・24Y28	SI31、SK240・324	(楕円形)	0.90	[0.64]	0.26	覆土上層から中層にかけて小礫の集積あり
SK324	34	X23Y28	SK323	(楕円形)	0.59	0.54	0.13	覆土上層から中層にかけて小礫の集積あり
SK325	34	X24Y28	SI20・31、SK326	(楕円形)	1.06	0.83	0.13	SI35もしくはSI20の床下土坑か。刻書土器片
SK326	34	X24Y28	SI20・31、SK325	不整楕円形	0.54	0.46	0.14	
SK327	34	X24Y28	SI20・31	円形	0.26	0.25	0.18	
SK328	34	X24Y28	SI20・31	不整円形	0.50	0.36	0.34	出土遺物なし
SK329	34	X24Y28	SI20・31、SK288	(円形)	0.68	0.60	0.13	
SK330	49	X23・24Y31	SK331	不整楕円形	(1.17)	1.00	0.29	10世紀前半代の土師器甕片出土。覆土上層小礫の混入と焼土顕著、カマド掘りかたの形状に酷似
SK331	49	X24Y31	SK330	不整楕円形	0.47	0.45	0.12	覆土中層から下層にかけて小礫の集積顕著
SK332	34	X24Y28	SI20・31、SK248・333	楕円形	0.60	0.52	0.21	出土遺物なし
SK333	34	X24Y28	SI20・31、SK248・332	(楕円形)	0.46	0.39	0.12	出土遺物なし
SK334	34	X24Y28・29	SI31・34、SK292・319	不整楕円形	0.88	0.54	0.54	SI31より新。坑内に礫充填
SK335	36	X23Y31	SI18・24	(楕円形)	1.30	0.53	0.36	出土遺物なし
SK336	36	X23Y31	なし	円形	0.30	0.30	0.14	出土遺物なし
SK337	49	X23Y31	なし	円形	0.33	0.31	0.17	柱穴状堆積状況。出土遺物なし
SK338	49	X24Y31	なし	円形	0.32	0.32	0.13	出土遺物なし
SK339	34・35	X24Y28	SI31	不整円形	0.72	0.72	0.48	
SK340	49	X23Y31	なし	楕円形	0.34	0.28	0.18	出土遺物なし
SK341	49	X23Y31	なし	楕円形	(0.45)	0.30	0.24	柱穴状堆積状況。出土遺物なし
SK342	27・47	X21・22Y30	SI14、SK131・132	不整円形	0.70	0.58	0.32	出土遺物なし

第７表　第３次調査出土土器観察表

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI1	52	1	土師器	坏	— ・ 5.4 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：明赤褐色 内：にぶい赤褐色	緻密(赤色粒子)	良	内外面とも二次焼成をうけ、やや変色しスス状ヨゴレ顕著
SI1	52	2	土師器	坏	10.0 ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	にぶい褐色	密(白色粒子、石英)	良	ピット内出土 内外面の摩耗・ヨゴレやや顕著
SI1	52	3	土師器	坏	— ・ 7.0 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(赤・白色粒子、雲母)	良	外面の摩耗顕著
SI1	52	4	土師器	坏	— ・ 7.0 ・ —	底部	回転ナデ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	にぶい赤褐色	密(赤・白色粒子、雲母)	良	内外面のヨゴレやや顕著
SI1	52	5	須恵器	高台坏	14.4 ・ 4.6 ・ 7.0	体部～底部	回転ナデ、貼付＋削出し高台 底部回転ナデ	回転ナデ	灰色	密(白色粒子多)	良	内面の摩耗は顕著ではない
SI1	52	6	須恵器	蓋	9.6 ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色	密(白色粒子)	良	内面のヨゴレやや顕著
SI1	52	7	灰釉陶器	埦	— ・ — ・ —	体部～高台部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	浅黄橙色	やや粗(白色粒子)	良	内面み込み部に焼成時、重痕あり 内外面のスス状ヨゴレやや顕著
SI1	52	8	土師器	甕（塝）	31.2 ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ、指頭痕	ハケメ	外：黒褐色 内：にぶい赤褐色	粗(金色雲母、白・黒色粒子、小礫)	良	内面の荒れおよび摩耗やや顕著
SI1	52	9	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ、指頭痕	外：褐色 内：赤褐色	粗(白色粒子多、黒色粒子、金色雲母、小礫)	良	内面の赤色化顕著
SI1	52	10	弥生土器	甑か	— ・ 2.2 ・ —	底部	ナデ、ヘラケズリ	ナデ 底部穿孔	橙色	やや粗(赤・白色粒子)	良	割れ口の摩滅顕著 内外面とも二次焼成のため器面やや変色
SI3	52	1	土師器	脚高高台皿	(8.6) ・ (4.9) ・ 4.15	口縁～脚部	回転ナデ 底部回転ナデ、ナデ	回転ナデ	橙色	やや粗(白色粒子多、赤色粒子、小礫)	良	やや軟質、内外面とも被熱し摩滅・ヨゴレ顕著
SI3	52	2	土師器	脚高高台皿	9.2 ・ 5.5 ・ 3.7	4/3残存	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	にぶい橙色	やや粗(白色粒子多、赤色粒子)	良	やや軟質、内外面とも被熱し外面のスス状ヨゴレ顕著
SI3	52	3	土師器	脚高高台皿	(10.2) ・ 5.6 ・ 4.4	口縁～脚部	回転ナデ 底部回転ナデ、回転糸切り、	回転ナデ	橙色	やや粗(白色粒子多、赤色粒子)	良	底部回転糸切り痕わずかに残る、やや軟質、内外面ともに被熱し摩滅顕著
SI3	52	4	土師器	脚高高台皿	9.9 ・ 5.2 ・ 4.5	略完形	回転ナデ 底部回転糸切り、回転ナデ	回転ナデ	外：明赤褐～にぶい橙色 内：明赤褐色	やや粗(白色粒子多、赤色粒子)	良	内外面とも被熱、特に外面は強く被熱し変色・摩滅非常に顕著
SI3	52	5	土師器	脚高高台皿	9.9 ・ 6.0 ・ 4.9	略完形	ナデ、回転ナデ 底部回転ナデ、ナデ	回転ナデ	橙色	やや粗(赤色粒子多、白色粒子、雲母少)	良	やや軟質、器形の歪み顕著、内外面とも被熱し外面のスス状ヨゴレ顕著
SI3	52	6	土師器	脚高高台皿	9.9 ・ 6.3 ・ 4.8	略完形	回転ナデ 底部回転ナデ、ナデ	回転ナデ	橙色	やや粗(赤・白色粒子、雲母少)	良	やや軟質、器形の歪み顕著、内外面とも被熱
SI3	52	7	土師器	脚高高台皿	9.8 ・ — ・ —	口縁～脚部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(白色粒子、小礫)	良	やや軟質、内外面とも被熱し摩滅・ヨゴレ顕著
SI3	52	8	土師器	脚高高台皿	9.9 ・ — ・ —	口縁～脚部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(白色粒子多)	良	やや軟質、内外面とも被熱し摩滅・ヨゴレ顕著
SI3	52	9	土師器	脚高高台皿	— ・ — ・ —	皿底部～脚部	回転ナデ 底部回転ナデ、回転糸切り、	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(赤・白色粒子多)	良	やや軟質、内外面とも被熱し内面の摩滅・スス状ヨゴレ顕著
SI3	52	10	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ — ・ —	坏(皿)底部～脚部	回転ナデ 底部ナデ、回転ナデ	回転ナデ	橙～にぶい黄橙色	粗(白色粒子多、赤色粒子、雲母少)	良	内外面とも被熱し脚部内面の変色非常に顕著、身部内面の摩滅・スス状ヨゴレ顕著
SI3	52	11	土師器	坏	— ・ (5.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	密(赤色粒子多、白色粒子、雲母少)	良	胎土マーブル状、内外面とも被熱し内面のスス状ヨゴレ顕著
SI3	52	12	土師器	坏	— ・ 6.4 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(赤・白色粒子、小礫)	良	やや軟質、内外面とも被熱し内面の摩滅顕著
SI3	52	13	土師器	坏	— ・ (5.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	緻密(赤色粒子多)	良	内外面とも被熱し内面の摩滅顕著
SI3	52	14	土師器	坏	— ・ (8.0) ・ —	体部～底部	ミガキ 底部ミガキ	ミガキ	明赤褐色	密(赤色粒子、雲母少)	良	内外面とも弱く被熱しスス状ヨゴレやや顕著
SI3	53	15	須恵器	坏	15.2 ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	灰色	やや粗(白色粒子多)	良	内外面のスス状ヨゴレやや顕著
SI3	53	16	須恵器	蓋	15.8 ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部回転ナデ	回転ナデ	灰白色	やや粗(黒色粒子少、雲母少)	良	軟質、内外面の摩滅顕著
SI3	53	17	土師器	甕	(32.5) ・ — ・ —	口縁～胴部	回転ナデ、カキメ	回転ナデ	橙～明赤褐色	密(白・赤色粒子、小砂多、金色雲母多)	良	硬質、内外面とも被熱し器面の変色・スス付着顕著
SI3	53	18	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	カキメ	ナデ	橙～明赤褐色	密(白・赤色粒子、小砂多、金色雲母多)	良	硬質、内外面とも被熱し器面の変色・スス付着顕著
SI3	53	19	土師器	甕	— ・ (6.0) ・ —	底部	ナデ 底部木葉痕	ナデ	外：暗赤褐色　内：にぶい赤褐色	密(白色粒子多、赤色粒子、雲母、小砂多)	良	内外面とも強く被熱し摩滅顕著
SI3	53	20	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	黄灰色	密(白色粒子少)	良	内面非常に滑らか、外面のタタキの摩耗顕著、二次転用された可能性大
SI3	53	21	灰釉陶器	壺	— ・ — ・ —	肩部	回転ナデ	回転ナデ	外：灰オリーブ色 内：黄灰色	密(黒色粒子少)	良	内面黒ずみ状ヨゴレ顕著
SI3	53	22	粘土塊	—	長3.1 ・ 幅(1.9) ・ 高1.5				明赤褐色	密(白色粒子、小礫含む)	—	軟質、摩滅顕著、繊維状圧痕顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI4	53	1	須恵器	蓋	(16.0) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	やや粗(黒・白色粒子)	良	内外面のスス状ヨゴレ顕著
SI5	53	1	土師器	坏(刻書土器)	12.6 ・ 4.7 ・ 3.9	4/5残存	回転ナデ、ヘラケズリ、線刻 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(黒・白・赤色粒子、小礫)	良	体部外面に線刻刻書あり「身」を横位記す、やや厚手なつくり、内外面とも被熱し内面全体の摩耗おやびスス状ヨゴレ顕著、外面は器面の荒れスス状ヨゴレ顕著、口縁部の1/2を故意に打ち欠く
SI5	53	2	土師器	坏	(18.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(赤色粒子多、白・黒色粒子)	良	内外面とも被熱しスス状ヨゴレやや顕著
SI5	53	3	土師器	皿	12.6 ・ 4.5 ・ 2.6	4/5残存	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(黒・白・赤色粒子)	良	底部内面の摩耗やや顕著、外面の摩耗・摩滅はあまりみられない、口縁部内面を中心に黒ずみヨゴレやや顕著
SI5	53	4	土師器	皿	(11.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ	にぶい赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも弱く被熱しスス状ヨゴレ非常に顕著、底部内面の摩耗やや顕著
SI5	53	5	緑釉陶器	埦	— ・ (8.1) ・ —	体部～底部	回転ナデ、付高台	回転ナデ、ミガキ	オリーブ黄色	密(白・黒色粒子)	良	割れ口断面のスス状ヨゴレ顕著、内外面散在的に赤褐色化
SI5	53	6	土師器	高台坏	— ・ (6.6) ・ —	底部	底部回転ヘラケズリ、削出し高台	回転ナデ、暗文	橙色	やや粗(白・黒・赤色粒子)	良	外面の摩耗顕著
SI5	53	7	土師器	坏	— ・ (5.2) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り、ハケナデ	回転ナデ	橙色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子、小礫)	良	雑なつくり、胎土マーブル状、口縁部～体部上半を故意に打ち欠く、底部内面を中心に摩耗・黒ずみ状ヨゴレが顕著、外面の摩耗・摩滅は、ほとんどみられない
SI5	53	8	須恵器	蓋	— ・ (8.0) ・ —	体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	外：灰オリーブ色 内：にぶい褐色	やや粗(白・黒色粒子、角閃石)	良	内外面とも摩耗・摩滅ともあまりみられない、内面一部赤褐色化
SI5	54	9	土師器	甕	(29.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ハケメ	外：灰黄褐色　内：黒褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも被熱しているが摩滅はあまりみられない
SI5	54	10	土師器	甕	(32.4) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ハケメ	外：黒褐色 内：褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも被熱し器面の変色・スス付着・内面の摩滅やや顕著
SI5	54	11	土師器	甕	(35.9) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ハケメ	にぶい赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SI5	54	12	土師器	甕	(36.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ハケメ	褐色	やや粗(黒・白・赤色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SI6	54	1	土師器	坏	14.0 ・ 6.0 ・ 4.4	完形	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、細い金色雲母多)	良	重量感あり(229g)、内外面被熱しスス状ヨゴレ全体的に顕著、摩耗・摩滅は比較的弱い
SI6	54	2	土師器	皿	9.3 ・ 3.7 ・ 2.1	略完形	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙～にぶい橙色	密(白・赤・黒色粒子、小礫)	良	やや軟質、弱く被熱し内外面ともやや器面変色・摩滅・スス状ヨゴレもやや顕著
SI6	54	3	土師器	皿	(11.2) ・ (5.2) ・ 2.0	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(赤・黒・白色粒子)	良	やや軟質で粗雑なつくり、被熱し器面の変色・剥離・摩滅・スス状ヨゴレ顕著
SI6	54	4	土師器	皿	(11.2) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	やや軟質、被熱し器面の変色・摩滅・スス状ヨゴレ顕著
SI6	54	5	土師器	坏	— ・ (6.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	にぶい橙色	密(白・黒色粒子、雲母)	良	やや軟質、内外面とも被熱し摩滅・スス状ヨゴレ顕著
SI6	54	6	土師器	坏か	— ・ (10.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(赤色粒子多、白・黒色粒子)	良	内外面とも被熱し外面の変色顕著、摩滅・スス状ヨゴレもやや顕著
SI6	54	7	土師器	坏か	— ・ 4.8 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	密(白色粒子やや多、赤・黒色粒子少)	良	内外面とも被熱し摩滅やや顕著
SI6	54	8	土師器	坏か皿	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、指頭痕 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(赤色粒子多、白・黒色粒子、雲母)	良	やや軟質、糸切り痕が体部まで及んでいる、被熱し内外面の摩滅・スス状ヨゴレやや顕著
SI6	54	9	土師器	坏か皿	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(赤色粒子多、黒・白色粒子)	良	内外面とも被熱しスス状ヨゴレ顕著、底部端部の摩耗が非常に顕著
SI6	54	10	土師器	柱状高台皿	8.4 ・ 4.8 ・ 2.5	略完形	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白色粒子やや多、赤色粒子、雲母)	良	内面とも強く被熱し器面の赤褐色化顕著、体部内面の摩滅およびスス状ヨゴレ顕著
SI6	54	11	土師器	柱状高台皿	— ・ (4.4) ・ —	高台部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙～にぶい橙色	密(白・赤色粒子、雲母)	良	やや軟質、内外面とも弱く被熱し摩滅・スス状ヨゴレ顕著
SI6	54	12	灰釉陶器	壺	— ・ (7.6) ・ —	胴部～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部回転ナデ、付高台	回転ナデ	灰白色 釉：灰オリーブ色	密(白・黒・赤色粒子)	良	内外面の摩滅・ヨゴレやや顕著
SI6	54	13	緑釉陶器	皿か	— ・ — ・ —	底部	回転ナデ	回転ナデ	オリーブ灰色	密(白色粒子)	良	内外面の摩滅・ヨゴレ顕著
SI6	55	14	土師器	甕	(37.4) ・ — ・ —	口縁部	ナデ、ハケメ	ハケメ	にぶい赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面の摩滅顕著
SI6	55	15	土師器	羽釜	(25.8) ・ — ・ —	口縁～胴部	ヘラナデ、指頭痕	ハケメ、ナデ、指頭痕	明赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母、小礫多)	良	調整はやや粗雑、内外面とも強く被熱し器面の赤褐色化が顕著、内面の摩滅非常に顕著
SI6	55	16	土師器	甕か鉢	— ・ (14.7) ・ —	底部	ナデ	ナデ	外：灰黄褐色　内：にぶい赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、小礫多、金色雲母)	良	内外面とも強く被熱、特に外面は灰褐色化しヒビ割れ顕著
SI6	55	17	土師器	羽釜か	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	黒褐色	やや粗(白色粒子多、黒・赤色粒子、金色雲母)	良	やや軟質、内外面とも被熱し摩滅やや顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI6	55	18	須恵器	壺	— ・ — ・ —	胴部	回転ナデ	回転ナデ	灰色 釉：灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面の摩滅等はほとんどみられない、ヨゴレはやや顕著
SI7	55	1	土師器	坏	(13.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内面のみ摩滅やや顕著
SI7	55	2	土師器	皿	(10.8) ・ 5.1 ・ 2.6	口縁～底部	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面ともやや強く被熱し器面の赤褐色化・摩滅顕著、内面はスス状ヨゴレ顕著
SI8	55	1	土師器	坏	15.9 ・ 7.3 ・ 5.7	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母、石英)	良	口縁部の一部を打ち欠く、内外面のヨゴレは若干みられるがほとんど使用痕跡なし
SI8	55	2	土師器	坏	(15.0) ・ (5.2) ・ 5.2	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ、ミガキ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内外面の使用痕はあまり顕著ではないが被熱を受け変色・ヨゴレが顕著
SI8	55	3	土師器	坏	(15.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(黒・赤・白色粒子、雲母)	良	内外面部分的にスス状ヨゴレ顕著
SI8	55	4	土師器	皿(灯明具)	12.5 ・ 3.2 ・ 2.8	完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	やや粗(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	つくりはやや雑、やや強く被熱する、内外面スス状ヨゴレ・器面の変色顕著、油煙は厚くタール状に付着
SI8	55	5	土師器	皿(灯明具)	(11.8) ・ 4.8 ・ 2.8	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	にぶい黄橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	つくりは雑、内面タール状油煙顕著、内外面の荒れ・変色・スス状ヨゴレ顕著
SI8	55	6	土師器	皿	(14.0) ・ (6.0) ・ 2.3	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、石英、小礫少)	良	胎土マーブル状、整形雑、内外面のヨゴレおよび底部内面の摩耗やや顕著
SI8	56	7	土師器	坏	— ・ 4.4 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子、雲母)	良	やや強く被熱をうける、内外面の摩滅顕著
SI8	56	8	土師器	皿か	— ・ (4.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	灰褐色	やや粗(赤・白色粒子、雲母、石英ややや多)	良	やや粗雑なつくり、被熱のためか内外面の変色・ヨゴレ顕著
SI8	56	9	土師器	坏	— ・ (6.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	強く被熱し内外面の荒れ顕著、内面の一部が黒変化している
SI8	56	10	土師器	坏	— ・ (5.4) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、石英)	良	内面の変色・摩耗顕著
SI8	56	11	土師器	坏	— ・ (5.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	密(赤・白・黒色粒子、石英、小礫少)	良	内外面の摩滅やや顕著、内面のシミ状ヨゴレ顕著
SI8	56	12	土師器	坏	— ・ (5.2) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・黒・白色粒子)	良	弱く被熱をし内外面の摩耗・摩滅あまり顕著ではない
SI8	56	13	土師器	坏	— ・ (6.2) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・黒・白色粒子、雲母)	良	弱く被熱をし内外面の摩滅やや顕著
SI8	56	14	土師器	坏	— ・ (8.1) ・ —	体部～底部	ナデ、ミガキ 底部ナデ、ミガキ、暗文	暗文	外：明赤褐色　内：橙色	密(白・赤色粒子)	良	外面強く被熱し赤褐色化ないし剥離
SI8	56	15	土師器	脚高高台皿か	— ・ 8.6 ・ —	皿底部～脚部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	つくりは丁寧だが軟質、内外面の摩滅やや顕著、身部底部外面薄く黒ずむ
SI8	56	16	灰釉陶器	埦	(15.0) ・ — ・ —	口縁～体部部	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	釉ツケ掛け、内面全体に釉飛散、内外面ともヨゴレやや顕著
SI8	56	17	灰釉陶器	埦	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子)	良	体部内面に釉飛散、内外面ともヨゴレやや顕著
SI8	56	18	灰釉陶器	埦	— ・ 7.8 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り、ナデ、付高台	回転ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内面のヨゴレ顕著、割れ口端部に油煙が付着していることから灯明具として二次転用された可能性が強い、高台部端部には棒状圧痕
SI8	56	19	灰釉陶器	埦	— ・ 6.2 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り、付高台	回転ナデ	灰白色	やや粗(白色粒子、小礫)	良	やや雑なつくり、釉は内面のみ、内面の黒ずみ状ヨゴレやや顕著
SI8	56	20	土師器	片口鉢(内黒土器)	(21.4) ・ (10.0) ・ 9.9	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内外面被熱のため変色・荒れ顕著、内面は黒色処理を施すが摩耗・摩滅はほとんど認められない
SI8	56	21	土師器	蓋	— ・ (13.0) ・ 2.6	口縁～体部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	被熱のため内外面の変色および荒れ顕著
SI8	56	22	土師器	蓋	(14.0) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内面の摩耗やや顕著、器面の一部剥離
SI8	56	23	土師器	甕	(26.6) ・ — ・ —	口縁部	ハケメ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母、小礫多)	良	内外面とも摩滅顕著
SI8	56	24	土師器	甕	(27.4) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ハケメ、ナデ	外：褐色 内：明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母)	良	外面スス状ヨゴレ顕著
SI8	56	25	土師器	甕	(27.4) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母、小礫)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SI8	56	26	土師器	甕	(28.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・スス付着顕著
SI8	56	27	土師器	甕	(30.8) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも強く被熱し器面の荒れ・変色・ススの付着顕著
SI8	56	28	土師器	甕	(31.4) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、指頭痕	明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母多)	良	内外面とも強く被熱し器面の荒れ・変色・ススの付着非常に顕著
SI8	57	29	土師器	羽釜	(29.4) ・ — ・ —	口縁～鍔部	ハケメ、ナデ	ハケメ	明赤褐色	密(白・黒・赤色粒子、雲母多、小礫)	良	内外面とも被熱顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI8	57	30	土師器	小形甕	(13.6) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ナデ	明褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母)	良	被熱顕著、焼土付着顕著
SI8	57	31	土師器	小形甕	(17.2) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	褐色	密(白・黒色粒子、雲母)	良	外面の荒れ顕著
SI8	57	32	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ、指頭痕	赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母多)	良	内面の指頭調整痕顕著、内外面とも強く被熱し器面の変色・荒れ顕著
SI8	57	33	土師器	甕	— ・ (7.8) ・ —	胴部～底部	ハケメ 底部繊維状圧痕	ハケメ	外：にぶい黄褐色 内：橙色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内外面の摩滅顕著、細いハケメ、底部には木葉痕ではなく繊維状圧痕
SI8	57	34	土師器	甕	— ・ (10.2) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ナデ 底部木葉痕	ハケメ、ナデ	にぶい赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母、1～3㎜位の小礫多)	良	内外面の摩滅顕著
SI8	57	35	土師器	甕	— ・ (9.2) ・ —	胴部～底部	ハケメ	ハケメ	明赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母、1～2㎜の小礫多)	良	内外面とも被熱し器面の荒れ・摩滅も顕著
SI8	57	36	土師器	甕	— ・ (9.2) ・ —	胴部～底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ	橙色	密(白・黒・赤色粒子、雲母、2～3㎜の少礫多)	良	内外面とも被熱し器面の荒れ顕著、底部木葉痕のほか種子状圧痕あり
SI8	57	37	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	ナデ、ハケメ	ハケメ	にぶい赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母、小礫)	良	内面の摩滅顕著
SI8	57	38	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母多)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・荒れ顕著
SI8	57	39	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母多)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色顕著
SI8	57	40	土師器	カマド形	— ・ — ・ —	炊き口部	ハケメ、ナデ	ハケメ	橙色	密(白・黒・赤色粒子、雲母、小礫)	良	内外面とも被熱顕著、内面は摩滅も顕著
SI8	57	41	須恵器	壺か	(21.8) ・ — ・ —	口縁部	回転ナデ	回転ナデ	灰色 釉：オリーブ灰色	密(白色粒子)	良	摩耗・摩滅ともほとんど認められない
SI8	57	42	須恵器	長頸壺	— ・ — ・ —	頸部	回転ナデ	回転ナデ	釉：オリーブ灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも釉の付着顕著
SI8	57	43	須恵器	甕か壺 (刻書土	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ、線刻	灰白色	密(黒・白色粒子)	良	内面に線刻あり、とくに使用痕は認められない
SI8	57	44	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ、タタキ	灰色	密(白色粒子多、赤色粒子)	良	ナデ・タタキは残るが内面全体摩耗顕著、二次転用された可能性大
SI8	58	45	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ヘラナデ	ヘラナデ	外：にぶい褐色　内：にぶい赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、小礫)	良	外面強く被熱し器面の荒れ顕著、内面の摩滅も顕著
SI8	58	46	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	外：暗灰色 内：褐灰色	密(白色粒子多、赤色粒子)	良	外面摩耗やや顕著、内面には使用痕跡なし
SI9	58	1	土師器	坏	(11.3) ・ 5.0 ・ 3.3	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	にぶい黄橙色	やや粗(白色粒子、雲母微、赤色粒子微)	やや不良	軟質、内外面とも被熱し器面の変色・摩滅非常に顕著
SI9	58	2	土師器	皿	(12.0) ・ (5.2) ・ 2.6	口縁～底部	回転ナデ、ヘラナデ底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白色粒子、赤色粒子微、雲母微)	やや良	内外面とも被熱しスス状ヨゴレ顕著、内面の摩滅顕著
SI9	58	3	土師器	小皿	9.3 ・ 4.4 ・ 2.7	4/3残存	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り	回転ナデ	明褐色	やや密(白色粒子、赤色粒子微、雲母微)	やや良	内外面とも強く被熱し器面の変色・スス状ヨゴレ顕著
SI9	58	4	土師器	小皿	9.4 ・ 4.0 ・ 2.3	4/3残存	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白色粒子、雲母微、赤色粒子微)	やや良	器形の歪み顕著、やや軟性、内外面とも被熱し摩滅顕著
SI9	58	5	土師器	坏か皿	— ・ (6.1) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラナデ底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	粗(白色粒子多、雲母微、赤色粒子微、小礫)	不良	やや軟質、内外面とも被熱し摩滅非常に顕著
SI9	58	6	土師器	脚高高台坏か	— ・ (7.4) ・ —	底部～脚部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	暗赤褐～明赤褐色	密(赤色粒子、雲母微)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・スス状ヨゴレ非常に顕著
SI9	58	7	灰釉陶器	埦	(16.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	黒褐～黄灰色	やや粗(白・黒色粒子、小礫)	良	内外面とも灰色に変色
SI9	58	8	灰釉陶器	埦	— ・ (7.2) ・ —	体部～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ、付高台	回転ナデ	灰白色	やや粗(白・黒色粒子、小礫少)	良	器面破裂、釉ツケ掛け、内外面とも黒ずみ状ヨゴレ顕著、底部内面中央付近に敲打痕らしき浅い凹凸がみられる、二次転用によるものか
SI9	58	9	土師器	羽釜	(22.2) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	暗褐～明褐色	やや粗(白色粒子多、金色雲母、黒色粒子、小礫)	やや良	やや雑なつくり、内外面とも強く被熱する、内外面とも胴下半分の器面の荒れ剥落顕著
SI9	58	10	土師器	鉢	— ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ	ハケメ、ヘラナデ	暗赤褐～赤褐色	密(白色粒子多、雲母微、黒色粒子微、小礫)	やや良	内外面とも被熱し外面の摩滅非常に顕著
SI9	58	11	土師器	羽釜	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ	ハケメ、ヘラナデ	外：赤褐色 内：褐色	密(白・黒色粒子、雲母微)	良	内外面とも被熱し外面の摩滅顕著、鍔部は剥がれる
SI9	58	12	須恵器	把手か	— ・ — ・ —	把手部	沈線、ナデ	ナデ	外：暗オリーブ色 内：暗灰黄色	密(白色粒子)	良	丁寧なつくり、黒ずみ状ヨゴレやや顕著
SI9	58	13	須恵器	壺か甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	タタキ、ナデ	外：明オリーブ灰色 内：灰オリーブ色	密(白・黒色粒子)	良	
SI9	58	14	須恵器	壺	— ・ — ・ —	胴部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SI9	58	15	灰釉陶器	長頸壺	— ・ — ・ —	頸部	回転ナデ	回転ナデ	暗オリーブ色 釉：灰オリーブ色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも黒ずみ状ヨゴレやや顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI10	59	1	土師器	脚高高台皿	11.0 ・ 6.9 ・ 4.3	略完形	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	にぶい褐～暗褐色	やや密(白色粒子多、赤色粒子微)	やや良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SI10	59	2	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ (9.2) ・ —	底部～脚部	回転ナデ、ヘラナデ 底部回転ナデ、ヘラナデ	回転ナデ、ヘラナデ	橙色	やや粗(白色粒子多、雲母少、赤色粒子少)	やや不良	やや軟質、内外面とも被熱しスス状ヨゴレ顕著、身部内面の摩滅非常に顕著
SI10	59	3	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色 底部：褐色	やや粗(白・赤色粒子、雲母微)	やや良	内外面とも被熱し器面の荒れスス状ヨゴレ非常に顕著
SI10	59	4	土師器	小皿	— ・ (4.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：明黄褐色 内：にぶい黄橙色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子)	不良	軟質、内外面の摩滅非常に顕著
SI10	59	5	土師器	坏か皿	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	やや良	内外面とも摩滅しスス状ヨゴレ・内面の摩滅顕著
SI10	59	6	土師器	高台坏	— ・ (5.5) ・ —	体部～底部	回転ナデ、付高台	—	明赤褐色	粗(白色粒子多、赤色粒子)	不良	軟質、内外面とも被熱し摩滅非常に顕著
SI10	59	7	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ — ・ —	底部	回転ナデ、ハケメ 底部回転ナデ、ナデ	回転ナデ	明黄褐色	やや粗(白・赤色粒子、雲母)	やや不良	軟質、内外面の摩滅非常に顕著、身部割れ口故意に磨って調整している可能性あり
SI10	59	8	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ — ・ —	底部	回転ナデ、ハケメ 底部回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(白色粒子、黒色粒子微、雲母微)	やや良	内外面とも被熱しスス状ヨゴレ顕著、内面は摩滅も顕著
SI10	59	9	土師器	高台坏か	— ・ (7.5) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ヘラケズリ、付高台	暗文	外：にぶい橙色 内：橙色	密(白・赤色粒子少、雲母少)	良	内外面とも被熱し特に底部外面はスス付着により黒色化している
SI10	59	10	土師器	坏	— ・ — ・ —	底部	ヘラケズリ、ミガキ	ミガキ	外：浅黄橙～褐灰色 内：黄橙色	密(雲母微)	良	内外面とも被熱し特に外面は器面の黒変・荒れが顕著
SI10	59	11	灰釉陶器	段皿	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	灰白色	密(白色粒子微)	良	内外面とも割れ口まで及ぶスス状ヨゴレ顕著
SI10	59	12	灰釉陶器	皿か	— ・ (6.4) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ、付高台	回転ナデ	灰白色	密(白色粒子微)	良	内外面とも割れ口まで及ぶスス状ヨゴレ顕著
SI10	59	13	灰釉陶器	埦か皿	— ・ 3.7 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	灰白～灰オリーブ色	密(白色粒子多、黒色粒子微)	良	内外面スス状ヨゴレやや顕著
SI10	59	14	土師器	鉢	— ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ	外：明褐～黒色 内：明褐～褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母多)	良	内外面とも被熱し外面へのススの付着・器面の荒れ顕著
SI10	59	15	土師器	鉢	— ・ (18.9) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ヘラナデ 底部ヘラケズリ	ヘラナデ	赤褐色	やや粗(白色粒子多、金色雲母少、黒色粒子少)	良	内外面とも強く被熱し特に外面の荒れ顕著
SI10	59	16	須恵器	壺か	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ	暗オリーブ褐色	密(白・黒色粒子)	良	内面スス状ヨゴレ顕著
SI10	59	17	灰釉陶器	壺	— ・ — ・ —	肩部	回転ナデ	回転ナデ	外：暗灰黄色 内：灰白～黄灰色	密(白色粒子)	良	内外面スス状ヨゴレ顕著
SI11	59	1	土師器	坏	(17.1) ・ 6.5 ・ 4.5	口縁～底部	回転ナデ、ヘラナデ 底部ヘラナデ	回転ナデ	橙～にぶい褐色	粗(赤色粒子、白色粒子微、雲母微、小礫)	やや良	軟質、雑なつくり、内外面とも強く被熱しスス状ヨゴレ・摩滅顕著
SI11	59	2	土師器	脚高高台皿	(10.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	外：明褐色 内：明赤褐色	粗(白色粒子多、黒色粒子)	やや不良	軟質、内外面とも被熱し摩滅顕著
SI11	59	3	土師器	鉢	(22.4) ・ — ・ —	口縁～胴部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(赤色粒子やや多、白色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色・摩滅やや顕著
SI11	59	4	土師器	坏	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや密(白色粒子、赤色粒子微、雲母微)	やや良	内外面とも被熱し器面の変色・スス状ヨゴレ・摩滅やや顕著
SI11	59	5	土師器	坏	— ・ (5.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(赤・白・黒色粒子)	やや良	やや軟質、内外面とも被熱し摩滅顕著
SI11	59	6	土師器	脚高高台皿か	— ・ — ・ —	体部～脚部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子、金色雲母)	やや良	やや軟質、内外面とも被熱しヨゴレ・摩滅顕著
SI11	59	7	土師器	甕	25.6 ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ヘラナデ	赤褐～暗赤褐色	密(白色粒子、雲母、黒色粒子微)	良	内外面とも被熱し口縁部外面の器面の荒れ顕著
SI11	59	8	土師器	鉢か甕	— ・ 6.9 ・ —	胴部～底部	ハケメ、ナデ 底部繊維状圧痕	ナデ	外：明赤褐色 内：褐色	やや粗(白色粒子多、小礫多、黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し器面の変色・摩滅顕著
SI11	60	9	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	暗褐～黒色	やや粗(白色粒子多、金色雲母多)	やや良	内外面とも被熱し外面のススの付着非常に顕著
SI12	60	1	土師器	皿	10.2 ・ 5.2 ・ 2.0	口縁～底部	回転ナデ 底部糸切りか	回転ナデ	橙色	密(白・赤色粒子、金色雲母)	良	やや軟質、内外面とも被熱し器面の変色・スス状ヨゴレやや顕著
SI12	60	2	土師器	皿	(10.2) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(白・赤色粒子微、金色雲母少)	やや良	内外面とも被熱し器面の変色・摩滅顕著
SI12	60	3	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(白・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著
SI12	60	4	土師器	皿か	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	ヘラナデか 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(赤・白色粒子微)	良	内外面とも被熱し器面の変色・スス状ヨゴレやや顕著
SI12	60	5	土師器	脚高高台皿か坏	— ・ — ・ —	底部～脚部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	橙色	やや粗(白・黒・赤色粒子)	やや不良	やや軟質、内外面とも強く被熱し器面の変色・摩滅顕著
SI12	60	6	灰釉陶器	埦か	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ、付高台	回転ナデ	灰白色	密(白色粒子微)	良	内外面の黒ずみ状ヨゴレ顕著、高台部端部は細かく欠けている、底部内面は比較的滑らか
SI12	60	7	土師器	鉢	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ、ヘラナデ、指頭痕	外：明褐色 内：橙色	密(白色粒子、金色雲母)	良	内外面とも強く被熱し摩滅顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI12	60	8	土師器	羽釜	— ・ — ・ —	鍔部	ナデ	ハケメ	褐色	やや粗(白色粒子多、金色雲母)	良	内外面とも摩滅顕著
SI12	60	9	土師器	壺か	— ・ (8.0) ・ —	胴部～底部	ヘラケズリ 底部木葉痕	ハケメ、ナデ	外：明赤褐色 内：赤褐色 底：黒褐色	密(白色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著
SI12	60	10	須恵器	壺か甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ハケメ、ナデ	外：青灰色 内：灰色	密(白色粒子)	良	内外面に摩耗痕あり、外面には斜位に擦痕状の摩耗痕・タタキ目・全体も摩耗
SI12	60	11	須恵器	壺	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ハケメ	外：赤黒～赤色 内：褐灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面に摩耗痕跡はみられない、内外面に黒彩痕跡あり
SI13	60	1	土師器	坏	13.9 ・ 6.0 ・ 4.8	完形	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・黒・赤色粒子)	良	やや軟質、内外面とも強く被熱し器面の変色・剥離顕著、油煙がタール状に厚く付着、口唇部を一箇所故意に打ち欠く、底部外面の摩滅顕著
SI13	60	2	土師器	坏	(12.4) ・ (5.6) ・ 3.5	1/3残	回転ナデ、ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	褐色	密(黒・白・赤色粒子)	良	内外面とも被熱し油煙状スス付着・器面の変色顕著、内面は口縁部付近が帯状に器面変色しており液体等が入ったまま被熱した可能性が高い
SI13	60	3	土師器	坏	13.1 ・ 6.0 ・ 3.8	略完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り	回転ナデ	明黄褐色	密(黒・白・赤色粒子)	良	内外面とも被熱し外面の器面の変色が顕著、摩滅はあまりみられない
SI13	60	4	土師器	坏	(12.9) ・ (7.0) ・ 2.9	口縁～底部	回転ナデ、ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	灰褐色	密(白・黒・赤色粒子、小礫)	良	内外面とも摩滅等あまりみられない
SI13	60	5	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	にぶい黄褐色	密(白・黒・赤色粒子)	良	やや軟質、内外面とも被熱し摩滅やや顕著
SI13	60	6	土師器	坏か	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子)	良	やや軟質、内外面とも被熱し器面の摩滅顕著
SI13	60	7	土師器	坏か	— ・ (7.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切りか	回転ナデ	赤褐色	密(白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色・摩滅顕著
SI13	60	8	土師器	坏	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：にぶい黄橙色 内：明赤褐色	密(黒・白・赤色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著、黒ずみ状ススヨゴレやや顕著
SI13	60	9	土師器	坏(内黒土器)	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：橙色 内：黒褐色	密(黒・白色粒子)	良	内面黒色処理、内外面とも被熱し外面ススス状ヨゴレやや顕著
SI13	60	10	土師器	坏	— ・ (7.0) ・ —	底部	回転ナデ、ミガキ 底部ヘラケズリ、ミガキ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも弱く被熱し摩滅などはあまりみられない
SI13	61	11	土師器	羽釜	— ・ — ・ —	口縁～鍔部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し外面の器面の変色・ヨゴレ顕著
SI13	61	12	土師器	羽釜	— ・ — ・ —	鍔部	回転ナデ	ハケメ	明赤褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SI13	61	13	土師器	カマド形	— ・ — ・ —	底部	ハケメ、ナデ	ナデ	外：黒色 内：褐色	密(黒・白・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し外面はススの付着、内面は器面の変色顕著
SI13	61	14	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	外：灰赤色 内：にぶい黄褐色	密(黒・赤・白色粒子、小礫)	良	内面全体滑らか、黒ずみ範囲も認められる、二次転用されたか
SI13	61	15	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	外：にぶい黄褐色 内：灰黄褐色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SI13	61	16	灰釉陶器	壺	— ・ — ・ —	胴部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	
SI13	61	17	平瓦	—	— ・ — ・ —	—	布目、ヘラケズリ	縄タタキ	橙色	密(白・黒・赤色粒子、小礫)	良	内外面および割れ口にかけて被熱
SI14	61	1	土師器	坏(灯明具)	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	油煙付着顕著、内外面とも器面の荒れ顕著
SI14	61	2	土師器	坏か	— ・ (5.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	にぶい橙色	やや密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	軟質、内外面とも摩滅非常に顕著
SI14	61	3	土師器	坏か	— ・ (5.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切りか	回転ナデ	橙色	密(赤・黒・白色粒子、雲母)	良	やや軟質、内外面とも摩滅顕著、内面ススス状ヨゴレやや顕著
SI14	61	4	土師器	坏	— ・ (6.4) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも弱く被熱し内面の摩滅やや顕著
SI14	61	5	土師器	坏	— ・ (8.0) ・ —	体部～底部	ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(赤・白・黒色粒子、小礫)	良	内外面とも強く被熱し摩滅顕著
SI14	61	6	土師器	坏	— ・ — ・ —	底部	底部回転糸切り	回転ナデ、線刻	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも弱く被熱、底部外面穿孔
SI14	61	7	土師器	小皿	— ・ 3.9 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	灰黄褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SI14	61	8	土師器	皿か(刻書土器)	— ・ (5.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	良	底部穿孔、底部内面に線刻あり、底部内面はかなり摩耗、薄く黒ずみもみられる、内外面とも弱く被熱
SI14	61	9	土師器	柱状高台坏か皿	— ・ (4.1) ・ —	坏(皿)底部～高台部	—	—	にぶい黄橙色	やや密(白・赤・黒色粒子)	良	軟質、内外面とも摩滅非常に顕著
SI14	61	10	土師器	柱状高台皿か	— ・ — ・ —	皿底部～高台部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	灰黄褐～褐灰色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	やや軟質、内外面とも摩滅顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI14	61	11	土師器	柱状高台坏か皿	— ・ (8.2) ・ —	坏(皿)底部～高台部	ナデ 底部回転糸切り	ナデ	明赤褐色	やや粗(赤・白・黒色粒子、小礫)	良	内外面(割れ口も含む)とも強く被熱し摩滅顕著
SI14	61	12	緑釉陶器	埦	— ・ (7.4) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ、付高台	回転ナデ、ミガキ	灰色 釉：オリーブ灰色	密(白・赤色粒子)	良	割れ口断面の黒ずみ顕著
SI14	61	13	土師器	甕	(27.2) ・ — ・ —	口縁部	ナデ	ハケメ	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し外面の荒れ内面のススの付着顕著
SI14	61	14	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ナデ、ハケメ	ハケメ	にぶい赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SI14	61	15	土師器	羽釜	— ・ — ・ —	鍔部	ヘラケズリ、ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母、1～3㎜の小礫)	良	
SI14	62	16	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ	灰オリーブ色 釉：オリーブ黒～灰オリーブ色	密(白・黒色粒子、小礫)	良	破片全体の黒ずみ顕著
SI14	62	17	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	外：暗褐色 内：褐灰色	密(白・黒・赤色粒子)	良	外面鉄釉風、内面に黒彩状の痕跡残るがカスレ顕著
SI14	62	18	須恵器	甕か	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	灰色	密(白・黒・赤色粒子)	良	外面の摩滅やや顕著
SI15	62	1	土師器	坏	(10.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	良	体内に繊維状暗文あり、内外面弱く被熱し摩滅やや顕著
SI15	62	2	土師器	坏	(12.2) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	良	内外面ともヨコレやや顕著だが摩滅・摩耗はあまりみられない
SI15	62	3	土師器	坏	(14.2) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、暗文	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	良	外面のヨコレやや顕著だが摩耗・摩滅はあまりみられない
SI15	62	4	土師器	皿	(14.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(赤・黒・白色粒子)	良	内外面とも強く被熱し特に外面は器面の変色・摩滅とも顕著
SI15	62	5	土師器	坏か	— ・ 4.8 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母)	良	軟質、内外面とも被熱し摩滅および内面の変色顕著
SI15	62	6	土師器	坏	— ・ — ・ —	底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・黒・赤色粒子)	良	軟質、内外面とも被熱し摩滅および器面の変色顕著
SI15	62	7	土師器	坏	— ・ (6.2) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	良	雑なつくり、内外面とも強く被熱し内面は器面の剥落・摩滅顕著
SI15	62	8	土師器	坏	— ・ (7.2) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ、ミガキ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	外面強く被熱し器面の変色・剥離非常に顕著、底部内面の摩耗顕著
SI15	62	9	土師器	高台坏	— ・ (8.4) ・ —	体部～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ、付高台(ケズリ調整)	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも弱く被熱し摩滅・ヨコレ顕著
SI15	62	10	土師器	埦	— ・ (8.4) ・ —	底部	回転ナデ 底部回転ヘラケズリ、付高台(ケズリ調整)	回転ナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色顕著、摩滅も非常に顕著
SI15	62	11	土師器	埦か	— ・ (7.4) ・ —	体部～底部	ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	軟質、内外面とも被熱し摩滅および器面の変色顕著
SI15	62	12	土師質	柱状高台坏か皿	— ・ (8.4) ・ —	体部～高台部	底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	やや軟質、内外面とも強く被熱し摩滅および器面の変色顕著
SI15	62	13	土師器	小形甕	(16.2) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい赤褐色	やや粗(金色雲母多、白・黒色粒子)	良	内外面とも器面の荒れ・摩滅顕著
SI15	62	14	土師質	鉢か埦	— ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ	ナデ、指頭痕	灰黄褐色	密(白色粒子、石英多、雲母)	良	内外面とも被熱し外面のスス状ヨコレ顕著
SI15	62	15	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	にぶい赤褐色	やや粗(金色雲母多、白・黒・赤色粒子)	良	内面の荒れ・摩滅顕著
SI15	62	16	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ、指頭痕	明赤褐色	やや粗(金色雲母多、白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色顕著
SI15	62	17	土師器	カマド形	— ・ — ・ —	底部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し内面の荒れ・外面のスス状ヨコレ顕著
SI15	62	18	土師器	カマド形	— ・ (40.6) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ヘラナデ	ヘラナデ	橙色	やや粗(白色粒子多・黒、赤色粒子)	良	硬質、丁寧なつくり、内外面とも強く被熱し器面の変色・内面の荒れ・ス状ヨコレ顕著
SI15	63	19	須恵器	蓋	— ・ (15.8) ・ —	体部～口縁	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密(白色粒子多、黒・赤色粒子)	良	外面の黒ずみ状ヨコレおよび摩滅やや顕著
SI15	63	20	須恵器	壺	(16.0) ・ — ・ —	口縁部	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密(白色粒子多、黒・赤色粒子)	良	内外面とも黒ずみ状ヨコレやや顕著
SI15	63	21	須恵器	壺か甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ハケメ	灰色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも摩耗・摩滅ともあまりみられない
SI15	63	22	須恵器	壺	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ヘラナデ	灰オリーブ色 釉：灰オリーブ色	やや粗(黒・白・赤色粒子、小礫)	良	内外面とも黒ずみ状ヨコレやや顕著
SI15	63	23	土製品	焼成粘土塊	— ・ — ・ —	—	—	—	明赤褐色	粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母、1～3㎜位の小礫)	良	軟質、強く被熱し内外面とも繊維状に圧痕および小舞状圧痕顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI15	63	24	土製品	焼成粘土塊	— ・ — ・ —	—	—	—	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	やや不良	軟質、強く被熱し内外面とも繊維状に圧痕および小舞状圧痕顕著
SI16	63	1	土師器	坏(内黒土器)	(15.4) ・ (7.0) ・ 5.5	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：明赤褐色 内：黒色	密(白色粒子)	良	内面黒色処理、内外面とも摩滅はあまりみられないがスス状ヨゴレは顕著
SI16	63	2	土師器	坏	(11.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	密(白色粒子)	良	内外面とも被熱し摩滅はあまりみられない
SI16	63	3	土師器	坏	(12.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	密(白色粒子)	良	内外面とも被熱し摩滅はあまりみられない
SI16	63	4	土師器	坏	(11.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	外：明赤褐色 内：にぶい褐色	やや粗(白色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色・摩滅顕著
SI16	63	5	土師器	坏	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(赤・白色粒子)	良	内外面とも油煙状スス付着顕著、外面摩滅やや顕著
SI16	63	6	土師器	坏	— ・ (4.2) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	密(白色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色・ヨゴレ顕著、摩滅はあまりみられない
SI16	63	7	土師器	坏	— ・ (5.4) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：明赤褐色 内：にぶい褐色	緻密(赤色粒子、雲母少)	良	内外面とも被熱し器面の変色・スス状ヨゴレやや顕著、摩滅はあまりみられない
SI16	63	8	土師器	皿	— ・ 5.6 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	にぶい褐～灰黄褐色	やや粗(赤・白色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色・摩滅顕著、特に内面は部分的に黒変化している
SI16	63	9	土師器	坏	— ・ (5.4) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(赤・白色粒子、雲母少)	良	内外面とも被熱し器面の変色・摩滅顕著
SI16	63	10	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：橙色 内：にぶい褐色	やや粗(白色粒子、雲母少)	良	内外面とも被熱し外面の器面の荒れ顕著、内面はスス状ヨゴレ顕著
SI16	63	11	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(赤色粒子多、白色粒子)	良	胎土マーブル状、内面の黒ずみやや顕著、器面の摩滅はあまりみられない
SI16	63	12	土師器	高台坏	— ・ (7.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ミガキ 底部回転糸切り、回転ヘラケズリ、付高台(ケズリ調整)	回転ナデ、暗文	明赤褐色	緻密(赤・白色粒子)	良	内面および高台端部摩滅顕著
SI16	63	13	土師質	脚高高台皿	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	密(白・黒色粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SI16	63	14	土師質	脚高高台坏か皿	— ・ — ・ —	坏(皿)底部～脚部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(黒・白・赤色粒子)	良	内面のスス状ヨゴレやや顕著
SI16	63	15	土師質	脚高高台坏か皿	— ・ — ・ —	坏(皿)底部～脚部	回転ナデ 底部ナデ	回転ナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SI16	63	16	土師器	甕	(26.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	外：黒褐色 内：にぶい赤褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	外面の器面の荒れやや顕著
SI16	63	17	土師器	鍋か	— ・ — ・ —	胴部	ヘラナデ	ナデ	外：黒褐色 内：褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内面の摩滅非常に顕著、外面は丁寧なナデを施す
SI16	63	18	土師器	釜か	— ・ — ・ —	胴部	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	褐色	密(黒・白・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも摩滅顕著
SI16	63	19	土師器	釜か	— ・ — ・ —	胴部	ヘラケズリ	ナデ	にぶい赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SI16	63	20	須恵器	甕	— ・ — ・ —	底部	タタキ	ナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SI16	63	21	須恵器	壺か	— ・ — ・ —	肩部	回転ナデ	ハケメ、ナデ	灰色	密(白色粒子、小石少)	良	内外面とも摩滅・摩耗痕跡はほとんどみられない
SI16	63	22	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部破片	タタキ	ハケメ	外：灰色 内：黄灰色	密(白色粒子少)	良	内外面および側面の一部(二面)に摩耗痕跡あり、内面は非常に滑らか、二次転用の可能性大
SI17	64	1	土師器	坏	10.8 ・ 5.0 ・ 4.2	略完形(97ｇ)	回転ナデ、ヘラケズリリズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	外：橙色 内：明赤褐色	密(赤色粒子少、雲母微、黒・白色粒子微)	良	口縁部の一部をわずかに欠く、内外面の摩滅はほとんどみられないが底部内外面のスス状ヨゴレやや顕著
SI17	64	2	土師器	坏	(10.6) ・ (5.8) ・ 4.0	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤色粒子少、雲母微)	良	内外面とも被熱し器面の変色・スス状ヨゴレ顕著、口縁部の内外面の摩滅顕著
SI17	64	3	土師器	坏(灯明具)	11.2 ・ 4.9 ・ 4.5	4/3残存	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り	回転ナデ、暗文	外：橙～黒褐色 内：にぶい黄褐～黒色	密(白色粒子多、雲母少、赤色粒子微)	良	やや厚手なつくり、内外面とも摩滅はほとんどみられなが内外面とも油煙・ススの付着が顕著、灯明具
SI17	64	4	土師器	坏(灯明具か)	11.1 ・ 5.0 ・ 4.3	略完形(86ｇ)	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	外：橙～黒色 内：橙～にぶい橙色	密(白色粒子少、赤色粒子微、雲母微)	良	内面の摩滅やや顕著、内面は体部下半～底部にかけてやや暗褐色化しススの付着がみられ外面にも一部ススの付着顕著、灯明具として使用された可能性強い
SI17	64	5	土師器	坏	(10.6) ・ (5.3) ・ 4.4	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、ヘラナデ	橙色	密(白色粒子、雲母、赤色粒子)	良	やや軟質、内外面とも摩滅・スス状ヨゴレ顕著
SI17	64	6	土師器	坏	11.0 ・ 5.1 ・ 4.3	4/3残存	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白色粒子、雲母、赤色粒子微)	良	器面の歪みやや顕著、やや軟質、内外面とも被熱し外面体部下半～底部外面・内面口縁部の一帯を中心に器面の荒れ、摩滅顕著、灯明に使用された可能性強い

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI17	64	7	土師器	坏	(11.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(白・赤色粒子少)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SI17	64	8	土師器	坏	(11.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(白色粒子少、赤色粒子微、雲母微、黒色粒子微)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著、口縁部内面の摩耗顕著
SI17	64	9	土師器	坏	(11.6) ・ — ・ 3.2	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(白・赤色粒子、雲母微)	良	口縁部の内外面・外面ロクロ目凸部の摩耗顕著、内外面ともスス状ヨゴレもやや顕著
SI17	64	10	土師器	坏	(11.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも被熱し器面の変色・摩滅(特に口縁部内面)・スス状ヨゴレ顕著
SI17	64	11	土師器	坏	(11.9) ・ — ・ (4.3)	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	密(赤色粒子多、白色粒子微、雲母微)	良	内面の摩耗顕著、外面のスス状ヨゴレ顕著
SI17	64	12	土師器	坏	— ・ (5.6) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤色粒子、雲母)	良	底部内面の摩耗および内外面のスス状ヨゴレ顕著
SI17	64	13	土師器	坏	— ・ (5.2) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ケズリ	回転ナデ、暗文	暗褐～黒褐色	密(赤色粒子、黒色粒子、雲母)	良	内外面ともスス付着、摩滅顕著
SI17	64	14	土師器	坏	— ・ 6.0 ・ —	底部	底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、墨痕	赤褐色	粗(赤色粒子、雲母)	やや良	内外面とも被熱し器面の赤褐色化・摩滅顕著、特に内面は使用痕とともに墨痕が認められる、体部は故意に打ち欠いた可能性あり
SI17	64	15	土師器	坏か皿	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り	暗文	外：明黄褐～褐灰色 内：明黄褐色	やや密(赤色粒子多、白色粒子微、雲母微)	やや良	内外面とも被熱し外面一部黒変化
SI17	64	16	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・白色粒子、雲母微)	良	内外面とも摩滅顕著、特に内面は摩滅とともにスス状ヨゴレ顕著
SI17	64	17	土師器	坏	— ・ (6.4) ・ —	体部～底部	ヘラナデ？ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤色粒子、雲母、白色粒子)	良	内外面とも弱く被熱し内面は器面が部分的に剥落ないしアバタ状になっている、底部外面には刺突状の工具痕あり
SI17	64	18	土師器	坏	— ・ (8.4) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	黄橙色	密(赤・黒色粒子、雲母)	良	底部内外面とも摩耗やや顕著
SI17	64	19	土師器	高台坏	— ・ (9.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ、付高台(ケズリ調整)	回転ナデ	赤褐色	密(赤色粒子、雲母)	やや良	内外面とも被熱し器面の変色・ヨゴレ顕著
SI17	64	20	土師器	坏か皿(刻書土	— ・ (8.4) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ、線刻	ヘラケズリ	にぶい黄橙色	密(赤色粒子少、雲母少)	良	底外に線刻あり、内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SI17	64	21	土師器	坏（刻書土器）	— ・ (7.2) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部線刻	回転ナデ	橙色	密(赤色粒子、雲母、黒色粒子)	良	底外線刻あり、線は浅く細い、内外面の摩耗やや顕著
SI17	64	22	土師器	坏か(墨書土器)	— ・ — ・ —	底部	ヘラケズリ 墨書	回転ナデ	橙色	密(赤色粒子)	良	底外に墨書・墨痕薄い、判読不可
SI17	64	23	須恵器	坏	— ・ (8.0) ・ —	体部～底部	ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	灰オリーブ色	密(白色粒子、黒色粒子微、雲母微)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SI17	64	24	灰釉陶器	埦	— ・ (9.8) ・ —	体部～底部	ナデ 底部回転ヘラケズリ、角高台	回転ナデ	灰白色	密(黒色粒子、雲母微)	良	内外面とも摩滅・ヨゴレ顕著、K14段階か
SI17	64	25	灰釉陶器	皿か（刻書土器）	— ・ (9.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ、線刻	回転ナデ	灰白色	密(白色粒子)	やや良	底外に線刻「×」カ、内外面の黒ずみヨゴレ顕著、内面の摩耗やや顕著、二次転用された可能性あり
SI17	65	26	土師器	蓋	— ・ — ・ —	つまみ部～体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ、暗文	回転ナデ、暗文、墨痕	橙色	密(白色粒子、雲母)	良	内面に筆先を整えたような墨痕あり
SI17	65	27	須恵器	蓋	(12.6) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密(白色粒子)	やや良	内外面ともヨゴレ顕著
SI17	65	28	須恵器	蓋	— ・ — ・ —	体部	回転ヘラケズリ	回転ナデ	外：褐色 内：灰オリーブ色	密(白色粒子多、小礫)	良	内外面とも摩耗・摩滅あまりみられない
SI17	65	29	土師器	多面形脚高坏	— ・ — ・ —	脚部	ヘラケズリ	ヘラナデ	明赤褐色	密(赤・白色粒子、雲母)	良	内外面ともやや強く被熱し外面の摩滅やや顕著
SI17	65	30	土師器	多面形脚高坏	— ・ — ・ —	脚部	ヘラナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ	橙色	密(赤色粒子、黒色粒子、雲母)	良	内外面とも弱く被熱し摩耗・摩滅はあまりみられない
SI17	65	31	土師器	甕	(32.0) ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	密(白色粒子多、金雲母少)	良	内外面とも強く被熱
SI17	65	32	土師器	小形甕	(19.7) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	暗赤褐色	密(金色雲母多、白・赤色粒子)	良	内外面とも強く被熱し内面の荒れ顕著
SI17	65	33	土師器	小形甕	(18.6) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	赤褐～黒色	やや密(金色雲母多、黒・白色粒子)	やや良	内外面とも強く被熱し外面はススの付着顕著
SI17	65	34	土師器	小形甕	(20.4) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	赤褐～黒褐色	やや密(金色雲母多、白・黒色粒子)	やや良	内外面とも強く被熱し器面の剥落顕著
SI17	65	35	土師器	甕	— ・ (8.2) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ヘラナデ 底部木葉痕	ハケメ、ヘラケズリ	外：暗赤褐色 内：橙色 底：黒色	密(金色雲母多、黒・白色粒子)	良	内外面とも被熱し外面のスス付着顕著
SI17	65	36	土師器	小形甕	— ・ (8.2) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ヘラナデ 底部木葉痕	ヘラケズリ、指頭痕	外：褐～黒色 内：明褐色	密(雲母多、白・黒色粒子)	やや良	内外面とも強く被熱し器面の荒れ顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI17	65	37	土師器	甕	— ・ (8.4) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ヘラナデ、指頭痕	ハケメ	外：暗赤褐色 内：赤褐色	密(白色粒子、金色雲母、黒色粒子少)	良	内外面とも被熱し器面の荒れやや顕著
SI17	65	38	土師器	鉢	— ・ (7.3) ・ —	胴部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	ヘラナデ	外：暗褐色 内：黒褐色	密(白色粒子、赤色粒子微、雲母微)	良	
SI17	65	39	土師器	鉢	— ・ (8.0) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラケズリ	外：褐色 内：暗褐色	密(白色粒子、金色雲母微)	良	内外面とも被熱し底面内面のスス状ヨゴレ顕著
SI17	65	40	土師器	カマド形	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：橙色 内：黒褐色	密(金色雲母多、白・黒色粒子少)	良	内外面とも被熱するが摩滅はほとんどみられない
SI17	66	41	須恵器	甕（ヘラ書土器）	— ・ — ・ —	肩部	タタキ、ヘラ書	ヘラナデ	外：暗赤褐色 内：暗青灰色	密(白色粒子)	良	外面にヘラ書あり判読不可、内面やや摩耗顕著、二次転用された可能性あり
SI17	66	42	須恵器	壺	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ	青灰色	密(黒・白色粒子)	良	内面比較的強い摩耗痕あり、その部分はヨゴレも顕著
SI17	66	43	須恵器	壺か	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	タタキ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	外面のタタキ目が極度に摩耗し内面も摩耗が顕著、二次転用された可能性大
SI17	66	44	須恵器	蓋	— ・ — ・ —	体部	回転ヘラケズリ	回転ナデ	黄灰色	密(白色粒子)	良	内外面とも摩耗・摩滅はあまり顕著ではないが内面わずかに黒ずむ範囲あり二次転用されたものか
SI17	66	45	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ	外：暗灰色 内：灰色	密(白色粒子多、黒色粒子少)	良	内外面とも摩耗・摩滅あまりみられない
SI17	66	46	縄文	深鉢	— ・ — ・ —	胴部	沈線文、浮文、浮線文	ナデ	外：暗褐色 内：暗黄灰色		良	
SI17	66	47	縄文	深鉢(土製円板)	— ・ — ・ —	胴部	沈線文、浮文、浮線文	ナデ	外：暗赤褐色 内：明赤褐色	密(雲母多、黒色粒子多、白色粒子)	良	内面の摩耗顕著、割れ口は磨っていない、古代において二次転用された可能性も考えられる
SI17	66	48	土製品	粘土塊	— ・ — ・ —	—	—	—	明赤褐色	粗(白色粒子多)	—	軟質で二次焼成うける、摩滅顕著、繊維痕やや顕著
SI17	66	49	土製品	粘土塊	— ・ — ・ —	—	—	—	にぶい橙～橙色	粗(白色粒子多、雲母微)	—	軟質で二次焼成うける、繊維痕跡顕著、摩滅顕著
SI18	66	4	土師器	坏	— ・ (9.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラナデ	回転ナデ、暗文	橙色	密(黒・白・赤色粒子)	良	内外面とも被熱し外面は体部下半部の器面が帯状に剥落し内面は底部内面を中心にスス状ヨゴレ顕著
SI18	66	2	土師器	坏	(11.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	にぶい黄橙色	密(黒・白・赤色粒子)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・スス状ヨゴレ顕著、口縁部内面の摩滅顕著
SI18	66	1	土師器	坏（刻書土器）	(10.8) ・ 5.7 ・ 4.0	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ、線刻	回転ナデ、暗文	橙色	密(黒・白・赤色粒子)	良	底部外面に線刻あり内容不明、線刻は細く浅くやや摩滅している、底部内外面のスス状ヨゴレやや顕著
SI18	66	3	土師器	坏	— ・ 5.8 ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(黒・赤・白色粒子)	良	厚手なつくり、体部上半を故意に打ち欠いている可能性あり、内外面被熱し器面の変色・スス状ヨゴレ顕著、底部内面の摩耗やや顕著、底部内面中央部敲打痕あり、一部の割れ口の摩耗も顕著
SI18	66	5	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(黒・白・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅・スス状ヨゴレやや顕著
SI18	66	6	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	密(黒・白・赤色粒子)	良	内外面とも被熱し摩滅・スス付着顕著
SI18	66	7	土師器	鉢	(18.2) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	橙色	密(黒・赤・白色粒子、雲母)	良	内外面とも被熱し内面の摩滅・口唇部内面のスス状ヨゴレやや顕著
SI18	66	8	土師器	蓋	(18.0) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	明褐色	やや粗(黒・白・赤色粒子、雲母)	良	内外面ともやや強く被熱し摩滅やや顕著、内外面とも帯状にスス付着
SI18	66	9	須恵器	蓋	— ・ — ・ —	体部	回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色	やや粗(白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも摩耗・摩滅ほとんどみられない
SI18	66	10	須恵器	蓋	(14.8) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密(黒・白色粒子)	良	内外面とも摩耗・摩滅ほとんどみられない
SI18	66	11	須恵器	蓋	(18.0) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	やや粗(白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも摩耗・摩滅ほとんどみられない
SI18	66	12	土師器	甕か壺	— ・ (12.0) ・ —	胴部～底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ	にぶい褐色	密(白・黒色粒子、雲母、角閃石)	良	外面強く被熱し器面の剥落顕著
SI18	66	13	須恵器	鉢	— ・ — ・ —	胴部	回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ色	密(白・黒色粒子)	良	外面の摩滅顕著
SI18	66	14	須恵器	長頸壺	— ・ — ・ —	頸部	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	密(白・黒・赤色粒子)	良	外面の摩滅やや顕著
SI18	66	15	須恵器	甕か	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	タタキ	外：暗灰黄色 内：灰白色	密(黒・白色粒子)	良	内外面とも摩耗・摩耗ほとんどみられない
SI18	66	16	須恵器	壺	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	タタキ、ナデ	外：黒褐色 内：灰黄色	密(黒・白色粒子)	良	内外面とも摩耗・摩耗ほとんどみられない、内面黒ずみヨゴレやや顕著
SI19	67	1	土師器	坏	(11.3) ・ (3.2) ・ 2.7	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	外：褐色 内：褐色	緻密(白・赤色粒子、雲母少)	良	内外面とも被熱し内面の変色・器面の硬化顕著、外面もススの付着顕著
SI19	67	2	土師器	坏	(11.5) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	外：褐～黒褐色 内：明赤褐色	緻密(赤・白色粒子、雲母少)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著、特に外面は黒変化し摩滅も顕著
SI19	67	3	土師器	坏	— ・ (5.4) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：にぶい赤褐色 内：灰褐色	密(白色粒子多、赤色粒子、小石)	良	内外面とも被熱し内面の変色非常に顕著、外面の摩滅痕跡はあまりみられない

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI19	67	4	土師器	カマド形	(26.2) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	明赤褐～にぶい褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母多、小石多)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・摩滅顕著
SI19	67	5	土師器	羽釜	— ・ — ・ —	鍔部	ハケメ、ナデ	ハケメ	褐～黒褐色	やや粗(白・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SI19	67	6	土師器	羽釜	— ・ — ・ —	鍔部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母、小石多)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SI19	67	7	土師器	甕	— ・ (8.0) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ナデ 底部ヘラケズリ	ナデ	明赤褐色	粗(白色粒子、金色雲母多、小石多)	良	内外面とも強く被熱し器面の荒れ顕著
SI19	67	8	土師器	甕	— ・ (7.6) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ナデ 底部木葉痕	ナデ	外：にぶい赤褐色 内：灰褐色	粗(白・黒色粒子、金色雲母多、小石多)	良	内外面とも強く被熱し器面の荒れ顕著
SI19	67	9	須恵器	壺	— ・ — ・ —	肩部	タタキ、施釉	当て具痕	外：灰オリーブ色 内：黒褐色	緻密(白色粒子少)	良	内外面とも被熱し内面ス状ヨゴレ非常に顕著
SI20	67	1	土師器	坏	12.4 ・ 5.7 ・ 3.7	略完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも使用痕跡は希薄だが体部上半と下半との器面色が異なっているが顕著
SI20	67	2	土師器	坏	13.8 ・ 5.0 ・ 4.05	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・黒・白色粒子)	良	内外面とも使用痕跡は希薄
SI20	67	3	土師器	坏	(11.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	良	やや軟質、つくりもやや雑、内外面とも摩滅やや顕著
SI20	67	4	土師器	坏	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	外面の摩滅やや顕著
SI20	67	5	土師器	坏(墨書土器)	(13.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ、墨書	回転ナデ	橙色	密(白・黒・赤色粒子)	良	体外に墨書（墨痕）あり、内外面ともにス状ヨゴレ顕著
SI20	67	6	土師器	坏	(13.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも摩耗やや顕著、内面はス状ヨゴレもやや顕著
SI20	67	7	土師器	坏	(14.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内面の摩耗やや顕著
SI20	67	8	土師器	坏(内黒土器)	(15.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	明黄褐色	密(赤・黒・白色粒子)	良	内面黒色処理、口縁部端部の摩耗やや顕著
SI20	67	9	土師器	皿	— ・ (4.8) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	やや粗(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内面の摩滅およびウルシ状付着物やや顕著
SI20	67	10	土師器	坏か皿	— ・ (4.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ケズリ	回転ナデ	外：明赤褐色 内：明褐色	密(赤・白・黒色粒子)	良	胎土マーブル状、外面を中心に摩滅やや顕著
SI20	67	11	土師器	羽釜	— ・ — ・ —	鍔部	ナデ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	粗(白色粒子、雲母、黒・赤色粒子)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色顕著
SI20	67	12	土師器	カマド形	— ・ — ・ —	胴部(空気孔あり)	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	赤褐色	やや粗(白色粒子、金色雲母、黒・赤色粒子)	良	
SI20	67	13	土師器	カマド形	— ・ — ・ —	庇部	ナデ	ハケメ	明赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子)	良	
SI20	67	14	土師器	カマド形	— ・ — ・ —	庇部	ナデ	ナデ	にぶい褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母、赤色粒子)	良	ス状付着顕著
SI20	67	15	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	外：黒褐色 内：にぶい黄褐色	密(白・黒・赤色粒子)	良	外面ウルシ塗彩
SI20	67	16	灰釉陶器	壺	— ・ (9.2) ・ —	胴部～底部	回転ヘラケズリ 底部回転糸切り、回転ナデ、付高台	回転ナデ	灰白色	密(白・黒・赤色粒子)	良	やや軟質、高台端の摩耗顕著
SI20	67	17	灰釉陶器	壺	— ・ — ・ —	胴部	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	灰白色	密(黒・白色粒子)	良	内外面とも使用痕跡希薄、外面やや黒ずむ
SI21	68	1	土師器	甕か	— ・ — ・ —	胴部～底部	カキメ状ハケメ 底部カキメ状細いカキメ	回転ナデ	外：にぶい黄橙色 内：橙色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも弱く被熱し底部外面の縁辺部の摩耗顕著
SI21	68	2	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ナデ、縦位ヘラケズリ	ヘラナデ	橙色	密(白色粒子多、雲母、小礫、石英)	良	被熱の度合いは弱く内面のス状ヨゴレやや顕著
SI21	68	3	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ナデ	橙色	密(白・黒・赤色粒子、雲母、角閃石)	良	外面強く被熱し器面の変色顕著
SI21	68	4	土師器	甕か	— ・ — ・ —	胴部	ナデ、ハケメ	ヘラナデ	明黄褐色	密(白色粒子多、雲母多、小礫、石英)	良	外面の被熱やや顕著
SI21	68	5	土師器	甕か	— ・ — ・ —	胴部～底部	ハケメ、ナデ	ヘラナデ	明褐色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも強く被熱し特に外面の荒れ顕著
SI21	68	6	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	タタキ、ナデ	灰黄色	密(白・黒粒子)	良	内外面ともやや摩滅顕著だが二次転用された使用痕はみられない
SI21	68	7	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	灰黄色	密(白・黒粒子)	良	胴部内面を二次転用、破片内面のほとんどに極度の摩耗痕跡をもつ、外面のタタキ目の一部にも摩耗痕跡あり、内外面とも黒ずんだヨゴレ顕著、割れ口には摩耗痕跡なし
SI22	68	1	土師器	坏	(18.4) ・ (13.2) ・ 5.8	口縁～底部	回転ナデ、ミガキ 底部ヘラケズリ、ミガキ	回転ナデ、暗文(格子状)	橙色	密(黒・赤・白色粒子、雲母)	良	体部内には格子目状に暗文、内外面とも被熱し器面やや赤褐色化、ス状ヨゴレも顕著、底部内面摩耗顕著、底部外面縁辺部の摩滅も顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI22	68	2	須恵器	高台坏	15.0 ・ 10.6 ・ 4.3	口縁～底部	回転ナデ 底部ヘラケズリ、付高台	回転ナデ	灰黄色	密(白・黒色粒子、小礫)	良	底部内面摩耗やや顕著、底部外面中央部分の摩耗は顕著
SI22	68	3	土師器	甕か壺	— ・ — ・ —	胴部	ヘラナデ	ヘラナデ	にぶい褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母、小礫)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色顕著
SI22	68	4	土師器	甕か	— ・ — ・ —	胴部	ヘラナデ	ヘラナデ	外：黒色 内：明褐色	密(白・黒・赤色粒子、雲母、小礫)	良	内外面とも強く被熱し内面は変色・外面はススの付着が非常に顕著
SI22	68	5	土師器	甕か壺	— ・ (9.4) ・ —	胴部～底部	ヘラナデ	ヘラナデ	明赤褐色	密(白・黒・赤色粒子、雲母、角閃石)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色顕著
SI23	68	1	土師器	小皿	(8.4) ・ 4.0 ・ 3.3	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明黄褐色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母少)	良	やや軟質、内外面とも摩滅顕著
SI23	68	2	土師器	小皿か	— ・ (4.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(赤・黒・白色粒子、金色雲母少)	良	やや軟質、内外面とも被熱し器面の変色やや顕著、摩滅も顕著
SI23	68	3	土師器	小皿か	— ・ (4.0) ・ —	底部	回転ナデ 底部回転糸切り	ナデ	にぶい黄橙色	やや粗(白・黒色粒子)	良	軟質で粗雑なつくり、内外面とも摩滅顕著
SI23	68	4	土師器	坏	— ・ 4.4 ・ —	胴部～底部	回転ナデ 底部回転糸切りか	回転ナデ	橙色	やや粗(赤・白・黒色粒子、小礫)	良	軟質、内外面の摩滅非常に顕著
SI23	68	5	土師器	坏か皿	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	にぶい黄褐色	密(白・赤色粒子、石英)	良	軟質で粗雑なつくり、内外面とも摩滅顕著
SI23	68	6	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ — ・ —	坏(皿)底部～脚部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子、小礫)	良	内外面とも被熱し器面の赤褐色化・摩滅非常に顕著
SI23	68	7	灰釉陶器	埦	— ・ (6.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部ナデ、付高台	回転ナデ	灰白色	密(白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅・ヨゴレやや顕著
SI23	68	8	須恵器	蓋	(15.0) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	密(白・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著、ヨゴレも顕著
SI23	69	9	土師器	鉢	(36.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ	褐色	やや粗(赤・白・黒色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも強く被熱し器面の赤褐色化顕著、摩滅も顕著で内面下半のススの付着も顕著
SI23	69	10	土師器	鉢か	(40.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	太いハケメ	ハケメ	褐色	密(白色粒子多、赤・黒色粒子、金色雲母多、小礫)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・摩滅顕著
SI23	69	11	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁～胴部	ヨコナデ、ヘラナデ、指頭痕	ヨコナデ、ヘラナデ	明褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、小礫)	良	粗雑なつくり、内外面とも比較的強く被熱し外面の摩滅顕著
SI23	69	12	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁～胴部	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	明褐色	やや粗(白色粒子多、雲母やや多、小礫少)	良	やや粗雑なつくり、内外面とも摩滅やや顕著
SI23	69	13	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁～胴部	ヨコナデ、ヘラナデ、指頭痕	ヨコナデ、ヘラナデ	橙色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、小礫多)	良	粗雑なつくり、内外面とも比較的強く被熱し外面の摩滅顕著
SI23	69	14	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁～胴部	ヨコナデ、ヘラナデ、指頭痕	ヨコナデ、ヘラナデ	外：灰黄褐色 内：明赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母多、小礫)	良	粗雑なつくり、口縁部の指頭調整顕著、内外面とも被熱し外面荒れ顕著
SI23	69	15	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	褐色	やや粗(白色粒子多、黒・赤色粒子、金色雲母多)	良	内外面とも強く被熱し、内面の摩滅非常に顕著
SI23	69	16	土師器	鉢か	— ・ — ・ —	胴部	太いハケメ	ナデ	外：明赤褐色 内：にぶい黄橙色	密(白・黒色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・摩滅顕著、特に内面の摩滅は顕著
SI23	69	17	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ナデ、ハケメ	ハケメ	褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母多、小礫やや多)	良	内外面とも強く被熱し器面の赤褐色化顕著、内面の摩滅も非常に顕著
SI23	69	18	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ヘラナデ、ハケメ	ヘラナデ	外：褐灰色 内：にぶい黄橙色	密(白・黒色粒子、金色雲母、小礫少)	良	外面ススの付着顕著、内面の摩滅顕著
SI23	69	19	土師器	鉢か	— ・ (10.0) ・ —	底部	ハケメ 底部木葉痕か	ヘラナデ	明赤褐色	密(白・黒色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・摩滅顕著、13と同一個体の可能性あり
SI23	69	20	土師器	甕か壺	— ・ (11.0) ・ —	胴部～底部	ヘラナデ 底部木葉痕	ヘラナデ	外：褐色 内：黒褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母、小礫多)	良	内外面とも強く被熱し外面は摩滅が顕著で内面はススの付着が顕著
SI23	69	21	土師器	甕か壺	— ・ (12.0) ・ —	胴部～底部	回転ナデ 底部不明	回転ナデ、ヘラナデ	橙色	密(赤色粒子多、白・黒色粒子)	良	つくりは雑、軟質で外面の摩滅非常に顕著、内面のスス状ヨゴレ顕著
SI23	69	22	灰釉陶器	壺	— ・ — ・ —	肩部破片	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	密(白色粒子)	良	内外面とも摩滅・ヨゴレやや顕著
SI23	69	23	土製品	用途不明	最大長3.1 ・ 幅1.9 ・ 厚1.5 ・ 重6g	—	ヘラケズリ、ナデ	—	赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	軟質で強く被熱し赤褐色化している
SI24	70	1	土師器	小皿	(7.8) ・ (4.6) ・ 2.2	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	にぶい橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	やや軟質、内外面とも摩滅やや顕著
SI24	70	2	土師器	坏	(12.3) ・ (7.0) ・ 3.5	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内外面の摩耗・摩滅はあまり認められない、散在的にウルシ状付着物みられる、暗文は細く繊細
SI24	70	3	土師器	坏	(11.8) ・ (6.0) ・ 4.0	1/3残存	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも摩耗やや顕著、特に口縁端部の摩耗顕著、内面スス状ヨゴレやや顕著
SI24	70	4	土師器	坏	(13.2) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内面薄くスス状ヨゴレ、暗文は体部内面全体には施されず

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI24	70	5	須恵器	坏	(11.9) ・ (7.0) ・ 3.3	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレ顕著
SI24	70	6	土師器	坏	— ・ (5.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文 底部暗文	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内面に散在的にウルシ状付着物あり
SI24	70	7	土師器	坏	— ・ (7.0) ・ —	底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(黒・赤・白色粒子、雲母)	良	内面の摩滅やや顕著
SI24	70	8	土師器	坏	— ・ (5.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内面薄くウルシ状付着物あり
SI24	70	9	土師器	坏	— ・ (4.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	外：にぶい黄橙色 内：橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内面のスス状ヨゴレ顕著
SI24	70	10	土師器	坏(刻書土器)	— ・ (5.2) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズ	回転ナデ	外：橙色 内：にぶい橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	底外に線刻あり、内外面ともに被熱し器面の変色・スス状ヨゴレやや顕著
SI24	70	11	土師器	高台坏(墨書土器)	— ・ (7.6) ・ —	底部	回転ナデ 底部回転ヘラケズリ、付高台(ケズリ調整)、墨書	回転ナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	底外に墨書あり、墨痕極めて薄い、判読不可、内外面ともに被熱し摩耗非常に顕著、二次転用された可能性強い
SI24	70	12	土師器	鉢	(17.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SI24	70	13	土師器	蓋	(16.2) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内面被熱のためか器面わずかに荒れている
SI24	70	14	土師器	蓋(灯明具)	(17.0) ・ — ・ 4.5	1/2残存	回転ナデ、同心円状暗文	回転ナデ、同心円状暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも幅1.5～2cmの帯状に油煙状スス付着、灯芯と思われる痕跡もあり、灯明具として使用、内面はそれを境に器名色が異なる
SI24	70	15	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	ナデ、指頭痕	ハケメ	橙色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著
SI24	70	16	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	黒褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母多)	良	外面の摩滅・荒れ・弱い剥離顕著
SI24	70	17	土師器	甕	— ・ (8.8) ・ —	胴部～底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ、指頭痕	明赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母、1～3mmの小礫)	良	内外面とも強く被熱し器面の荒れ・摩滅顕著
SI24	70	18	土師器	甕	— ・ (7.1) ・ —	胴部～底部	ヘラナデ 底部木葉痕	ヘラナデ	赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅やや顕著
SI24	70	19	土師器	カマド形	— ・ — ・ —	底部	ヘラケズリ、ハケメ	ハケメ、ナデ底部ナデ	明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、1～3mmの小礫)	良	被熱のためか内外面とも赤褐色化している
SI24	71	20	須恵器	壺	(23.0) ・ — ・ —	口縁部	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅あまり認められない
SI24	71	21	須恵器	壺か	— ・ — ・ —	頸部～胴部	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	内面器面の剥離
SI24	71	22	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅あまり認められない
SI24	71	23	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅あまり認められない
SI24	71	24	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ハケメ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩耗痕認められる、二次転用された可能性あり
SI24	71	25	須恵器	甕か壺	— ・ — ・ —	胴部	タタキ(格子状)	ヘラナデ	外：黒色 内：黄灰色	密(黒・白色粒子、小礫少)	良	胴部内面を二次転用、極度の摩耗を伴う使用痕跡あり、外面にも一部摩耗痕跡あり、タタキの一部が摩耗によってつぶれている、割れ口には磨るなどの痕跡はみられない
SI24	71	26	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ、ナデ	ヘラナデ	外：暗灰色 内：灰色	密(白・赤・黒色粒子、小礫)	良	外面の摩滅やや顕著
SI25	71	1	土師器	坏	10.1 ・ 4.6 ・ 3.7	略完形	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	厚手なつくり、内外面とも被熱し器面の変色・口縁部付近へのスス付着顕著、底部外面の摩滅やや顕著
SI25	71	2	土師器	坏(灯明具か)	(10.3) ・ 4.9 ・ 3.1	1/3残存	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも強く被熱し器面の黒変化・摩滅顕著、油煙状のススも付着していることから灯明具の可能性あり
SI25	71	3	土師器	皿	10.4 ・ 4.3 ・ 2.6	完形	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母、1～2mmの小礫)	良	やや軟質、焼成時に発泡し小礫が抜けた痕跡あり、内外面の摩滅やや顕著
SI25	71	4	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ — ・ —	底部～脚部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母、1～2mmの小礫)	良	やや軟質、胎土マーブル状、内外面とも被熱し器面の変色・スス状ヨゴレ・摩滅顕著
SI25	71	5	土師器	多面形脚高坏	— ・ — ・ —	脚部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内面のスス状ヨゴレやや顕著
SI25	71	6	土師器	羽釜	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内面のスス付着顕著
SI25	71	7	土師器	塝	— ・ (9.75) ・ —	胴部～底部	ナデ、指頭痕 底部ナデ	ナデ	にぶい灰褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母、1～2mmの小礫)	良	内外面とも被熱のため器面の変色顕著、内外面摩滅非常に顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI25	71	8	土師器	塝	— ・ (17.6) ・ —	胴部～底部	ナデ	ナデ、指頭痕	にぶい赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母、小礫)	良	非常に厚手なつくり、内外面とも被熱のため器面の変色・摩滅顕著
SI25	71	9	須恵器	壺	— ・ (16.0) ・ —	胴部～底部	回転ヘラケズリ 底部回転ナデ	回転ナデ	灰色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面ともあまり摩滅等はみられないが、高台部接地面の摩耗やや顕著
SI25	71	10	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ヘラナデ	灰色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも摩耗顕著、二次転用されたと思われる、内面は黒ずみ状ヨゴレも顕著
SI25	71	11	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	灰色	密(白・黒・赤色粒子)	良	内外面ともにやや摩滅が認められるも二次使用痕跡であるかどうか不明
SI26	72	1	土師器	甕	— ・ (7.0) ・ —	胴部～底部	ナデ、ハケメ 底部木葉痕	ナデ	赤褐色	やや粗(金色雲母、白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SI28	72	2	土師器	坏	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ナデ	暗文	橙色	緻密(赤・白色粒子、雲母、黒色粒子、石英)	良	やや軟質で外面弱く被熱し内外面とも摩滅顕著
SI28	72	3	土師器	坏(墨書土器)	— ・ (5.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部ヘラケズリ、ミガキ、墨書	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅やや顕著、底外に墨書あり、判読不可
SI30	72	1	土師器	坏(灯明具)	10.9 ・ 5.2 ・ 4.0	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも顕著な摩耗・摩滅痕はみられない、口縁部の1/3程度の範囲のみ油煙と思われるススが付着している、遺存状況が一部のみ欠いているため打ち欠きをおこない故意に破壊している可能性が強い
SI30	72	2	土師器	坏(墨書土器)	11.6 ・ 4.2 ・ 3.95	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ、墨書	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(赤・黒・白色粒子)	良	底外～体外と体外に墨書あり、墨痕薄い、前者は「得」の異体字か、内外面とも摩耗・摩滅痕はほとんど認められない
SI30	72	3	土師器	坏	(10.6) ・ (5.6) ・ 4.1	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・黒・白色粒子、雲母)	良	胎土マーブル状、底部内外面の摩滅やや顕著
SI30	72	4	土師器	坏(墨書土器)	(12.6) ・ 4.6 ・ 4.3	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ、墨書	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	底外に墨書あり「足」カ、墨書薄い、内外面の摩滅・ス状ヨゴレやや顕著
SI30	72	5	土師器	坏	(12.0) ・ 4.2 ・ 3.7	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも摩耗・摩滅はあまり顕著ではない
SI30	72	6	土師器	坏	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内面のスス状ヨゴレやや顕著
SI30	72	7	土師器	坏	(11.2) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	明黄褐色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも被熱し特に外面は荒れがひどくアバタ状を呈する
SI30	72	8	土師器	皿(刻書土器)	(13.6) ・ (6.0) ・ 2.4	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文、刻書	橙色	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母、小礫)	良	底部内面に線刻あり、線は浅めで細く繊細、やや雑なつくり、内外面やや強く被熱、顕著な使用痕は認められないが内面スス状ヨゴレやや顕著
SI30	72	9	土師器	皿	12.6 ・ 5.0 ・ 2.5	口縁～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	胎土マーブル状、弱く被熱、内外面とも摩耗・摩滅は認められるがスス状のヨゴレが顕著
SI30	72	10	土師器	皿(墨書土器)	(13.8) ・ (5.8) ・ 2.8	口縁～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ、墨書	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	底部外面墨書、墨痕は極めて薄い、内外面とも弱く被熱し摩耗・摩滅は顕著ではない、内外面のスス状ヨゴレは顕著
SI30	72	11	土師器	皿	12.6 ・ 5.6 ・ 2.7	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内面は強く被熱しスス状ヨゴレが非常に顕著、摩耗も顕著で器面は部分的にアバタ状になっている、口唇部に使用段階における欠けがみられる
SI30	72	12	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	ケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	緻密(赤・白・黒色粒子)	良	胎土マーブル状、内外面とも摩滅やや顕著、底外に焼成前の工具痕あり
SI30	72	13	土師器	坏(墨書土器)	— ・ 5.8 ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ、墨書 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	にぶい赤褐色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	体外に墨書（墨痕）あり、墨痕薄くカスレて判読不可、内外面とも摩耗・摩滅やや顕著、特に内面は摩耗が顕著でウルシ状付着物あり
SI30	72	14	土師器	高台付皿(刻書土器)	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、回転ヘケズリ 底部回転ヘラケズリ、貼付＋削出し高台	回転ナデ、暗文 底部刻書	明赤褐色	密(赤・白色粒子、雲母、黒色粒子)	良	底部内面に線刻あり、線は深め、内外面とも被熱しスス状ヨゴレが顕著、摩滅もやや顕著
SI30	73	15	土師器	皿か(刻書土器)	— ・ — ・ —	底部	回転ヘラケズリ	ナデ、暗文、線刻	明赤褐色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	体内に線刻あり線は浅く曖昧、内外面とも摩滅やや顕著
SI30	73	16	土師器	皿か(刻書土器)	— ・ — ・ —	底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、線刻	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	底内に線刻あり、線は細いがしっかりしている、内外面の摩滅やや顕著
SI30	73	17	土師器	蓋	(18.4) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	外：橙～明褐色 内：褐色	密(白色粒子、雲母、赤色粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレ・摩滅やや顕著
SI30	73	18	土師器	蓋	(18.0) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ、回転ヘラケズリ、暗文	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内面の摩滅やや顕著、内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SI30	73	19	灰釉陶器	埦	(16.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	緻密(黒・白色粒子)	良	内面全体釉刷毛塗り、K14段階
SI30	73	20	土師器	小形甕	(13.6) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	褐色	粗(金色雲母、黒・白・赤色粒子)	良	

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI30	73	21	土師器	甕	(28.2) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	明赤褐色	やや粗(金色雲母、白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも強く被熱
SI30	73	22	土師器	甕	27.0 ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ、指頭痕	ハケメ、指頭痕	にぶい褐色	やや粗(金色雲母多、白・黒・赤色粒子)	良	
SI30	73	23	土師器	甕	— ・ 頸部径(22.0) ・ —	胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ、指頭痕	にぶい黄褐色	やや粗(金色雲母多、黒・白・赤色粒子)	良	被熱するが内外面とも摩滅はあまり顕著ではない
SI30	73	24	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ナデ、ハケメ、指頭痕	にぶい褐色	やや粗(金色雲母、黒・白・赤色粒子)	良	内外面とも強く被熱し内面の荒れ顕著
SI30	73	25	土師器	甕	— ・ 8.8 ・ —	胴部～底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ	外：明赤褐色 内：にぶい褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、赤色粒子)	良	外面強く被熱し内面の荒れはあまり顕著ではない
SI30	73	26	土師器	甕	— ・ 8.0 ・ —	胴部～底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ、ナデ、指頭痕	にぶい褐色	粗(黒・白色粒子、金色雲母、赤色粒子)	良	内外面とも荒れ顕著、特に内面の荒れ顕著
SI30	73	27	土師器	甕	— ・ 10.0 ・ —	胴部～底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ、ナデ、指頭痕	にぶい褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、赤色粒子)	良	内外面とも強く被熱し内面の荒れやや顕著
SI30	74	28	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅はほとんどみられない
SI30	74	29	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ(平行)	タタキ(同心円)	灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅はみられないが内面に黒色塗彩の痕跡あり
SI30	74	30	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ハケメ、ナデ	灰色	やや粗(白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅はほとんどみられない
SI31	74	1	土師器	坏	— ・ (7.7) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、暗文	赤褐色	密(赤・白・黒色粒子)	良	内外面とも被熱し外面の摩滅やや顕著
SI31	74	2	土師器	坏	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切りか	回転ナデ	にぶい黄橙色	密(赤・白色粒子、金色雲母少)	良	軟質、内外面とも被熱し摩滅非常に顕著
SI31	74	3	土師器	坏	— ・ (5.9) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤色粒子多、白・黒色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著、内面の摩滅やや顕著
SI31	74	4	土師器	脚高高台坏か	— ・ — ・ —	底部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	密(白色粒子やや多、黒色粒子)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著
SI31	74	5	土師器	小皿か	— ・ (4.5) ・ —	底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・赤色粒子、金色雲母)	良	やや軟質、内外面とも被熱し内面の摩滅・スス状ヨゴレ顕著
SI31	74	6	灰釉陶器	皿	(16.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色 釉：灰オリーブ色	密(白・黒色粒子)	良	摩耗・摩滅ともほとんどみられない
SI31	74	7	灰釉陶器	埦	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ、付高台	回転ナデ	灰黄色 釉：灰白色	密(黒・白・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅・ヨゴレやや顕著
SI31	74	8	土師器	甕	(35.2) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ	外：黒褐色 内：にぶい赤褐色	粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母、小礫多)	良	内外面とも強く被熱し器面の荒れ非常に顕著
SI31	74	9	土師器	甕	(35.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ	にぶい赤褐色	粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母、小礫多)	良	内外面とも強く被熱し器面の荒れ非常に顕著
SI31	74	10	土師器	甕か鉢	— ・ (5.7) ・ —	底部	ヘラナデ 底部ヘラケズリ	ナデ	黒褐色	粗(白色粒子、金色雲母、小礫やや多)	良	内外面とも被熱し内面の器面の荒れ非常に顕著
SI31	74	11	土師器	甕か鉢	— ・ (10.1) ・ —	底部	ヘラナデ 底部ヘラケズリ	ナデ	黒褐色	やや粗(白色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも被熱し器面の荒れ顕著
SI31	74	12	土師器	甕	— ・ 13.0 ・ —	胴部～底部	ハケメ、ヘラナデ 底部木葉痕	ナデ	にぶい赤褐色	粗(白色粒子多、金色雲母、小礫)	良	内外面とも強く被熱し内面の荒れ顕著、底部内面の黒ずみ顕著
SI31	74	13	須恵器	壺	(26.0) ・ — ・ —	口縁部	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅・ヨゴレやや顕著
SI31	74	14	須恵器	甕か壺	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	タタキ	外：黒褐色 内：暗灰黄色 釉：オリーブ灰色	密(黒・白色粒子)	良	内外面とも摩滅・ヨゴレやや顕著
SI32	74	1	土師器	鉢か	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	にぶい橙色	やや粗(黒・赤・白色粒子、雲母)	良	内外面とも被熱のため変色顕著、外面の荒れ顕著
SI32	74	2	土師器	皿	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	やや密(赤・黒・白色粒子、雲母)	良	胎土マーブル状、内面の摩滅やや顕著
SI32	74	3	土師器	甕	(28.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	にぶい黄褐色	密(白・黒色粒子、雲母、赤色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SI32	74	4	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	外：黒褐色 内：明褐色	密(黒・白色粒子、雲母、砂粒)	良	内外面とも摩滅あまり顕著ではない
SI33	75	1	土師器	坏	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラナデ	回転ナデ	橙色	密(黒・白・赤色粒子、雲母)	良	内面の摩耗およびヨゴレやや顕著
SI33	75	2	土師器	坏	(12.3) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	密(黒・赤・白色粒子、雲母)	良	内外面ともヨゴレやや顕著
SI33	75	3	土師器	坏	(11.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(黒・白・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅はあまりみられないがスス状ヨゴレやや顕著
SI33	75	4	土師器	皿(墨書土器)	(12.8) ・ (5.0) ・ 2.4	口縁～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ、墨書	回転ナデ	橙色	密(黒・赤・白色粒子、雲母)	良	つくりは荒いが丁寧、外面の摩耗はあまり顕著ではないが底部内面の摩耗はやや顕著、墨書の墨痕は薄く底部からはみ出て記されている

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SI33	75	5	土師器	皿	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	外面の摩耗顕著、内面のヨゴレやや顕著
SI33	75	6	土師器	皿	— ・ 3.9 ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・黒・白色粒子)	良	つくりはやや雑、内外面とも摩耗およびヨゴレやや顕著
SI33	75	7	須恵器	短頸壺か	— ・ — ・ —	肩部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	黄灰色	密(黒・白色粒子)	良	内外面とも摩耗は顕著ではない
SI33	75	8	須恵器	突帯付四耳壺	— ・ — ・ —	肩部	タタキ、ナデ、突帯	ナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩耗やや顕著、内面はやや黒ずんでいる、外面には厚く釉がかかる
SI33	75	9	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ、ナデ	ナデ	黄灰色	密(白・黒・赤色粒子)	良	内面黒色塗彩
SI33	75	10	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ、ナデ	ナデ	灰褐色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも摩耗はあまり顕著ではないが内面のヨゴレやや顕著
SI34	75	1	土師器	坏	(11.0) ・ 5.8 ・ 4.1	1/3残存	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	緻密(赤色粒子多、白色粒子、雲母微)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著、内面のスス状ヨゴレやや顕著
SI34	75	2	土師器	坏(刻書土器)	11.2 ・ 5.2 ・ 4.6	略完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ、線刻	回転ナデ、暗文	外：明赤褐～橙色 内：明褐色	密(赤色粒子多、白色粒子、雲母少)	良	器面の歪みやや顕著、底外に線刻あり、内外面とも被熱し器面の変色・摩滅顕著、線刻は摩滅により潰れている
SI34	75	3	土師器	坏	(11.3) ・ (5.6) ・ 4.4	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐～にぶい赤褐色	緻密(赤色粒子多、白色粒子、雲母少)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著、内面の摩滅もやや顕著
SI34	75	4	土師器	坏	(10.9) ・ 5.2 ・ 4.0	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	外：橙色 内：にぶい赤褐色	緻密(赤色粒子多、白色粒子、雲母微)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SI34	75	5	土師器	坏	(10.8) ・ (5.0) ・ 3.9	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	緻密(赤・白色粒子、金色雲母少)	良	胎土マーブル状、弱く被熱しスス状ヨゴレ顕著、口縁部端部内面の摩耗顕著
SI34	75	6	土師器	坏	11.3 ・ 5.6 ・ 4.2	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤色粒子多、白色粒子、雲母微)	良	被熱し外面の器面の変色顕著、内外面のスス状ヨゴレ顕著、口縁部端部内面の摩耗顕著、口唇部を弱く打ち欠く箇所あり
SI34	75	7	土師器	坏(刻書土器)	(12.3) ・ (6.2) ・ 3.9	1/4残存	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、線刻	橙色	緻密(赤色粒子多、白色粒子、雲母少)	良	胎土マーブル状、体部内面に線刻あり、内外面とも弱く被熱し摩滅はやや顕著
SI34	75	8	土師器	坏(刻書土器)	(10.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文、線刻	明赤褐～橙色	密(赤・白色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色・スス状ヨゴレ顕著、体内に線刻あり、線刻は浅い
SI34	75	9	土師器	坏	10.4 ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	外：明赤褐色 内：にぶい橙～明赤褐色	緻密(赤・白色粒子少)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・黒変化顕著、黒変化は破片断面まで及ぶ
SI34	75	10	土師器	坏	— ・ (4.4) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	緻密(赤・白色粒子少)	良	内外面とも被熱し器面の変色やや顕著、摩滅もやや顕著
SI34	75	11	土師器	坏	— ・ (5.4) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	にぶい赤褐色	緻密(赤・白色粒子少)	良	内外面とも被熱し器面の変色やや顕著、外面の摩滅は顕著
SI34	75	12	土師器	坏(刻書土器)	— ・ (5.3) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ 底部線刻	橙色	緻密(赤色粒子多、白色粒子、雲母少)	良	底内に線刻あり、線刻はやや浅く摩滅している、内外面とも被熱し変色・スス状ヨゴレやや顕著
SI34	75	13	土師器	坏(刻書土器)	— ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、線刻	回転ナデ	橙色	緻密(赤色粒子多、白色粒子)	良	体外に線刻あり、線刻は深い、外面は強く被熱し変色・黒変化、摩滅はやや顕著
SI34	76	14	土師器	皿	(16.0) ・ (8.0) ・ 2.1	口縁～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	緻密(赤色粒子多、白色粒子、雲母少)	良	破片だが重量感あり、内外面とも被熱し口縁部外面のスス付着顕著、口縁部端部の摩滅顕著
SI34	76	15	土師器	皿	(16.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	にぶい赤褐色	緻密(赤色粒子、雲母少)	良	内外面とも被熱し内面のスス付着顕著
SI34	76	16	土師器	蓋	(17.6) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	外：橙色 内：橙～にぶい褐色	緻密(赤・白色粒子)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・剥落顕著、特に内面はスス状ヨゴレも顕著、口縁部内外面を中心に摩滅やや顕著
SI34	76	17	土師器	蓋	(17.3) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	外：明赤褐～橙色 内：明赤褐色	緻密(赤・白色粒子)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・剥離顕著、特に内面はスス状ヨゴレも顕著、摩耗・摩滅はあまりみられない
SI34	76	18	土師器	小形甕	(15.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ハケメ	外：褐～灰褐色 内：褐色	やや粗(金色雲母多、白色粒子(小石)多	良	内外面とも被熱し器面の荒れやや顕著
SI34	76	19	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	外：にぶい赤褐～黒褐色 内：にぶい褐色	粗(白色粒子、小石多、雲母多、赤・黒色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の荒れ顕著
SI34	76	20	土師器	小形甕	— ・ 6.6 ・ —	胴部～底部	ハケメ、ナデ 底部木葉痕	ハケメ	外：灰褐色 内：にぶい赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、角閃石多、雲母多、小石多)	良	内外面とも強く被熱、外面は器面の荒れが非常に顕著で内面は胴部割れ口付近のスス付着顕著、ススは割れ口断面まで付着することから上半部欠失の後も下半部のみを使用した可能性大
SI34	76	21	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ヘラナデ	ヘラナデ	外：明赤褐～にぶい赤褐色 内：明赤褐色	粗(白・黒色粒子多、雲母、小礫)	良	内外面とも被熱し外面のスス状ヨゴレ顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK1	76	1	土師器	甕	— ・ (6.8) ・ —	胴部～底部	ナデ 底部木葉痕	ヘラナデ	にぶい黄橙色	密(黒・白色粒子、金色雲母少)	良	内外面とも被熱し内面の摩滅やや顕著、底部外面に粘土貼付
SK3	76	1	土師器	坏か	— ・ 4.4 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白色粒子多、赤・黒色粒子)	良	軟質、内外面とも摩滅顕著
SK3	76	2	土師器	甕	— ・ (11.0) ・ —	胴部～底部	ナデ、ハケメ 底部木葉痕	ナデ、ハケメ	褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し器面の摩滅顕著、底外にモミ状圧痕あり
SK4	76	1	土師器	坏	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤色粒子多、白色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色・摩滅やや顕著
SK5	76	1	土師器	坏	(11.2) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも被熱しスス状ヨゴレ顕著
SK7	76	1	土師器	坏(墨書土器)	(11.4) ・ (7.2) ・ 4.5	1/2残存	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ、墨書	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(黒・白・赤色粒子、金色雲母)	良	底外に墨書「中」、墨痕極めて薄い、文字は端正、口縁突端部の摩耗顕著
SK7	77	2	土師器	坏	(14.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	明褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面のスス状ヨゴレやや顕著、6と同一個体
SK7	77	3	土師器	坏	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文 底部回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(黒・赤・白色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し器面の変色・黒変化顕著、底部内面の摩耗やや顕著
SK7	77	5	土師器	坏(盤状)	— ・ (6.4) ・ —	体部～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(黒・白・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SK7	77	4	土師器	坏	— ・ (5.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ミガキ 底部回転糸切り、回転ヘラケズリ、削出し高台	回転ナデ	明赤褐色	密(赤色粒子やや多、白色粒子、金色雲母)	良	内外面とも弱く被熱し摩滅やや顕著
SK7	77	7	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	回転ナデ、ハケメ	回転ナデ、ハケメ	橙色	密(白色粒子やや多、赤色粒子少、金色雲母少)	良	内外面とも被熱し内面の器面の変色・摩滅やや顕著
SK7	77	6	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	回転ナデ、ハケメ	ハケメ	明褐色	密(白・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK7	77	8	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	にぶい赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母多)	良	内外面とも強く被熱し特に内面の摩滅・荒れ顕著
SK7	77	9	土師器	甕	— ・ 7.2 ・ —	胴部～底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ	褐色	やや粗(黒・白色粒子、金色雲母多)	良	内外面とも強く被熱し外面の器面の荒れ・変色・スス付着顕著
SK7	77	10	須恵器	壺か	— ・ — ・ —	胴部	ナデ	ナデ	褐灰色	密(石英、黒色粒子)	良	薄手、内外面とも摩滅やや顕著
SK8	77	1	土師器	小皿か	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(黒・赤・白色粒子、金色雲母)	良	内外面ともスス状ヨゴレ・摩滅やや顕著
SK8	77	2	土師器	坏か皿	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・赤色粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレ顕著
SK8	77	3	土師器	坏か皿	— ・ (5.0) ・ —	底部	回転糸切り	回転ナデ	褐色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SK8	77	5	須恵器	壺か	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	回転ナデ	外：暗灰黄色 内：黄灰色	密(黒・白色粒子)	良	内外面とも摩耗・摩滅はあまりみられない
SK8	77	4	灰釉陶器	埦	(15.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	釉ツケ掛け、内面全体に釉飛散、口唇部の摩耗やや顕著
SK9	77	2	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	密(黒・白・赤色粒子、雲母、角閃石)	良	内外面ともスス状ヨゴレ顕著
SK9	77	1	土師器	皿	(15.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・白色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK10	77	2	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・赤色粒子、雲母)	良	内外面ともスス状ヨゴレ・摩滅やや顕著
SK10	77	3	土師器	坏か	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(赤・白色粒子、雲母)	良	内外面ともスス状ヨゴレ・摩滅やや顕著
SK10	77	1	土師器	坏か	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(黒・白・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも被熱し外面の器面の変色・スス状ヨゴレ・摩滅顕著
SK10	77	4	灰釉陶器	埦	— ・ (9.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ、付高台	回転ナデ	灰黄色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著、内面に重ね焼痕跡あり
SK10	77	5	須恵器	甕か	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ	黄灰色	密(白色粒子やや多)	良	内外面ともウルシらしき塗布痕跡あるが摩滅やや顕著
SK12	77	1	土師器	甕	— ・ (7.0) ・ —	胴部～底部	ヘラナデ 底部木葉痕、線刻か	ハケメ、ヘラナデ	にぶい赤褐色	やや粗(黒・白・赤色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面ともやや強く被熱し器面の変色顕著、底部は木葉痕のほか線刻状の刻みがみられ刻みを入れたのち故意に破砕した可能性もあり
SK12	77	2	土師器	鍋か	— ・ (11.0) ・ —	底部か	ナデ	ナデ	にぶい橙色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	外面のスス付着やや顕著
SK14	77	2	土師器	甕	— ・ (8.0) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ナデ 底部木葉痕	ハケメ、ナデ	にぶい赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母、小礫)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・荒れ顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK14	77	1	灰釉陶器	高台坏	— ・ 6.5 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り、回転ナデ、付高台	回転ナデ	灰白色	やや粗(白・黒色粒子)	良	つくり雑、内外面とも細かく器面が剥離し内面薄く黒ずむ、摩滅等はほとんど認められない
SK23	77	1	土師器	坏	— ・ (5.2) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文 底部暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内面のスス状ヨゴレやや顕著
SK31	78	1	土師器	坏(墨書土器)	12.3 ・ 4.2 ・ 4.2	完形	回転ナデ、ヘラケズリ、墨書 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤色粒子多、白色粒子、黒色粒子少)	良	器形の歪みやや顕著、胎土マーブル状、体外墨書あり、正位に「太」カ、墨痕は極めて薄い、内外面とも被熱し器面の変色が顕著、口唇部の一部を浅く打ち欠きその箇所を中心に油煙状のススが顕著に付着、さらに灯芯が炭化したとみられる痕跡もみられる
SK31	78	2	土師器	坏	12.5 ・ 5.1 ・ 4.3	完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	外：明赤褐色 内：明黄褐～黒色	やや粗(赤色粒子多、白色粒子、黒色粒子少)	良	器形の歪みやや顕著、胎土マーブル状、内外面とも強く被熱し特に内面は黒変化し器面荒れている
SK31	78	3	土師器	坏	12.2 ・ 5.5 ・ 4.2	完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、手持ちヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	緻密(赤色粒子多、黒色粒子少)	良	丁寧でやや厚手なつくり、内外面とも被熱し器面の変色・ススの付着顕著、摩耗が底部内面においてわずかに認められるものの他はほとんどみられない
SK31	78	4	土師器	坏	14.8 ・ 5.5 ・ 4.65	略完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	緻密(赤色粒子多、白色粒子、黒色粒子少)	良	やや雑なつくり、胎土マーブル状、内外面とも被熱しスス状ヨゴレ・底部内面の器面の剥離顕著
SK31	78	5	土師器	坏	12.1 ・ 4.6 ・ 4.2	略完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	外：明赤褐～灰褐色 内：明赤褐色	緻密(赤・白色粒子多、黒色粒子少)	良	器形の歪みやや顕著、内外面とも強く被熱し器面の変色・荒れ・ススの付着顕著
SK31	78	6	土師器	坏（刻書土器）	12.3 ・ 4.5 ・ 4.6	略完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、線刻	明赤褐色	緻密(赤色粒子多、白色粒子)	良	体内に線刻あり判読不可、線刻は浅い、やや雑なつくり、胎土マーブル状、器形の歪みやや顕著、内外面とも被熱し器面の変色やや顕著、摩耗・摩滅は底部内面においてわずかにみられるものの他はほとんどみられない
SK31	78	7	土師器	坏	(14.0) ・ 5.0 ・ (5.9)	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐～橙色	緻密(赤色粒子多、白色粒子、黒色粒子微)	良	内外面とも被熱し器面の変色・スス状ヨゴレ顕著
SK31	78	8	土師器	坏	(16.4) ・ 5.7 ・ 5.65	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	外：にぶい赤褐～黒褐色 内：にぶい赤褐色	緻密(赤・白色粒子、雲母少)	良	内外面とも強く被熱し外面の黒変化・器面の荒れ・内面のスス状ヨゴレ非常に顕著
SK31	78	9	土師器	坏	(12.2) ・ (4.4) ・ 4.35	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：明赤褐～にぶい黄橙色 内：にぶい黄橙色	密(赤色粒子多、黒色粒子少)	やや良	内外面とも強く被熱し器面の変色極めて顕著、摩滅等はほとんどみられない
SK31	78	10	土師器	坏	(16.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	外：にぶい橙色 内：にぶい褐～にぶい橙色	緻密(赤色粒子多、白・黒色粒子少)	良	内外面とも被熱し器面の変色・荒れ・ススの付着顕著
SK31	78	11	土師器	坏	— ・ 5.6 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	密(赤・白色粒子多、金色雲母少)	良	やや軟質、内外面とも強く被熱し器面の変色・摩滅顕著
SK31	78	12	土師器	皿	(12.0) ・ (4.0) ・ 2.75	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	外：橙～にぶい黄橙色 内：橙色	密(赤色粒子多、白色粒子、雲母少)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・ス付着顕著
SK31	78	13	土師器	鉢	11.7 ・ 7.0 ・ 8.3	略完形	ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	外：灰褐色 内：明赤褐色	密(赤・白色粒子多)	良	内外面とも被熱し外面を中心にスス付着顕著、摩滅・摩耗痕ともほとんど認められない
SK31	78	14	土師器	鉢	(40.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ハケメ	外：明赤褐～灰赤色 内：明赤褐色	やや粗(白色粒子多、小礫多、金色雲母多)	良	内外面とも被熱し外面を中心にススの付着顕著、13と同一個体
SK31	78	15	土師器	鉢	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	外：にぶい赤褐色 内：にぶい赤褐～灰褐色	やや粗(白色粒子多、小礫多、金色雲母多)	良	内外面とも被熱し内面を中心にススの付着顕著、14と同一個体
SK31	78	16	須恵器	蓋（刻書土器）	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、線刻	外：灰黄褐～暗褐色 内：にぶい黄褐色	密(白・黒色粒子)	良	体内に線刻あり、線刻は浅い、内外面の摩耗・摩滅はほとんどみられない
SK31	78	17	須恵器	甕か	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	灰黄色	密(白色粒子多)	良	内外面ともにウルシらしき塗布痕跡あり、外面の摩滅やや顕著
SK32	79	1	土師器	坏	14.2 ・ 4.3 ・ 4.9	略完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	灰褐色	密(赤・白・黒色粒子)	良	器形の歪み顕著、外面ウルシ状付着物・内面体部下半を中心とする黒ずみ顕著、内面の摩耗やや顕著
SK32	79	2	土師器	坏	(12.2) ・ (4.0) ・ 3.25	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	やや粗(赤色粒子多、白・黒色粒子)	良	胎土マーブル状、内外面とも弱く被熱し摩耗・摩滅痕ともほとんど認められない
SK32	79	3	土師器	坏	(12.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも被熱しスス状ヨゴレ顕著
SK32	79	4	土師器	坏	(13.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも弱く被熱し摩耗やや顕著
SK32	79	6	須恵器	甕か	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	灰黄色 釉:褐灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面にウルシ状塗布痕跡あり
SK32	79	5	須恵器	甕か	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ	灰色	密(白・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK32	79	7	縄文	深鉢	— ・ — ・ —	口縁	沈線文	沈線文	橙色	密(白・黒色粒子、雲母、小礫多)	良	内面の器面剥落
SK34	79	1	土師器	坏(灯明具)	12.3 ・ 4.1 ・ 3.4	略完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	器形の歪み顕著、胎土マーブル状、口唇部に一箇所油煙厚く付着、内面体部下半～底部内面にかけて薄く黒ずむ、器面細かく剥離している
SK35	79	1	土師器	坏	(14.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤色粒子多、白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK35	79	2	土師器	坏	(14.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	浅黄橙色	密(赤・白・黒色粒子)	良	やや軟質、内外面とも摩滅顕著
SK36	79	1	土師器	坏	(15.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラナデ	回転ナデ	外：灰褐色 内：橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内面の摩滅、外面のスス状ヨコレやや顕著
SK36	79	2	土師器	坏	(16.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	外：灰褐色 内：橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内面の摩滅、外面のスス状ヨコレやや顕著
SK36	79	3	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ (5.3)身部底径 ・ —	体部～脚部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母)	良	内面のスス状ヨコレやや顕著
SK36	79	4	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ 4.6身部底径 ・ —	底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面の摩滅やや顕著、高台部は故意に打ち欠かれている
SK36	79	5	土師器	小埦か小坏	— ・ (6.4) ・ —	底部？高台部？	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも強く被熱し器面の荒れ顕著、底部肥厚し柱状高台化する
SK45	79	1	土師器	蓋	(17.3) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤色粒子多、白・黒色粒子)	良	内外面ともスス状ヨコレやや顕著
SK45	79	2	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ナデ	にぶい褐色	やや粗(白色粒子多、金色雲母多、黒・赤色粒子)	良	内外面とも被熱し摩滅やや顕著
SK45	79	3	土師器	甕	— ・ — ・ —	底部	木葉痕	ナデ	外：橙色 内：黒褐色	やや粗(黒・白色粒子、金色雲母)	良	内面のコゲ顕著
SK45	79	4	須恵器	壺	— ・ — ・ —	底部	回転ナデ 底部回転ナデ	ナデ	灰白色 釉:灰オリーブ色	密(白・黒色粒子)	良	高台部接地面摩耗やや顕著
SK45	79	5	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ヘラナデ	灰色	密(白・黒色粒子、小礫)	良	内面全体的に滑らかだが特に中央部は光沢を持つほど滑らか、外面も中央部付近を中心に摩耗顕著、明らかに二次転用されている、断面(割れ口)の調整は認められない
SK45	79	6	灰釉陶器	壺	— ・ — ・ —	胴部	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも黒ずみヨゴレ顕著
SK47	80	1	土師器	皿	(9.6) ・ 4.7 ・ 2.5	口縁～底部	カキメ状回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母少)	良	やや軟質、底部内面及び口縁部内面の摩耗やや顕著、外面はほとんど認められない
SK47	80	2	土師器	皿	(9.3) ・ (4.8) ・ 2.3	口縁～底部	カキメ状回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	やや軟質、内面の摩耗やや顕著
SK47	80	3	土師器	坏か皿	— ・ 4.5 ・ —	底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：橙色 内：にぶい黄橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	やや軟質、内外面ともスス状ヨコレやや顕著
SK47	80	4	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ — ・ —	底部～脚部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	橙色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅顕著
SK47	80	5	灰釉陶器	埦	— ・ 7.3 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ、付高台	回転ナデ	浅黄橙色	密(白・黒色粒子)	良	内外面ともヨゴレ顕著、ヨゴレは断面にも及ぶ、内面はウルシ状付着物が薄く顕著にみられ底部内面は滑らかな状態である、外面は全体的に黒ずみヨゴレが顕著、高台部端部の摩耗が著しい
SK47	80	6	灰釉陶器	埦	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも黒ずみ状ヨゴレやや顕著
SK47	80	7	土師器	甕	(29.2) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	明赤褐～にぶい赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母、小礫)	良	内外面とも被熱し外面の摩滅顕著
SK47	80	8	須恵器	壺か	— ・ — ・ —	胴部	カキメ状回転ナデ	回転ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	外面鉛釉風仕上げ
SK47	80	9	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ、指頭痕	灰色	やや粗(黒・白色粒子、小礫)	良	内面の摩滅やや顕著
SK47	80	10	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ヘラナデ	灰色	やや粗(白・黒色粒子、小礫)	良	内面ウルシ状黒色塗彩
SK47	80	11	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ハケメ、ナデ、指頭痕	灰色	やや粗(白・黒色粒子、小礫)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK48	80	1	土師器	坏	(11.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、ミガキ	明赤褐色	密(赤・白色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SK48	80	2	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ	外：浅黄橙色 内：橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母、1～3㎜の小礫)	良	内外面とも器面の剥離顕著
SK51	80	1	土師器	小皿	(10.0) ・ (5.0) ・ 2.1	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内面のスス状ヨゴレ、外面の摩滅やや顕著
SK51	80	2	灰釉陶器	埦	— ・ 6.9 ・ —	体部～底部	回転ナデ、ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	灰白色	やや粗(白・黒色粒子、小礫)	良	高台部端部摩耗顕著、底部内面を中心に黒ずみ状ヨゴレ顕著、ウルシ状付着物及び朱の痕跡が散在的に認められる
SK52	80	1	土師器	蓋	— ・ — ・ —	体部	回転ヘラケズリ、暗文	回転ナデ、暗文	外：にぶい黄橙色 内：橙色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母少)	良	内外面ともスス状ヨゴレ顕著
SK55	81	1	土師器	坏	(12.8) ・ (4.2) ・ 3.5	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	やや粗(赤色粒子多、白色粒子、金色雲母)	良	胎土マーブル状、内面のスス状ヨゴレ顕著、底部内面を中心にやや強く被熱し器面荒れている
SK55	81	2	土師器	皿	(12.4) ・ — ・ (1.9)	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(赤色粒子やや多、白色粒子、金色雲母)	良	胎土マーブル状、内面を中心にスス状ヨゴレ顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK55	81	3	土師器	高台坏	— ・ 10.4 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部削出し高台	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅・ススス状ヨゴレ顕著
SK55	81	4	灰釉陶器	埦	(14.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	浅黄色	密(白・黒色粒子)	良	内面の黒ずみ状ヨゴレ顕著、ウルシ状付着物認められる
SK55	81	5	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ(幅広)	ハケメ(幅広)	灰黄褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも摩滅顕著
SK58	81	1	土師器	坏	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、ミガキ	明赤褐色	密(赤・白色粒子、金色雲母)	良	内外面とも黒ずみ状ヨゴレやや顕著
SK59	81	1	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも被熱し外面の摩滅やや顕著
SK59	81	2	土師器	甕	— ・ (9.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	ナデ	外：にぶい橙色 内：褐灰色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子、金色雲母少)	良	内外面とも器面アバタ状でやや荒れている
SK59	81	3	土師器	鉢	(28.8) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ	ハケメ	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著
SK65	81	1	土師器	坏	— ・ (4.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラナデ	回転ナデ	褐色	密(黒・赤・白色粒子、金色雲母)	良	胎土マーブル状、内外面とも黒ずみ状ヨゴレやや顕著
SK66	81	1	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	褐色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレ・摩滅顕著
SK66	81	2	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(黒・白・赤色粒子)	良	内外面とも器面の剥落・摩滅・ススス状ヨゴレやや顕著
SK66	81	3	灰釉陶器	埦	— ・ 6.4 ・ —	底部	回転ナデ 底部付高台	回転ナデ	浅黄色	密(白・黒色粒子)	良	底部内面非常に滑らか、高台部端部摩耗顕著、身部は丁寧に打ち欠いている、全体に黒ずみ顕著、二次転用されている
SK66	81	4	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	橙色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し器面の変色・荒れ顕著
SK66	81	5	土師器	甕か壺	— ・ (8.0) ・ —	底部	ナデ 底部木葉痕	—	明褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母多)	良	内外面とも強く被熱し内面器面の剥落顕著
SK66	81	6	土師器	鍋か	— ・ (10.0) ・ —	底部	ナデ	ヘラナデ	褐色	密(白・黒色粒子、金色雲母多)	良	外面被熱のため器面やや荒れるが内面の摩耗・摩滅はあまり認められない
SK66	81	7	須恵器	突帯付四耳壺	— ・ (23.6)突帯部位 ・ —	肩部	回転ナデ、突帯	回転ナデ	褐灰色	やや粗(白・黒・赤色粒子)	良	外面の摩滅やや顕著、内面の摩滅はほとんど認められず
SK66	81	8	須恵器	壺	— ・ — ・ —	胴部	カキメ	回転ナデ	外：灰褐色 内：褐灰色	密(白・黒色粒子)	良	外面鉄釉
SK67	81	1	土師器	坏	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母少)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK67	81	2	土師器	坏	(14.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	明褐色	密(黒・赤・白色粒子、金色雲母少)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SK67	81	3	土師器	皿か	(11.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母少)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK67	81	4	土師器	坏	— ・ (8.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(黒・白・赤色粒子、金色雲母少)	良	内面の摩滅、外面のスス状ヨゴレ顕著
SK67	81	5	土師器	鍋か	— ・ — ・ —	胴部	ナデ	ナデ	褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、小礫)	良	内外面とも被熱し器面の変色・ススの付着顕著
SK68	82	1	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ (6.0)身部底径 ・ —	体部～脚部	回転ナデ 底部ナデ	回転ナデ	褐色	密(白・黒色粒子、雲母)	良	やや軟質、内外面とも摩滅顕著
SK74	82	1	灰釉陶器	皿か	— ・ (8.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ、付高台	回転ナデ	灰白色	やや粗(白・黒色粒子、小礫)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SK75	82	1	土師器	坏か皿	— ・ (5.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(黒・白・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅顕著
SK76	82	1	須恵器	壺	— ・ — ・ —	胴部～底部	タタキ 底部ハケメ	ナデ	外：黒褐色 内：褐灰色	やや粗(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩耗・摩滅はあまり認められない
SK80	82	1	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	外：明赤褐色 内：にぶい褐色	やや粗(白色粒子多、黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著、内面下半のスス付着顕著、SK80-2と同一個体の可能性あり
SK80	82	2	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい赤褐色	やや粗(白色粒子多、黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著、内面下半のスス付着顕著、SK80-1と同一個体の可能性あり
SK81	82	1	土師器	鉢か	— ・ (7.0) ・ —	胴部～底部	回転ナデ、ヘラナデ 底部回転糸切り	回転ナデ 底部回転ナデ、沈線	外：橙色 内：にぶい黄橙色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母)	良	外面被熱し器面の変色・ススス状ヨゴレ顕著、内面のススス状ヨゴレも顕著、内面には焼成時に小礫やワラ状繊維が抜けた痕跡が認められみ込み範囲に対し二重の沈線を巡らしている、摩耗・摩滅はあまり顕著ではない
SK81	82	2	土師器	甕	(22.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	明赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも強く被熱し摩滅非常に顕著
SK84	82	1	土師器	柱状高台皿	(9.4) ・ (4.8) ・ 2.4	口縁～高台部	回転ナデ 底部回転糸切り、ワラ状繊維痕	回転ナデ	橙色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子、雲母、小礫)	良	やや軟質、内外面とも摩滅顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK84	82	2	土師器	坏か皿	— ・ (3.4) ・ —	体部～底部	ヘラナデ 底部ヘラナデ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母)	良	内面の摩滅やや顕著
SK84	82	3	灰釉陶器	埦	(16.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	口縁部端部の摩耗顕著
SK84	82	4	土師器	甕	(32.8) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	明赤褐～にぶい赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著
SK84	82	5	土師器	甕か	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ナデ	ハケメ	外：にぶい赤褐色 内：明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母、小礫多)	良	内外面とも摩滅非常に顕著
SK84	82	6	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ナデ	ハケメ	明赤褐～灰褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母、小礫)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著
SK84	82	7	須恵器	壺か	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ヘラナデ	灰色	密(白色粒子)	良	内面の摩滅やや顕著
SK85	83	1	土師器	坏か皿	— ・ (5.4) ・ —	底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子)	良	やや軟質、内外面とも摩滅顕著
SK86	83	1	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ヘラナデ	灰色	やや粗(白色粒子多、小礫)	良	外面の摩耗非常に顕著、二次転用された可能性あり、内面は未使用状態
SK87	83	1	土師器	坏	— ・ — ・ —	体部	ヘラケズリ、ミガキ	回転ナデ、ミガキ	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄褐色	密(白・赤色粒子、金色雲母)	良	内面のスス状ヨゴレ顕著
SK88	83	1	土師器	坏	— ・ (4.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも被熱しスス状ヨゴレ顕著
SK89	83	1	土師器	坏	(22.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅顕著
SK95	83	1	土師器	坏	— ・ (4.3) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(白・赤色粒子)	良	軟質、器面の歪み顕著、内外面の摩滅やや顕著、つくりもやや雑
SK95	83	2	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ — ・ —	坏(皿)底部～脚部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し器面の変色・摩滅顕著
SK95	83	3	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ — ・ —	体部～脚部	回転ナデ	回転ナデ	橙～明褐色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも摩滅顕著
SK95	83	4	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ナデ	赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、小礫、金色雲母)	良	内外面とも被熱し器面の変色・摩滅顕著
SK95	83	5	灰釉陶器	壺	— ・ — ・ —	胴部	回転ヘラケズリ	回転ナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも黒ずみ状ヨゴレ顕著
SK97	83	1	須恵器	壺か	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ヘラナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも黒ずみ状ヨゴレやや顕著、須恵器破片融着
SK106	83	1	土師器	坏	(14.2) ・ (6.4) ・ 5.3	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(白・黒・赤色粒子)	良	底部内面の摩滅やや顕著、内外面ともスス状付着物顕著
SK106	83	2	土師器	甕	— ・ (10.0) ・ —	胴部～底部	ナデ 底部木葉痕	ナデ	外：灰黄褐色 内：にぶい黄橙色	やや粗(白色粒子多、金色雲母多、赤・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK120	83	1	土師器	皿	— ・ (3.4) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも黒変状黒ずみ顕著
SK120	83	2	土師器	坏	— ・ — ・ —	体部	ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(黒・赤・白色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK120	83	3	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	やや粗(白色粒子多、黒色粒子、金色雲母少)	良	内外面とも摩滅顕著、内面器面一部剥落
SK120	83	4	土師器	甕か壺	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ミガキ？	ハケメ、指頭痕	外：明赤褐色 内：明赤褐～黒褐色	密(白色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し外面の摩滅顕著、内面にはオコゲ状スス付着
SK121	83	1	土師器	坏	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ、ヘラナデ	回転ナデ	外：橙色 内：灰黄褐色	密(黒・赤・白色粒子)	良	内面のスス状ヨゴレ顕著
SK121	83	2	土師器	柱状高台坏か皿	— ・ (4.8) ・ —	高台部	回転ナデ 底部回転糸切り、小孔あり	回転ナデ	にぶい黄橙色	やや粗(白色粒子多、黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK121	83	3	土師器	鉢	(10.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	外面のスス状ヨゴレ顕著
SK121	83	4	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	にぶい黄橙色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK121	83	5	土師器	甕	(32.2) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	明赤褐～にぶい赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母、小礫)	良	
SK121	83	6	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ヘラナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子、小礫少)	良	内面下半約1/3の範囲が非常に滑らかで光沢をもつ、二次転用された可能性大
SK122	84	1	土師器	皿	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	密(白・赤色粒子)	良	外面のスス状ヨゴレ顕著
SK122	84	2	土師器	甕か	— ・ (7.4) ・ —	底部	ハケメ、ナデ 底部木葉痕	ヘラナデ	赤褐色	粗(白色粒子多、金色雲母少)	良	内外面ともやや強く被熱し摩滅もやや顕著
SK122	84	3	土師器	カマド形	— ・ — ・ —	庇部	ハケメ、ナデ	ヘラナデ	外：にぶい赤褐色 内：暗褐色	密(黒・白・赤色粒子、金色雲母多)	良	庇部が欠損するが内外面の摩滅等はあまり顕著ではない
SK122	84	4	須恵器	壺	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ	黄灰色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK123	84	1	土師器	坏	(11.7) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	明黄褐色	密(黒・赤・白色粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SK124	84	1	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ヘラナデ	黄灰色	密(白色粒子やや多、黒色粒子多)	良	内面及び外面の一部に摩耗の顕著な範囲あり、特に内面の摩耗範囲は滑らか、外面は内面のそれと対応する位置のタタキ目が部分的に摩耗している、二次転用された可能性大
SK124	84	2	灰釉陶器	壺	— ・ — ・ —	胴部	回転ナデ	回転ナデ	外：灰白色 内：灰黄色	密(白・黒色粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SK124	84	3	灰釉陶器	壺	— ・ — ・ —	胴部	回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SK125	84	1	土師器	坏	(14.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	密(黒・赤・白色粒子)	良	内外面ともスス状付着物やや顕著
SK125	84	2	土師器	高坏	— ・ — ・ —	坏部底部～脚部	回転ナデ	回転ナデ	外：橙色 内：灰黄褐色	密(白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅顕著
SK125	84	3	土師器	甕か	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ナデ	黒色	密(白・黒色粒子)	良	内外面ともスス付着非常に顕著
SK125	84	4	土師器	鉢	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	褐色	密(黒・白・赤色粒子、金色雲母多)	良	外面の摩滅顕著
SK127	84	1	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ナデ	外：にぶい赤褐色 内：褐色	密(白・黒・赤色粒子)	良	内面の器面の荒れ顕著
SK129	84	1	土師器	カマド形か	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	外：黒褐色 内：にぶい赤褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し内面の摩滅やや顕著
SK130	84	1	土師器	坏	— ・ 6.7 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	黄橙色	密(白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著、外面一部黒変化
SK130	84	2	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	底部	回転ナデ 底部回転糸切りか	回転ナデ	橙色	密(白・黒・赤色粒子)	良	軟質、内外面とも摩滅顕著
SK131	85	1	土師器	小皿	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ	回転ナデ	黄橙色	密(白・黒・赤色粒子)	良	台部欠失、内外面とも摩滅顕著
SK131	85	2	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ナデ	ハケメ	外：黒褐色 内：赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内面の摩滅やや顕著、外面のススの付着やや顕著
SK132	85	1	土師器	坏	— ・ (4.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(黒・白・赤色粒子)	良	やや軟質、内外面とも摩滅顕著
SK132	85	2	土師器	高台坏	— ・ 9.2 ・ —	体部～底部	回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ、貼付高台(ケズリ調整)	回転ナデ、暗文	橙色	密(黒・赤・白色粒子)	良	外面の摩滅顕著
SK132	85	3	土師器	羽釜	(21.4) ・ — ・ —	口縁～鍔部	ナデ	ナデ	灰褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも摩滅顕著
SK133	85	1	土師器	小皿（刻書土器）	(8.4) ・ 4.6 ・ 2.2	3/4残存	回転ナデ、ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ、線刻	橙色	やや粗(金色雲母多、白・赤色粒子)	やや不良	やや軟質、内面に線刻あり、線刻は浅く内面の摩滅もやや顕著
SK133	85	2	土師器	小皿	8.5 ・ 4.0 ・ 2.6	略完形	回転ナデ、ヘラナデ 底部回転糸切り	回転ナデ、ナデ	明赤褐色	やや粗(金色雲母多、白・黒色粒子)	良	やや軟質でつくりは雑、口縁部の一部を欠く程度で内外面とも摩滅はほとんど認められない
SK133	85	3	土師器	小皿	(9.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	外：黒褐色 内：褐色	密(白色粒子多、黒・赤色粒子)	やや良	内外面とも摩滅やや顕著
SK133	85	4	土師器	坏	— ・ (4.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：黒色 内：黄橙～暗褐色	密(赤色粒子やや多、白色粒子)	やや良	外面二次的に黒変化している
SK133	85	5	土師器	小皿	— ・ 4.8 ・ —	胴部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙～褐色	やや粗(白色粒子やや多、赤・黒色粒子、金色雲母)	不良	やや軟質、内外面とも摩滅やや顕著
SK133	85	6	土師器	小皿	— ・ 5.2 ・ —	胴部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙～にぶい赤褐～黒褐色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子、金色雲母)	不良	やや軟質、内外面とも摩滅やや顕著
SK133	85	7	土師器	小皿	— ・ (4.0) ・ —	底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	赤褐色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子少)	不良	内外面とも摩滅顕著
SK133	85	8	土師器	小皿か	— ・ (4.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：明赤褐～黒褐色 内：明赤褐色	密(赤・白・黒色粒子)	良	やや軟質、内外面とも摩滅・ススス状ヨゴレ顕著
SK133	85	9	土師器	皿か	— ・ (6.4) ・ —	胴部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：赤褐色 内：明赤褐色	密(白色粒子多、赤・黒色粒子)	不良	やや軟質、内外面とも摩滅やや顕著
SK133	85	10	土師器	皿か	— ・ (6.4) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(赤色粒子多、白・黒色粒子)	やや良	内面の摩耗・器面の荒れやや顕著
SK133	85	11	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙～黒褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母少)	やや不良	内外面とも摩滅・ススス状ヨゴレ顕著
SK133	85	12	灰釉陶器	埦	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著、釉はツケ掛け
SK133	85	13	土師器	鍋	— ・ — ・ —	胴部	ナデ	ナデか	外：黒褐色 内：褐色	密(金色雲母多、白・黒色粒子)	やや良	内外面とも被熱し内面の摩滅・外面ススス付着顕著
SK133	85	14	須恵器	壺	— ・ — ・ —	頸部	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩耗・摩滅はほとんど認められない

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK133	85	15	須恵器	甕か	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ	灰白色	やや密(黒・白色粒子)	やや良	内面やや滑らか、二次転用されている、外面のタタキ目も摩耗顕著
SK133	85	16	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ	外：灰白色 内：灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著、二次転用されていない
SK133	85	17	須恵器	壺か	— ・ — ・ —	底部	底部回転糸切り	回転ナデ	外：灰オリーブ～浅黄色 内：灰色	密(白色粒子やや多、黒色粒子)	良	内面の摩滅やや顕著
SK133	86	18	平瓦	—	現存長[14.0] ・ 現存最大幅[11.7] ・ 端部厚1.9	—	凹面：布目、使用痕あり	凸面：縄(平行)タタキ 端部側面：ヘラケズリ	灰色	やや粗(白色粒子多、黒色粒子少)	やや良	側縁の一部を故意に打ち欠く、凹面は布目が消えるほど摩耗し非常に滑らか、凸面のタタキ目がつぶれるほど摩耗している、これは接地の際の摩耗であろう、凸面の磨面の縁辺には墨痕状の付着物やヨゴレが顕著、二次転用されている
SK134	86	1	土師器	柱状高台皿	(16.2) ・ — ・ 5.7	口縁～底部	回転ナデ 底部不明	回転ナデ	橙色	密(白・赤色粒子、金色雲母)	不良	やや軟質、内外面とも器面の剥落・摩滅・スス状ヨゴレ顕著
SK134	86	2	土師器	小皿	(9.6) ・ (6.0) ・ 2.4	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙～褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	不良	軟質、内外面とも摩滅非常に顕著
SK134	86	3	土師器	柱状高台坏か皿	— ・ 4.6 ・ —	坏(皿)底部～高台部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明褐～褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	やや不良	軟質、内外面とも摩滅顕著、内外面にそれぞれ直径6㎜ほどの小孔あり
SK134	86	4	土師器	柱状高台坏か皿	— ・ (5.9) ・ —	坏(皿)底部～高台部	回転ナデ 底部回転糸切り	—	橙色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子)	不良	軟質、内外面とも摩滅顕著
SK134	86	5	土師器	甕	(28.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ヘラナデ、ハケメ	ハケメ、ヘラナデ	赤褐～黒褐色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SK135	86	1	土師器	柱状高台皿	(8.5) ・ (5.5) ・ 2.7	口縁～高台部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙～黒褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	やや不良	やや軟質、内外面とも摩滅・スス状ヨゴレ顕著
SK139	86	1	土師器	坏	— ・ (8.0) ・ —	底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	ナデ	橙色	密(白・赤色粒子)	やや良	内外面とも摩滅やや顕著
SK139	86	2	須恵器	坏	— ・ 6.0 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	暗青灰色	密(白色粒子やや多)	良	内外面とも摩耗・摩滅はほとんど認められないが割れ口の状況から体部は故意に打ち欠かれた可能性が強い
SK140	86	1	須恵器	甕か	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK140	86	2	平瓦	—	現存長[8.0] ・ 現存最大幅[12.9] ・ 端部厚1.3～1.7	—	凹面：糸切り痕	凸面：糸切り痕、ヘラナデ、ナデ 端部側面：ヘラケズリ	黒色	やや粗(白色粒子多、金色雲母少)	やや不良	凹面の摩耗やや顕著で滑らか、内面全体を磨面として使用、特に付着物は認められない、凸面は自然の摩滅が顕著だが器面が部分的に剥落している
SK141	87	1	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい赤褐色	やや粗(黒色粒子多、白色粒子、小礫、金色雲母)	良	内面の摩滅顕著
SK143	87	1	土師器	皿	(8.0) ・ (4.2) ・ 2.9	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母、小礫)	良	内外面とも摩滅顕著
SK146	87	1	土師器	皿	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤色粒子多、白色粒子)	良	胎土マーブル状、内面の摩滅顕著
SK146	87	2	土師器	皿	— ・ (6.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内面の摩滅顕著
SK146	87	3	土師器	甕	(35.4) ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、小礫多)	良	内外面とも摩滅顕著
SK146	87	4	土師器	塝	(25.6) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK148	87	1	土師器	小皿	(8.2) ・ (5.2) ・ 1.6	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：灰黄褐色 内：橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも摩滅顕著、SK148で取上げ掲載するが本来はSK342に伴うもの
SK148	87	2	土師器	坏	— ・ 4.4 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅顕著
SK148	87	3	土師器	坏	— ・ (4.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(白・黒・赤色粒子、小礫少)	良	底部内面器面の荒れ非常に顕著
SK149	87	1	土師器	坏	(12.1) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面ともスス付着物あり、使用痕跡は希薄
SK149	87	2	土師器	坏	— ・ (6.4) ・ —	体部～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK149	87	3	土師器	坏	— ・ (5.2) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SK149	87	4	須恵器	坏	— ・ (6.3) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	軟質、内外面とも摩滅顕著
SK149	87	5	灰釉陶器	埦	— ・ (5.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ、付高台	回転ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内面摩耗顕著で滑らか、黒ずみ状ヨゴレも顕著、使用痕跡あり、高台部端部の摩耗も顕著、二次転用された可能性大
SK151	87	1	土師器	坏	(13.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	口縁部内外面に油煙痕跡あり

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK151	87	2	土師器	坏	— ・ (4.6) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	良	
SK151	87	3	土師器	鉢	(38.8) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	外：黒褐色 内：にぶい赤褐色	やや粗(白色粒子多、金色雲母、黒・赤色粒子、小礫)	良	内面の摩滅・外面のスス付着顕著
SK151	87	4	土師器	塝	— ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	外：黒褐～灰褐色 内：明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母、小礫)	良	粗いつくり、内外面とも摩滅顕著
SK151	87	5	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ	ハケメ	外：橙色 内：黒褐～褐灰色	やや粗(白・黒色粒子、雲母、小礫)	良	内外面とも強く被熱し摩滅顕著
SK151	87	6	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	タタキ、ナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩耗痕跡は認められない
SK152	88	1	土師器	脚高高台皿	(12.0) ・ 7.1 ・ 2.9	口縁～脚部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母粒子)	良	身部内外面のスス付着顕著、摩耗痕は希薄
SK152	88	2	土師器	脚高高台皿	(11.8) ・ 7.0 ・ 2.8	口縁～脚部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(白・黒色粒子、金色雲母粒子)	良	やや軟質、内外面とも摩耗痕は希薄で摩滅はやや顕著
SK153	88	1	土師器	坏	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	にぶい黄橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	外面の器面の荒れ顕著
SK153	88	2	土師器	甕	— ・ (9.6) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ナデ 底部木葉痕	ナデ	明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも強く被熱し内面の摩滅顕著
SK154	88	1	土師器	鉢	(20.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母粒子)	良	内面の摩耗やや顕著
SK158	88	1	土師器	皿	(11.8) ・ (5.0) ・ 2.15	口縁～底部	回転ナデ、ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母粒子)	良	内面のスス付着物顕著
SK158	88	2	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	にぶい赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも被熱し内面の摩耗やや顕著
SK163	88	1	土師器	羽釜	(29.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ	ハケメ、指頭痕	橙色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し内面の摩耗やや顕著
SK164	88	1	土師器	皿	— ・ (4.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK164	88	2	灰釉陶器	塊	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩耗痕跡あまり認められない
SK164	88	3	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ	ナデ	明赤褐色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子、小礫)	良	内面の器面の荒れ非常に顕著
SK164	88	4	灰釉陶器	壺	— ・ — ・ —	胴部	回転ヘラケズリ、回転ナデ	回転ナデ	灰色 釉：灰オリーブ色	やや粗(白色粒子多、黒・赤色粒子、小礫)	良	やや雑なつくり
SK165	88	1	須恵器	鉢	— ・ (20.0) ・ —	底部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい褐色	密(白・黒色粒子)	良	内面黒ずみ状ヨゴレやや顕著、摩耗痕は希薄
SK166	88	1	土師器	坏	— ・ (6.4) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラナデ 底部回転糸切り、ヘラナデ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著、摩耗痕は希薄
SK168	89	1	土師器	坏	(16.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	緻密(赤・黒・白色粒子、雲母)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SK168	89	2	土師器	坏	— ・ 4.6 ・ —	底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	浅黄橙色	密(赤・黒・白色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK168	89	3	土師器	高台坏	— ・ (8.0) ・ —	底部	回転糸切り、回転ヘラケズリ、削出し高台	回転ナデ、暗文	橙色	緻密(赤・黒・白色粒子)	良	内外面とも被熱し摩滅もやや顕著
SK168	89	4	土師器	坏	— ・ (8.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ミガキ 底部回転ヘラケズリ、ミガキ	回転ナデ、暗文	外：にぶい褐色 内：明赤褐色	緻密(白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色・スス付着顕著
SK168	89	5	土師器	坏	— ・ — ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、ミガキ	にぶい黄橙色	緻密(赤色粒子、雲母、白・黒色粒子)	良	内面のスス付着顕著
SK168	89	6	土師器	蓋	(18.0) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・黒・白色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK168	89	7	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ、指頭痕	にぶい赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも強く被熱し器面の摩滅・スス付着顕著
SK172	89	1	土師器	脚高高台坏	9.0 ・ (5.4) ・ 3.35	口縁～脚部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	軟質、内外面とも強く被熱し摩滅非常に顕著
SK172	89	2	土師器	坏か	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	にぶい黄橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面ともスス状ヨゴレ顕著、内面は摩耗も顕著
SK172	89	3	土師器	小皿か	— ・ (4.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも被熱し内面の黒ずみ顕著、摩滅も顕著
SK172	89	4	土師器	小皿か	— ・ (5.0) ・ —	底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK172	89	5	須恵器	高台坏	— ・ (10.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ、回転ヘラケズリ、付高台	回転ナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩耗・摩滅ほとんど認められない
SK174	89	1	土師器	坏	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(黒・白・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面ともスス状ヨゴレ顕著
SK174	89	2	土師器	坏	— ・ (10.0) ・ —	体部～底部	ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	外面被熱し器面の剥落・摩滅・スス付着顕著
SK174	89	3	須恵器	蓋	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面ともヨゴレやや顕著
SK174	89	4	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	にぶい赤褐色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・スス付着顕著
SK174	89	5	土師器	カマド形	— ・ — ・ —	底部	ナデ	ナデ	外：黒色 内：赤褐色	密(白・黒色粒子、金色雲母やや多)	良	内外面とも強く被熱し外面のスス付着非常に顕著
SK176	89	1	土師器	坏	8.8 ・ 4.8 ・ 2.45	4/5残存	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	軟質、内外面とも被熱し器面の変色・スス状ヨゴレ・摩滅顕著
SK176	89	2	土師器	坏	9.0 ・ 4.8 ・ 2.45	略完形	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	やや軟質、内外面とも弱く被熱し底部内外面のスス付着・摩滅やや顕著
SK176	89	3	土師器	坏	(10.0) ・ — ・ —	体部～底部	回転ナデ、ミガキ 底部ヘラケズリ、ミガキ	回転ナデ、ミガキ	褐色	緻密(黒・白色粒子、雲母、赤色粒子)	良	内外面とも被熱しスス状ヨゴレやや顕著
SK176	89	4	土師器	小形甕	(17.2) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶい赤褐色	やや粗(金色雲母、白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも強く被熱し器面の摩滅・黒変顕著
SK176	89	5	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	明赤褐色	やや粗(金色雲母、白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の黒変化顕著
SK182	89	1	土師器	皿か	— ・ (4.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ、ナデ	橙色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著だが使用痕跡はほとんど認められない
SK184	90	1	土師器	坏	8.8 ・ 4.4 ・ 2.6	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(小礫、白・黒・赤色粒子少、金色雲母少)	良	軟質、雑なつくり、器形の歪み顕著、外面を中心被熱しており器面の変色・摩滅顕著
SK184	90	2	土師器	坏(墨書土器)	(10.9) ・ (5.8) ・ 4.1	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ、墨書	回転ナデ、暗文	明赤褐色	緻密(赤・白・黒色粒子)	良	外面に墨書あり、判読不可、墨痕極めて薄い、二文字か、文字は端正、「□□」原ヵ？、底部外面の磨耗顕著
SK184	90	3	土師器	坏(墨書土器)	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ、墨書	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(赤・黒・白色粒子、雲母)	良	底外に墨書あり、判読不可、墨痕鮮明だがカスレる、内外面の摩滅やや顕著
SK184	90	4	土師器	坏	— ・ (8.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	緻密(白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも被熱しスス状ヨゴレやや顕著
SK184	90	5	土師器	蓋	(11.4) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ、回転ヘラケズリ、暗文	回転ナデ、暗文	橙色	緻密(金色雲母、赤・黒・白色粒子、雲母)	良	内外面とも磨耗・摩滅ほとんど認められない
SK184	90	6	土師器	釜	(24.4) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ	ナデ	明赤褐色	やや密(白・黒色粒子、金色雲母、赤色粒子)	良	内外面とも被熱し内面のスス状ヨゴレ顕著
SK184	90	7	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	ナデ	ナデ、ハケメ	明赤褐色	やや粗(金色雲母、白・黒・赤色粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレ顕著
SK184	90	8	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、赤色粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレ顕著
SK184	90	9	土師器	堝	— ・ — ・ —	胴部	ナデ	ナデ	外：黒褐色 内：暗褐色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	外面のスス付着・内面の荒れ顕著
SK184	90	10	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	明赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・摩滅・スス状ヨゴレ顕著
SK184	90	11	須恵器	壺	— ・ — ・ —	胴部	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	密(白・黒色粒子)	良	外面の摩滅顕著
SK188	90	1	土師器	坏	(12.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい黄橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	やや軟質、内外面とも摩滅顕著
SK188	90	2	土師器	坏	— ・ 5.0 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	にぶい橙色	やや粗(白・黒色粒子、雲母、赤色粒子)	良	やや軟質、内面のスス状ヨゴレ・外面の摩滅顕著
SK190	90	1	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ナデ、ハケメ、指頭痕	赤褐色	やや粗(金色雲母、白・黒色粒子)	良	内外面とも強く被熱し器面の荒れ顕著
SK193	90	1	土師器	坏	(13.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(大粒の赤色粒子、白・黒色粒子)	良	内外面とも被熱し内面は荒れアバタ状を呈する
SK196	90	1	土師器	鉢	(19.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	にぶい褐色	緻密(白・黒色粒子、金色雲母、赤色粒子)	良	内外面とも被熱し外面の器面の荒れ・内面の黒変化顕著、外面は体部下半部が約2cmの幅で帯状に器面が剥落している、内面は二次的に黒変化するが摩耗・摩滅はあまりみられない
SK196	90	2	土師器	羽釜か	— ・ — ・ —	口縁部	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	口縁部尖頭部の摩耗やや顕著
SK196	90	3	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ナデ	ハケメ	赤褐色	粗(2～4mmの小礫、白色粒子、雲母、黒・赤色粒子)	良	内外面とも強く被熱し外面の器面の荒れ・ススの付着顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK199	90	1	土師器	坏	— ・ 5.0 ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(赤・白・黒色粒子)	良	胎土マーブル状、内外面の摩滅やや顕著
SK199	90	2	土師器	坏	— ・ 5.8 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	ナデ	明褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	軟質、内外面とも摩滅顕著
SK200	90	1	土師器	甕	(25.6) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	明褐色	やや粗(白・黒色粒子多、金色雲母、小礫)	良	内外面とも摩滅顕著
SK202	91	1	土師器	坏	(15.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	外：橙色 内：にぶい黄橙色	やや粗(黒・赤・白色粒子)	良	外面の摩滅やや顕著
SK202	91	2	土師器	坏	(12.1) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	明黄褐色	密(黒・白・赤色粒子)	良	外面の摩滅顕著、内面の暗文明瞭
SK202	91	3	土師器	埦	(13.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	密(黒・赤・白色粒子、金色雲母粒子)	良	内面の器面変色顕著
SK202	91	4	緑釉陶器	段皿	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ	回転ナデ	オリーブ灰色	密(黒・白色粒子)	良	内外面ともやや黒ずんでいる
SK206	91	1	土師器	坏	11.3 ・ 6.0 ・ 4.3	略完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	やや粗(黒・白・赤色粒子、金色雲母粒子)	良	内外面とも摩滅はほとんど認められないが内部の一箇所のみに油煙付着、その周辺部分のみ器面アバタ状に荒れる、土器全体の欠損状況からさらに油煙付着部分のみを故意に打ち欠いている可能性が高い
SK206	91	2	土師器	坏	(11.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著、口縁部内面に油煙薄く付着
SK206	91	3	土師器	坏	— ・ (7.0) ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母粒子)	良	外面の摩滅やや顕著
SK206	91	4	土師器	皿	— ・ (4.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	やや粗(赤色粒子多、白・黒色粒子、金色雲母)	良	内面のみ摩滅やや顕著
SK206	91	5	土師器	高台坏か皿	— ・ (6.0) ・ —	坏(皿)底部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	やや粗(白色粒子多、赤色粒子少、金色雲母粒子)	良	やや軟質、内外面とも摩滅非常に顕著、内面部分的に黒変
SK206	91	6	須恵器	坏	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	浅黄橙色	やや粗(黒・白・赤色粒子)	良	外面の摩滅顕著、内面は底部中央部分の磨耗顕著
SK206	91	7	須恵器	蓋	(16.0) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ	回転ナデ	暗灰褐色	やや粗(黒・白色粒子)	良	体部外面の口縁部端1cm幅で黒変、使用痕跡はなく摩滅やや顕著
SK206	91	8	土師器	埦	(34.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ	ナデ、指頭痕	外：黒褐色 内：にぶい赤褐色	やや粗(白色粒子多、黒色粒子、金色雲母)	良	外面のスス付着顕著
SK206	91	9	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ナデ	ナデ、ハケメ	外：黒褐色 内：にぶい赤褐色	密(白色粒子多、黒色粒子、金色雲母)	良	外面のスス付着・内面の器面の荒れ顕著
SK207	91	1	土師器	坏	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	密(黒・赤・白色粒子)	良	内面のスス状ヨゴレ・外面の摩滅顕著
SK207	91	2	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(黒・白・赤色粒子)	良	
SK207	91	3	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・黒・白色粒子)	良	底部外面の器面アバタ状に荒れる
SK209	91	1	土師器	坏	(14.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK209	91	2	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	にぶい赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	外面被熱し器面の変色やや顕著
SK210	91	1	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母粒子)	良	底部内面の摩滅顕著、二次転用された可能性大
SK210	91	2	土師器	高台坏(黒色土器)	— ・ (8.2) ・ —	体部～底部	回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ、付高台(ケズリ調整)	回転ナデ、暗文	外：明赤褐色 内：黒色	密(黒・赤色粒子)	良	胎土マーブル状、内面黒色処理、高台部の摩滅ややや顕著
SK210	91	3	土師器	埦	(26.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ	ナデ	外：黒色 内：褐色	粗(白色粒子、少礫多、黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱のためか摩滅顕著
SK210	91	4	土師器	埦	— ・ — ・ —	把手部	ナデ	ナデ、指頭痕	にぶい赤褐色	やや粗(白色粒子多、少礫)	良	外面被熱し器面の変色やや顕著
SK210	91	5	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ナデ、ハケメ	ナデ	灰褐色	密(金色雲母多、白・黒色粒子)	良	外面のスス付着・内面の器面の荒れ非常に顕著
SK210	92	6	灰釉陶器	壺	— ・ — ・ —	胴部	回転ヘラケズリ	回転ナデ	浅黄色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも黒ずみ状ヨゴレ顕著
SK210	92	7	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	ナデ	ナデ	灰色	密(白・黒色粒子)	良	甕肩部破片、内外面ともに使用痕跡あり、内面は光沢を持つほど滑らか、外面はタタキ目が摩耗している
SK210	92	8	—	羽口	厚2.7 ・ 径8.0 ・ —	先端部付近	ヘラケズリ？	ナデ	外：黒褐色 内：橙色	密(白・赤色粒子)	良	羽口先端部破片、溶解鉄の付着非常に顕著、孔の断面形態は卵形か
SK211	92	1	土師器	坏	12.5 ・ 5.2 ・ 3.9	完形	回転ナデ 底部回転糸切り、ワラ状繊維痕	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母粒子)	良	内面を中心に油煙および黒ずみ非常に顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK211	92	2	土師器	柱状高台坏か皿	— ・ — ・ —	高台部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	やや軟質、底部に孔、全体に摩滅顕著
SK211	92	3	土師器	埦	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ	ナデ	褐色	密(白・黒色粒子、金色雲母)	良	内面の器面の荒れ顕著
SK211	92	4	土師器	埦	— ・ — ・ —	底部	木葉痕	ナデ	外：明赤褐色 内：にぶい黄橙色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	外面強く被熱
SK213	92	1	土師器	坏	— ・ 5.8 ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ナデ	回転ナデ	橙色	緻密(赤・黒・白色粒子、雲母)	良	胎土マーブル状、内外面ともに摩滅やや顕著
SK214	92	1	土師器	柱状高台坏か皿	— ・ 5.6 ・ —	坏(皿)底部～高台部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子)	良	やや軟質、内外面ともに摩滅顕著
SK214	92	2	土師器	蓋	つまみ径2.6 ・ — ・ —	つまみ部～体部	回転ヘラケズリ、回転ナデ、暗文	回転ナデ、暗文	外：明赤褐色 内：橙色	緻密(赤・黒色粒子、金色雲母、白色粒子)	良	やや軟質、内外面ともに摩滅やや顕著
SK214	92	3	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	外：明赤褐色 内：にぶい褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内面の摩滅顕著
SK216	92	1	土師器	坏	(13.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅顕著
SK216	92	2	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ナデ	にぶい褐色	やや粗(金色雲母、白・黒色粒子)	良	内面の器面の荒れ顕著
SK218	92	1	土師器	坏	(18.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、ミガキ	橙色	密(赤・黒・白色粒子、雲母)	良	外面の摩滅やや顕著
SK220	92	1	土師器	坏	11.3 ・ 5.6 ・ 4.6	略完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	緻密(赤・黒・白色粒子、雲母)	良	内外面とも摩耗・摩滅がほとんど認められないが底部内面から体部内面下半部にかけて摩耗痕跡や器面の変色が認められる
SK221	93	1	土師器	皿(墨書土器)	15.3 ・ 4.6 ・ 2.2	略完形	回転ナデ、ミガキ 底部回転糸切り、墨書	回転ナデ、暗文	明赤褐色	緻密(金色雲母、白・赤・黒色粒子)	良	底外に墨書「上」、墨痕やや薄い、中心よりはずれ端に記載、内面全体スス状ヨゴレやや顕著、口縁部端部の摩滅顕著
SK221	93	2	土師器	坏	(11.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤色粒子、金色雲母、黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK221	93	3	土師器	甕	— ・ (9.0) ・ —	胴部～底部	ナデ、ハケメ 底部木葉痕	ナデ	褐色	やや粗(金色雲母、黒・白・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅顕著
SK222	93	1	土師器	坏(灯明具)	14.0 ・ 5.0 ・ 4.15	完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	口縁部における油煙の付着顕著、灯芯を安定させるためか、口唇部を故意に打ち欠く箇所あり、体部内面口縁部付近の器面は散在的に被熱のためかアバタ状に剥落している
SK222	93	2	土師器	甕	— ・ (7.0) ・ —	胴部～底部	ナデ、ハケメ 底部木葉痕	ナデ、ハケメ	外：褐色 内：明赤褐色	やや粗(白色粒子、金色雲母、黒・赤色粒子)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著
SK223	93	1	土師器	甕	— ・ (8.4) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ナデ 底部木葉痕	ナデ、ハケメ	にぶい黄褐色	やや粗(金色雲母、白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅顕著
SK224	93	1	土師器	坏	(11.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	にぶい赤褐色	密(白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅・内面のスス状ヨゴレやや顕著
SK224	93	2	土師器	羽釜	鍔径(29.0) ・ — ・ —	鍔部	ナデ	ハケメ	明赤褐色	やや粗(金色雲母、白・黒・赤色粒子)	良	鍔部下面におけるススの付着顕著
SK224	93	3	土師器	カマド形	— ・ — ・ —	口縁～庇部	ナデ、ハケメ	ハケメ	明赤褐色	やや粗(金色雲母、黒・白・赤色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著、庇部内面および内面におけるススの付着顕著
SK225	93	1	土師器	坏	(10.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	橙色	緻密(白・赤・黒色粒子)	良	内面のスス状ヨゴレ顕著
SK225	93	2	土師器	坏	(12.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	良	やや軟質、内外面とも摩滅やや顕著
SK225	93	3	土師器	坏	(21.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、ミガキ	明赤褐色	緻密(白・黒・赤色粒子)	良	外面のスス状ヨゴレやや顕著
SK225	93	4	須恵器	坏	(15.2) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	灰色	緻密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅ほとんど認められない
SK226	93	1	土師器	小皿	— ・ 3.4 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	にぶい黄橙色	やや粗(白・黒・赤色粒子)	良	やや軟質、内外面の摩滅・器面の荒れやや顕著
SK229	93	1	土師器	坏	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・黒・赤色粒子)	良	内外面の摩滅・外面のススの付着顕著
SK229	93	2	土師器	甕	— ・ (7.0) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ヘラケズリ	ハケメ、ナデ	赤褐色	やや粗(白色粒子、金色雲母、黒・赤色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の剥落やや顕著
SK229	93	3	土師器	壺か	— ・ (8.0) ・ —	胴部～底部	ナデ 底部木葉痕	ナデ	明赤褐色	密(白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK230	94	1	土師器	坏	13.0 ・ 4.0 ・ 3.55	完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	外：明赤褐色 内：橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも器面の変色が認められるが摩耗・摩滅はほとんど認められない

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK230	94	2	土師器	坏	11.6 ・ 6.0 ・ 3.55	完形	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・黒色粒子)	良	厚手なつくり、口縁部内面の一部にスス付着、体部外面上半と下半の器面の変色顕著、摩耗・摩滅はほとんど認められない
SK230	94	3	土師器	カマド形	— ・ — ・ —	底部	ハケメ、ナデ、指頭痕	ナデ	明赤褐色	やや粗(金色雲母、白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも被熱し内面の器面の荒れやや顕著
SK234	94	1	土師器	坏	(11.2) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(黒・白・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK235	94	1	土師器	坏	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り、ナデ	回転ナデ	明赤褐色	密(白色粒子、雲母、黒・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK235	94	2	須恵器	鉢	胴最大径(17.0) ・ — ・ —	胴部	回転ナデ	回転ナデ	暗灰黄色	密(白・黒色粒子)	良	
SK241	94	1	土師器	甕	— ・ (6.0) ・ —	胴部～底部	ナデ 底部木葉痕	ハケメ	にぶい赤褐色	やや粗(金色雲母、白・黒・赤色粒子)	良	
SK241	94	2	須恵器	壺	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ハケ状工具によるナデ、指頭痕	褐灰色	密(白・黒色粒子、雲母)	良	内面使用痕跡あり、全体やや黒ずむ、外面のタタキ目も散在的に摩耗
SK244	94	1	土師器	小形壺	(10.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ	ナデ	赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	内面が黒く変色している
SK246	94	1	土師器	坏	(10.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	緻密(黒・白・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK246	94	2	土師器	蓋	最大径3.3 ・ — ・ —	つまみ部	回転ナデ	暗文	明赤褐色	緻密(赤・黒・白色粒子、雲母)	良	外面を中心に摩滅やや顕著
SK246	94	3	土師器	甕	— ・ (8.0) ・ —	胴部～底部	ハケメ 底部木葉痕	ナデ	暗褐色	やや粗(金色雲母、白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK246	94	4	須恵器	甕か	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ハケメ	褐灰色	密(白・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも使用痕跡希薄
SK247	94	1	土師器	坏	(13.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも使用痕跡希薄
SK247	94	2	土師器	坏	(14.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・黒・白色粒子、雲母)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SK247	94	3	土師器	坏	(16.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	灰褐色	密(白・黒色粒子、雲母、赤色粒子)	良	口縁部端部の摩耗やや顕著、内面スス状ヨゴレやや顕著
SK247	94	4	土師器	坏(内面黒色)	(15.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内面黒色処理、外面の摩滅やや顕著
SK247	94	5	土師器	鉢か	— ・ — ・ —	胴部	ヘラケズリ	回転ナデ	外：にぶい褐色 内：にぶい黄橙色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内面被熱し器面アバタ状に荒れている
SK247	94	6	灰釉陶器	皿	(14.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色	緻密(白・黒色粒子)	良	釉刷毛塗り、内外面ともスス状ヨゴレやや顕著、内面釉が剥がれ摩耗しやや滑らかな範囲あり、二次転用に伴うものか
SK247	94	7	土師器	甕	(27.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶい褐色	粗(白・黒色粒子、雲母、赤色粒子)	良	外面白色粘土付着顕著
SK247	94	8	土師器	甕	— ・ (13.0) ・ —	底部	ナデ	ナデ	にぶい褐色	粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著
SK248	95	1	土師器	坏	(12.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	外：灰黄褐色 内：明赤褐色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK248	95	2	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ナデ	ナデ、ハケメ	にぶい赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、赤色粒子)	良	内外面とも摩滅顕著
SK252	95	1	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ、ナデ	タタキ、ナデ	灰色	密(白・黒・赤色粒子)	良	外面の摩滅やや顕著
SK257	95	1	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ、指頭痕	明赤褐色	やや粗(金色雲母多、白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも被熱しスス付着が認められるが摩耗・摩滅はほとんど認められない
SK257	95	2	須恵器	壺	— ・ — ・ —	肩部～胴部	回転ナデ	回転ナデ	灰色	やや粗(白・黒色粒子)	良	外面の摩滅やや顕著
SK258	95	1	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ナデ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(赤・黒・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK258	95	2	土師器	坏(刻書土器)	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部ナデ、線刻	回転ナデ	橙色	緻密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレ・摩滅やや顕著、底外～体外にかけて線刻あり、底外部の線刻は細くやや深め
SK258	95	3	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	明赤褐色	密(白・黒・赤色粒子)	良	内面の摩滅やや顕著
SK258	95	4	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	明赤褐色	粗(金色雲母、白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK258	95	5	須恵器	壺	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色	やや粗(白・黒色粒子、小礫少)	良	内外面とも摩滅等はほとんど認められない
SK258	95	6	須恵器	壺	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	タタキ	黄灰色	緻密(黒・白色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅等はほとんど認められないが内面の黒ずみやや顕著
SK259	95	1	土師器	坏	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	橙色	緻密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅やや顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK259	95	2	土師器	蓋	(16.8) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ、暗文	回転ナデ	橙色	緻密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK260	95	1	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	ナデ、タタキ	タタキ	灰色	密(白・黒色粒子、雲母、小礫少)	良	外面の摩滅やや顕著
SK260	95	2	須恵器	甕か	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ハケメ、ナデ	灰色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	外面鉄釉風、内外面ともに円形・楕円形状の敲打痕あり、内面の摩滅やや顕著
SK261	96	1	土師器	坏	(13.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	外：明赤褐色 内：褐色	やや粗(金色雲母、白・赤色粒子)	やや不良	内外面とも被熱し割れ口までスス付着
SK261	96	2	土師器	坏か皿	(15.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	外：橙色 内：黄橙色	密(赤色粒子多、白色粒子少、雲母少)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK261	96	3	土師器	高台坏	— ・ (7.2) ・ —	体部～底部	回転ヘラケズリ 底部回転糸切り、貼付高台(ケズリ調整)	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白色粒子少、金色雲母微、赤色粒子微)	やや良	内外面とも摩滅やや顕著
SK261	96	4	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ヘラケズリ	ヘラナデ	外：赤褐色 内：橙色	密(白色粒子多、黒・赤色粒子少)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK262	96	1	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ヘラナデ	ナデ、ハケメ	外：明赤褐色 内：にぶい橙色	やや粗(金色雲母多、白・黒色粒子、赤色粒子微)	良	内面の摩滅非常に顕著
SK263	96	1	土師器	坏	— ・ — ・ —	底部	ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	外：暗褐色 内：にぶい黄橙色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母)	良	内面の摩耗やや顕著
SK263	96	2	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ヘラナデ	外：赤褐色 内：にぶい赤褐色	やや粗(金色雲母多、白・黒色粒子)	良	内外面とも強く被熱
SK264	96	1	土師器	坏	(11.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	橙色	密(雲母微、黒色粒子微)	良	口縁部端部の摩耗顕著
SK264	96	2	土師器	坏	(12.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	外：明赤褐～にぶい黄橙色 内：明赤褐色	やや密(白・黒色粒子、金色雲母、赤色粒子)	やや良	内外面とも被熱し外面器面変色顕著
SK264	96	3	土師器	坏(墨書土器)	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ、ヘラケズリ、墨書	回転ナデ、暗文	赤褐色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母)	良	体外に墨書、判読不可、墨痕薄い、内外面の摩滅やや顕著
SK264	96	4	土師器	坏か皿	— ・ — ・ —	底部	回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	やや密(赤色粒子多、白色粒子少、金色雲母微)	やや良	内外面とも摩耗やや顕著
SK264	96	5	土師器	甕	(20.0) ・ — ・ —	口縁部	回転ナデ	回転ナデ	外：黒褐～明黄褐色 内：明黄褐色	密(白色粒子多、赤色粒子少、金色雲母少)	良	内面の器面の荒れやや顕著
SK266	96	1	土師器	坏	(14.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(赤・白色粒子、金色雲母)	良	丁寧なつくりとミガキ、内面のスス状ヨゴレやや顕著
SK266	96	2	土師器	坏	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ、ヘラケズリ、ミガキ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤色粒子多、白色粒子)	良	硬質感あり、外面の摩滅やや顕著
SK267	96	1	土師器	鉢	(15.2) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ミガキ	カキメ状回転ナデ	外：明赤褐色 内：橙色	密(赤色粒子、金色雲母、白色粒子)	良	やや軟質、内面の摩耗やや顕著
SK267	96	2	土師器	鉢	— ・ (8.4) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	カキメ状回転ナデ	外：明赤褐色 内：橙色	密(赤色粒子多、金色雲母、白色粒子少)	やや不良	やや軟質、1と同一の底部の可能性大、内面の摩耗やや顕著
SK267	96	3	土師器	坏(墨書・刻書土器)	— ・ (8.2) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ、墨書・線刻	回転ナデ、暗文	外：明赤褐色 内：橙色	密(赤・白色粒子、金色雲母)	やや不良	やや軟質、内外面とも摩耗顕著、底外に線刻あり墨書を切る。墨書あり墨痕うすい最低2文字あり。□□(原カ)
SK268	96	1	土師器	坏	(15.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	外：暗赤褐色 内：明赤褐色	密(白・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも摩滅・外面のスス付着顕著
SK268	96	2	土師器	坏	(17.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	密(白・赤色粒子、金色雲母)	良	内面摩耗・スス状ヨゴレやや顕著
SK268	96	3	土師器	蓋	(13.0) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ、ミガキ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	外：暗赤褐色 内：橙色	密(白・赤色粒子、金色雲母)	やや良	内外面とも被熱し内面のスス状ヨゴレやや顕著
SK268	96	4	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	外：赤褐～黒褐色 内：赤褐色	やや粗(金色雲母多、白・黒色粒子)	やや不良	内外面とも被熱し外面のスス付着・内面の摩滅やや顕著
SK268	96	5	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	明赤褐～暗赤褐色	やや粗(金色雲母多、白・黒色粒子)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著
SK268	96	6	須恵器	壺か	(36.0) ・ — ・ —	口縁部	回転ナデ	回転ナデ	外：灰色 内：青灰色	密(白色粒子多)	良	内面の摩滅やや顕著
SK269	96	1	須恵器	蓋	(14.2) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	やや粗(白色粒子多、黒色粒子、小礫)	やや良	軟質、内外面とも摩滅顕著
SK271	96	1	土師器	皿か	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	明赤褐色	密(白・赤色粒子)	やや良	胎土マーブル状、内外面とも摩滅顕著
SK279	96	1	土師器	坏	(11.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	明褐色	やや粗(赤色粒子多、白・黒色粒子)	不良	軟質、内外面とも摩滅非常に顕著
SK279	96	2	土師器	甕か	— ・ — ・ —	胴部	ヘラケズリ、ナデ	ナデ	外：赤褐色 内：にぶい黄褐色	粗(金色雲母、白色粒子多、黒色粒子、小礫)	やや良	内外面とも被熱し内面の摩滅顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK279	96	3	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	外：黒褐色 内：赤褐色	やや粗(金色雲母多、白・黒色粒子、赤色粒子微、小礫)	良	内外面とも被熱し外面の黒変顕著
SK280	97	1	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	ヘラナデ	ヘラナデ	外：暗赤褐色 内：赤褐色	やや粗(金色雲母多、白・黒色粒子、小礫)	良	内外面とも被熱し器面の変色やや顕著
SK281	97	1	土師器	皿か坏	— ・ (4.2) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	外：赤褐～褐灰色 内：暗赤褐色	やや粗(赤色粒子やや多、白・黒色粒子、金色雲母少)	やや良	胎土マーブル状、内外面とも被熱し外面の変色顕著
SK281	97	2	土師器	坏	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	外：橙色 内：にぶい黄橙色	密(赤色粒子多、白色粒子、金色雲母)	やや良	内面のスス状ヨゴレやや顕著
SK281	97	3	灰釉陶器	埦	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ	回転ナデ	浅黄色	密(黒色粒子少)	良	内面の摩滅やや顕著
SK288	97	1	土師器	皿	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	明赤褐色	密(赤・白色粒子、雲母微)	やや良	内外面とも被熱し摩滅やや顕著
SK288	97	2	灰釉陶器	皿	(15.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	外：灰白色 内：オリーブ黄色	密(白・黒色粒子)	良	外面に工具痕あり、内外面のスス状ヨゴレやや顕著
SK288	97	3	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁～胴部	ヘラナデ	ヘラナデ、ハケメ	外：暗褐色 内：黒褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK288	97	4	須恵器	壺	— ・ (13.6) ・ —	胴部～底部	タタキ	ヘラナデ	外：暗青色 内：暗青灰～明青灰色	やや粗(白色粒子多、赤色粒子少、小礫)	良	内面の摩滅やや顕著
SK289	97	1	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	ナデ 底部静止糸切り、ヘラケズリ	ナデ	橙色	密(赤・白色粒子)	やや不良	内外面ともにアバタ状に器面が荒れている
SK291	97	1	土師器	甕	— ・ (9.4) ・ —	胴部～底部	ハケメ 底部木葉痕	ハケメ、ヘラケズリ	外：暗褐～黒色 内：赤褐色	やや粗(白色粒子多、黒色粒子、金色雲母)	良	外面のスス付着顕著
SK291	97	2	須恵器	壺	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	外：灰～灰オリーブ色 内：灰白色	密(黒色粒子多、白色粒子)	良	外面の摩滅やや顕著
SK292	97	1	土師器	柱状高台小皿	— ・ 5.4 ・ —	高台部	回転ナデ 底部回転糸切り	—	橙色	密(白色粒子、黒色粒子少)	やや良	やや軟質、内外面とも強く被熱し器面の変色・摩滅顕著
SK292	97	2	土師器	小形甕	— ・ — ・ —	胴部	ナデ	ナデ、ハケメ	外：暗赤褐～黒色 内：赤褐色	密(金色雲母多、白色粒子)	良	外面のスス状ヨゴレ顕著
SK292	97	3	土師器	鍋	(30.4) ・ — ・ —	口縁～胴部	ヘラナデ	ヘラナデ	赤褐～極暗赤褐色	やや粗(白色粒子、雲母多、小礫)	やや良	内外面とも強く被熱し胴下半部の器面の荒れ・摩滅非常に顕著
SK292	97	4	須恵器	甕か	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ	外：黒色 内：灰色	密(白・黒色粒子)	良	内面非常に滑らかで光沢をもつ、外面の摩滅顕著、内外面とも二次転用されている、断面(割れ口)には使用痕跡なし
SK294	97	1	土師器	坏	(10.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤色粒子、白色粒子少、雲母少)	良	内外面とも摩滅はあまりみられないがウルシ状付着物が散在的にみられる
SK294	97	2	土師器	坏	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラナデ	回転ナデ、暗文	外：にぶい赤褐色 内：暗褐色	密(赤色粒子、白色粒子少、雲母少)	良	内外面とも摩滅はあまりみられないがスス状ヨゴレ顕著
SK294	97	3	土師器	坏	— ・ (7.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部静止糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	外：黄褐～黒色 内：にぶい黄褐色	密(赤・白色粒子、雲母、黒色粒子微)	良	内外面とも弱く被熱し外面のスス状ヨゴレ顕著
SK294	97	4	土師器	皿	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文(同心円状)	橙色	密(白色粒子、雲母、赤色粒子微)	やや良	内外面被熱し外面の器面の変色やや顕著、内面にはウルシ状付着物が散在的にみられ底部内面の摩耗やや顕著
SK294	97	5	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	外：黒褐色 内：暗褐色	密(金色雲母多、白色粒子、赤色粒子少)	良	内面の器面の荒れ、外面のスス付着非常に顕著
SK294	97	6	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	赤褐色	密(白色粒子多、金色雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅・スス状の付着やや顕著
SK294	97	7	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	外：赤褐～極暗赤褐色 内：赤褐色	密(金色雲母多、黒・白色粒子)	良	内外面とも被熱し摩滅・スス付着やや顕著
SK296	97	1	土師器	坏	(11.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	黄橙色	密(赤色粒子少、黒色粒子微、雲母微)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SK296	97	2	土師器	坏(黒色土器)	(13.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文、ミガキ	外：橙色 内：黒色	密(赤色粒子多、白色粒子少)	良	内面黒色処理
SK296	97	3	土師器	坏	(13.2) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(赤色粒子多、黒色粒子微、白色粒子微、雲母微)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SK296	97	4	土師器	坏(黒色土器)	(13.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ、ミガキ	外：にぶい赤褐色 内：黒色	密(赤白色粒子、雲母微)	良	内面黒色処理、外面スス状ヨゴレ顕著
SK296	97	5	土師器	坏	(14.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙～明赤褐色	密(赤色粒子多、白色粒子少、黒色粒子)	やや良	内外面とも被熱し器面の変色・スス状ヨゴレ顕著
SK296	98	6	土師器	皿	(13.4) ・ (6.6) ・ 2.3	口縁～体部	回転ナデ、ヘラナデ底部回転ヘラケズリ	回転ナデ、ヘラナデ	外：明赤褐色 内：橙色	密(赤色粒子多、黒色粒子)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SK296	98	7	土師器	皿(黒色土器)	(14.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、暗文、ミガキ	外：赤褐色 内：赤褐～黒色	密(赤色粒子多、白色粒子少)	良	内面黒色処理、黒色処理は内面まで達していない

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK296	98	8	土師器	坏(墨書土器)	— ・ 4.8 ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ、墨書	ヘラケズリ	赤褐色	密(赤色粒子多、黒色粒子少)	良	胎土マーブル状、底外に墨書あり「乙」カ、内外面とも弱く被熱し底部内面の黒ずみやや顕著
SK296	98	9	須恵器	坏	— ・ (7.0) ・ —	底部	回転ナデ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色	密(黒色粒子多、白色粒子少)	良	内面の摩耗やや顕著
SK296	98	10	須恵器	蓋	(15.6) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密(白色粒子、黒色粒子微)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SK296	98	11	土師器	甕	(14.6) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	明赤褐～極暗赤褐色	密(白・黒色粒子、金色雲母、小礫)	やや良	内外面とも強く被熱し外面も荒れ内面のスス付着顕著
SK296	98	12	土師器	甕	(26.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：暗褐色 内：明赤褐～オリーブ褐色	密(白色粒子多、金色雲母、黒色粒子少)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・スス状ヨゴレ顕著
SK296	98	13	土師器	甕	(26.6) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	橙～褐色	密(白色粒子多、雲母、黒色粒子)	良	内外面とも被熱し外面および口縁部部内面の器面の荒れ顕著
SK296	98	14	土師器	羽釜	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：にぶい赤褐色 内：暗赤褐色	密(白色粒子多、金色雲母少、赤色粒子微)	良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SK296	98	15	土師器	羽釜	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：明赤褐～極暗赤褐色 内：明赤褐色	密(白色粒子多、金色雲母少)	良	鍔下面強く被熱し器面ヒビ非常に顕著
SK296	98	16	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：黒褐色 内：褐色	密(金色雲母多、白・黒色粒子、赤色粒子微)	良	内外面ともスス状ヨゴレ顕著
SK296	98	17	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、指頭痕	外：褐色～暗褐色 内：明褐色	密(雲母、白色粒子、黒色粒子少、赤色粒子微)	良	内面の摩滅やや顕著
SK296	98	18	土師器	小形甕	— ・ (6.5) ・ —	胴部～底部	ハケメ、ヘラナデ 底部ヘラケズリ	ハケメ	外：暗褐色 内：明赤褐色	密(金色雲母多、白・黒色粒子、赤色粒子微)	やや良	内外面とも強く被熱し器面の荒れ・スス付着・剥落顕著
SK296	98	19	土師器	甕	— ・ — ・ —	底部	底部木葉痕	ヘラナデ	外：黒褐色 内：にぶい黄褐～黒褐色	密(金色雲母多、白色粒子、黒色粒子)	良	内外面とも被熱し内面の摩滅顕著
SK296	98	20	土師器	カマド形	— ・ — ・ —	底部～庇部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ヘラケズリ	橙色	密(白色粒子多、雲母、黒色粒子)	良	内外面とも被熱しているが摩滅あまりみられない
SK296	98	21	土師器	カマド形	— ・ — ・ —	庇部	ナデ	ナデ	明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	被熱し器面の変色顕著
SK296	98	22	須恵器	壺	(32.0) ・ — ・ —	口縁部	回転ナデ	回転ナデ	外：黒色 内：灰白色	密(白色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK296	98	23	須恵器	突帯付四耳壺	— ・ — ・ —	肩部	タタキ、突帯	ナデ	外：灰白～オリーブ黒色 内：灰色	密(黒色粒子、白色粒子、雲母微)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK296	98	24	灰釉陶器	平瓶	— ・ — ・ —	肩部	回転ナデ	回転ナデ	外：暗オリーブ黒色 内：浅黄色	密(黒色粒子)	良	内外面ともヨゴレやや顕著
SK297	98	1	土師器	蓋	(17.9) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、ミガキ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、金色雲母粒子)	良	内面のスス付着やや顕著、摩耗痕は希薄
SK297	98	2	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	外：明赤褐色 内：暗赤褐色	やや粗(白色粒子多、赤色粒子微、金色雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著
SK298	98	1	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ナデ	ハケメ、ヘラナデ	外：明赤褐色 内：にぶい赤褐～暗褐色	密(白色粒子多、黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅やや顕著
SK300	98	1	土師器	皿か	— ・ — ・ —	底部	回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤色粒子多、白色粒子少、雲母微)	良	胎土マーブル状、内外面の摩滅やや顕著
SK303	98	1	土師器	坏	13.2 ・ 6.0 ・ 4.5	略完形	回転ナデ、ヘラナデ底部回転糸切り	回転ナデ、ヘラナデ	橙色	やや粗(赤色粒子多、白色粒子、雲母微)	やや良	内面わずかに黒ずむが摩耗・摩滅はあまり認められない、外面を中心に散在的にウルシ状付着物あり
SK303	98	2	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ、指頭痕	外：暗赤褐色 内：赤褐色	やや粗(白色粒子、黒色粒子、金色雲母多)	良	内外面とも被熱しスス付着・摩滅やや顕著
SK304	99	1	土師器	皿(墨書土器)	— ・ 4.0 ・ —	体部～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ、墨書	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤色粒子多、白色粒子少)	やや良	胎土マーブル状、底部内面摩耗顕著で滑らか、スス状付着物やや顕著、底外～体外にかけて墨書二箇所あり、「弘」カ、墨痕薄く器面の摩滅により文字の一部消失、外面の摩耗・摩滅顕著、体部上半は故意に打ち欠かれている
SK304	99	2	土師器	坏	(12.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙～黒褐色	やや粗(赤色粒子多、白・黒色粒子少、金色雲母少)	良	内面のスス状ヨゴレやや顕著
SK304	99	3	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	ナデ、ハケメ	ハケメ	外：黒色 内：赤褐色	密(金色雲母多、白色粒子、黒色粒子)	やや良	
SK305	99	1	土師器	坏	(10.8) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・白色粒子、金色雲母少)	良	外面のスス状ヨゴレやや顕著
SK305	99	2	土師器	坏(内黒土器)	(16.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	外：橙～黒褐色 内：黒色	密(白・赤色粒子、雲母少)	良	内面黒色処理、外面器面やや荒れる
SK305	99	3	土師器	坏	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文、ミガキ	橙色	密(白色粒子多、赤色粒子少、雲母少)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著だが摩耗・摩滅はあまり認められない
SK305	99	4	土師器	坏か皿	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	やや粗(白・赤色粒子、雲母少)	やや良	胎土マーブル状、底部内面スス状付着物、摩耗ややや顕著、二次転用されたか

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK305	99	5	土師器	坏か皿	— ・ (5.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(白・赤色粒子、雲母微)	良	内面ウルシ状付着物顕著、内外面とも摩滅やや顕著
SK305	99	6	土師器	甕	(29.2) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	密(白色粒子多、黒色粒子、金色雲母多)	やや良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SK305	99	7	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	外：赤褐色 内：暗褐色	密(金色雲母多、白色粒子、黒色粒子)	良	内外面とも被熱し内面の摩滅やや顕著
SK307	99	1	土師器	甕	(26.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	密(白色粒子、金色雲母多、黒色粒子)	やや良	内外面とも被熱し器面の変色顕著
SK308	99	1	須恵器	壺か	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	外：黒色 内：にぶい黄褐～黒褐色	密(白・黒色粒子、雲母微)	良	摩耗・摩滅はほとんど認められない、内面黒色塗彩状痕跡あり
SK310	99	1	土師器	坏（刻書土器）	— ・ (4.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り、線刻	回転ナデ	明赤褐色	密(赤・白色粒子)	不良	胎土マーブル状、内外面とも摩滅やや顕著、底外に線刻あり、線刻も摩滅やや顕著
SK311	99	1	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ (5.6) ・ —	坏(皿)底部～脚部	回転ナデ 底部回転ナデ	回転ナデ	明赤褐色	密(赤色粒子多、白色粒子、金色雲母)	不良	やや軟質、胎土マーブル状、内外面とも摩滅顕著
SK311	99	2	土師器	脚高高台坏か皿	— ・ — ・ —	坏(皿)底部～脚部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	密(白色粒子多、黒色粒子)	不良	やや軟質、内外面とも摩滅顕著
SK312	99	1	土師器	坏	(12.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤色粒子多、白・黒色粒子、雲母)	やや不良	内外面とも被熱し器面の剥落顕著
SK312	99	2	土師器	皿	(15.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・黒色粒子、雲母)	良	内面のスス状ヨゴレ顕著、内外面の摩滅はあまり認められない
SK312	99	3	土師器	坏か皿	— ・ (9.6) ・ —	体部～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	外：にぶい黄褐色 内：橙色	密(赤色粒子多、雲母、黒・白色粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレ顕著、外面の変色顕著、内面の摩耗やや顕著
SK312	99	4	土師器	皿か	— ・ 8.6 ・ —	体部～底部	回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部回転ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤色粒子多、白・黒色粒子、金色雲母少)	やや良	やや軟質、内外面のウルシ状付着物・内面のスス状ヨゴレ顕著、内面は帯状にススが付着、器面が散在的に剥離する、暗文が施されるがそれが消えるほど摩耗し細い擦痕が看取りできる、体部は故意に打ち欠かれその割れ口を磨って滑らかにしている
SK313	100	1	土師器	皿	15.8 ・ 6.3 ・ 2.6	略完形	回転ナデ、ナデ 底部ヘラ切り、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	浅黄橙～橙色	密(白・赤色粒子、雲母)	やや良	器形の歪み顕著、内外面とも被熱し器面の変色顕著、内面アバタ状に細かく器面が変色している
SK313	100	2	土師器	坏	(11.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	良	内外面とも摩耗・摩滅はほとんど認められない
SK314	100	1	土師器	皿	(16.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	明黄褐～黒褐色	粗(白色粒子多、雲母、黒色粒子)	不良	軟質、外面の摩滅やや顕著
SK314	100	2	土師器	坏	(17.4) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	橙色	やや粗(白色粒子、赤色粒子)	不良	軟質、内外面とも摩耗顕著
SK314	100	3	土師器	坏か	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	にぶい黄橙色	粗(白色粒子多、雲母、黒・赤色粒子)	不良	やや軟質、内外面とも摩滅・スス状ヨゴレ顕著
SK314	100	4	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ヘラナデ	ヘラナデ、ナデ	外：黒褐色 内：暗赤褐色	やや粗(白色粒子多、黒色粒子、金色雲母、赤色粒子微)	やや不良	内外面ともスス状ヨゴレ顕著
SK314	100	5	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	明赤褐色	粗(白色粒子多、黒色粒子、金色雲母)	不良	内外面とも強く被熱し内面の摩滅非常に顕著
SK314	100	6	須恵器	蓋	— ・ — ・ —	体部	回転ヘラケズリ	回転ナデ	外：暗灰黄色 内：浅黄～黒褐色	やや粗(白色粒子多、黒色粒子、雲母)	良	内面の3/4以上の範囲が非常に滑らか、二次転用されている、摩耗が顕著な範囲は器面も荒れている
SK318	100	1	土師器	坏(内黒土器)	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ	回転ナデ、暗文	外：明黄褐色 内：黒色	密(黒・赤・白色粒子)	良	内面黒色処理、丁寧なミガキと暗文、外面スス状ヨゴレやや顕著
SK319	100	1	土師器	坏	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	橙色	密(黒・赤・白色粒子)	良	外面のスス状ヨゴレやや顕著
SK319	100	2	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子)	良	外面の変色やや顕著
SK319	100	3	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	ナデ 底部回転糸切り	ナデ	明赤褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子)	良	やや軟質、内外面とも摩滅顕著
SK319	100	4	土師器	坏	— ・ (10.0) ・ —	体部～底部	ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(赤・黒・白色粒子)	良	やや軟質、外面の摩滅やや顕著
SK322	100	1	土師器	坏	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部静止糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	やや粗(黒・白・赤色粒子)	良	内外面ともスス状ヨゴレやや顕著
SK322	100	2	須恵器	壺	— ・ — ・ —	胴部	回転ナデ、回転ヘラケズリ	回転ナデ	褐灰色	やや粗(白・黒・赤色粒子)	良	外面の下半部摩滅非常に顕著、器面も変色している
SK323	100	1	灰釉陶器	埦	— ・ (6.2) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ、付高台	回転ナデ	灰黄色 釉：灰白色	やや粗(白・黒色粒子)	良	内外面とも黒ずみ顕著
SK324	100	1	土師器	鍋か	— ・ (11.0) ・ —	底部	ナデ 底部ナデ	ハケメ	外：黒褐色 内：にぶい褐色	粗(金色雲母、白色粒子多、黒色粒子、小礫)	良	内面のスス付着顕著
SK325	100	1	土師器	坏（刻書土器）	— ・ — ・ —	体部	回転ナデ	回転ナデ、線刻	橙色	やや粗(赤色粒子多、白・黒色粒子)	良	体内線刻あり「求」カ、線刻は浅く摩滅顕著、破片の割れ口を研磨し滑らかにしている
SK325	100	2	土師器	甕	— ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ナデ	ハケメ	褐色	やや粗(白・黒・赤色粒子、金色雲母)	良	内外面とも摩滅・スス付着顕著

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
SK325	100	3	須恵器	壺	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ	灰色	やや粗(白色粒子多)	良	外面の摩滅やや顕著
SK325	100	4	須恵器	壺か	— ・ — ・ —	胴部	ナデ	タタキ、ナデ	外：灰オリーブ色 内：黄褐色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
SK330	100	1	土師器	甕	(32.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	回転ナデ、ハケメ	ハケメ	明赤褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色・内面のスス付着顕著
SK330	100	2	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	外：黒褐色 内：褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色顕著
SK330	100	3	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ、ナデ	明褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも被熱し摩滅顕著
SK330	100	4	土師器	甕	— ・ — ・ —	胴部	ハケメ	ハケメ	外：黒褐色 内：褐色	密(白・黒・赤色粒子、金色雲母、小礫)	良	内外面とも強く被熱し器面の変色顕著
SK339	100	1	土師器	坏	— ・ (6.6) ・ —	胴部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・黒・赤色粒子、雲母)	良	軟質、内外面とも摩滅顕著
遺構外	101	1	土師器	小皿	(8.1) ・ 4.6 ・ 2.25	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	軟質、内外面とも摩滅やや顕著
遺構外	101	2	土師器	小皿	(8.2) ・ 4.3 ・ 2.4	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母粒子)	良	内面の摩滅・ウルシ状付着物顕著
遺構外	101	3	土師器	坏(内黒土器)	(14.2) ・ — ・ —	口縁～体部	ナデ、ミガキ	ミガキ	外：橙色 内：黒色	密(白・赤・黒色粒子)	良	外面のスス状ヨゴレやや顕著、内面黒色処理
遺構外	101	4	土師器	坏	— ・ (5.2) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子)	良	外面の摩滅やや顕著
遺構外	101	5	土師器	坏	— ・ 5.7 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切りか	回転ナデ	橙色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	やや軟質、内外面とも摩滅非常に顕著
遺構外	101	6	土師器	柱状高台坏か皿	— ・ 5.7 ・ —	坏(皿)底部～高台部	回転ナデ 底部回転糸切り、ナデ	回転ナデ	にぶい褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	良	やや軟質、内外面とも摩滅顕著
遺構外	101	7	土師器	坏（刻書土器）	— ・ (8.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ、線刻	回転ナデ、暗文	橙色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内面のスス状ヨゴレ及び摩滅やや顕著、底外に線刻あり
遺構外	101	8	土師器	坏（刻書土器）	— ・ (9.2) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部ヘラケズリ、線刻	回転ナデ	橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	内面のスス状ヨゴレやや顕著、底外に線刻あり
遺構外	101	9	土師器	坏（刻書土器）	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ナデ、線刻	回転ナデ、暗文	橙色	密(赤・黒・白色粒子)	良	底外及び体外に線刻、内面黒ずみ状ヨゴレやや顕著
遺構外	101	10	土師器	坏（刻書土器）	— ・ (4.8) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ 底部線刻	橙色	密(赤・黒・白色粒子、金色雲母粒子)	良	底内に線刻、内面の摩滅やや顕著、底外に線刻あり
遺構外	101	11	土師器	鉢	(27.2) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	外：にぶい赤褐色 内：橙色	密(赤・白・黒色粒子、雲母)	良	外面のスス状ヨゴレやや顕著
遺構外	101	12	須恵器	鉢	(8.8) ・ (6.2) ・ 5.4	口縁～底部	回転ナデ 底部回転糸切り、付高台	回転ナデ	黄灰色	密(白・黒・赤色粒子)	良	いわゆるコップ形(平城京出土土器分類の「椀BⅠ」)、外面の摩滅は顕著だが内面は摩耗なく使用痕跡は希
遺構外	101	13	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ	灰色	密(白・赤・黒色粒子)	良	内外面とも摩耗などはあまり認められない
遺構外	101	14	粘土塊	—	最大長3.6 ・ 最大幅2.5 ・ 最大厚2.1	(重さ)8.26g			橙色	密(白色粒子、雲母)		繊維痕あり
遺構外	101	15	粘土塊	—	最大長3.1 ・ 最大幅2.8 ・ 最大厚1.4	(重さ)10.04g			明赤褐色	密(白・赤・黒色粒子、1～2㎜の小礫)		繊維痕あり
遺構外	101	16	粘土塊	—	最大長3.3 ・ 最大幅2.7 ・ 最大厚1.2	(重さ)6.13g			橙色	密(白色粒子、小礫、雲母)		繊維痕あり
保存	101	17	土師器	坏	(13.5) ・ (4.0) ・ (4.9)	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	褐色	密(黒・赤・白色粒子)	良	内外面とも使用痕跡は希薄だがスス付着は顕著、特に外面のスス付着・器面の変色顕著
保存	101	18	土師器	坏	(15.4) ・ (5.0) ・ 3.9	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・黒・白色粒子)	良	内外面とも使用痕跡は希薄だがスス状ヨゴレやや顕著
保存	101	19	土師器	皿	(13.0) ・ (5.0) ・ 2.2	口縁～底部	回転ナデ、ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	やや粗(赤色粒子多、白・黒色粒子)	良	やや雑なつくり、胎土マーブル状、外面一部アバタ状に器面荒れている
保存	101	20	土師器	皿	(12.6) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	橙色	密(赤・黒色粒子)	良	胎土マーブル状、内面摩耗、外面スス付着やや顕著
保存	101	21	土師器	皿	12.7 ・ 3.6 ・ 2.4	略完形	回転ナデ、ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	密(白・黒・赤色粒子)	良	内外面とも使用痕跡は希薄、内面スス状ヨゴレやや顕著
保存	101	22	土師器	坏	(12.2) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	外：橙色 内：明黄褐色	密(赤・黒・白色粒子)	良	内外面とも使用痕跡は希薄だが内面の器面の変色顕著
保存	101	23	土師器	坏(内黒土器)	(14.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	外：明黄褐色 内：黒色	密(赤・白・黒色粒子)	良	内面黒色処理、内面の使用痕跡は希薄、外面のスス付着顕著
保存	101	24	土師器	坏	— ・ (4.4) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り	回転ナデ	黄橙色	密(白・黒色粒子、赤色粒子少、金色雲母粒子)	良	底部外面端部の摩耗やや顕著
保存	101	25	土師器	坏	— ・ (4.4) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラナデ	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(赤色粒子多、白・黒色粒子)	良	胎土マーブル状、内外面とも摩滅やや顕著
保存	101	26	土師器	坏（刻書土器）	— ・ (5.4) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ、ミガキ 底部回転糸切り、線刻	回転ナデ、暗文	外：黒褐色 内：にぶい褐色	密(黒・白色粒子)	良	内外面ともスス付着顕著、ススは一部割れ口まで及ぶ、底外に線刻あり

出土地点	挿図番号	番号	種別	器種	口径・底径・器高(cm) ( )＝復元値、[ ]＝現存値	部位・形態	整形・施文技法(外)	調整技法(内)	色調(外・内)	胎土	焼成	備考
保存	101	27	土師器	坏	— ・ (4.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部回転糸切り、ヘラケズリ	回転ナデ	褐色	密(黒・赤色粒子)	良	内外面ともスス付着顕著、内面はわずかながら摩耗痕跡認められる
保存	101	28	土師器	坏(内黒土器)	— ・ (5.6) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ、暗文	外：橙色 内：黒褐色	密(黒・赤・白色粒子)	良	内面黒色処理、胎土マーブル状、内外面とも使用痕跡は希薄
保存	101	29	土師器	坏	— ・ (4.6) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(赤色粒子多、白・黒色粒子)	良	胎土マーブル状、内面の摩滅やや顕著
保存	101	30	土師器	坏	— ・ (5.2) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	明赤褐色	やや粗(白色粒子多、赤・黒色粒子)	良	やや軟質、内外面とも使用痕跡は希薄だが摩滅やや顕著
保存	101	31	土師器	坏	— ・ (6.0) ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転糸切り	回転ナデ	外：にぶい黄橙色 内：橙色	密(白・黒・赤色粒子)	良	軟質、内外面とも摩滅顕著
保存	101	32	土師器	坏(内黒土器)	— ・ (7.0) ・ —	体部～底部	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	回転ナデ	外：明赤褐色 内：黒色	やや粗(赤色粒子多、白色粒子)	良	内面黒色処理、内外面とも使用痕跡は希薄
保存	101	33	土師器	小皿	— ・ (5.0) ・ —	底部	ナデ 底部回転糸切り	ナデ	黄橙色	密(白色粒子多、赤・黒色粒子)	良	やや軟質
保存	102	34	土師器	鉢	(21.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	明赤褐色	密(赤・黒色粒子、金色雲母粒子)	良	やや軟質、内外面とも摩滅やや顕著
保存	102	35	須恵器	坏	(14.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	灰色	密(白色粒子)	良	内面の摩耗やや顕著
保存	102	36	須恵器	蓋	(18.8) ・ — ・ —	体部～口縁	回転ナデ	回転ナデ	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも摩滅やや顕著
保存	102	37	青磁	蓮弁文埦	(15.0) ・ — ・ —	口縁～体部	回転ナデ	回転ナデ	灰オリーブ色	密(白色粒子)	良	釉は草緑色、素地は灰色、気泡やや多い
保存	102	38	土師器	鉢	— ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	外：灰黄褐色 内：にぶい褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母)	良	外面の摩滅・スス付着やや顕著
保存	102	39	土師器	甕	(28.0) ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	やや粗(白・赤・黒色粒子、金色雲母)	良	外面強く被熱し器面の変色顕著
保存	102	40	土師器	甕	(30.2) ・ — ・ —	口縁部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい赤褐～灰褐色	密(白・黒色粒子、小礫、雲母)	良	内外面とも被熱し器面の変色やや顕著
保存	102	41	土師器	甕	(35.8) ・ — ・ —	口縁～胴部	回転ナデ、カキメ、ナデ	回転ナデ	橙色	やや粗(白色粒子、金色雲母やや多、赤・黒色粒子少)	良	内外面とも摩滅やや顕著
保存	102	42	土師器	羽釜	(25.4) ・ — ・ —	口縁～鍔部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	外：橙色 内：にぶい赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、小礫多、金色雲母)	良	内面の摩滅・スス状ヨゴレやや顕著
保存	102	43	土師器	羽釜	(18.6) ・ 鍔径(26.6) ・ —	口縁～鍔部	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	密(白・黒色粒子、小礫、雲母)	良	内外面とも被熱しスス付着顕著
保存	102	44	土師器	羽釜	— ・ 鍔径(25.1) ・ —	鍔部	ナデ	ハケメ、ナデ	明赤褐色	やや粗(白・黒色粒子、金色雲母、小礫多)	良	内外面とも被熱し内面の器面の変色顕著
保存	102	45	土師器	鉢	— ・ — ・ —	口縁～胴部	ハケメ、ナデ	ハケメ	明褐色	やや粗(白色粒子多、黒色粒子、金色雲母)	良	内外面とも摩滅やや顕著
保存	102	46	灰釉陶器	壺	— ・ 7.5 ・ —	体部～底部	回転ナデ 底部回転ナデ、付高台	回転ナデ	灰色 釉：暗オリーブ色	密(黒・白・赤色粒子)	良	内外面とも使用痕跡は希薄
保存	102	47	須恵器	甕	— ・ — ・ —	肩部	タタキ	ナデ、指頭痕	褐灰色	密(白・黒色粒子)	良	内外面とも使用痕跡は希薄、外面は鉄釉風
保存	102	48	須恵器	甕	— ・ — ・ —	胴部	タタキ	ナデ、指頭痕	灰白色	密(白・黒色粒子)	良	内面使用痕跡顕著、滑らか、やや黒ずむ、二次転用された可能性大
SI17	102	1	土師質	製塩土器	— ・ — ・ —	口縁～胴部	指頭痕	ナデ	外：にぶい橙色 内：にぶい黄橙色	やや粗(白・黒・赤色粒子)	不良	外面鈍くピンク色に変色する箇所あり
SK202	102	2	土師質	製塩土器	— ・ — ・ —	胴部	ヘラナデ	ナデ	外：灰黄色 内：にぶい黄橙色	やや粗(白・赤色粒子、雲母、黒色粒子)	やや良	被熱の痕跡希薄
SK296	102	3	土師質	製塩土器	— ・ — ・ —	胴部	ナデ	ナデ	浅黄橙色	やや粗(雲母、白・黒・赤色粒子)	やや良	外面ややピンク色に変色
遺構外	102	4	土師質	製塩土器	— ・ — ・ —	胴部	指頭痕	指頭痕	にぶい黄橙色	粗(白・赤・黒色粒子、雲母)	やや不良	被熱の痕跡希薄

第８表　第３次調査出土金属製品観察表

出土地点	挿図番号	番号	分類	法量(cm)※(　)は推定値又は現存値				材質	備　考
				長	幅	厚	重量(g)		
SI4	103	1	鉄滓	3.40	4.10	2.20	34.20	鉄	
SI5	103	2	刀子	8.20	1.70	0.70	14.81	鉄	
SI9	103	3	鉄滓	3.70	2.40	1.80	20.17	鉄	
SI10	103	4	棒状鉄製品	4.10	0.50	0.40	1.00	鉄	
SI14	103	5	刀子	2.00	1.10	3.05	1.22	鉄	
SI15	103	6	刀子	4.10	1.20	0.60	3.49	鉄	
SI16	103	7	鉄滓	1.90	2.35	1.50	5.45	鉄	
SI17	103	8	刀子	7.00	1.30	0.85	7.90	鉄	
SI31	103	9	棒状鉄製品	3.05	0.70	0.45	1.46	鉄	
SK133	103	10	鉄滓	1.40	1.20	0.80	1.52	鉄	
SK162	103	11	刀子	4.50	1.10	0.50	3.81	鉄	
SK168	103	12	用途不明	2.30	3.10	1.10	8.49	鉄	
SK206	103	13	鎌か	—	—	—	12.79	鉄	
SK206	103	14	棒状鉄製品	6.50	3.50	1.10	21.82	鉄	
SK288	103	15	棒状鉄製品	5.90	1.00	0.70	5.87	鉄	
SK309	103	16	棒状鉄製品	3.90	1.30	0.40	2.22	鉄	

第９表　第３次調査出土石製品観察表

出土地点	挿図番号	番号	分　類	法量(cm)　※(　)は推定値又は現存値				石　材	色　調	備　考
				長	幅	厚	重量(g)			
SI3	103	1	磨石か	10.7	5.8	4.6	85.15	軽石(デイサイト～流紋岩質)	灰白～暗灰黄色	散在的に磨面らしき箇所あり
SI6	103	2	打製石斧	8.8	4.7	0.9	46.15	粘板岩	灰色	
SI10	103	3	不明	9.2	4.2	1.3	67.06	ホルンフェルス	灰～灰オリーブ色	
SI21	103	4	打製石斧	7.8	4.4	0.9	39.10	粘板岩	灰色	
SI23	103	5	砥石	6.6	4.3	4.0	108.74	凝灰岩	浅黄橙～にぶい橙～赤褐色	磨面一面、浅いやや太めの擦痕あり
SI31	103	6	打製石斧	10.4	5.9	1.8	132.13	ホルンフェルス	灰～灰オリーブ色	
SI34	103	7	磨石	9.7	8.5	7.8	790.70	閃緑岩	灰白色	磨面黒ずみ顕著
SI34	103	8	磨石	10.1	8.2	7.8	720.82	閃緑岩	灰黄～暗灰色	磨面黒ずみ顕著
SK1	104	9	打製石斧	7.4	5.3	1.2	61.01	ホルンフェルス	灰色	
SK31	104	10	砥石	14.8	7.0	5.7	990.00	花崗閃緑岩	灰黄色	磨面は二面使用
SK81	104	11	敲石	10.8	4.1	2.9	245.00	閃緑岩	灰オリーブ色	両端に敲打痕らしき痕跡あり
SK123	104	12	砥石	13.4	11.0	5.2	1113.40	安山岩	灰色	二面使用面あり
SK133	104	13	打製石斧	11.4	3.9	1.5	83.44	ホルンフェルス	灰オリーブ色	
SK146	104	14	打製石斧	10.1	6.1	2.0	160.60	ホルンフェルス	灰黄～浅黄色	
SK146	104	15	凹石	16.0	14.5	8.0	2720.00	花崗閃緑岩	灰黄色	敲打痕部分は黒ずみ顕著
SD1	104	16	打製石斧	6.0	3.5	1.1	23.36	ホルンフェルス	灰色	
遺構外	105	17	砥石	9.1	7.2	4.3	320.00	細粒花崗岩	灰白～灰黄色	磨り面は四面使用
SK3	105	18	石鏃	2.2	1.6	0.4	0.77	黒曜石	黒透色	
SI10	105	19	石鏃	2.0	1.5	0.3	0.74	石英(水晶)	白透色	
SI23	105	20	剥片	2.4	2.5	0.7	3.49	黒曜石	黒透色	
SK124	105	21	水晶塊	3.7	3.3	2.0	26.37	石英(水晶)	白透色	

第Ⅴ章　総　括

第１節　第２次調査（平成18年度）のまとめ

第２次調査（平成18年度）調査区においては、調査面積は180㎡と狭い範囲ながら、９世紀前半代の竪穴建物跡が２軒と、中世および近世段階の集石を伴う土坑群が15基検出された。平安時代の竪穴建物群は、中世・近世段階の土坑群によって掘り込まれ、遺存状況は極めて悪い状況であった。

一方の竪穴建物跡を掘り込んで構築された土坑群は、遺物の出土がみられないものや、掘りかたが曖昧なものがみられるものの、明らかに集石を伴うものが多く、その用途や時期が問題となる。所属時期については、18世紀前半から20世紀中葉までの陶磁器類が出土しており、かなり時間的幅をもっている。ただしSK12については、中世段階の常滑製甕の大型破片が出土しており、当該段階に伴うものと考えられるが、上記のとおり、その大半は近世・近代以降の所産と思われる。SK1～９は、規模の大小はあるものの、形態や主軸方向や検出状況、切り合い関係で規則的な配列が認められる。これらはほぼ同時期の所産とみて良かろう。

これら土坑群の大きな特徴としては、坑内に集石を伴うことで、拳大から１m大の礫を坑内に充填している。暗渠的な施設だったのか、墓壙であったのか、人骨などそれらをうかがわせるような遺物がなく、その機能についてはにわかに決しがたい。

形態的な特徴としては、長軸が３mを越える規模をもつ土坑と、２m内外の規模をもつ土坑に大別でき、隅円長方形を呈するものが多いこと。また溝状遺構の掘りかた内部にも、規模は小型ながら同様な構造をもつ土坑状の落ち込みがみられることから、暗渠的な性格が強い。後述する第３次調査（平成20年度）でも一部に同様な構造を有する土坑も検出されているが、墓壙的性格の強い土坑も検出されている。いずれにせよ、12世紀以降、こうした構造をもつ土坑群が本遺跡地に展開している状況がうかがえる。

第２節　第３次調査（平成20年度）のまとめと若干の考察

１．出土土器の様相

a．出土土器の年代観

第３次調査（平成20年度）調査区では、奈良･平安時代の土師器が主体的に出土しており、その他、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器が客体的に出土している。出土土器総重量約107.1kgのうち、土師器の食膳具類の出土総重量は約45.9kg、煮炊具類の総重量は約49.7kg。須恵器の食膳具類の総重量は約1.3kg、煮炊・貯蔵具類の総重量は約7.1kg、灰釉陶器の食膳具類総重量は約1.3kg、貯蔵具類の総重量は約0.8kgとなっており、ここからも土師器が主体的に出土していることがわかる。

土師器には、８世紀から10世紀代における「甲斐型土器」に属する坏・高台坏・皿・蓋・鉢（食膳具系）・甕・堝・羽釜・鉢（煮炊具系）・カマド形があり、甲斐型土器以後のいわゆる土師質土器では、坏・皿・小皿・脚高高台坏・皿、柱状高台坏・皿、甕・鍋・鉢・羽釜がある。また、須恵器には高台坏・壺・凸帯付四耳壺・甕、灰釉陶器には埦・皿・壺、緑釉陶器には埦が認められる。

山梨県における奈良･平安時代土器の編年研究については、1983年に坂本美夫･末木健氏らによって、いわゆる「甲斐編年」が提示された（坂本1983）。その後、奈良市内の平城京二条四坊十一坪の井戸址の発掘調査で、甲斐型土器の坏が出土し（三好1992）、年代観の見直しの機運が高まり、1992年には甲斐型土器研究グループを中心として年代観の変更案が提示された（甲斐型1992）。さらに同年には、韮崎市に所在する奈良時代から平安時代にわたる大集落跡である宮ノ前遺跡の報告書が刊行され、同報告書において櫛原功一氏が段階区分の見直し案と年代観が提示されている（櫛原1992）。1999年に刊行された『山梨県史』では、甲府盆地東部・西部、郡内（桂川流域）の出土資料を段階区分し、若干年代観を従来と変えつつ、「県史編年」として提示している（山梨県1999）。

また、甲斐型土器終焉以後の古代末期の土器編年研究も、1986年に坂本美夫氏が、1983年編年の古代末期部分を再検討し編年案を提示しており（坂本1986）、その後の資料増加と、甲斐型土器の再検討の流れをうけて、1994年に森原明廣氏が新たに編年案を提示している（森原1994）。

以上、こうした先学諸氏による研究成果に拠りながら、西田町遺跡出土土器の年代観を以下のように与えて区分し

てみた。

Ⅰ期：７世紀末～８世紀初頭、Ⅱ期：８世紀前半、Ⅲ期：８世紀後半、Ⅳ期：９世紀前半、Ⅴ期：９世紀後半、Ⅵ期：10世紀前半、Ⅶ期：10世紀後半、Ⅷ期：11世紀前半、Ⅸ期：11世紀後半、Ⅹ期：12世紀代。

Ⅰ期：当該期の資料としてはSI22をあてたい。土師器坏は盤状で体部・底部の内外面ともに丁寧なミガキを施している。特に内面は格子状に細かいミガキを施している。

Ⅱ期：当該期の良好な資料のまとまりはみられない。

Ⅲ期：当該期の資料としてSI21･24･26･28、SK7の資料をあてたい。甲斐型坏の成立期で、口径が12cm前後を測り、精選された緻密な胎土で、赤褐色・黄褐色の色調を呈し、体部外面下半のヘラ削り、体部外面の横位あるいは波状のヘラミガキ、体部内面と底部内面の放射状暗文が特徴である。

Ⅳ期：当該期の資料としてはSI17・18・32・33・34の資料をあてたい。土師器坏の法量の縮小化が進み、体部外面のヘラミガキと底部内面の暗文が消滅している。土師器皿は口縁部から体部にかけての屈曲が明瞭であり、体部下半から底部にかけては回転ヘラ削りを施し、内面には放射状等の暗文を施す。

Ⅴ期：当該期の資料としてはSI30の資料をあてたい。体部内面の暗文は引き続きみられ、基本的にⅣ期と同じだが、土師器坏の底径が前期に比べるとやや縮小し、土師器皿の口縁部から体部にかかる屈曲が弱くなっている。

Ⅵ期：当該期の資料としてはSI1・5・16・20・23、SK31の資料をあてたい。土師器坏や皿の暗文が消滅し、口縁部が玉縁化してくる。煮炊具では羽釜が隆盛となってくる。カマド形土器

Ⅶ期：当該期の資料としてはSI8・12・13・25・31の資料をあてたい。甲斐型土器終焉直後の土器であり、11世紀代にもかかるかもしれない。

Ⅷ期：当該期の資料としてSI9・10・11・23をあてたい。甲斐型とは異なる土師器坏、土師器小皿、脚高高台皿、ナデ調整の羽釜などがみられる。

Ⅸ期：当該期の資料としてはSI6・14の資料をあてたい。柱状となる以前の底部が台状となる皿などがみられる。煮炊具はナデ調整で仕上げた甕・鍋などがみられる。

Ⅹ期：当該期の資料としてはSK134･135の資料をあてたい。柱状高台皿、坏、皿がある。当該期の資料数は少ない。

上記の土器の年代観を、各遺構にフィードバックさせて、可能な限り第115図に各期における遺構の変遷を示しておいた。しかし前述のとおり、各遺構ともに各時代の遺物が入り交じっているためにその判断は難しく、示せたものはごくわずかである。なお、図中のSI24については土器年代観とともに、後述する室伏徹氏の建築単位からみた建物年代観も反映させ、それはスクリーントーンで示しておいた。

b. 出土土器の様相

本報告書に掲載した土器群の個別観察を通しての雑感ではあるが、長期の埋没による自然の摩滅や器面等の荒れはあるものの、底部や高台の端部や、土器内面における摩耗・摩滅痕がほとんどみられない資料が多く存在していることが判明した。考古学では、土師器や須恵器の坏や皿といった食器類は、当時の一般民衆が日常的に、かつ主体的に使用された食器であるという認識が強くもたれているが、果たして本当に日常の食器として使用されたのかという疑問が持たれた。食器としての使用痕跡が極めて希薄であるということから、使用されたとしてもそれは極めて単発的・限定的な使われ方をされていたのではないかと推測できる。

それは食器としての使用痕跡が希薄にもかかわらず、スス状のヨゴレが顕著であったり、二次焼成を受けているなど、多くの資料で認められることで、もちろん顕著な摩耗痕が認められる資料も存在するが、これらは後述するリユースされた土器であることが多い。西田町遺跡の奈良・平安時代の土器資料に限らず、筆者が関わった当該期の他の遺跡でも、同じような状況が認められているが、それは単に遺跡の性格の違いによるだけなのであろうか。

土師器や須恵器という古代の土器群は、本当に日常雑器の食器として使用されたものだったのか。未だ確証は持ち得てないが、これら土器は無機質ゆえに地中に残った遺物であり、有機質である木製の食器が本来の日常的な食器であったのではないか。土師器や須恵器は、主に祭祀や儀礼行為に使用される、特別な器であったのではないかと推測している。今後のさらに各遺跡ごに土器観察を続けていくとともに、出土事例の少ない木製食器類にもっと注目すべきだと考えている。

2．その他の出土遺物について

a．墨書・刻書土器について〈第106～107、第112～114図〉

ここでは、第２次調査（平成18年度）および20年度調査で出土している墨書・刻書土器についてまとめておきたい。

〈出土点数〉

第２次調査（平成18年度）調査区では、墨書土器４点、刻書土器１点の総計５点、第３次調査（平成20年度）調査区では出土文字資料として、墨書土器・刻書土器・ヘラ書土器が総点数48点出土している。48点の内訳は、墨書土器が18点、刻書土器が29点、ヘラ書土器が１点で、うち１点は墨書と刻書が併記されている。本報告書に掲載した第３次調査（平成20年度）出土土器類の総点数は1033点であり、単純にその中で占める割合をみれば、墨書土器などの出土文字資料は、全体の３％程度にすぎず、極めて客体的な存在であることがわかる。

〈土器の種類・器形〉

土器の種類は、圧倒的に土師器および土師質土器が多く、器形は坏・皿といった食膳具が圧倒的に多いが、１点のみ灰釉陶器があり刻書である。

〈記載部位と記載状況〉〈第108図〉

記載部位は、墨書土器では底部外面が18点、体部外面が２点と全体の90％を占めている。一方刻書土器は体部外面が２点、体部内面が８点、底部外面が13点、底部内面が６点となっており、記載部位はバラエティーに富んでいる。ちなみにヘラ書土器は体部外面に記されている。

体部外面および内面における記載方向であるが、刻書土器の場合、記載内容が記号状であることが多いため、正位・倒位・横位の判別が難しい状況となっているが、墨書土器ではSK31-1が正位に、刻書土器ではSI5-1が横位に記している。

〈時期別出土割合〉〈第111図〉

墨書土器の時期別出土割合は、８世紀後半代から９世紀代にかけて最も高く、刻書土器も８世紀後半以降10世紀前半代まで高い出土割合を示す一方で、10世紀後半代および11世紀後半代にも若干数みられる。山梨県内の全体的な傾向として、８世紀代は墨書土器が少なく、記号状の線刻を中心とする刻書土器が主体を占める傾向がみられ、９世紀以降、墨書土器が急増し、刻書土器は客体的な存在となるという傾向が指摘されている（平野1992）。こうした傾向に反して、西田町遺跡では、刻書土器が８世紀代から10世紀代にわたって、墨書土器と肩をならべるように、万遍なく出土している。

こうした刻書土器が主体を占めるという状況は、山中章氏よると古代の都城でもみられるという（山中1989）。山中氏が分析された長岡京域の遺跡では、宮域の周辺官司や京域の諸司厨町等の現業官司や東西市から、線刻土器や記号墨書土器が多く出土しており、その理由として、こうした場所には非識字層を多く含む小集団が集まることから、集団を使役していた官司が、非識字層の個人用食器や小集団で用いる食器を区別するために記したものだとされている。西田町遺跡の刻書土器が、食器管理のためだけに記載されたとは考え難いが、都城における線刻土器・記号墨書土器の出土地が、工房に関わる場から多いという指摘については、古代の西田町遺跡の性格を考えるうえでも示唆的である。

〈記載内容およびその書風〉

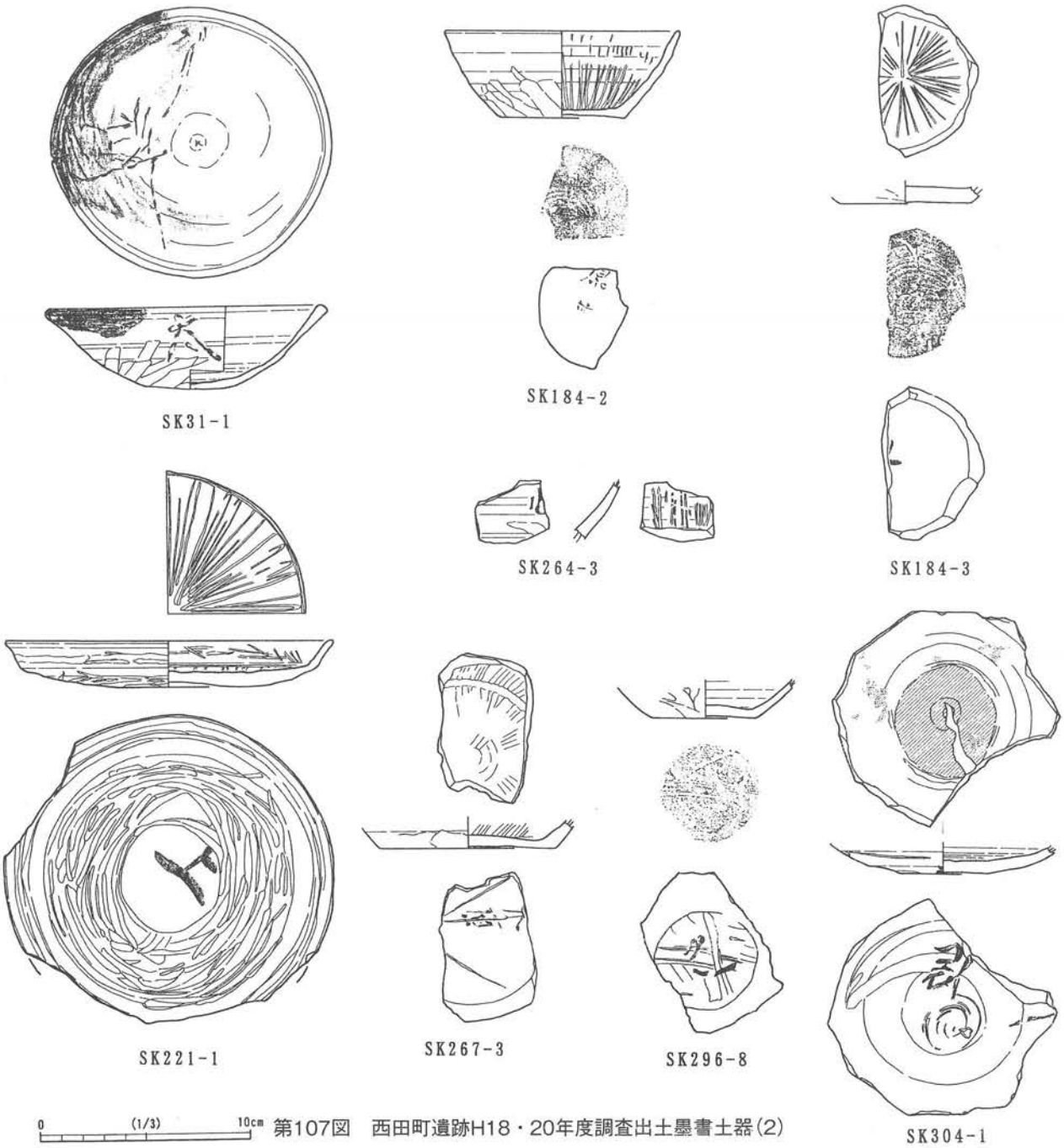
墨書・刻書土器で記載された内容が判読できるものは少ない。第２次調査（平成18年度）出土資料で判読できる内容として「大」・「太」、第３次調査（平成20年度）では「足カ」・「中」・「□□（原カ）」・「乙カ」・「上」・「弘カ」・「得カ（異体字）」・「×」などがある。書風はいずれも筆使いに慣れたものであり、識字層による記載がおこなわれたと推測できる。刻書については直線を基本とした記号状のものであり、識字層もしくは非識字層による記載なのかは判断が難しい。

〈墨書・刻書土器の使用痕跡について〉

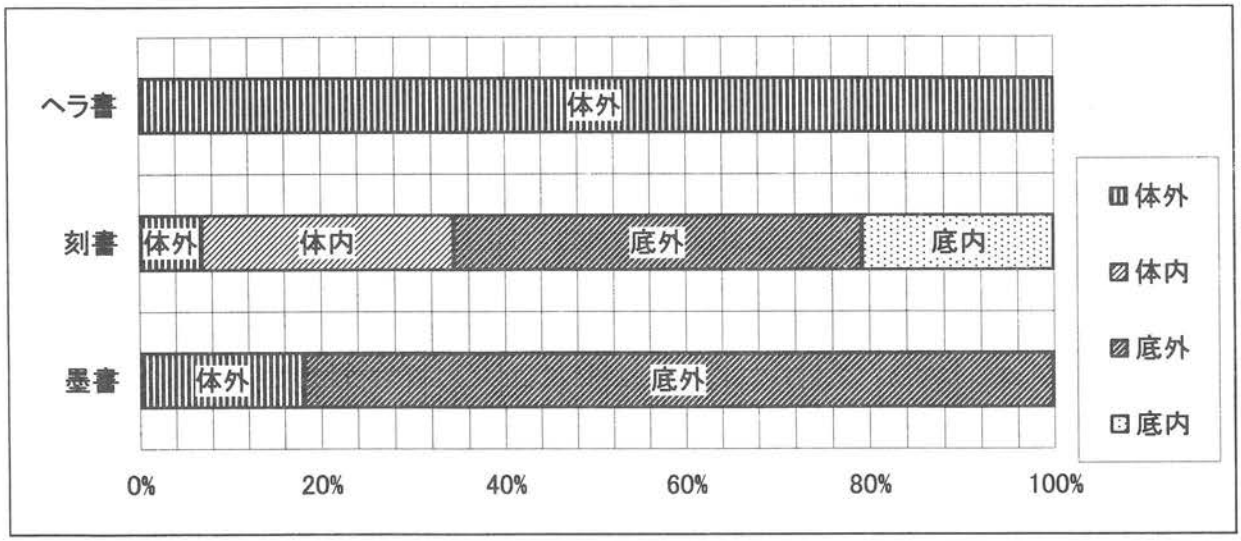
墨書・刻書土器の使用痕跡については、非文字資料関連土器と同様にさまざまなものがある。次項の二次転用された土器群の中にも刻書土器の一部が使用されていたりしている。主な使用痕としては①使用における摩耗、②ススやウルシ状付着物によるヨゴレ、③意図的でない破損に伴う割れや欠け、④転用や廃棄を目的とした意図的な割れや欠け、⑤二次焼成をうけているものなどがあり、その中でも①・②・⑤といった使用痕跡が残されたものが比較的多いことが指摘できる。このことは、土器の中でも特別な土器であるという意識をもって選別されていたのを示しているであろうか。

使用段階において土器の摩耗度の高いものは、墨書や刻書も不鮮明のものが多い。さらに②のような付着物によってもその鮮明度はかなり左右される。土器使用に伴う摩耗や付着物の痕跡と、墨書・刻書の鮮明度にはある程度の相

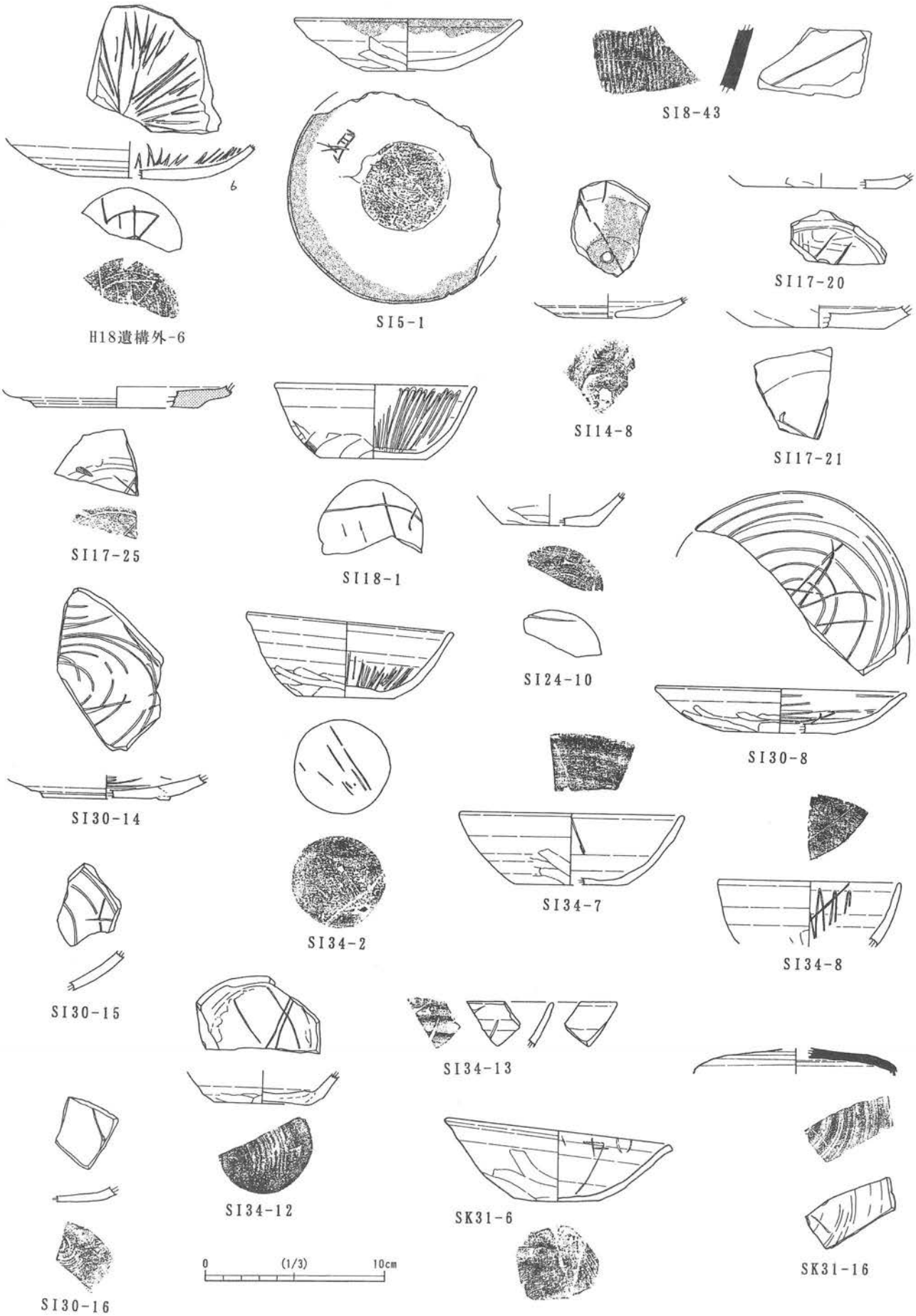
第106図　西田町遺跡H18・20年度調査出土墨書土器(1)



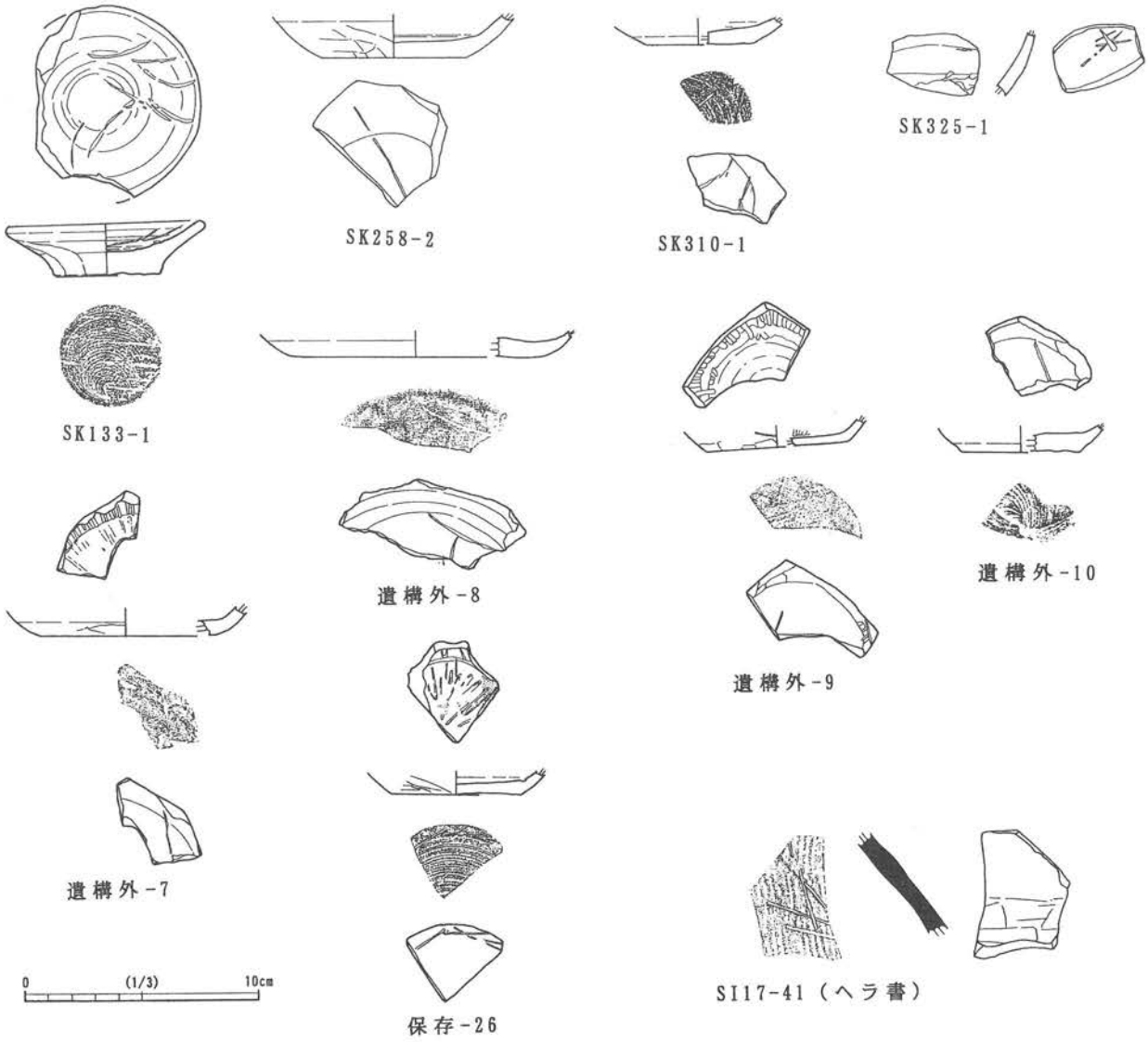
第107図　西田町遺跡H18・20年度調査出土墨書土器(2)



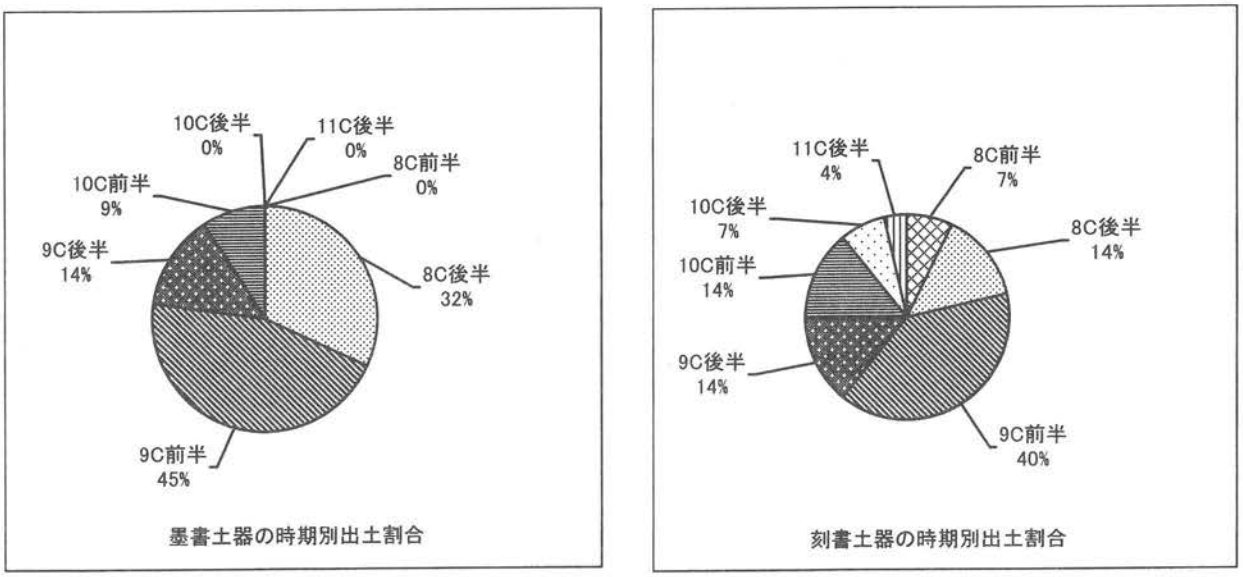
第108図　出土文字資料の記載部位比率



第109図　西田町遺跡H18・20年度調査出土刻書・ヘラ書土器(1)



第110図　西田町遺跡H18・20年度調査出土刻書・ヘラ書土器(2)



第111図　墨書・刻書土器時期別出土割合

関関係があると考えられ、それは墨書・刻書行為の時間的な前後関係や、文字資料土器の使用状況を示すものであると思われる。

b．二次転用された奈良・平安時代の土器群について〈第112図～114図〉

出土した土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦などの資料を詳細に観察してみると、自然に割れたのではなく、故意に打ち欠いて整形したり、普段、飲食だけで使っているだけでは到底おこらないような摩耗・摩滅痕跡がみられるものなど、本来の土器用途以外でリユースされたと思われる土器資料を抽出した。

第3次調査(平成20年度)調査区における当該資料の総点数は31点で、うち1点は縄文時代前期の土製円板である。種別としては須恵器、土師器、灰釉陶器、瓦があり、須恵器が15点と全体の6割以上を占めている。須恵器の中でもっとも多い器種は甕で9割近くを占め、続いて壺、蓋となっている。次に多いのは灰釉陶器の4点で、椀と皿それぞれ2点ずつとなっている。土師器は3点で高台坏と坏、皿である。

これら資料の転用目的の一つとして硯が挙げられ、「転用硯」として再利用されたことが推測できる。猪股喜彦氏が指摘するように（猪股1993)、転用硯にされる土器やその器形、部位については、上記資料群は大きく逸脱するものではない。よって本遺跡群出土の転用された須恵器・灰釉陶器類についても、「転用硯」として使用された可能性はある。しかし、転用硯とする一つの条件である、「墨痕」の有無については、これら資料群で明確に墨痕が残る資料は極めて少なく、「硯」だけの転用には疑問が残る。転用硯と密接に関わる墨書土器との出土関係をみても、墨書土器が消滅する時期以降も当該資料は存在している。

ではその他では何が考えられるだろうか。各資料において顕著に認められる使用痕跡は、擦った痕跡が多いことであり、墨を擦る以外の「擦る」という行為を考えなくてはならない。一般生活における調理工程に関わるものなのか、もしくは何らかの手工業製品の製作工程に関わるものなのかは、具体的な内容まで踏み込むことができる考古学的出土事例が現状ではないため、今後の資料の増加を待って、再度考察してみたい。

3．竪穴建物跡について

a．竪穴の時期と出土遺物のあり方について

上記の年代観にあわせて、検出された竪穴建物跡の時期について整理してみたい。遺構どうしの重複が著しいために、他時期の遺物が混入し、さらに時期決定ができるような出土状況を示すものが少ないために時期不明のものが多い。重複による新旧関係もみながらできる限り提示しておきたい。

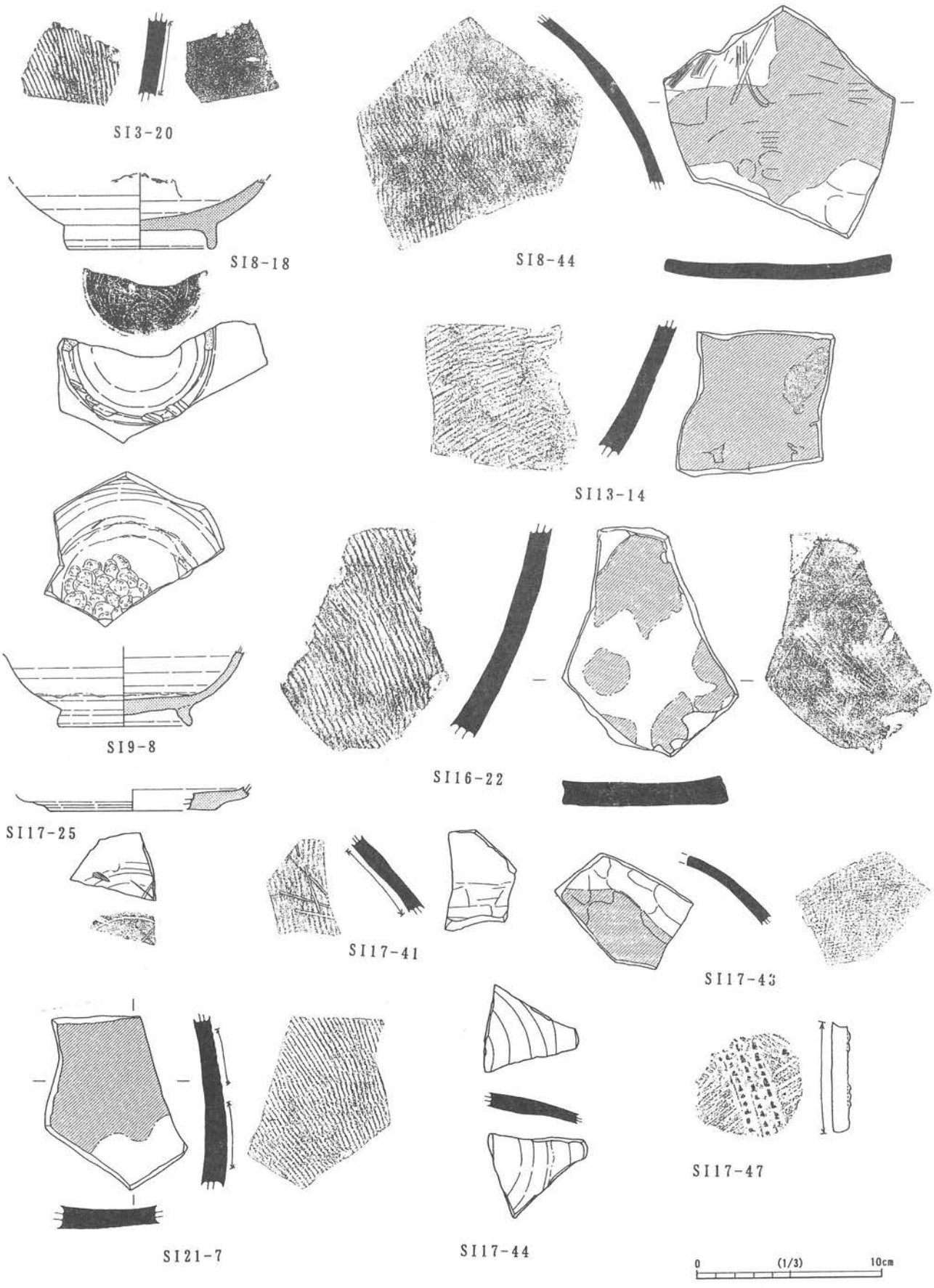
Ⅰ期：SI22、24 Ⅱ期：なし、Ⅲ期：SI21？・24、Ⅳ期：SI17・18・26？・28？・30・32？・33？・34、Ⅴ期：SI30、Ⅵ期：SI1・5・15・20、Ⅶ期：SI7？・8・12・13・16・25、Ⅷ期：SI9・10・11・23、Ⅸ期：SI6・14、Ⅹ期：該当なし。

竪穴建物跡の時期にかかわらず、竪穴建物跡からの出土遺物が全般的に少ない傾向にあることが指摘できる。これは建物廃絶に際して、移動先を意識した清掃行為をおこなった可能性が考えられる。建物自体の廃絶とともにカマドの人為的な破壊行為がおこなわれた痕跡が認められることや、建物廃絶に伴う儀礼行為（SI17など）がおこなわたことが出土遺物のあり方からもうかがえる。

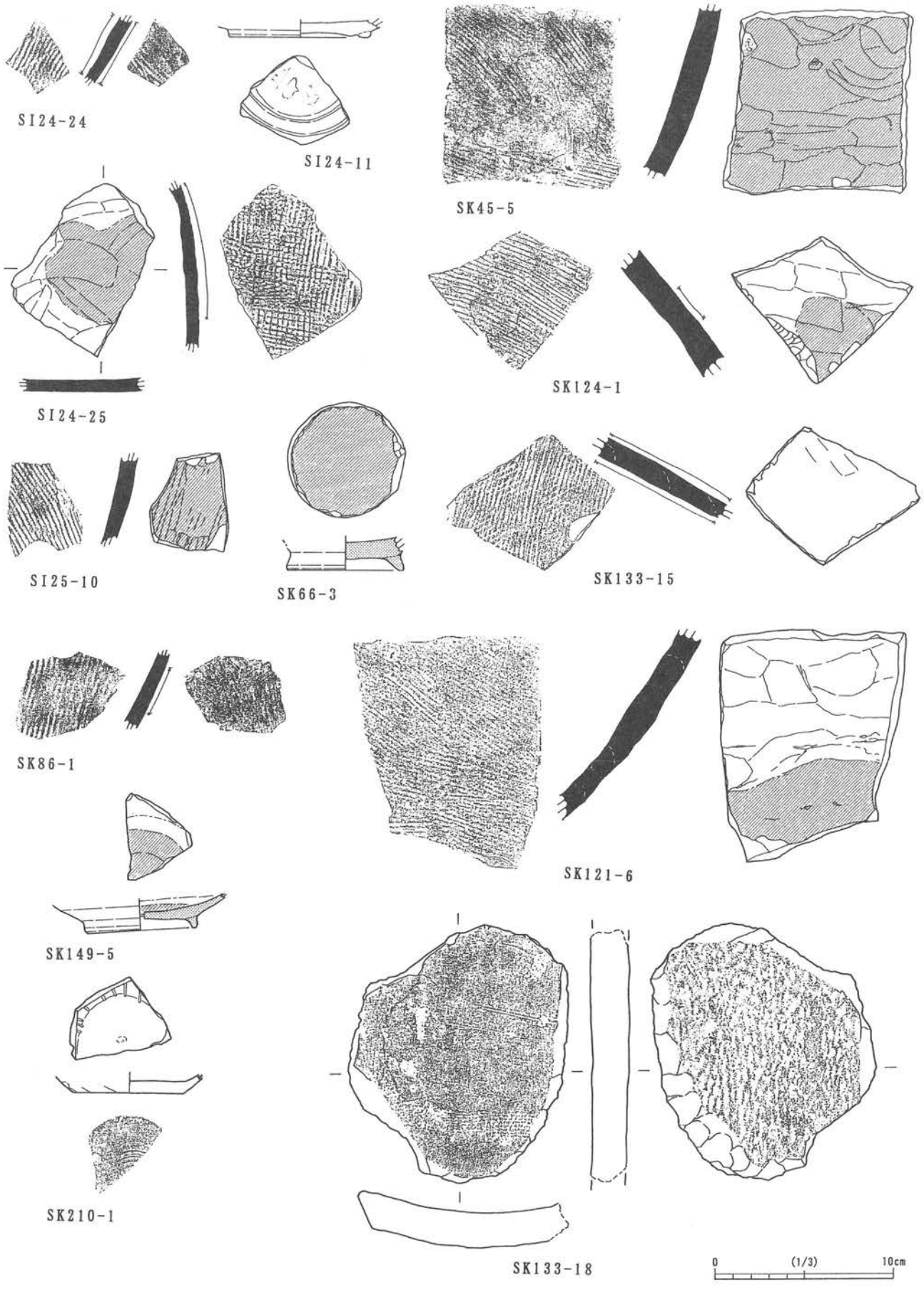
b．竪穴の規格性と竪穴内諸施設について

8世紀代および9世紀代の竪穴建物跡は、建物が構築される方向性や規格性において統一性が認められ、中型から大型規模の竪穴建物が主体的にみられる。一方、10世紀以降の竪穴建物跡は方向性については統一性が乏しく、小型・中型規模の建物が目立つ。カマドを有さない竪穴建物跡や竪穴部形態が長方形を呈するものなどがあり、建物規格の統一性が欠如する反面、建物用途の多様性がうかがえる。その中でSI24は、一辺が7mを測る8世紀後半代の大型竪穴建物跡であり、建物構造の大きな特徴として、主柱が礎石立であったことが注目される。この竪穴建物の構築に際して特筆される点は、寺院や官衙などの大型建物を建築する際におこなわれる掘り込み地業がおこなわれているという点であり、版築構造の一部が確認されている。さらに礎石据え付け掘りかた下部からは、礎板石を伴う掘立柱柱穴掘り形が検出されたことから、それ以前に先行するほぼ同一規模を有する主柱穴が掘立柱式の竪穴建物跡が存在したことも判明した。こうした構造をもつ竪穴建物跡は、山梨県内でははじめての検出事例である。今後は、その建物構造の詳細な分析はもちろんのこと、建物の性格、構築した集団および使用者の性格や社会的背景についても追究していく必要がある。なお、本遺構については、後述の室伏徹氏による建築単位分析からの視点でも詳述したい。

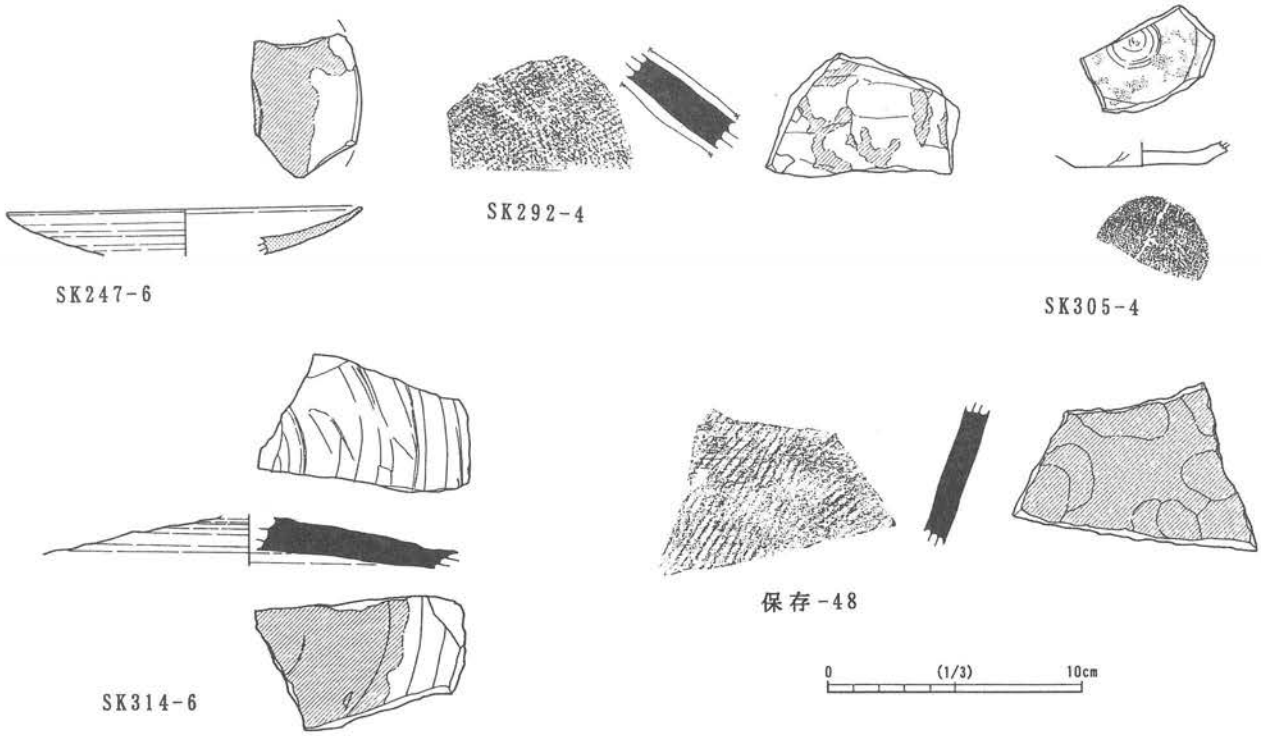
竪穴建物跡の覆土は、時期にかかわらず、黄褐色土ブロックを多量に含み、水平堆積を示しているものが多い。こ



第112図　西田町遺跡H20年度調査出土二次転用土器(1)



第113図　西田町遺跡H20年度調査出土二次転用土器(2)



第114図　西田町遺跡H20年度調査出土二次転用土器(3)

のことは、人為的に一括埋め戻しされた可能性が高い。また竪穴内諸施設については、棚状施設（SI13・30）や壁体ピット（SI34）、間仕切り施設（SI34）を備えるものもみられる。

c．カマドの構築方法について

カマドの構築方法について、８世紀代および９世紀代の竪穴建物跡（SI17・24・30・34など）と、10世紀以降の竪穴建物跡（SI1・5・8など）とでは、袖部の構築素材が異なっていること。前者は粘土や黄褐色・黒褐色砂質土の混合土を主体として袖部が構築されているのに対して、後者は袖部の芯材として河原石が多用されており、石組み構造となっている。

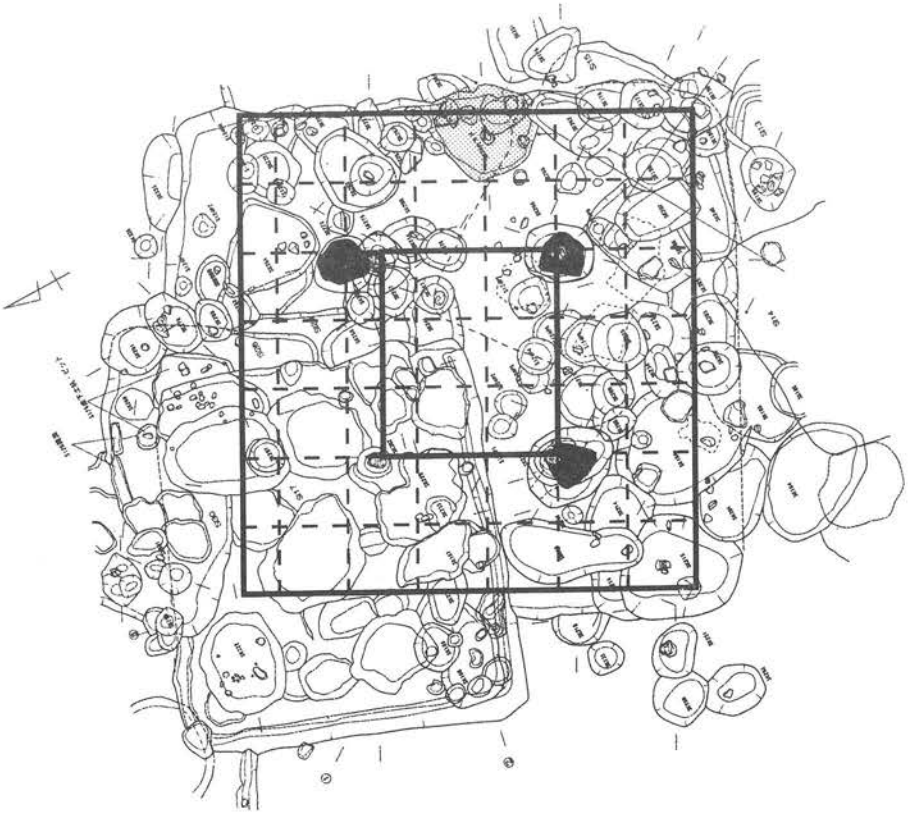
d．建築単位[1]からみた礎石竪穴建物（SI24）について〈第116図〉

方形に近い竪穴建物から建築単位を求めることは難しいが、柱穴間距離と柱穴と壁間距離の比率から建築単位を求められる場合がある。SI24の上部竪穴建物は、礎石間距離と礎石と壁の間隔の比率が３：２の関係にあり、礎石間距離から建築単位（3.25尺：0.985ｍ）が求められ、竪穴の一辺は７単位となり、東辺のあるカマドの中心は、礎石の軸線から１建築単位内側にずらした位置に設定したことが分かる。

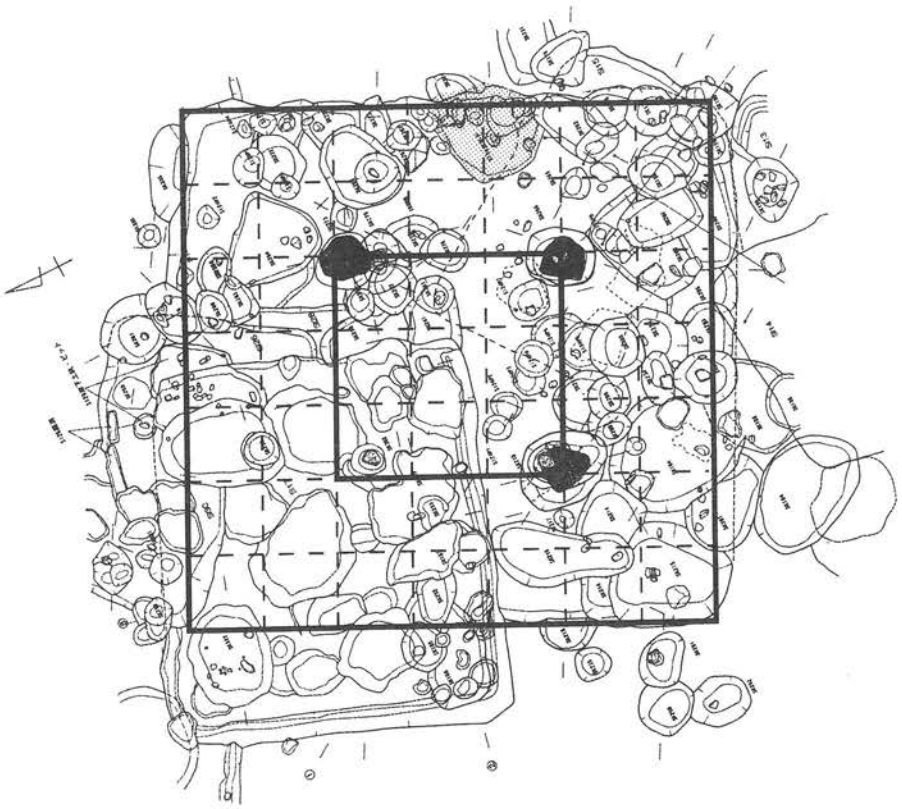
SI24下層建物は、礎板石を有する掘立柱穴の東西間隔と南北間隔比率が６：５の関係にあり、この比率関係から求められる建築単位は（1.50尺：0.455ｍ）であるが、上部礎石建築との関係からこの建築単位は大きくずれており、この２倍の（3.00尺：0.909ｍ）が利用されていたのではないかと考えられる。この建築単位では、竪穴の東西は７建築単位、南北は6.5建築単位となり、内部の４本柱穴は東西が３単位、南北が2.5建築単位をとり、建築単位の使用例としてはあまり例の無いものであるが、柱穴と壁との間隔は２建築単位であり建築単位をある程度意識した設計であったと考えられる。なお、南辺の壁際両隅および、建築単位の升目の交点に小型の礎石状の石があり、あるいは壁際礎石を備えた建物であった可能性も考えられる。

下部竪穴建物から上部竪穴建物への改築は建築単位の利用からみると、下部竪穴建物は不慣れであるが、東西方向に限ってみると建築単位による設計施工法に従っていると思われ、これに対し上部竪穴建物は、下部建築の構造的問題点を修正し、建築単位による設計施工法を厳格に適用した事例といえる。しかも、礎石下部や床面構築に版築法を用い、礎石構造とするなど、この上部竪穴建物を設計施工した技術者は、平城宮・京などで用いられる設計施工法や礎石建築を構築できる建築技術を熟知していた人物であったと考えられる。ところが、高度な礎石建築の技法を用いても、竪穴建物である以上、壁や屋根により建物の全体が覆われ、外観からはこの建物が礎石を用いていることを窺い知ることはできないはずであり、礎石建築とした意図は、建物規模は別として、外観的にこの建物の特異性を他の

第115図　H20年度調査区遺構配置変遷図



礎板石を有する掘立柱段階の建物



礎石立段階の建物

※スクリーントーン部分はカマド

0　　10m

1/100

第116図　建築単位からみたSI24建物跡

第117図　H20年度調査区SK遺構類型別分布図

竪穴建物群の中で際立たせるようなものではなかったであろう。

想定されるのは礎石を用いることにより、柱穴を用いる建築より、より長期に居住使用できる建築を造ろうとしたのではないだろうか。さらにこの建物の性格を考えるうえで重要な点は、この建物は下部竪穴建物から全く位置を変えていないことであり、このことは集落内において、この建物を構築する位置が決められていた可能性が考えられる。また、上部竪穴建物の建築単位（3.25尺：0.985ｍ）は、平城宮・京の初期造営尺度と同じであり、地方建築で最も多く用いられる建築単位であり、８世紀の第１四半期の時期が想定され、下部竪穴建物はその直前７世紀末から８世紀初頭ごろと推定される。上部竪穴建物から検出された８世紀後半の遺物は、この竪穴の廃絶段階の遺物とすると、この竪穴建物は７世紀末から８世紀の後半、甲斐国では山梨郡の評段階の遺構や、白鳳寺院とされる寺本廃寺や、国分僧尼寺、各郡衙、国府など寺院や官衙が活発に整備された時期に当たり、この間、優れた建築技術を有する技術者たちが、この建物に居住したか、もしくは作業スペースとして使用されたと推測できる。あるいは異なる技術者であっても、専用の施設として利用され続けた可能性が考えられ、この特異な竪穴建物が長期に存在し続けたとすると、これを維持しつづけた西田町遺跡の古代集落自体の性格の分析が興味深いものになると考えられる。

（本項目文責：室伏　徹）

４．土坑・ピット（SK）について

検出された土坑・ピットの多くは、竪穴建物跡の埋土を掘り込んで構築されたものが多く、10世紀代から11～12世紀段階のものが多くみられる。特に竪穴建物跡のカマド周辺に集中的にみられる傾向があり、竪穴埋没後、時間差なくカマド周辺部に土坑が掘られることで、出土遺物にはほとんど時期差がないことや、覆土の色調が竪穴覆土と判別しづらいという特徴があげられる。覆土は竪穴建物跡と同じように、一括埋め戻しの状況を示し、そのほとんどが人為的な堆積といって良い。覆土には黄褐色土ブロックを多く含み、色調的には竪穴覆土とほとんど見分けがつかないのが特徴である。

ａ．形態とその特徴について

形態は長方形、円形、楕円形、隅円方形等を呈するものがあり、さらに出土遺物の状況から以下のように分類できる。

Ⅰ類：遺構覆土上層に河原石などの大型礫や土師質土器皿などを据え置くもの。
SK31・32・48・65・72・80・106・123・130・132・136・151・163・168・176・185・197・239・277・285等

Ⅱ類：遺構覆土内に礫を充填させるもの。
SK7・8・36・45・46・66・133・134・158・174・182・281・292・312・313・314・319・334等

Ⅲ類：覆土堆積状態が柱穴状を呈するもの。
SK63・71・72・113・137・154・176・183・191・337・341等

Ⅳ類：焼土・炭化物範囲を伴うもの。
SK31・124・149・168・169・185・292・296・330等

Ⅰ類やⅡ類の場合でも、Ⅳ類のように覆土内に焼土粒や炭化材・炭化物粒を伴うものもあり、しかも礫が被熱しているものも認められることから、Ⅳ類と同じような性格であった可能性も考えられる。Ⅲ類は、掘立柱建物の柱穴掘りかた、もしくはトーテムポール状の柱が立てられていたことが推測できる。

SK133・134・174のように、礫や土器などの遺物などを取りあげ除去した後、土坑を完掘してみると、土坑掘りかた壁面に沿って底面まで達する柱穴状の小ピットが２～３個程度伴うものがみられる（SK133・134・142・174・184など）。こうした土坑については、土坑上部に何らかの上屋が存在したか、あるいは墓標のような木柱が立てられていたことが想定できよう。

このように土坑については、土坑墓や祭祀遺構、柱穴といった用途・性格が想定できるものの、判然としない部分が多い。また、第117図にはそれぞれの類型を特徴付ける「場」が見いだせるのではないかと類型別の分布を示したものの、調査範囲が狭いためその傾向を見いだ

第118図　参候祭（さんどろまつり）風景
（東三河2005文献より）

すことはできなかった。

b．火処を有する土坑について

10世紀前半代の土坑を中心に、焼土や炭化材を伴う土坑（SK124・149・168・169・185・292・296・330など）、石組みカマド状の火処を有する小竪穴状土坑（SK31など）がみられ、「火」を多用する祭祀行為がおこなわれていた状況がうかがわれる。特にSK31は、径約1m前後を測る楕円形を呈するもので、土坑内にカマド遺構を構築しているものである。覆土内には多量の焼土や炭化物を混入しており、本遺構で煮炊行為をおこなったことは確実である。それを取り囲むように、土師器の坏・皿・鉢といった土器群が9個ほど正置された状態で出土しているが、これらの土器群は、カマドが構築されている床面上約10cm以上のレベルから集中的に出土しており、カマド廃棄後に、ある程度埋め戻した後に置かれた土器群だと考えられる。おそらくこの段階で土器に何らかの神饌を盛り祭祀ををおこなった後、埋め戻されたと推測できる。

現代でも民俗事例として、愛知県の東三河地方では、参候祭（さんどろまつり）と呼ばれる祭で（第118図）、神社の一画にカマドを築き湯釜を置き、神々を迎え御湯を献ずるという祭りが各地で伝承されている。現在では芸能と融合し、神楽を舞う伝統芸能の一つとなっているが、湯釜の湯を神々に献じ、またその湯を人々にふりかけて穢れや悪霊を祓い、無病息災や五穀豊穣を願う祭りとなっており（東三河2005）、こうした祭祀行為が本遺構でおこなわれた可能性も想定できる。

第3節　まとめ

西田町遺跡における、8世紀代から12世紀代にわたる古代の集落跡の中心地は、今回調査を実施した平成18年度第2次調査区および平成20年度第3次調査区一帯であり、特に第3次調査区を中心として、祭祀遺構をはじめ、さまざまな性格をもつ遺構群が夥しく重複しながら存在していることが判明した。一宮バイパスを挟んだショッピング施設イツモア建設地における平成7度および8年度の第1次調査区では、12世紀後半を中心とした中世の館跡が検出され、8世紀代から10世紀代にかけての竪穴建物跡をはじめとする古代の遺構群は、散在的なあり方を示していた。当該調査地は、微高地の縁辺部で旧河道に近接しており、古代においては、河原的な様相を示していたと推測できるが、当該地は、前述した「御幸道」とよばれる陸上交通路と、旧河道を利用した水上交通路の結節点とも言える交通の要衝の場にあたり、中世段階においては有力豪族層が館を構え、そこを拠点とした物流交易を盛んにおこなっていたことが、出土遺物の様相から指摘できる。

一方、今回の調査区は微高地の中でも中央部分にあたり、比較的安定かつ高燥な土地条件を備えた場所であり、ここを8世紀から12世紀代にかけて中心的な居住エリアとして占地していたと考えられる。しかしながら11世紀以降を境に、居住痕跡は希薄になるとともに、変わって土坑群が広く展開する状況が認められる。土坑の多くは墓壙的な性格を有すると思われるものが多く存在することから、当該地が居住地から葬送地へと変化する土地利用状況の変化がうかがえる。おそらく中世段階以降、墓域や耕地として主に利用されていたと推測できる。

こうした土地利用の変化は、周辺環境の変化がその要因の一つとして考えられる。環境の変化とは、前述した金川の転流による環境変化である。10世紀代まで安定的な土地条件のもと、集落地として推移してきたが、金川が転流するほどの大水害が当該集落地まで及んだ可能性が高い。古代や中世における葬送地は、河原周辺に設けられることが多いことから、こうした状況も考えられよう。

そしてもう一つ想定できることは、政治的要因であり、国分僧尼寺の盛衰と甲斐国府の造営・移転等の問題があげられる。これら寺院や官衙に近在する本遺跡の集落の人々は、その造営や維持、経営に深く関与させられていたと考えられることから、これら施設の盛衰と集落のそれとは密接に連関していたものと考えられる。しかしながら、本遺跡の性格の変化は、自然的要因と政治的要因がそれぞれ個別的に引き起したものではなく、これら要因が複合的に絡み合っておこった結果、さまざまな土地利用の変化が繰り返されたものと考えるべきであろう。第2次調査（平成18年度）では、近世段階の暗渠的な遺構が多数検出されているが、これらからは安定した耕作地を得るための大規模な土地改変がおこなわれた状況がうかがえる。

いずれにしろ、西田町遺跡は、8世紀段階では、他の集落遺跡では類を見ない極めて特殊な竪穴建物が存在することや、検出された遺構数から、一般的かつ衛星的な集落ではなく、郷域レベルでの中核的な集落の一つであったと考えられること。さらに推定される遺跡の規模や存続期間、その内容などからも、中世段階までつながる当該地域の中

核的な大規模集落として、存続していたと考えられる。

第３次調査（平成20年度）での発掘調査面積は990㎡で、実際調査をおこなえたのは約444㎡。第２次調査（平成18年度）の調査面積180㎡をあわせても約1,100㎡あまり。開発対象面積が約35,000㎡からすれば、わずか数パーセントに過ぎない。前述したとおり、開発対象地全域に遺構群がさらに広がっていることは明白であり、そこでは各時代を通じてさまざまな人々の多様な生活の営みが繰り返されてきたことは容易に推測できる。今回の発掘調査成果は、西田町遺跡の実態を知る得るごくわずかな成果に過ぎない。歴史資料の破壊は、歴史事実の湮滅にもつながる。今後も関係諸機関がこうした開発行為に対して迅速に対応し、適切なる文化財保護措置がとられることを切に願うとともに、これまでの発掘成果をもとに、様々な視点から分析・検討を加えていくべき重要な遺跡であることは言うまでもない。

最後に、今回の発掘調査の実施にあたって多大なるご理解とご協力を賜った株式会社くろがねや、(株) カワイ、(株) フジタ、発掘調査から整理段階にわたりご指導、ご助言をいただた笛吹市教育委員会、そして実際に現地での極寒・酷暑の中、発掘調査に携わっていただいた発掘スタッフならびに資料整理に従事していただた整理スタッフの皆さんの献身的なご協力に対し、心から感謝申し上げたい。

註

1）建築単位とは、奈良・平安時代の官衙施設と関わるような集落遺跡から見出された建築尺度で、都城、地方官衙、寺院、現存建築等の多様な建築から見出すことができる。建物の柱間間隔は、建築単位の分割法と倍尺運用法によって決定されていたと考えられ、建築単位の倍尺運用基準は奈良・平安時代では建築の政治的格式序列として機能していたと想定されている。これまでの室伏氏の分析から、奈良・平安時代にあっては、年代とともに増加する傾向にあり、遺構の同時性、異時性の判断とおおよその年代決定もおこなえる可能性が高い。建築単位は細分性を有し、分割法による柱間間隔の決定等にも利用されていたとともに、建築単位は立面構造も含め、建物の比率設計の基礎単位として、また建物の骨格構造を構成する必要部材の積算の基礎単位としても機能していた可能性があることを導き出されている。こうしたことから、出土遺物以外から建築年代を想定する方法として、建築単位からの建物分析を室伏氏にお願いした。改めて感謝申し上げたい。

【参考文献】

猪股喜彦　1993「山梨県における出土硯をめぐる現状と課題」『山梨県考古学協会誌』第６号　山梨県考古学協会
猪股喜彦　1996「金川扇状地の土地開発―甲斐国分寺周辺の集落」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第７集　帝京大学山梨文化財研究所
甲斐型土器研究グループ　1992『甲斐型土器―その編年と年代―』山梨県考古学協会・甲斐型土器研究グループ
櫛原功一他　1997『西田町遺跡調査報告書』一宮町文化財調査報告第23集　㈱いちやまマート・山梨県東八代郡一宮町教育委員会・西田町遺跡発掘調査団
坂本美夫・末木健・堀内真　1983「甲斐地域」『神奈川考古第14号（シンポジウム　奈良・平安時代の諸問題）』神奈川考古同人会
坂本美夫　1986「甲斐国における古代末期の土器様相」『神奈川考古』第21号　神奈川考古同人会
櫛原功一　1992「宮ノ前遺跡における奈良～平安時代の土器・陶器」『宮ノ前遺跡』韮崎市遺跡調査会他
玉口時雄　1980「転用硯考―墨書土器研究への一考察―」『古代探叢』滝口宏先生古希記念考古学論集編集委員会
東三河編集委員会　2005「霜月に舞う『湯立神楽』」『東三河』春夏秋冬叢書
野﨑進・望月秀和他　2007『今宮遺跡・車居遺跡』笛吹市文化財調査報告書第５集　山梨県峡東建設事務所・笛吹市教育委員会
原　正人　2004「第５章律令制と甲斐国の成立 第５節郡郷の成立」『山梨県史 通史編１原始・古代』山梨県
平野　修　1992「山梨県内出土の墨書土器と線刻土器」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第４集　帝京大学山梨文化財研究所
平野　修　2008「墨書土器からみた古代甲斐国の八代郡と山梨郡の郡境について」『山梨県考古学協会誌』第18号　山梨県考古学協会
三好美穂　1992「平城京出土の甲斐型土器」『山梨県考古学協会誌』第５号　山梨県考古学協会
室伏　徹　2006「奈良・平安時代建築解析法としての建築単位の提言」『古代考古学フォーラム2006掘立柱・礎石建物建築の考古学―都城・官衙・集落・寺院における分析と研究法―』帝京大学山梨文化財研究所
森原明廣　1994「山梨県地域における古代末期の土器様相―『甲斐型土器』の消滅とその後―」『丘陵』第14号　甲斐丘陵考古学研究会
山下孝司・瀬田正明　1999「５ 奈良・平安時代の編年」『山梨県史』資料編２原始・古代２考古（遺構・遺物）
山中　章　1989「古代都城の線刻土器・記号墨書土器」『古代文化』第41巻第12号　㈶古代学協会

付編１　西田町遺跡第３次調査（平成20年度）から出土した炭化種実

佐々木由香・バンダリ スダルシャン（㈱パレオ・ラボ）

１．はじめに

山梨県笛吹市一宮町に位置する西田町遺跡は、甲州盆地東南部、笛吹川の支流である日川・金川と御坂山地に囲まれた緩やかな北西向きの斜面上に立地する、奈良・平安時代の集落跡を主体とする遺跡である。遺跡の標高は約340mである。ここでは竪穴建物跡や土坑から回収された12試料の炭化種実の同定を行い、当時利用された種実を検討した。

２．試料と方法

試料は竪穴建物跡である第３次調査で検出されたSI9・10・11・13・15・22・17・30の８棟のカマド覆土などと、土坑であるSK31・125・133の３基の覆土などから回収された炭化物である。試料は１試料あたり１点から複数の炭化物を含み、水洗選別済みであった。基本的に各遺構１試料であるが、SI10のみ２試料が回収されていた。遺構の時期は、出土土器からSI22が奈良時代、SI9・11・13・15・17・30とSK31が平安時代（８～10世紀代）、SI10とSK133が平安時代末、SK125が平安時代かと考えられている。またSK31は祭祀的な用途が推定されている石組みカマド状の火処を有する小竪穴状の土坑、SK133は柱穴状の小ピットが土坑の掘りかたの壁面に沿って底面に達する土坑、SK125は焼土や炭化材を伴う土坑である。

堆積物の採取から水洗、抽出までの作業は㈶山梨文化財研究所によって行われた。炭化種実の抽出･同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても１個体とみなせるものは完形として数え、１個体に満たないものは破片とした。試料および残渣は笛吹市教育委員会に保管されている。

３．結　果

同定の結果得られた炭化種実は、木本植物のオニグルミ炭化核とモモ炭化核、コウゾ属炭化核の３分類群と、草本植物のヤナギタデ炭化果実と、サナエタデ-オオイヌタデ炭化果実、タデ属炭化果実、スベリヒユ属炭化種子、アカザ属炭化種子、ハギ属炭化種子、ササゲ属アズキ亜属アズキ型（以下アズキ型）炭化種子、マメ科炭化種子、カタバミ属炭化種子、アカネ属炭化種子、シソ属炭化果実、シソ科炭化果実、ナス属炭化種子、ゴマ炭化種子、メナモミ属炭化果実、オナモミ属炭化果実、ツユクサ炭化種子、ヒエ炭化種子、イネ炭化籾殻・種子、キビ炭化種子、エノコログサ炭化有ふ果・種子、アワ炭化種子、オオムギ炭化種子、コムギ炭化種子、イネ科炭化種子、ホタルイ属炭化果実の26分類群の計29分類群が同定された。また、残存が悪いためにオオムギかコムギか不明であった一群をオオムギ-コムギ炭化種子とした。この他に科以下の同定ができなかった不明Ａ炭化果実と不明Ｂ炭化種実と、同定の識別点を欠くため同定できなかった同定不能炭化種実が見いだされた。種実以外には炭化した不明芽と、虫えい、子嚢菌が得られた。

以下に、時期別に遺構ごとの炭化種実出土傾向を記載する（同定不能炭化種実、虫えい、子嚢菌は除く）。

[奈良時代]

SI22（カマド掘りかた覆土）：オニグルミ核と、スベリヒユ属種子、イネ種子、オオムギ種子がわずかに得られた。

[平安時代]

SI9（カマド覆土）：オニグルミ核と、アカネ属種子、シソ科果実、イネ種子、オオムギ種子、コムギ種子、オオムギ-コムギ種子がわずかに得られた。

SI11（カマド前面炭化物層）：イネ種子とアワ種子、オオムギ種子が少量、オニグルミ核とコウゾ属核、サナエタデ-オオイヌタデ果実、アカザ属種子、アズキ型種子、マメ科種子、メナモミ属果実、オナモミ属果実、ヒエ種子、イネ籾殻、コムギ種子、オオムギ-コムギ種子、イネ科果実、ホタルイ属果実がわずかに得られた。オニグルミの破片数は多いが、復元個体数は１個体未満であった。

SI13（カマド前面焼土層）：オニグルミ核と、スベリヒユ属種子、アカザ属種子、アズキ型種子、アカネ属種子、シソ科果実、オナモミ属果実、イネ果実・種子、キビ種子、アワ種子、オオムギ種子、オオムギ-コムギ種子、ホタルイ属果実がわずかに得られた。

表1　西田町遺跡(2008くろがねや地点)の炭化種実同定結果(括弧は破片を示す)

	サンプルNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	検出遺構	SI9	SI10		SI11	SI13	SI15	SI22	SK31	SK125	SK133	SI17	SI30
	検出位置	カマド覆土	カマド前面床直覆土層	カマド覆土	カマド前面炭化物層	カマド前面境土層	カマド覆土	カマド掘り方覆土	土坑内カマド遺構覆土	3層	土坑覆土下層	カマド	覆土
	時期	平安時代	平安時代末		平安時代			奈良時代	平安時代	平安時代か	平安時代末	平安時代	
オニグルミ	炭化核	(14)	(26)	(28)	(95)	(25)	(13)	(1)	(3)	(8)			
モモ	炭化核										(20)	1	
ヒメコウゾ属	炭化核				(1)								
ヤナギタデ	炭化果実									3 (3)			
サナエタデ-オオイヌタデ	炭化果実				(1)								
タデ属	炭化果実								1 (2)	3	1		
スベリヒユ属	炭化種子		1	1		2		4					
アカザ属	炭化種子		1		3 (2)	3 (3)			1	6 (4)	1 (1)		
ハギ属	炭化種子			1									
ササゲ属アズキ亜属アズキ型	炭化種子			(7)	(9)	(2)				(1)	(2)		
マメ科	炭化種子				1								
カタバミ属	炭化種子			1									
アカネ属	炭化種子	1	1	2		1	1		1	3			
シソ属	炭化果実										1		
シソ科	炭化果実	1	1			1							
ナス属	炭化種子									1			
ゴマ	炭化種子		1				1						
メナモミ属	炭化果実				1					1			
オナモミ属	炭化果実			(1)	(1)	(1)					(3)		
ツユクサ	炭化種子									2	1		
ヒエ	炭化種子		1	3 (1)	3		1			37			
イネ	炭化果実				(2)	(1)			(15)	(30)			
	炭化種子	(1)	4 (19)	4 (7)	17 (68)	3 (19)	2 (3)	(5)	2 (5)	46 (138)	17 (80)		
キビ	炭化種子			1		2	1			2	1		
エノコログサ	炭化果実									1			
	炭化種子									29			
アワ	炭化種子				18 (13)	2	2		1	11			
オオムギ	炭化種子	3 (2)	9 (3)	2 (2)	18	1 (1)	3	(1)	3 (1)	1 (5)	4		
コムギ	炭化種子	3	1	2	8					3	3		
オオムギ-コムギ	炭化種子	(12)	(28)	(20)	(27)	(15)	(11)		(1)	(11)	1 (12)		
イネ科	炭化種子				1								
ホタルイ属	炭化果実				1 (1)	1				10 (8)			
不明A	炭化果実												1
不明B	炭化種実										(1)		
同定不能	炭化種実	(53)	(190)	(205)	(492)	(270)	(148)	(13)	(152)	(642)	(255)		
不明	炭化芽						1		2				
虫えい				1			1	1 (1)					
子嚢菌	炭化子嚢			1	1 (1)	1							

SI15（カマド覆土）：オニグルミ核とアカネ属種子、ゴマ種子、ヒエ種子、イネ種子、キビ種子、アワ種子、オオムギ種子、オオムギ-コムギ種子がわずかに得られた。

SI17（カマド）：モモ核がわずかに得られた。

SI30（覆土）：不明A果実がわずかに得られた。

SK31（土坑内カマド遺構覆土）：オニグルミ核と、タデ属果実、アカザ属種子、アカネ属種子、イネ籾殻・種子、アワ種子、オオムギ種子、オオムギ－コムギ種子がわずかに得られた。

[平安時代末]

SI10（カマド前面床直覆土層・カマド覆土）：オオムギ種子が少量と、オニグルミ核、スベリヒユ属種子、アカザ属種子、ハギ属種子、アズキ型種子、カタバミ属種子、アカネ属種子、シソ科果実、ゴマ種子、オナモミ属果実、ヒエ種子、イネ種子、キビ種子、コムギ種子、オオムギ－コムギ種子がわずかに得られた。オニグルミの破片数は多いが、復元個体数は1個体未満であった。

SK133（土坑覆土下層）：イネ種子が少量と、モモ核、タデ属果実、アカザ属種子、アズキ型種子、シソ属果実、オナモミ属果実、ツユクサ種子、キビ種子、オオムギ種子、コムギ種子、オオムギ－コムギ種子、不明B種実がわずかに得られた。モモの破片数は多いが、復元個体数は1個体未満であった。

[平安時代か]

SK125(3層)：ヒエ種子とイネ種子、エノコログサ種子がやや多く、アワ種子とホタルイ属果実が少量、オニグルミ核、ヤナギタデ果実、タデ属果実、アカザ属種子、アズキ型種子、アカネ属種子、ナス属種子、メナモミ属果実、ツユクサ種子、イネ籾殻、キビ種子、エノコログサ有ふ果、オオムギ種子、コムギ種子、オオムギ－コムギ種子がわずかに得られた。

以下産出した代表的な分類群の種実の記載と図版を掲載し、同定の根拠とする。

(1) オニグルミ　*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino　炭化核　クルミ科

完形はなく、すべて破片である。完形ならば側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。壁は緻密で硬く、部分的に空隙がある。断面は角が尖るものが多い。最大破片で残存長7.5㎜、残存幅5.0㎜。

(2) モモ　*Amygdalus persica* L.　炭化核　バラ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。ま

た片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。長さ 23.0㎜、幅 19.3㎜、厚さ 13.1㎜。

(3) タデ属　*Polygonum* spp.　炭化果実　タデ科

上面観は円形、側面観は倒卵形。下端にはやや突出した楕円形の大きな着点がある。表面は平滑で光沢がある。長さ 1.2㎜、幅 1.0㎜程度。

(4) ササゲ属アズキ亜属アズキ型　*Vigna angularis* var. *angularis* type　炭化種子　マメ科

上面観は方形に近い円形、側面観は方形に近い楕円形。臍および種瘤は失われている。子葉に初生葉は遺存していないが、中央下端にむかって伸びた痕跡（溝）がある。長さ 4.5㎜、幅 3.0㎜程度。現生種と大きさを比較すると（小畑, 2008）、野生種と栽培種双方の大きさを含むため、複数種含む可能性もある。

(5) マメ科　Fabaceae sp.　炭化種子

著しく変型しているが、本来の上面観はやや扁平、側面観は楕円形か。種瘤は発泡している。側面中央に全長の 1/3 程度の長楕円形で両端がやや尖る臍がある。臍の内部に厚膜（Epihilum）が残存しているように見えるため、ダイズ属以外のグループと思われるが（小畑ほか, 2007）、状態が悪いため科以下の同定ができなかった。長さ 2.4㎜、幅 1.8㎜、厚さ 1.2㎜。

(6) シソ属　*Perilla* sp.　炭化果実　シソ科

いびつな球形。端部に着点がある。表面には浅い多角形の網目模様がある。長さ 2.0㎜、幅 1.8㎜。エゴマの可能性もあるが、シソとエゴマの両方の可能性を残す大きさで、1 点のみの産出のためシソ属の同定に留めた。

(7) シソ科　Lamiaceae sp.　炭化果実

上面観は楕円形、側面観は倒卵形。下端にやや突出する着点がある。表面は平滑。長さ 1.3㎜、幅 1.0㎜程度。

(8) ゴマ　*Sesamum orientale* L.　炭化種子

上面観はやや扁平で、側面観は倒卵形。表面は光沢があり、微細な網目紋がある。長さ 2.3㎜、幅 1.5㎜程度。

(9) ヒエ　*Echinochloa crus-galli* (L.) Beauv. var. *frumentacea* (Roxb.) W.Wright　炭化種子　イネ科

側面観が卵形ないし楕円形、断面は片凸レンズ形であるが、厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広くうちわ型で、胚の長さは全長の 2/3 程度と長い。長さ 1.6㎜、幅 1.2㎜程度。

(10) イネ　*Oryza sativa* L.　炭化籾殻・炭化種子　イネ科

籾殻はすべて破片であるが、完形ならば上面観・側面観が楕円形で、表面には規則的に配列する独特の顆粒状突起がある。小穂軸が突出する。基部の個数で計数した。残存長 2.2㎜、残存幅 0.8㎜程度。種子の上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の 2 本の浅い溝がある。長さ 4.5㎜、幅 2.7㎜程度。

(11) キビ　*Panicum miliaceum* L.　炭化種子　イネ科

側面観は卵形で、先端が窄まってやや尖り気味となる。断面は片凸レンズ形で厚みがある。胚の長さは全長の 1/2 程度と短い。胚は幅が広いうちわ型。長さ 2.4㎜、幅 1.5㎜程度。

(12) エノコログサ　*Setaria viridis* (L.) P.Beauv.　炭化有ふ果・炭化種子　イネ科

果実の上面観は楕円形、側面観は長楕円形で先端がやや突出する。アワよりも細長く、乳頭突起が畝状を呈する。長さ 1.5㎜、幅 0.9㎜程度。種子の上面観は楕円形、側面観は長楕円形。腹面下端中央の窪んだ位置に細長い楕円形の胚がある。胚の長さは全長の 1/3 程度。長さ 1.2㎜、幅 0.7㎜程度。

(13) アワ　*Setaria italica* P.Beauv.　炭化種子　イネ科

上面観は楕円形、側面観は円形に近い。腹面下端中央の窪んだ位置に細長い楕円形の胚がある。胚の長さは全長の 2/3 程度。長さ 1.4㎜、幅 1.2㎜程度。

(14) オオムギ　*Hordeum vulgare* L.　炭化種子　イネ科

側面観は紡錘形、断面は円形。腹面中央部には上下に走る 1 本の溝がある。背面の下端中央部には三角形の胚があり、中央の断面形状は円形となる（Jacomet, 2006）。長さ 5.5㎜、幅 2.0㎜、厚さ 2.6㎜。

(15) コムギ（パンコムギ）　*Triticum aestivum* L.　炭化種子　イネ科

上面観・側面観共に楕円形。腹面中央部には上下に走る 1 本の溝がある。背面の下端中央部には扇形の胚がある。オオムギに比べて長さが短く、幅に対して厚みがあるため、全体的に丸っこい傾向がある。断面形状は腹面側が窪み、背面側が円形となる（Jacomet, 2006）。またコムギの場合、側面観で最も背の高い部分（幅の広い部分）が基部付近に来る。コムギ属にはパンコムギやマカロニコムギなど複数種あるが、一般的に日本産コムギと呼称しているものはパンコムギである。ここでは一般的な呼称で記載した。長さ 4.7㎜、幅 3.6㎜、厚さ 3.0㎜。破片や変形などにより

オオムギとコムギを明確に識別できなかった一群をオオムギ－コムギとした。

(16) イネ科　Gramineae sp.　炭化種子

上面観は楕円形、側面観は長楕円形。表面は円滑か。胚は全長の 1/2 以上。上部は欠損している。属以下の同定はできなかった。長さ 1.3㎜、幅 0.8㎜。

(17) 不明 A　Unknown A　炭化果実

中心に硬い核を持つ果実で、球形。表面は平滑で皺があり、柔らかい。核は両凸レンズ形で壁が厚く硬い。内部の子葉は失われている。バラ科か。残存長 16.5㎜、残存幅 15.1㎜、残存厚 8.2㎜。

(18) 不明 B　Unknown B　炭化種実

破片だが、上面観は楕円形、側面観は倒卵形か。表面は平滑で、ほぼ中央の孔が着点か。反対側には側面近くに縦方向の溝がある。ブドウ科か。長さ 3.5㎜、残存幅 2.6㎜。

4．考　察

奈良時代から平安時代末の竪穴建物跡と土坑から出土した炭化種実を同定した結果、栽培植物を含む多くの種実が得られた。

奈良時代の竪穴建物跡からは、栽培植物では水田作物のイネと畑作作物のオオムギが得られた。野生植物では食用可能なオニグルミがあった。草本植物のスベリヒユ属は種によっては若芽を食用にするが、種子自体は利用しない。産出数が少ないことから、竪穴建物跡周辺に生育していたものが偶発的に炭化したと考えられる。

平安時代の竪穴建物跡からは、栽培植物では水田作物のイネ、畑作作物のゴマと、ヒエ、キビ、アワ、オオムギ、コムギ、果樹のモモが得られた。検討を行った 6 棟の竪穴建物跡のうち、4 棟からイネとオオムギ、3 棟からアワが産出し、その他の栽培植物は 1 ～ 2 棟から産出した。SI17 のみから産出したモモは食用となるほかに、モモ自体が呪術的意味を持つが、出土位置が竪穴建物跡のカマドであることを考慮すると、食用後に食用としない核の部分が意図的に燃やされたか、あるいは燃えてしまって炭化し、堆積した可能性が高い。また、SI11 のみに栽培種（アズキ）と野生種(ヤブツルアズキなど)を含むアズキ型が得られた。野生植物では食用可能なオニグルミとコウゾ属があった。その他、草本植物であるスベリヒユ属と、サナエタデ－オオイヌタデ、アカザ属、マメ科、アカネ属、シソ科、メナモミ属、オナモミ属、イネ科、ホタルイ属については産出数がわずかであり、何らかの要因で周辺に生育していたものが偶発的に炭化したと考えられる。ほとんどが道ばたや荒れ地などに生育する雑草であるが、ホタルイ属は抽水植物であるため、周囲に池や水たまりがあったことが想定される。竪穴建物跡別にみると、SI9 と SI15 から得られた種実のほとんどは栽培植物か食用可能な植物で、その他の種実はほとんど産出していないのに対し、SI11 と SI13 は多種類の種実が含まれていた。これは、前者はカマド覆土、後者はカマド前面炭化物層または焼土層という分析対象位置の違いを反映している可能性がある。SI30 からは同定可能な種実は得られなかったが、1 点の不明果実が得られた。梅干し状に周辺の果肉と中に核が残存しており、形状から判断して、何らかの食用となる果実が炭化した可能性がある。

祭祀的な用途が推定されている SK31 からは栽培植物のイネ、アワ、オオムギが得られた。また食用可能なオニグルミ、草本植物のタデ属とアガサ属、アカネ属が得られた。種実組成は SI9 や SI15 のカマド覆土から得られた種実と類似し、差異はみられなかった。

平安時代末の竪穴建物跡と土坑からは、栽培植物では水田作物のイネ、畑作作物のゴマと、ヒエ、キビ、オオムギ、コムギ、果樹のモモが得られた。また、栽培種と野生種を含むアズキ型があった。野生植物では食用可能なオニグルミとシソ属があった。その他の草本植物であるタデ属と、スベリヒユ属、アカザ属、ハギ属、カタバミ属、アカネ属、シソ科、オナモミ属、ツユクサについては産出数がわずかであることから、何らかの要因で周辺に生育していたものが偶発的に炭化したことが考えられる。建物跡と土坑内から得られた種実の組成は類似していた。

平安時代とされた土坑である SK125 からは、栽培植物では水田作物のイネ、畑作作物のヒエと、キビ、アワ、オオムギ、コムギ、栽培種と野生種を含むアズキ型が得られた。また食用可能なオニグルミ、草本植物のヤナギタデと、タデ属、アカザ属、アカネ属、ナス属、メナモミ属、ツユクサ、エノコログサが得られた。種実の組成は竪穴建物跡内と類似していた。

食用可能な種実が炭化した要因としては、貯蔵・加工・調理時の炭化、食用部分を取り出した後の残渣焼却、残渣が堆積した場所での火の使用による炭化、祭祀など非日常的な要因による炭化などが考えられる。

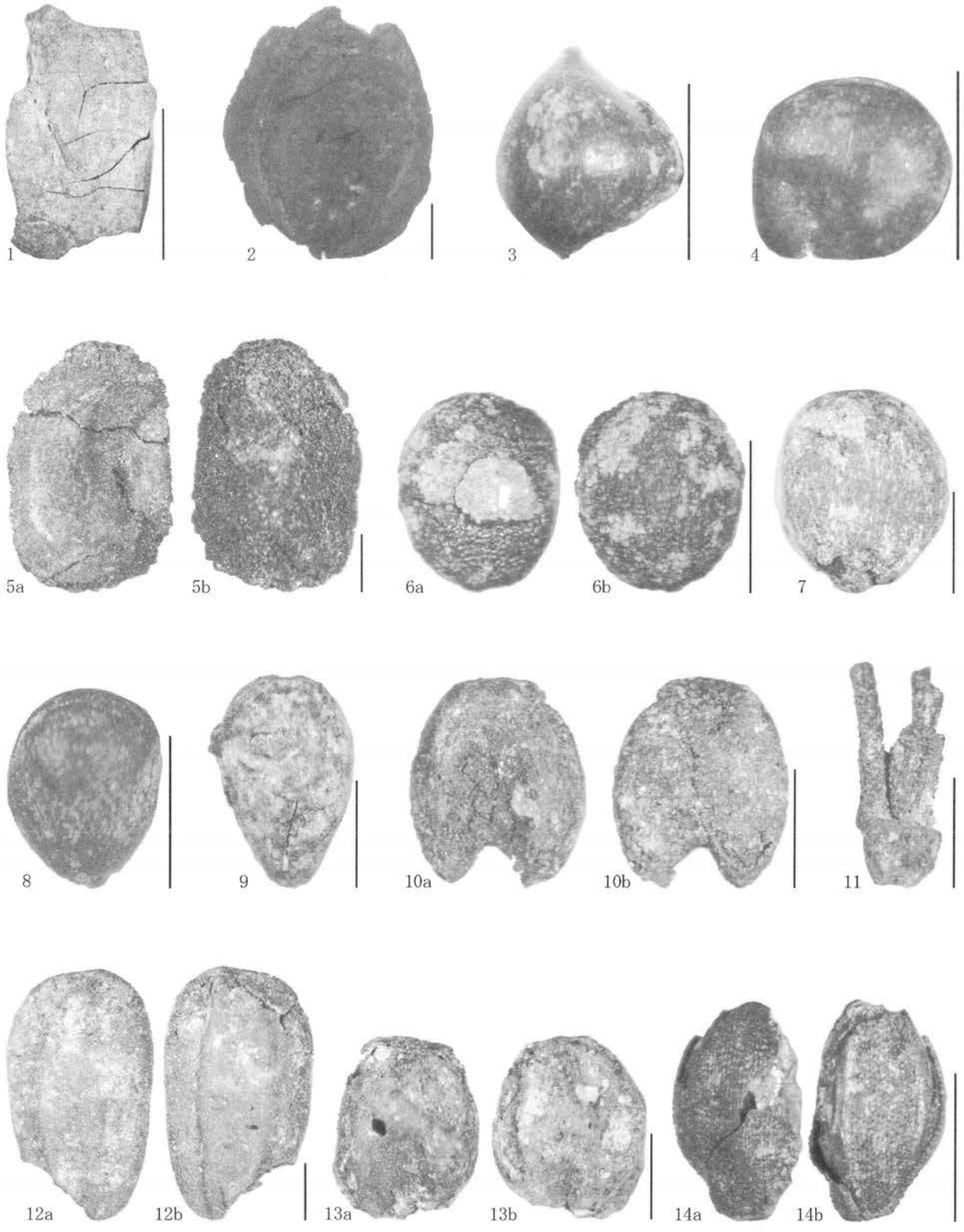
西田町遺跡は奈良時代から平安時代にかけての中核的な集落であった可能性が高いと考えられている。遺跡周辺では複数の栽培植物を栽培･管理し、食用可能なオニグルミなどの森林資源を利用する多角的な種実利用が推定される。

引用文献

Jacomet, S. and collaborators Archaeobotany Lab. (2006) Identification of cereal remains from archaeological sites. 2nd edition, IPAS, Basel Univ.

小畑弘己（2008）マメ科種子同定法．小畑弘己編「極東先史古代の穀物 3」:225-252．熊本大学。

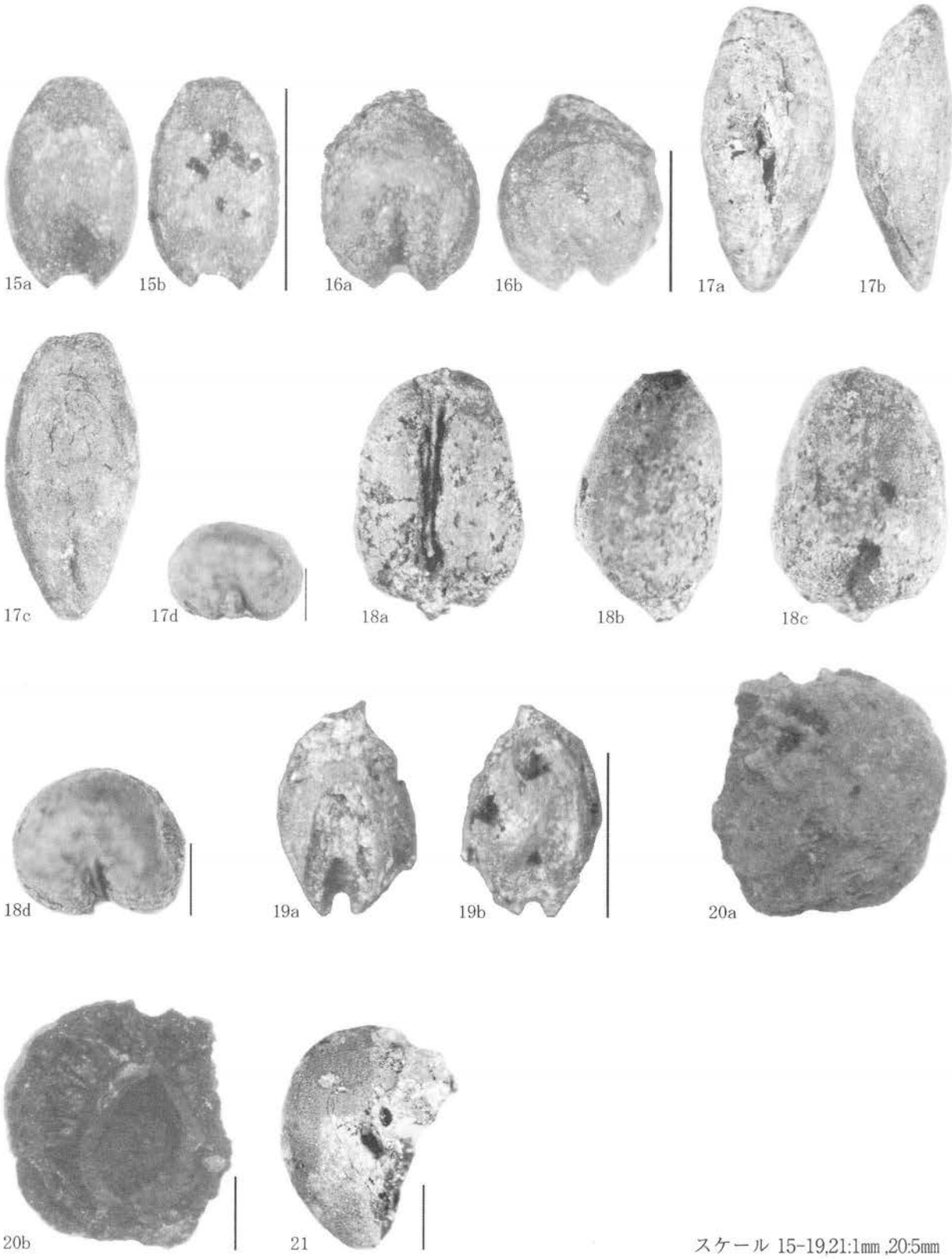
小畑弘己・佐々木由香・仙波靖子（2007）土器圧痕からみた縄文時代後・晩期における九州のダイズ栽培．植生史研究 15（2），97-114.



スケール 1,2:5mm ,3-14:1mm

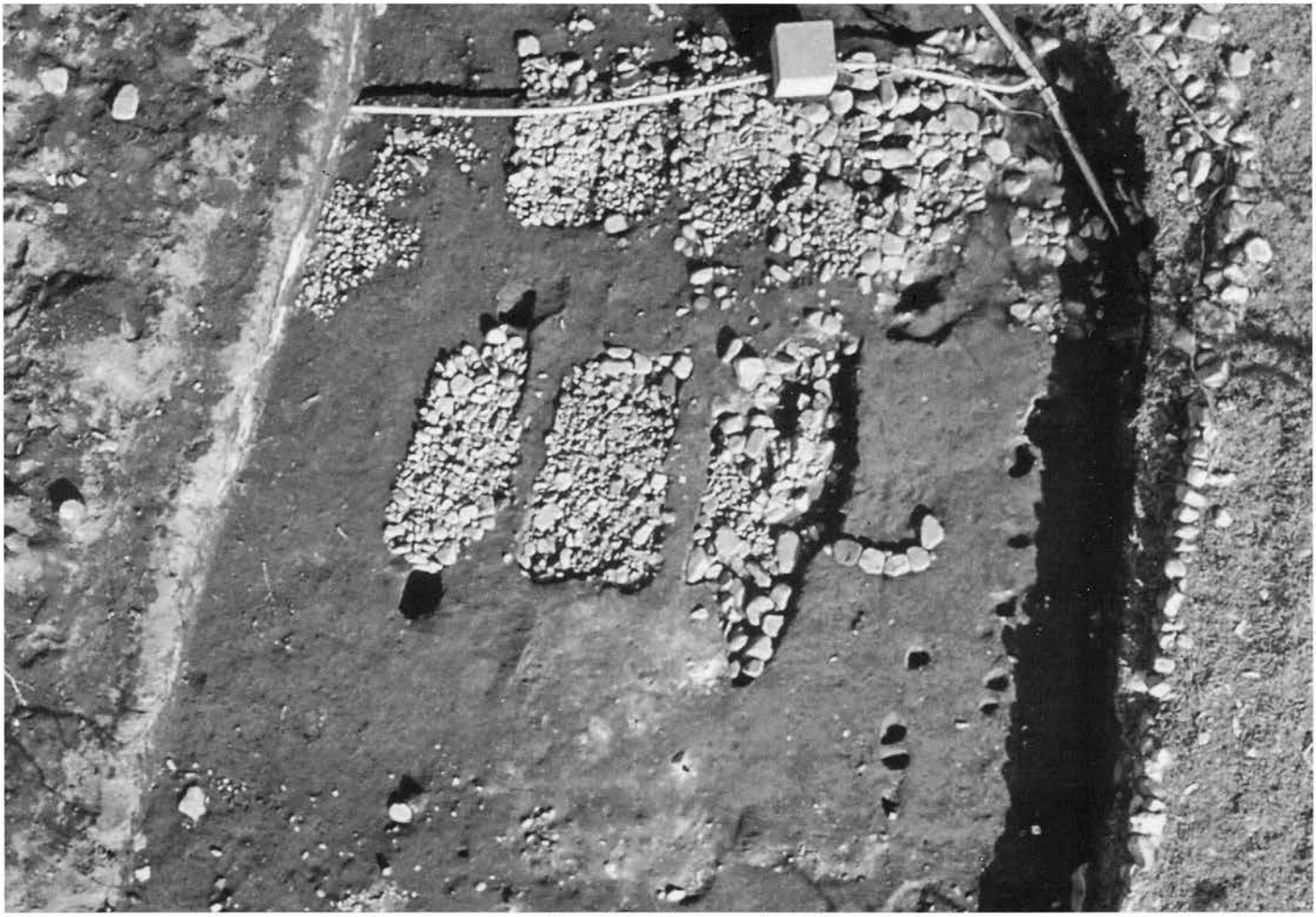
図版 1　西田町遺跡から出土した炭化種実（1）

1. オニグルミ炭化核（SI11 カマド前面炭化物層、No.4）、2. モモ炭化核（SI17 カマド、No.11）、3. タデ属炭化果実（SK133 土坑覆土下層、No.10）、4. アカザ属炭化種子（SI11 カマド前面炭化物層、No.4）、5. ササゲ属アズキ亜属アズキ型炭化種子（SI11 カマド前面炭化物層、No.4）、6. アカネ属炭化種子（SI15、カマド覆土、No.6）、7. シソ属炭化果実（SK133 土坑覆土下層、No.10）、8. シソ科炭化果実（SI9 カマド覆土、No.1）、9. ゴマ炭化種子（SI15 カマド覆土、No.6）、10. ヒエ炭化種子（SI10 カマド覆土、No.3）、11. イネ炭化果実（SI11 カマド前面炭化物層、No.4）、12. イネ炭化種子（SI10 カマド覆土、No.3）、13. キビ炭化種子（SK125、3 層、No.9）、14. エノコログサ炭化果実（SK125、3 層、No.9）



図版２　西田町遺跡から出土した炭化種実（2）

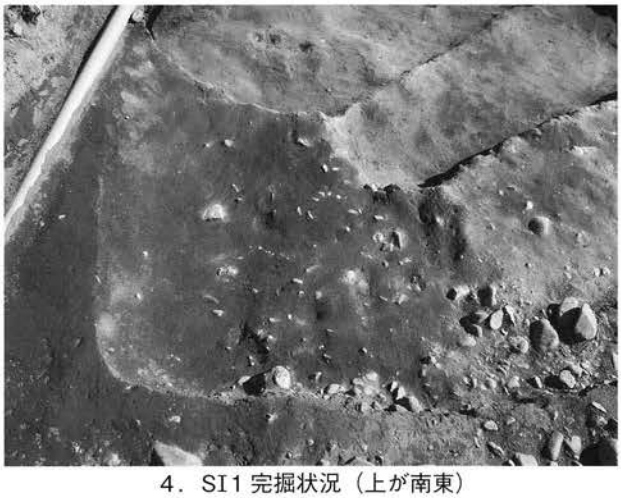
15. エノコログサ炭化種子（SK125、3 層、No.9）、16. アワ炭化種子（SI11 カマド前面炭化物層、No.4）、17. オオムギ炭化種子（SI11 カマド前面炭化物層、No.4）、18. コムギ炭化種子（SI11 カマド前面炭化物層、No.4）、19. イネ科炭化種子（SI11 カマド前面炭化物層、No.4）、20. 不明 A 炭化果実（SI30 覆土、No.12）、21. 不明 B 炭化種実（SK133 土坑覆土下層、No.10）



1．平成 18 年度調査区全景（上が北）

2．平成 18 年度調査区近景（北西から）

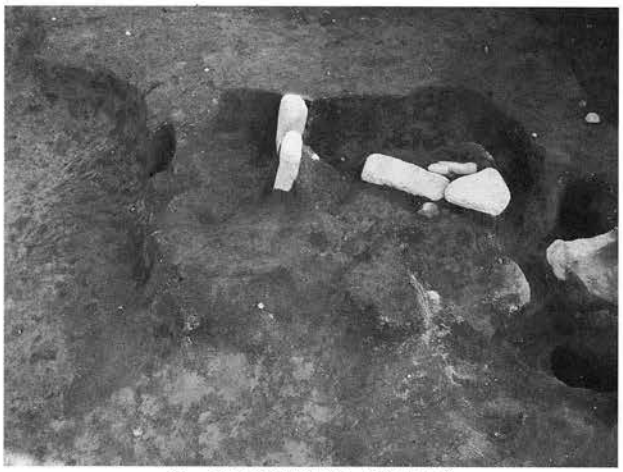
3．平成 18 年度調査区近景（西から）



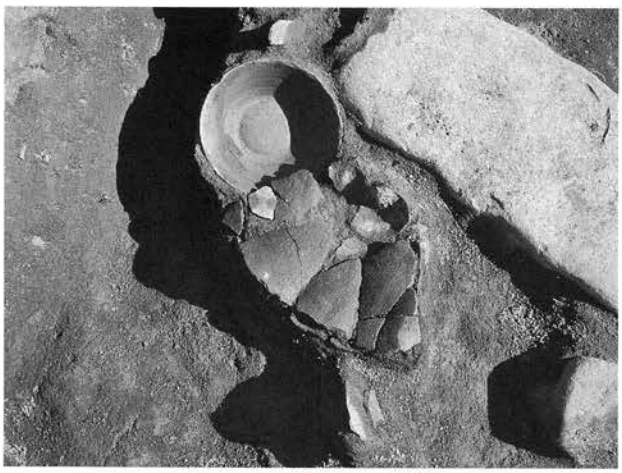
4．SI1 完掘状況（上が南東）

5．SI1 カマド確認状況

図版２



6．SI2 完掘状況（西から）



7．SI2 内遺物出土状況

8．SI2 カマド内遺物
出土状況

9．SK1～9、1号
配石検出状況
（西から）

10．SK1 集石状況
（北から）

11．SK1 完掘状況（北から）

12．SK1・3 集石状況

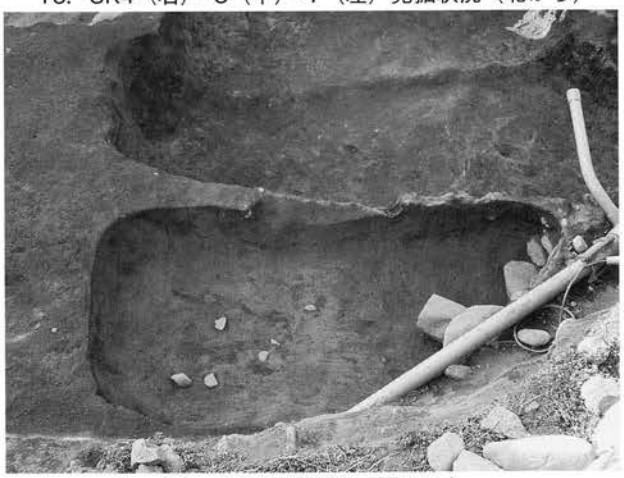
13. SK3 完掘状況（北から）

14. SK2 完掘状況（北から）

15. SK2 遺物出土状況

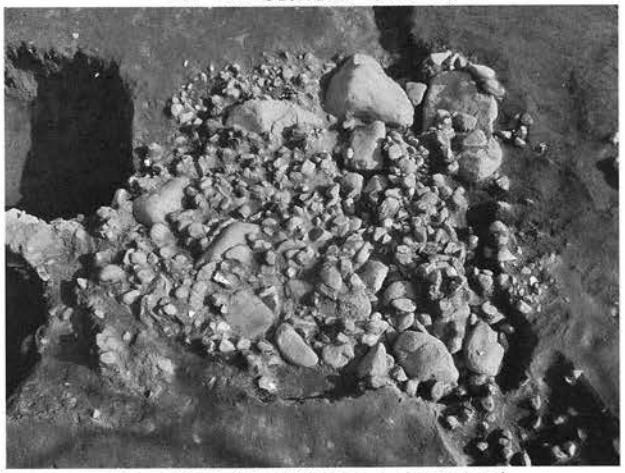
16. SK4（右）・5（中）・7（左）完掘状況（北から）

17. SK6 集石状況断面



18. SK6 完掘状況（東から）

19. SK7（左）・8（中）・9（右）完掘状況（北から）

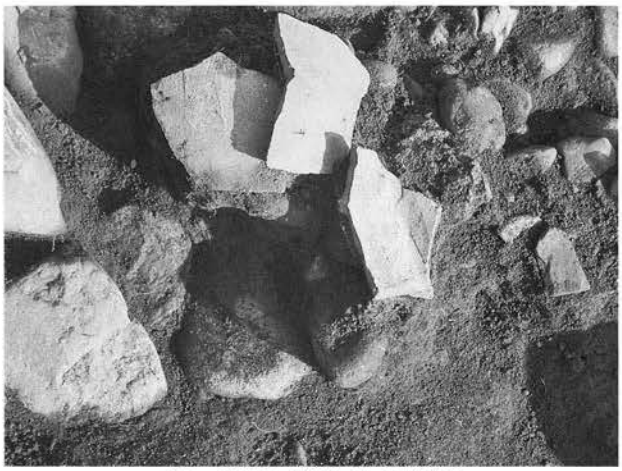


20. SK10 集石状況その 1（北西から）

図版 4

21. SK10 集石状況その 2

22. SK10 内遺物出土状況 1



23. SK10 内遺物出土状況 2

24. SK10 集石状況断面

25. SK10 完掘状況（西から）

26. SK12（右）・13 確認状況（西から）

27. SK12 内遺物出土状況

28. SK14 確認状況

29. SK14 集石状況断面（東から）

30. SK14 完掘状況（北から）

31. SK15 集石状況断面（東から）

32. SK16 完掘状況（西から）

33. 1 号配石完掘状況（北から）

34. 1 号ピット完掘状況（北から）

35. 2 号ピット完掘状況

36. 3 号ピット完掘状況（西から）

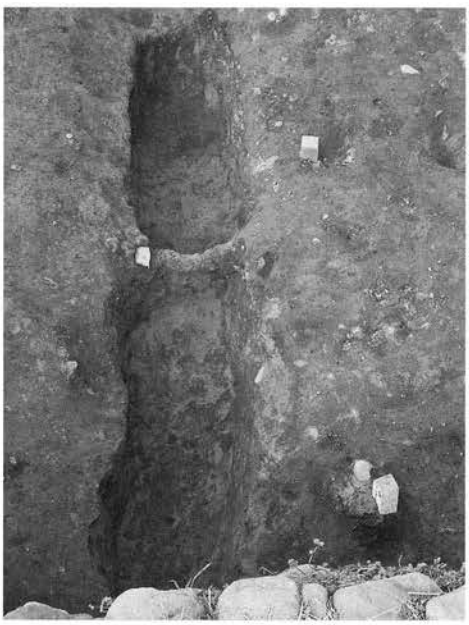
図版 6

37. SD1 完掘状況（東から）

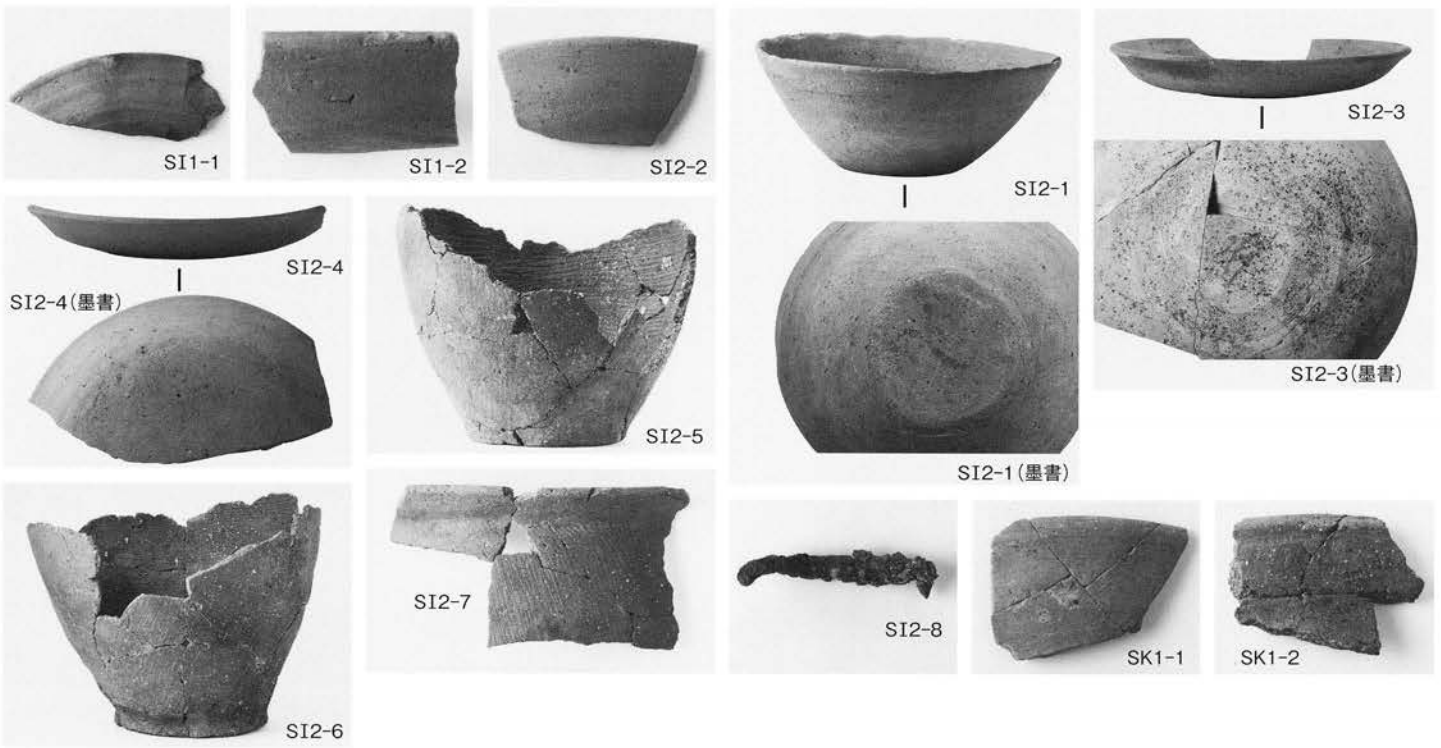
38. SD1 完掘状況（西から）

39. SD1 内集石確認状況（東から）

40. SD1 内集石断面



41. SD1 内集石完掘状況（東から）



平成18年度発掘調査　出土遺物(1)

SK1-3

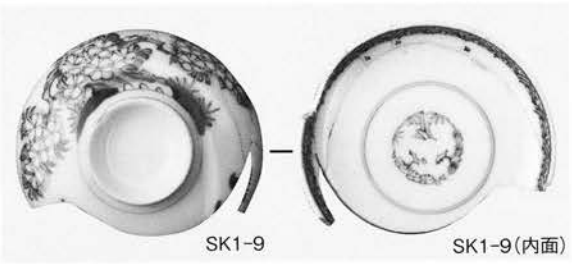
SK1-4

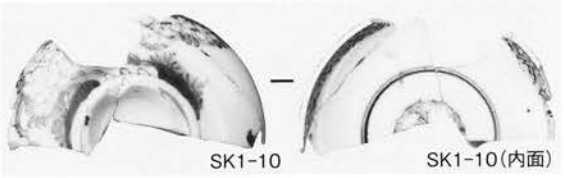
SK1-5

SK1-6

SK1-7

SK1-8

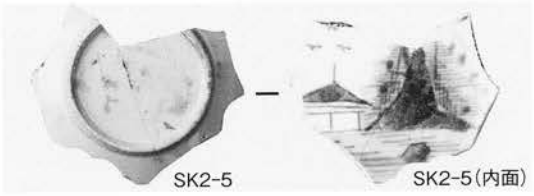

SK1-9　SK1-9(内面)


SK1-10　SK1-10(内面)

SK2-1

SK2-2

SK2-3


SK2-5　SK2-5(内面)

SK2-4

SK2-7

SK2-8

SK2-9-1

SK2-6(内面)
SK2-6

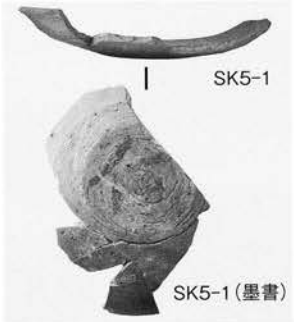
SK2-9-2

SK3-1

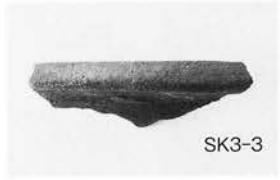
SK3-2

SK3-4

SK4-1


SK5-1
SK5-1(墨書)

SK5-2


SK3-3

SK4-2

SK5-3

SK5-4

SK7-1

SK7-2

SK8-1

SK8-2

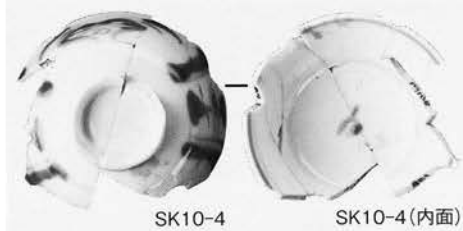
SK8-3

SK9-1

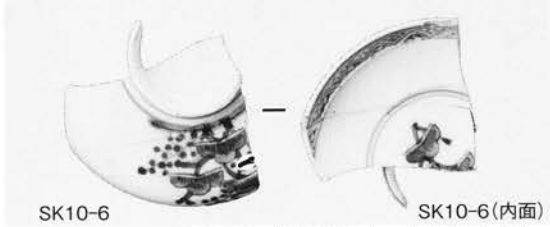
SK10-1

SK10-2

SK10-3


SK10-4　SK10-4(内面)

SK10-5


SK10-6　SK10-6(内面)

SK12-1

SK12-2

平成18年度発掘調査　出土遺物(2)

図版 8

SK12-3-1

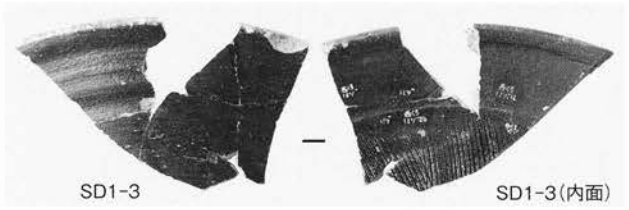
SK12-3-2

SK12-4

SK16-1

SD1-1

SD1-2


SD1-3

SD1-3(内面)

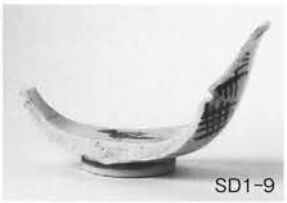
SD1-4

SD1-5

SD1-6

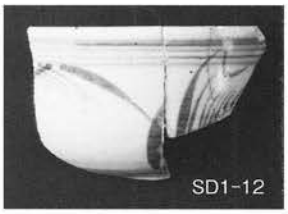
SD1-7

SD1-8


SD1-9

SD1-10

SD1-11


SD1-12

SD1-13

SD1-14

SD1-15

SD1-16

SD1-17

SD1-18

SD1-19

SD1-20

遺構外-1

遺構外-2

遺構外-3

遺構外-4

遺構外-5

遺構外-6

遺構外-7

遺構外-8

遺構外-9

遺構外-10

遺構外-11

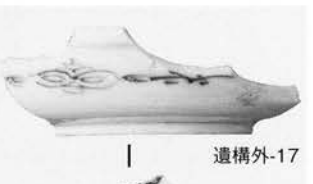
遺構外-12

遺構外-13

遺構外-14

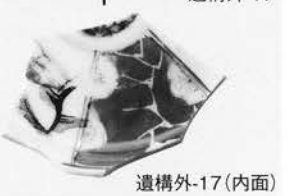
遺構外-15

遺構外-16


遺構外-17

遺構外-18

遺構外-19


遺構外-17(内面)

遺構外-20

遺構外-21

遺構外-22

遺構外-23

遺構外-24

平成18年度発掘調査　出土遺物(3)

１．平成20年度調査区全景空中写真（上が西）

２．平成20年度調査区景観写真（西から）

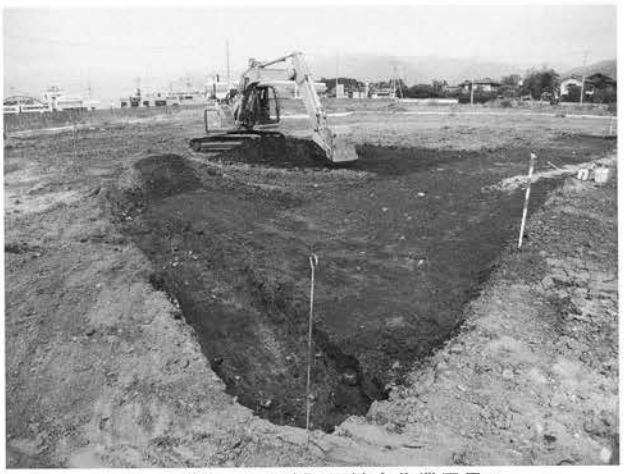
図版 10

3．平成20年度調査区景観写真（東から）

4．平成20年度調査区完掘部空中写真（上が北）

5．平成20年度調査区調査前状況 1

6．平成 20 年度調査区調査前状況 2

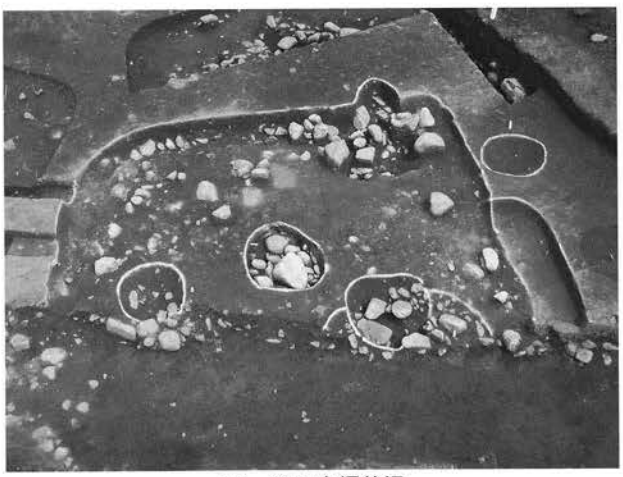


7．重機による確認面精査作業風景 1

8．重機による確認面精査作業風景 2

9．完掘部南側完掘状況 1（東から）

10．完掘部南側完掘状況 2（西から）



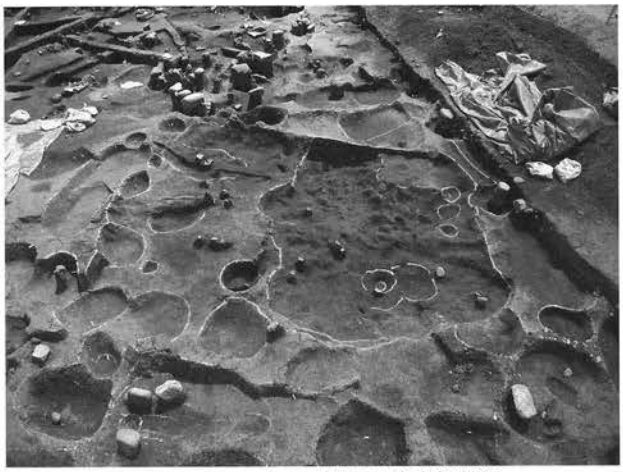
11．SI1完掘状況

12．SI1カマド完掘状況

図版 12

13. SI1ピット2およびSK6完掘および遺物出土状況

14. SI2完掘状況



15. SI3・21・22掘りかた完掘状況

16. SI21内カマド掘りかた完掘状況および遺物出土状況

17. SI22カマド掘りかた完掘および遺物出土状況 1

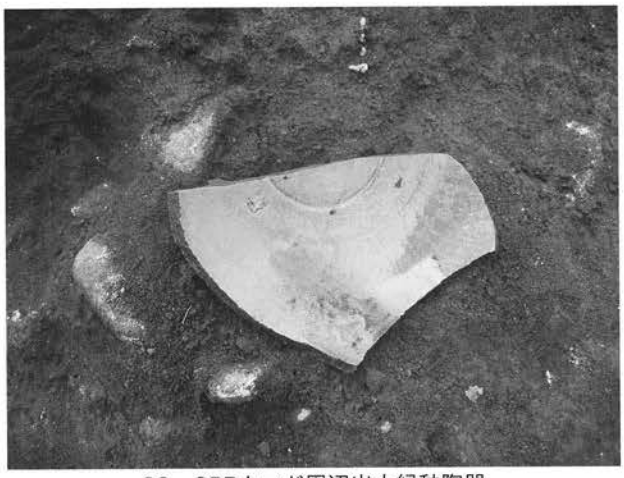
18. SI22カマド内遺物出土状況 2

19. SI3カマドおよびSK98完掘状況

20. SI4完掘状況

21. SI5遺物出土状況

22. SI5カマド内遺物出土状況



23. SI5カマド周辺出土緑釉陶器

24. SI5カマド脇出土刀子

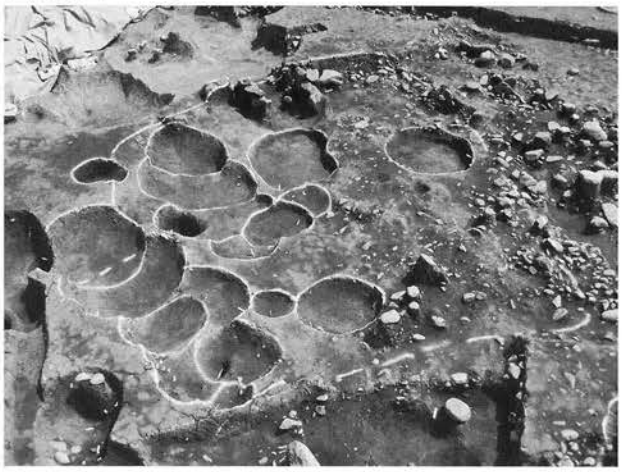
25. SI6完掘および遺物出土状況

26. SI6カマド内遺物出土状況

27. SI7東西セクションおよび遺物出土状況

28. SI7カマド検出状況

図版 14



29. SI8完掘状況

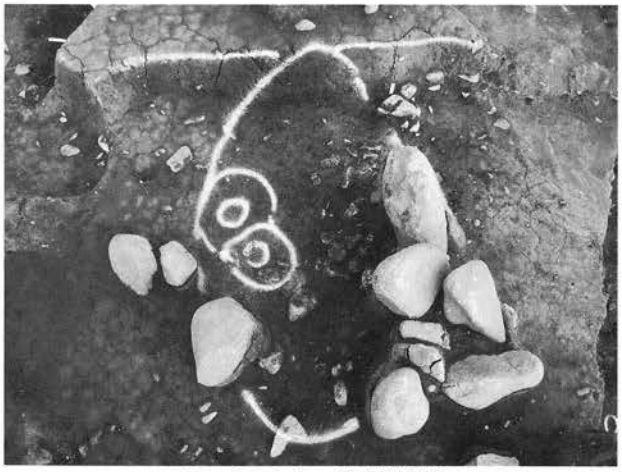
30. SI8遺物出土状況

31. SI8カマド完掘状況

32. SI8カマド内遺物出土状況

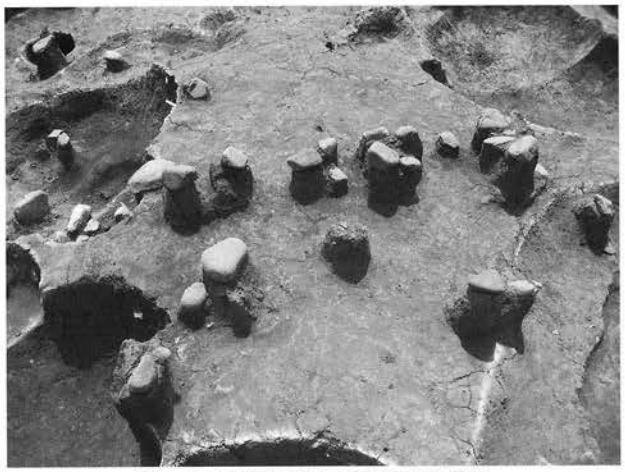
33. SI9・10・11完掘状況

34. SI9カマド完掘状況



35. SI10カマド完掘状況

36. SI11カマド完掘状況

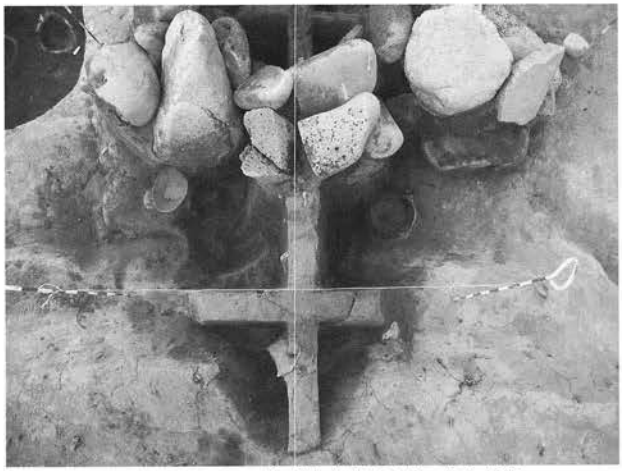


37. SI12完掘および遺物出土状況

38. SI13完掘状況

39. SI13カマド完掘状況

40. SI13カマド確認状況



41. SI13カマド両袖奥土師器坏出土状況

42. SI13カマド両袖奥出土坏 1

43. SI13カマド両袖奥出土坏 2

44. SI14遺物出土状況

図版 16

45. SI15完掘状況

46. SI15カマド内遺物出土状況

47. SI15カマド完掘状況

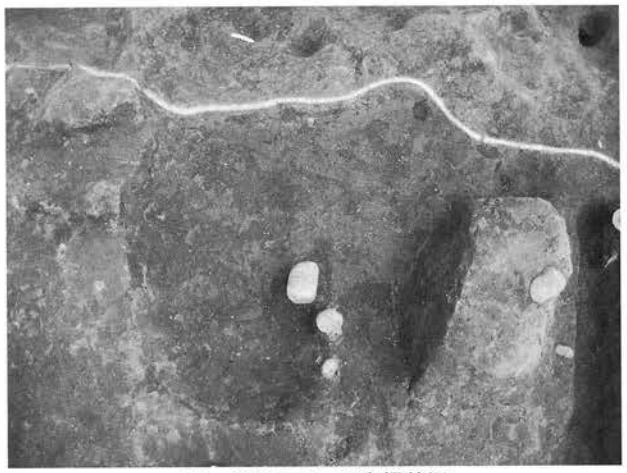
48. SI16カマド完掘状況

49. SI17完掘および遺物出土状況

50. SI17南壁際遺物出土状況 1

51. SI17南壁際遺物出土状況 2

52. SI17南壁際遺物出土状況 3



53. SI17カマド完掘状況

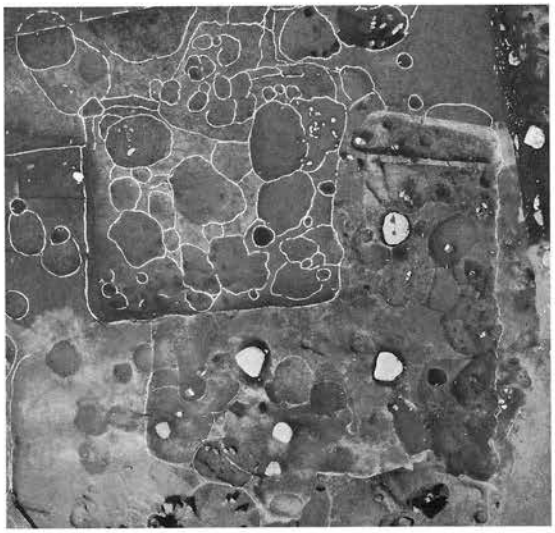
54. SI17・28・30・34掘りかた検出状況

55. SI18遺物出土状況

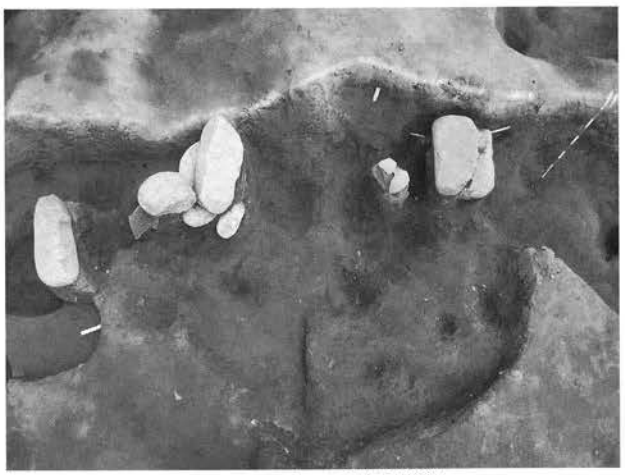
56. SI23完掘状況〈SK310・311 含む〉

57. SI23カマド完掘状況

58. SI24完掘状況

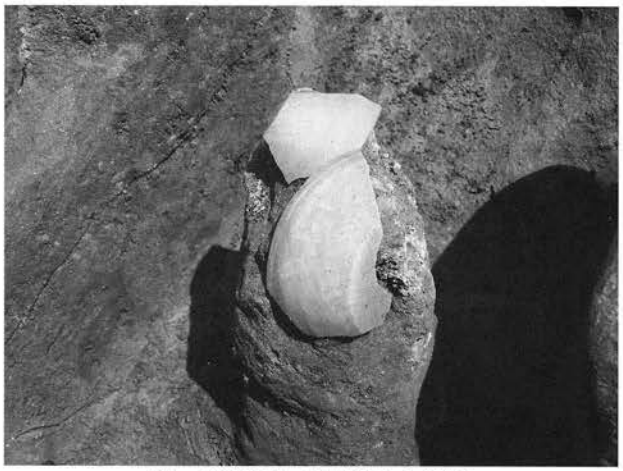


59. SI24完掘状況
空中写真



60. SI24カマド完掘状況

図版 18

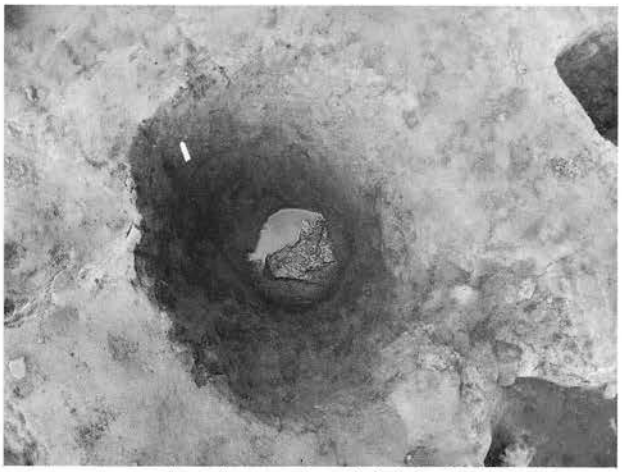


61. SI24カマド内出土土師器

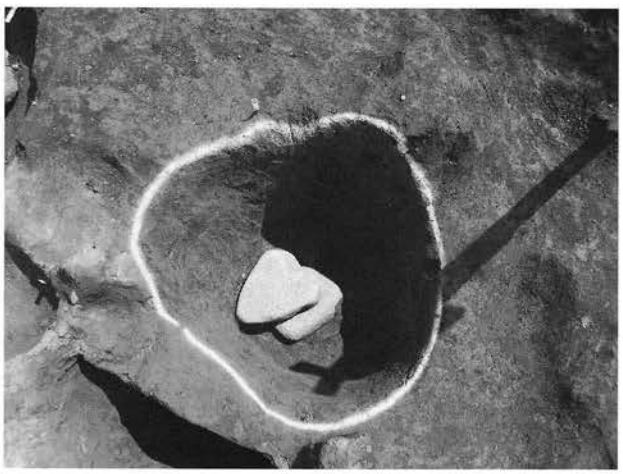
62. SI24礎石（SK210）検出状況

63. SI24礎石（SK266）検出状況

64. SI24礎石（SK210）下部先行掘立柱検出状況

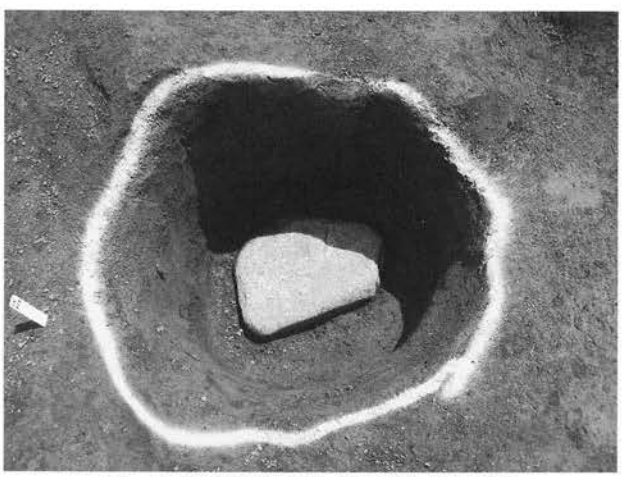


65. SI24礎石（SK266）下部先行掘立柱検出状況



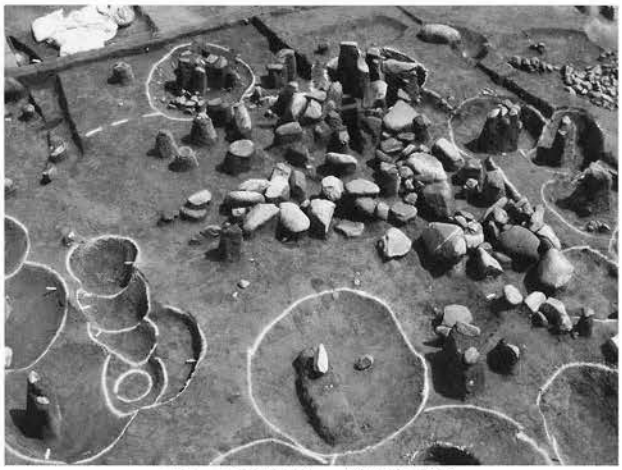
66. SI24先行掘立柱（K298）検出状況

67. SI24先行掘立柱（K298）内礎板石

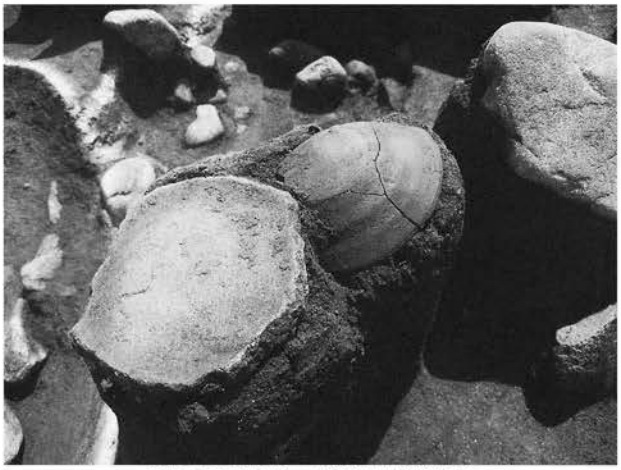


68. SI24先行掘立柱（K302）検出状況

69. SI25・27完掘状況



70. SI25遺物・礫出土状況

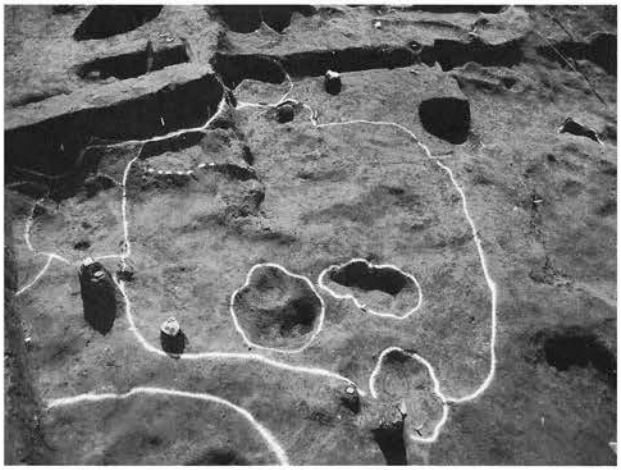


71.SI25 遺物・礫出土状況近景

72. SI25カマド完掘状況

73. SI26・28 完掘状況

74. SI29 完掘状況

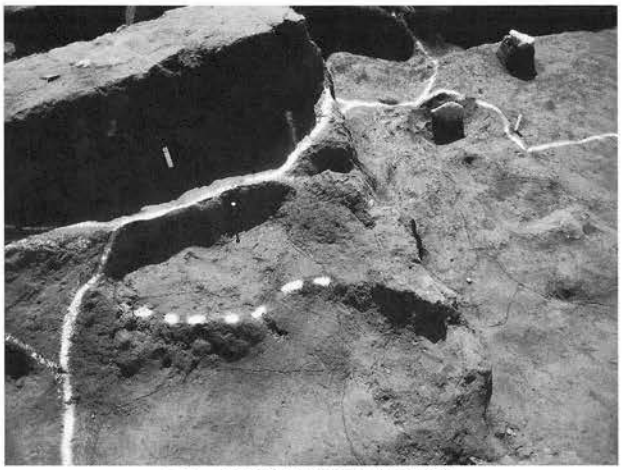


75. SI30完掘状況〈SK299・300・301含む〉

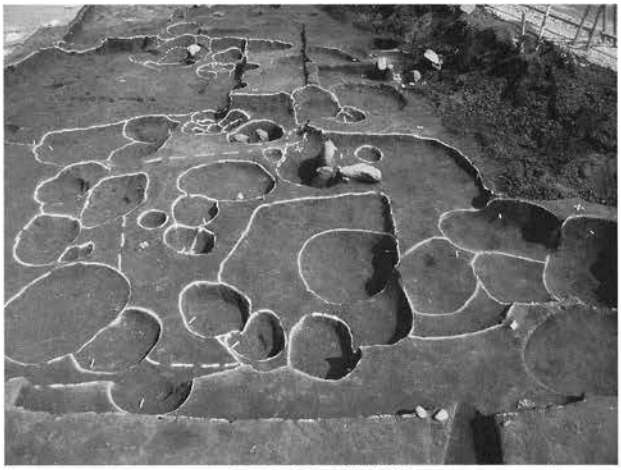
76. SI30遺物出土状況

図版 20

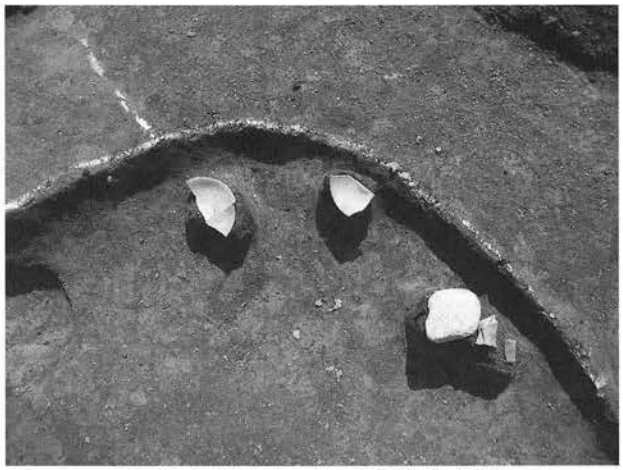
77. SI30遺物出土状況近景



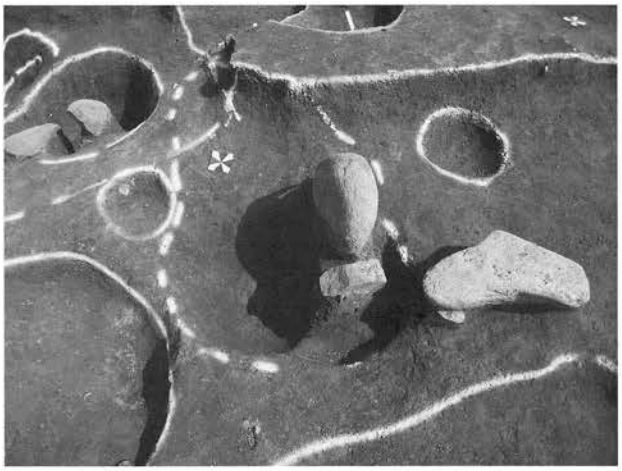
78. SI30棚状施設検出状況



79. SI20完掘状況



80. SI20南東コーナー部遺物出土状況



81. SI20カマド完掘状況

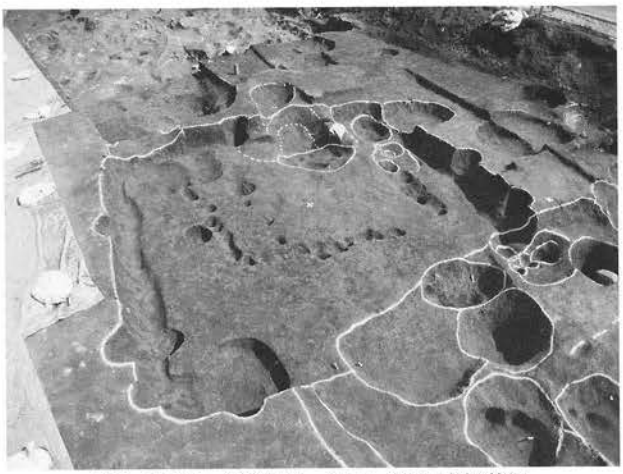
82. SI31・34等完掘状況

83. SI31・34等遺物出土状況

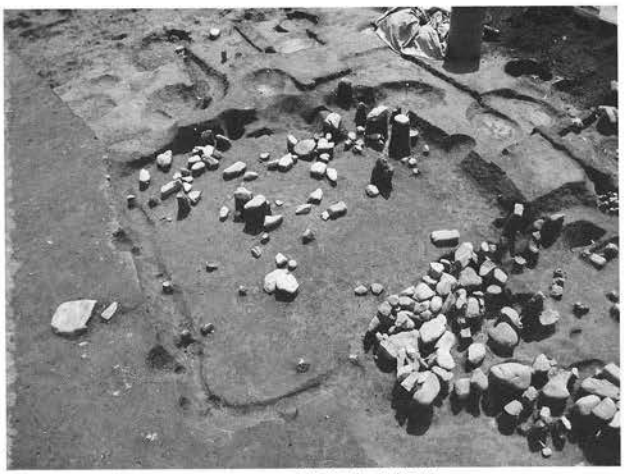
84. SI31カマド完掘状況（SK339 含む）

85. SI32、SK296・295・304・305 完掘状況

86. SI33、SK296・304・305・307・308 完掘状況



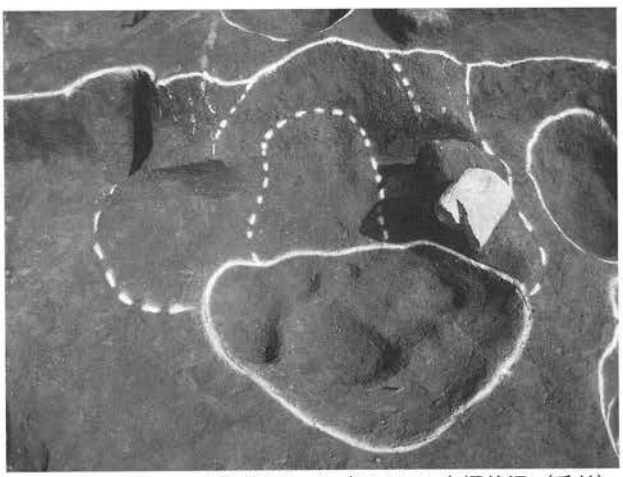
87. SI34、SK312・313・315 完掘状況



88. SI34遺物出土状況

89. SI34遺物出土状況近景 1

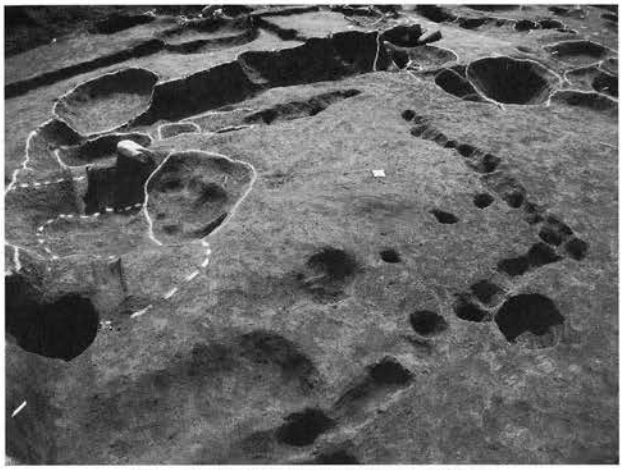
90. SI34遺物出土状況近景 2



91. SI34カマド完掘状況および SK312 完掘状況〈手前〉

92. SI34間仕切り施設検出状況 1

図版 22

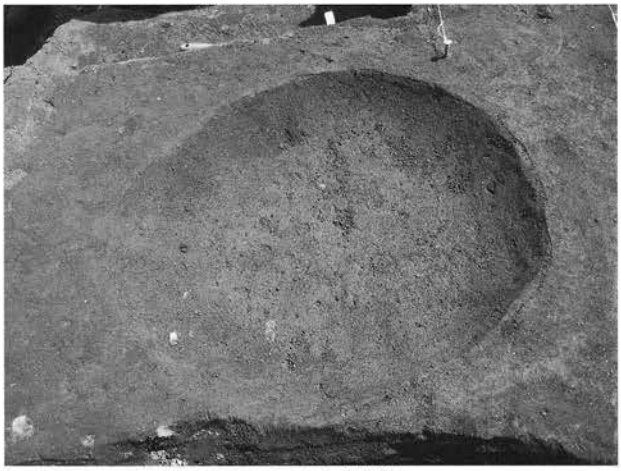


93. SI34間仕切り施設検出状況 2

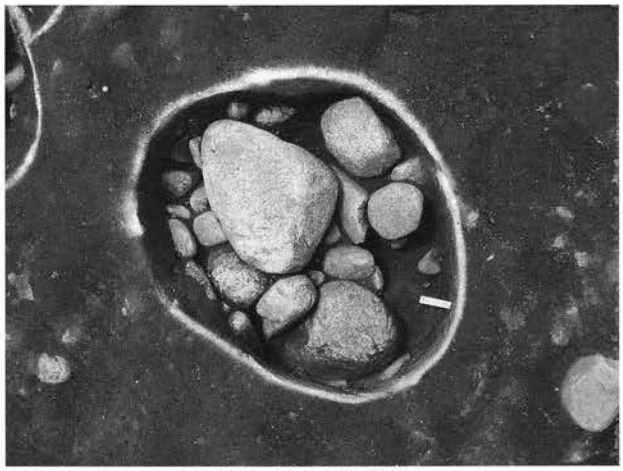
94. SI34壁体押さえピット検出状況 1

95. SI34壁体押さえピット検出状況 2

96. SK1完掘状況



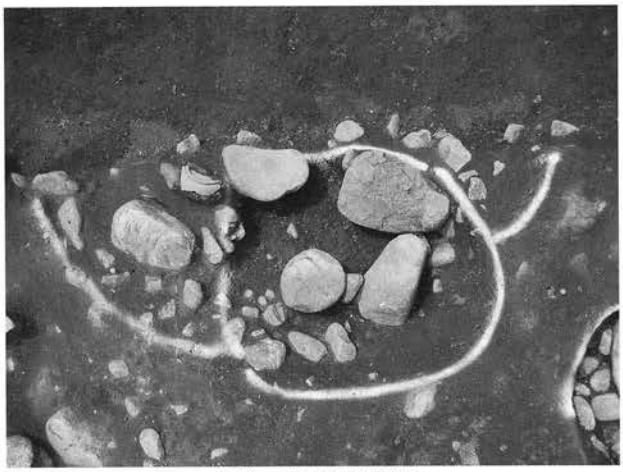
97. SK2完掘状況



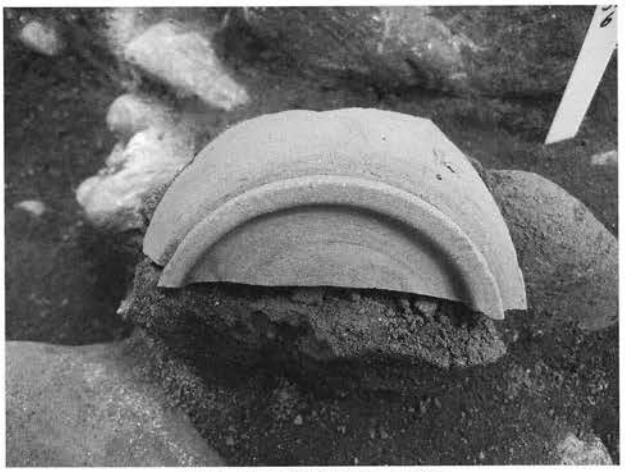
98. SK3完掘状況

99. SK4・7～17・33～36完掘状況

100. SK4完掘状況



101. SK6完掘状況



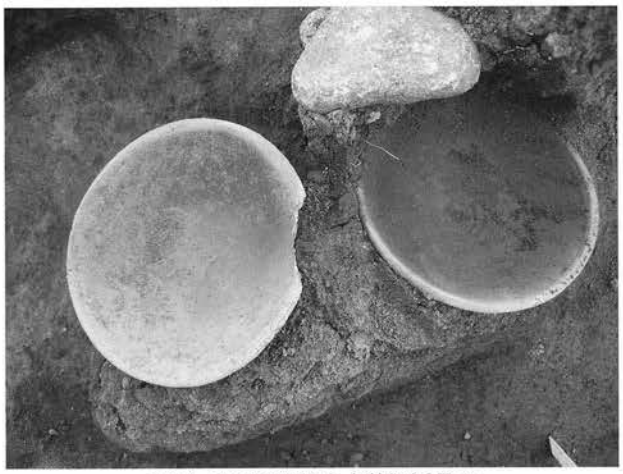
102. SK6須恵器出土状況

103. SK10等完掘状況

104. SK31・32・37・47・48・51・55・59・65・95～97 完掘状況および遺物出土状況

105. SK31遺物出土状況

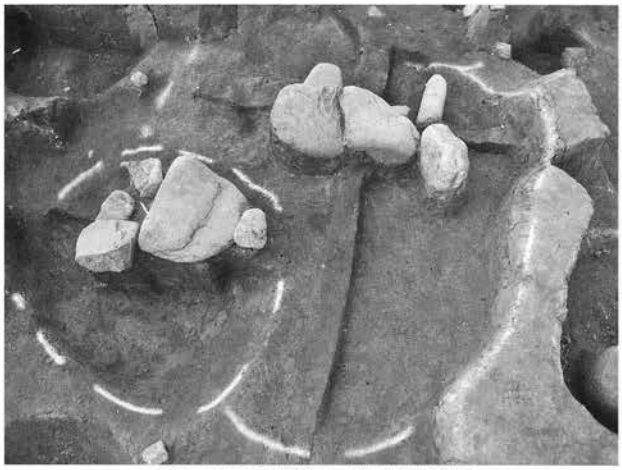
106. SK31遺物出土状況近景 1



107. SK31遺物出土状況近景 2

108. SK31遺物出土状況近景 3

図版 24



109. SK31礫除去後完掘状況 1

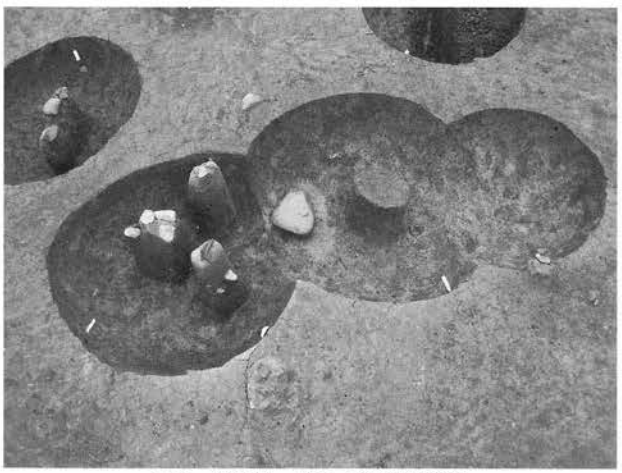
110. SK31カマド遺構遺物出土および完掘状況

111. SK34完掘状況

112. SK36完掘状況

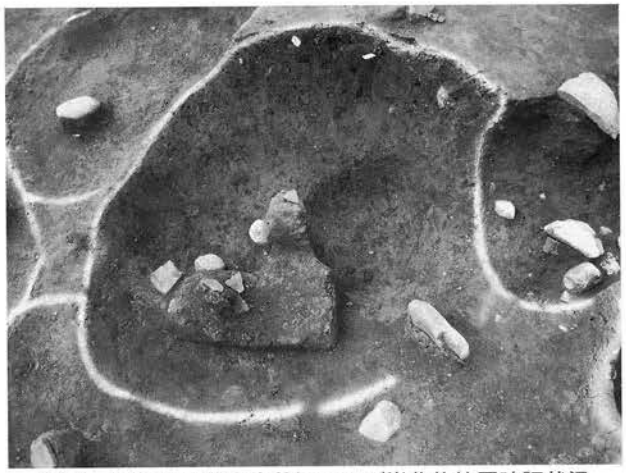
113. SK66完掘状況

114. SK66出土遺物



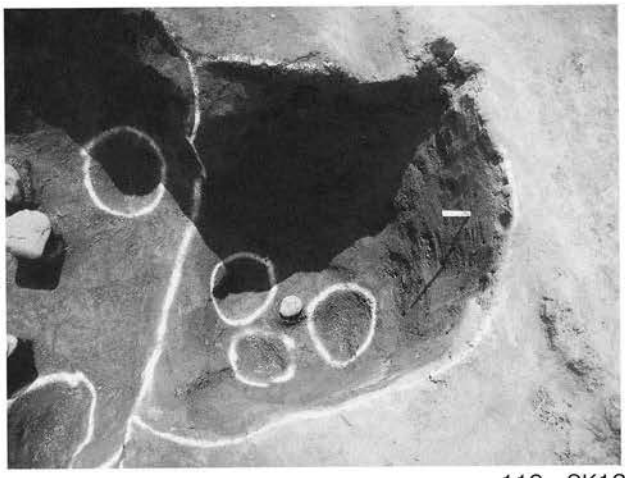
115. SK84・85・86完掘状況

116. SK124内検出硬化面および焼土範囲確認状況



117. SK125遺物出土状況および炭化物範囲確認状況

118. SK133・134・174完掘状況



119. SK133完掘状況

120. SK133遺物出土状況

121. SK133ピット柱根壁面痕跡状況

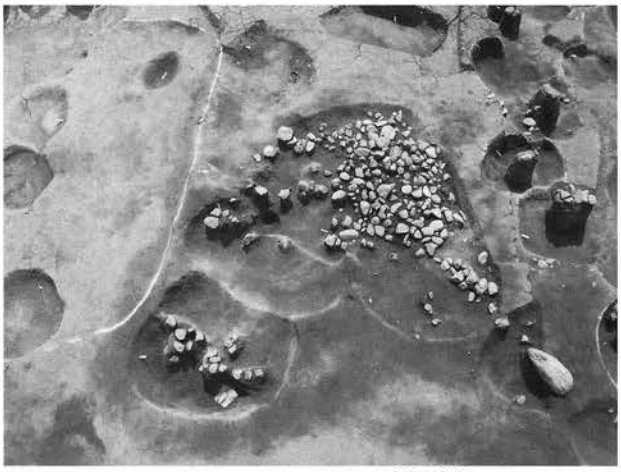
122. SK134完掘状況

123. SK174完掘状況

124. SK174出土炭化材

125. SK168確認状況

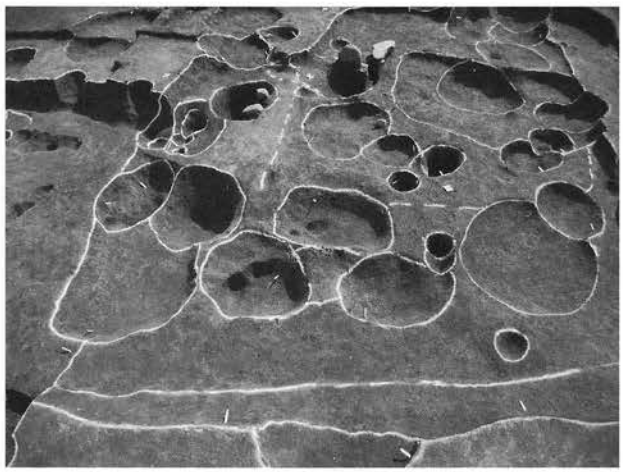
126. SK103～114・130～132・135～140・148～157・162～164・178～180・191・192・342完掘状況



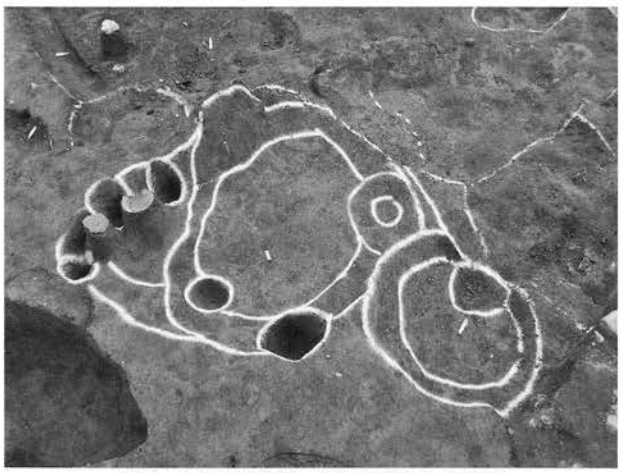
127. SK231・SK242完掘状況

128. SK240遺物出土状況

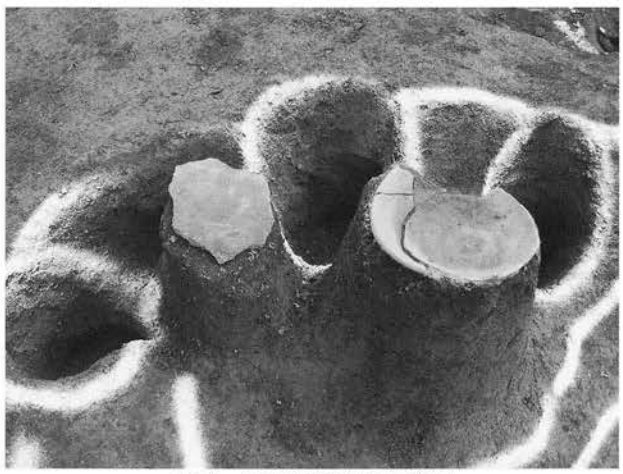
129. SK281・288・292・309・314・319・334礫および遺物出土状況



130. SK281・288・292・309・319・334完掘状況



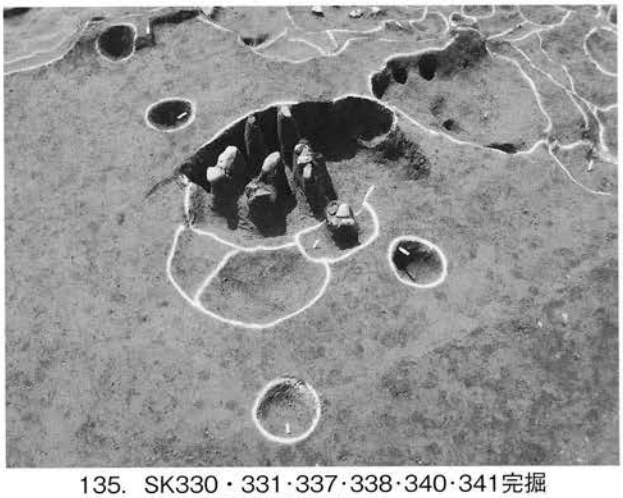
131. SK293〈右〉・303遺物出土状況



132. SK303遺物出土状況

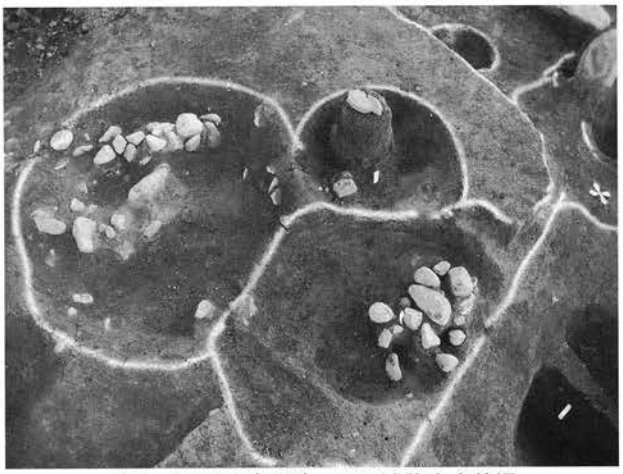
133. SK313（SI34内）遺物出土状況

134. SK313出土遺物



135. SK330・331・337・338・340・341完掘
および遺物出土状況

136. SK330遺物
出土状況



137. SK323〈手前〉・324遺物出土状況

138. SD1完掘状況
（中央部分）

139. SD1セクション

140. 完掘部遺構確認状況

図版 28

141. 調査風景 1

142. 調査風景 2

143. ポールによる写真測量実施風景

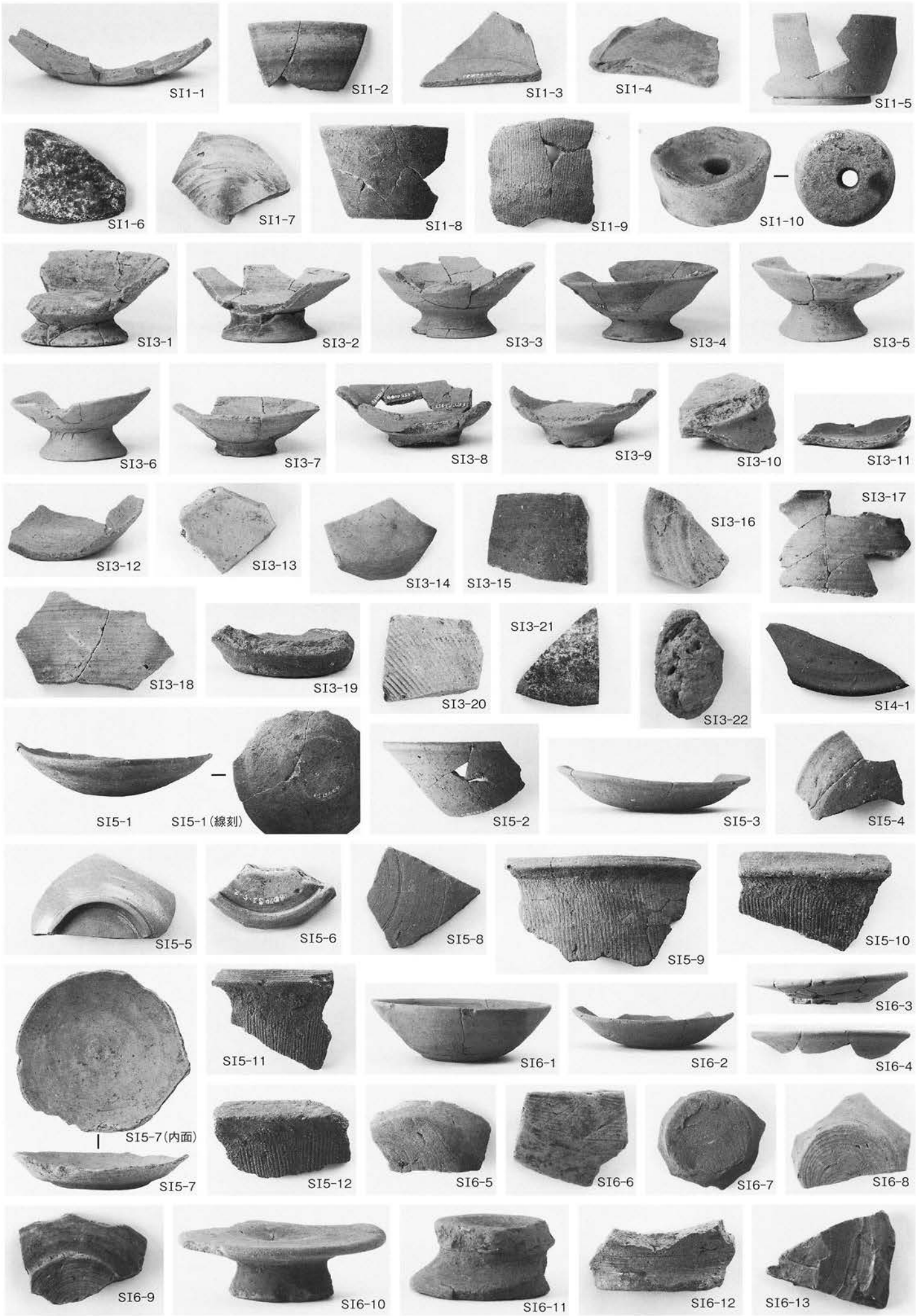
144. 保存地区遺構確認状況

145. 保存地区遺構確認状況および遺物出土状況

146. 保存地区埋め戻し前養生状況 1（南東から）

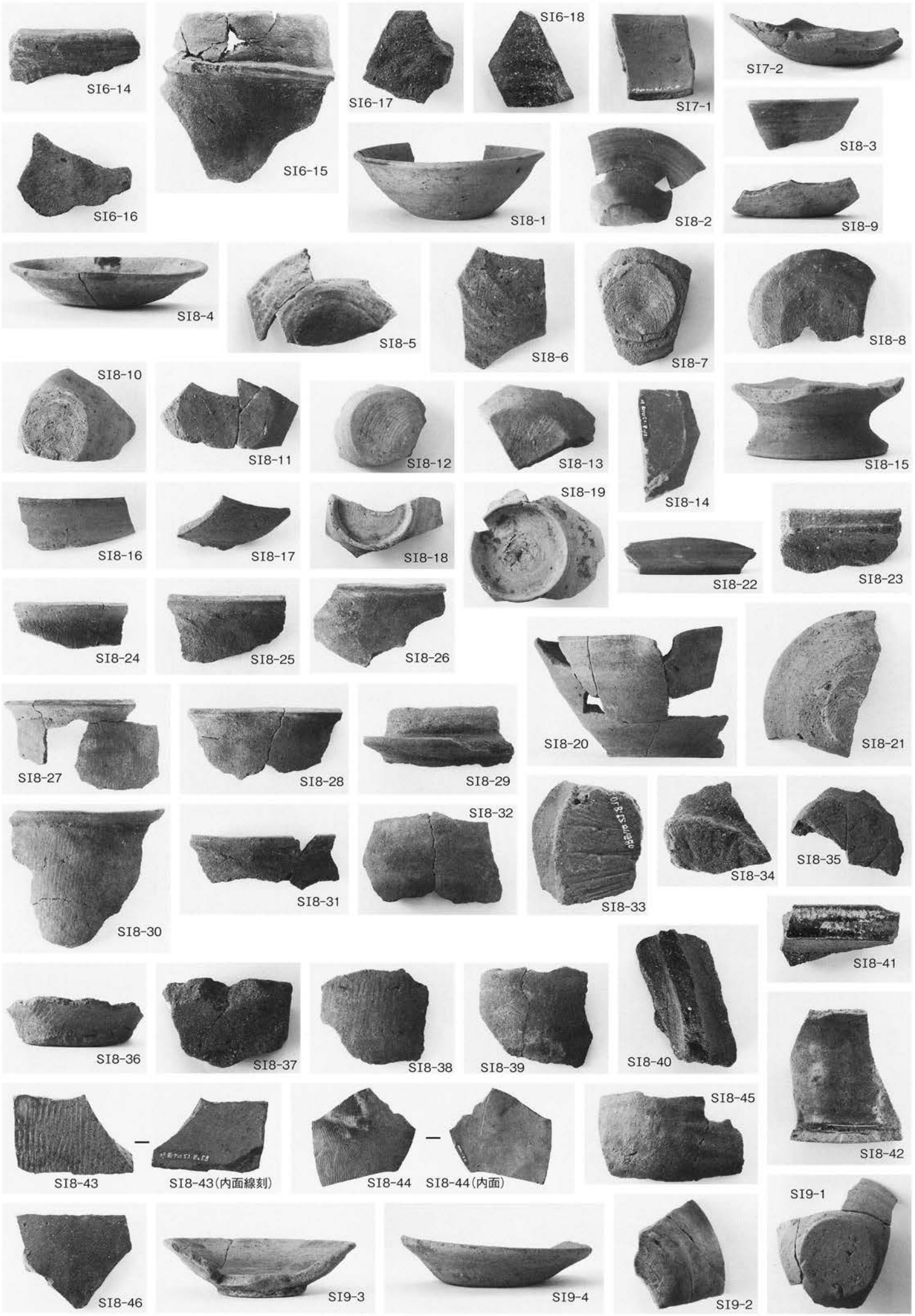
147. 保存地区埋め戻し前養生状況 2（南西から）

148. 保存地区埋め戻し作業風景



平成20年度発掘調査　出土遺物(1)

図版 30



平成20年度発掘調査　出土遺物(2)

SI9-5

SI9-6

SI9-7

SI9-8

SI9-8(内面)

SI9-9

SI9-10

SI9-11

SI9-12

SI9-13

SI9-14

SI9-15

SI10-1

SI10-2

SI10-3

SI10-4

SI10-5

SI10-6

SI10-7

SI10-8

SI10-9

SI10-10

SI10-11

SI10-12

SI10-13

SI10-14

SI10-15

SI10-16

SI10-17

SI11-1

SI11-2

SI11-3

SI11-4

SI11-5

SI11-6

SI11-7

SI11-8

SI11-9

SI12-1

SI12-3

SI12-2

SI12-4

SI12-5

SI12-8

SI12-9

SI12-10

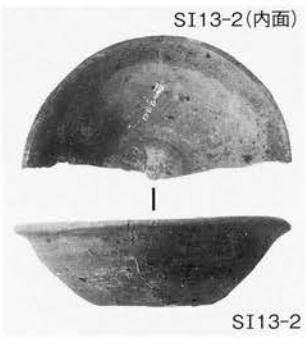
SI12-11

SI12-7

SI12-6

SI13-1(内面)

SI13-1


SI13-2(内面)

SI13-2

SI13-5

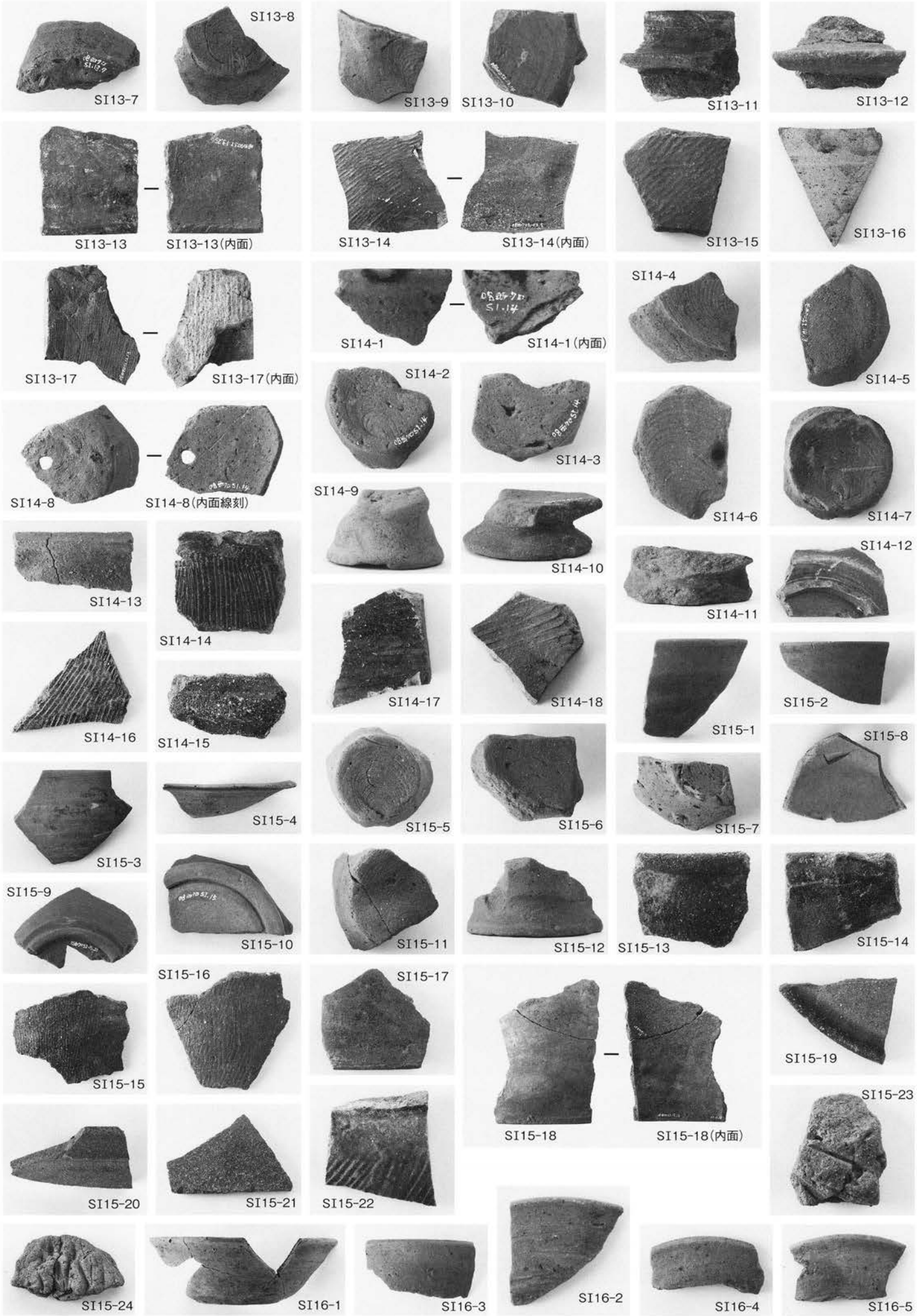
SI13-3

SI13-4

SI13-6

平成20年度発掘調査　出土遺物(3)

図版 32



平成20年度発掘調査　出土遺物(4)

SI16-6

SI16-7

SI16-8

SI16-9

SI16-10

SI16-11

SI16-12

SI16-13

SI16-14

SI16-15

SI16-16

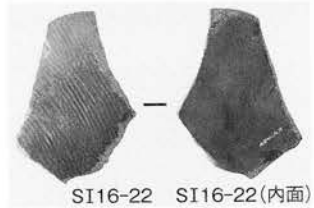
SI16-17

SI16-18

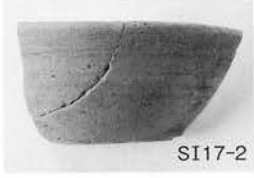
SI16-19

SI16-20

SI16-21


SI16-22 SI16-22(内面)

SI17-1


SI17-2

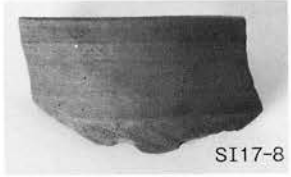
SI17-3

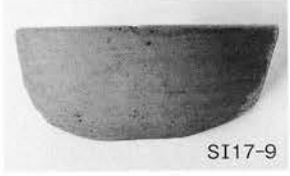
SI17-4

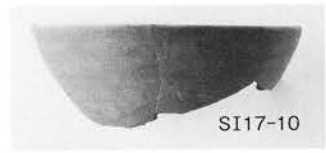
SI17-5

SI17-6

SI17-7


SI17-8


SI17-9


SI17-10

SI17-11

SI17-12

SI17-13

SI17-14

SI17-15

SI17-16

SI17-17

SI17-18

SI17-19

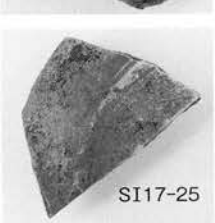
SI17-20

SI17-21

SI17-22

SI17-23

SI17-24


SI17-25

SI17-26

SI17-27

SI17-28

SI17-29

SI17-29(内面)

SI17-30

SI17-31

SI17-33

SI17-34

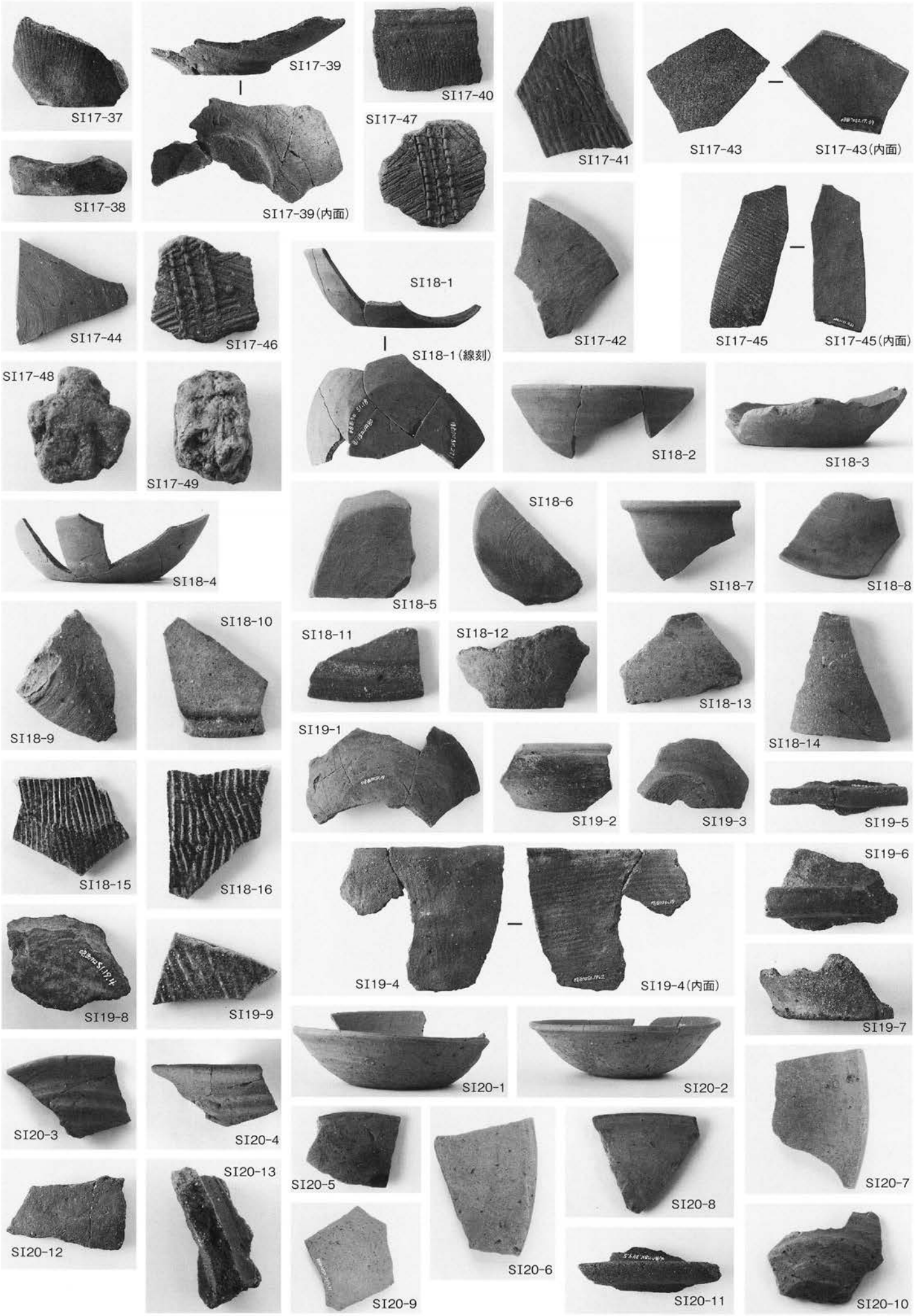
SI17-35

SI17-36

SI17-32

平成20年度発掘調査　出土遺物(5)

図版 34



平成20年度発掘調査　出土遺物(6)

SI20-14

SI20-15

SI20-16

SI20-17

SI21-1

SI21-2

SI21-3

SI21-4

SI21-6

SI21-5

SI21-7　SI21-7(内面)

SI22-1

SI22-2

SI23-1

SI23-3

SI23-9

SI22-3

SI22-4

SI23-2

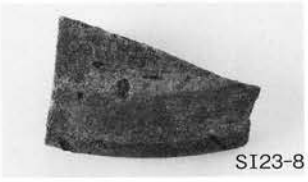
SI22-5

SI23-4

SI23-5

SI23-6

SI23-7


SI23-8

SI23-10

SI23-11

SI23-12

SI23-13

SI23-14

SI23-15

SI23-17

SI23-18

SI23-19

SI23-16

SI23-20

SI23-21

SI23-22

SI24-6

SI23-23　SI23-23(表面)

SI24-1

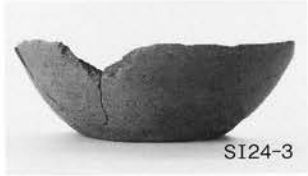
SI24-5

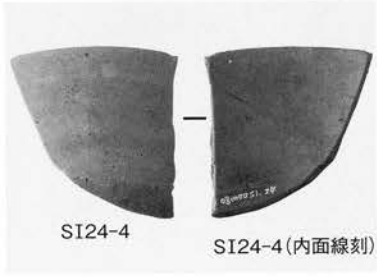
SI24-8

SI24-7

SI24-9

SI24-2


SI24-3


SI24-4　SI24-4(内面線刻)

SI24-10

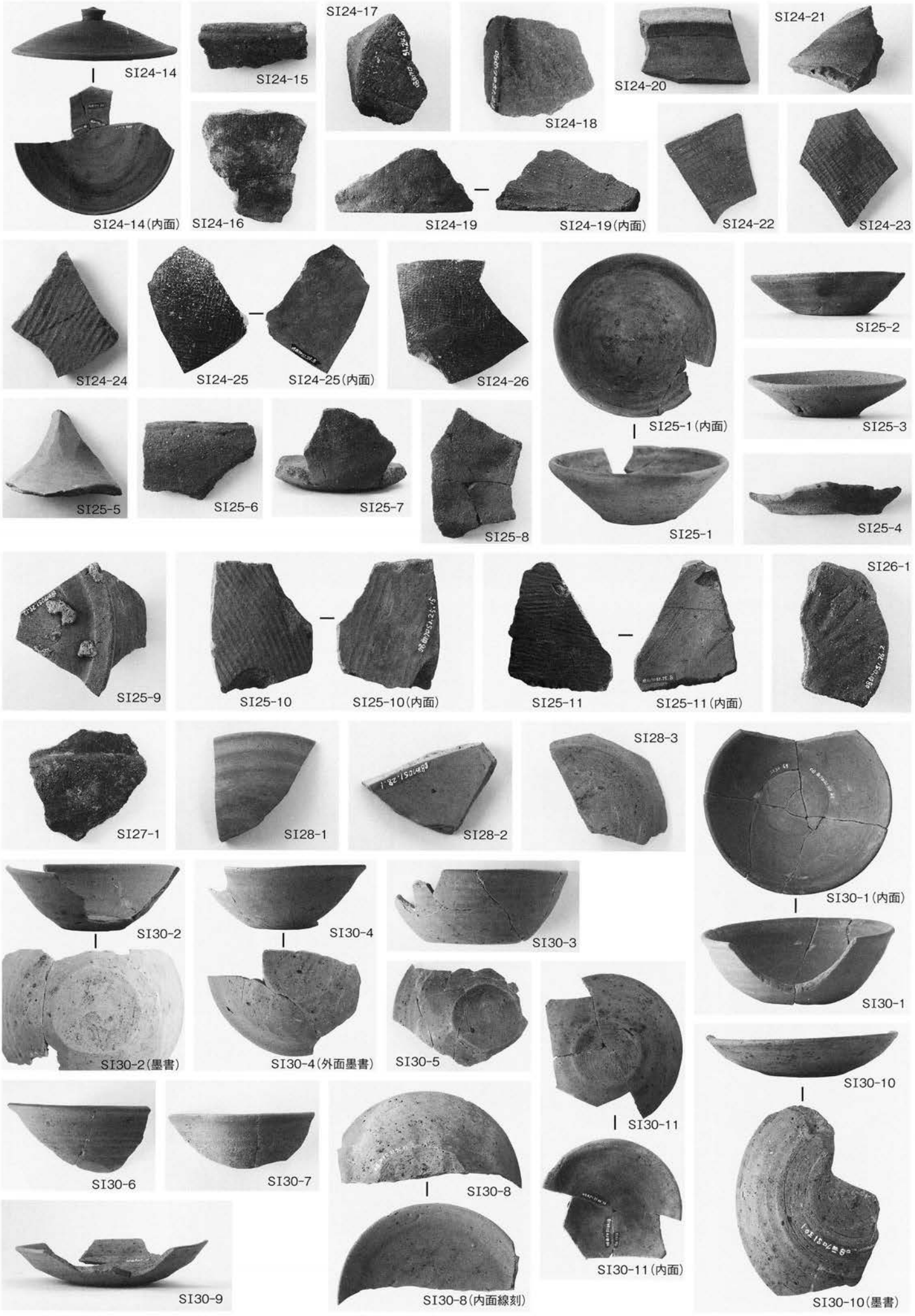
SI24-13

SI24-11

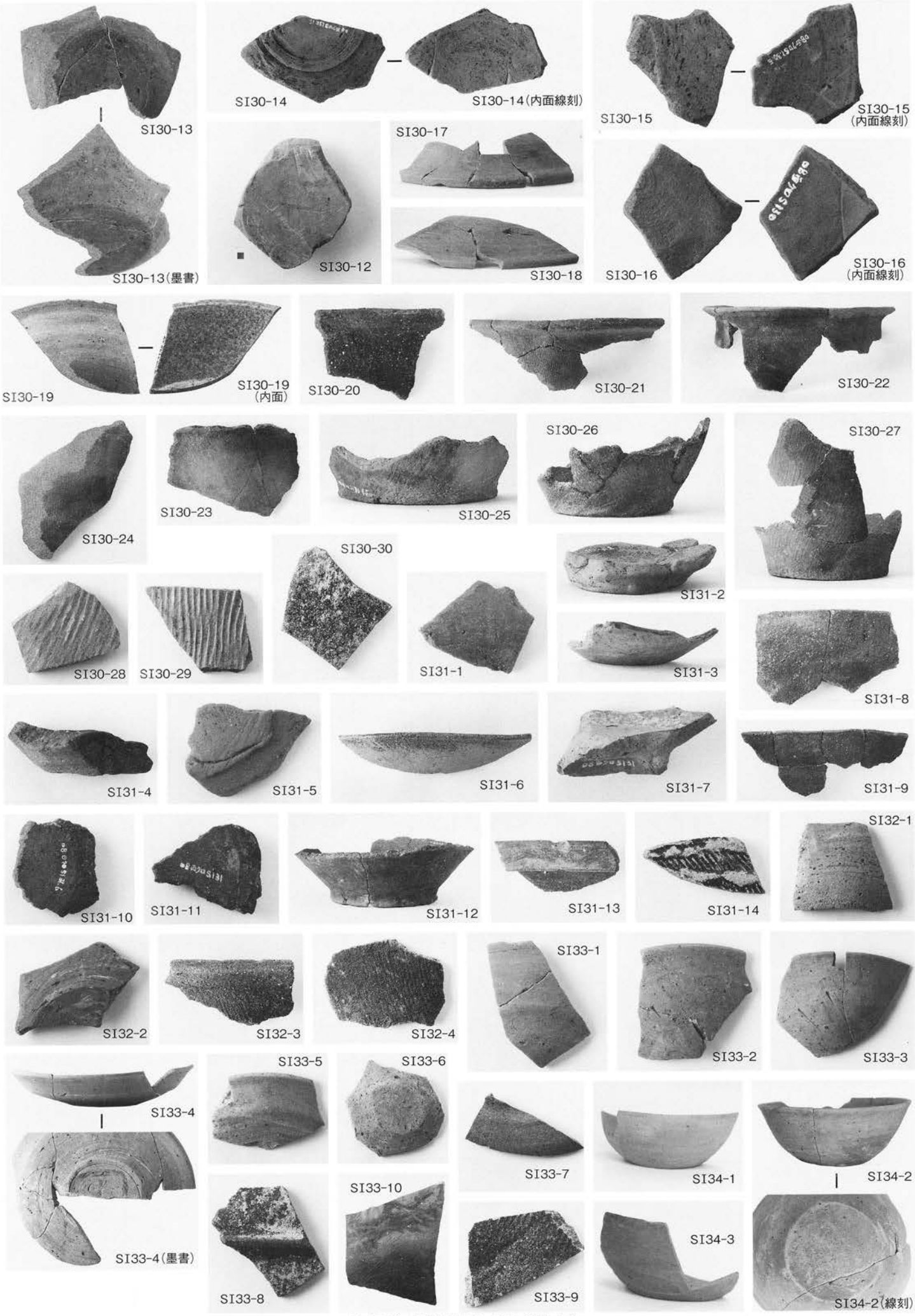
SI24-12

平成20年度発掘調査　出土遺物(7)

図版 36

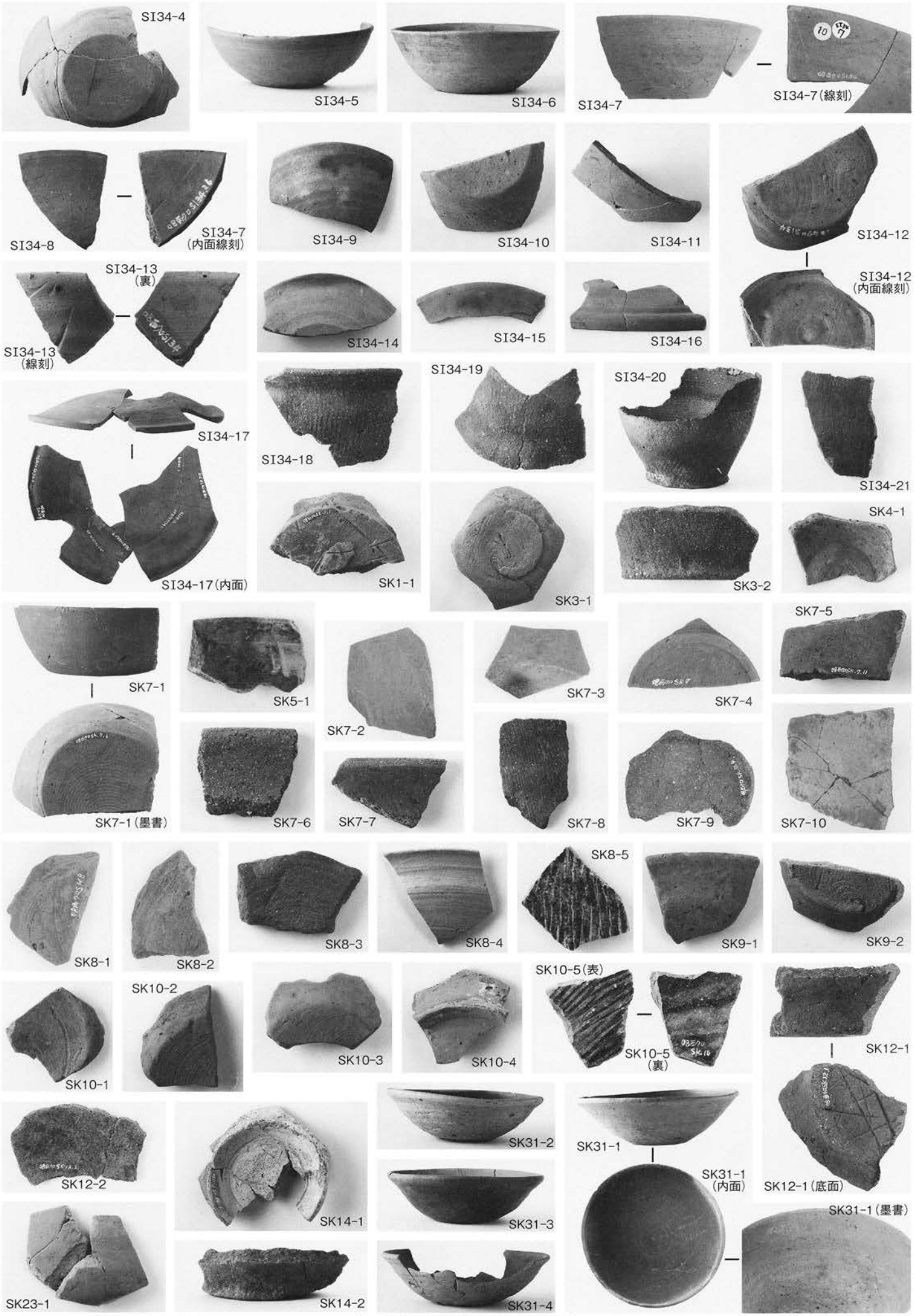


平成20年度発掘調査　出土遺物(8)



平成20年度発掘調査　出土遺物(9)

図版 38



平成20年度発掘調査　出土遺物(10)

SK31-6(線刻)

SK31-5

SK31-7

SK31-8

SK31-9

SK31-6

SK31-10

SK31-11

SK31-12

SK31-13

SK31-14

SK31-15

SK31-16 SK31-16(内面線刻)

SK31-17

SK32-2

SK32-3

SK32-4

SK32-5

SK32-6

SK32-1(内面)

SK32-1

SK32-7

SK34-1

SK35-1

SK35-2

SK36-2

SK36-1

SK36-3

SK36-4

SK36-5

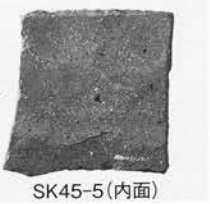
SK45-1

SK45-4

SK45-3

SK45-2

SK45-5


SK45-5(内面)

SK45-6

SK47-1

SK47-3

SK47-5(内面)

SK47-5

SK47-6

SK47-7

SK47-8

SK47-2

SK47-4

SK47-9

SK47-10

SK47-11

SK48-1

SK51-2(内面)

SK51-2

SK51-1

SK52-1

SK55-1

SK48-2

SK55-2

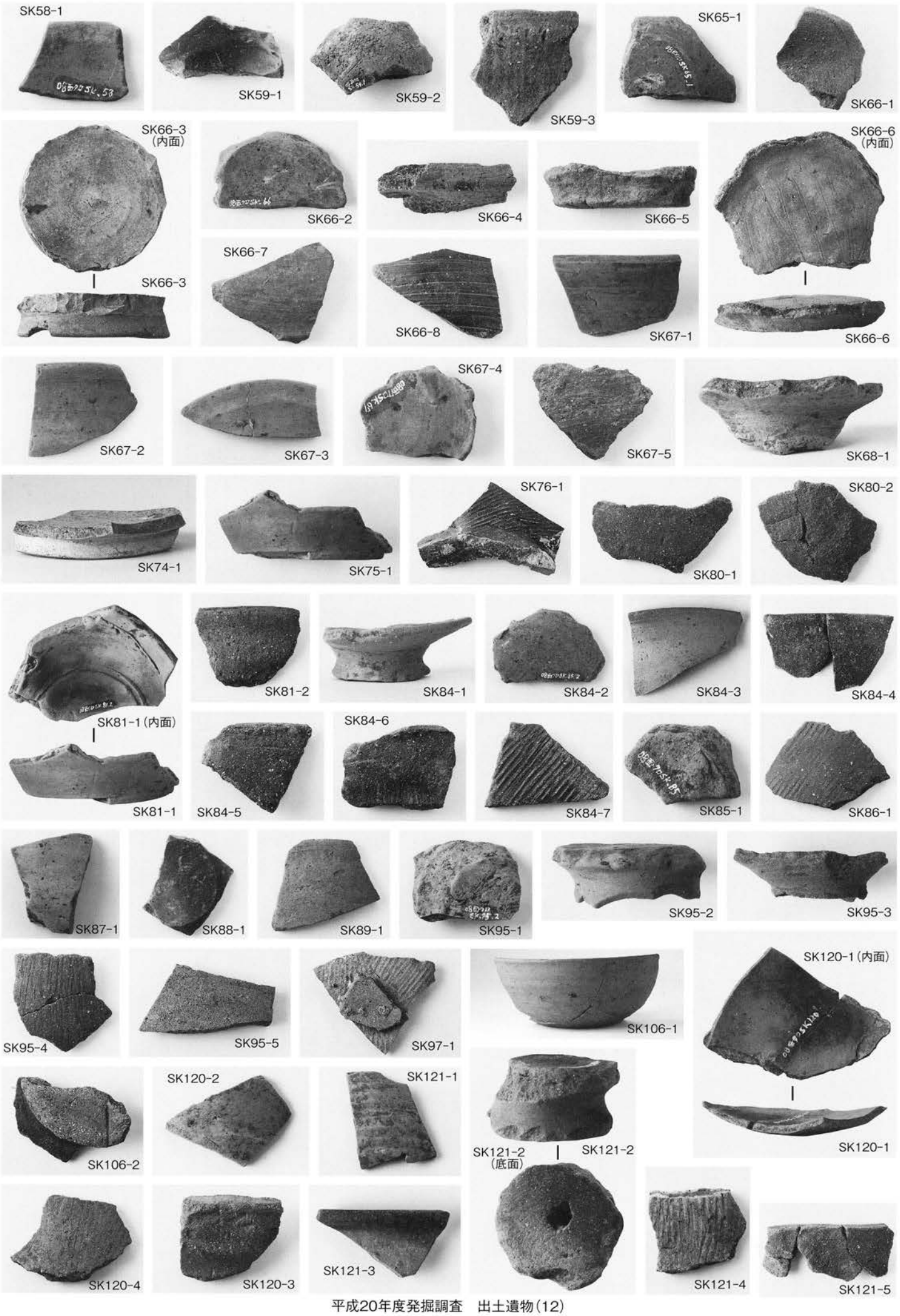
SK55-3

SK55-4

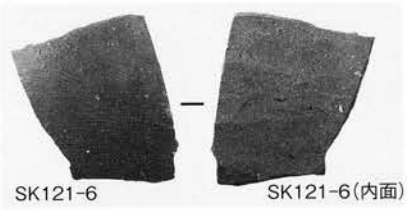
SK55-5

平成20年度発掘調査　出土遺物(11)

図版 40



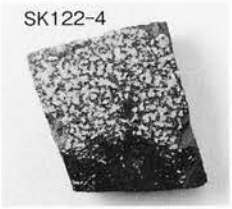
平成20年度発掘調査　出土遺物(12)


SK121-6　SK121-6(内面)

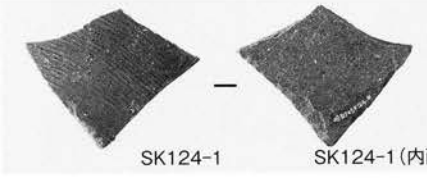
SK122-1

SK122-2

SK122-3


SK122-4

SK123-1


SK124-1　SK124-1(内面)

SK124-2

SK124-3

SK125-1

SK125-2

SK125-3

SK125-4

SK127-1

SK129-1

SK130-1

SK130-2

SK131-1

SK131-2

SK132-1

SK132-3

SK132-2

SK133-1(内面)　SK133-1

SK133-2

SK133-3

SK133-4

SK133-5

SK133-6

SK133-7

SK133-8

SK133-9

SK133-10

SK133-11

SK133-12

SK133-13

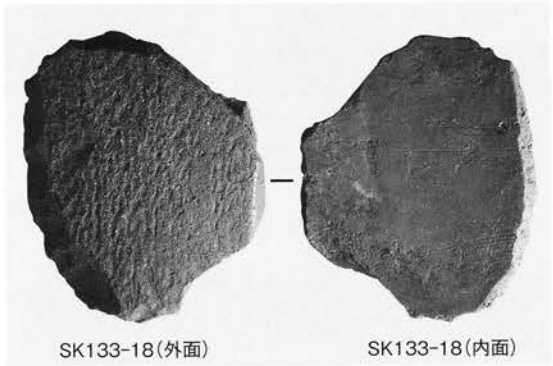
SK133-14

SK133-15

SK133-16

SK133-17

SK134-2


SK133-18(外面)　SK133-18(内面)

SK134-1

SK134-5

SK134-3　SK134-3(底面)

SK134-4　SK134-4(底面)

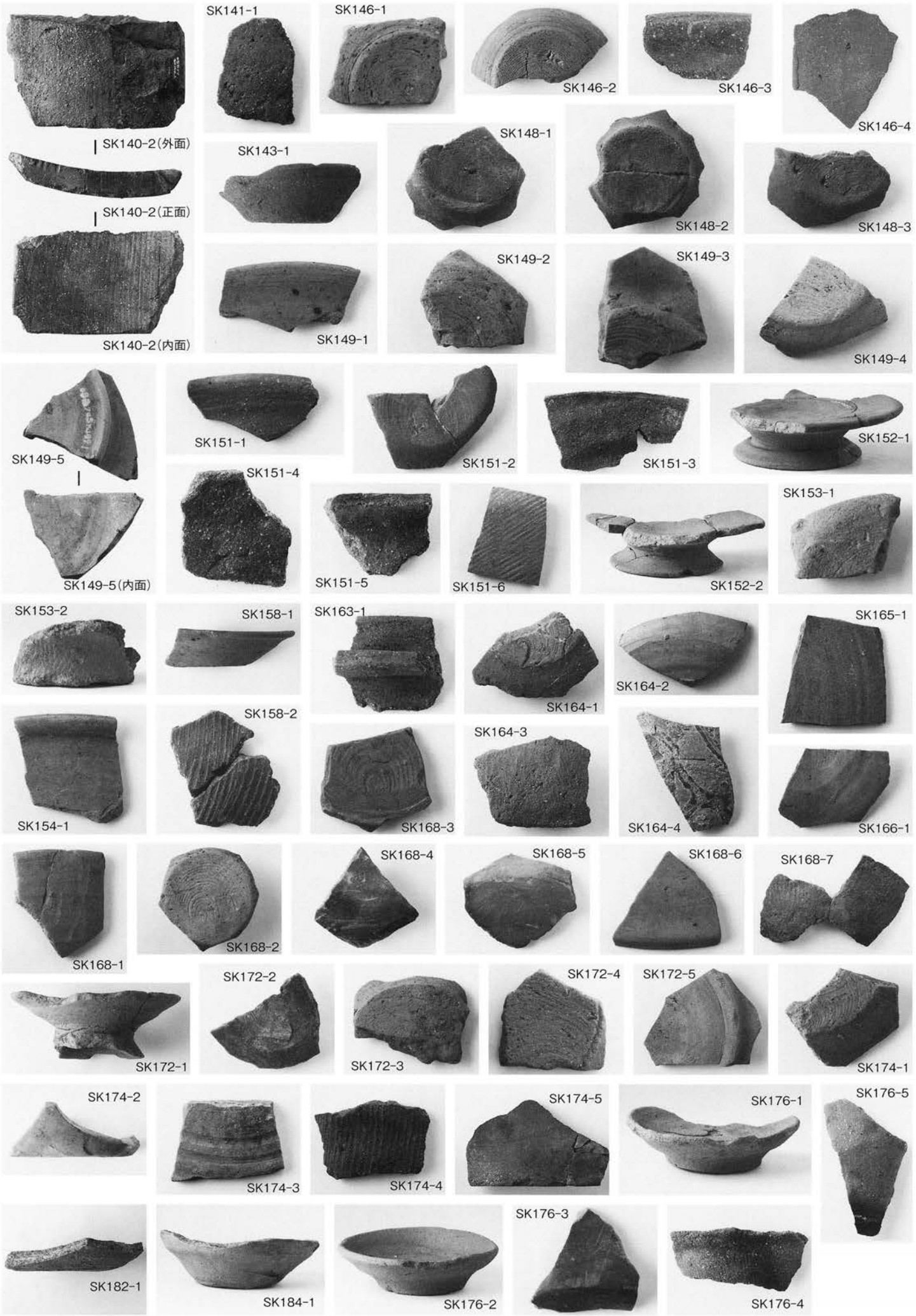
SK135-1

SK140-1

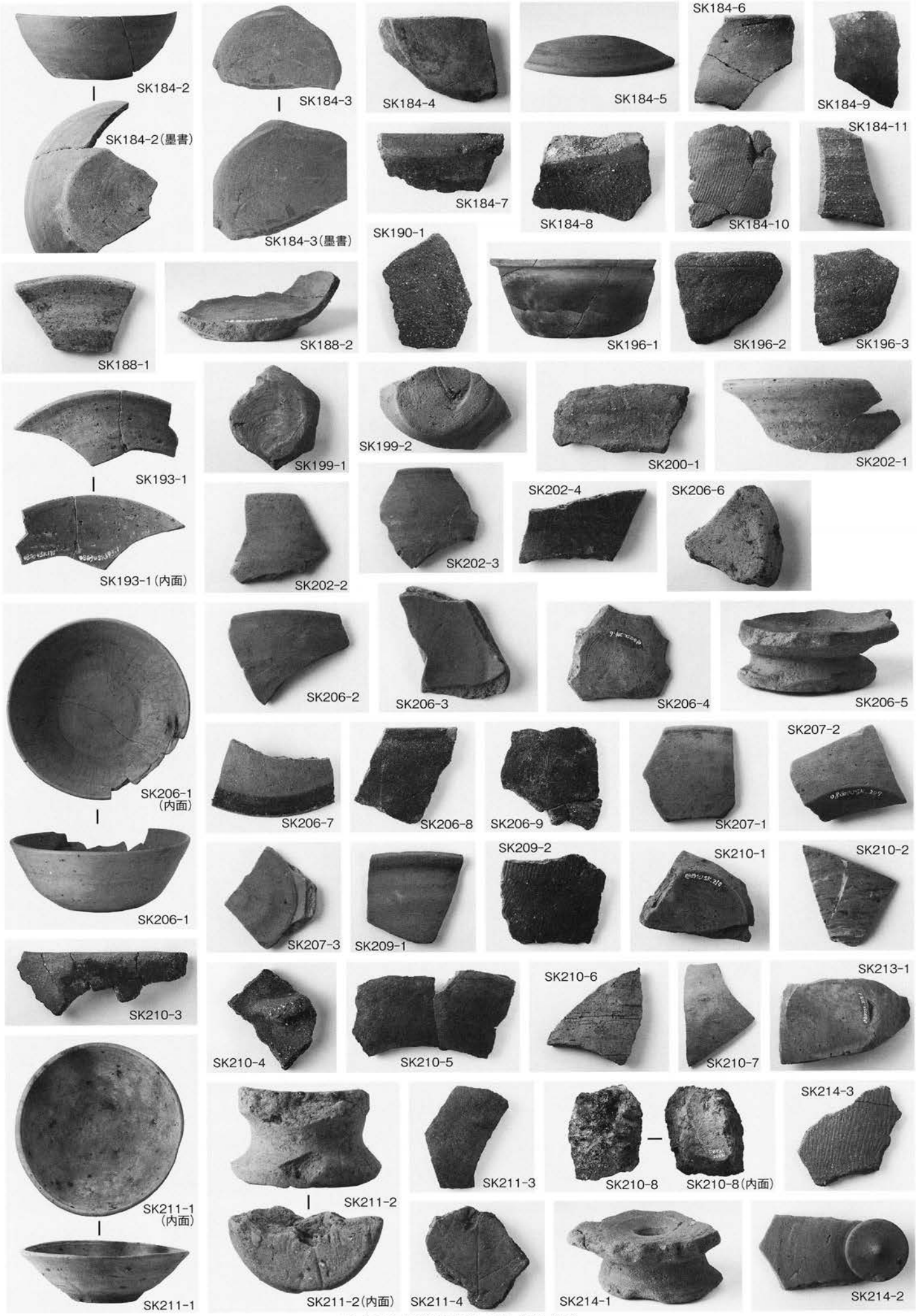
SK139-1

SK139-2(内面)　SK139-2

図版 42

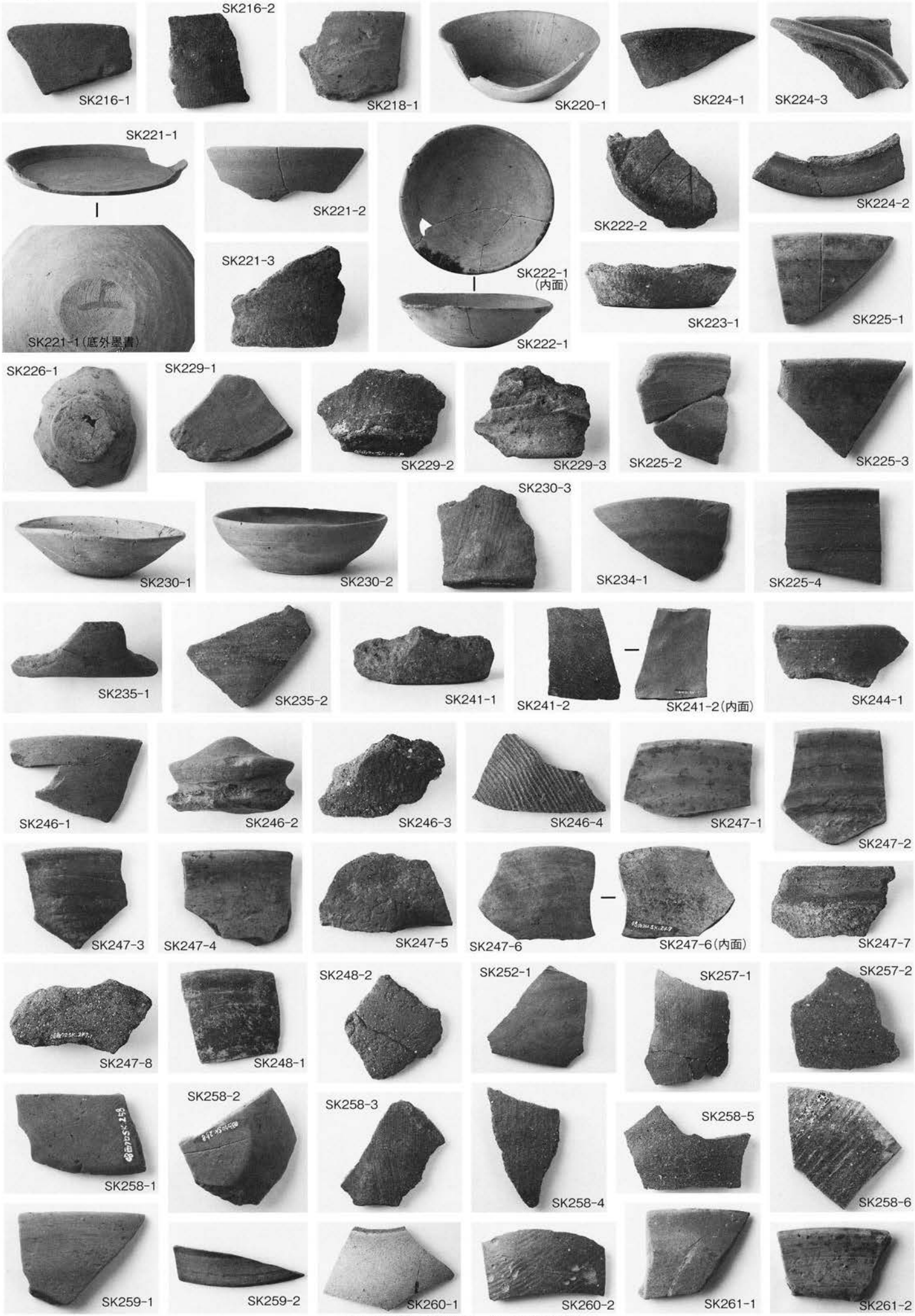


平成20年度発掘調査　出土遺物(14)



平成20年度発掘調査　出土遺物(15)

図版 44



平成20年度発掘調査　出土遺物(16)

SK261-3

SK261-4

SK262-1

SK263-1

SK263-2

SK264-1

SK264-2

SK264-3
（表・墨書）

—

SK264-3
（裏）

SK264-4

SK264-5

SK266-1

SK266-2

SK267-1

SK267-2

SK267-3

SK268-1

SK268-2

SK268-3

SK268-4

SK268-5

SK268-6

SK269-1

SK271-1

SK279-1

SK279-2

SK279-3

SK280-1

SK281-1

SK284-2

SK281-3

SK288-1

SK288-2

SK288-3

SK288-4

SK289-1

SK291-1

SK291-2

SK292-1

SK292-2

SK292-3

SK292-4

—

SK292-4内面

SK294-1

SK294-2

SK294-3

SK294-4

SK294-5

SK294-6

SK294-7

SK296-1

SK296-2

SK296-8

SK296-8（墨書）

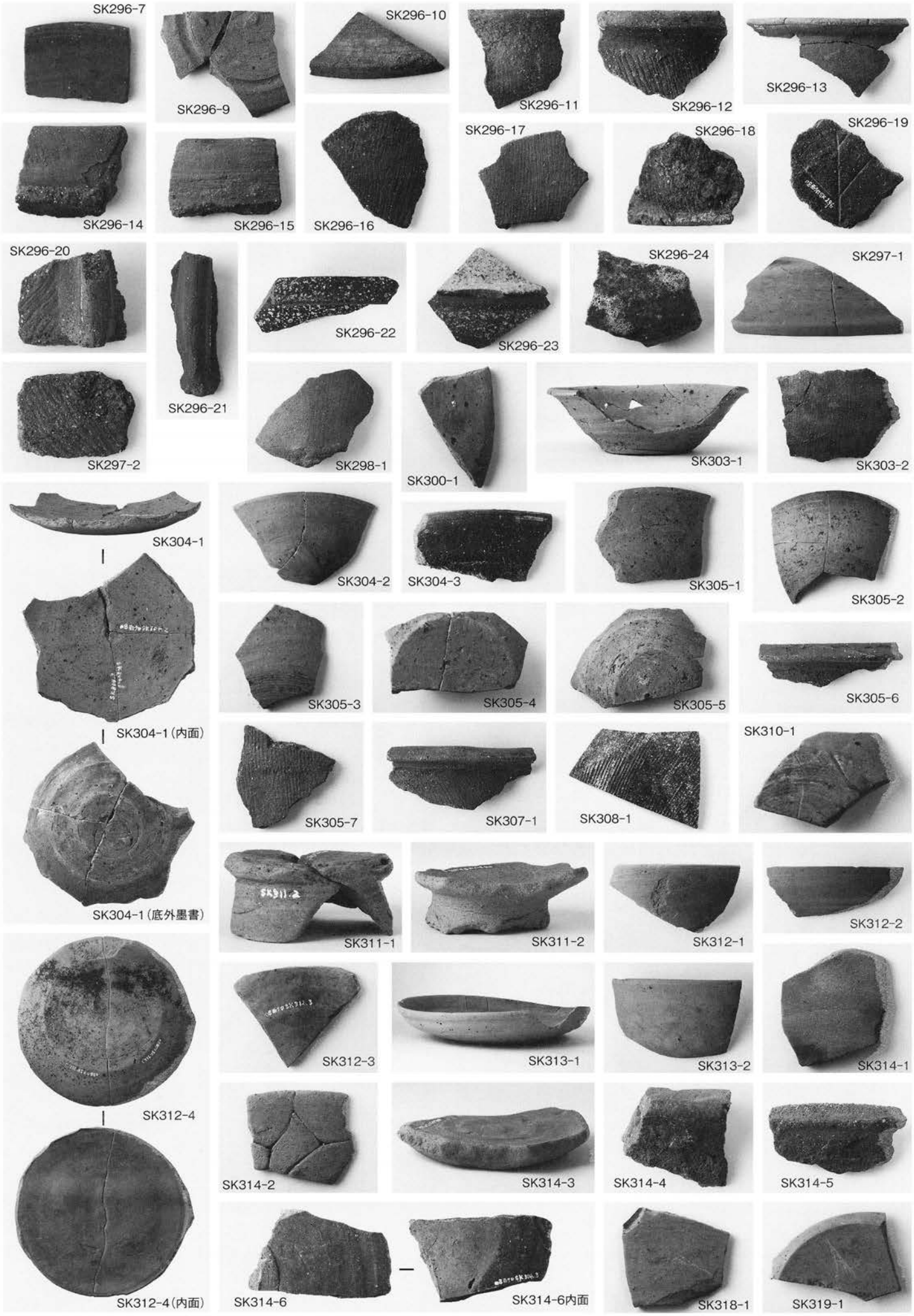
SK296-3

SK296-4

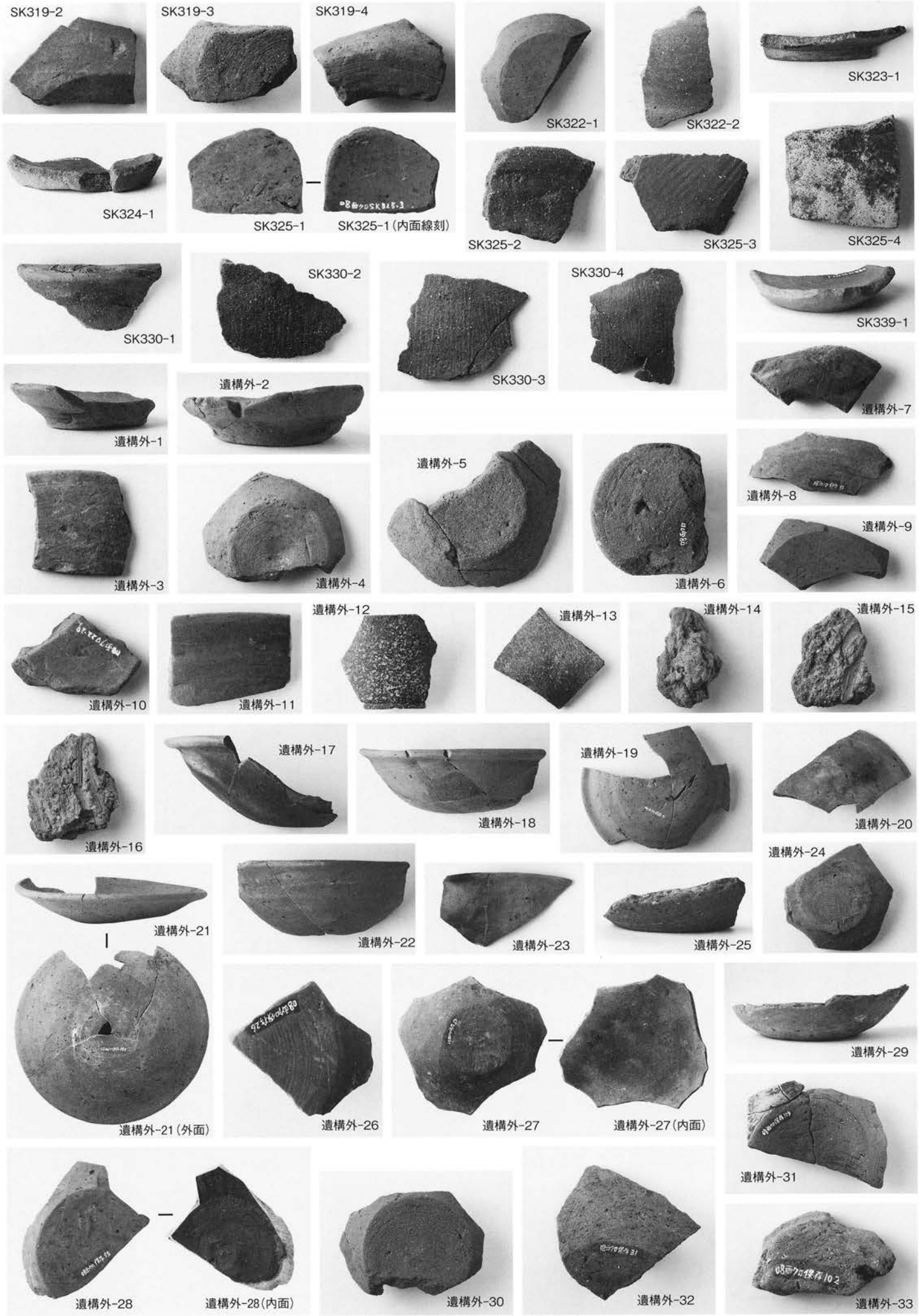
SK296-5

SK296-6

図版 46

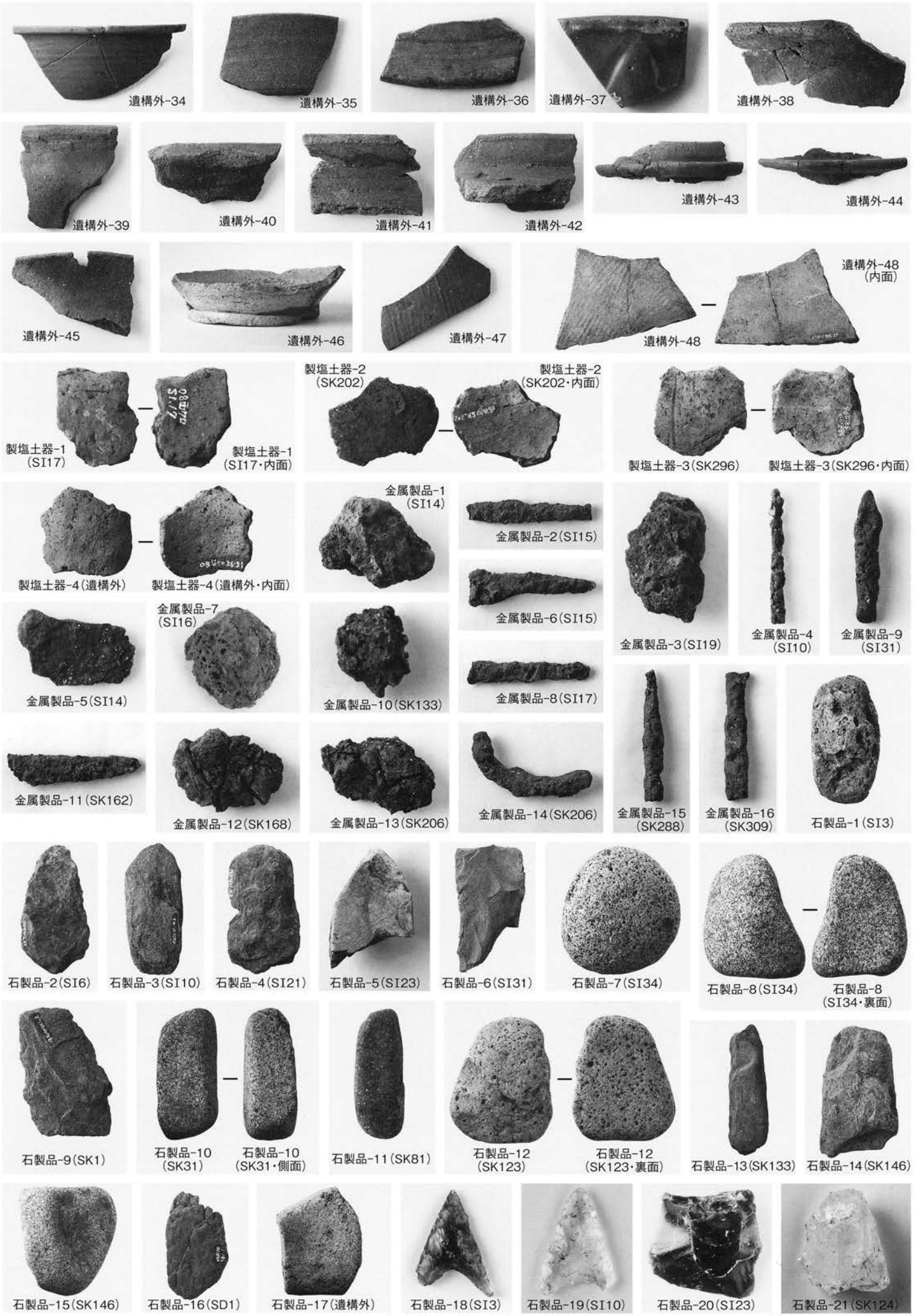


平成20年度発掘調査　出土遺物(18)



平成20年度発掘調査　出土遺物（19）

図版 48



平成20年度発掘調査　出土遺物（20）

西田町遺跡報告書抄録

ふりがな	にしだまちいせき
書名	西田町遺跡（第２次・第３次）
副書名	平成18年度・20年度「くろがねや」店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	笛吹市文化財調査報告書
シリーズ番号	第23集
編著者名	平野　修・中山千恵・佐々木由香・バンダリ スダルシャン・室伏　徹
編集機関	財団法人　山梨文化財研究所
所在地	〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場1566　TEL 055-263-6441
発行年月日	平成22年３月31日

ふりがな	にしだまちいせき	
所収遺跡名	西田町遺跡	
ふりがな	やまなしけんふえふきしいちのみやちょうひがしはらあざにしだまち 31-3・1415	
所在地	山梨県笛吹市一宮町東原字西田町 31-3・1415	
市町村コード	市町村	19201
	遺跡番号	232-31
1/25,000 地図名	石和	
北緯	35° 38′ 42.2596″	
東経	138° 40′ 28.0969″	
調査期間	20061115 ～ 20070219/20080519 ～ 20080904	
調査面積	180㎡/ 444.7㎡	
調査原因	店舗建設	
種別	集落跡	
主な時代	縄文時代 / 奈良時代 / 平安時代 / 中世 / 近世	
主な遺構	竪穴建物 / 掘立柱建物 / 土坑 / 配石 / ピット / 溝状遺構	
主な遺物	縄文式土器 / 土師器 / 製塩土器 / 須恵器 / 灰釉陶器 / 緑釉陶器 / 中世陶器 / 土師質土器 / 近・現代陶磁器 / 砥石 / 粘土塊 / 鉄製刀子 / 鉄滓	
特記事項	礎石をもつ大型竪穴建物跡、カマドを有する祭祀土坑、製塩土器、二次転用土器群 平成20年度調査地545.3㎡を盛土保存	

笛吹市文化財調査報告書第23集

西田町遺跡（第２次・第３次）

―平成18年度・20年度「くろがねや」店舗建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書―

発　行　日　　平成22年（2010）３月31日

編　　集　　財団法人 山梨文化財研究所
〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場 1566
TEL 055-263-6441

発　　行　　㈱くろがねや・笛吹市教育委員会・㈶山梨文化財研究所

印　　刷　　㈱帝京サービス

Fuefuki City Archaeological Report Vol.23

NISHIDAMACHI Site(Ichinomiya),

2nd(2006) and 3rd(2008) Surveys

Archaeological Survey prior to the Construction of Kuroganeya Shopping Center

March, 2010

Kuroganeya Co., Ltd.
Fuefuki Board of Education
Yamanashi Research Institute of Cultural Properties